

「基礎ゼミナール」（担当者：青山 悦子）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	青山 悦子（自己紹介ページ）
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということを、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマは、講義ノートの取り方・資料の集め方・テキストの読み方・レポートの書き方など。秋学期に取り扱うテーマは、パブリックスピーキングのやり方・プレゼンテーションのやり方・ディベートのやり方など。なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。なお、最終学年の履修者は規程により再試を受験することができますが、科目内容からして50%以上出席をしていない場合は、再試を受験しても合格することはできません。一年を通じて出席することを心がけると同時に、自分の出席状況を勘案して再試験の申込みをするようにして下さい。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：山崎 康之）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	山崎 康之（自己紹介ページ）
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということを、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマは、講義ノートの取り方・資料の集め方・テキストの読み方・レポートの書き方など。秋学期に取り扱うテーマは、パブリックスピーキングのやり方・プレゼンテーションのやり方・ディベートのやり方など。なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。なお、最終学年の履修者は規程により再試を受験することができますが、科目内容からして50%以上出席をしていない場合は、再試を受験しても合格することはできません。一年を通じて出席することを心がけると同時に、自分の出席状況を勘案して再試験の申込みをするようにして下さい。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：南 憲一）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	南 憲一（自己紹介ページ）
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	パソコンを使用しながら授業を進めていくので、ノートパソコンを必ず持参すること。 基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマは、講義ノートの取り方・資料の集め方・テキストの読み方・レポートの書き方など。秋学期に取り扱うテーマは、パブリックスピーキングのやり方・プレゼンテーションのやり方・ディベートのやり方など。なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。 なお、最終学年の履修者は規程により再試を受験することができますが、科目内容からして50%以上出席をしていない場合は、再試を受験しても合格することはできません。一年を通じて出席することを心がけると同時に、自分の出席状況を勘案して再試験の申込みをするようにして下さい。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：久保 真）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	久保 真
設置学期：	通年
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	<p>大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということを、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。</p>
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	<p>春学期に取り扱うテーマは、講義ノートの取り方・資料の集め方・テキストの読み方・レポートの書き方など。秋学期に取り扱うテーマは、パブリックスピーキングのやり方・プレゼンテーションのやり方・ディベートのやり方など。なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。</p>
目標と評価：	<p>毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。 なお、最終学年の履修者は規程により再試を受験することができますが、科目内容からして50%以上出席をしていない場合は、再試を受験しても合格することはできません。一年を通じて出席することを心がけると同時に、自分の出席状況を勘案して再試験の申込みをするようにして下さい。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：戎野 淑子）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	戎野 淑子
設置学期：	通年
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということを、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマは、講義ノートの取り方・資料の集め方・テキストの読み方・レポートの書き方など。秋学期に取り扱うテーマは、パブリックスピーキングのやり方・プレゼンテーションのやり方・ディベートのやり方など。なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。なお、最終学年の履修者は規程により再試を受験することができますが、科目内容からして50%以上出席をしていない場合は、再試を受験しても合格することはできません。一年を通じて出席することを心がけると同時に、自分の出席状況を勘案して再試験の申込みをするようにして下さい。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：山田 寛）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	山田 寛
設置学期：	通年
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということを、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマは、講義ノートの取り方・資料の集め方・テキストの読み方・レポートの書き方など。秋学期に取り扱うテーマは、パブリックスピーキングのやり方・プレゼンテーションのやり方・ディベートのやり方など。なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。なお、最終学年の履修者は規程により再試を受験することができますが、科目内容からして50%以上出席をしていない場合は、再試を受験しても合格することはできません。一年を通じて出席することを心がけると同時に、自分の出席状況を勘案して再試験の申込みをするようにして下さい。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：田尻 慎太郎）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	田尻 慎太郎
設置学期：	通年
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということを、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマは、講義ノートの取り方・資料の集め方・テキストの読み方・レポートの書き方など。秋学期に取り扱うテーマは、パブリックスピーキングのやり方・プレゼンテーションのやり方・ディベートのやり方など。なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。なお、最終学年の履修者は規程により再試を受験することができますが、科目内容からして50%以上出席をしていない場合は、再試を受験しても合格することはできません。一年を通じて出席をすることを心がけると同時に、自分の出席状況を勘案して再試験の申込みをするようにして下さい。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：森本 孝）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	森本 孝
設置学期：	通年
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	<p>大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。</p>
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	<p>春学期に取り扱うテーマは、講義ノートの取り方・資料の集め方・テキストの読み方・レポートの書き方など。秋学期に取り扱うテーマは、パブリックスピーキングのやり方・プレゼンテーションのやり方・ディベートのやり方など。なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。</p>
目標と評価：	<p>毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。 なお、最終学年の履修者は規程により再試を受験することができますが、科目内容からして50%以上出席をしていない場合は、再試を受験しても合格することはできません。一年を通じて出席をすることを心がけると同時に、自分の出席状況を勘案して再試験の申込みをするようにして下さい。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：高野 秀之）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	高野 秀之
設置学期：	通年
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	<p>大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。</p>
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	<p>春学期に取り扱うテーマは、講義ノートの取り方・資料の集め方・テキストの読み方・レポートの書き方など。秋学期に取り扱うテーマは、パブリックスピーキングのやり方・プレゼンテーションのやり方・ディベートのやり方など。なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。</p>
目標と評価：	<p>毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。 なお、最終学年の履修者は規程により再試を受験することができますが、科目内容からして50%以上出席をしていない場合は、再試を受験しても合格することはできません。一年を通じて出席することを心がけると同時に、自分の出席状況を勘案して再試験の申込みをするようにして下さい。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：馮 雪梅）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	馮 雪梅（自己紹介ページ）
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということを、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマは、講義ノートの取り方・資料の集め方・テキストの読み方・レポートの書き方など。秋学期に取り扱うテーマは、パブリックスピーキングのやり方・プレゼンテーションのやり方・ディベートのやり方など。なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。なお、最終学年の履修者は規程により再試を受験することができますが、科目内容からして50%以上出席をしていない場合は、再試を受験しても合格することはできません。一年を通じて出席することを心がけると同時に、自分の出席状況を勘案して再試験の申込みをするようにして下さい。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	サイモン クレイ
設置学期：	通年
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	<p>大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということを、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。</p>
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	<p>春学期に取り扱うテーマは、講義ノートの取り方・資料の集め方・テキストの読み方・レポートの書き方など。秋学期に取り扱うテーマは、パブリックスピーキングのやり方・プレゼンテーションのやり方・ディベートのやり方など。なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。</p>
目標と評価：	<p>毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。 なお、最終学年の履修者は規程により再試を受験することができますが、科目内容からして50%以上出席をしていない場合は、再試を受験しても合格することはできません。一年を通じて出席することを心がけると同時に、自分の出席状況を勘案して再試験の申込みをするようにして下さい。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：滑川 光裕）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	滑川 光裕
設置学期：	通年
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	<p>大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということを、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。</p>
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	<p>春学期に取り扱うテーマは、講義ノートの取り方・資料の集め方・テキストの読み方・レポートの書き方など。秋学期に取り扱うテーマは、パブリックスピーキングのやり方・プレゼンテーションのやり方・ディベートのやり方など。なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。</p>
目標と評価：	<p>毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。 なお、最終学年の履修者は規程により再試を受験することができますが、科目内容からして50%以上出席をしていない場合は、再試を受験しても合格することはできません。一年を通じて出席することを心がけると同時に、自分の出席状況を勘案して再試験の申込みをするようにして下さい。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：内藤 勝）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	内藤 勝（自己紹介ページ）
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマは、講義ノートの取り方・資料の集め方・テキストの読み方・レポートの書き方など。秋学期に取り扱うテーマは、パブリックスピーキングのやり方・プレゼンテーションのやり方・ディベートのやり方など。なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。なお、最終学年の履修者は規程により再試を受験することができますが、科目内容からして50%以上出席をしていない場合は、再試を受験しても合格することはできません。一年を通じて出席することを心がけると同時に、自分の出席状況を勘案して再試験の申込みをするようにして下さい。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：小菅 成一）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	小菅 成一
設置学期：	通年
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマは、講義ノートの取り方・資料の集め方・テキストの読み方・レポートの書き方など。秋学期に取り扱うテーマは、パブリックスピーキングのやり方・プレゼンテーションのやり方・ディベートのやり方など。なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。なお、最終学年の履修者は規程により再試を受験することができますが、科目内容からして50%以上出席をしていない場合は、再試を受験しても合格することはできません。一年を通じて出席することを心がけると同時に、自分の出席状況を勘案して再試験の申込みをするようにして下さい。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：飯野 幸江）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	飯野 幸江
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講義では会計の基礎となる簿記を学習します。簿記は企業の経済活動を記録・計算・整理するための技法です。その目的は、財務諸表（貸借対照表、損益計算書）を作成することにより、企業の財政状態と経営成績を明らかにすることです。本講義では、企業の経済活動の記録から財務諸表作成までのプロセスを学ぶことによって、簿記の基本的なしくみを理解することを目的とします。
授業方法：	簿記の効果的な学習方法は、数多くの記帳練習問題を解くことです。しかし残念ながら、本講義は6月初旬に実施される日商簿記検定3級の合格を目標としますので、授業時間中に記帳練習問題を解く時間はありません。そこで授業では教科書を用いて簿記の基本的な論点を説明するとともに、記帳練習問題は各自、自宅等で解いてもらうことにします。 なお、6月の日商簿記検定まであまり時間がありませんので、かなり早いペースで授業を進めます。授業での配布物および授業内容の詳細（教科書の該当するページ、解いておくべき記帳練習問題など）は、学ナビに最新情報を掲載していきますので、マメに学ナビをチェックして下さい。
履修の留意点：	本講義は、記帳練習問題を通じて簿記のしくみを学習しますので、授業には教科書の他に、電卓、赤ペンおよび定規を持参して下さい。 簿記は積み重ねの学問です。1回でも欠席をすると授業がわからなくなることがあります。予習をする必要はありませんが、必ず復習をして下さい。
目標と評価：	本講義は、6月に実施される日商簿記検定3級の合格を目標とします。 成績は、原則として定期試験の結果（7割）と出席点（3割）で評価します。ただし、日商簿記検定3級に合格した学生については、無条件に定期試験の成績を満点とします。
教科書：	①例解演習 基本簿記 ②新検定簿記ワークブック 3級 商業簿記 ①山本孝夫・前川邦生 ②加古宜士・渡部裕巨 ①創成社 ②中央経済社 ①2004年 ②2005年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：嘉悦 康太）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	嘉悦 康太
設置学期：	通年
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	<p>大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということを、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。</p>
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	<p>春学期に取り扱うテーマは、講義ノートの取り方・資料の集め方・テキストの読み方・レポートの書き方など。秋学期に取り扱うテーマは、パブリックスピーキングのやり方・プレゼンテーションのやり方・ディベートのやり方など。なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。</p>
目標と評価：	<p>毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。 なお、最終学年の履修者は規程により再試を受験することができますが、科目内容からして50%以上出席をしていない場合は、再試を受験しても合格することはできません。一年を通じて出席することを心がけると同時に、自分の出席状況を勘案して再試験の申込みをするようにして下さい。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール（再履修）」（担当者：宮本 勉）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール（再履修）
担当者：	宮本 勉（自己紹介ページ）
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマは、講義ノートの取り方・資料の集め方・テキストの読み方・レポートの書き方など。秋学期に取り扱うテーマは、パブリックスピーキングのやり方・プレゼンテーションのやり方・ディベートのやり方など。なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。
目標と評価：	回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール（再履修）」（担当者：石川 直弘）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「基礎ゼミナール（再履修）」（担当者：森 康夫）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール（再履修）
担当者：	森 康夫（自己紹介ページ）
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	経営情報学科の2年生で「基礎ゼミナール」の再履修者はビジネスコミュニケーション学科1年の「総合コミュニケーション演習」を履修しなければなりません。この科目が設置されているビジネスコミュニケーション学科では「社会の扉を開く3つの柱」の1つの基幹科目としてこの科目を設置しています。この科目では大学で学ぶための基本的な『学習スキル』と、ビジネスシーンにおける基本的な『コミュニケーション能力』を学生と教員の双方向の動きの中でアクティブに学びます。春学期では「学習スキル」の習得を目指し、初回に「仲間を知ろう」というテーマで他己紹介やインタビューゲームを行い、ゼミ生同士の情報を交換します。その後の授業ではコンピュータを使っての情報検索、レポートライティングや文章読解法、表現方法などを学び、ビジネス現場での基本的コミュニケーション能力の育成を目指します。秋学期ではプレゼンテーションやロールプレイングによる模擬面接などを行い「意思伝達能力」の向上を図り、受講生の自己表現能力の習得を目指します。
授業方法：	一方通行の講義だけでなく、皆が参加し、体験を通して学べる授業にしたい。難しい授業ではなく、楽しみながら学べる授業を目指したいと思っています。
履修の留意点：	『コミュニケーション能力』を学生と教員の双方向の動きの中でアクティブに学ぶということですから、積極的に発言して欲しいし、いろいろなアイデアも出して欲しい。 *1番の留意点は「授業を休まないように頑張ってきて欲しい」と言うことです。
目標と評価：	〔目標〕 1、自分で考え、行動できるようになること。 2、筋道を立てて、論理的に考えられるようになること。 〔評価〕 1、1年間どれだけ自分を鍛えられたか。一生懸命にできたか。 2、それぞれの目標に達したかどうか。 *上記の点を考慮し、授業態度や提出物、発表などにより評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール（再履修）」（担当者：古閑 博美）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール（再履修）
担当者：	古閑 博美（自己紹介ページ）
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>本科目の履修生は、「総合コミュニケーション演習」のクラスを受講する。コミュニケーション能力ならびに学習能力の向上と、社会性を身につけることを主眼とする。</p> <p>ビジネスコミュニケーション学科では「社会の扉を開く3つの柱」のひとつとして1年次にこの科目を設置しており、嘉悦ならではの基幹科目の一つです。この科目では大学で学ぶための基本的な「学習スキル」と、ビジネスシーンにおける基本的な「コミュニケーション能力」を、学生と教員の双方向の動きのなかでアクティブに学びます。</p> <p>春学期に、「学習スキル」の習得を目指します。最初に、「仲間を知ろう」ということで自己紹介やインタビューゲームなどを行い、ゼミ生同士の情報交換を行います。その後はコンピュータを用いた情報検索能力の育成、レポートライティングのスキル、文章の読解方法と表現方法のスキルを学び、ビジネスシーンにおける基礎的なコミュニケーションスキルを学びます。</p> <p>秋学期にはパソコンを用いたプレゼンテーション、ロールプレイングによる模擬面接などを行い、「コミュニケーション能力」向上のためのスキルを中心に勉強し、各人の持つ自己表現能力を向上させるとともに、より高度なレベルにまで発展させてゆきます。</p>
授業方法：	<p>テキストを使用し、新聞記事、視聴覚教材などを活用する。</p> <p>講義と演習。グループワークも実施する。</p> <p>春学期と秋学期各一回ずつ、全一年生を対象とした特別講座を実施するほか、ゲストを招き特別授業を実施する。</p>
履修の留意点：	<p>授業に積極的に参加すること。</p> <p>コミュニケーション能力の開発・向上の観点から、「話す（発表する）、書く（打つ）、聞く（質問する）、読む（ニュースに関心を持つ）」授業を展開する。学生は、積極的に参加すること。毎回、授業ノートを作成し、各学期ごとに提出する。ほかに、指示したレポートを提出すること。</p>
目標と評価：	<p>目標：大学生としてふさわしい学力、社会的能力を身につける。</p> <p>学習のためのスキルを習得し、コミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>評価：授業（態度・参加度）、授業ノート、レポート（内容・提出期限厳守）などを総合して評価する。</p>
教科書：	『FYS講座 大学で学ぼう・大学を学ぼう』 古閑博美編著 学文社 2005年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール（再履修）」（担当者：松嶋 哲雄）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール（再履修）
担当者：	松嶋 哲雄（自己紹介ページ）
設置学期：	通年
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	この科目では大学で学ぶ基本的な「学習スキル」、ビジネスの現場での基本的「コミュニケーション能力」を学生と教員の双方向の流れの中で積極的に修得していきます。春学期で「学習スキル」の育成を目指し、初回に「仲間を知ろう」というテーマで自己紹介やインタビューゲームでゼミ生同士の情報交換をします。以降コンピュータで情報検索技能の育成、レポートライティングや文章読解方法、表現方法の技能を学び、ビジネス現場での基礎コミュニケーション能力を身につけていきます。秋学期はパソコンでプレゼンテーション、ロールプレイングにより模擬面接をおこない、「意思伝達能力」の向上を図り、各人の自己表現能力をアップさせるとともに、より高度なレベルまで発展させていきます。
授業方法：	講義形式の説明、グループ討論、グループ作業、個人・グループによる調査研究、口頭・文書形式による発表、およびネット発表など
履修の留意点：	積極的な授業への取り組み 欠席しない データ収集・整理と分析 真似でなく批判的・創造的な視点の修得
目標と評価：	授業態度や提出物、発表内容、出席率などを考慮して総合的に評価
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール（再履修）」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール（再履修）
担当者：	星 ひろみ（自己紹介ページ）
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>* 経営情報学科の2年生は『基礎ゼミナール』の再履修者はビジネスコミュニケーション学科1年生の「総合コミュニケーション演習」を履修しなければなりません。この科目が設置されているビジネスコミュニケーション学科では、「社会の扉を開く3つの柱」のひとつとして1年次にこの科目を設置しており、嘉悦ならではの基幹科目の一つです。この科目では大学で学ぶための基本的な『学習スキル』と、ビジネスシーンにおける基本的な『コミュニケーション能力』を学生と教員の双方向の動きの中でアクティブに学びます。具体的には春学期には『学習スキル』の習得を目指しますが、最初に、「仲間を知ろう」ということで自己紹介やインタビューゲームなどを行い、ゼミ生同士の情報交換を行います。その後はコンピュータを用いた情報検索能力の育成、レポートライティングのスキル、文章の読解方法と表現方法のスキルを学び、ビジネスシーンにおける基礎的なコミュニケーションスキルを学びます。秋学期にはパソコンを用いたプレゼンテーション、ロールプレイングによる模擬面接などを行い、『コミュニケーション能力』向上のためのスキルを中心に勉強し、各人の持つ自己表現能力を向上させるとともに、より高度なレベルにまで発展させてゆきます。</p>
授業方法：	<p>① コミュニケーション能力を上げるためには、まず「話す能力と聞く能力」がとても重要です。はじめは簡単な自己紹介ものから、後半には、発表・報告が出来る力をつけていきます。</p> <p>② レポートの書き方・文章の表現方法・資料の集め方など菜満でいきます・</p> <p>② ビジネスシーンにおける基礎的なコミュニケーションスキルの習得やパソコンを使ったプレゼンテーションまで発展できるよう目指します。</p>
履修の留意点：	<p>・ゼミ生同士、常に自分から発信すること、それを受け取る事を重要とし、一方通行にならないように努めて下さい。 また、話すのが苦手という気持ちがあっても、少しでも向上できるよう、やらないのではなく、やって失敗するつもりで授業に参加することが大切です。</p> <p>・コミュニケーションとるのに大切な、「笑顔」・「挨拶」・「約束を守る」を忘れないように。</p>
目標と評価：	<p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1年間で自分の意見を時自分の言葉で伝えられるようになること。 2. 自分のことだけになってしまうのではなく、周囲に目が行き届くような心の広さ・余裕をもった女性になってもらいたい。（気がつく・気配り） <p>【評価】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 失敗を恐れず積極的に挑戦する姿勢 2. 翌週への課題や提出物の期日など、約束を厳守 3. 出席日数（参加しなくては評価できない授業形態なので） 4. あらかじめ欠席することがわかっているときは連絡を入れるといった対処など
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール（再履修）」（担当者：俵 尚申）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「基礎ゼミナール（再履修）」（担当者：木村 剛）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール（再履修）
担当者：	木村 剛
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	春学期では「学習スキル」の習得を目指し、まず「仲間を知ろう」というテーマで他己紹介やインタビューゲームを行い、ゼミ生同士の情報を交換します。その後の授業ではコンピュータを使っての情報検索、レポートライティングや文章読解法、表現方法などを学び、ビジネス現場での基本的コミュニケーション能力の育成を目指します。 秋学期ではプレゼンテーションやロールプレイングによる模擬面接などを行い、「意思伝達能力」の向上を図り、受講生の自己表現能力の習得を目指します。 1年を通して、コミュニケーションできる能力を高めていきましょう。
授業方法：	グループによる作業や討論、個人・グループによる（共同）研究、口頭発表、教員による講義などにより授業を展開していきます。
履修の留意点：	毎回の出席が必須となります。積極的に授業に取り組むということを基本としてゼミ生同士が協力し信頼しあってゆく姿勢を大切にしてください。
目標と評価：	出席を重視しつつ、提出物、口頭発表、授業への取り組む姿勢などを総合的に判断します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール（再履修）」（担当者：安富 成良）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール（再履修）
担当者：	安富 成良（自己紹介ページ）
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	経営情報学科の2年生で「基礎ゼミナール」の再履修者はビジネスコミュニケーション学科1年の「総合コミュニケーション演習」を履修しなければなりません。この科目が設置されているビジネスコミュニケーション学科では「社会の扉を開く3つの柱」の1つの基幹科目としてこの科目を設置しています。この科目では大学で学ぶための基本的な『学習スキル』と、ビジネスシーンにおける基本的な『コミュニケーション能力』を学生と教員の双方向の動きの中でアクティブに学びます。春学期では「学習スキル」の習得を目指し、初回に「仲間を知ろう」というテーマで他己紹介やインタビューゲームを行い、ゼミ生同士の情報を交換します。その後の授業ではコンピュータを使っての情報検索、レポートライティングや文章読解法、表現方法などを学び、ビジネス現場での基本的コミュニケーション能力の育成を目指します。秋学期ではプレゼンテーションやロールプレイングによる模擬面接などを行い、「意思伝達能力」の向上を図り、受講生の自己表現能力の習得を目指します。履修上の留意点：まずは欠席をしないこと、積極的に授業に取り組むということを基本としてゼミ生同士が協力し信頼しあってゆく姿勢を大切にしてください。
授業方法：	グループによる作業や討論、個人・グループによる（共同）研究、口頭発表、教員による講義などにより授業を展開してゆきます。
履修の留意点：	まずは欠席をしないこと、積極的に授業に取り組むということを基本としてゼミ生同士が協力し信頼しあってゆく姿勢を大切にしてください。
目標と評価：	出席重視で提出物、口頭発表、授業への取り組み姿勢などを総合的に判断します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール（再履修）」（担当者：大澤 薫）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「基礎ゼミナール（再履修）」（担当者：藤井 秀子）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「日本語表現法Ⅰ」（担当者：小菅 成一）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「日本語表現法Ⅰ」（担当者：小菅 成一）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「日本語表現法Ⅰ」（担当者：小菅 成一）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「日本語表現法Ⅰ」（担当者：田尻 慎太郎）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅰ
担当者：	田尻 慎太郎
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	これから大学で授業を受けていくための全ての基礎となるのが「読解力」です。そして卒業後どのような仕事に就くことになろうともこのスキルは欠かせません。読解力とは文章を読んで、その意味・内容を正確に理解する力のことで、この授業では数多くの論理的な文章に触れることを通じて、論理的で説得力のある文章の構成について習熟することを目標とします。 多くの論理的な文章は、仮説提起や問題設定を通じて「主題」を読者に明示し、その主題に関するさまざまな「論証」を行って最終的に作者の言いたい「結論」を述べるというスタイルが一般的です。こう書くとは何か難しそうですが、逆に言うとスタイルが決まっているために慣れてしまえば小説などに比べて理解することは難しくありません。 高校までの論説文に対して苦手意識を感じるのは、往々にしてその文章の背景となっている知識を欠いていることによります。そこで本科目では、様々な文章を読み、その背景についての解説を担当教員がおこなうことで、現代社会でいま何が問題になっているかをみなさんに紹介していく羅針盤の役割を果たすことを副次的な目標とします。
授業方法：	毎回の授業で配布される課題文を読み、時間内にそれを理解することを目標にしますので、基本的に宿題はありません。しかし、疑問に思ったことを積極的に質問するなど授業に対して好奇心を持った参加が求められます。
履修の留意点：	授業中の課題とその提出に学ナビを使いますので、各自ノートパソコンを持参してください。 教科書・参考書は特に指定しませんが、以下に挙げるように大学生向けの良質な読書ガイドが多数ありますので、これらを手に取り自分が興味を持つ本を見つけて実際に読んでみることを強く推奨します。 広島大学総合科学部101冊の本プロジェクト編、『大学新入生に薦める101冊の本』、岩波書店、2005年 『東大教師が新入生にすすめる本』、文春新書、2004年 佐高信、『現代を読む100冊のノンフィクション』、岩波新書、1992年 新書マップ・プレス編、『新書マップ』、日経BP社、2004年
目標と評価：	みなさんの最終目標は論理的な文章を「批判的に」読むことができるようになることです。それに向けた段階的な課題が授業中に課題されますので、その達成度を総合的に評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法Ⅰ」（担当者：田尻 慎太郎）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅰ
担当者：	田尻 慎太郎
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	これから大学で授業を受けていくための全ての基礎となるのが「読解力」です。そして卒業後どのような仕事に就くことになろうともこのスキルは欠かせません。読解力とは文章を読んで、その意味・内容を正確に理解する力のことで、この授業では数多くの論理的な文章に触れることを通じて、論理的で説得力のある文章の構成について習熟することを目標とします。 多くの論理的文章は、仮説提起や問題設定を通じて「主題」を読者に明示し、その主題に関するさまざまな「論証」を行って最終的に作者の言いたい「結論」を述べるというスタイルが一般的です。こう書くとは何か難しそうですが、逆に言うとスタイルが決まっているために慣れてしまえば小説などに比べて理解することは難しくありません。 高校までの論説文に対して苦手意識を感じるのは、往々にしてその文章の背景となっている知識を欠いていることによります。そこで本科目では、様々な文章を読み、その背景についての解説を担当教員がおこなうことで、現代社会でいま何が問題になっているかをみなさんに紹介していく羅針盤の役割を果たすことを副次的な目標とします。
授業方法：	毎回の授業で配布される課題文を読み、時間内にそれを理解することを目標にしますので、基本的に宿題はありません。しかし、疑問に思ったことを積極的に質問するなど授業に対して好奇心を持った参加が求められます。
履修の留意点：	授業中の課題とその提出に学ナビを使いますので、各自ノートパソコンを持参してください。 教科書・参考書は特に指定しませんが、以下に挙げるように大学生向けの良質な読書ガイドが多数ありますので、これらを手に取り自分が興味を持つ本を見つけて実際に読んでみることを強く推奨します。 広島大学総合科学部101冊の本プロジェクト編、『大学新入生に薦める101冊の本』、岩波書店、2005年 『東大教師が新入生にすすめる本』、文春新書、2004年 佐高信、『現代を読む100冊のノンフィクション』、岩波新書、1992年 新書マップ・プレス編、『新書マップ』、日経BP社、2004年
目標と評価：	みなさんの最終目標は論理的な文章を「批判的に」読むことができるようになることです。それに向けた段階的な課題が授業中に課題されますので、その達成度を総合的に評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法Ⅰ」（担当者：田尻 慎太郎）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅰ
担当者：	田尻 慎太郎
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	これから大学で授業を受けていくための全ての基礎となるのが「読解力」です。そして卒業後どのような仕事に就くことになろうともこのスキルは欠かせません。読解力とは文章を読んで、その意味・内容を正確に理解する力のことで、この授業では数多くの論理的な文章に触れることを通じて、論理的で説得力のある文章の構成について習熟することを目標とします。 多くの論理的な文章は、仮説提起や問題設定を通じて「主題」を読者に明示し、その主題に関するさまざまな「論証」を行って最終的に作者の言いたい「結論」を述べるというスタイルが一般的です。こう書くとは何か難しそうですが、逆に言うともスタイルが決まっているために慣れてしまえば小説などに比べて理解することは難しくありません。 高校までの論説文に対して苦手意識を感じるのは、往々にしてその文章の背景となっている知識を欠いていることによります。そこで本科目では、様々な文章を読み、その背景についての解説を担当教員がおこなうことで、現代社会でいま何が問題になっているかをみなさんに紹介していく羅針盤の役割を果たすことを副次的な目標とします。
授業方法：	毎回の授業で配布される課題文を読み、時間内にそれを理解することを目標にしますので、基本的に宿題はありません。しかし、疑問に思ったことを積極的に質問するなど授業に対して好奇心を持った参加が求められます。
履修の留意点：	授業中の課題とその提出に学ナビを使いますので、各自ノートパソコンを持参してください。 教科書・参考書は特に指定しませんが、以下に挙げるように大学生向けの良質な読書ガイドが多数ありますので、これらを手に取り自分が興味を持つ本を見つけて実際に読んでみることを強く推奨します。 広島大学総合科学部101冊の本プロジェクト編、『大学新入生に薦める101冊の本』、岩波書店、2005年 『東大教師が新入生にすすめる本』、文春新書、2004年 佐高信、『現代を読む 100冊のノンフィクション』、岩波新書、1992年 新書マップ・プレス編、『新書マップ』、日経BP社、2004年
目標と評価：	みなさんの最終目標は論理的な文章を「批判的」に読むことができるようになることです。それに向けた段階的な課題が授業中に課題されますので、その達成度を総合的に評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法 I (留学生用)」 (担当者: 河村 玲子) の履修の手引き

科目名:	日本語表現法 I (留学生用)
担当者:	河村 玲子
設置学期:	春
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	日本語の四技能(読む・書く・聞く・話す)を高め、専門の授業やゼミへ参加する際の困難を減らすことを目的とする。中でも、レポート・論文作成能力の向上に重点をおいて学習していく。
授業方法:	演習方式で、学生の皆さんの積極的な参加・発言を重視して授業を進める。
履修の留意点:	一回一回の授業に集中し、その時間内に最大限に学習項目を習得してほしい。
目標と評価:	適切な書き言葉を用いて、専門的な文章を書けること、また、書いたものを正確に読み発表できること、以上の二点を目標とする。 評価については、出席点とは別に、出席、課題への取り組み姿勢や提出状況等、平常点を重視する。
教科書:	大学・大学院留学生の日本語④論文作成編 アカデミックジャパニーズ研究会編著 株式会社アルク
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法Ⅰ」（担当者：嘉悦 康太）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅰ
担当者：	嘉悦 康太（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>日本語を母国語としている私たちは、ともすれば自由に日本語でコミュニケーションが取れていると思いがちですが、果たしてそういきれるでしょうか？たとえば友達同士、家族間ではあまり問題が生じてないかもしれませんが。では対教員ではどうでしょうか？異なるバックグラウンドを持つ大学からの同級生とはいかがでしょう？アルバイト等を通じて、対顧客間では？そして近い将来社会に出た際に、職場の同僚・上司または取引先などと、十全なコミュニケーションが図れると自信を持って言い切れる学生諸君は何人位いるのでしょうか。</p> <p>こうした問題意識のもと、本科目では日本語で基本的な文章を書くスキル、たとえば目上の人に対して宛てた個人的な手紙・eメールの書き方や、大学でのレポートの書き方、または社会に出てから企業等の職場で日常的にやり取りされる各種ビジネス文書の書き方等といった「書く」ことに関する一連のスキル向上を目指します。</p>
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	<p>特になし。</p> <p>■教科書について 現段階では未定です。追ってお知らせいたしますが、一学期を通して利用する教科書ではなく、毎回の授業計画の中で、参考書（の当該箇所）をアサイン（指定）することになります。</p>
目標と評価：	最終目標は「企画書」の作成です。この目標を段階的に達成していくために毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。（ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。）
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法Ⅰ」（担当者：田尻 慎太郎）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅰ
担当者：	田尻 慎太郎
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>日本語を母国語としている私たちは、ともすれば自由に日本語でコミュニケーションが取れていると思いがちですが、果たしてそういきれるでしょうか？たとえば友達同士、家族間ではあまり問題が生じてないかもしれませんが。では対教員ではどうでしょうか？異なるバックグラウンドを持つ大学からの同級生とはいかがでしょう？アルバイト等を通じて、対顧客間では？そして近い将来社会に出た際に、職場の同僚・上司または取引先などと、十全なコミュニケーションが図れると自信を持って言い切れる学生諸君は何人位いるのでしょうか。</p> <p>こうした問題意識のもと、本科目では日本語で基本的な文章を書くスキル、たとえば目上の人に対して宛てた個人的な手紙・eメールの書き方や、大学でのレポートの書き方、または社会に出てから企業等の職場で日常的にやり取りされる各種ビジネス文書の書き方等といった「書く」ことに関する一連のスキル向上を目指します。</p>
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	教科書・参考書は現段階では未定です。追ってお知らせいたしますが、一学期を通して利用する教科書ではなく、毎回の授業計画の中で、参考書（の当該箇所）をアサイン（指定）することになります。
目標と評価：	最終目標は「企画書」の作成です。この目標を段階的に達成していくために毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。（ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。）
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法Ⅰ」（担当者：高根沢 紀子）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅰ
担当者：	高根沢 紀子
設置学期：	春
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	普段日本語を母語として使用している私たちは、当たり前前に日本語でコミュニケーションが取れると考えてしまいがちであるが、実際はだからこそ難しい問題が起こりやすいのが事実である。現代は、電子メールで簡単にコミュニケーションが取れる時代であるが、相手の見えないやり取りは文章力を問われることにもなる。現代はその場にあった多様な日本語表現能力が必要とされる時代でもあるのだ。コミュニケーションは情報を正しく伝達し相互理解が図られなくてはならない。正しく伝達するためには、相手の要求を理解する、読解力が必要不可欠であることはいまでもない。いかに上手に日本語を話せたとしても、求められている内容を読むことなしには、意味をなさないからである。この授業では、要求されている内容を読み、何を伝達すべきかを明確に表現することについて考えていく。
授業方法：	読むこと・書くことを中心に、具体的な文章を読み、課題を作成し問題点を明らかにする形で進めていく。また、日本語表現の基礎を確認しつつ、小論文・レポート、さらに一般的な文書（手紙・メールの文章）やビジネス文書など、多様な日本語表現でのコミュニケーションについてプリント学習を中心に授業を行う。
履修の留意点：	毎時、何らかの課題を提出してもらうので、欠席は大きく評価に影響する。
目標と評価：	基本的な日本語表現を学び、文章を的確に読み、論理的な日本語表現ができるようにする。定期試験に毎時の課題、授業態度を加味し評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法Ⅱ」（担当者：小菅 成一）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「日本語表現法Ⅱ」（担当者：小菅 成一）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「日本語表現法Ⅱ」（担当者：小菅 成一）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「日本語表現法Ⅱ」（担当者：田尻 慎太郎）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅱ
担当者：	田尻 慎太郎
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>以後の学習において必要となるレポート・論文の書き方を身につける。論理的文章を書くという意味では、本質的にレポートと論文に違いはない。どちらも自ら問いを立て、それに対する明確な答えを主張し、その主張を裏付けるための事実・理論的根拠を提示して主張を論証するものである。こう書くとはテンプレカンパニに聞こえるかもしれないが、授業では履修者全員がレポート・論文を書くのは初めてのものとして、論文とは何か、文章を書くための準備作業、アウトライン、文章の型、論証、分かりやすい文章の書き方と段階を踏んで進めていくので心配しないで欲しい。また適宜、レポート作成に役立つMS Wordの機能や、インターネット上の情報を紹介する。</p>
授業方法：	<p>以下の教科書に沿って進めていく。教科書の内容を、講義の前半では授業内に、後半では持ち帰りの課題として提出する。したがって教科書は全員購入すること。 戸田山和久『論文の教室 レポートから卒論まで』NHKブックス(954)、日本放送協会、2002</p> <p>第1回 インTRODクシヨ 第2回 課題としてのレポート・論文 第3回 論文とは何か 第4回 論文を書くための準備 第5回 論文のフォーマット 第6回 アウトライン 第7回 論証 第8回 段落 第9回 分かりやすい文章 第10回 論文のスタイル 第11回 期末レポートのための資料収集 第12回 期末レポートのアウトライン 第13回 期末レポートの講評</p>
履修の留意点：	<p>授業中の作業に使用するので各自ノートパソコンを持参してください。また出欠管理にカードリーダーを使いますので、必ず学生証を持参すること。遅刻した学生はあらかじめ学生証を手を持った状態で入室すること。</p>
目標と評価：	<p>学期末に各自、個人個人の問題意識に基づいたレポートを書いてもらいます。 評価は毎回の課題（35%）、期末レポート（35%）、出席（30%）</p>
教科書：	『論文の教室 レポートから卒論まで』NHKブックス(954) 戸田山和久 日本放送協会 2002
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法Ⅱ」（担当者：田尻 慎太郎）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅱ
担当者：	田尻 慎太郎
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	以後の学習において必要となるレポート・論文の書き方を身につける。論理的文章を書くという意味では、本質的にレポートと論文に違いはない。どちらも自ら問いを立て、それに対する明確な答えを主張し、その主張を裏付けるための事実・理論的根拠を提示して主張を論証するものである。こう書くとはテンプレカンパニに聞こえるかもしれないが、授業では履修者全員がレポート・論文を書くのは初めてのものとして、論文とは何か、文章を書くための準備作業、アウトライン、文章の型、論証、分かりやすい文章の書き方と段階を踏んで進めていくので心配しないで欲しい。また適宜、レポート作成に役立つMS Wordの機能や、インターネット上の情報を紹介する。
授業方法：	以下の教科書に沿って進めていく。教科書の内容を、講義の前半では授業内に、後半では持ち帰りの課題として提出する。したがって教科書は全員購入すること。 戸田山和久『論文の教室 レポートから卒論まで』NHKブックス(954)、日本放送協会、2002 第1回 インTRODクシヨン 第2回 課題としてのレポート・論文 第3回 論文とは何か 第4回 論文を書くための準備 第5回 論文のフォーマット 第6回 アウトライン 第7回 論証 第8回 段落 第9回 分かりやすい文章 第10回 論文のスタイル 第11回 期末レポートのための資料収集 第12回 期末レポートのアウトライン 第13回 期末レポートの講評
履修の留意点：	授業中の作業に使用するので各自ノートパソコンを持参してください。また出欠管理にカードリーダーを使いますので、必ず学生証を持参すること。遅刻した学生はあらかじめ学生証を手を持った状態で入室すること。
目標と評価：	学期末に各自、個人個人の問題意識に基づいたレポートを書いてもらいます。 評価は毎回の課題（35%）、期末レポート（35%）、出席（30%）
教科書：	『論文の教室 レポートから卒論まで』NHKブックス(954) 戸田山和久 日本放送協会 2002
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法Ⅱ」（担当者：田尻 慎太郎）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅱ
担当者：	田尻 慎太郎
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	以後の学習において必要となるレポート・論文の書き方を身につける。論理的文章を書くという意味では、本質的にレポートと論文に違いはない。どちらも自ら問いを立て、それに対する明確な答えを主張し、その主張を裏付けるための事実・理論的根拠を提示して主張を論証するものである。こう書くとはテンプレカンパニに聞こえるかもしれないが、授業では履修者全員がレポート・論文を書くのは初めてのものとして、論文とは何か、文章を書くための準備作業、アウトライン、文章の型、論証、分かりやすい文章の書き方と段階を踏んで進めていくので心配しないで欲しい。また適宜、レポート作成に役立つMS Wordの機能や、インターネット上の情報を紹介する。
授業方法：	以下の教科書に沿って進めていく。教科書の内容を、講義の前半では授業内に、後半では持ち帰りの課題として提出する。したがって教科書は全員購入すること。 戸田山和久『論文の教室 レポートから卒論まで』NHKブックス(954)、日本放送協会、2002 第1回 インTRODクシヨソ 第2回 課題としてのレポート・論文 第3回 論文とは何か 第4回 論文を書くための準備 第5回 論文のフォーマット 第6回 アウトライン 第7回 論証 第8回 段落 第9回 分かりやすい文章 第10回 論文のスタイル 第11回 期末レポートのための資料収集 第12回 期末レポートのアウトライン 第13回 期末レポートの講評
履修の留意点：	授業中の作業に使用するので各自ノートパソコンを持参してください。また出欠管理にカードリーダーを使いますので、必ず学生証を持参すること。遅刻した学生はあらかじめ学生証を手を持った状態で入室すること。
目標と評価：	学期末に各自、個人個人の問題意識に基づいたレポートを書いてもらいます。 評価は毎回の課題（35%）、期末レポート（35%）、出席（30%）
教科書：	『論文の教室 レポートから卒論まで』NHKブックス(954) 戸田山和久 日本放送協会 2002
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法Ⅱ(留学生用)」(担当者:河村 玲子)の履修の手引き

科目名:	日本語表現法Ⅱ(留学生用)
担当者:	河村 玲子
設置学期:	秋
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	日本語の四技能(読む・書く・聞く・話す)を高め、専門の授業やゼミへ参加する際の困難を減らすことを目的とする。中でも、レポート・論文作成能力の向上に重点をおいて学習していく。
授業方法:	演習方式で、学生の皆さんの積極的な参加・発言を重視して授業を進める。
履修の留意点:	一回一回の授業に集中し、その時間内に最大限に学習項目を習得してほしい。
目標と評価:	適切な書き言葉を用いて、専門的な文章を書けること、また、書いたものを正確に読み発表できること、以上の二点を目標とする。評価については、出席点とは別に、出席、課題への取り組み姿勢や提出状況等、平常点を重視する。
教科書:	大学・大学院留学生の日本語④論文作成編 アカデミックジャパニーズ研究会編著 株式会社アルク
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法Ⅱ」（担当者：倉田 安里）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅱ
担当者：	倉田 安里（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	春学期に実施した「書く」というコミュニケーションから、秋学期は「話す」というコミュニケーションを勉強します。具体的な目標としては、実生活で人から好かれる、人に礼を失しない会話法を身につけるとともに、社会人になっていろいろな関係、いろいろな人物という状況におかれても、その場に適切な会話ができることが大変重要になってきますので、そのような、いかなる状況においてもあわてずに会話ができる知識を身につけることを目指します。また、社会に出てから、その使用頻度が非常に上がる「敬語」も重点的に学びます。
授業方法：	基本的に講義形式で行いません。
履修の留意点：	毎回異なった内容の授業を行ないますので、極力欠席しないように注意して下さい。また、自分から積極的に授業に参加することも重要です。
目標と評価：	先にも述べたように、社会人として適切な会話ができるようになることが最も重要な目標です。また、評価に関しては、毎回の授業における平常点、学期末に行なう定期試験の総合で評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法Ⅱ」（担当者：倉田 安里）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅱ
担当者：	倉田 安里（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	春学期に実施した「書く」というコミュニケーションから、秋学期は「話す」というコミュニケーションを勉強します。具体的な目標としては、実生活で人から好かれる、人に礼を失しない会話法を身につけるとともに、社会人になっていろいろな関係、いろいろな人物という状況におかれても、その場に適切な会話ができることが大変重要になってきますので、そのような、いかなる状況においてもあわてずに会話ができる知識を身に付けることを目指します。また、社会に出てから、その使用頻度が非常に上がる「敬語」も重点的に学びます。
授業方法：	基本的に講義形式で行いません。
履修の留意点：	毎回異なった内容の授業を行ないますので、極力欠席しないように注意して下さい。また、自分から積極的に授業に参加することも重要です。
目標と評価：	先にも述べたように、社会人として適切な会話ができるようになることが最も重要な目標です。また、評価に関しては、毎回の授業における平常点、学期末に行なう定期試験の総合で評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法Ⅱ」（担当者：高根沢 紀子）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅱ
担当者：	高根沢 紀子
設置学期：	秋
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	普段日本語で話し、同世代の友人と話すことが多い学生時代においては、場面にあった表現を学ぶ機会は以外と少ないのではないだろうか。この授業では、日本語で話すことの難しさを知り、その場面にあったコミュニケーションを取ることを考えていく。他の言語と比較しても特別難しいとされている敬語については、日本人の特性・文化を背負っているものであることを理解し、難しいとあきらめてしまわず、自然な敬語表現を身につけたい。また、ビジネスの場面で使用される会話を中心に、円滑なコミュニケーションがとれるスキルを学んで貰う。
授業方法：	それぞれの場面での（たとえばビジネスでの電話対応の仕方など）、コミュニケーションのとり方を会話中心に学ぶ。その場面・立場にあった話し方を、具体的に場面を想定し、実際に会話して貰いながら、問題点を明らかにする形で進めていく。相手に伝わらない話し方とはどういうものなのか、どうすれば伝わる話し方になるのかなどの問題について、話し合いながら進めて行く。
履修の留意点：	積極的に授業に参加し、発言する態度を求める。毎時、小テストを行うので欠席は大きく評価に影響する。
目標と評価：	場面にあった会話での日本語の運用能力を身につける。 定期試験に毎時の小テスト、授業態度を加味し評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「近現代史」（担当者：飯島 正義）の履修の手引き

科目名：	近現代史
担当者：	飯島 正義
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この科目は、皆さんがこれから学んでいく科目の基礎となっていくものです。授業では、①イギリスを中心とする世界資本主義の成立について、②世界資本主義体制に経済発展段階の遅れた日本がどのように組み込まれていったのか、③その後の日本経済がどのような特殊性をもつにいったのかを講義していきます。
授業方法：	講義形式で行います。
履修の留意点：	毎回の授業の積み重ねが重要であると考えます。出席回数が評価に影響します。
目標と評価：	私たちが生活している資本主義社会について考えていくことを目標とします。評価は、授業中に行う確認、レポート、試験の成績で総合的に評価します。
教科書：	使用しません。資料を配布します。
参考書：	随時紹介していきます。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「近現代史」（担当者：貝塚 亨）の履修の手引き

科目名：	近現代史
担当者：	貝塚 亨
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	みなさんは、歴史というと、中学や高校の授業でたくさんの人名や年号を暗記したことを思い出して、もううんざりだと思いませんか。しかし、歴史は「過去と現在の対話」(E.H.カー『歴史とは何か』岩波新書)といわれるように、現在の問題を理解する一つの鍵は、歴史を理解することです。そこで、本講義では、単に歴史的事実を暗記するのではなく、近現代の大きな歴史の流れを明らかにして、その中に我々が生きている現在を位置づけていきます。具体的には、封建社会を最後とする前近代社会から近代資本主義社会への移行、イギリスを中心とする資本主義世界システム(バクス・ブリタニカ)からアメリカを中心とする資本主義世界システム(バクス・アメリカーナ)への移行などを学習します。そして、世界史の近現代の流れをつかんだ上で、日本における封建社会から資本主義社会への移行、資本主義社会の展開を学習し、資本主義世界システムの中の日本を明らかにしていきます。
授業方法：	基本的に講義形式でおこないます。
履修の留意点：	毎回の授業で、感想等を書いてもらいます。単に講義を聴くだけではなく、自分で考え、理解し、問題意識をもつといった積極的な態度が必要です。教科書は特に使用しませんが、参考書は授業時に適宜紹介します。
目標と評価：	目標：○日本を含む世界全体の歴史的な流れを理解することができる。 ○現在起こっている問題を歴史的背景から説明することができる。 評価：学期末テスト(70%)、出席(30%)
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシ I」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシ I
担当者：	仲島 暁美
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	他の授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出た時に即戦力となれるよう、パソコン操作を身につけ、スムーズに文字入力や文書作成が出来ることを目的に実習します。
授業方法：	実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内で実施します。
履修の留意点：	○1年生 週に10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。（全クラス同一内容を実施。） 原則として教務から指定されたクラスを履修すること。他の必修授業と重なる場合は、コンピュータリテラシ講師に相談に来ること。 ○2, 3, 4年生 週に10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。全クラス同一内容を実施するので、1年生の時に履修したレベルに関係なく1クラスを選択すること。3月に配布済みの「『コンピュータリテラシ I』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。
目標と評価：	目標・・・表や図形を含む文書を作成できること。 P検3級レベルの知識を身につけること。 評価・・・出席、課題、実技試験（文書作成・タイピング）、筆記試験により評価。 学内で実施するP検3級に合格した場合は「100点」の評価となる。 （2006年2月に全員受験。年内にも数回実施予定。）
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅠ」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅠ
担当者：	堤 郁子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	他の授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出た時に即戦力となれるよう、パソコン操作を身につけ、スムーズに文字入力や文書作成ができることを目的に実習します。
授業方法：	実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内で実施します。
履修の留意点：	○1年生 週に10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。（全クラス同一内容を実施。） 原則として教務から指定されたクラスを履修すること。他の必修授業と重なる場合は、コンピュータリテラシ講師に相談に来ること。 ○2, 3, 4年生 週に10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。全クラス同一内容を実施するので、1年生の時に履修したレベルに関係なく1クラスを選択すること。3月に配布済みの「『コンピュータリテラシⅠ』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。
目標と評価：	目標・・・表や図形を含む文書を作成できること。 P検3級レベルの知識を身につけること。 評価・・・出席、課題、実技試験（文書作成・タイピング）、筆記試験により評価。 学内で実施するP検3級に合格した場合は「100点」の評価となる。 （2006年2月に全員受験。年内にも数回実施予定。）
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシ I」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシ I
担当者：	仲島 暁美
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	他の授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出た時に即戦力となれるよう、パソコン操作を身につけ、スムーズに文字入力や文書作成が出来ることを目的に実習します。
授業方法：	実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内で実施します。
履修の留意点：	○1年生 週に10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。（全クラス同一内容を実施。） 原則として教務から指定されたクラスを履修すること。他の必修授業と重なる場合は、コンピュータリテラシ講師に相談に来ること。 ○2, 3, 4年生 週に10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。全クラス同一内容を実施するので、1年生の時に履修したレベルに関係なく1クラスを選択すること。3月に配布済みの「『コンピュータリテラシ I』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。
目標と評価：	目標・・・表や図形を含む文書を作成できること。 P検3級レベルの知識を身につけること。 評価・・・出席、課題、実技試験（文書作成・タイピング）、筆記試験により評価。 学内で実施するP検3級に合格した場合は「100点」の評価となる。 （2006年2月に全員受験。年内にも数回実施予定。）
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅠ」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅠ
担当者：	堤 郁子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	他の授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出た時に即戦力となれるよう、パソコン操作を身につけ、スムーズに文字入力や文書作成ができることを目的に実習します。
授業方法：	実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内で実施します。
履修の留意点：	○1年生 週に10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。（全クラス同一内容を実施。） 原則として教務から指定されたクラスを履修すること。他の必修授業と重なる場合は、コンピュータリテラシ講師に相談に来ること。 ○2, 3, 4年生 週に10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。全クラス同一内容を実施するので、1年生の時に履修したレベルに関係なく1クラスを選択すること。3月に配布済みの「『コンピュータリテラシⅠ』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。
目標と評価：	目標・・・表や図形を含む文書を作成できること。 P検3級レベルの知識を身につけること。 評価・・・出席、課題、実技試験（文書作成・タイピング）、筆記試験により評価。 学内で実施するP検3級に合格した場合は「100点」の評価となる。 （2006年2月に全員受験。年内にも数回実施予定。）
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシ I」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシ I
担当者：	仲島 暁美
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	他の授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出た時に即戦力となれるよう、パソコン操作を身につけ、スムーズに文字入力や文書作成が出来ることを目的に実習します。
授業方法：	実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内で実施します。
履修の留意点：	○1年生 週に10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。（全クラス同一内容を実施。） 原則として教務から指定されたクラスを履修すること。他の必修授業と重なる場合は、コンピュータリテラシ講師に相談に来ること。 ○2, 3, 4年生 週に10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。全クラス同一内容を実施するので、1年生の時に履修したレベルに関係なく1クラスを選択すること。3月に配布済みの「『コンピュータリテラシ I』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。
目標と評価：	目標・・・表や図形を含む文書を作成できること。 P検3級レベルの知識を身につけること。 評価・・・出席、課題、実技試験（文書作成・タイピング）、筆記試験により評価。 学内で実施するP検3級に合格した場合は「100点」の評価となる。 （2006年2月に全員受験。年内にも数回実施予定。）
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシ I」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシ I
担当者：	仲島 暁美
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	他の授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出た時に即戦力となれるよう、パソコン操作を身につけ、スムーズに文字入力や文書作成が出来ることを目的に実習します。
授業方法：	実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内で実施します。
履修の留意点：	○1年生 週に10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。（全クラス同一内容を実施。） 原則として教務から指定されたクラスを履修すること。他の必修授業と重なる場合は、コンピュータリテラシ講師に相談に来ること。 ○2, 3, 4年生 週に10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。全クラス同一内容を実施するので、1年生の時に履修したレベルに関係なく1クラスを選択すること。3月に配布済みの「『コンピュータリテラシ I』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。
目標と評価：	目標・・・表や図形を含む文書を作成できること。 P検3級レベルの知識を身につけること。 評価・・・出席、課題、実技試験（文書作成・タイピング）、筆記試験により評価。 学内で実施するP検3級に合格した場合は「100点」の評価となる。 （2006年2月に全員受験。年内にも数回実施予定。）
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅠ」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅠ
担当者：	堤 郁子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	他の授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出た時に即戦力となれるよう、パソコン操作を身につけ、スムーズに文字入力や文書作成が出来ることを目的に実習します。
授業方法：	実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内で実施します。
履修の留意点：	○1年生 週に10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。（全クラス同一内容を実施。） 原則として教務から指定されたクラスを履修すること。他の必修授業と重なる場合は、コンピュータリテラシ講師に相談に来ること。 ○2, 3, 4年生 週に10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。全クラス同一内容を実施するので、1年生の時に履修したレベルに関係なく1クラスを選択すること。3月に配布済みの「『コンピュータリテラシⅠ』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。
目標と評価：	目標・・・表や図形を含む文書を作成できること。 P検3級レベルの知識を身につけること。 評価・・・出席、課題、実技試験（文書作成・タイピング）、筆記試験により評価。 学内で実施するP検3級に合格した場合は「100点」の評価となる。 （2006年2月に全員受験。年内にも数回実施予定。）
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅠ」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅠ
担当者：	堤 郁子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	他の授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出た時に即戦力となれるよう、パソコン操作を身につけ、スムーズに文字入力や文書作成ができることを目的に実習します。
授業方法：	実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内で実施します。
履修の留意点：	○1年生 週に10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。（全クラス同一内容を実施。） 原則として教務から指定されたクラスを履修すること。他の必修授業と重なる場合は、コンピュータリテラシ講師に相談に来ること。 ○2, 3, 4年生 週に10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。全クラス同一内容を実施するので、1年生の時に履修したレベルに関係なく1クラスを選択すること。3月に配布済みの「『コンピュータリテラシⅠ』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。
目標と評価：	目標・・・表や図形を含む文書を作成できること。 P検3級レベルの知識を身につけること。 評価・・・出席、課題、実技試験（文書作成・タイピング）、筆記試験により評価。 学内で実施するP検3級に合格した場合は「100点」の評価となる。 （2006年2月に全員受験。年内にも数回実施予定。）
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅠ」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅠ
担当者：	堤 郁子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	他の授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出た時に即戦力となれるよう、パソコン操作を身につけ、スムーズに文字入力や文書作成ができることを目的に実習します。
授業方法：	実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内で実施します。
履修の留意点：	○1年生 週に10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。（全クラス同一内容を実施。） 原則として教務から指定されたクラスを履修すること。他の必修授業と重なる場合は、コンピュータリテラシ講師に相談に来ること。 ○2, 3, 4年生 週に10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。全クラス同一内容を実施するので、1年生の時に履修したレベルに関係なく1クラスを選択すること。3月に配布済みの「『コンピュータリテラシⅠ』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。
目標と評価：	目標・・・表や図形を含む文書を作成できること。 P検3級レベルの知識を身につけること。 評価・・・出席、課題、実技試験（文書作成・タイピング）、筆記試験により評価。 学内で実施するP検3級に合格した場合は「100点」の評価となる。 （2006年2月に全員受験。年内にも数回実施予定。）
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅠ」（担当者：森本 孝）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「コンピュータリテラシ I」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシ I
担当者：	仲島 暁美
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	他の授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出た時に即戦力となれるよう、パソコン操作を身につけ、スムーズに文字入力や文書作成が出来ることを目的に実習します。
授業方法：	実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内で実施します。
履修の留意点：	○1年生 週に10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。（全クラス同一内容を実施。） 原則として教務から指定されたクラスを履修すること。他の必修授業と重なる場合は、コンピュータリテラシ講師に相談に来ること。 ○2, 3, 4年生 週に10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。全クラス同一内容を実施するので、1年生の時に履修したレベルに関係なく1クラスを選択すること。3月に配布済みの「『コンピュータリテラシ I』を再履修する皆さんへ」のプリントをよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。
目標と評価：	目標・・・表や図形を含む文書を作成できること。 P検3級レベルの知識を身につけること。 評価・・・出席、課題、実技試験（文書作成・タイピング）、筆記試験により評価。 学内で実施するP検3級に合格した場合は「100点」の評価となる。 （2006年2月に全員受験。年内にも数回実施予定。）
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅡ」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ
担当者：	仲島 暁美
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	他の授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出た時に即戦力となれるよう、表作成や計算、グラフ作成やデータベースが出来ることを目的に実習します。
授業方法：	実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内で実施します。
履修の留意点：	○1年生 週に約10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。（全クラス同一内容を実施。）原則として教務から指定されたクラスを履修すること。他の必修授業と重なる場合は、コンピュータリテラシ講師に相談に来ること。 ○2, 3, 4年生 週に約10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。全クラス同一内容を実施するので、1年生の時に履修したレベルに関係なく1クラスを選択すること。「『コンピュータリテラシⅡ』を再履修する皆さんへ」のプリント（配布予定）をよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。
目標と評価：	目標・・・表を作成し、計算・グラフ・データベースの基本機能を利用できること。 P検3級レベルの知識を身につけること。 評価・・・出席、課題、実技試験、筆記試験により評価。 学内で実施するP検3級に合格した場合は「100点」の評価となる。 （2006年2月に全員受験。年内にも数回実施予定。）
教科書：	なるほどカンタンExcel2003基本マスター 表計算ソフト研究会 著 一橋出版株式会社 2004年05月
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅡ」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ
担当者：	堤 郁子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	他の授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出た時に即戦力となれるよう、表作成や計算、グラフ作成やデータベースが出来ることを目的に実習します。
授業方法：	実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内で実施します。
履修の留意点：	○1年生 週に約10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。（全クラス同一内容を実施。）原則として教務から指定されたクラスを履修すること。他の必修授業と重なる場合は、コンピュータリテラシ講師に相談に来ること。 ○2, 3, 4年生 週に約10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。全クラス同一内容を実施するので、1年生の時に履修したレベルに関係なく1クラスを選択すること。「『コンピュータリテラシⅡ』を再履修する皆さんへ」のプリント（配布予定）をよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。
目標と評価：	目標・・・表を作成し、計算・グラフ・データベースの基本機能を利用できること。 P検3級レベルの知識を身につけること。 評価・・・出席、課題、実技試験、筆記試験により評価。 学内で実施するP検3級に合格した場合は「100点」の評価となる。 （2006年2月に全員受験。年内にも数回実施予定。）
教科書：	なるほどカンタンExcel2003基本マスター 表計算ソフト研究会 著 一橋出版株式会社 2004年05月
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅡ」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ
担当者：	仲島 暁美
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	他の授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出た時に即戦力となれるよう、表作成や計算、グラフ作成やデータベースが出来ることを目的に実習します。
授業方法：	実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内で実施します。
履修の留意点：	○1年生 週に約10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。（全クラス同一内容を実施。）原則として教務から指定されたクラスを履修すること。他の必修授業と重なる場合は、コンピュータリテラシ講師に相談に来ること。 ○2, 3, 4年生 週に約10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。全クラス同一内容を実施するので、1年生の時に履修したレベルに関係なく1クラスを選択すること。「『コンピュータリテラシⅡ』を再履修する皆さんへ」のプリント（配布予定）をよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。
目標と評価：	目標・・・表を作成し、計算・グラフ・データベースの基本機能を利用できること。 P検3級レベルの知識を身につけること。 評価・・・出席、課題、実技試験、筆記試験により評価。 学内で実施するP検3級に合格した場合は「100点」の評価となる。 （2006年2月に全員受験。年内にも数回実施予定。）
教科書：	なるほどカンタンExcel2003基本マスター 表計算ソフト研究会 著 一橋出版株式会社 2004年05月
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅡ」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ
担当者：	堤 郁子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	他の授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出た時に即戦力となれるよう、表作成や計算、グラフ作成やデータベースが出来ることを目的に実習します。
授業方法：	実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内で実施します。
履修の留意点：	○1年生 週に約10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。（全クラス同一内容を実施。）原則として教務から指定されたクラスを履修すること。他の必修授業と重なる場合は、コンピュータリテラシ講師に相談に来ること。 ○2, 3, 4年生 週に約10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。全クラス同一内容を実施するので、1年生の時に履修したレベルに関係なく1クラスを選択すること。「『コンピュータリテラシⅡ』を再履修する皆さんへ」のプリント（配布予定）をよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。
目標と評価：	目標・・・表を作成し、計算・グラフ・データベースの基本機能を利用できること。 P検3級レベルの知識を身につけること。 評価・・・出席、課題、実技試験、筆記試験により評価。 学内で実施するP検3級に合格した場合は「100点」の評価となる。 （2006年2月に全員受験。年内にも数回実施予定。）
教科書：	なるほどカンタンExcel2003基本マスター 表計算ソフト研究会 著 一橋出版株式会社 2004年05月
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅡ」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ
担当者：	仲島 暁美
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	他の授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出た時に即戦力となれるよう、表作成や計算、グラフ作成やデータベースが出来ることを目的に実習します。
授業方法：	実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内で実施します。
履修の留意点：	○1年生 週に約10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。（全クラス同一内容を実施。）原則として教務から指定されたクラスを履修すること。他の必修授業と重なる場合は、コンピュータリテラシ講師に相談に来ること。 ○2, 3, 4年生 週に約10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。全クラス同一内容を実施するので、1年生の時に履修したレベルに関係なく1クラスを選択すること。「『コンピュータリテラシⅡ』を再履修する皆さんへ」のプリント（配布予定）をよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。
目標と評価：	目標・・・表を作成し、計算・グラフ・データベースの基本機能を利用できること。 P検3級レベルの知識を身につけること。 評価・・・出席、課題、実技試験、筆記試験により評価。 学内で実施するP検3級に合格した場合は「100点」の評価となる。 （2006年2月に全員受験。年内にも数回実施予定。）
教科書：	なるほどカンタンExcel2003基本マスター 表計算ソフト研究会 著 一橋出版株式会社 2004年05月
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅡ」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ
担当者：	仲島 暁美
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	他の授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出た時に即戦力となれるよう、表作成や計算、グラフ作成やデータベースが出来ることを目的に実習します。
授業方法：	実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内で実施します。
履修の留意点：	○1年生 週に約10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。（全クラス同一内容を実施。）原則として教務から指定されたクラスを履修すること。他の必修授業と重なる場合は、コンピュータリテラシ講師に相談に来ること。 ○2, 3, 4年生 週に約10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。全クラス同一内容を実施するので、1年生の時に履修したレベルに関係なく1クラスを選択すること。「『コンピュータリテラシⅡ』を再履修する皆さんへ」のプリント（配布予定）をよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。
目標と評価：	目標・・・表を作成し、計算・グラフ・データベースの基本機能を利用できること。 P検3級レベルの知識を身につけること。 評価・・・出席、課題、実技試験、筆記試験により評価。 学内で実施するP検3級に合格した場合は「100点」の評価となる。 （2006年2月に全員受験。年内にも数回実施予定。）
教科書：	なるほどカンタンExcel2003基本マスター 表計算ソフト研究会 著 一橋出版株式会社 2004年05月
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅡ」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ
担当者：	堤 郁子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	他の授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出た時に即戦力となれるよう、表作成や計算、グラフ作成やデータベースが出来ることを目的に実習します。
授業方法：	実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内で実施します。
履修の留意点：	○1年生 週に約10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。（全クラス同一内容を実施。）原則として教務から指定されたクラスを履修すること。他の必修授業と重なる場合は、コンピュータリテラシ講師に相談に来ること。 ○2, 3, 4年生 週に約10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。全クラス同一内容を実施するので、1年生の時に履修したレベルに関係なく1クラスを選択すること。「『コンピュータリテラシⅡ』を再履修する皆さんへ」のプリント（配布予定）をよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。
目標と評価：	目標・・・表を作成し、計算・グラフ・データベースの基本機能を利用できること。 P検3級レベルの知識を身につけること。 評価・・・出席、課題、実技試験、筆記試験により評価。 学内で実施するP検3級に合格した場合は「100点」の評価となる。 （2006年2月に全員受験。年内にも数回実施予定。）
教科書：	なるほどカンタンExcel2003基本マスター 表計算ソフト研究会 著 一橋出版株式会社 2004年05月
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅡ」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ
担当者：	堤 郁子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	他の授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出た時に即戦力となれるよう、表作成や計算、グラフ作成やデータベースが出来ることを目的に実習します。
授業方法：	実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内で実施します。
履修の留意点：	○1年生 週に約10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。（全クラス同一内容を実施。）原則として教務から指定されたクラスを履修すること。他の必修授業と重なる場合は、コンピュータリテラシ講師に相談に来ること。 ○2, 3, 4年生 週に約10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。全クラス同一内容を実施するので、1年生の時に履修したレベルに関係なく1クラスを選択すること。「『コンピュータリテラシⅡ』を再履修する皆さんへ」のプリント（配布予定）をよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。
目標と評価：	目標・・・表を作成し、計算・グラフ・データベースの基本機能を利用できること。 P検3級レベルの知識を身につけること。 評価・・・出席、課題、実技試験、筆記試験により評価。 学内で実施するP検3級に合格した場合は「100点」の評価となる。 （2006年2月に全員受験。年内にも数回実施予定。）
教科書：	なるほどカンタンExcel2003基本マスター 表計算ソフト研究会 著 一橋出版株式会社 2004年05月
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅡ」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ
担当者：	堤 郁子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	他の授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出た時に即戦力となれるよう、表作成や計算、グラフ作成やデータベースが出来ることを目的に実習します。
授業方法：	実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内で実施します。
履修の留意点：	○1年生 週に約10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。（全クラス同一内容を実施。）原則として教務から指定されたクラスを履修すること。他の必修授業と重なる場合は、コンピュータリテラシ講師に相談に来ること。 ○2, 3, 4年生 週に約10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。全クラス同一内容を実施するので、1年生の時に履修したレベルに関係なく1クラスを選択すること。「『コンピュータリテラシⅡ』を再履修する皆さんへ」のプリント（配布予定）をよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。
目標と評価：	目標・・・表を作成し、計算・グラフ・データベースの基本機能を利用できること。 P検3級レベルの知識を身につけること。 評価・・・出席、課題、実技試験、筆記試験により評価。 学内で実施するP検3級に合格した場合は「100点」の評価となる。 （2006年2月に全員受験。年内にも数回実施予定。）
教科書：	なるほどカンタンExcel2003基本マスター 表計算ソフト研究会 著 一橋出版株式会社 2004年05月
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシⅡ」（担当者：森本 孝）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「コンピュータリテラシⅡ」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ
担当者：	仲島 暁美
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	他の授業のレポート作成に役立ち、さらに社会に出た時に即戦力となれるよう、表作成や計算、グラフ作成やデータベースが出来ることを目的に実習します。
授業方法：	実習形式で、毎回パソコンと教科書を使用し、授業を進めます。 講義&実習（11回）と、確認テスト（2回）を行います。 確認テストは授業内で実施します。
履修の留意点：	○1年生 週に約10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。（全クラス同一内容を実施。）原則として教務から指定されたクラスを履修すること。他の必修授業と重なる場合は、コンピュータリテラシ講師に相談に来ること。 ○2, 3, 4年生 週に約10クラスの授業が実施されるが、そのうち1クラスを履修する。全クラス同一内容を実施するので、1年生の時に履修したレベルに関係なく1クラスを選択すること。「『コンピュータリテラシⅡ』を再履修する皆さんへ」のプリント（配布予定）をよく読み、1週目の授業に必ず出席すること。
目標と評価：	目標・・・表を作成し、計算・グラフ・データベースの基本機能を利用できること。 P検3級レベルの知識を身につけること。 評価・・・出席、課題、実技試験、筆記試験により評価。 学内で実施するP検3級に合格した場合は「100点」の評価となる。 （2006年2月に全員受験。年内にも数回実施予定。）
教科書：	なるほどカンタンExcel2003基本マスター 表計算ソフト研究会 著 一橋出版株式会社 2004年05月
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「体育」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「体育」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「体育」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「体育」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「体育」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「体育」（担当者：俵 尚申）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「体育」（担当者：俵 尚申）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「体育」（担当者：俵 尚申）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「体育」（担当者：俵 尚申）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「体育」（担当者：俵 尚申）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「体育」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	体育
担当者：	星 ひろみ（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病といえるか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。
授業方法：	1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明） 2) 講義：実技理論・女性と健康（女子のみ） 3) 実技：運動量が多くかつ、楽しめるスポーツを行う。 女子の場合：春学期…ゴルフ、エアロビクス・ダンス・講義 秋学期…ソフトボール・講義
履修の留意点：	・春学期は実技中心（体育館及びグラウンド） ・秋学期は実技及び講義 * 授業の第1週目にオリエンテーションを行い授業内容・評価・スケジュール・その他体育に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出しますが詳細は第1回目の授業（オリエンテーション）説明する。実技試験は春・秋それぞれ学期末、授業内試験とする。但し、実技科目なので欠出席を重視する。講義の評価も行う。 * 体育は出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「体育」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	体育
担当者：	星 ひろみ（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病といえるが、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。
授業方法：	1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明） 2) 講義：実技理論・女性と健康（女子のみ） 3) 実技：運動量が多かつ、楽しめるスポーツを行う。 女子の場合：春学期…ゴルフ、エアロビクス・ダンス・講義 秋学期…ソフトバレーボール・講義
履修の留意点：	・春学期は実技中心（体育館及びグラウンド） ・秋学期は実技及び講義 * 授業の第1週目にオリエンテーションを行い授業内容・評価・スケジュール・その他体育に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出しますが詳細は第1回目の授業（オリエンテーション）説明する。実技試験は春・秋それぞれ学期末、授業内試験とする。但し、実技科目なので出欠席を重視する。講義の評価も行う。 * 体育は出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「体育」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	体育
担当者：	星 ひろみ（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。
授業方法：	1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明） 2) 講義：実技理論・女性と健康（女子のみ） 3) 実技：運動量が多くかつ、楽しめるスポーツを行う。 女子の場合：春学期…ゴルフ、エアロビクス・ダンス・講義 秋学期…ソフトバレーボール・講義
履修の留意点：	・春学期は実技中心（体育館及びグラウンド） ・秋学期は実技及び講義 * 授業の第1週目にオリエンテーションを行い授業内容・評価・スケジュール・その他体育に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	※：最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出しますが詳細は第1回目の授業(オリエンテーション)説明する。実技試験は春・秋それぞれ学期末、授業内試験とする。但し、実技科目なので出席を重視する。講義の評価も行う。 * 体育は出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「体育」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「体育」（担当者：俵 尚申）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「体育」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	体育
担当者：	星 ひろみ（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病といえるが、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。
授業方法：	1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明） 2) 講義：実技理論・女性と健康（女子のみ） 3) 実技：運動量が多くかつ、楽しめるスポーツを行う。 女子の場合：春学期…ゴルフ、エアロビクス・ダンス・講義 秋学期…ソフトバレーボール・講義
履修の留意点：	・春学期は実技中心（体育館及びグラウンド） ・秋学期は実技及び講義 * 授業の第1週目にオリエンテーションを行い授業内容・評価・スケジュール・その他体育に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出しますが詳細は第1回目の授業（オリエンテーション）説明する。実技試験は春・秋それぞれ学期末、授業内試験とする。但し、実技科目なので欠席を重視する。講義の評価も行う。 * 体育は出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「体育」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	体育
担当者：	星 ひろみ（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病といえるか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。
授業方法：	1) オリエンテーション（授業計画・評価についてなどの説明） 2) 講義：実技理論・女性と健康（女子のみ） 3) 実技：運動量が多くかつ、楽しめるスポーツを行う。 女子の場合：春学期…ゴルフ、エアロビクス・ダンス・講義 秋学期…ソフトボール・講義
履修の留意点：	・春学期は実技中心（体育館及びグラウンド） ・秋学期は実技及び講義 * 授業の第1週目にオリエンテーションを行い授業内容・評価・スケジュール・その他体育に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出しますが詳細は第1回目の授業（オリエンテーション）説明する。実技試験は春・秋それぞれ学期末、授業内試験とする。但し、実技科目なので欠席を重視する。講義の評価も行う。 * 体育は出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「体育」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	体育
担当者：	星 ひろみ（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。
授業方法：	1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明） 2) 講義：実技理論・女性と健康（女子のみ） 3) 実技：運動量が多くかつ、楽しめるスポーツを行う。 女子の場合：春学期…ゴルフ、エアロビクス・ダンス・講義 秋学期…ソフトバレーボール・講義
履修の留意点：	・春学期は実技中心（体育館及びグラウンド） ・秋学期は実技及び講義 * 授業の第1週目にオリエンテーションを行い授業内容・評価・スケジュール・その他体育に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出しますが詳細は第1回目の授業（オリエンテーション）説明する。実技試験は春・秋それぞれ学期末、授業内試験とする。但し、実技科目なので出欠席を重視する。講義の評価も行う。 * 体育は出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「アカデミック・リーディング」（担当者：小菅 成一）の履修の手引き

科目名：	アカデミック・リーディング
担当者：	小菅 成一
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	これから大学で授業を受けていくための全ての基礎となるのが「読解力」です。そして卒業後どのような仕事に就くことになろうともこのスキルは欠かせません。読解力とは文章を読んで、その意味・内容を正確に理解する力のことで、この授業では数多くの論理的な文章に触れることを通じて、論理的で説得力のある文章の構成について習熟することを目標とします。 多くの論理的な文章は、仮説提起や問題設定を通じて「主題」を読者に明示し、その主題に関するさまざまな「論証」を行って最終的に作者の言いたい「結論」を述べるというスタイルが一般的です。こう書くとは何か難しそうですが、逆に言うとスタイルが決まっているために慣れてしまえば小説などに比べて理解することは難しくありません。 高校までの論説文に対して苦手意識を感じるのは、往々にしてその文章の背景となっている知識を欠いていることによります。そこで本科目では、様々な文章を読み、その背景についての解説を担当教員がおこなうことで、現代社会でいま何が問題になっているかをみなさんに紹介していく羅針盤の役割を果たすことを副次的な目標とします。
授業方法：	毎回の授業で配布される課題文を読み、時間内にそれを理解することを目標にしますので、基本的に宿題はありません。しかし、疑問に思ったことを積極的に質問するなど授業に対して好奇心を持った参加が求められます。
履修の留意点：	教科書・参考書は特に指定しませんが、以下に挙げるように大学生向けの良質な読書ガイドが多数ありますので、これらを手に取り自分が興味を持つ本を見つけて実際に読んでみることを強く推奨します。 広島大学総合科学部101冊の本プロジェクト編、『大学新入生に薦める101冊の本』、岩波書店、2005年 『東大教師が新入生にすすめる本』、文春新書、2004年 佐高信、『現代を読む 100冊のノンフィクション』、岩波新書、1992年 新書マップ・プレス編、『新書マップ』、日経BP社、2004年
目標と評価：	みなさんの最終目標は論理的な文章を「批判的」に読むことができるようになることです。それに向けた段階的な課題が授業中に課題されますので、その達成度を総合的に評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「アカデミック・リーディング」（担当者：小菅 成一）の履修の手引き

科目名：	アカデミック・リーディング
担当者：	小菅 成一
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	これから大学で授業を受けていくための全ての基礎となるのが「読解力」です。そして卒業後どのような仕事に就くことになろうともこのスキルは欠かせません。読解力とは文章を読んで、その意味・内容を正確に理解する力のことで、この授業では数多くの論理的な文章に触れることを通じて、論理的で説得力のある文章の構成について習熟することを目標とします。 多くの論理的文章は、仮説提起や問題設定を通じて「主題」を読者に明示し、その主題に関するさまざまな「論証」を行って最終的に作者の言いたい「結論」を述べるというスタイルが一般的です。こう書くとは何か難しそうですが、逆に言うスタイルが決まっているために慣れてしまえば小説などに比べて理解することは難しくありません。 高校までの論説文に対して苦手意識を感じるのは、往々にしてその文章の背景となっている知識を欠いていることによります。そこで本科目では、様々な文章を読み、その背景についての解説を担当教員がおこなうことで、現代社会でいま何が問題になっているかをみなさんに紹介していく羅針盤の役割を果たすことを副次的な目標とします。
授業方法：	毎回の授業で配布される課題文を読み、時間内にそれを理解することを目標にしますので、基本的に宿題はありません。しかし、疑問に思ったことを積極的に質問するなど授業に対して好奇心を持った参加が求められます。
履修の留意点：	教科書・参考書は特に指定しませんが、以下に挙げるように大学生向けの良質な読書ガイドが多数ありますので、これらを手に取り自分が興味を持つ本を見つけて実際に読んでみることを強く推奨します。 広島大学総合科学部101冊の本プロジェクト編、『大学新生に薦める101冊の本』、岩波書店、2005年 『東大教師が新生にすすめる本』、文春新書、2004年 佐高信、『現代を読む 100冊のノンフィクション』、岩波新書、1992年 新書マップ・プレス編、『新書マップ』、日経BP社、2004年
目標と評価：	みなさんの最終目標は論理的な文章を「批判的」に読むことができるようになることです。それに向けた段階的な課題が授業中に課題されますので、その達成度を総合的に評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「アカデミック・リーディング」（担当者：小菅 成一）の履修の手引き

科目名：	アカデミック・リーディング
担当者：	小菅 成一
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	これから大学で授業を受けていくための全ての基礎となるのが「読解力」です。そして卒業後どのような仕事に就くことになろうともこのスキルは欠かせません。読解力とは文章を読んで、その意味・内容を正確に理解する力のことで、この授業では数多くの論理的な文章に触れることを通じて、論理的で説得力のある文章の構成について習熟することを目標とします。 多くの論理的な文章は、仮説提起や問題設定を通じて「主題」を読者に明示し、その主題に関するさまざまな「論証」を行って最終的に作者の言いたい「結論」を述べるというスタイルが一般的です。こう書くとは何か難しそうですが、逆に言うスタイルが決まっているために慣れてしまえば小説などに比べて理解することは難しくありません。 高校までの論説文に対して苦手意識を感じるのは、往々にしてその文章の背景となっている知識を欠いていることによります。そこで本科目では、様々な文章を読み、その背景についての解説を担当教員がおこなうことで、現代社会でいま何が問題になっているかをみなさんに紹介していく羅針盤の役割を果たすことを副次的な目標とします。
授業方法：	毎回の授業で配布される課題文を読み、時間内にそれを理解することを目標としますので、基本的に宿題はありません。しかし、疑問に思ったことを積極的に質問するなど授業に対して好奇心を持った参加が求められます。
履修の留意点：	教科書・参考書は特に指定しませんが、以下に挙げるように大学生向けの良質な読書ガイドが多数ありますので、これらを手に取り自分が興味を持つ本を見つけて実際に読んでみることを強く推奨します。 広島大学総合科学部101冊の本プロジェクト編、『大学新入生に薦める101冊の本』、岩波書店、2005年 『東大教師が新入生にすすめる本』、文春新書、2004年 佐高信、『現代を読む 100冊のノンフィクション』、岩波新書、1992年 新書マップ・プレス編、『新書マップ』、日経BP社、2004年
目標と評価：	みなさんの最終目標は論理的文章を「批判的」に読むことができるようになることです。それに向けた段階的な課題が授業中に課題されますので、その達成度を総合的に評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「アカデミック・リーディング」(担当者: 田尻 慎太郎) の履修の手引き

科目名:	アカデミック・リーディング
担当者:	田尻 慎太郎
設置学期:	春
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	これから大学で授業を受けていくための全ての基礎となるのが「読解力」です。そして卒業後どのような仕事に就くことになろうともこのスキルは欠かせません。読解力とは文章を読んで、その意味・内容を正確に理解する力のことで、この授業では数多くの論理的な文章に触れることを通じて、論理的で説得力のある文章の構成について習熟することを目標とします。 多くの論理的文章は、仮説提起や問題設定を通じて「主題」を読者に明示し、その主題に関するさまざまな「論証」を行って最終的に作者の言いたい「結論」を述べるというスタイルが一般的です。こう書くとは何か難しそうですが、逆に言うスタイルが決まっているために慣れてしまえば小説などに比べて理解することは難しくありません。 高校までの論説文に対して苦手意識を感じるのは、往々にしてその文章の背景となっている知識を欠いていることによります。そこで本科目では、様々な文章を読み、その背景についての解説を担当教員がおこなうことで、現代社会でいま何が問題になっているかをみなさんに紹介していく羅針盤の役割を果たすことを副次的な目標とします。
授業方法:	毎回の授業で配布される課題文を読み、時間内にそれを理解することを目標にしますので、基本的に宿題はありません。しかし、疑問に思ったことを積極的に質問するなど授業に対して好奇心を持った参加が求められます。
履修の留意点:	授業中の課題とその提出に学ナビを使いますので、各自ノートパソコンを持参してください。 教科書・参考書は特に指定しませんが、以下に挙げるように大学生向けの良質な読書ガイドが多数ありますので、これらを手に取り自分が興味を持つ本を見つけて実際に読んでみることを強く推奨します。 広島大学総合科学部101冊の本プロジェクト編、『大学新入生に薦める101冊の本』, 岩波書店, 2005年 『東大教師が新入生にすすめる本』, 文春新書, 2004年 佐高信、『現代を読む 100冊のノンフィクション』, 岩波新書, 1992年 新書マップ・プレス編、『新書マップ』, 日経BP社, 2004年
目標と評価:	みなさんの最終目標は論理的文章を「批判的」に読むことができるようになることです。それに向けた段階的な課題が授業中に課題されますので、その達成度を総合的に評価します。
教科書:	
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「アカデミック・リーディング」（担当者：田尻 慎太郎）の履修の手引き

科目名：	アカデミック・リーディング
担当者：	田尻 慎太郎
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	これから大学で授業を受けていくための全ての基礎となるのが「読解力」です。そして卒業後どのような仕事に就くことになろうともこのスキルは欠かせません。読解力とは文章を読んで、その意味・内容を正確に理解する力のことで、この授業では数多くの論理的な文章に触れることを通じて、論理的で説得力のある文章の構成について習熟することを目標とします。 多くの論理的な文章は、仮説提起や問題設定を通じて「主題」を読者に明示し、その主題に関するさまざまな「論証」を行って最終的に作者の言いたい「結論」を述べるというスタイルが一般的です。こう書くとは何か難しそうですが、逆に言うスタイルが決まっているために慣れてしまえば小説などに比べて理解することは難しくありません。 高校までの論説文に対して苦手意識を感じるのは、往々にしてその文章の背景となっている知識を欠いていることによります。そこで本科目では、様々な文章を読み、その背景についての解説を担当教員がおこなうことで、現代社会でいま何が問題になっているかをみなさんに紹介していく羅針盤の役割を果たすことを副次的な目標とします。
授業方法：	毎回の授業で配布される課題文を読み、時間内にそれを理解することを目標にしますので、基本的に宿題はありません。しかし、疑問に思ったことを積極的に質問するなど授業に対して好奇心を持った参加が求められます。
履修の留意点：	授業中の課題とその提出に学ナビを使いますので、各自ノートパソコンを持参してください。 教科書・参考書は特に指定しませんが、以下に挙げるように大学生向けの良質な読書ガイドが多数ありますので、これらを手に取り自分が興味を持つ本を見つけて実際に読んでみることを強く推奨します。 広島大学総合科学部101冊の本プロジェクト編、『大学新入生に薦める101冊の本』、岩波書店、2005年 『東大教師が新入生にすすめる本』、文春新書、2004年 佐高信、『現代を読む 100冊のノンフィクション』、岩波新書、1992年 新書マップ・プレス編、『新書マップ』、日経BP社、2004年
目標と評価：	みなさんの最終目標は論理的な文章を「批判的」に読むことができるようになることです。それに向けた段階的な課題が授業中に課題されますので、その達成度を総合的に評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「アカデミック・リーディング」(担当者: 田尻 慎太郎) の履修の手引き

科目名:	アカデミック・リーディング
担当者:	田尻 慎太郎
設置学期:	春
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	これから大学で授業を受けていくための全ての基礎となるのが「読解力」です。そして卒業後どのような仕事に就くことになろうともこのスキルは欠かせません。読解力とは文章を読んで、その意味・内容を正確に理解する力のことで、この授業では数多くの論理的な文章に触れることを通じて、論理的で説得力のある文章の構成について習熟することを目標とします。 多くの論理的文章は、仮説提起や問題設定を通じて「主題」を読者に明示し、その主題に関するさまざまな「論証」を行って最終的に作者の言いたい「結論」を述べるというスタイルが一般的です。こう書くとは何か難しそうですが、逆に言うスタイルが決まっているために慣れてしまえば小説などに比べて理解することは難しくありません。 高校までの論説文に対して苦手意識を感じるのは、往々にしてその文章の背景となっている知識を欠いていることによります。そこで本科目では、様々な文章を読み、その背景についての解説を担当教員がおこなうことで、現代社会でいま何が問題になっているかをみなさんに紹介していく羅針盤の役割を果たすことを副次的な目標とします。
授業方法:	毎回の授業で配布される課題文を読み、時間内にそれを理解することを目標にしますので、基本的に宿題はありません。しかし、疑問に思ったことを積極的に質問するなど授業に対して好奇心を持った参加が求められます。
履修の留意点:	授業中の課題とその提出に学ナビを使いますので、各自ノートパソコンを持参してください。 教科書・参考書は特に指定しませんが、以下に挙げるように大学生向けの良質な読書ガイドが多数ありますので、これらを手に取り自分が興味を持つ本を見つけて実際に読んでみることを強く推奨します。 広島大学総合科学部101冊の本プロジェクト編、『大学新入生に薦める101冊の本』、岩波書店、2005年 『東大教師が新入生にすすめる本』、文春新書、2004年 佐高信、『現代を読む 100冊のノンフィクション』、岩波新書、1992年 新書マップ・プレス編、『新書マップ』、日経BP社、2004年
目標と評価:	みなさんの最終目標は論理的な文章を「批判的に」読むことができるようになることです。それに向けた段階的な課題が授業中に課題されますので、その達成度を総合的に評価します。
教科書:	
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「アカデミック・ライティング」（担当者：小菅 成一）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「アカデミック・ライティング」（担当者：小菅 成一）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「アカデミック・ライティング」（担当者：小菅 成一）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「アカデミック・ライティング」 (担当者：田尻 慎太郎) の履修の手引き

科目名：	アカデミック・ライティング
担当者：	田尻 慎太郎
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>以後の学習において必要となるレポート・論文の書き方を身につける。論理的文章を書くという意味では、本質的にレポートと論文に違いはない。どちらも自ら問いを立て、それに対する明確な答えを主張し、その主張を裏付けるための事実・理論的根拠を提示して主張を論証するものである。こう書くとはテンプレカンパニに聞こえるかもしれないが、授業では履修者全員がレポート・論文を書くのは初めてのものとして、論文とは何か、文章を書くための準備作業、アウトライン、文章の型、論証、分かりやすい文章の書き方と段階を踏んで進めていくので心配しないで欲しい。また適宜、レポート作成に役立つMS Wordの機能や、インターネット上の情報を紹介する。</p>
授業方法：	<p>以下の教科書に沿って進めていく。教科書の内容を、講義の前半では授業内に、後半では持ち帰りの課題として提出する。したがって教科書は全員購入すること。 戸田山和久『論文の教室 レポートから卒論まで』NHKブックス(954)、日本放送協会、2002</p> <p>第1回 インTRODクシヨン 第2回 課題としてのレポート・論文 第3回 論文とは何か 第4回 論文を書くための準備 第5回 論文のフォーマット 第6回 アウトライン 第7回 論証 第8回 段落 第9回 分かりやすい文章 第10回 論文のスタイル 第11回 期末レポートのための資料収集 第12回 期末レポートのアウトライン 第13回 期末レポートの講評</p>
履修の留意点：	<p>授業中の作業に使用するので各自ノートパソコンを持参してください。また出欠管理にカードリーダーを使いますので、必ず学生証を持参すること。遅刻した学生はあらかじめ学生証を手を持った状態で入室すること。</p>
目標と評価：	<p>学期末に各自、個人個人の問題意識に基づいたレポートを書いてもらいます。 評価は毎回の課題(35%)、期末レポート(35%)、出席(30%)</p>
教科書：	『論文の教室 レポートから卒論まで』NHKブックス(954) 戸田山和久 日本放送協会 2002
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「アカデミック・ライティング」 (担当者：田尻 慎太郎) の履修の手引き

科目名：	アカデミック・ライティング
担当者：	田尻 慎太郎
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>以後の学習において必要となるレポート・論文の書き方を身につける。論理的文章を書くという意味では、本質的にレポートと論文に違いはない。どちらも自ら問いを立て、それに対する明確な答えを主張し、その主張を裏付けるための事実・理論的根拠を提示して主張を論証するものである。こう書くとはテンプレカンパニに聞こえるかもしれないが、授業では履修者全員がレポート・論文を書くのは初めてのものとして、論文とは何か、文章を書くための準備作業、アウトライン、文章の型、論証、分かりやすい文章の書き方と段階を踏んで進めていくので心配しないで欲しい。また適宜、レポート作成に役立つMS Wordの機能や、インターネット上の情報を紹介する。</p>
授業方法：	<p>以下の教科書に沿って進めていく。教科書の内容を、講義の前半では授業内に、後半では持ち帰りの課題として提出する。したがって教科書は全員購入すること。 戸田山和久『論文の教室 レポートから卒論まで』NHKブックス(954)、日本放送協会、2002</p> <p>第1回 インTRODクシヨン 第2回 課題としてのレポート・論文 第3回 論文とは何か 第4回 論文を書くための準備 第5回 論文のフォーマット 第6回 アウトライン 第7回 論証 第8回 段落 第9回 分かりやすい文章 第10回 論文のスタイル 第11回 期末レポートのための資料収集 第12回 期末レポートのアウトライン 第13回 期末レポートの講評</p>
履修の留意点：	<p>授業中の作業に使用するので各自ノートパソコンを持参してください。また出欠管理にカードリーダーを使いますので、必ず学生証を持参すること。遅刻した学生はあらかじめ学生証を手を持った状態で入室すること。</p>
目標と評価：	<p>学期末に各自、個人個人の問題意識に基づいたレポートを書いてもらいます。 評価は毎回の課題 (35%)、期末レポート (35%)、出席 (30%)</p>
教科書：	『論文の教室 レポートから卒論まで』NHKブックス(954) 戸田山和久 日本放送協会 2002
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「アカデミック・ライティング」 (担当者：田尻 慎太郎) の履修の手引き

科目名：	アカデミック・ライティング
担当者：	田尻 慎太郎
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>以後の学習において必要となるレポート・論文の書き方を身につける。論理的文章を書くという意味では、本質的にレポートと論文に違いはない。どちらも自ら問いを立て、それに対する明確な答えを主張し、その主張を裏付けるための事実・理論的根拠を提示して主張を論証するものである。こう書くとはテンプレカンパニに聞こえるかもしれないが、授業では履修者全員がレポート・論文を書くのは初めてのものとして、論文とは何か、文章を書くための準備作業、アウトライン、文章の型、論証、分かりやすい文章の書き方と段階を踏んで進めていくので心配しないで欲しい。また適宜、レポート作成に役立つMS Wordの機能や、インターネット上の情報を紹介する。</p>
授業方法：	<p>以下の教科書に沿って進めていく。教科書の内容を、講義の前半では授業内に、後半では持ち帰りの課題として提出する。したがって教科書は全員購入すること。 戸田山和久『論文の教室 レポートから卒論まで』NHKブックス(954)、日本放送協会、2002</p> <p>第1回 インTRODクシヨン 第2回 課題としてのレポート・論文 第3回 論文とは何か 第4回 論文を書くための準備 第5回 論文のフォーマット 第6回 アウトライン 第7回 論証 第8回 段落 第9回 分かりやすい文章 第10回 論文のスタイル 第11回 期末レポートのための資料収集 第12回 期末レポートのアウトライン 第13回 期末レポートの講評</p>
履修の留意点：	<p>授業中の作業に使用するので各自ノートパソコンを持参してください。また出欠管理にカードリーダーを使いますので、必ず学生証を持参すること。遅刻した学生はあらかじめ学生証を手を持った状態で入室すること。</p>
目標と評価：	<p>学期末に各自、個人個人の問題意識に基づいたレポートを書いてもらいます。 評価は毎回の課題 (35%)、期末レポート (35%)、出席 (30%)</p>
教科書：	『論文の教室 レポートから卒論まで』NHKブックス(954) 戸田山和久 日本放送協会 2002
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネスキャリア基礎Ⅰ」（担当者：久保 真）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「ビジネスキャリア基礎Ⅰ（国語）」（担当者：山本 久美子）の履修の手引き

科目名：	ビジネスキャリア基礎Ⅰ（国語）
担当者：	山本 久美子
設置学期：	春学期
開講回数：	全5日
週コマ数：	集中授業（日程ページ）
単位数：	1単位
概要：	この授業では日本語力を重点的に訓練していきます。内容としては、論文を読み・書く上での重要語句の意味習得、課題文の読解、意見論述などを予定しています。特に重点的に「書く」力を鍛えていき、200字程度の論述からはじめ、最終的には60分で800字の論述ができるようにしていきたいと考えています。目的としています。
授業方法：	講義・演習・小テストを組み合わせで行います。
履修の留意点：	初日には【重要語句の意味習得】を行うので、出席者は必ず国語辞書を持参して下さい。電子辞書でも構いません。
目標と評価：	大学の学習に必要とされる基礎学力を身につけることが目標です。成績評価は、第一に出席、第二に授業内でのパフォーマンス、第三に達成度にもとづいて下します。
教科書：	特にありません。
参考書：	特にありません。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネスキャリア基礎Ⅱ」（担当者：久保 真）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「ビジネスキャリア基礎Ⅱ（数学）」（担当者：川本 真一）の履修の手引き

科目名：	ビジネスキャリア基礎Ⅱ（数学）
担当者：	川本 真一
設置学期：	春学期
開講回数：	全5日
週コマ数：	集中授業（日程ページ）
単位数：	1単位
概要：	この授業では経済学や会計学の修得に必要とされる数学力を重点的に訓練していきます。内容としては、負の数の加減乗除、分数・小数・百分率の加減乗除、一次関数とグラフ、連立一次方程式などを予定しています。具体的な数値を使った計算力だけでなく、より一般的な事例を理解する力を培い、経済学や会計学で使われる数式がどのような意味をもつか直感的に理解できるようにしていきたいと考えています。
授業方法：	講義・演習・小テストを組み合わせで行います。
履修の留意点：	特にありません。
目標と評価：	大学の学習に必要とされる基礎学力を身につけることが目標です。成績評価は、第一に出席、第二に授業内でのパフォーマンス、第三に達成度にもとづいて下します。
教科書：	特にありません。
参考書：	特にありません。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ボディ&フィットネス」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「ボディ&フィットネス」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「ボディ&フィットネス」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「ボディ&フィットネス」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「ボディ&フィットネス」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「ボディ&フィットネス」（担当者：俵 尚申）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「ボディ&フィットネス」（担当者：俵 尚申）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「ボディ&フィットネス」（担当者：俵 尚申）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「ボディ&フィットネス」（担当者：俵 尚申）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「ボディ&フィットネス」（担当者：俵 尚申）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「ボディ&フィットネス（再履修）」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「ボディ&フィットネス（再履修）」（担当者：俵 尚申）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「総合コミュニケーション演習」（担当者：宮本 勉）の履修の手引き

科目名：	総合コミュニケーション演習
担当者：	宮本 勉（自己紹介ページ）
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということを、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマは、講義ノートの取り方・資料の集め方・テキストの読み方・レポートの書き方など。秋学期に取り扱うテーマは、パブリックスピーキングのやり方・プレゼンテーションのやり方・ディベートのやり方など。なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「総合コミュニケーション演習」（担当者：石川 直弘）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「総合コミュニケーション演習」（担当者：森 康夫）の履修の手引き

科目名：	総合コミュニケーション演習
担当者：	森 康夫（自己紹介ページ）
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>ビジネスコミュニケーション学科では「社会の扉を開く3つの柱」のひとつとして1年次にこの科目を設置しており、嘉悦ならではの基幹科目の一つです。この科目では大学で学ぶための基本的な『学習スキル』と、ビジネスシーンにおける基本的な『コミュニケーション能力』を学生と教員の双方向の動きの中でアクティブに学びます。具体的には春学期には『学習スキル』の習得を目指しますが、最初に、「仲間を知ろう」ということで自己紹介やインタビューゲームなどを行い、ゼミ生同士の情報交換を行います。その後はコンピュータを用いた情報検索能力の育成、レポートライティングのスキル、文章の読解方法と表現方法のスキルを学び、ビジネスシーンにおける基礎的なコミュニケーションスキルを学びます。秋学期にはパソコンを用いたプレゼンテーション、ロールプレイングによる模擬面接などを行い、『コミュニケーション能力』向上のためのスキルを中心に勉強し、各人の持つ自己表現能力を向上させるとともに、より高度なレベルにまで発展させてゆきます。</p>
授業方法：	一方通行の講義だけでなく、皆が参加し、体験を通して学べる授業にしたい。難しい授業ではなく、楽しみながら学べる授業を目指したいと思っています。
履修の留意点：	<p>『コミュニケーション能力』を学生と教員の双方向の動きの中でアクティブに学ぶということですから、積極的に発言して欲しいし、いろいろなアイデアも出して欲しい。 *1番の留意点は「授業を休まないように頑張ってきて欲しい」と言うことです。</p>
目標と評価：	<p>[目標] 1、自分で考え、行動できるようになること。 2、筋道を立てて、論理的に考えられるようになること。 [評価] 1、1年間どれだけ自分を鍛えられたか。一生懸命にできたか。 2、それぞれの目標に達したかどうか。 *上記の点を考慮し、授業態度や提出物、発表などにより評価します。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「総合コミュニケーション演習」（担当者：古閑 博美）の履修の手引き

科目名：	総合コミュニケーション演習
担当者：	古閑 博美（自己紹介ページ）
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>ビジネスコミュニケーション学科では「社会の扉を開く3つの柱」のひとつとして1年次にこの科目を設置しており、嘉悦ならではの基幹科目の一つです。この科目では大学で学ぶための基本的な「学習スキル」と、ビジネスシーンにおける基本的な「コミュニケーション能力」を、学生と教員の双方向の動きのなかでアクティブに学びます。</p> <p>春学期に、「学習スキル」の習得を目指します。最初に、「仲間を知ろう」ということで自己紹介やインタビュゲームなどを行い、ゼミ生同士の情報交換を行います。その後はコンピュータを用いた情報検索能力の育成、レポートライティングのスキル、文章の読解方法と表現方法のスキルを学び、ビジネスシーンにおける基礎的なコミュニケーションスキルを学びます。</p> <p>秋学期にはパソコンを用いたプレゼンテーション、ロールプレイングによる模擬面接などを行い、「コミュニケーション能力」向上のためのスキルを中心に勉強し、各人の持つ自己表現能力を向上させるとともに、より高度なレベルにまで発展させてゆきます。</p>
授業方法：	<p>講義テキストを使用し、新聞記事、視聴覚教材などを活用する。</p> <p>講義と演習。グループワークを実施する。</p> <p>春学期と秋学期各一回ずつ、全一年生を対象とした特別講座を実施するほか、ゲストを招き特別授業を実施する（予定）。</p>
履修の留意点：	<p>コミュニケーション能力ならびに学習能力の開発・向上の観点から、「話す（発表する）、書く（打つ）、聞く（質問する）、読む（ニュースに関心を持つ）」授業を展開する。</p> <p>学生は、積極的に授業に参加すること。</p> <p>毎回、授業ノートを作成し、各学期ごとに提出する。指示したレポートを提出すること（提出期限厳守）。</p>
目標と評価：	<p>目標：学習のためのスキルを習得し、コミュニケーション能力の向上を目指す。社会性を身につける。</p> <p>評価：授業（態度・参加度）、授業ノート、レポート（内容・提出期限厳守）などを総合して評価する。</p>
教科書：	『FYS講座 大学で学ぼう・大学を学ぼう』 古閑博美編著 学文社 2005年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「総合コミュニケーション演習」（担当者：松嶋 哲雄）の履修の手引き

科目名：	総合コミュニケーション演習
担当者：	松嶋 哲雄（自己紹介ページ）
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>ビジネスコミュニケーション学科では「社会の扉を開く3つの柱」の1つに基幹科目を設置しております。この科目では大学で学ぶ基本的な「学習スキル」、ビジネスの現場での基本的「コミュニケーション能力」学生・教員の双方向流れの中で積極的に修得していきます。</p> <p>春学期で「学習スキル」の育成を目指し、初回に「仲間を知ろう」というテーマで自己紹介やインタビューゲームでゼミ学生同士の情報交換をします。以降コンピュータで情報検索技能の育成、レポートライティングや文章読解方法、表現方法の技能を学び、ビジネス現場での基礎的コミュニケーション能力を身につけていきます。秋学期はパソコンでプレゼンテーション、ロールプレイングにより模擬面接を行い「意思伝達能力」の向上を図り、各人の自己表現能力をアップさせるとともに、より高度なレベルまで発展させていきます。</p>
授業方法：	講義形式の説明、グループ討論、グループ作業、個人・グループによる調査研究、口頭や文書による発表、およびネット発表など
履修の留意点：	積極的な授業への取り組み、 欠席しない、 データの分析や整理、及び調べることへの楽しさの発見 真似でなく批判的・創造的な視点の把握
目標と評価：	授業態度や提出物、さらに発表内容、出席率などを考慮して総合的に評価
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「総合コミュニケーション演習」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	総合コミュニケーション演習
担当者：	星 ひろみ（自己紹介ページ）
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>ビジネスコミュニケーション学科では「社会の扉を開く3つの柱」のひとつとして1年次にこの科目を設置しており、嘉悦ならではの基幹科目の一つです。この科目では大学で学ぶための基本的な『学習スキル』と、ビジネスシーンにおける基本的な『コミュニケーション能力』を学生と教員の双方向の動きの中でアクティブに学びます。具体的には春学期には『学習スキル』の習得を目指しますが、最初に、「仲間を知ろう」ということで自己紹介やインタビューゲームなどを行い、ゼミ生同士の情報交換を行います。その後はコンピュータを用いた情報検索能力の育成、レポートライティングのスキル、文章の読解方法と表現方法のスキルを学び、ビジネスシーンにおける基礎的なコミュニケーションスキルを学びます。秋学期にはパソコンを用いたプレゼンテーション、ロールプレイングによる模擬面接などを行い、『コミュニケーション能力』向上のためのスキルを中心に勉強し、各人の持つ自己表現能力を向上させるとともに、より高度なレベルにまで発展させてゆきます。</p>
授業方法：	<p>① コミュニケーション能力を上げるためには、まず「話す能力と聞く能力」がとても重要です。はじめは簡単な自己紹介ものから、後半には、発表・報告が出来る力をつけていきます。</p> <p>② レポートの書き方・文章の表現方法・資料の集め方など菜満でいきます・</p> <p>② ビジネスシーンにおける基礎的なコミュニケーションスキルの習得やパソコンを使ったプレゼンテーションまで発展できるよう目指します。</p>
履修の留意点：	<p>・ゼミ生同士、常に自分から発信すること、それを受け取る事を重要とし、一方通行にならないように努めて下さい。</p> <p>また、話すのが苦手という気持ちがあっても、少しでも向上できるよう、やらないのではなく、やって失敗するつもりで授業に参加することが大切です。</p> <p>・コミュニケーションとるのに大切な、「笑顔」・「挨拶」・「約束を守る」を忘れないように。</p>
目標と評価：	<p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1年間で自分の意見を時自分の言葉で伝えられるようになること。 2. 自分のことだけになってしまうのではなく、周囲に目が行き届くような心の広さ・余裕をもった女性になってもらいたい。（気がつく・気配り） <p>【評価】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 失敗を恐れず積極的に挑戦する姿勢 2. 翌週への課題や提出物の期日など、約束を厳守 3. 出席日数（参加しなくては評価できない授業形態なので） 4. あらかじめ欠席することがわかっているときは連絡を入れるといった対処など
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「総合コミュニケーション演習」（担当者：俵 尚申）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「総合コミュニケーション演習」（担当者：木村 剛）の履修の手引き

科目名：	総合コミュニケーション演習
担当者：	木村 剛
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	春学期では「学習スキル」の習得を目指し、まず「仲間を知ろう」というテーマで他己紹介やインタビュゲームを行い、ゼミ生同士の情報を交換します。その後の授業ではコンピュータを使っての情報検索、レポートライティングや文章読解法、表現方法などを学び、ビジネス現場での基本的コミュニケーション能力の育成を目指します。 秋学期ではプレゼンテーションやロールプレイングによる模擬面接などを行い、「意思伝達能力」の向上を図り、受講生の自己表現能力の習得を目指します。 1年を通して、コミュニケーションできる能力を高めていきましょう。
授業方法：	グループによる作業や討論、個人・グループによる（共同）研究、口頭発表、教員による講義などにより授業を展開していきます。
履修の留意点：	毎回の出席が必須となります。積極的に授業に取り組むということを基本としてゼミ生同士が協力し信頼しあってゆく姿勢を大切にしてください。
目標と評価：	出席を重視しつつ、提出物、口頭発表、授業への取り組む姿勢などを総合的に判断します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「総合コミュニケーション演習」（担当者：安富 成良）の履修の手引き

科目名：	総合コミュニケーション演習
担当者：	安富 成良（自己紹介ページ）
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	ビジネスコミュニケーション学科では「社会の扉を開く3つの柱」の1つの基幹科目としてこの科目を設置しています。この科目では大学で学ぶための基本的な『学習スキル』と、ビジネスシーンにおける基本的な『コミュニケーション能力』を学生と教員の双方向の動きの中でアクティブに学びます。春学期では「学習スキル」の習得を目指し、初回に「仲間を知ろう」というテーマで他己紹介やインタビューゲームを行い、ゼミ生同士の情報を交換します。その後の授業ではコンピュータを使っての情報検索、レポートライティングや文章読解法、表現方法などを学び、ビジネス現場での基本的コミュニケーション能力の育成を目指します。秋学期ではプレゼンテーションやロールプレイングによる模擬面接などを行い、「意思伝達能力」の向上を図り、受講生の自己表現能力の習得を目指します。
授業方法：	グループによる作業や討論、個人・グループによる（共同）研究、口頭発表、教員による講義などにより授業を展開してゆきます。
履修の留意点：	まずは欠席をしないこと、積極的に授業に取り組むということを基本としてゼミ生同士が協力し信頼しあってゆく姿勢を大切にしてください。
目標と評価：	出席重視で提出物、口頭発表、授業への取り組む姿勢などを総合的に判断します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「総合コミュニケーション演習」（担当者：大澤 薫）の履修の手引き

科目名：	総合コミュニケーション演習
担当者：	大澤 薫
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>ビジネスコミュニケーション学科では、社会の扉を開く3つの柱の一つとして1年次にこの科目を設置しています。嘉悦ならではの基幹科目の一つです。この科目では大学で学ぶための基本的な『学習スキル』と、ビジネスシーンにおける基本的な『コミュニケーション能力』を学生と教員の双方向の動きの中で学んでいきます。春学期には『学習スキル』の習得を目指しますが、具体的には最初にまず「仲間を知ろう」ということで、自己紹介やインタビューゲーム等でゼミ生同士の情報交換を行います。その上で、レポートの書き方、文章の読解方法と表現方法等について学び、ビジネスシーンにおける基礎的なコミュニケーションスキルの習得へと進みます。あわせてコンピュータによる情報検索の能力育成を図ります。秋学期には、パソコンを用いたプレゼンテーション、ロールプレイングによる模擬面接などを行い、『コミュニケーション能力』向上のためのスキルを中心に勉強し、各人の持つ自己表現の力をより高いレベルへと伸ばして行きます。</p>
授業方法：	<p>① まず初めに「コミュニケーション」という言葉の持つ意味を説明します。それからコミュニケーションの手段、方法、効用等について全員で考えます。その上でゼミ生間に親密な交流が生まれるように自己紹介やインタビューゲーム等を行います。</p> <p>② レポートの書き方、文章の読解方法と表現方法、口頭による表現方法等については、初めに講義の形で説明をします。その後で、課題文について全員がそれぞれの解釈を発表したり、またテーマを決めて文章を書いたり、口頭で発表するなどの方法を取り、全員で討論し意見交換を行います。</p> <p>③ ①、②を踏まえて、『ビジネスシーンにおける基礎的なコミュニケーションスキル』を学び、さらに幅広く『コミュニケーション能力』の向上へと発展させて行きます。</p> <p>④ 春学期3回・秋学期3回、レポートの提出を求めます。課題レポート、調査報告等。</p>
履修の留意点：	<p>① 授業では口頭での意見の発表が多く求められます。「恥ずかしい」「間違っていたら・・・」などという気後れや尻込みを捨てて、積極的に発言をする姿勢を持って下さい。</p> <p>② 新聞、TVニュース等で世界の動きや社会の出来事を知り、自分の考えをまとめられるように心がけてください。</p> <p>③ 教科書は使用しません。参考になる書籍は授業中に書名を挙げて内容を説明します。</p>
目標と評価：	<p>目標：授業で得た知識、書物から得た知識、またさまざまな情報等を参考に自分自身の考えをしっかりとまとめ、自分の言葉でそれを正確に伝えられようになること。</p> <p>評価：授業中の発表内容、表現方法、提出レポート等を総合して評価します。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「総合コミュニケーション演習」（担当者：藤井 秀子）の履修の手引き

科目名：	総合コミュニケーション演習
担当者：	藤井 秀子（自己紹介ページ）
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>ビジネスコミュニケーション学科では「社会の扉を開く3つの柱」のひとつとして1年次にこの科目を設置しており、嘉悦ならではの基幹科目のひとつです。この科目では大学で学ぶための基本的な『学習スキル』と、ビジネスシーンにおける基本的な『コミュニケーション能力』を学生と教員の双方向の動きの中で、アクティブに学びます。</p> <p>具体的には、春学期には『学習スキル』の習得を目指しますが、最初に、「仲間を知ろう」ということで自己紹介やインタビューゲームなどを行い、ゼミ生同士の情報交換を行います。その後はコンピュータを用いた情報検索能力の育成、レポートライティングのスキル、文章の読解方法と表現方法のスキルを学び、ビジネスシーンにおける基礎的なコミュニケーションスキルを学びます。</p> <p>秋学期にはパソコンを用いたプレゼンテーション、ロールプレイングによる模擬面接などを行い、『コミュニケーション能力』向上のためのスキルを中心に勉強し、各人の持つ自己表現能力を向上させるとともに、より高度なレベルにまで発展させてゆきます。</p>
授業方法：	<p>1年間を通じて「話す能力・聞く能力」を習得するために、皆の前で話す機会を多くする授業方法をとります。</p> <p>春学期は、はじめに自己紹介をいろいろな方法で行い、印象的な話し方やマナーを学びます。次に学外の方のお話を聞いたり、学内の方々へのインタビューを行ってさらに話し方を磨きます。その他に基本的な学習スキル習得のために、時々新聞のコラムや随筆を読んだり、レポート作成の仕方も取り入れます。</p> <p>秋学期には、さらに話す能力向上のため、3分間スピーチや最近のニュースについての解説と感想の発表などを行います。後半、対話形式のコミュニケーションとして、ロールプレイングによる模擬面接や接客業務や営業業務の話し方も学びます。</p>
履修の留意点：	<p>「人前で話す」ということに慣れるために、恥ずかしがらず積極的に話す心構えを持ってほしい。それ以前に「話す内容」がなくては話せませんので、いつも本や新聞を読む習慣も持つよう努力していただきたいと思います。</p>
目標と評価：	<p>1、目標—1年の最後には、きちんと自分の思うことが自分の言葉で話せる人間になること。自分の周りにあるさまざまなことから学び取る意欲のある人間になること。</p> <p>2、評価—以下の3点からの総合評価とする。</p> <p>①発表やロールプレイングの内容と態度 ②レポートや感想文などの提出物 ③出席日数</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「キャリアデザインⅠ」（担当者：石川 直弘）の履修の手引き

科目名：	キャリアデザインⅠ
担当者：	石川 直弘（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この講座は、「超氷河期」といわれる現今の就職状況で、企業から「求められる」人材を育成することを目指している。 早い時期から、無理なく就職活動をスタートさせることができるように、さまざまな角度から検討されたプログラムが組まれている。 具体的には、各企業の経営者・人事担当者を講師として招いて「働くとは?」「これからの日本と君たちの将来」「学生時代に身に付けてほしいこと」当のテーマで講演を行う。 その後には、「職業適性と自分の望む仕事」「資格」についての理解を深めるための講座も用意されている。 さらに、人事・教育・キャリア開発支援の専門家を招いて、わかりやすく、具体的にできめこまやかな指導を行っていく。
授業方法：	講演、シンポジウム、実習
履修の留意点：	毎回出席し、積極的に取り組む姿勢が求められる。
目標と評価：	自主的に、キャリアデザインを考えそれを実現するために努力を傾ける。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「キャリアデザインⅡ」（担当者：石川 直弘）の履修の手引き

科目名：	キャリアデザインⅡ
担当者：	石川 直弘（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	就職試験の対策として、高校までに学んだ知識の拡充をはかる目的で行う。 内容は、時事問題、言語能力、数的処理を中心として、人文科学、自然科学、社会科学の各領域における基礎的な知識の十分な習得をめざす。
授業方法：	講義
履修の留意点：	毎回出席し、積極的に取り組む姿勢が求められる。
目標と評価：	自主的に、キャリアデザインを考え、それを実現するために努力を傾ける。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語コミュニケーションⅠ」（担当者：嘉悦 康太）の履修の手引き

科目名：	日本語コミュニケーションⅠ
担当者：	嘉悦 康太（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>日本語を母国語としている私たちは、ともすれば自由に日本語でコミュニケーションが取れていると思いがちですが、果たしてそういきれるでしょうか？たとえば友達同士、家族間ではあまり問題が生じてないかもしれませんが。では対教員ではどうでしょうか？異なるバックグラウンドを持つ大学からの同級生とはいかがでしょう？アルバイト等を通じて、対顧客間では？そして近い将来社会に出た際に、職場の同僚・上司または取引先などと、十全なコミュニケーションが図れると自信を持って言い切れる学生諸君は何人位いるのでしょうか。</p> <p>こうした問題意識のもと、本科目では日本語で基本的な文章を書くスキル、たとえば目上の人に対して宛てた個人的な手紙・eメールの書き方や、大学でのレポートの書き方、または社会に出てから企業等の職場で日常的にやり取りされる各種ビジネス文書の書き方等といった「書く」ことに関する一連のスキル向上を目指します。</p>
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	<p>特になし。</p> <p>■教科書について 現段階では未定です。追ってお知らせいたしますが、一学期を通して利用する教科書ではなく、毎回の授業計画の中で、参考書（の当該箇所）をアサイン（指定）することになります。</p>
目標と評価：	最終目標は「企画書」の作成です。この目標を段階的に達成していくために毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。（ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。）
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語コミュニケーションⅠ」（担当者：田尻 慎太郎）の履修の手引き

科目名：	日本語コミュニケーションⅠ
担当者：	田尻 慎太郎
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>日本語を母国語としている私たちは、ともすれば自由に日本語でコミュニケーションが取れていると思いがちですが、果たしてそういきれるでしょうか？たとえば友達同士、家族間ではあまり問題が生じてないかもしれませんが。では対教員ではどうでしょうか？異なるバックグラウンドを持つ大学からの同級生とはいかがでしょう？アルバイト等を通じて、対顧客間では？そして近い将来社会に出た際に、職場の同僚・上司または取引先などと、十全なコミュニケーションが図れると自信を持って言い切れる学生諸君は何人位いるのでしょうか。</p> <p>こうした問題意識のもと、本科目では日本語で基本的な文章を書くスキル、たとえば目上の人に対して宛てた個人的な手紙・eメールの書き方や、大学でのレポートの書き方、または社会に出てから企業等の職場で日常的にやり取りされる各種ビジネス文書の書き方等といった「書く」ことに関する一連のスキル向上を目指します。</p>
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	教科書・参考書は現段階では未定です。追ってお知らせいたしますが、一学期を通して利用する教科書ではなく、毎回の授業計画の中で、参考書（の当該箇所）をアサイン（指定）することになります。
目標と評価：	最終目標は「企画書」の作成です。この目標を段階的に達成していくために毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。（ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。）
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語コミュニケーションⅠ」（担当者：高根沢 紀子）の履修の手引き

科目名：	日本語コミュニケーションⅠ
担当者：	高根沢 紀子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	普段日本語を母語として使用している私たちは、当たり前日本語でコミュニケーションが取れると考えてしまいがちであるが、実際はだからこそ難しい問題が起こりやすいのが事実である。現代は、電子メールで簡単にコミュニケーションが取れる時代であるが、相手の見えないやり取りは文章力を問われることにもなる。現代はその場にあった多様な日本語表現能力が必要とされる時代でもあるのだ。コミュニケーションは情報を正しく伝達し相互理解が図られなくてはならない。正しく伝達するためには、相手の要求を理解する、読解力が必要不可欠であることはいまでもない。いかに上手に日本語を話せたとしても、求められている内容を読むことなしには、意味をなさないからである。この授業では、要求されている内容を読み、何を伝達すべきかを明確に表現することについて考えていく。
授業方法：	読むこと・書くことを中心に、具体的な文章を読み、課題を作成し問題点を明らかにする形で進めていく。また、日本語表現の基礎を確認しつつ、小論文・レポート、さらに一般的な文書（手紙・メールの文章）やビジネス文書など、多様な日本語表現でのコミュニケーションについてプリント学習を中心に授業を行う。
履修の留意点：	毎時、何らかの課題を提出してもらうので、欠席は大きく評価に影響する。
目標と評価：	基本的な日本語表現を学び、文章を的確に読み、論理的な日本語表現ができるようにする。定期試験に毎時の課題、授業態度を加味し評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語コミュニケーションⅡ」（担当者：倉田 安里）の履修の手引き

科目名：	日本語コミュニケーションⅡ
担当者：	倉田 安里（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	春学期に実施した「書く」というコミュニケーションから、秋学期は「話す」というコミュニケーションを勉強します。具体的な目標としては、実生活で人から好かれる、人に礼を失しない会話法を身につけるとともに、社会人になっていろいろな関係、いろいろな人物という状況におかれても、その場に適切な会話ができることが大変重要になってきますので、そのような、いかなる状況においてもあわてずに会話ができる知識を身につけることを目指します。また、社会に出てから、その使用頻度が非常に上がる「敬語」も重点的に学びます。
授業方法：	基本的に講義形式で行いません。
履修の留意点：	毎回異なった内容の授業を行ないますので、極力欠席しないように注意して下さい。また、自分から積極的に授業に参加することも重要です。
目標と評価：	先にも述べたように、社会人として適切な会話ができるようになることが最も重要な目標です。また、評価に関しては、毎回の授業における平常点、学期末に行なう定期試験の総合で評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語コミュニケーションⅡ」（担当者：倉田 安里）の履修の手引き

科目名：	日本語コミュニケーションⅡ
担当者：	倉田 安里（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	春学期に実施した「書く」というコミュニケーションから、秋学期は「話す」というコミュニケーションを勉強します。具体的な目標としては、実生活で人から好かれる、人に礼を失しない会話法を身につけるとともに、社会人になっていろいろな関係、いろいろな人物という状況におかれても、その場に適切な会話ができることが大変重要になってきますので、そのような、いかなる状況においてもあわてずに会話ができる知識を身につけることを目指します。また、社会に出てから、その使用頻度が非常に上がる「敬語」も重点的に学びます。
授業方法：	基本的に講義形式で行いません。
履修の留意点：	毎回異なった内容の授業を行ないますので、極力欠席しないように注意して下さい。また、自分から積極的に授業に参加することも重要です。
目標と評価：	先にも述べたように、社会人として適切な会話ができるようになることが最も重要な目標です。また、評価に関しては、毎回の授業における平常点、学期末に行なう定期試験の総合で評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語コミュニケーションⅡ」（担当者：高根沢 紀子）の履修の手引き

科目名：	日本語コミュニケーションⅡ
担当者：	高根沢 紀子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	普段日本語で話し、同世代の友人と話すことが多い学生時代においては、場面にあった表現を学ぶ機会は意外と少ないのではないだろうか。この授業では、日本語で話すことの難しさを知り、その場面にあったコミュニケーションを取ることを考えていく。他の言語と比較しても特別難しいとされている敬語については、日本人の特性・文化を背負っているものであることを理解し、難しいとあきらめてしまわず、自然な敬語表現を身につけたい。また、ビジネスの場面で使用される会話を中心に、円滑なコミュニケーションがとれるスキルを学んで貰う。
授業方法：	それぞれの場面での（たとえばビジネスでの電話対応の仕方など）、コミュニケーションのとり方を会話中心に学ぶ。その場面・立場にあった話し方を、具体的に場面を想定し、実際に会話して貰いながら、問題点を明らかにする形で進めていく。相手に伝わらない話し方とはどういうものなのか、どうすれば伝わる話し方になるのかなどの問題について、話し合いながら進めて行く。
履修の留意点：	積極的に授業に参加し、発言する態度を求める。毎時、小テストを行うので欠席は大きく評価に影響する。
目標と評価：	場面にあった会話での日本語の運用能力を身につける。 定期試験に毎時の小テスト、授業態度を加味し評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語コミュニケーションⅠ」（担当者：安富 成良）の履修の手引き

科目名：	英語コミュニケーションⅠ
担当者：	安富 成良（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この授業はコミュニケーションの有効な道具である英語の「読む」「書く」「聴く」「話す」の4技能を総合的に高めることを目標とし、高校までに学習した英語の基本的な文法を確認しながら、実際の場面、特に海外旅行で使える英語の習得を目指して行われます。文法事項の確認については、各文法項目のポイントのまとめと練習問題の学習を通して定着させます。また旅行英語の学習についてはオーディオ・テープを用いて、HearingとSpeakingの能力の向上を図り、旅行に必要な英語を毎回1場面（Unitを一つ）学習します。更にアメリカ人特有の英語の発音にも慣れる様に練習します。英語コミュニケーションの授業は1年間のうち春（秋）学期を日本人の英語教員が担当し、あとの半期の秋（春）学期がネイティブの英語教員が担当する、という授業形態をとっており日本人教員とネイティブの英語教員が連携して1年間の学習を通して英語力の向上を目指しています。
授業方法：	この授業では学生の発表を重視し、旅行英語の学習では二人ペアとなった会話練習や3分以上のミニスピーチも課します。 ・基本的な文法項目の確認については、プリント教材を使用して講義と練習問題（小テスト）を行い定着化を図ります。
履修の留意点：	特にありませんが、積極的な受講を望みます。
目標と評価：	<ul style="list-style-type: none"> ・目標としては就職試験（英語）で足切りにならないような英語力を身につけると共に、海外旅行である程度英語を話したり、英語を聞き取りが出来るようになることを目指します。 ・定期考査（50%）と平常点（10%）Reading Test（10%） * 『トラベル・イングリッシュ』のエッセイ読みのテストも平常点に加算。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語コミュニケーションⅠ」（担当者：松嶋 哲雄）の履修の手引き

科目名：	英語コミュニケーションⅠ
担当者：	松嶋 哲雄（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	英語を実際に使う場合に役立つ運用能力の修得を目標に、高校までの既習知識を復習・確認し、新たに発展した知識・技能を学ぶ。発音・イントネーションの練習、語彙・慣用表現や文法知識の拡大、ポップソングを聞いて英語特有のリズムと発音の習得、読解・作文などの学習活動を通して総合的な英語運用能力の育成を目指す。
授業方法：	日本人が苦手とする発音の練習、リスニング指導（ポップソングの聞き取り）。実用的な文法知識・語句の解説とその運用技能の向上のため、作文や対話形式での反復練習。ほぼ毎回復習・確認テストを実施。
履修の留意点：	欠席しないこと。 予習、下調べは毎回やってくること。
目標と評価：	役立つ英語技能を身につけることを目標に、復習テストの結果、提出物、出席率、及び授業態度を考慮して評価する。
教科書：	SMASH HIT LISTENING Stephen Timson MACMILLAN LANGUAGEHOUSE
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語コミュニケーションⅠ」（担当者：松嶋 哲雄）の履修の手引き

科目名：	英語コミュニケーションⅠ
担当者：	松嶋 哲雄（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この科目では「地球語」としての英語の読む・書く・話す・聞くの4技能をバランスよく向上させ、英語による総合的なコミュニケーション能力を養成する。
授業方法：	ポップソングの聞き取りを通して、日本人が苦手とする発音・イントネーションの練習。 実用的な文法知識・語句の解説とその運用技能の向上を目指し、作文や対話形式での反復練習。 ほぼ毎回復習・確認テストを実施。
履修の留意点：	欠席しないこと 毎回予習・下調べをやってくること
目標と評価：	復習テスト、提出物、出席率、授業態度を総合的に考慮して評価
教科書：	SMASH HIT LISTENING Stephen Timson MACMILLAN LANGUAGEHOUSE
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語コミュニケーションⅠ」（担当者：アンドレ ガニエ）の履修の手引き

科目名：	英語コミュニケーションⅠ
担当者：	アンドレ ガニエ
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	英語を実際に使う場合に役立つ運用能力の修得を目標に、高校までの既習知識を復習・確認し、新たに発展した知識・技能を学ぶ。発音・イントネーションの練習、語彙・慣用表現や文法知識の拡大、ポップソングを聞いて英語特有のリズムと発音の習得、読解・作文などの学習活動を通して総合的な英語運用能力の育成を目指す。
授業方法：	日本人が苦手とする発音の練習、リスニング指導（ポップソングの聞き取り）。実用的な文法知識・語句の解説とその運用技能の向上のため、作文や対話形式での反復練習。ほぼ毎回復習・確認テストを実施。
履修の留意点：	欠席しないこと。 予習、下調べは毎回やってくること。
目標と評価：	役立つ英語技能を身につけることを目標に、復習テストの結果、提出物、出席率、及び授業態度を考慮して評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語コミュニケーションⅠ」（担当者：アンドレ ガニエ）の履修の手引き

科目名：	英語コミュニケーションⅠ
担当者：	アンドレ ガニエ
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	英語を実際に使う場合に役立つ運用能力の修得を目標に、高校までの既習知識を復習・確認し、新たに発展した知識・技能を学ぶ。発音・イントネーションの練習、語彙・慣用表現や文法知識の拡大、ポップソングを聞いて英語特有のリズムと発音の習得、読解・作文などの学習活動を通して総合的な英語運用能力の育成を目指す。
授業方法：	日本人が苦手とする発音の練習、リスニング指導（ポップソングの聞き取り）。実用的な文法知識・語句の解説とその運用技能の向上のため、作文や対話形式での反復練習。ほぼ毎回復習・確認テストを実施。
履修の留意点：	欠席しないこと。 予習、下調べは毎回やってくること。
目標と評価：	役立つ英語技能を身につけることを目標に、復習テストの結果、提出物、出席率、及び授業態度を考慮して評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語コミュニケーションⅠ」（担当者：アンドレ ガニエ）の履修の手引き

科目名：	英語コミュニケーションⅠ
担当者：	アンドレ ガニエ
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	英語を実際に使う場合に役立つ運用能力の修得を目標に、高校までの既習知識を復習・確認し、新たに発展した知識・技能を学ぶ。発音・イントネーションの練習、語彙・慣用表現や文法知識の拡大、ポップソングを聞いて英語特有のリズムと発音の習得、読解・作文などの学習活動を通して総合的な英語運用能力の育成を目指す。
授業方法：	日本人が苦手とする発音の練習、リスニング指導（ポップソングの聞き取り）。実用的な文法知識・語句の解説とその運用技能の向上のため、作文や対話形式での反復練習。ほぼ毎回復習・確認テストを実施。
履修の留意点：	欠席しないこと。 予習、下調べは毎回やってくること。
目標と評価：	役立つ英語技能を身につけることを目標に、復習テストの結果、提出物、出席率、及び授業態度を考慮して評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語コミュニケーションⅡ」（担当者：安富 成良）の履修の手引き

科目名：	英語コミュニケーションⅡ
担当者：	安富 成良（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この授業はコミュニケーションの有効な道具である英語の「読む」「書く」「聴く」「話す」の4技能を総合的に高めることを目標とし、高校までに学習した英語の基本的な文法を確認しながら、実際の場面、特に海外旅行で使える英語の習得を目指して行われます。文法事項の確認については、各文法項目のポイントのまとめと練習問題の学習を通して定着させます。また旅行英語の学習についてはオーディオ・テープを用いて、HearingとSpeakingの能力の向上を図り、旅行に必要な英語を毎回1場面（Unitを一つ）学習します。更にアメリカ人特有の英語の発音にも慣れる様に練習します。英語コミュニケーションの授業は1年間のうち春（秋）学期を日本人の英語教員が担当し、あとの半期の秋（春）学期がネイティブの英語教員が担当する、という授業形態をとっており、日本人教員とネイティブの英語教員が連携して1年間の学習を通してで英語力の向上を目指している。
授業方法：	この授業では学生の発表を重視し、旅行英語の学習では二人ペアとなった会話練習や3分以上のミニスピーチも課します。 ・基本的な文法項目の確認については、プリント教材を使用して講義と練習問題（小テスト）を行い定着化を図ります。
履修の留意点：	特にありませんが、積極的な受講を望みます。
目標と評価：	・目標としては就職試験（英語）で足切りにならないような英語力を身につけると共に、海外旅行である程度英語を話したり、英語を聞き取りが出来るようになることを目指します。 ・定期考査（50%）と平常点（10%）Reading Test（10%） * 『トラベル・イングリッシュ』のエッセイ読みのテストも平常点に加算。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語コミュニケーションⅡ」（担当者：松嶋 哲雄）の履修の手引き

科目名：	英語コミュニケーションⅡ
担当者：	松嶋 哲雄（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	英語コミュニケーションⅠを踏まえ、さらにその応用と発展の学習 英語の総合的なコミュニケーションを引き続き学び、トレーニングの中で、コミュニケーションで重要な他者理解を英語というツールを用いて深め、異文化理解で不可欠な知識を身につけ、自己表現の詞の大切さ、コミュニケーションの重要性を学ぶ。
授業方法：	ポップソングの聞き取りを通して、日本人が苦手とする発音・イントネーションの練習。 実用的な文法知識・語句の解説とその運用技能の向上を目指し、作文や対話形式での反復練習。 ほぼ毎回復習・確認テストを実施。
履修の留意点：	欠席しないこと。 毎回予習・下調べをやってくること
目標と評価：	復習テストの結果、提出物、出席率、授業態度を総合して、評価する。
教科書：	SMASH HIT LISTENING Stephen Timson MACMILLAN LANGUAGEHOUSE
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語コミュニケーションⅡ」（担当者：松嶋 哲雄）の履修の手引き

科目名：	英語コミュニケーションⅡ
担当者：	松嶋 哲雄（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	英語の総合的なコミュニケーションを引き続き学び、トレーニングする中で、コミュニケーションで重要な他者理解を英語というツールを用いて深め、異文化理解で不可欠な知識を身につけ、自己表現としての言葉の重要性、コミュニケーションの大切さを学ぶ。
授業方法：	ポップソングの聞き取りを通して、日本人が苦手とする発音・イントネーションの練習。 実用的な文法知識・語句の解説とその運用技能の向上を目指し、作文や対話形式で反復練習。 ほぼ毎回復習・確認テスト実施
履修の留意点：	欠席しないこと 毎回予習・下調べをやってくること
目標と評価：	復習ですつ、提出物、出席率、授業態度などを総合的に考慮して評価
教科書：	SMASH HIT LISTENING Stephen Timson MACMILLAN LANGUAGEHOUSE
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語コミュニケーションⅡ」（担当者：アンドレ ガニエ）の履修の手引き

科目名：	英語コミュニケーションⅡ
担当者：	アンドレ ガニエ
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	英語コミュニケーションⅠを踏まえ、さらにその応用と発展の学習 英語の総合的なコミュニケーションを引き続き学び、トレーニングの中で、コミュニケーションで重要な他者理解を英語というツールを用いて深め、異文化理解で不可欠な知識を身につけ、自己表現の詞の大切さ、コミュニケーションの重要性を学ぶ。
授業方法：	ポップソングの聞き取りを通して、日本人が苦手とする発音・イントネーションの練習。 実用的な文法知識・語句の解説とその運用技能の向上を目指し、作文や対話形式での反復練習。 ほぼ毎回復習・確認テストを実施。
履修の留意点：	欠席しないこと。 毎回予習・下調べをやること
目標と評価：	復習テストの結果、提出物、出席率、授業態度を総合して、評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語コミュニケーションⅡ」（担当者：アンドレ ガニエ）の履修の手引き

科目名：	英語コミュニケーションⅡ
担当者：	アンドレ ガニエ
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	英語コミュニケーションⅠを踏まえ、さらにその応用と発展の学習 英語の総合的なコミュニケーションを引き続き学び、トレーニングする中で、コミュニケーションで重要な他者理解を英語というツールを用いて深め、異文化理解で不可欠な知識を身につけ、自己表現の詞の大切さ、コミュニケーションの重要性を学ぶ。
授業方法：	ポップソングの聞き取りを通して、日本人が苦手とする発音・イントネーションの練習。 実用的な文法知識・語句の解説とその運用技能の向上を目指し、作文や対話形式での反復練習。 ほぼ毎回復習・確認テストを実施。
履修の留意点：	欠席しないこと。 毎回予習・下調べをやってくること
目標と評価：	復習テストの結果、提出物、出席率、授業態度を総合して、評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語コミュニケーションⅡ」（担当者：アンドレ ガニエ）の履修の手引き

科目名：	英語コミュニケーションⅡ
担当者：	アンドレ ガニエ
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	英語コミュニケーションⅠを踏まえ、さらにその応用と発展の学習 英語の総合的なコミュニケーションを引き続き学び、トレーニングする中で、コミュニケーションで重要な他者理解を英語というツールを用いて深め、異文化理解で不可欠な知識を身につけ、自己表現の詞の大切さ、コミュニケーションの重要性を学ぶ。
授業方法：	ポップソングの聞き取りを通して、日本人が苦手とする発音・イントネーションの練習。 実用的な文法知識・語句の解説とその運用技能の向上を目指し、作文や対話形式での反復練習。 ほぼ毎回復習・確認テストを実施。
履修の留意点：	欠席しないこと。 毎回予習・下調べをやってくること
目標と評価：	復習テストの結果、提出物、出席率、授業態度を総合して、評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ウーマズボディ&フィットネスⅠ」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	ウーマズボディ&フィットネスⅠ
担当者：	星 ひろみ（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなってしまう。特に、子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・パソコンを選ぶということが体力低下に結びついているといえよう。その結果、体力の低下だけでなく、日常の中で対人関係に悩む人が増え、学校や社会に様々な問題を提起している。だからこそIT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる中、学校体育として何ができるかを考えなければならない。</p> <p>本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。さらに、友人関係を深めるためにスポーツはとても有効な手段なので、楽しみながら、からだを鍛えることを学生に学んでもらいたい。</p> <p>また、からだの成長だけは年々早くなる中で、10代後半～20代の女性に、女性ならではのからだの変化・病気なども多くなっている。自分の「からだをやる」ということが如何に大切かを授業をとおして認識してもらい、これからの生活に役立ててもらいたい。</p>
授業方法：	<p>ウーマズボディ&フィットネスⅠ（春学期）では、実技を中心に行う。</p> <p>① オリエンテーション（授業計画・評価についての説明）</p> <p>② エアロビクスダンス・・・全身運動として効果のあるこの種目において、柔軟性・リズム感・持久力を養いながら、からだを動かし、汗をかくことの気持ちよさを実感する。そうすることの中で、仲間と楽しいということを共感し、互いに向上を目指す。</p> <p>③ ゴルフ・・・スポーツの中でもエチケット・マナーの厳しいゴルフ競技を学ぶことで、技術はもちろん、周りの競技者に迷惑をかけず、気持ちよくプレーすることを学ぶゴルフは、コミュニケーション能力を上げる一要素といえる。</p>
履修の留意点：	<p>* 授業の第1週目にオリエンテーションを行い授業内容・評価・スケジュール・その他体育に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。（着替えず体育館集合。筆記用具持参）</p> <p>* 細かいルールがあるが、授業が安全実施できるよう、協力・厳守してほしい。</p>
目標と評価：	<p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出しますが詳細は第1回目の授業（オリエンテーション）説明する。実技試験は実技の授業内試験とする。但し、実技科目なので出欠席を重視する。</p> <p>* 体育は出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価する。</p> <p>* 詳細はプリント参照（オリエンテーションで配布）</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ウーマズボデー&フィットネスⅠ」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	ウーマズボデー&フィットネスⅠ
担当者：	星 ひろみ（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病といえるが、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなってしまう。特に、子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・パソコンを選ぶということが体力低下に結びついているといえよう。その結果、体力の低下だけでなく、日常の中で対人関係に悩む人が増え、学校や社会に様々な問題を提起している。だからこそIT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる中、学校体育として何ができるかを考えなければならない。</p> <p>本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。さらに、友人関係を深めるためにスポーツはとても有効な手段なので、楽しみながら、からだを鍛えることを学生に学んでもらいたい。</p> <p>また、からだの成長だけは年々早くなる中で、10代後半～20代の女性に、女性ならではのからだの変化・病気なども多くなっている。自分の「からだをやる」ということが如何に大切かを授業をとおして認識してもらい、これからの生活に役立ててもらいたい。</p>
授業方法：	<p>： ウーマズボデー&フィットネスⅠ（春学期）では、実技を中心に行う。</p> <p>① オリエンテーション（授業計画・評価についてなどの説明）</p> <p>② エアロビクスダンス・・・全身運動として効果のあるこの種目において、柔軟性・リズム感・持久力を養いながら、からだを動かし、汗をかくことの気持ちよさを実感する。そうすることの中で、仲間と楽しいということを共感し、互いに向上を目指す。</p> <p>③ ゴルフ・・・スポーツの中でもエチケット・マナーの厳しいゴルフ競技を学ぶことで、技術はもちろん、周りの競技者に迷惑をかけず、気持ちよくプレーすることを学ぶゴルフは、コミュニケーション能力を上げる一要素といえる。</p>
履修の留意点：	<p>・ * 授業の第1週目にオリエンテーションを行い授業内容・評価・スケジュール・その他体育に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。（着替えず体育館集合。筆記用具持参）</p> <p>* 細かいルールがあるが、授業が安全実施できるよう、協力・厳守してほしい。</p> <p>春学期は実技中心（体育館及びグラウンド）</p>
目標と評価：	<p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出するが詳細は第1回目の授業（オリエンテーション）説明する。実技試験は実技の授業内試験とする。但し、実技科目なので出欠席を重視する。</p> <p>* 体育は出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価する。</p> <p>* 詳細はプリント参照（オリエンテーションで配布）</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ウーマズボディ&フィットネスⅠ」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	ウーマズボディ&フィットネスⅠ
担当者：	星 ひろみ（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなってしまう。特に、子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・パソコンを選ぶということが体力低下に結びついているといえよう。その結果、体力の低下だけでなく、日常の中で対人関係に悩む人が増え、学校や社会に様々な問題を提起している。だからこそIT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる中、学校体育として何ができるかを考えなければならない。</p> <p>本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。さらに、友人関係を深めるためにスポーツはとても有効な手段なので、楽しみながら、からだを鍛えることを学生に学んでもらいたい。</p> <p>また、からだの成長だけは年々早くなる中で、10代後半～20代の女性に、女性ならではのからだの変化・病気なども多くなっている。自分の「からだをやる」ということが如何に大切かを授業をとおして認識してもらい、これからの生活に役立ててもらいたい。</p>
授業方法：	<p>ウーマズボディ&フィットネスⅠ（春学期）では、実技を中心に行う。</p> <p>① オリエンテーション（授業計画・評価についてなどの説明）</p> <p>② エアロビクスダンス・・・全身運動として効果のあるこの種目において、柔軟性・リズム感・持久力を養いながら、からだを動かし、汗をかくことの気持ちよさを実感する。そうすることの中で、仲間と楽しいということを共感し、互いに向上を目指す。</p> <p>③ ゴルフ・・・スポーツの中でもエチケット・マナーの厳しいゴルフ競技を学ぶことで、技術はもちろん、周りの競技者に迷惑をかけず、気持ちよくプレーすることを学ぶゴルフは、コミュニケーション能力を上げる一要素といえる。</p>
履修の留意点：	<p>* 授業の第1週目にオリエンテーションを行い授業内容・評価・スケジュール・その他体育に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。（着替えず体育館集合。筆記用具持参）</p> <p>* 細かいルールがあるが、授業が安全実施できるよう、協力・厳守してほしい。</p>
目標と評価：	<p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出するが詳細は第1回目の授業（オリエンテーション）説明する。実技試験は実技の授業内試験とする。但し、実技科目なので出欠席を重視する。</p> <p>* 体育は出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価する。</p> <p>* 詳細はプリント参照（オリエンテーションで配布）</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ウーマズボディ&フィットネスⅡ」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	ウーマズボディ&フィットネスⅡ
担当者：	星 ひろみ（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなってしまう。特に、子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・パソコンを選ぶということが体力低下に結びついているといえよう。その結果、体力の低下だけでなく、日常の中で対人関係に悩む人が増え、学校や社会に様々な問題を提起している。だからこそIT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる中、学校体育として何ができるかを考えなければならない。</p> <p>本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。さらに、友人関係を深めるためにスポーツはとても有効な手段なので、楽しみながら、からだを鍛えることを学生に学んでもらいたい。</p> <p>また、からだの成長だけは年々早くなる中で、10代後半～20代の女性に、女性ならではのからだの変化・病気なども多くなっている。自分の「からだをやる」ということが如何に大切かを授業をとおして認識してもらい、これからの生活に役立ててもらいたい。</p>
授業方法：	<p>授業方法： ウーマズボディ&フィットネスⅡ（秋学期）では、実技・講義を行う。</p> <p>① ソフトバレーボール・・・グループ競技を取り上げ、力をあわせて、ゲームを楽しむ授業である。ソフトバレーボールは6人制バレーボールより体力的・技術的に苦手な学生にも取り組みやすい競技なので、誰でもが楽しめる要素が多いが特徴。コミュニケーションをとるスポーツとして特に適している。授業はゲームを中心にを行い、チームが週をおうごとにどれだけ向上するかをみる。</p> <p>③ 講義『女性と健康』・・・特に女性のからだを中心に学んでいく。実際に女性におこりうるからだの変化や病気について正しい知識を持ってもらいたい。</p>
履修の留意点：	<p>注意することは春学期「ウーマズボディ&フィットネスⅠ」と同じ</p> <p>*細かいルールがあるが、授業が安全実施できるよう、協力・厳守してほしい。</p>
目標と評価：	<p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出するが詳細は第1回目の授業(オリエンテーション)説明する。実技試験は実技の授業内試験とする。但し、出欠席を重視する。実技と講義、の総合評価とする。</p> <p>*出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価する。また、講義は授業内試験（筆記試験）を行う。</p> <p>*詳細はプリント参照（オリエンテーションで配布）</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ウーマズボディ&フィットネスⅡ」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	ウーマズボディ&フィットネスⅡ
担当者：	星 ひろみ（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなってしまう。特に、子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・パソコンを選ぶということが体力低下に結びついているといえよう。その結果、体力の低下だけでなく、日常の中で対人関係に悩む人が増え、学校や社会に様々な問題を提起している。だからこそIT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる中、学校体育として何ができるかを考えなければならない。</p> <p>本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。さらに、友人関係を深めるためにスポーツはとても有効な手段なので、楽しみながら、からだを鍛えることを学生に学んでもらいたい。</p> <p>また、からだの成長だけは年々早くなる中で、10代後半～20代の女性に、女性ならではのからだの変化・病気なども多くなっている。自分の「からだをやる」ということが如何に大切かを授業をとおして認識してもらい、これからの生活に役立ててもらいたい。</p>
授業方法：	<p>ウーマズボディ&フィットネスⅡ（秋学期）では、実技・講義を行う。</p> <p>① ソフトバレーボール・・・グループ競技を取り上げ、力をあわせて、ゲームを楽しむ授業である。ソフトバレーボールは6人制バレーボールより体力的・技術的に苦手な学生にも取り組みやすい競技なので、誰でもが楽しめる要素が多いのが特徴。コミュニケーションをとるスポーツとして特に適している。授業はゲームを中心に行い、チームが週をおうごとにどれだけ向上するかをみる。</p> <p>③ 講義『女性と健康』・・・特に女性のからだを中心に学んでいく。実際に女性におこりうるからだの変化や病気について正しい知識を持ってもらいたい。</p>
履修の留意点：	<p>注意することは春学期「ウーマズボディ&フィットネスⅠ」と同じ</p> <p>*細かいルールがあるが、授業が安全実施できるよう、協力・厳守してほしい。</p>
目標と評価：	<p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出するが詳細は第1回目の授業(オリエンテーション)説明する。実技試験は実技の授業内試験とする。但し、出欠席を重視する。実技と講義、の総合評価とする。</p> <p>*出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価する。また、講義は授業内試験（筆記試験）を行う。</p> <p>*詳細はプリント参照（オリエンテーションで配布）</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ウーマズボディ&フィットネスⅡ」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	ウーマズボディ&フィットネスⅡ
担当者：	星 ひろみ（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなってしまう。特に、子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・パソコンを選ぶということが体力低下に結びついているといえよう。その結果、体力の低下だけでなく、日常の中で対人関係に悩む人が増え、学校や社会に様々な問題を提起している。だからこそIT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる中、学校体育として何ができるかを考えなければならない。</p> <p>本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。さらに、友人関係を深めるためにスポーツはとても有効な手段なので、楽しみながら、からだを鍛えることを学生に学んでもらいたい。</p> <p>また、からだの成長だけは年々早くなる中で、10代後半～20代の女性に、女性ならではのからだの変化・病気なども多くなっている。自分の「からだをやる」ということが如何に大切かを授業をとおして認識してもらい、これからの生活に役立ててもらいたい。</p>
授業方法：	<p>授業方法： ウーマズボディ&フィットネスⅡ（秋学期）では、実技・講義を行う。</p> <p>① ソフトバレーボール・・・グループ競技を取り上げ、力をあわせて、ゲームを楽しむ授業である。ソフトバレーボールは6人制バレーボールより体力的・技術的に苦手な学生にも取り組みやすい競技なので、誰でもが楽しめる要素が多いのが特徴。コミュニケーションをとるスポーツとして特に適している。授業はゲームを中心に、チームが週をおうごとにどれだけ向上するかをみる。</p> <p>③ 講義『女性と健康』・・・特に女性のからだを中心に学んでいく。実際に女性におこりうるからだの変化や病気について正しい知識を持ってもらいたい。</p>
履修の留意点：	<p>注意することは春学期「ウーマズボディ&フィットネスⅠ」と同じ</p> <p>*細かいルールがあるが、授業が安全実施できるよう、協力・厳守してほしい。</p>
目標と評価：	<p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出するが詳細は第1回目の授業(オリエンテーション)説明する。実技試験は実技の授業内試験とする。但し、出欠席を重視する。実技と講義、の総合評価とする。</p> <p>*出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価する。また、講義は授業内試験（筆記試験）を行う。</p> <p>*詳細はプリント参照（オリエンテーションで配布）</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ウーマズボデイ&フィットネスⅡ」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「ウーマズボデイ&フィットネスⅡ」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「プレゼミナール」（担当者：内藤 勝）の履修の手引き

科目名：	プレゼミナール
担当者：	内藤 勝（自己紹介ページ）
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
単位数：	2単位
概要：	「環境経済」「農業経済論」の専門的な講義を受けるための、準備、及び基礎を学習する。考えの土台に「自然」を据える。 (平常点による。 (5)履修の条件 自然に興味があり、自然に順応しようとする「志」のある学生。
授業方法：	2)授業の方法 文献からの考察をする。その後自然の観察、田植え、稲刈り、餅つき等を通じて自然と人、農業と民族の生活、文化、経済の本質を体得する。
履修の留意点：	((3)授業の体系 現代の政治、経済、哲学、宗教、都市、コンピュータ、自動車、ミサイル等すべて人の脳が生み出したものである。それが今や限界に達しようとしている。二酸化炭素の増大による地球の温暖化、酸性雨による生態系の汚染、フロンによるオゾン層の破壊（その穴は最大日本の面積の約8倍に至っている。）もはや脳やその集積である過去の学問を基準としていたのではこれらに回答を出せないであろう。脳を越える尺度は「自然」だけである。自然の摂理を知りこれに従う、「自然順応」の生活こそ今後の方向であろう。そこで学問の基礎に自然体験を置く。この土台の上に学問、思想の再構築を試みる。
目標と評価：	最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。
教科書：	物質循環とエントロピーの経済学 内藤勝 高文堂出版社 2004
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「プレゼミナール」（担当者：内田 和夫）の履修の手引き

科目名：	プレゼミナール
担当者：	内田 和夫（自己紹介ページ）
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>テーマ：アルバイトと仕事から考える</p> <p>学生アルバイトの現実、さまざまな仕事の現実、について自分なりの考えを深める中で、専門のゼミナールに必要な準備をします。興味が持ちやすい形で、人間や世界のことをいままでより広く考える力を養います。本ゼミは、第1に自己の活性化、第2に知的関心の拡大、第3に知的技量のアップを共同で行う場であることを目指しています。</p>
授業方法：	<p>☆つぎのような章立てで進める予定です。</p> <p>（1）私とアルバイト ――ゼミ同士として出会うためのプログラムです。</p> <p>（2）アルバイトの現実と理想 ――アルバイト経験をもとに自己と社会について考えます。</p> <p>（3）仕事の現実と理想 ――仕事に関する本や文章を読み、自身の仕事論にまとめます。</p> <p>☆ ゼミの方法</p> <p>出会いのインタビュー、ゲストからのヒアリング、フィールド調査、関係書の輪読レポートの作成、アンケート調査、寸劇、などいろいろ、楽しく試みます。</p>
履修の留意点：	<p>☆ゼミとしての適正規模を守るため、12名を上限とする予定です。</p> <p>☆1回目に行う受講希望アンケートの内容を元に選考します。</p> <p>☆今年は、前向きに伸びやかに学生生活を築こうという人、木曜日は内田研究室で過ごそう という人を歓迎します。</p> <p>☆必要な本や文献は適宜指示します。</p>
目標と評価：	<p>（1）それぞれの知的自立の道を見つけること。</p> <p>（2）出席点3割、平常のゼミ活動3.5割、提出レポートなど3.5割で判断します。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「プレゼミナール」（担当者：内田 和夫）の履修の手引き

科目名：	プレゼミナール
担当者：	内田 和夫（自己紹介ページ）
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
単位数：	2単位
概要：	<p>テーマ：アルバイトから考える仕事と社会（Ⅱ）</p> <p>昨年度に引き続き、2年生の諸君と学生アルバイトの実態を題材に、いろいろのことを調べ、文献を読み、議論します。身近なアルバイトの考察から、現代社会とはどう社会であるかがいろいろな側面において見えてくると思います。その作業を通じて、人間の営みの中で、知的な作業がもつ価値に改めて気づきたいと思います。そして、それぞれの諸君の知的な力量アップもはかりたいとおもいます。</p>
授業方法：	<p>1年間をつぎのような章立てで進めます。</p> <p>(1) 私とアルバイト ----パブリック・スピーキング</p> <p>(2) 嘉悦大生のアルバイト生活実態 ----調査と分析 ----プレゼンテーション</p> <p>(3) アルバイト・フリーター・仕事 ----文献を読むこと、書くこと</p> <p>(4) 仁義あるアルバイトとは----被雇用者の権利、その他 ----最終レポートの提出</p> <p>(5) 読む力書く力、そして私の関心の発見 ----充実した3年生へむけて</p>
履修の留意点：	<p>(1) ゼミナールは個別指導と共同作業が特徴です。そうしたことをやってみたいが受講の前提です。</p> <p>(2) 現在は問いませんが、知的な関心においても知的な技量においても、自分の力を伸ばしてみたいと思う諸君を優先します。</p> <p>(3) 留学生の諸君の受講も歓迎します。</p> <p>(4) 複数の書籍の輪読を目指します。</p>
目標と評価：	<p>(1) 知的な深まりを実感すること。</p> <p>(2) 出席点3割、毎回のゼミ活動3割、提出レポートなど4割、で評価します。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「プレゼミナール」（担当者：尾村 敬二）の履修の手引き

科目名：	プレゼミナール
担当者：	尾村 敬二（自己紹介ページ）
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
単位数：	2単位
概要：	本ゼミナールの目的は、国際経済コースを選択する学生を対象とし、国際経済問題を学ぶためのトレーニングをすることにある。学習内容は、履修生の自発的選択を重視し、自分で学習課題を完成することであり、経済学、地域問題、金融問題、環境問題など、多岐にわたる。
授業方法：	学習方法は、履修生各自の調査、発表などを重視する。教員が何かを授けるのではなく、学生自らの自発的勉強が期待される。インターネット情報を活用することが多いので、常にパソコンを用意すること。
履修の留意点：	国際経済問題などを勉強する入り口として、英語の読解力を強化する。英語情報を読む訓練をするので、英和辞典は常に必携である。
目標と評価：	目標は自分で選択した課題について、自分なりの見解を他人に対して説得力を持って説明できるようにすること。勉学の仮定で、日本経済新聞などを読みこなせるようになることは確実である。成績評価は、積極的な授業参加度、出席、レポートの提出と発表などによる平常点による。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「プレゼミナール」（担当者：青山 悦子）の履修の手引き

科目名：	プレゼミナール
担当者：	青山 悦子（自己紹介ページ）
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	プレゼミナールは、3・4年次の専門ゼミナールへの導入がスムーズに行われるよう、その基礎となる部分を、履修者自身が作り上げていくことを目的としている。 本プレゼミナールでは、担当者の専門分野である「労働」を中心にすえながら、①年間を通して労働分野のみではなく、経営、経済、社会問題への関心を、新聞を活用することで広げていく、②履修者の問題関心を考慮しながら、入門書となるような本を選定し、その内容の報告、質疑、討論を重ねていく。
授業方法：	年間を通して、新聞の活用を図ると共に、履修者の問題関心を考慮したうえで選定した入門書を、その内容の報告と、質疑、討論を中心に、学生主体に運営する。なお、基礎ゼミで学習した「スタディ・スキルズ」についても再度、確認する。
履修の留意点：	主体的にプレゼミに参画できる学生の受講を希望。
目標と評価：	本プレゼミナールの目標は、①経営、経済、社会に関する関心を広げていく、②報告、討論する力を養う、③自分の頭で考える力を養うなどで、評価については、ゼミナールなので、出席とゼミへのかかわり方で評価される。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「プレゼミナール」（担当者：安田 利枝）の履修の手引き

科目名：	プレゼミナール
担当者：	安田 利枝（自己紹介ページ）
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
単位数：	2単位
概要：	<p>国境を越える地球規模の問題群である、人権、紛争と平和、貧困と開発などの中で、みなさんが最も関心をもつ領域は、おそらく「環境問題」でしょう。ビジネスもまた環境問題への取り組みの必要に迫られている時代です。このプレゼミナールでは、地球環境問題の現状についての権威あるシンクタンクとして知られるワールド・ウォッチ研究所が毎年出している「地球白書」を題材します。世界における自然環境の現状はもちろんのこと、国際貿易や金融システム、雇用などと環境問題の関連性についても分析しています。</p> <p>前半は、NHKがワールドウォッチ研究所のレポートをもとに国際共同制作した大型ドキュメンタリー番組を視聴しつつ、地球環境問題の概略をつかみます。世界20か国以上で取材し、6つのテーマについて、その現状と国家、企業そして市民の取り組みなどをレポートしたものです。グローバルしていく経済と地球のエコシステムの間で複雑な関係をマネッジしていくには、政治・経済システムをどのように使えばよいか、ヒントを与えてくれるでしょう。後半は、受講者の関心に従ってドキュメンタリーで取り上げられている個々の問題を「環境白書」とその他の文献を用いてより深く考えていきましょう。</p> <p>授業の体系</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大量消費との決別 ごみ問題 2. 都市化する地球 3. 食糧問題 90億人をどう養うか 4. 自然の恵み 自然の価値 5. エネルギー革命 6. 市民のうごき 法律・経済・技術の新しい手法
授業方法：	春学期は、文献講読を中心に、地球環境問題のドキュメンタリー番組の視聴を中心に、グループディスカッションを多く取り入れながら行ないます。秋学期には文献の1章ずつを担当して自分なりにまとめてきたものを発表してもらい、その内容について質疑応答をしていきます。
履修の留意点：	プレゼミナールという科目は、本ゼミナールの準備段階ですので、どのように学ぶのかを念頭においた授業をします。「教えられる」で、それを「覚える」のではなく、どのように問題をたてるのか、調べるのか、本や資料を探し、得られた情報を整理するのか、発表するのかを考えながら授業に臨んでください。
目標と評価：	<p>この科目を履修することにより、次のような成果を期待します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 責任感をもって課題をやり遂げる 2. 問題の整理の仕方を真似つつ学ぶ 3. 調べ、自分なりの仕方でもとめ、発表する手順に馴れる 4. 環境問題への様々な実際の取り組みとアプローチを知る <p>評価の方法は次の通りです。 授業への参加度と責任感 50% 発表の内容と学年末レポートの内容 50%</p>
教科書：	「地球白書2003-2004」 クリストファー・フレイヴィン著 地球環境財団・環境文化創造研究所編集 ワールドウォッチ研究所
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「プレゼミナール」（担当者：青山 悦子）の履修の手引き

科目名：	プレゼミナール
担当者：	青山 悦子（自己紹介ページ）
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
単位数：	2単位
概要：	プレゼミナールは、3・4年次の専門ゼミナールへの導入がスムーズに行われるよう、その基礎となる部分を、履修者自身が作り上げていくことを目的としている。 本プレゼミでは、担当者の専門分野である「労働」を中心にすえながら、①年間を通して労働分野のみでなく、経営、経済、社会問題への関心を、新聞を活用することで広げていく、②履修者の問題関心を考慮しながら、入門書となるような本を選定し、その内容の報告、質疑、討論を重ねていく。
授業方法：	年間を通して、新聞の活用を図る。履修者の問題関心を考慮したうえで選定したテキストを、その内容の報告と、質疑、討論を中心に、学生主体に運営する。なお、基礎ゼミで学習した「スタディ・スキルズ」についても再度、確認する。
履修の留意点：	専門ゼミナール（必修）履修のための導入教育なので、多くの学生の受講を希望。
目標と評価：	本プレゼミの目標は、①経営、経済に関する関心を広げていく、②報告、討論する力を養う、③自分の頭で考える力を養うことなど、評価については、ゼミナールなので、出席とゼミへの関わり方で評価される。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「プレゼミナール」（担当者：和田 耕治）の履修の手引き

科目名：	プレゼミナール
担当者：	和田 耕治（自己紹介ページ）
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
単位数：	2単位
概要：	講義担当者の専門である起業、創業、中小企業といった分野の研究を通じて、主体的に学習をするためのトレーニングを行う。 基礎ゼミナールで行った内容をさらに発展させ、研究レポートの書き方、研究発表の方法、ゼミナールでの質疑応答の方法などを学習する。
授業方法：	中小企業に関する基本的な文献の輪読
履修の留意点：	無断欠席はしないように
目標と評価：	平常点による評価
教科書：	21世紀型中小企業論 渡辺幸男他 有斐閣 2001年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「プレゼミナール」（担当者：戎野 淑子）の履修の手引き

科目名：	プレゼミナール
担当者：	戎野 淑子（自己紹介ページ）
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
単位数：	2単位
概要：	「仕事」や「働く」というテーマを取り上げ、ゼミナールを行う。アルバイトをしている人も多いであろう。また、就職について考えることも出てくると思う。まずは、「働く」ということについて、体験を話し合ったり、文献を読むことにより現状を見つめ、将来の自分の働き方を考えていく第一歩としたい。
授業方法：	「仕事」や「働く」事に関する課題を考えているが、受講生との話し合いの下で、具体的なテーマについては決める。そして、授業は、 1、文献・資料を読む 2、ディスカッションを行う 3、レポートを作成する 4、発表 という内容で進める。
履修の留意点：	3年次に、私のゼミを希望するものは、ぜひ取っておいてほしい。
目標と評価：	原則として、レポートと発表によって評価するが、授業態度の平常店も考慮する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ゼミナールⅠ」（担当者：渡辺 広明）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	渡辺 広明
テーマ：	日本経済の展開と東アジア地域
概要：	<p>このゼミは経済学分野に属します。現在の日本経済の展開を東アジア諸国との関係で見えていきます。日本経済の展開を東アジア地域、特に韓国、中国、台湾地域とのヒト・モノ・カネの相互移動・関連を中心に学びます。日本経済にとって東アジア地域は発展を促す側面と競争関係の側面の両面を併せ持ちます。このような視点で勉強し、どう東アジアの地域と日本経済の共生が出来るかを検討します。</p> <p>①テーマに関する各種文献の勉強をします。 ②経済週刊誌を発行します。 ③フィールドワークをします。 *合宿を実施します（海外合宿を実施する場合、かなりの費用がかかります） ④4年次の卒業制作（1万2千字程度の調査報告書）の前に3年次末には、ゼミ論として6000字程度の調査報告書をまとめていただきます。</p>
授業方法：	<p>①当方からの一方的な授業はありません。 ②学生諸君が各種文献のレポートしたものを中心に授業展開がなされます。 *プレゼンテーションソフトを利用した発表が中心になります。 ③経営者や役所の方々へのインタビュー等の聞き取り調査をし、それをまとめ発表することも行います。 ④他大学や各種団体との交流会や討論会も行います（学園祭やスポーツ大会ももちろん参加します）。</p>
履修の留意点：	<p>①経済の勉強が好きな学生諸君お待ちしております。 ②何事にも堅実な学生諸君お待ちしております。 ③何事にも興味を持ち文武両道で生きたい学生諸君お待ちしております。 ④残りの大学生活2年間をゼミ中心に生活できる学生諸君お待ちしております。 *時間割上のゼミの時間以外にも活動します。</p>
目標と評価：	<p>*目標 ①経済学を学んでステキな社会人になろう。 ②ビジネスマナーも学び、実践します。 ③プレゼンテーションソフトを自由に使えるようになります。 ④インタビューや新聞の編集の方法を学ぶことも出来ます。 ⑤レポートの書き方を学び、それを実践できます。 ⑥日本経済の発展の仕組みやその問題点を理解できます。 ⑦日本経済と東アジア諸国とくに韓国と中国と台湾地域の関係を学ぶことが出来ます。</p> <p>*評価 ①出欠席の状況（無断の遅刻や欠席は厳禁です。単位を与え無いこともあります） ②毎回の授業へ貢献度（発表や発言の内容等） ③合宿やフィールドワークの貢献度（企画・準備や実施・報告の内容） ④その他のプロジェクトの貢献度（学園祭、スポーツ大会等） ⑤ゼミ論や卒業制作の内容 以上の総合評価で決定します。</p>
選考方法：	*規定の人数を超えた場合は、適性検査または面接を行います。
履修が望ましい科目：	*履修制限にかからない科目の取得が望ましい。

「ゼミナールⅠ」（担当者：尾村 敬二）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	尾村 敬二
テーマ：	国際経済協力を学び参加する
概要：	<p>国際経済協力とは何か。この問題は範囲が広く、その具体的なイメージはつかみにくい。いくつかの項目をあげると以下の諸点である。</p> <p>1. 国際間の貿易および投資。2. 先進国からの開発途上国に対する援助。3. 開発途上国あるいは地域の抱える経済・政治・社会問題。4. 貧困問題。5. 資源と環境。6. 人材開発。7. 民主主義などの政治問題。等々である。</p> <p>こうした問題はすべて連関しており、1つを取り上げて論じるわけにはいかない。しかし、逆に言えば、ひとつの問題に焦点を当てながら、その視点から協力問題を探求しなければならない。国際協力を実際に理解しようとする、あらゆる局面で論理的矛盾が生じる。これからの世界はこの矛盾をいかにして解消するかが大きな課題である。本ゼミでは、国際経済協力を具体的に解き明かし、実際に参加行動の道を探ることが目的である。</p>
授業方法：	<p>授業方法はゼミ履修生の自発的テーマ設定を基本とし、そのテーマを2年間かけて卒業制作としてまとめる。もちろんテーマ設定について、担当教員である尾村から適切なアドバイスを行う。学習は学生個人の調査研究能力の向上を図るため、毎月のレポート作成と発表、およびそれについてのゼミ生間の討論を行う。調査はインターネットを活用し、資料収集を行うとともに、基本的文献を読む。</p> <p>個人の調査能力の向上とともに重視することは、共同作業による成果の作成をすることである。3～4人の小グループを編成し、共通するテーマ（必ずしも同じテーマでなくてもよい）について共同調査・研究を行う。その過程で、各グループでリーダーシップを発揮できる学生を育成する。</p> <p>2年度目には4年生学生による3年生の指導を行う。</p>
履修の留意点：	<p>まず強調したいことは出席の重視である。年8回以上の欠席者は単位取得を不可とする。</p> <p>国際経済協力をテーマとするのであるから、英語文献を読めるようにすることが不可欠である。ただし、履修申請時において高い英語読解力を必要としないが、英語読解能力をつけたいという意味とそのための努力を示す必要がある。</p> <p>経済学についての知識は必要であり、新聞の経済記事が読めるようにしておくことが履修の条件である。</p>
目標と評価：	<p>本ゼミの目標は、4年次卒業にあたり、社会人として活躍できる最低限の国際問題についての知識と理解力を得ることである。そのためには日常の勉強の積み重ねとして、毎月のレポートを義務付ける。調査・研究能力の向上を評価するために、レポート作成による書く力を評価するとともに、発表および討論能力を観察することで、課題についての理解力を審査する。</p> <p>具体的な目標設定は、テーマを決定した後に、学生個人は学習計画を作成し、担当教員との相談によって、その学習計画達成度をチェックする。チェックは各人の能力に応じて、柔軟に行う。</p>
選考方法：	定員に満たない履修申請者の数であれば、全員受け入れる。選考が必要な場合には面接を行う。
履修が望ましい科目：	経済学および国際関係に関する科目の履修が望ましい。これは必須条件ではない。

「ゼミナールⅠ」（担当者：久保 真）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	久保 真
テーマ：	グローバル化する世界経済，そこにおける国民経済
概要：	<p>テレビや新聞などを通じて「グローバル化」とか「グローバリゼーション」といった言葉を耳にしたことがない人はいないでしょう。ヒト・モノ・カネが国境を越えて動くということが当たり前のこととなってきたということなのでしょうが、それは私たちの身の回りでもさまざまな変化として現れています。中国工場で縫製されたユニクロの服を着て、オーストラリア産の小麦粉とメキシコ産の豚肉で作ったカツサンドをバクつきながら、ワールドカップや大リーグの生中継を、マレーシア工場で組み立てられたパナソニックのテレビで見る。なんていう情景は不思議でもなんでもありません。一見するとこのような変化はわれわれの生活を大変便利にしてくれているようですが、他方で「グローバル化はけしからん」なんていう論調も目立ちます。曰く、「成長する中国経済に日本経済は飲み込まれてしまう」とか「中国から流入する大量の激安商品が日本のデフレの原因だ」とかです。果たして、グローバル化はわたしたち国民経済にどのような影響を与えているのでしょうか？</p> <p>本ゼミナールでは、経済学理論という武器でもって上のような問題に取り組むということを主題とします。ここで言う経済学理論とは、「比較生産費説」とか「相互需要説」といった国際経済学固有の理論だけでなく、国民所得決定についての理論も含んでいますので、世界経済のみならずマクロ経済学の理論に興味関心のある学生の履修も歓迎です。</p>
授業方法：	<p>春学期は、国際マクロ経済学の理論を講義と質疑応答によって学んでいきます。2004年度は『入門マクロ経済学（第4版）』（中谷巖著、日本評論社、2000）をテキストブックとして採用しました。秋学期は、国際経済に関するテキストを輪読します。2004年度は『人間が幸福になる経済とは何か』（ステイグリッツ著、徳間書店、2003）をテキストブックとして採用しました。2005年度のテキストブックは、履修者の顔ぶれや興味・関心を見て決めたいと思います。</p> <p>また、夏休みにはレポート課題を課し、夏合宿や秋学期に報告をしてもらいます。</p> <p>なお、四年次の「ゼミナールⅡ」では、卒業論文の作成指導を中心に行う予定です。</p>
履修の留意点：	<p>(1) 約束を守り、自律的に行動することのできる学生を歓迎します。逆に、約束が守れず、他人任せの行動しかとれない学生は、単位を認定しません。</p> <p>(2) ゼミナールには、合宿やコンパといった授業以外の要素が含まれますので、これらに積極的に参加することができる学生を歓迎します。</p> <p>(3) 世界経済に関心がある、理論的思考を好む、本を読むのが無性に好きだ、自分の意見をとにかくだれかに話したい、二年間あんまり勉強しなかつたので残り二年間は勉強に賭けたい。上のいずれか一つが該当する学生を歓迎します。</p> <p>(4) 「経済学Ⅰ」「国際経済学」の単位を修得していることが望ましいです。入ゼミ以前に上記科目を単位修得していない場合には、三年次以降にかならず単位修得するよう義務づけます。</p>
目標と評価：	<p>「ゼミナールⅠ」の目標は、経済学理論という武器でもって世界経済の問題に取り組む準備を整えることです。評価は、平常的な取り組みに基づいて下します。その後どんなに頑張っても合格の水準に達しないと判断した場合は、学期の途中でも不合格を言い渡します。ちなみに、「ゼミナールⅡ」は、卒業論文の出来不出来に基づいて50%、平常的な取り組みに基づいて50%、という比率で評価を下します。</p>
選考方法：	<p>入ゼミ希望者が多数となった場合には、2004年度春学期までの成績で入ゼミを許可するかどうかを判断します。</p>
履修が望ましい科目：	<p>「履修の留意点」欄(4)を参照のこと。</p>

「ゼミナールⅠ」（担当者：劉暢）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	劉暢
テーマ：	日中比較経済論
概要：	このゼミナールは日中比較経済研究の必要性・分析方法・日中両国（特に中国）の経済に関する基礎知識などの学習に重点を置きます。基本的な知識の導入に合わせ、現代日中両国経済発展における諸問題について比較検討を行う予定です。
授業方法：	春学期では、まず比較経済論の基本概念・研究手法などについて、簡単な説明を行います。これに基づき、「中国の経済発展——日本と中国の比較」南亮進（東洋経済新報社 1990年）を輪読します（ゼミ報告）。 秋学期において、論文の書き方を説明する目的で、いくつかの日中経済の比較考察を行った参考文献（日本語）を取り上げ、同じく輪読という形でゼミを進めます。そして受講生に卒業論文計画をゼミで発表させる予定です。
履修の留意点：	<ul style="list-style-type: none"> ●日中両国の経済発展を自分の目で見つめたい学生の参加を歓迎します。 ●中国語を履修することをこのゼミ選考の前提とはしません。
目標と評価：	<p>目標：卒業論文計画書の完成・計画書に関連する基礎知識の習得</p> <p>評価：卒業論文計画書の内容・受講態度・ゼミ報告などに基づき総合的に評価します。</p>
選考方法：	面接（成績表を持参して下さい）
履修が望ましい科目：	春学期設置科目「戦後日本経済史」 秋学期設置科目「日中比較経済論」

「ゼミナールⅠ」（担当者：生井 良一）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	生井 良一
テーマ：	世界と日本の環境問題
概要：	<p>21世紀は環境の世紀とも言われる。人間をはじめ、地球上の生き物たちが生きていく基盤が危うくなっているのだ。地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、森林の破壊、環境ホルモンなど化学物質による汚染、ごみ問題などの環境問題が山積している。加えて世界人口が爆発的に急増しており、この人口圧力が地球環境に及ぼす影響もきわめて大きいと懸念されている。</p> <p>20世紀に入ると、石油石炭などの化石燃料の消費は急増した。そのおかげで生活は便利なものとなった。しかし、このエネルギーの大量消費が地球温暖化をもたらそうとしている。地球温暖化は最大の環境問題の一つと言われている。地球温暖化がこのまま進むと、世界各地で異常現象が続出し、しかも一度その口火を切ってしまうと人間の力では元へ戻すことはほとんど不可能と言われている。地球温暖化を防止するために、それでは化石燃料に代わるエネルギー資源はあるのだろうか。化石燃料の消費を抑えることは、経済活動にも大きな影響があるだろう。それでも、化石燃料は抑えなければならない。実際、ヨーロッパのいくつかの国ではかなりな程度抑制しようとしている。それは、どんなものだろうか。</p> <p>森林破壊も世界的な規模で進んでいる。これも深刻な環境問題である。なぜ、森林はそんなに大切なのだろうか。森林のはたらきとは何だろうか。熱帯林の破壊、マングローブ林、ツンドラ地帯のタイガという大森林の減少などを学びつつ考えてみよう。</p> <p>森林の破壊が続いている地域では、砂漠化も進んでいる。歴史的にみても、緑を失った文明は、文明自身も滅んでいるのだ。</p> <p>一方、森林再生への取り組みも行われている。その活動も調べてみよう。そして夏休みなどに、植林活動か、あるいは下草刈りなど森林の保全活動を体験できる機会があれば、ぜひ参加してみようではないか。</p> <p>一方、この100年間で、世界人口は急増し、やく4倍となった。単純に言えば、4倍の食糧が必要となったのである。この人口急増は主に途上国で起っている現象である。これら多くの人が職を求めて都会に集まりスラム化し、あるいは森林を焼いて焼畑農業を行い食糧を得ようとしている。このことも森林破壊に拍車をかけている。</p> <p>そんななか、20世紀後半には、技術の進歩により緑の革命とも呼ばれた食糧の大増産も可能となった。そのためには、化学肥料、農業、そして大量の水が必要であった。結果として、現在は水不足となり、無理な耕作のために土壌も劣化した。</p> <p>水、土、緑、これらは人間が生きていく上でも、他の生き物が生きていく上でも必要不可欠なものである。その存在基盤である水、土、緑、大気に大きな問題が起きているのだ。</p> <p>地球はどれくらい人口を養えるのだろうか。巨大な人間活動が自然や耕作地を荒廃させ、自分達の生活をますます困難にしている。それでは、どうやって今後の世界の食糧問題を解決したらよいのだろうか、あるいは、貧困問題をどうしたらよいのだろうか。</p> <p>化学物質による汚染問題も複雑さを増している。農薬などの化学物質を大量に使用することに対して、1962年に「沈黙の春」という書物によって、生き物の生存やがんの発生に対して警告が出された。ついで、1996年には「奪われし未来」という本によって、これら化学物質の一部がきわめて微量で生殖異常を引き起こしているという、いわゆる環境ホルモンについての懸念が示された。これら化学物質は海洋汚染も引き起こし、海の生き物たちにも影響を及ぼしている。</p> <p>日本では、明治以来足尾の毒事件、そして昭和の高度経済成長期の水俣病や四日市ぜんそくと言った公害問題を引き起こしてきた。これらは企業による地域の汚染であり、そして多くの患者が発生した。これに似たことは現在の途上国の発展の過程でも起きている。</p> <p>現在は豊かな物質に囲まれた社会となっているが、車による大気汚染、河や湖の水質汚染、ごみ問題、森林の保全、酸性雨、あるいは地球温暖化防止のための省エネルギーをどうするかといったことが課題となっている。環境問題がかつての公害問題と異なる点は、誰もが環境悪化の加害者であり、同時に被害者でもあるということである。</p> <p>一方で、日本の食糧自給率は40%を割っている。これは、国内の第一次産業にもダメージを与え、輸入相手国の環境にも影響を及ぼしている。また、身近なところではアレルギーに悩まされる人も多くなっているが、食品や排気ガスなどがその原因ではないかという説もある。</p> <p>こうした状況において、環境をどうするか、経済をどうするか、そのことを皆で考えていきたい。</p> <p>地球というシステムと生き物との関係は絶妙なバランスの上に成り立っている。この地球システムのすばらしさもぜひ知って欲しいところである。</p> <p>なお、これら環境問題を考える際の基本的な自然法則もぜひ理解して欲しい。つまり、生態系、食物連鎖、生物濃縮、エネルギー保存則、物質不滅の法則、水の大循環、大気の大循環、物質の循環などである。</p>
授業方法：	基本的には、本を読んで発表し、そして疑問、質問、意見、提案などいろいろ出し合う。そのことで理解を深めたり、あるいはさらに調べることもあるだろう。具体的な事例を多く取り上げていきたい。必要に応じて、ビデオも大いに活用する。また、環境学習体験の機械もつくりたい。
履修の留意点：	まず、世界と日本の環境破壊の実情を知って欲しい。そして、4年生になった時の卒業論文のテーマを見つけたつもりでいろいろなことを学習し、疑問に思ったことは大事にして欲しい。環境と経済、それは対立するものなのか、調和できるものなのか、あるいはどんな調和のための取り組みがあるのか、それと持続可能な社会とは、そんな問いかけも念頭に置いて欲しい。
目標と評価：	<p>目標1：環境破壊について、その現状、原因、防止の取り組みの三つの視点を大事にする。</p> <p>目標2：自然界では、いろいろなことが互いに関連し合っている、そのことを理解すること</p> <p>目標3：生命維持のシステムは微妙なバランスの上に成り立っていることを理解すること</p> <p>目標4：人間活動について、その影響の大きさを理解すること</p> <p>目標5：個人の生活スタイルも見直す機会とすること</p> <p>評価 評価については、ゼミ活動への積極性を最も大きく評価の対象とする。それと、レポート、出席点を合わせて決定する。</p>
選考方法：	意欲のある人、環境問題に関心のある人、あるいは地球や生命に関心のある人にぜひ参加して欲しい。場合によっては、何か書いてもらうとか、面接をすとか、そういうことも考えている。
履修が望ましい科目：	<p>[地球と環境Ⅰ]</p> <p>[地球と環境Ⅱ]</p> <p>[生活環境論]</p>

「ゼミナールⅠ」（担当者：山田 寛）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	山田 寛
テーマ：	ゼミナールⅠ＝世界の子どもの諸問題
概要：	<p>いま世界の子供たちの上には、沢山の問題がのしかかっています。子供たちの悩みを通して、国際政治・経済上の問題、国際関係の課題を調べ、研究する予定です。</p> <p>とりわけ発展途上国の子供たちには、戦争・紛争の犠牲、地雷による死傷、子供兵士、幼児の飢えや栄養失調による死亡、エイズ、ストリート・チルドレン、人身売買、子供の売春・ポルノ、子供の重労働、教育を受けられない・・・などの問題があります。先進工業国でも、家庭内暴力・虐待、学校でのいじめ、少年犯罪その他の問題を抱えています。</p> <p>そうした問題を認識し、理解し、世界の子供たちに共感を持って、国際問題への関心を深めることがねらいです。</p> <p>また、このゼミは途上国の子供のためのボランティア活動体験旅行（特に運動会開催）参加を一つの柱としています。2003年にはミャンマーに行ってきました。絶対参加しなければ駄目ということではありませんが、出来るかぎり参加することを歓迎します。</p>
授業方法：	<p>春学期は、いくつかのテーマを選んで、ユニセフ（国連児童基金）の「世界子供白書」「年次報告」、WHO（世界保健機構）の報告書など国連機関、国際組織の資料、そのほかの文献を検討します。さらにさまざまな情報、データを収集し、関係者の話を取材して、報告してもらいます。</p> <p>秋学期は、テーマごとに分かれたグループの共同研究を進めます。</p>
履修の留意点：	<p>このテーマでは、ゼミでこれさえ輪読（みんなで読んで、それぞれ受け持ち部分について報告する）すればOK・・・といった文献はありません。国際問題に積極的関心のある学生、示された文献を読むだけでなく、いろいろの情報に積極的にあたろうとする学生の参加を歓迎します。</p> <p>夏休み（9月初め）に国際ボランティア体験旅行を予定しています。</p>
目標と評価：	<p>3年次のゼミナールⅠの評価は、出席状況15%、日常の取り組み（分担報告の内容や質問、討論への参加の割合）40%、合宿などでの取り組み15%、秋のグループ共同研究発表30%を予定しています。4年次は、ほかのゼミと同様、2万字程度の長さの卒業論文を書いてもらいます（ただし、長いだけではだめ）。卒論の評価は45%。つまり、書かなければ不合格です。</p>
選考方法：	面談で決定。
履修が望ましい科目：	国際経済コース科目、社会理解科目をできるだけとっていることが望ましい。しかし、特定の科目はありません。

「ゼミナールⅠ」（担当者：内田 和夫）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	内田 和夫
テーマ：	市民としての「まち育て」、私のプランニング
概要：	道路や建物重視の「まちづくり」から、人と人の関係重視の「まち育て」へ。市民と市民が、互いを支えあい、はぐくみ合う関係が、さまざまに生まれる「まち育て」に注目が集まっています。ボランティアに私たちが心を魅かれるのも、無意識のうちにそうしたものを求めているからではないでしょうか。そうした、市民の「まち育て」は、自治体とのパートナーシップへと発展します。私たちの暮らしを身近で支える政府である自治体の役割もまた重要であるからです。そのことはまた自治体をも変えていきます。いわれたとおりの事をする職員から、市民との創造が可能な職員へ。このゼミでは、さまざまな「まち育て」の事例に学びながら、あなた自身の「まち育て」プランを作成することを目的とします。
授業方法：	春学期は「まち育て」の現場に言ったり、ビデオ を見たり、文献を読んだり、参加者自身が、学びたい、取り組みたいのはどういう分野なのか、見出す作業をします。また、どういう調査や、仕組みの勉強が必要なのかについても考えます。秋学期は、自分自身がどういう立場で、参加するのを見極めながら、（たとえば、主婦なのか、商店主なのか、自治体職員なのか、議員なのか、）プランの素描にかかります。個人ごとの作業とするか、共同の作業とするかは、参加者と相談の上、決めます。
履修の留意点：	2時間続きで現場へいってみることもあります。現場でがんばっている人との出会いで、刺激を受けたい人、人と人の協力で夢を持ちたい人、非営利の経済活動に興味のある人、自治体の仕事に関心のある人を歓迎します。
目標と評価：	「私のまち育てプラン」（5000字から10000字）を卒業論文として、作成することを目標とします。3年次の評価は、出席、現場調査、報告、ゼミ活動への取り組みなどを総合的に評価します。4年次 は、卒業論文を軸に評価する予定です。
選考方法：	志望理由を書いた作文と面接によります。
履修が望ましい科目：	「地方自治論」Ⅰ Ⅱ

「ゼミナールⅠ」（担当者：戎野 淑子）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	戎野 淑子
テーマ：	「働くこと」と「企業」
概要：	現在、人々の「働き方」が大きく変わりつつあります。正社員として、終身雇用を前提として働く働き方が少なくなってきたり、フリーターや派遣社員など多様な働き方が多く見られるようになってきました。また、若くして新規事業を成功させている人もいます。転職も珍しくなくなり、学校卒業後短期間で仕事を辞めてしまう人も少なくありません。給料の支払われ方も、年功序列から成果主義的になってきていると言われてます。このように状況がどうして起きているのでしょうか？働く場である「企業」の変化と、人々の働くことへの意識・行動の変化の両方が大きいと思われまます。そこで、「企業」と「働く人々（会社で働く人や起業家等々）」の双方の視点から、現在の変化について考えてみたいと思います。そして、その時に、日本経済全体の仕組みを理解しつつ、国際化や技術革新など私たちを取り巻く環境の変化についても、検討していきたいです。
授業方法：	春学期は、「働き方と企業」に関する文献（参加者と相談して決定）の輪読を行います。報告と討論を通じて、自分の問題意識を明らかにし、卒業論文のテーマを絞っていきます。 秋学期は、卒業論文のテーマについて、具体的に討論をし、グループでの共同研究を行います。
履修の留意点：	本ゼミナールは、グループでの共同研究も多く、全員が毎回出席することによって、初めて成り立つ授業です。皆で作っていく授業ですので、欠席や無責任な行動は、ゼミナールの全員に迷惑をかけることであることを理解していただきたいです。合宿や企業・工場見学などのイベントも行いたいと考えておりますので、「協力して、楽しいゼミを作ろう」と思ってくださいの方の参加を希望します。
目標と評価：	最終的には、卒業論文の作成（グループによる作成）が目標となります。 3年次は、日ごろのゼミへの取り組み状況（出席、発表、レポートなど）を評価します。 4年次は、それと卒業論文とを総合的に評価します。
選考方法：	簡単に志望理由を書いていただき、面談します。
履修が望ましい科目：	「日本企業と雇用システム」「労働と余暇の経済学」

「ゼミナールⅠ」（担当者：内藤 勝）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	内藤 勝
テーマ：	自然と農業
概要：	<p>・・・自然を尺度として現代を考え生きる。・・・</p> <p>現代は総て人の頭つまり脳が考え出したmonoである。パソコン、ジャンボ機、ミサイル、共産主義、資本主義、自由主義、哲学、物理学、化学、宗教、経済学等である。それは人の願望や欲望を満たしてきた。経済的欲望を満たした物的要素は石油である。この大量消費によって大都市が出現し、豊かな生活が可能になった。他方、それは大量の排ガスを排出する。二酸化炭素は年間64億t（1997）大気中に捨てられ地球の温暖化、酸性雨、肺ガン、小児喘息の原因にもなっている。このまま、この増大が続けば臨界点を越え70～80年で人類の歴史も終わるであろうと予測される。（松井孝典）現代はエントロピー（エネルギーの汚れ）的限界に達しようとしている。</p>
授業方法：	<p>以上の問題を既成の学問、宗教が解けるとは思えない。以上の世界に入らないものは「自然」だけである。自然の摂理を体得しそれに従う学問と生活こそ現代の行き詰まりを解く鍵であろう。</p> <p>それを知るために「農業体験」を重視する。5月田植え 8月稲刈り 11月餅つき、12月おしるこ大会 1月聞き酒大会 2月座禅の体験を通して「自然の摂理を体得する。」実践による直感力を磨きたい。</p>
履修の留意点：	特になし。知性よりも肉体労働を喜べる頑丈な手と足そして根性を尊ぶ。
目標と評価：	体験した者には、体得しただけの評価をしたい。
選考方法：	tokuni nasi
履修が望ましい科目：	tokuni nasi

「ゼミナールⅠ」（担当者：安田 利枝）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	安田 利枝
テーマ：	開発と環境
概要：	<p>ひとは誰でも豊かな暮らしがしたい。でも、物質的な豊かさを求めた経済開発、工業化、産業化は、公害問題や環境問題も生み出してきました。20世紀の負の遺産ともいべき公害・環境問題にはどのような解決の道筋があるのでしょうか？</p> <p>このゼミでは、環境と開発をテーマに、地域の公害問題に取り組んだり、生態系保全を行う市民運動、企業の社会的責任、行政による規制や支援策、税財政のグリーン化、そして国際貿易のありかたなどさまざまな解決の方途を考えます。私達一人一人が、有権者であり、納税者であり、労働者であり、消費者であり、そして直接・間接に投資家でもあります。そうした生活者の立場にたって物事を考えていくことを前提にします。</p> <p>飛翔祭には全員参加を求めます。</p>
授業方法：	<p>理論と事例研究を両軸にして学習していきます。すなわち、最初はウォーミング・アップとして数冊のルポルタージュや数本のビデオ作品から環境問題を知ることから始め、次に教科書として指定する文献を輪読会の形式で読み進めます。1人の報告に対して他のゼミ生全員で質疑応答・ディスカッションをしていく形になります。さらに、様々な社会運動や活動事例を考察するため、問題解決の現場で苦闘し活躍している人たちにお話を伺うこともしていきます。</p> <p>頭で考えたり本で読んだりするだけでなく、見たり、聞いたり、体全体で何かを感じることを、そして考え行動し続ける素晴らしい人たちに会ったという体験こそが、私達のなかの何かを変えてくれるはずです。何か問題を考える時、その現場やそこに生き暮らす人々の姿や顔が思い浮かぶようになり、それがまた、本や資料の読み方を変えることを期待しています。</p>
履修の留意点：	<p>ゼミ活動に取られる時間はかなりのものになるはずですが、毎回のゼミでは、報告者だけでなく全員がある程度準備をしてゼミに臨むことを求めます。現場や活動団体を訪問したりする際には、相応の時間が必要ですし、事前のアポイントや質問事項の用意など先方との連絡、帰ってからのお礼状書きなど様々な事柄がついてきます。</p> <p>ゼミのさまざまな活動に対して、知的好奇心に満ちて、周囲の人々への暖かな気持ちを失わず、主体的に取り組む学生を募集します。アルバイトを優先させる学生は実質的にこのゼミと両立させることは難しいと覚悟してください。</p>
目標と評価：	<p>最終的には卒業論文（10000字以上）を作成してもらいます。</p> <p>3年次は、ゼミ活動への主体的な参加度によって、4年次には、参加度50%、卒業論文の評価50%で成績評価をします。</p>
選考方法：	自分のプロフィール、ゼミ志望動機を含めた学習計画書の2つを提出してください。
履修が望ましい科目：	<p>2年次社会理解科目「地球と環境Ⅰ・Ⅱ」 国際経済コース2年次科目「国際援助論」 国際経済コース3年次科目「世界経済と資源」「環境と開発」 生活経済コース2年次科目「生活環境論」</p>

「ゼミナールⅠ」（担当者：山崎 康之）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	山崎 康之
テーマ：	ミクロ経済学—戦略的アプローチ
概要：	<p>本ゼミナールの研究対象は、「ミクロ経済学」（価格理論）です。それを戦略という視点から考えようというのが、本ゼミの目的です。</p> <p>ある一定の目標を持った個人が、様々な可能な行動の中から、その目標に照らして最適な行動を選択することを合理的意思決定と呼びます。戦略的アプローチ（ゲームの理論）は複数の個人の利害が相互に依存しあっている場での各個人のこの意思決定、すなわち、利害が対立する状況における合理的行動とはいかなるものであるべきかという問題を研究します。それは、相手がこちらを出し抜こうとしていることを知った上で、さらにその上をいこうと試みる戦略的行動の分析を通じて、競争と協調をめぐる紛争の一般理論であることを目指します。</p> <p>このゼミナールでは、社会科学の多くの分野でその応用が最近著しいこの瀬略的アプローチを取り上げ、そのミクロ経済学への応用について学びます。</p>
授業方法：	<p>春学期・秋学期とも梶井厚志・松井彰彦『ミクロ経済学—戦略的アプローチ』日本評論社、2000年を輪読します。輪読というのは、一人で読了するのが難しいような文献を集団で読破する方法で、ゼミの受講生の一人もしくは数名に文献の特定部分の内容や問題点をレジュメを用意した上で報告してもらい、他の参加者がそれについて質問・討議を行うことによって、その内容を理解していくものです。</p> <p>授業は4時限目に行います。</p>
履修の留意点：	<p>ミクロ経済学の理論とその応用に興味を持っている学生諸君の参加を歓迎します。</p> <p>また、数学を多少使います。</p>
目標と評価：	<p>最終的には、卒業論文の作成を目標としていますが、その過程において、文献の調べ方や討論・報告のやり方を習得していただきたいと思います。具体的には、四年次に三年次の輪読によってえられた知識や視点をもとに、履修者各自の興味あるテーマを設定し、卒業論文を何度かの中間報告を経て書き上げてもらいます。</p> <p>したがって、三年次の評価は、ゼミナールへの参加程度（出席をしたかどうかではなく、報告をちゃんと行ったかどうか質問を積極的に行ったとか）に基づいて下されます。四年次のそれは、卒業論文の評価によります。なお卒業論文は、最低20000字の字数を想定しています。四年次は個別指導になります。</p>
選考方法：	二年次春学期までの成績および面接により決定します。
履修が望ましい科目：	<p>経済学関係の科目（経済学Ⅰ、Ⅱなど）を出来るだけ多く履修してください。</p> <p>特に経済学Ⅱが履修済みであることが望ましい。</p>

「ゼミナールⅠ」（担当者：山本 孝夫）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	山本 孝夫
テーマ：	財務会計
概要：	本ゼミナールでは、企業会計の基礎理論を体系的に理解するため、財務会計の構造を考察して、実証的かつ理論的研究能力の涵養を計りたいと思います。 企業における経営活動は、営利活動と非営利活動に分けられますが、とくに営利活動に限定して、社会人に必要な基礎知識、すなわち貸借対照表項目・損益計算書項目と資金計算書項目の関連性を学問的に修得することを目指したいと思います。
授業方法：	3年次は、春学期に簿記学・会計学の基礎理論を深めるため、資産会計論、資本会計論、株式会社会計論などの諸問題を取り上げ、関連する文献の輪読を行います。 秋学期には、有価証券報告書を利用して財務分析を行い、企業の収益性や安全性など財務諸表の読み方について研究したいと思います。 4年次は、卒業論文の作成を目指して、論文の進捗状況に合わせた発表と問題提起等を行います。
履修の留意点：	ゼミナールは、学生が主体で授業が進められるので、簿記・会計に興味を持つ学生であり、簿記の検定資格試験の取得者（少なくとも、会計リテラシの単位取得者）であることが望ましい。意欲的な学生諸君の参加を期待したい。 なお、定期的にゼミ合宿と他大学との合同ゼミ（コンパ）を予定しています。
目標と評価：	主体的な研究姿勢を身に付け、特定の学問について問題意識を明確に持つことができる人材を育成したいと考えております。 評価は、卒業論文が最終的なものとなりますが、ゼミナールへの積極的な参加と研究姿勢も重要な要素となります。
選考方法：	(1) 面接を重視します。 (2) 1・2年次の成績を参考にします。 (3) ゼミ生としてのマナーが身に付いている者を条件とします。
履修が望ましい科目：	3・4年次科目「財務会計論」、「国際会計論」、「連結会計論」、「経営分析論」

「ゼミナールⅠ」（担当者：井上 行忠）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	井上 行忠
テーマ：	簿記論・財務諸表論
概要：	本ゼミナールでは「財務会計」を研究対象とする。財務会計とは、企業の経営成績および財政成績を外部利害関係者（株主、債権者、従業員、税務官庁、監督官庁、取引先、消費者等に報告する会計である。したがって、財務会計は、単に一部の利害関係者の利害に基づくものではなく、企業を取り巻く不特定多数の利害関係者の意思決定に役立つものである。本ゼミナールは、公認会計士試験二次試験・税理士試験・日商簿記検定1級における「簿記論・財務諸表論」の計算および理論の理解を深めることを主要なテーマとする。
授業方法：	授業方法は、各テーマごとに担当者を決定し、発表（報告）形式で行う。 春学期のテーマは、「企業会計の基本原則」「企業会計制度と財務諸表」「損益計算原理と損益計算書の構造」「貸借対照表の構造と貸借対照表原則」「流動資産」「有形固定資産」「無形固定資産および投資その他の資産」「繰延資産」を中心に学習を行う。 秋学期のテーマは、「負債会計」「資本会計」「金融商品会計」「外貨換算会計」「税効果会計」「財務諸表の作成」「連結会計」を中心に学習を行う。 なお、学習内容については、ゼミ受講者と相談して決定する。 注：使用テキストは、ゼミ受講者の目標内容により決定する。
履修の留意点：	将来職業会計人（会計士、税理士、会計事務所、会社経理等）を志す学生の参加を希望します。
目標と評価：	最終的には、卒業論文の作成を目標とする。卒業論文の作成（資料の収集方法、論文の書き方等）については、3年次に指導を行う。 評価については、目標資格の取得状況、出席状況、報告内容等、総合的に評価を行う。
選考方法：	志望理由、面談の上、決定する。
履修が望ましい科目：	3年次設置科目：財務会計論、管理会計論、連結会計論

「ゼミナールⅠ」（担当者：飯野 幸江）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	飯野 幸江
テーマ：	会計学
概要：	本ゼミナールでは会計学の基礎知識を学びます。具体的には、会計報告手段としての財務諸表（損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書）と、それを支える会計理論についての理解を深めていきます。これらの知識をもとに、経営における会計の役割、社会と会計の関係について考えていければと思っています。
授業方法：	会計学の基礎知識を修得するために、会計学に関する基本的な文献を輪読します。その際、テーマごとに担当者を決め、担当者がそれについて発表していく形式で進めます。さらに発表内容を全員で討論することにより、疑問点を明らかにし、理解を深めていきます。このようなプロセスを通じて、自らの興味の対象を見つけ、卒業論文を作成する際の足がかりを作っていきます。
履修の留意点：	本ゼミナールは、基本的な簿記の知識（日商簿記検定3級程度）を持っていることを前提に授業を行います。また、ゼミナールは講義とは違い、学生が主体的に参加することで内容が身につくものです。受身ではなく、積極的に参加する意思のある学生を期待します。
目標と評価：	「会計」という素材を用いて、自ら問題点を見出し、それを自らの頭で考えて解決する能力を身につけることを目標とします。 3年次の評価は、簡単なレポートとゼミナールへの取組の姿勢（発表内容、参加態度など）によって決定します。
選考方法：	志望理由書をもとに決定します。
履修が望ましい科目：	3・4年次設置科目「財務会計論」、「管理会計論」、「国際会計論」、「連結会計論」

「ゼミナールⅠ」（担当者：古賀 義弘）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	古賀 義弘
テーマ：	産業論
概要：	本ゼミナールの研究は「産業論」です。特に現代日本の産業及び企業の構造や、直面している諸問題について研究を進めます。長い不況のもとにあって、苦境に陥っている産業、経営努力をしている企業、海外に展開している企業などを経営の側や労働の側から分析していきます。具体的なテーマの設定は個人あるいは複数で行います。
授業方法：	春学期には『日本のビッグ・インダストリー』8巻シリーズ（古賀他編著 大月書店）の中から取り上げて輪読から始めます。全員が必ず分担部分をまとめて発表し、それをもとに論議をして認識を深めていきます。また秋学期には、4年次に向けてテーマ設定を頭においた発表形成を進みます。
履修の留意点：	オリジナルな卒業論文に仕上げていくことが大きな目標ですから、多くの本や資料に直接あたって研究を進めていきます。さらに、夏合宿も予定しています。
目標と評価：	最終的に卒業論文を作成します。したがって3年次の輪読などで蓄えた知識と方法をもとにテーマを設定し、4年次では中間報告やミーティングによって完成させていきます。また4年次になれば、3年生の学習上の指導をすることで力量アップを図ります。評価については、ゼミナールへの参加と受講態度など総合的に判断して決めます。卒業論文は2万字程度を規定とします。
選考方法：	面接と小論文による決定
履修が望ましい科目：	経済史、戦後日本経済史、産業構造論

「ゼミナールⅠ」（担当者：松行 彬子）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	松行 彬子
テーマ：	グローバル企業と経営
概要：	<p>20世紀末から21世紀にかけて経営環境の激変とともに企業経営のパラダイムは根底から転換しました。市場のグローバル化・技術革新の加速化などにより、多くの日本企業はグローバル企業へと変容しています。</p> <p>本ゼミナールでは'企業のグローバル経営とは何か'を追求します。その中でも特に'企業の競争力'に焦点を当てて、新しい時代の真の企業の競争力を理論的に、実証的に検討します。分析のツールとして、各種の資料および基礎的な経営分析を用います。これまでに、競争力の源泉、パートナーシップについて輪読しました。また、ケースとして、自動車産業等を取り上げ、調査・研究をしました。</p> <p>1,2年で培った経営学の学習を基礎に、受講生が広く経営学に関して問題意識をもち、問題解決へと発展するよう指導したいと思っています。</p>
授業方法：	<p>春学期には企業の競争力に関する最新の文献を輪読します。毎回、指名された各レポーターが内容を発表し、全員で問題点を討論します。</p> <p>各種の資料の購読、基礎的な経営分析を通して、企業の業績を分析・比較する方法を習得します。</p> <p>秋学期には、ケース・スタディを行います。ケースごとにグループに別れ、資料収集をし、競争力を分析し、その結果を比較し、成果をレポートにまとめます。このときに、経営学に関するレポートの書き方を指導します。</p>
履修の留意点：	<p>企業経営に広く興味を持ち、ゼミナール活動に積極的に取り組む熱意ある学生の参加を歓迎します。</p> <p>合宿、工場見学、企業訪問などを予定していますが、参加者との相談により選択します。これまでに、ビール工場・タイヤ工場等を見学しました。</p>
目標と評価：	<p>4年次の卒業制作を最終目的とします。そのために、3年次には、資料収集、企業評価方法、基本的な専門知識などをゼミ活動を通じて習得します。</p> <p>3年次の評価は、出席、授業時の報告・発表、ゼミナールへの取り組みの熱意などを総合的に評価します。</p>
選考方法：	<p>面談によって決定します。そのときに、成績表・本ゼミナールへの志望動機を400字程度にまとめたものを持参してください。</p>
履修が望ましい科目：	経営戦略論、経営学Ⅱ

「ゼミナールⅠ」（担当者：青山 悦子）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	青山 悦子
テーマ：	日本企業における人事労務管理研究
概要：	日本企業における人事労務管理は、現在大きな変革期にあります。終身雇用や年功制はすでに“博物館”には入りつつあるとさえ言われています。代わって登場したのが、多様化、弾力化、成果主義、個人主義などのキーワードに代表される新たな人事労務管理システムです。日本企業は、どのように変わろうとしているのでしょうか。人事労務管理と労使関係の新たな動向を検証し、それについて深く議論することが、本ゼミナールの主要なテーマとなります。あわせて、ゼミ生各自のこれからの「働き方」を、深く考え、議論する「場」となることを希望しています。
授業方法：	春学期、前半は激動期にある人事労務管理の様々な側面を新聞記事を材料にしながら皆で考えていく予定です。毎回レポーターによる報告と、それに対する質疑、討論を重ねながら、現在進行しつつある日本企業における人事労務管理の「今」を学んでもらうことを主眼とします。後半は、秋以降の就職活動に備え、各自興味のある業界研究を行ってもらう予定です。ちなみに現3年生は、自動車、コンビニ、外食、音楽、福祉の各業界（業種）の報告を個人あるいはグループで2回行い、それぞれの業界の現状を身近なものとししました。秋学期は、各自テーマを決め、そのテーマについて深めてもらうことを目標とします。併せて当該研究に関わる資料収集の方法も身につけてもらう予定です。最終的にはレポートとしてまとめることで、卒業論文作成のためのスキルの向上を目指します。
履修の留意点：	ゼミの活性化を図るため、報告準備のための作業に十分な時間をとって取り組める学生、さらに夏季合宿や企業・工場見学などをゼミの重要なイベントとして取り組む予定なので、各種の役割を積極的に引き受け、ゼミを主体的に「つくりあげていこう」とする意欲的な学生の参加を希望します。
目標と評価：	最終的には、卒業論文（資料などを含めて、約2万字程度）の作成が目標となります。卒業論文を提出できないと単位は認定されません。3年次の評価は、出席、報告、ゼミ活動への取り組みなど、総合的に評価します。4年次は、それに卒業論文の評価が加味されます。
選考方法：	面談（志望理由など）の上、決定します。
履修が望ましい科目：	3年次設置科目「労務管理論Ⅰ」、「労務管理論Ⅱ」

「ゼミナールⅠ」（担当者：和田 耕治）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	和田 耕治
テーマ：	中小小売業の研究、商業集積の活性化
概要：	本ゼミナールでは、わが国の中小商業を取り巻く問題を考察するために、中小商業の実態、経営、政策などに関して、多面的に検討します。また、中小小売業と大型店、ショッピングセンター、地域、行政等との関わりを意識しつつ、今日における商業集積の活性化、街づくり、中小小売店の経営の課題を考えます。
授業方法：	わが国における中小商業あるいは街づくりに関する基本的な知識を修得するために中小商業に関する基本的な書籍を輪読します。また、視聴覚教材を用いて中小商業の実態把握を商店街、商業集積の実態調査を行います。
履修の留意点：	中小商業、流通について興味を持っている学生の参加を歓迎します。卒業後の進路として、家業を継ぐもの、公的機関や金融機関等において中小企業に対する支援を職業としたい学生の参加を歓迎します。履修者は、平常の授業週において、週1コマの参加を必要とします。さらに、商店街やショッピングセンターの視察を考えています。
目標と評価：	最終的には卒業制作を目標としますが、3年次はその過程における基本となる知識の修得、問題意識の設定に重きをおきます。3年次の評価は、ゼミナールへの出席と授業中での報告、発言などに基づいて下されます。4年次に行う卒業論文については、16000字以上の本文と2000字程度の要旨を作成してください。
選考方法：	定員を超えた場合は2年次春学期までの修得総単位数で決めます。 3年次編入者等については、抽選で決めます。
履修が望ましい科目：	中小企業論と事業創造論は履修してください。

「ゼミナールⅠ」（担当者：中野 正健）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	中野 正健
テーマ：	現代世界経済下の企業経営
概要：	共通通貨ユーロ誕生、そして東欧諸国を加えたEU25ヶ国体制下の欧州経済、I.T革命を軸に発展 又I.Tバブル崩壊と9.11後経済異変と戦う米国経済、WTO加盟を基軸に発展中の中国経済、石油を中 核としたエネルギー源の各国入り乱れての争奪戦、デフレ経済からの脱却に挑戦する日本経済。こうし た世界経済情勢下の企業経営を研究対象とします。
授業方法：	講義と各種ビデオを軸に討議討論を重ね、これを基軸に各自独自に主題を研究。アドバイスを受け乍ら この成果を研究論文として取り纏め発表。 (夏休み中に軽井沢、鎌倉等のセミナーハウスにて集中講義をする場合もありま す)
履修の留意点：	世界政治経済社会と企業経営に、幅広い視点から考察することに興味をもつ意欲的な学生諸君の参加を 歓迎します。 履修者は、平常の授業週において、週一コマの参加を必要とします。
目標と評価：	最終的には、卒業論文（20000字程度）の作成が目標となります。卒業論文を 提出できないと単位は認定されません。 3年次の評価は、出席、分担報告、ゼミ活動への取り組みなど、総合的に評価し ます。4年次は、それに卒業論文の評価が加味されます。
選考方法：	志望理由、面談の上、決定します。
履修が望ましい科目：	3年次設置科目「資金調達論」「投資戦略論」の履修。

「ゼミナールⅠ」（担当者：平井 東幸）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	平井 東幸
テーマ：	流通業の研究(1)
概要：	経済活動を身体にたとえると、「流通」は血管のようなものです。これがなくては経済は一日たりとも成り立ちません。このゼミナールでは、この流通業を具体的な事例を取り上げて調査します。100円ショップや、アウトレットなどの新しい業態はなぜ登場するのか、あるいは、安売りや特売はなぜ常態化するのか、メーカーから小売業までの流通経路はどうなっているのかなどを調べて、消費者としてもっとも身近な小売業を中心にして流通業界と流通企業についての理解を深めたいと思います。
授業方法：	<ol style="list-style-type: none"> 1 新聞・雑誌・ビデオの利用して、コンビニなどの事例を研究します。 2 外部から講師を招いたり、企業見学も実施したい。 3 春学期末までにレポートのテーマを決め、秋学期ではその発表を行います。 なお、テーマは流通業に限定せず、広く経営経済に関係するものであればよく、次数は8000字以上とします。なお、このレポートは4年次において卒業制作（本ゼミでは卒業論文）に発展させてもらいます。 <ol style="list-style-type: none"> 4 使用するテキスト、参考書については、追って指示します。
履修の留意点：	<ol style="list-style-type: none"> 1 流通業に関心を有する諸君、および流通業を通して経済経営を勉強しようとする諸君を歓迎します。 2 毎回、トピックをめぐる意見交換をしたいので、各人が新聞・雑誌の記事を持参すること。 3 企業見学等にも参加できること。
目標と評価：	目標：流通業の研究を通じて、経済の動向、企業の実態、日々のビジネスの動き等を理解してもらいたいと思います。あわせて、よき社会人としてのマナーを身につけてもらうよう指導します。 評価：平常点とレポートを中心に行います。また、4年次では卒業論文（16000字以上）の評価を中心に行う予定です。
選考方法：	面談によります。
履修が望ましい科目：	とくにありません。

「ゼミナールⅠ」（担当者：中村 修）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	中村 修
テーマ：	研究テーマの設定・遂行と論文制作演習
概要：	自身の興味に基づいて、自由に研究テーマを設定します。次いで、設定した研究テーマに関連した分野での調査を行います。そして、関連分野における動向を参考に、研究の課題を設定し、具体的に研究活動に入っていきます。 論文制作演習では、春学期開始時から少しずつ執筆を進めていきます。学会発表のスタイルに準じた論文の雛形を示しますので、これに肉付けをしていく方法で内容の充実と、深化を進めていきます。
授業方法：	各自の自主的な研究活動を基本とし、ゼミナールの時間では、それぞれ1週間分の卒業論文執筆の進捗報告をしてもらいます。また、報告内容に対する意見交換を行います。さらに必要に応じて、関連分野の補足説明も行っていきます。 具体的には、設定した研究テーマについて、以下の各研究項目を明らかにしていきます。 (1) 研究の目的：ピンボケにならないようにするためもしっかり考える必要があります。 (2) 研究の背景：なぜ、その研究をする必要があるのか、この研究が貢献できることは何なのかを明確にする必要があります。 (3) 研究の課題：この研究で解決しようとする問題は何なのかを絞ります。 (4) 類似研究の動向：先人はどこまで、その研究を進めたか、調査・分析を行います。 (5) 研究の課題に対する検討結果：具体的な研究内容を、各研究課題に対応して示していきます。 (6) 結論：得られた研究成果の要点を明らかにします。 (7) 今後の研究課題：やり残した未解決課題を明示します。 (8) 参考文献：研究を遂行するに当たって、重要と考えられる文献を示します。 調査や基本知識の習得に必要な文献や図書については、極力、ゼミナール文献として準備していきたいと思えます。
履修の留意点：	特に以下の3つは重視します。 ★自主的に活動する。 ★約束を守る。守れない約束はしない。 ★ゼミナールを欠席しない。 ※特に情報処理に関して詳しい必要はありません
目標と評価：	以下を個人の成長の基準としたい。 (1) 論理的にプレゼンテーションができる。 (2) 自己の調査結果を報告書としてまとめられる。 (3) 自己の検討結果を、調査結果と区別してまとめられる。 これらの結果が、最終的に論文などに結びついていけばよいが、あえてその論文としての質は問わない(プロセスを重視する)。
選考方法：	(1) 申込書の提出後、必要な場合には面談を行います。 (2) 原則として、定員になるまでは、特に問題が無い限り受け付けます。
履修が望ましい科目：	特にありません。

「ゼミナールⅠ」（担当者：滑川 光裕）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	滑川 光裕
テーマ：	システム情報論、システムシミュレーション、モデリング論
概要：	シミュレーションという言葉は、「買い物シミュレーション」「シミュレーション・ゲーム」など、日常的にも取り入れられており、疑似体験を意味することはよく知られている。古くは製鉄所での工程管理から発生したといわれているが、現在では電子部品から工場まで、様々な設計を行う際に用いられている。また、交通運輸分野では、新幹線・スペースシャトルなどは、リアルタイムシミュレーションにより運行管理がなれている。 本ゼミナールでは、このシミュレーション技術や最新の情報技術を組み合わせることにより、経営・経済分野を含めた社会現象において、現状を分析し、将来、どのようなことが起きるかを予測するためのシステムを構築することを目的としている。 なぜ統計予測という手法もあるのにシミュレーションが使われるかということ、統計学だけでは捕らえきれない複雑な現象が、それぞれのシステムに依存して生じるためである。そのような現象をより明確に解析するためには、実際のシステムの特徴を抽出し、それをコンピュータ上に再現するモデリングという手法を用いる。
授業方法：	本ゼミナールでは、前述の通り、シミュレーション技術や最新の情報技術を用いることにより、現状の分析・将来予測のためのシステム構築を行うことが目的である。 その前提として、プログラムが必要となるので、ゼミナール配属決定と同時に（2年秋学期）に、プログラミングの勉強を始める。汎用のCやJavaなどの言語の他に、シミュレーション専用の言語もあるが、科学的な理論をモデリングに忠実に反映するためには、汎用の言語が望ましい。 3年次からは、情報システムやシミュレーション関連の書籍を中心に、輪読・輪講を行う。それと同時に簡単なシステムのプログラム作成の練習も行う。 3年次後半～4年次には、卒論のテーマ設定と資料収集、テストプログラムを行い、自分の研究方向性について適切であるかを明確にし、卒論へと進むこととなります。
履修の留意点：	本ゼミナールでは、素直に学びたいというゼミナール学習への熱意を必要とする点を強調します。 また、ゼミナールでは、普段の出席はもとより、ゼミナールでの以下のイベント ・合宿（春合宿・夏合宿） ・春期休暇および夏期休暇の集中ゼミ（2週間ほど） ・学園祭でのパネル展示およびプレゼンテーション ・神田古本街ツアーおよび秋葉原電気街ツアーへの参加についても欠席をしないことが条件となります。 特に、本ゼミナールでは、先輩と後輩あるいは同輩どうしで共同研究することもあり、共同研究しないでも、似た分野を卒業研究する者どうしで議論をすることがありますので、言うまでもないことかも知れませんが、協調性も重視しますので注意してください。
目標と評価：	最終評価は、卒業研究の成果と卒業論文の作成によります。 3年次は、ゼミ活動への熱意を中心に、計画性と成果を見ながら、4年次の研究へ続けることができるかの判断をします。4年次には、各種研究発表の義務がありますが最終的には、前述の通りの最終評価となります。
選考方法：	面接を行います。まずは、ゼミに関するより詳細な説明をしますので、研究室に来てもらいます。その後、ゼミナールへの志望動機を書いた文書を提出してもらい、選考を行います。
履修が望ましい科目：	コンピュータ入門

「ゼミナールⅠ」（担当者：南 憲一）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	南 憲一
テーマ：	経営科学
概要：	<p>一般に経営科学と呼ばれる分野の中で、統計解析、データ解析、シミュレーションについて学習を進めます。これらの理論を学んだ上でExcelを用いた実際の経営の問題への応用を行います。</p> <p>統計解析の内容 記述統計、確率、正規分布、標本分布、推定、検定</p> <p>データ解析の内容 分散分析、単回帰分析、重回帰分析、主成分分析、判別分析</p> <p>シミュレーションの内容 擬似乱数と確率分布、計画の問題、決定の問題、在庫の問題、待ち行列の問題</p>
授業方法：	<p>3年次 統計解析、データ解析、シミュレーションの様々な手法について教科書の輪読とExcelを用いた実習を通して学習を進めます。輪読では、各受講生の担当を決め順番に授業までに内容を熟読の上、内容を解説してもらいます。引き続き、実際の経営の問題に関するExcelを用いた分析を行います。</p> <p>4年次 卒業論文作成のために必要な文献購読を行います（輪読形式）。さらに研究テーマを各自設定し、そのテーマによって研究を進めます。研究の途中経過の報告を随時行います。最終的に各自卒業論文を完成させます。</p>
履修の留意点：	<p>通常の授業とゼミナールの異なる点は、ゼミナールが学生参加型・学生主体の授業であるということです。従って、まず欠席しないということが大事です。さらに学生どうしお互い協力しながら学習を進めていくということが求められます。夏期休暇にはゼミ合宿を行い、春学期の学習成果を発表しあう予定です。</p>
目標と評価：	<p>3年次 経営科学の手法を理解し、実際の問題に適用できる能力を養うのが目標です。</p> <p>4年次 研究論文の作成が求められるので、研究のための 1. 目的の設定 2. 方法の選択 3. 実施 4. 結果の評価 という各フェーズをこなし、論文を作成する能力を養うことを目標とします。</p> <p>評価は 1. 日常の受講状況 2. 発表状況 3. 提出レポート、卒業論文の内容 によって行います。</p>
選考方法：	<p>面談で選考します。 これまでの履修状況・出席状況も参考にします。</p>
履修が望ましい科目：	統計学Ⅰ・Ⅱ（2年次までに履修していない人は3年次に履修してください）

「ゼミナールⅠ」（担当者：森本 孝）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	森本 孝
テーマ：	「学び」と「コンピュータ」～学習・教育・人材育成にコンピュータを効果的に活用する方法について考える
概要：	<p>「ビジネス」のためのコンピュータの活用から「人の成長」のためのコンピュータの活用へ。これが、このゼミナールのキーコンセプトです。</p> <p>コンピュータというと「仕事」に使うものというイメージがあります。確かにワープロソフトや表計算ソフトの使い方を学べば仕事の効率は上がるかもしれません。しかし、コンピュータの可能性はそんなものでしょうか？コンピュータは単なる「ビジネスマシン」にすぎないのでしょうか？</p> <p>このゼミナールでは、「仕事」とコンピュータの関係という狭い視点からではなく、「人の成長」にコンピュータをどのように役立てることができるかについて学んでいきます。特に、『人間の「学び」を支援するツールとしてのコンピュータの役割』『教育支援ツールとしてのコンピュータの役割』に注目します。</p> <p>生涯学習社会を迎えようとしている現在、e-Learningなど、学習や教育にコンピュータを効果的に活用する方法の研究は社会的な重要性を増しています。また、あなた個人としても、コンピュータを自分の学習に生かす方法について考えることは生涯にわたる財産となるはずです。</p> <p>「学び」「学習」「教育」「コンピュータ」などのキーワードにピンと来る人を大募集！一緒に楽しく学んでいきましょう！</p>
授業方法：	<p>■ 3・4年次共通(スキル系の学習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PowerPointなどを使ったプレゼンテーションの技能を身につけます。 ・コンピュータを利用したレポート・論文の基本的な作成方法を学びます。 ・インターネットを利用した各種プレゼンテーションの方法 (Blog、Wikiなど)を学びます。 <p>■ 3年次(知識系の学習)</p> <p>3年次は、各種の文献の購読による基礎知識の習得と論文作成スキル・プレゼンテーションスキルの育成が中心です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種の文献の購読により、基礎的な知識を身につけます。 ・卒業制作のテーマを決めます。 <p>■ 4年次(知識系の学習)</p> <p>4年次は、各自のテーマに即した卒業制作(論文あるいはe-Learning教材など)の作成を中心とします。</p>
履修の留意点：	<p>①「概要」(上記)と「目標と評価」(下記)の「目標」の部分を読んで、少しでもピンとくるものがあった学生の参加を希望します。</p> <p>②学園祭への参加、合宿やコンパの実施を予定しています。これらに積極的に参加できる学生を求めます。</p> <p>③ゼミナール時間外の活動をおこなう場合に、積極的に参加できる学生を求めます。</p> <p>④本を読むことが好きな学生、あるいは、抵抗なく本を読めるようになりたいと強く願っている学生を求めています。</p> <p>⑤合宿への参加や本の購入などにかかる費用を負担できる学生を求めます。</p> <p>⑥あまり親しくない人とも共同作業できる学生を希望します。</p> <p>⑦コンピュータのスキルは要求しませんが、「コンピュータは大嫌いだ」という学生の履修は望ましくありません。</p>
目標と評価：	<p>■ 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の人生を豊かにするための手段としてコンピュータを活用できるようになる。 ・効果的な「学び方」についての知識が少し増える。 ・人に「教える」のが少しはうまくなる。 ・人前で「発表する」のが少しはうまくなる。 ・見知らぬ人との共同作業がちょっとだけうまくなる。 ・本や文献を読むスピードが少しは上がる。 ・文章を書く力が少しは向上する。 ・コンピュータの操作方法が少しは上達する。 <p>■ 評価</p> <p>○ 3年次 3年次は、ゼミ活動への主体的な参加度80%とゼミで課された課題20%によって評価します。</p> <p>○ 4年次 4年次には、参加度50%、卒業論文の評価50%で成績評価をします。 4年次には、卒業制作(論文あるいはe-Learning教材とその趣意書など)を作成します。卒業制作を提出しない場合には、「ゼミナールⅡ」(4年次)の単位の取得はできません。</p>
選考方法：	<p>入ゼミ希望者の人数に関わらず、面談を実施します。面談の際には、志望理由を書いた文書を持参してください。なお、入ゼミ希望者が多数となった場合には、面談結果と2004年度春学期までの成績で入ゼミを許可するかどうかを判断します。</p>
履修が望ましい科目：	なし。

「ゼミナールⅠ」（担当者：尾村 敬二）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	尾村 敬二
テーマ：	国際経済協力を学び参加する
概要：	<p>国際経済協力とは何か。この問題は範囲が広く、その具体的なイメージはつかみにくい。いくつかの項目をあげると以下の諸点である。</p> <p>1. 国際間の貿易および投資。2. 先進国からの開発途上国に対する援助。3. 開発途上国あるいは地域の抱える経済・政治・社会問題。4. 貧困問題。5. 資源と環境。6. 人材開発。7. 民主主義などの政治問題。等々である。</p> <p>こうした問題はすべて連関しており、1つを取り上げて論じるわけにはいかない。しかし、逆に言えば、ひとつの問題に焦点を当てながら、その視点から協力問題を探求しなければならない。国際協力を実際に理解しようとする、あらゆる局面で論理的矛盾が生じる。これからの世界はこの矛盾をいかにして解消するかが大きな課題である。本ゼミでは、国際経済協力を具体的に解き明かし、実際に参加行動の道を探ることが目的である。</p>
授業方法：	<p>授業方法はゼミ履修生の自発的テーマ設定を基本とし、そのテーマを2年間かけて卒業制作としてまとめる。もちろんテーマ設定について、担当教員である尾村から適切なアドバイスを行う。学習は学生個人の調査研究能力の向上を図るため、毎月のレポート作成と発表、およびそれについてのゼミ生間の討論を行う。調査はインターネットを活用し、資料収集を行うとともに、基本的文献を読む。</p> <p>個人の調査能力の向上とともに重視することは、共同作業による成果の作成をすることである。3～4人の小グループを編成し、共通するテーマ（必ずしも同じテーマでなくてもよい）について共同調査・研究を行う。その過程で、各グループでリーダーシップを発揮できる学生を育成する。</p> <p>2年度目には4年生学生による3年生の指導を行う。</p>
履修の留意点：	<p>まず強調したいことは出席の重視である。年8回以上の欠席者は単位取得を不可とする。</p> <p>国際経済協力をテーマとするのであるから、英語文献を読めるようにすることが不可欠である。ただし、履修申請時において高い英語読解力を必要としないが、英語読解能力をつけたいという意味とそのための努力を示す必要がある。</p> <p>経済学についての知識は必要であり、新聞の経済記事が読めるようにしておくことが履修の条件である。</p>
目標と評価：	<p>本ゼミの目標は、4年次卒業にあたり、社会人として活躍できる最低限の国際問題についての知識と理解力を得ることである。そのためには日常の勉強の積み重ねとして、毎月のレポートを義務付ける。調査・研究能力の向上を評価するために、レポート作成による書く力を評価するとともに、発表および討論能力を観察することで、課題についての理解力を審査する。</p> <p>具体的な目標設定は、テーマを決定した後に、学生個人は学習計画を作成し、担当教員との相談によって、その学習計画達成度をチェックする。チェックは各人の能力に応じて、柔軟に行う。</p>
選考方法：	定員に満たない履修申請者の数であれば、全員受け入れる。選考が必要な場合には面接を行う。
履修が望ましい科目：	経済学および国際関係に関する科目の履修が望ましい。これは必須条件ではない。

「ゼミナールⅠ」（担当者：井上 行忠）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	井上 行忠
テーマ：	簿記論・財務諸表論
概要：	本ゼミナールでは「財務会計」を研究対象とする。財務会計とは、企業の経営成績および財政成績を外部利害関係者（株主、債権者、従業員、税務官庁、監督官庁、取引先、消費者等に報告する会計である。したがって、財務会計は、単に一部の利害関係者の利害に基づくものではなく、企業を取り巻く不特定多数の利害関係者の意思決定に役立つものである。本ゼミナールは、公認会計士試験二次試験・税理士試験・日商簿記検定1級における「簿記論・財務諸表論」の計算および理論の理解を深めることを主要なテーマとする。
授業方法：	授業方法は、各テーマごとに担当者を決定し、発表（報告）形式で行う。 春学期のテーマは、「企業会計の基本原則」「企業会計制度と財務諸表」「損益計算原理と損益計算書の構造」「貸借対照表の構造と貸借対照表原則」「流動資産」「有形固定資産」「無形固定資産および投資その他の資産」「繰延資産」を中心に学習を行う。 秋学期のテーマは、「負債会計」「資本会計」「金融商品会計」「外貨換算会計」「税効果会計」「財務諸表の作成」「連結会計」を中心に学習を行う。 なお、学習内容については、ゼミ受講者と相談して決定する。 注：使用テキストは、ゼミ受講者の目標内容により決定する。
履修の留意点：	将来職業会計人（会計士、税理士、会計事務所、会社経理等）を志す学生の参加を希望します。
目標と評価：	最終的には、卒業論文の作成を目標とする。卒業論文の作成（資料の収集方法、論文の書き方等）については、3年次に指導を行う。 評価については、目標資格の取得状況、出席状況、報告内容等、総合的に評価を行う。
選考方法：	志望理由、面談の上、決定する。
履修が望ましい科目：	3年次設置科目：財務会計論、管理会計論、連結会計論

「ゼミナールⅠ」（担当者：久保 真）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	久保 真
テーマ：	グローバル化する世界経済，そこにおける国民経済
概要：	<p>テレビや新聞などを通じて「グローバル化」とか「グローバリゼーション」といった言葉を耳にしたことがない人はいないでしょう。ヒト・モノ・カネが国境を越えて動くということが当たり前のこととなってきたということなのでしょうが、それは私たちの身の回りでもさまざまな変化として現れています。中国工場で縫製されたユニクロの服を着て、オーストラリア産の小麦粉とメキシコ産の豚肉で作ったカツサンドをバクつきながら、ワールドカップや大リーグの生中継を、マレーシア工場で組み立てられたパナソニックのテレビで見る。なんていう情景は不思議でもなんでもありません。一見するとこのような変化はわれわれの生活を大変便利にしてくれているようですが、他方で「グローバル化はけしからん」なんていう論調も目立ちます。曰く、「成長する中国経済に日本経済は飲み込まれてしまう」とか「中国から流入する大量の激安商品が日本のデフレの原因だ」とかです。果たして、グローバル化はわたしたち国民経済にどのような影響を与えているのでしょうか？</p> <p>本ゼミナールでは、経済学理論という武器でもって上のような問題に取り組むということを主題とします。ここで言う経済学理論とは、「比較生産費説」とか「相互需要説」といった国際経済学固有の理論だけでなく、国民所得決定についての理論も含んでいますので、世界経済のみならずマクロ経済学の理論に興味関心のある学生の履修も歓迎です。</p>
授業方法：	<p>春学期は、国際マクロ経済学の理論を講義と質疑応答によって学んでいきます。2004年度は『入門マクロ経済学（第4版）』（中谷巖著、日本評論社、2000）をテキストブックとして採用しました。秋学期は、国際経済に関するテキストを輪読します。2004年度は『人間が幸福になる経済とは何か』（ステイグリッツ著、徳間書店、2003）をテキストブックとして採用しました。2005年度のテキストブックは、履修者の顔ぶれや興味・関心を見て決めたいと思います。</p> <p>また、夏休みにはレポート課題を課し、夏合宿や秋学期に報告をしてもらいます。</p> <p>なお、四年次の「ゼミナールⅡ」では、卒業論文の作成指導を中心に行う予定です。</p>
履修の留意点：	<p>(1) 約束を守り、自律的に行動することのできる学生を歓迎します。逆に、約束が守れず、他人任せの行動しかとれない学生は、単位を認定しません。</p> <p>(2) ゼミナールには、合宿やコンパといった授業以外の要素が含まれますので、これらに積極的に参加することができる学生を歓迎します。</p> <p>(3) 世界経済に関心がある、理論的思考を好む、本を読むのが無性に好きだ、自分の意見をとにかくだれかに話したい、二年間あんまり勉強しなかつたので残り二年間は勉強に賭けたい。上のいずれか一つが該当する学生を歓迎します。</p> <p>(4) 「経済学Ⅰ」「国際経済学」の単位を修得していることが望ましいです。入ゼミ以前に上記科目を単位修得していない場合には、三年次以降にかならず単位修得するよう義務づけます。</p>
目標と評価：	<p>「ゼミナールⅠ」の目標は、経済学理論という武器でもって世界経済の問題に取り組む準備を整えることです。評価は、平常的な取り組みに基づいて下します。その後どんなに頑張っても合格の水準に達しないと判断した場合は、学期の途中でも不合格を言い渡します。ちなみに、「ゼミナールⅡ」は、卒業論文の出来不出来に基づいて50%、平常的な取り組みに基づいて50%、という比率で評価を下します。</p>
選考方法：	<p>入ゼミ希望者が多数となった場合には、2004年度春学期までの成績で入ゼミを許可するかどうかを判断します。</p>
履修が望ましい科目：	<p>「履修の留意点」欄(4)を参照のこと。</p>

「ゼミナールⅠ」（担当者：古賀 義弘）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	古賀 義弘
テーマ：	産業論
概要：	本ゼミナールの研究は「産業論」です。特に現代日本の産業及び企業の構造や、直面している諸問題について研究を進めます。長い不況のもとにあって、苦境に陥っている産業、経営努力をしている企業、海外に展開している企業などを経営の側や労働の側から分析していきます。具体的なテーマの設定は個人あるいは複数で行います。
授業方法：	春学期には『日本のビッグ・インダストリー』8巻シリーズ（古賀他編著 大月書店）の中から取り上げて輪読から始めます。全員が必ず分担部分をまとめて発表し、それをもとに論議をして認識を深めていきます。また秋学期には、4年次に向けてテーマ設定を頭においた発表形成を進みます。
履修の留意点：	オリジナルな卒業論文に仕上げていくことが大きな目標ですから、多くの本や資料に直接あたって研究を進めていきます。さらに、夏合宿も予定しています。
目標と評価：	最終的に卒業論文を作成します。したがって3年次の輪読などで蓄えた知識と方法をもとにテーマを設定し、4年次では中間報告やミーティングによって完成させていきます。また4年次になれば、3年生の学習上の指導をすることで力量アップを図ります。評価については、ゼミナールへの参加と受講態度など総合的に判断して決めます。卒業論文は2万字程度を規定とします。
選考方法：	面接と小論文による決定
履修が望ましい科目：	経済史、戦後日本経済史、産業構造論

「ゼミナールⅠ」（担当者：中村 修）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	中村 修
テーマ：	研究テーマの設定・遂行と論文制作演習
概要：	自身の興味に基づいて、自由に研究テーマを設定します。次いで、設定した研究テーマに関連した分野での調査を行います。そして、関連分野における動向を参考に、研究の課題を設定し、具体的に研究活動に入っていきます。 論文制作演習では、春学期開始時から少しずつ執筆を進めていきます。学会発表のスタイルに準じた論文の雛形を示しますので、これに肉付けをしていく方法で内容の充実と、深化を進めていきます。
授業方法：	各自の自主的な研究活動を基本とし、ゼミナールの時間では、それぞれ1週間分の卒業論文執筆の進捗報告をしてもらいます。また、報告内容に対する意見交換を行います。さらに必要に応じて、関連分野の補足説明も行っていきます。 具体的には、設定した研究テーマについて、以下の各研究項目を明らかにしていきます。 (1) 研究の目的：ピンボケにならないようにするためもしっかり考える必要があります。 (2) 研究の背景：なぜ、その研究をする必要があるのか、この研究が貢献できることは何なのかを明確にする必要があります。 (3) 研究の課題：この研究で解決しようとする問題は何なのかを絞ります。 (4) 類似研究の動向：先人はどこまで、その研究を進めたか、調査・分析を行います。 (5) 研究の課題に対する検討結果：具体的な研究内容を、各研究課題に対応して示していきます。 (6) 結論：得られた研究成果の要点を明らかにします。 (7) 今後の研究課題：やり残した未解決課題を明示します。 (8) 参考文献：研究を遂行するに当たって、重要と考えられる文献を示します。 調査や基本知識の習得に必要な文献や図書については、極力、ゼミナール文献として準備していきたいと思えます。
履修の留意点：	特に以下の3つは重視します。 ★自主的に活動する。 ★約束を守る。守れない約束はしない。 ★ゼミナールを欠席しない。 ※特に情報処理に関して詳しい必要はありません
目標と評価：	以下を個人の成長の基準としたい。 (1) 論理的にプレゼンテーションができる。 (2) 自己の調査結果を報告書としてまとめられる。 (3) 自己の検討結果を、調査結果と区別してまとめられる。 これらの結果が、最終的に論文などに結びついていけばよいが、あえてその論文としての質は問わない(プロセスを重視する)。
選考方法：	(1) 申込書の提出後、必要な場合には面談を行います。 (2) 原則として、定員になるまでは、特に問題が無い限り受け付けます。
履修が望ましい科目：	特にありません。

「ゼミナールⅠ」（担当者：中野 正健）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	中野 正健
テーマ：	現代世界経済下の企業経営
概要：	共通通貨ユーロ誕生、そして東欧諸国を加えたEU25ヶ国体制下の欧州経済、I.T革命を軸に発展 又I.Tバブル崩壊と9.11後経済異変と戦う米国経済、WTO加盟を基軸に発展中の中国経済、石油を中 核としたエネルギー源の各国入り乱れての争奪戦、デフレ経済からの脱却に挑戦する日本経済。こうし た世界経済情勢下の企業経営を研究対象とします。
授業方法：	講義と各種ビデオを軸に討議討論を重ね、これを基軸に各自独自に主題を研究。アドバイスを受け乍ら この成果を研究論文として取り纏め発表。 (夏休み中に軽井沢、鎌倉等のセミナーハウスにて集中講義をする場合もありま す)
履修の留意点：	世界政治経済社会と企業経営に、幅広い視点から考察することに興味をもつ意欲的な学生諸君の参加を 歓迎します。 履修者は、平常の授業週において、週一コマの参加を必要とします。
目標と評価：	最終的には、卒業論文（20000字程度）の作成が目標となります。卒業論文を 提出できないと単位は認定されません。 3年次の評価は、出席、分担報告、ゼミ活動への取り組みなど、総合的に評価し ます。4年次は、それに卒業論文の評価が加味されます。
選考方法：	志望理由、面談の上、決定します。
履修が望ましい科目：	3年次設置科目「資金調達論」「投資戦略論」の履修。

「ゼミナールⅠ」（担当者：南 憲一）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	南 憲一
テーマ：	経営科学
概要：	<p>一般に経営科学と呼ばれる分野の中で、統計解析、データ解析、シミュレーションについて学習を進めます。これらの理論を学んだ上でExcelを用いた実際の経営の問題への応用を行います。</p> <p>統計解析の内容 記述統計、確率、正規分布、標本分布、推定、検定</p> <p>データ解析の内容 分散分析、単回帰分析、重回帰分析、主成分分析、判別分析</p> <p>シミュレーションの内容 擬似乱数と確率分布、計画の問題、決定の問題、在庫の問題、待ち行列の問題</p>
授業方法：	<p>3年次 統計解析、データ解析、シミュレーションの様々な手法について教科書の輪読とExcelを用いた実習を通して学習を進めます。輪読では、各受講生の担当を決め順番に授業までに内容を熟読の上、内容を解説してもらいます。引き続き、実際の経営の問題に関するExcelを用いた分析を行います。</p> <p>4年次 卒業論文作成のために必要な文献購読を行います（輪読形式）。さらに研究テーマを各自設定し、そのテーマによって研究を進めます。研究の途中経過の報告を随時行います。最終的に各自卒業論文を完成させます。</p>
履修の留意点：	<p>通常の授業とゼミナールの異なる点は、ゼミナールが学生参加型・学生主体の授業であるということです。従って、まず欠席しないということが大事です。さらに学生どうしお互い協力しながら学習を進めていくということが求められます。夏期休暇にはゼミ合宿を行い、春学期の学習成果を発表しあう予定です。</p>
目標と評価：	<p>3年次 経営科学の手法を理解し、実際の問題に適用できる能力を養うのが目標です。</p> <p>4年次 研究論文の作成が求められるので、研究のための 1. 目的の設定 2. 方法の選択 3. 実施 4. 結果の評価 という各フェーズをこなし、論文を作成する能力を養うことを目標とします。</p> <p>評価は 1. 日常の受講状況 2. 発表状況 3. 提出レポート、卒業論文の内容 によって行います。</p>
選考方法：	<p>面談で選考します。 これまでの履修状況・出席状況も参考にします。</p>
履修が望ましい科目：	統計学Ⅰ・Ⅱ（2年次までに履修していない人は3年次に履修してください）

「ゼミナールⅠ」（担当者：平井 東幸）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	平井 東幸
テーマ：	流通業の研究(1)
概要：	経済活動を身体にたとえると、「流通」は血管のようなものです。これがなくては経済は一日たりとも成り立ちません。このゼミナールでは、この流通業を具体的な事例を取り上げて調査します。100円ショップや、アウトレットなどの新しい業態はなぜ登場するのか、あるいは、安売りや特売はなぜ常態化するのか、メーカーから小売業までの流通経路はどうなっているのかなどを調べて、消費者としてもっとも身近な小売業を中心にして流通業界と流通企業についての理解を深めたいと思います。
授業方法：	<ol style="list-style-type: none"> 1 新聞・雑誌・ビデオの利用して、コンビニなどの事例を研究します。 2 外部から講師を招いたり、企業見学も実施したい。 3 春学期末までにレポートのテーマを決め、秋学期ではその発表を行います。 なお、テーマは流通業に限定せず、広く経営経済に関係するものであればよく、次数は8000字以上とします。なお、このレポートは4年次において卒業制作（本ゼミでは卒業論文）に発展させてもらいます。 <ol style="list-style-type: none"> 4 使用するテキスト、参考書については、追って指示します。
履修の留意点：	<ol style="list-style-type: none"> 1 流通業に関心を有する諸君、および流通業を通して経済経営を勉強しようとする諸君を歓迎します。 2 毎回、トピックをめぐる意見交換をしたいので、各人が新聞・雑誌の記事を持参すること。 3 企業見学等にも参加できること。
目標と評価：	目標：流通業の研究を通じて、経済の動向、企業の実態、日々のビジネスの動き等を理解してもらいたいと思います。あわせて、よき社会人としてのマナーを身につけてもらうよう指導します。 評価：平常点とレポートを中心に行います。また、4年次では卒業論文（16000字以上）の評価を中心に行う予定です。
選考方法：	面談によります。
履修が望ましい科目：	とくにありません。

「ゼミナールⅠ」（担当者：山田 寛）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	山田 寛
テーマ：	ゼミナールⅠ＝世界の子どもの諸問題
概要：	<p>いま世界の子供たちの上には、沢山の問題がのしかかっています。子供たちの悩みを通して、国際政治・経済上の問題、国際関係の課題を調べ、研究する予定です。</p> <p>とりわけ発展途上国の子供たちには、戦争・紛争の犠牲、地雷による死傷、子供兵士、幼児の飢えや栄養失調による死亡、エイズ、ストリート・チルドレン、人身売買、子供の売春・ポルノ、子供の重労働、教育を受けられない・・・などの問題があります。先進工業国でも、家庭内暴力・虐待、学校でのいじめ、少年犯罪その他の問題を抱えています。</p> <p>そうした問題を認識し、理解し、世界の子供たちに共感を持って、国際問題への関心を深めることがねらいです。</p> <p>また、このゼミは途上国の子供のためのボランティア活動体験旅行（特に運動会開催）参加を一つの柱としています。2003年にはミャンマーに行ってきました。絶対参加しなければ駄目ということではありませんが、出来るかぎり参加することを歓迎します。</p>
授業方法：	<p>春学期は、いくつかのテーマを選んで、ユニセフ（国連児童基金）の「世界子供白書」「年次報告」、WHO（世界保健機構）の報告書など国連機関、国際組織の資料、そのほかの文献を検討します。さらにさまざまな情報、データを収集し、関係者の話を取材して、報告してもらいます。</p> <p>秋学期は、テーマごとに分かれたグループの共同研究を進めます。</p>
履修の留意点：	<p>このテーマでは、ゼミでこれさえ輪読（みんなで読んで、それぞれ受け持ち部分について報告する）すればOK・・・といった文献はありません。国際問題に積極的関心のある学生、示された文献を読むだけでなく、いろいろの情報に積極的にあたろうとする学生の参加を歓迎します。</p> <p>夏休み（9月初め）に国際ボランティア体験旅行を予定しています。</p>
目標と評価：	<p>3年次のゼミナールⅠの評価は、出席状況15%、日常の取り組み（分担報告の内容や質問、討論への参加の度合い）40%、合宿などでの取り組み15%、秋のグループ共同研究発表30%を予定しています。4年次は、ほかのゼミと同様、2万字程度の長さの卒業論文を書いてもらいます（ただし、長いだけではだめ）。卒論の評価は45%。つまり、書かなければ不合格です。</p>
選考方法：	面談で決定。
履修が望ましい科目：	国際経済コース科目、社会理解科目をできるだけとっていることが望ましい。しかし、特定の科目はありません。

「ゼミナールⅠ」（担当者：和田 耕治）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	和田 耕治
テーマ：	中小小売業の研究、商業集積の活性化
概要：	本ゼミナールでは、わが国の中小商業を取り巻く問題を考察するために、中小商業の実態、経営、政策などに関して、多面的に検討します。また、中小小売業と大型店、ショッピングセンター、地域、行政等との関わりを意識しつつ、今日における商業集積の活性化、街づくり、中小小売店の経営の課題を考えます。
授業方法：	わが国における中小商業あるいは街づくりに関する基本的な知識を修得するために中小商業に関する基本的な書籍を輪読します。また、視聴覚教材を用いて中小商業の実態把握を商店街、商業集積の実態調査を行います。
履修の留意点：	中小商業、流通について興味を持っている学生の参加を歓迎します。卒業後の進路として、家業を継ぐもの、公的機関や金融機関等において中小企業に対する支援を職業としたい学生の参加を歓迎します。履修者は、平常の授業週において、週1コマの参加を必要とします。さらに、商店街やショッピングセンターの視察を考えています。
目標と評価：	最終的には卒業制作を目標としますが、3年次はその過程における基本となる知識の修得、問題意識の設定に重きをおきます。3年次の評価は、ゼミナールへの出席と授業中での報告、発言などに基づいて下されます。4年次に行う卒業論文については、16000字以上の本文と2000字程度の要旨を作成してください。
選考方法：	定員を超えた場合は2年次春学期までの修得総単位数で決めます。 3年次編入者等については、抽選で決めます。
履修が望ましい科目：	中小企業論と事業創造論は履修してください。

「ゼミナールⅠ」（担当者：生井 良一）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	生井 良一
テーマ：	世界と日本の環境問題
概要：	<p>21世紀は環境の世紀とも言われる。人間をはじめ、地球上の生き物たちが生きていく基盤が危うくなっているのだ。地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、森林の破壊、環境ホルモンなど化学物質による汚染、ごみ問題などの環境問題が山積している。加えて世界人口が爆発的に急増しており、この人口圧力が地球環境に及ぼす影響もきわめて大きいと懸念されている。</p> <p>20世紀に入ると、石油石炭などの化石燃料の消費は急増した。そのおかげで生活は便利なものとなった。しかし、このエネルギーの大量消費が地球温暖化をもたらそうとしている。地球温暖化は最大の環境問題の一つと言われている。地球温暖化がこのまま進むと、世界各地で異常現象が続出し、しかも一度その口火を切ってしまうと人間の力では元へ戻すことはほとんど不可能と言われている。地球温暖化を防止するために、それでは化石燃料に代わるエネルギー資源はあるのだろうか。化石燃料の消費を抑えることは、経済活動にも大きな影響があるだろう。それでも、化石燃料は抑えなければならない。実際、ヨーロッパのいくつかの国ではかなりな程度抑制しようとしている。それは、どんなものだろうか。</p> <p>森林破壊も世界的な規模で進んでいる。これも深刻な環境問題である。なぜ、森林はそんなに大切なのだろうか。森林のはたらきとは何だろうか。熱帯林の破壊、マングローブ林、ツンドラ地帯のタイガという大森林の減少などを学びつつ考えてみよう。</p> <p>森林の破壊が続いている地域では、砂漠化も進んでいる。歴史的にみても、緑を失った文明は、文明自身も滅んでいるのだ。</p> <p>一方、森林再生への取り組みも行われている。その活動も調べてみよう。そして夏休みなどに、植林活動か、あるいは下草刈りなど森林の保全活動を体験できる機会があれば、ぜひ参加してみようではないか。</p> <p>一方、この100年間で、世界人口は急増し、やく4倍となった。単純に言えば、4倍の食糧が必要となったのである。この人口急増は主に途上国で起っている現象である。これら多くの人が職を求めて都会に集まりスラム化し、あるいは森林を焼いて焼畑農業を行い食糧を得ようとしている。このことも森林破壊に拍車をかけている。</p> <p>そんななか、20世紀後半には、技術の進歩により緑の革命とも呼ばれた食糧の大増産も可能となった。そのためには、化学肥料、農薬、そして大量の水が必要であった。結果として、現在は水不足となり、無理な耕作のために土壌も劣化した。</p> <p>水、土、緑、これらは人間が生きていく上でも、他の生き物が生きていく上でも必要不可欠なものである。その存在基盤である水、土、緑、大気に大きな問題が起きているのだ。</p> <p>地球はどれくらい人口を養えるのだろうか。巨大な人間活動が自然や耕作地を荒廃させ、自分達の生活をますます困難にしている。それでは、どうやって今後の世界の食糧問題を解決したらよいのだろうか、あるいは、貧困問題をどうしたらよいのだろうか。</p> <p>化学物質による汚染問題も複雑さを増している。農薬などの化学物質を大量に使用することに対して、1962年に「沈黙の春」という書物によって、生き物の生存やがんの発生に対して警告が出された。ついで、1996年には「奪われし未来」という本によって、これら化学物質の一部がきわめて微量で生殖異常を引き起こしているという、いわゆる環境ホルモンについての懸念が示された。これら化学物質は海洋汚染も引き起こし、海の生き物たちにも影響を及ぼしている。</p> <p>日本では、明治以来足尾の鉛毒事件、そして昭和の高度経済成長期の水俣病や四日市ぜんそくと言った公害問題を引き起こしてきた。これらは企業による地域の汚染であり、そして多くの患者が発生した。これに似たことは現在の途上国の発展の過程でも起きている。</p> <p>現在は豊かな物質に囲まれた社会となっているが、車による大気汚染、河や湖の水質汚染、ごみ問題、森林の保全、酸性雨、あるいは地球温暖化防止のための省エネルギーをどうするかといったことが課題となっている。環境問題がかつての公害問題と異なる点は、誰もが環境悪化の加害者であり、同時に被害者でもあるということである。</p> <p>一方で、日本の食糧自給率は40%を割っている。これは、国内の第一次産業にもダメージを与え、輸入相手国の環境にも影響を及ぼしている。また、身近なところではアレルギーに悩まされる人も多くなっているが、食品や排気ガスなどがその原因ではないかという説もある。</p> <p>こうした状況において、環境をどうするか、経済をどうするか、そのことを皆で考えていきたい。</p> <p>地球というシステムと生き物との関係は絶妙なバランスの上に成り立っている。この地球システムのすばらしさもぜひ知って欲しいところである。</p> <p>なお、これら環境問題を考える際の基本的な自然法則もぜひ理解して欲しい。つまり、生態系、食物連鎖、生物濃縮、エネルギー保存則、物質不滅の法則、水の大循環、大気の大循環、物質の循環などである。</p>
授業方法：	基本的には、本を読んで発表し、そして疑問、質問、意見、提案などいろいろ出し合う。そのことで理解を深めたり、あるいはさらに調べることもあるだろう。具体的な事例を多く取り上げていきたい。必要に応じて、ビデオも大いに活用する。また、環境学習体験の機械もつくりたい。
履修の留意点：	まず、世界と日本の環境破壊の実情を知って欲しい。そして、4年生になった時の卒業論文のテーマを見つけるつもりでいろいろなことを学習し、疑問に思ったことは大事にして欲しい。環境と経済、それは対立するものなのか、調和できるものなのか、あるいはどんな調和のための取り組みがあるのか、それと持続可能な社会とは、そんな問いかけも念頭に置いて欲しい。
目標と評価：	<p>目標1：環境破壊について、その現状、原因、防止の取り組みの三つの視点を大事にする。</p> <p>目標2：自然界では、いろいろなことが互いに関連し合っている、そのことを理解すること</p> <p>目標3：生命維持のシステムは微妙なバランスの上に成り立っていることを理解すること</p> <p>目標4：人間活動について、その影響の大きさを理解すること</p> <p>目標5：個人の生活スタイルも見直す機会とすること</p> <p>評価 評価については、ゼミ活動への積極性を最も大きく評価の対象とする。それと、レポート、出席点を合わせて決定する。</p>
選考方法：	意欲のある人、環境問題に関心のある人、あるいは地球や生命に関心のある人にぜひ参加して欲しい。場合によっては、何か書いてもらうとか、面接をすとか、そういうことも考えている。
履修が望ましい科目：	<p>[地球と環境Ⅰ]</p> <p>[地球と環境Ⅱ]</p> <p>[生活環境論]</p>

「ゼミナールⅠ」（担当者：山田 寛）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	山田 寛
テーマ：	ゼミナールⅠ＝世界の子どもの諸問題
概要：	<p>いま世界の子供たちの上には、沢山の問題がのしかかっています。子供たちの悩みを通して、国際政治・経済上の問題、国際関係の課題を調べ、研究する予定です。</p> <p>とりわけ発展途上国の子供たちには、戦争・紛争の犠牲、地雷による死傷、子供兵士、幼児の飢えや栄養失調による死亡、エイズ、ストリート・チルドレン、人身売買、子供の売春・ポルノ、子供の重労働、教育を受けられない・・・などの問題があります。先進工業国でも、家庭内暴力・虐待、学校でのいじめ、少年犯罪その他の問題を抱えています。</p> <p>そうした問題を認識し、理解し、世界の子供たちに共感を持って、国際問題への関心を深めることがねらいです。</p> <p>また、このゼミは途上国の子供のためのボランティア活動体験旅行（特に運動会開催）参加を一つの柱としています。2003年にはミャンマーに行ってきました。絶対参加しなければ駄目ということではありませんが、出来るかぎり参加することを歓迎します。</p>
授業方法：	<p>春学期は、いくつかのテーマを選んで、ユニセフ（国連児童基金）の「世界子供白書」「年次報告」、WHO（世界保健機構）の報告書など国連機関、国際組織の資料、そのほかの文献を検討します。さらにさまざまな情報、データを収集し、関係者の話を取材して、報告してもらいます。</p> <p>秋学期は、テーマごとに分かれたグループの共同研究を進めます。</p>
履修の留意点：	<p>このテーマでは、ゼミでこれさえ輪読（みんなで読んで、それぞれ受け持ち部分について報告する）すればOK・・・といった文献はありません。国際問題に積極的関心のある学生、示された文献を読むだけでなく、いろいろの情報に積極的にあたろうとする学生の参加を歓迎します。</p> <p>夏休み（9月初め）に国際ボランティア体験旅行を予定しています。</p>
目標と評価：	<p>3年次のゼミナールⅠの評価は、出席状況15%、日常の取り組み（分担報告の内容や質問、討論への参加の度合い）40%、合宿などでの取り組み15%、秋のグループ共同研究発表30%を予定しています。4年次は、ほかのゼミと同様、2万字程度の長さの卒業論文を書いてもらいます（ただし、長いだけではだめ）。卒論の評価は45%。つまり、書かなければ不合格です。</p>
選考方法：	面談で決定。
履修が望ましい科目：	国際経済コース科目、社会理解科目をできるだけとっていることが望ましい。しかし、特定の科目はありません。

「ゼミナールⅠ」（担当者：内田 和夫）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	内田 和夫
テーマ：	市民としての「まち育て」、私のプランニング
概要：	道路や建物重視の「まちづくり」から、人と人の関係重視の「まち育て」へ。市民と市民が、互いを支えあい、はぐくみ合う関係が、さまざまに生まれる「まち育て」に注目が集まっています。ボランティアに私たちが心を魅かれるのも、無意識のうちにそうしたものを求めているからではないでしょうか。そうした、市民の「まち育て」は、自治体とのパートナーシップへと発展します。私たちの暮らしを身近で支える政府である自治体の役割もまた重要であるからです。そのことはまた自治体をも変えていきます。いわれたとおりの事をする職員から、市民との創造が可能な職員へ。このゼミでは、さまざまな「まち育て」の事例に学びながら、あなた自身の「まち育て」プランを作ることとを目的とします。
授業方法：	春学期は「まち育て」の現場に言ったり、ビデオ を見たり、文献を読んだり、参加者自身が、学びたい、取り組みたいのはどういう分野なのか、見出す作業をします。また、どういう調査や、仕組みの勉強が必要なのかについても考えます。秋学期は、自分自身がどういう立場で、参加するのを見極めながら、（たとえば、主婦なのか、商店主なのか、自治体職員なのか、議員なのか、）プランの素描にかかります。個人ごとの作業とするか、共同の作業とするかは、参加者と相談の上、決めます。
履修の留意点：	2時間続きで現場へいってみることもあります。現場でがんばっている人との出会いで、刺激を受けたい人、人と人の協力に夢を持ちたい人、非営利の経済活動に興味のある人、自治体の仕事に関心のある人を歓迎します。
目標と評価：	「私のまち育てプラン」（5000字から10000字）を卒業論文として、作成することを目標とします。3年次の評価は、出席、現場調査、報告、ゼミ活動への取り組みなどを総合的に評価します。4年次 は、卒業論文を軸に評価する予定です。
選考方法：	志望理由を書いた作文と面接によります。
履修が望ましい科目：	「地方自治論」Ⅰ Ⅱ

「ゼミナールⅠ」（担当者：安田 利枝）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	安田 利枝
テーマ：	開発と環境
概要：	<p>ひとは誰でも豊かな暮らしがしたい。でも、物質的な豊かさを求めた経済開発、工業化、産業化は、公害問題や環境問題も生み出してきました。20世紀の負の遺産ともいべき公害・環境問題にはどのような解決の道筋があるのでしょうか？</p> <p>このゼミでは、環境と開発をテーマに、地域の公害問題に取り組んだり、生態系保全を行う市民運動、企業の社会的責任、行政による規制や支援策、税財政のグリーン化、そして国際貿易のありかたなどさまざまな解決の方途を考えます。私達一人一人が、有権者であり、納税者であり、労働者であり、消費者であり、そして直接・間接に投資家でもあります。そうした生活者の立場にたって物事を考えていくことを前提にします。</p> <p>飛翔祭には全員参加を求めます。</p>
授業方法：	<p>理論と事例研究を両軸にして学習していきます。すなわち、最初はウォーミング・アップとして数冊のルポルタージュや数本のビデオ作品から環境問題を知ることから始め、次に教科書として指定する文献を輪読会の形式で読み進めます。1人の報告に対して他のゼミ生全員で質疑応答・ディスカッションをしていく形になります。さらに、様々な社会運動や活動事例を考察するため、問題解決の現場で苦闘し活躍している人たちにお話を伺うこともしていきます。</p> <p>頭で考えたり本で読んだりするだけでなく、見たり、聞いたり、体全体で何かを感じることを、そして考え行動し続ける素晴らしい人たちに出会ったという体験こそが、私達のなかの何かを変えてくれるはずです。何か問題を考える時、その現場やそこに生き暮らす人々の姿や顔が思い浮かぶようになり、それがまた、本や資料の読み方を変えることを期待しています。</p>
履修の留意点：	<p>ゼミ活動に取られる時間はかなりのものになるはずですが、毎回のゼミでは、報告者だけでなく全員がある程度準備をしてゼミに臨むことを求めます。現場や活動団体を訪問したりする際には、相応の時間が必要ですし、事前のアポイントや質問事項の用意など先方との連絡、帰ってからのお礼状書きなど様々な事柄がついてきます。</p> <p>ゼミのさまざまな活動に対して、知的好奇心に満ちて、周囲の人々への暖かな気持ちを失わず、主体的に取り組む学生を募集します。アルバイトを優先させる学生は実質的にこのゼミと両立させることは難しいと覚悟してください。</p>
目標と評価：	<p>最終的には卒業論文（10000字以上）を作成してもらいます。</p> <p>3年次は、ゼミ活動への主体的な参加度によって、4年次には、参加度50%、卒業論文の評価50%で成績評価をします。</p>
選考方法：	自分のプロフィール、ゼミ志望動機を含めた学習計画書の2つを提出してください。
履修が望ましい科目：	<p>2年次社会理解科目「地球と環境Ⅰ・Ⅱ」 国際経済コース2年次科目「国際援助論」 国際経済コース3年次科目「世界経済と資源」「環境と開発」 生活経済コース2年次科目「生活環境論」</p>

「ゼミナールⅠ」（担当者：山崎 康之）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	山崎 康之
テーマ：	ミクロ経済学—戦略的アプローチ
概要：	<p>本ゼミナールの研究対象は、「ミクロ経済学」（価格理論）です。それを戦略という視点から考えようというのが、本ゼミの目的です。</p> <p>ある一定の目標を持った個人が、様々な可能な行動の中から、その目標に照らして最適な行動を選択することを合理的意思決定と呼びます。戦略的アプローチ（ゲームの理論）は複数の個人の利害が相互に依存しあっている場での各個人のこの意思決定、すなわち、利害が対立する状況における合理的行動とはいかなるものであるべきかという問題を研究します。それは、相手がこちらを出し抜こうとしていることを知った上で、さらにその上をいこうと試みる戦略的行動の分析を通じて、競争と協調をめぐる紛争の一般理論であることを目指します。</p> <p>このゼミナールでは、社会科学の多くの分野でその応用が最近著しいこの瀬略的アプローチを取り上げ、そのミクロ経済学への応用について学びます。</p>
授業方法：	<p>春学期・秋学期とも梶井厚志・松井彰彦『ミクロ経済学—戦略的アプローチ』日本評論社、2000年を輪読します。輪読というのは、一人で読了するのが難しいような文献を集団で読破する方法で、ゼミの受講生の一人もしくは数名に文献の特定部分の内容や問題点をレジュメを用意した上で報告してもらい、他の参加者がそれについて質問・討議を行うことによって、その内容を理解していくものです。</p> <p>授業は4時限目に行います。</p>
履修の留意点：	<p>ミクロ経済学の理論とその応用に興味を持っている学生諸君の参加を歓迎します。</p> <p>また、数学を多少使います。</p>
目標と評価：	<p>最終的には、卒業論文の作成を目標としていますが、その過程において、文献の調べ方や討論・報告のやり方を習得していただきたいと思います。具体的には、四年次に三年次の輪読によってえられた知識や視点をもとに、履修者各自の興味あるテーマを設定し、卒業論文を何度かの中間報告を経て書き上げてもらいます。</p> <p>したがって、三年次の評価は、ゼミナールへの参加程度（出席をしたかどうかではなく、報告をちゃんと行ったかどうか質問を積極的に行ったとか）に基づいて下されます。四年次のそれは、卒業論文の評価によります。なお卒業論文は、最低20000字の字数を想定しています。四年次は個別指導になります。</p>
選考方法：	二年次春学期までの成績および面接により決定します。
履修が望ましい科目：	<p>経済学関係の科目（経済学Ⅰ、Ⅱなど）を出来るだけ多く履修してください。</p> <p>特に経済学Ⅱが履修済みであることが望ましい。</p>

「ゼミナールⅠ」（担当者：古賀 義弘）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	古賀 義弘
テーマ：	産業論
概要：	本ゼミナールの研究は「産業論」です。特に現代日本の産業及び企業の構造や、直面している諸問題について研究を進めます。長い不況のもとにあって、苦境に陥っている産業、経営努力をしている企業、海外に展開している企業などを経営の側や労働の側から分析していきます。具体的なテーマの設定は個人あるいは複数で行います。
授業方法：	春学期には『日本のビッグ・インダストリー』8巻シリーズ（古賀他編著 大月書店）の中から取り上げて輪読から始めます。全員が必ず分担部分をまとめて発表し、それをもとに論議をして認識を深めていきます。また秋学期には、4年次に向けてテーマ設定を頭においた発表形成を進みます。
履修の留意点：	オリジナルな卒業論文に仕上げていくことが大きな目標ですから、多くの本や資料に直接あたって研究を進めていきます。さらに、夏合宿も予定しています。
目標と評価：	最終的に卒業論文を作成します。したがって3年次の輪読などで蓄えた知識と方法をもとにテーマを設定し、4年次では中間報告やミーティングによって完成させていきます。また4年次になれば、3年生の学習上の指導をすることで力量アップを図ります。評価については、ゼミナールへの参加と受講態度など総合的に判断して決めます。卒業論文は2万字程度を規定とします。
選考方法：	面接と小論文による決定
履修が望ましい科目：	経済史、戦後日本経済史、産業構造論

「ゼミナールⅠ」（担当者：松行 彬子）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	松行 彬子
テーマ：	グローバル企業と経営
概要：	<p>20世紀末から21世紀にかけて経営環境の激変とともに企業経営のパラダイムは根底から転換しました。市場のグローバル化・技術革新の加速化などにより、多くの日本企業はグローバル企業へと変容しています。</p> <p>本ゼミナールでは'企業のグローバル経営とは何か'を追求します。その中でも特に'企業の競争力'に焦点を当て、新しい時代の真の企業の競争力を理論的に、実証的に検討します。分析のツールとして、各種の資料および基礎的な経営分析を用います。これまでに、競争力の源泉、パートナーシップについて輪読しました。また、ケースとして、自動車産業等を取り上げ、調査・研究をしました。</p> <p>1,2年で培った経営学の学習を基礎に、受講生が広く経営学に関して問題意識をもち、問題解決へと発展するよう指導したいと思っています。</p>
授業方法：	<p>春学期には企業の競争力に関する最新の文献を輪読します。毎回、指名された各レポーターが内容を発表し、全員で問題点を討論します。</p> <p>各種の資料の購読、基礎的な経営分析を通して、企業の業績を分析・比較する方法を習得します。</p> <p>秋学期には、ケース・スタディを行います。ケースごとにグループに別れ、資料収集をし、競争力を分析し、その結果を比較し、成果をレポートにまとめます。このときに、経営学に関するレポートの書き方を指導します。</p>
履修の留意点：	<p>企業経営に広く興味を持ち、ゼミナール活動に積極的に取り組む熱意ある学生の参加を歓迎します。</p> <p>合宿、工場見学、企業訪問などを予定していますが、参加者との相談により選択します。これまでに、ビール工場・タイヤ工場等を見学しました。</p>
目標と評価：	<p>4年次の卒業制作を最終目的とします。そのために、3年次には、資料収集、企業評価方法、基本的な専門知識などをゼミ活動を通じて習得します。</p> <p>3年次の評価は、出席、授業時の報告・発表、ゼミナールへの取り組みの熱意などを総合的に評価します。</p>
選考方法：	<p>面談によって決定します。そのときに、成績表・本ゼミナールへの志望動機を400字程度にまとめたものを持参してください。</p>
履修が望ましい科目：	経営戦略論、経営学Ⅱ

「ゼミナールⅠ」（担当者：青山 悦子）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	青山 悦子
テーマ：	日本企業における人事労務管理研究
概要：	日本企業における人事労務管理は、現在大きな変革期にあります。終身雇用や年功制はすでに“博物館”には入りつつあるとさえ言われています。代わって登場したのが、多様化、弾力化、成果主義、個人主義などのキーワードに代表される新たな人事労務管理システムです。日本企業は、どのように変わろうとしているのでしょうか。人事労務管理と労使関係の新たな動向を検証し、それについて深く議論することが、本ゼミナールの主要なテーマとなります。あわせて、ゼミ生各自のこれからの「働き方」を、深く考え、議論する「場」となることを希望しています。
授業方法：	春学期、前半は激動期にある人事労務管理の様々な側面を新聞記事を材料にしながら皆で考えていく予定です。毎回レポーターによる報告と、それに対する質疑、討論を重ねながら、現在進行しつつある日本企業における人事労務管理の「今」を学んでもらうことを主眼とします。後半は、秋以降の就職活動に備え、各自興味のある業界研究を行ってもらう予定です。ちなみに現3年生は、自動車、コンビニ、外食、音楽、福祉の各業界（業種）の報告を個人あるいはグループで2回行い、それぞれの業界の現状を身近なものとししました。秋学期は、各自テーマを決め、そのテーマについて深めてもらうことを目標とします。併せて当該研究に関わる資料収集の方法も身につけてもらう予定です。最終的にはレポートとしてまとめることで、卒業論文作成のためのスキルの向上を目指します。
履修の留意点：	ゼミの活性化を図るため、報告準備のための作業に十分な時間をとって取り組める学生、さらに夏季合宿や企業・工場見学などをゼミの重要なイベントとして取り組む予定なので、各種の役割を積極的に引き受け、ゼミを主体的に「つくりあげていこう」とする意欲的な学生の参加を希望します。
目標と評価：	最終的には、卒業論文（資料などを含めて、約2万字程度）の作成が目標となります。卒業論文を提出できないと単位は認定されません。3年次の評価は、出席、報告、ゼミ活動への取り組みなど、総合的に評価します。4年次は、それに卒業論文の評価が加味されます。
選考方法：	面談（志望理由など）の上、決定します。
履修が望ましい科目：	3年次設置科目「労務管理論Ⅰ」、「労務管理論Ⅱ」

「ゼミナールⅠ」（担当者：南 憲一）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	南 憲一
テーマ：	経営科学
概要：	<p>一般に経営科学と呼ばれる分野の中で、統計解析、データ解析、シミュレーションについて学習を進めます。これらの理論を学んだ上でExcelを用いた実際の経営の問題への応用を行います。</p> <p>統計解析の内容 記述統計、確率、正規分布、標本分布、推定、検定</p> <p>データ解析の内容 分散分析、単回帰分析、重回帰分析、主成分分析、判別分析</p> <p>シミュレーションの内容 擬似乱数と確率分布、計画の問題、決定の問題、在庫の問題、待ち行列の問題</p>
授業方法：	<p>3年次 統計解析、データ解析、シミュレーションの様々な手法について教科書の輪読とExcelを用いた実習を通して学習を進めます。輪読では、各受講生の担当を決め順番に授業までに内容を熟読の上、内容を解説してもらいます。引き続き、実際の経営の問題に関するExcelを用いた分析を行います。</p> <p>4年次 卒業論文作成のために必要な文献購読を行います（輪読形式）。さらに研究テーマを各自設定し、そのテーマによって研究を進めます。研究の途中経過の報告を随時行います。最終的に各自卒業論文を完成させます。</p>
履修の留意点：	<p>通常の授業とゼミナールの異なる点は、ゼミナールが学生参加型・学生主体の授業であるということです。従って、まず欠席しないということが大事です。さらに学生どうしお互い協力しながら学習を進めていくということが求められます。夏期休暇にはゼミ合宿を行い、春学期の学習成果を発表しあう予定です。</p>
目標と評価：	<p>3年次 経営科学の手法を理解し、実際の問題に適用できる能力を養うのが目標です。</p> <p>4年次 研究論文の作成が求められるので、研究のための 1. 目的の設定 2. 方法の選択 3. 実施 4. 結果の評価 という各フェーズをこなし、論文を作成する能力を養うことを目標とします。</p> <p>評価は 1. 日常の受講状況 2. 発表状況 3. 提出レポート、卒業論文の内容 によって行います。</p>
選考方法：	<p>面談で選考します。 これまでの履修状況・出席状況も参考にします。</p>
履修が望ましい科目：	統計学Ⅰ・Ⅱ（2年次までに履修していない人は3年次に履修してください）

「ゼミナールⅠ」（担当者：尾村 敬二）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	尾村 敬二
テーマ：	国際経済協力を学び参加する
概要：	<p>国際経済協力とは何か。この問題は範囲が広く、その具体的なイメージはつかみにくい。いくつかの項目をあげると以下の諸点である。</p> <p>1. 国際間の貿易および投資。2. 先進国からの開発途上国に対する援助。3. 開発途上国あるいは地域の抱える経済・政治・社会問題。4. 貧困問題。5. 資源と環境。6. 人材開発。7. 民主主義などの政治問題。等々である。</p> <p>こうした問題はすべて連関しており、1つを取り上げて論じるわけにはいかない。しかし、逆に言えば、ひとつの問題に焦点を当てながら、その視点から協力問題を探求しなければならない。国際協力を実際に理解しようとする、あらゆる局面で論理的矛盾が生じる。これからの世界はこの矛盾をいかにして解消するかが大きな課題である。本ゼミでは、国際経済協力を具体的に解き明かし、実際に参加行動の道を探ることが目的である。</p>
授業方法：	<p>授業方法はゼミ履修生の自発的テーマ設定を基本とし、そのテーマを2年間かけて卒業制作としてまとめる。もちろんテーマ設定について、担当教員である尾村から適切なアドバイスを行う。学習は学生個人の調査研究能力の向上を図るため、毎月のレポート作成と発表、およびそれについてのゼミ生間の討論を行う。調査はインターネットを活用し、資料収集を行うとともに、基本的文献を読む。</p> <p>個人の調査能力の向上とともに重視することは、共同作業による成果の作成をすることである。3～4人の小グループを編成し、共通するテーマ（必ずしも同じテーマでなくてもよい）について共同調査・研究を行う。その過程で、各グループでリーダーシップを発揮できる学生を育成する。</p> <p>2年度目には4年生学生による3年生の指導を行う。</p>
履修の留意点：	<p>まず強調したいことは出席の重視である。年8回以上の欠席者は単位取得を不可とする。</p> <p>国際経済協力をテーマとするのであるから、英語文献を読めるようにすることが不可欠である。ただし、履修申請時において高い英語読解力を必要としないが、英語読解能力をつけたいという意味とそのための努力を示す必要がある。</p> <p>経済学についての知識は必要であり、新聞の経済記事が読めるようにしておくことが履修の条件である。</p>
目標と評価：	<p>本ゼミの目標は、4年次卒業にあたり、社会人として活躍できる最低限の国際問題についての知識と理解力を得ることである。そのためには日常の勉強の積み重ねとして、毎月のレポートを義務付ける。調査・研究能力の向上を評価するために、レポート作成による書く力を評価するとともに、発表および討論能力を観察することで、課題についての理解力を審査する。</p> <p>具体的な目標設定は、テーマを決定した後に、学生個人は学習計画を作成し、担当教員との相談によって、その学習計画達成度をチェックする。チェックは各人の能力に応じて、柔軟に行う。</p>
選考方法：	定員に満たない履修申請者の数であれば、全員受け入れる。選考が必要な場合には面接を行う。
履修が望ましい科目：	経済学および国際関係に関する科目の履修が望ましい。これは必須条件ではない。

「ゼミナールⅠ」（担当者：久保 真）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅠ
担当者：	久保 真
テーマ：	グローバル化する世界経済，そこにおける国民経済
概要：	<p>テレビや新聞などを通じて「グローバル化」とか「グローバリゼーション」といった言葉を耳にしたことがない人はいないでしょう。ヒト・モノ・カネが国境を越えて動くということが当たり前のこととなってきたということなのでしょうが、それは私たちの身の回りでもさまざまな変化として現れています。中国工場で縫製されたユニクロの服を着て、オーストラリア産の小麦粉とメキシコ産の豚肉で作ったカツサンドをバクつきながら、ワールドカップや大リーグの生中継を、マレーシア工場で組み立てられたパナソニックのテレビで見る。なんていう情景は不思議でもなんでもありません。一見するとこのような変化はわれわれの生活を大変便利にしてくれているようですが、他方で「グローバル化はけしからん」なんていう論調も目立ちます。曰く、「成長する中国経済に日本経済は飲み込まれてしまう」とか「中国から流入する大量の激安商品が日本のデフレの原因だ」とかです。果たして、グローバル化はわたしたち国民経済にどのような影響を与えているのでしょうか？</p> <p>本ゼミナールでは、経済学理論という武器でもって上のような問題に取り組むということを主題とします。ここで言う経済学理論とは、「比較生産費説」とか「相互需要説」といった国際経済学固有の理論だけでなく、国民所得決定についての理論も含んでいますので、世界経済のみならずマクロ経済学の理論に興味関心のある学生の履修も歓迎です。</p>
授業方法：	<p>春学期は、国際マクロ経済学の理論を講義と質疑応答によって学んでいきます。2004年度は『入門マクロ経済学（第4版）』（中谷巖著、日本評論社、2000）をテキストブックとして採用しました。秋学期は、国際経済に関するテキストを輪読します。2004年度は『人間が幸福になる経済とは何か』（ステイグリッツ著、徳間書店、2003）をテキストブックとして採用しました。2005年度のテキストブックは、履修者の顔ぶれや興味・関心を見て決めたいと思います。</p> <p>また、夏休みにはレポート課題を課し、夏合宿や秋学期に報告をしてもらいます。</p> <p>なお、四年次の「ゼミナールⅡ」では、卒業論文の作成指導を中心に行う予定です。</p>
履修の留意点：	<p>(1) 約束を守り、自律的に行動することのできる学生を歓迎します。逆に、約束が守れず、他人任せの行動しかとれない学生は、単位を認定しません。</p> <p>(2) ゼミナールには、合宿やコンパといった授業以外の要素が含まれますので、これらに積極的に参加することができる学生を歓迎します。</p> <p>(3) 世界経済に関心がある、理論的思考を好む、本を読むのが無性に好きだ、自分の意見をとにかくぐだれかに話したい、二年間あんまり勉強しなかつたので残り二年間は勉強に賭けたい。上のいずれか一つが該当する学生を歓迎します。</p> <p>(4) 「経済学Ⅰ」「国際経済学」の単位を修得していることが望ましいです。入ゼミ以前に上記科目を単位修得していない場合には、三年次以降にかならず単位修得するよう義務づけます。</p>
目標と評価：	<p>「ゼミナールⅠ」の目標は、経済学理論という武器でもって世界経済の問題に取り組む準備を整えることです。評価は、平常的な取り組みに基づいて下します。その後どんなに頑張っても合格の水準に達しないと判断した場合は、学期の途中でも不合格を言い渡します。ちなみに、「ゼミナールⅡ」は、卒業論文の出来不出来に基づいて50%、平常的な取り組みに基づいて50%、という比率で評価を下します。</p>
選考方法：	<p>入ゼミ希望者が多数となった場合には、2004年度春学期までの成績で入ゼミを許可するかどうかを判断します。</p>
履修が望ましい科目：	<p>「履修の留意点」欄(4)を参照のこと。</p>

「ゼミナールⅡ」（担当者：尾村 敬二）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	尾村 敬二
テーマ：	国際経済協力を学び参加する
概要：	<p>国際経済協力とは何か。この問題は範囲が広く、その具体的なイメージはつかみにくい。いくつかの項目をあげると以下の諸点である。</p> <p>1. 国際間の貿易および投資。2. 先進国からの開発途上国に対する援助。3. 開発途上国あるいは地域の抱える経済・政治・社会問題。4. 貧困問題。5. 資源と環境。6. 人材開発。7. 民主主義などの政治問題。等々である。</p> <p>こうした問題はすべて連関しており、1つを取り上げて論じるわけにはいかない。しかし、逆に言えば、ひとつの問題に焦点を当てながら、その視点から協力問題を探求しなければならない。国際協力を実際に理解しようとする、あらゆる局面で論理的矛盾が生じる。これからの世界はこの矛盾をいかにして解消するかが大きな課題である。本ゼミでは、国際経済協力を具体的に解き明かし、実際に参加行動の道を探ることが目的である。</p>
授業方法：	<p>授業方法はゼミ履修生の自発的テーマ設定を基本とし、そのテーマを2年間かけて卒業制作としてまとめる。もちろんテーマ設定について、担当教員である尾村から適切なアドバイスを行う。学習は学生個人の調査研究能力の向上を図るため、毎月のレポート作成と発表、およびそれについてのゼミ生間の討論を行う。調査はインターネットを活用し、資料収集を行うとともに、基本的文献を読む。</p> <p>個人の調査能力の向上とともに重視することは、共同作業による成果の作成をすることである。3～4人の小グループを編成し、共通するテーマ（必ずしも同じテーマでなくてもよい）について共同調査・研究を行う。その過程で、各グループでリーダーシップを発揮できる学生をを育成する。</p> <p>2年度目には4年生学生による3年生の指導を行う。</p>
履修の留意点：	<p>まず強調したいことは出席の重視である。年8回以上の欠席者は単位取得を不可とする。</p> <p>国際経済協力をテーマとするのであるから、英語文献を読めるようにすることが不可欠である。ただし、履修申請時において高い英語読解力を必要としないが、英語読解能力をつけたいという意味とそのための努力を示す必要がある。</p> <p>経済学についての知識は必要であり、新聞の経済記事が読めるようにしておくことが履修の条件である。</p>
目標と評価：	<p>本ゼミの目標は、4年次卒業にあたり、社会人として活躍できる最低限の国際問題についての知識と理解力を得ることである。そのためには日常の勉強の積み重ねとして、毎月のレポートを義務付ける。調査・研究能力の向上を評価するために、レポート作成による書く力を評価するとともに、発表および討論能力を観察することで、課題についての理解力を審査する。</p> <p>具体的な目標設定は、テーマを決定した後に、学生個人は学習計画を作成し、担当教員との相談によって、その学習計画達成度をチェックする。チェックは各人の能力に応じて、柔軟に行う。</p>
選考方法：	定員に満たない履修申請者の数であれば、全員受け入れる。選考が必要な場合には面接を行う。
履修が望ましい科目：	経済学および国際関係に関する科目の履修が望ましい。これは必須条件ではない。

「ゼミナールⅡ」（担当者：久保 真）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	久保 真
テーマ：	世界経済・国際経済
概要：	世界経済や国際経済に関心をもつ履修者を対象にして、卒業論文指導を行います。
授業方法：	卒業論文の中間報告を月に一回のペースで行っていただきます。
履修の留意点：	(1) 私の担当する「ゼミナールⅠ」を単位修得しておくこと もしくは (2) 「ゼミナールⅠ」「ゼミナールⅡ」を同時履修する場合には、相当程度の時間と労力を割くこと
目標と評価：	卒業論文の出来不出来に基づいて50%、平常的な取り組みに基づいて50%、という比率で評価を下します。
選考方法：	選考は行いません。
履修が望ましい科目：	「経済学Ⅰ」「国際経済学」の単位を修得していることが望ましいです。「ゼミナールⅡ」履修時に上記科目を単位修得していない場合には、四年次以降にかならず単位修得するよう義務づけます。

「ゼミナールⅡ」（担当者：山田 寛）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	山田 寛
テーマ：	ゼミナールⅠ＝世界の子どもの諸問題
概要：	いま世界の子供たちの上には、沢山の問題がのしかかっています。子供たちの悩みを通して、国際政治・経済上の問題、国際関係の課題を調べ、研究する予定です。 とりわけ発展途上国の子供たちには、戦争・紛争の犠牲、地雷による死傷、子供兵士、幼児の飢えや栄養失調による死亡、エイズ、ストリート・チルドレン、人身売買、子供の売春・ポルノ、子供の重労働、教育を受けられない・・・などの問題があります。先進工業国でも、家庭内暴力・虐待、学校でのいじめ、少年犯罪その他の問題を抱えています。 そうした問題を認識し、理解し、世界の子供たちに共感を持って、国際問題への関心を深めることがねらいです。
授業方法：	春学期は、いくつかのテーマを選んで、ユニセフ（国連児童基金）の「世界子供白書」「年次報告」、WHO（世界保健機構）の報告書など国連機関、国際組織の資料、そのほかの文献を検討します。さらにさまざまな情報、データを収集し、関係者の話を取材して、報告してもらいます。 秋学期は、テーマごとに分かれたグループの共同研究を進めます。
履修の留意点：	このテーマでは、ゼミでこれさえ輪読（みんなで読んで、それぞれ受け持ち部分について報告する）すればOK・・・といった文献はありません。国際問題に積極的関心のある学生、示された文献を読むだけでなく、いろいろの情報に積極的にあたろうとする学生の参加を歓迎します。 2泊3日程度の夏休み合宿その他を予定しています。
目標と評価：	3年次のゼミナールⅠの評価は、出席状況15%、日常の取り組み（分担報告の内容や質問、討論への参加の度合い）40%、合宿などでの取り組み15%、秋のグループ共同研究発表30%を予定しています。4年次は、ほかのゼミと同様、2万字程度の長さの卒業論文を書いてもらいます（ただし、長いだけではだめ）。卒論の評価は45%。つまり、書かなければ不合格です。
選考方法：	面談で決定。
履修が望ましい科目：	国際経済コース科目、社会理解科目をできるだけとっていることが望ましい。しかし、特定の科目はありません。

「ゼミナールⅡ」（担当者：内藤 勝）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	内藤 勝
テーマ：	自然と農業
概要：	<p>・・・自然を尺度として現代を考え生きる。・・・</p> <p>現代は総て人の頭つまり脳が考え出したmonoである。パソコン、ジャンボ機、ミサイル、共産主義、資本主義、自由主義、哲学、物理学、化学、宗教、経済学等である。それは人の願望や欲望を満たしてきた。経済的欲望を満たした物的要素は石油である。この大量消費によって大都市が出現し、豊かな生活が可能になった。他方、それは大量の排ガスを排出する。二酸化炭素は年間64億t（1997）大気中に捨てられ地球の温暖化、酸性雨、肺ガン、小児喘息の原因にもなっている。このまま、この増大が続けば臨界点を越え70～80年で人類の歴史も終わるであろうと予測される。（松井孝典）現代はエントロピー（エネルギーの汚れ）的限界に達しようとしている。</p>
授業方法：	<p>以上の問題を既成の学問、宗教が解けるとは思えない。以上の世界に入らないものは「自然」だけである。自然の摂理を体得しそれに従う学問と生活こそ現代の行き詰まりを解く鍵であろう。</p> <p>それを知るために「農業体験」を重視する。5月田植え 8月稲刈り 11月餅つき、12月おしるこ大会 1月聞き酒大会 2月座禅の体験を通して「自然の摂理を体得する。」実践による直感力を磨きたい。</p>
履修の留意点：	特になし。知性よりも肉体労働を喜べる頑丈な手と足そして根性を尊ぶ。
目標と評価：	体験した者には、体得しただけの評価をしたい。
選考方法：	tokuni nasi
履修が望ましい科目：	tokuni nasi

「ゼミナールⅡ」（担当者：山崎 康之）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	山崎 康之
テーマ：	ミクロ経済学—戦略的アプローチ
概要：	<p>本ゼミナールの研究対象は、「ミクロ経済学」（価格理論）です。それを戦略という視点から考えようというのが、本ゼミの目的です。</p> <p>ある一定の目標を持った個人が、様々な可能な行動の中から、その目標に照らして最適な行動を選択することを合理的意思決定と呼びます。戦略的アプローチ（ゲームの理論）は複数の個人の利害が相互に依存しあっている場での各個人のこの意思決定、すなわち、利害が対立する状況における合理的行動とはいかなるものであるべきかという問題を研究します。それは、相手がこちらを出し抜こうとしていることを知った上で、さらにその上をいこうと試みる戦略的行動の分析を通じて、競争と協調をめぐる紛争の一般理論であることを目指します。</p> <p>このゼミナールでは、社会科学の多くの分野でその応用が最近著しいこの戦略的アプローチを取り上げ、そのミクロ経済学への応用について学びます。</p>
授業方法：	<p>春学期にはウォームアップとして梶井厚志『戦略的思考の技術—ゲーム理論を实践する』中公新書、2002年を輪読します。輪読というのは、一人で読了するのが難しいような文献を集団で読破する方法で、ゼミの受講生の一人もしくは数名に文献の特定部分の内容や問題点を報告してもらい、他の参加者がそれについて質問・討議を行うことによって、その内容を理解していくものです。秋学期には梶井厚志・松井彰彦『ミクロ経済学—戦略的アプローチ』日本評論社、2000年の輪読を予定しています。授業は4時限目に行います。</p>
履修の留意点：	<p>ミクロ経済学の理論とその応用に興味を持っている学生諸君の参加を歓迎します。また、数学を多少使います。</p>
目標と評価：	<p>最終的には、卒業論文の作成を目標としていますが、その過程において、文献の調べ方や討論・報告のやり方を習得していただきたいと思います。具体的には、四年次に三年次の輪読によってえられた知識や視点をもとに、履修者各自の興味あるテーマを設定し、卒業論文を何度かの中間報告を経て書き上げてもらいます。</p> <p>したがって、三年次の評価は、ゼミナールへの参加程度（出席をしたかどうかではなく、報告をちゃんと行ったかどうか質問を積極的に行ったとか）に基づいて下されます。四年次のそれは、卒業論文の評価によります。なお卒業論文は、最低20000字の字数を想定しています。四年次は個別指導になります。</p>
選考方法：	二年次春学期までの成績および面接により決定します。
履修が望ましい科目：	経済学関係の科目（経済学Ⅰ、Ⅱなど）を出来るだけ多く履修してください

「ゼミナールⅡ」（担当者：内田 和夫）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	内田 和夫
テーマ：	市民としての「まち育て」、私のプランニング
概要：	道路や建物重視の「まちづくり」から、人と人の関係重視の「まち育て」へ。市民と市民が、互いを支えあい、はぐくみ合う関係が、さまざまに生まれる「まち育て」に注目が集まっています。ボランティアに私たちが心を魅かれるのも、無意識のうちにそうしたものを求めているからではないでしょうか。そうした、市民の「まち育て」は、自治体とのパートナーシップへと発展します。私たちの暮らしを身近で支える政府である自治体の役割もまた重要であるからです。そのことはまた自治体をも変えていきます。いわれたとおりの事をする職員から、市民との創造が可能な職員へ。このゼミでは、さまざまな「まち育て」の事例に学びながら、あなた自身の「まち育て」プランを作成することを目的とします。
授業方法：	春学期は「まち育て」の現場に言ったり、ビデオ を見たり、文献を読んだり、参加者自身が、学びたい、取り組みたいのはどういう分野なのか、見出す作業をします。また、どういう調査や、仕組みの勉強が必要なのかについても考えます。秋学期は、自分自身がどういう立場で、参加するのを見極めながら、（たとえば、主婦なのか、商店主なのか、自治体職員なのか、議員なのか、）プランの素描にかかります。個人ごとの作業とするか、共同の作業とするかは、参加者と相談の上、決めます。
履修の留意点：	2時間続きで現場へいってみることもあります。現場でがんばっている人との出会いで、刺激を受けたい人、人と人の協力に夢を持ちたい人、非営利の経済活動に興味のある人、自治体の仕事に関心のある人を歓迎します。
目標と評価：	「私のまち育てプラン」（5000字から10000字）を卒業論文として、作成することを目標とします。3年次の評価は、出席、現場調査、報告、ゼミ活動への取り組みなどを総合的に評価します。4年次 は、卒業論文を軸に評価する予定です。
選考方法：	志望理由を書いた作文と面接によります。
履修が望ましい科目：	「地方自治論」Ⅰ Ⅱ

「ゼミナールⅡ」（担当者：安田 利枝）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	安田 利枝
テーマ：	国際協力（開発援助と環境）
概要：	今日の国際社会には、地雷や小型武器の拡散を始め、少数民族の抑圧、人権侵害、貧困、紛争、内戦、難民、人口爆発、食糧と水の危機など、国境を越えた諸問題が山積しています。これらの諸問題は相互に深く関連していると同時に私達の暮らしにも実は深いところで結びついています。このゼミでは、特に環境と開発援助（貧困の緩和）の關係に焦点をあてて、地球的諸問題につながる国際、国内、地域の問題とその解決の方途を考えます。私達一人一人が、有権者であり、納税者であり、労働者であり、消費者であり、そして直接・間接に投資家でもあります。そうした市民の立場にたって物事を考えていくことを前提にします。
授業方法：	理論と事例研究を両軸にして現場体験型の学習方法をとります。すなわち、前期は、問題の所在を指摘し、分析している文献を讀書発表会の形式でどンドン読んでいきます。国際關係の諸理論、社会開発論なども勉強します。途中、適切なビデオがあれば、ビデオ学習も取り入れます。1人の報告・発表に対してゼミ生全員で質疑応答・ディスカッションをしていく形になります。後期には様々な活動報告を事例として考察する一方で、問題解決の現場で苦闘し活躍している人たちとの交流を含めたプログラムを組んでいきます。頭で考えたり本で読んだりするだけでなく、見たり、聞いたり、匂いを感じたり、体全体で何かを感じることを、そして素晴らしい人たちに出会ったという体験こそが、私達のなかの何かを変えてくれるはずです。何か問題を考える時、その現場やそこに生き暮らす人々の姿や顔が思い浮かぶようになり、それがまた、本や資料の読み方を変えるのです。
履修の留意点：	ゼミ活動に取られる時間はかなりのものになるはずですが、前期に読破しなければならない文献の数は多いです。現場や活動団体を訪問したりする際には、相応の時間が必要ですし、事前のアポイントや質問事項の用意など先方との連絡、帰ってからのお礼状書きなど様々な事柄がついてきます。これらの活動に対して、決して嫌な顔をする事なく、知的好奇心に満ちて、周囲の人々への暖かな気持ちを持たず、主体的に取り組む学生を募集します。アルバイトを優先させる学生は実質的にこのゼミと両立させることは難しいと覚悟してください。本ゼミでの活動以外に、社会開発、コミュニティ開発に取り組む日本や途上国のNGOが主催するスタディ・ツアーには是非参加して欲しいと思っています。（義務ではありません。）
目標と評価：	最終的には卒業論文（20000字以上）を作成してもらいます。3年次は、ゼミ活動への主体的な参加度によって、4年次には、参加度50%、卒業論文の評価50%で成績評価をします。
選考方法：	自分のプロフィール、ゼミ志望動機を含めた学習計画書の2つを提出してください。希望者が多い場合には、面談の上、受講生を決定します。
履修が望ましい科目：	2年次秋学期科目「生活環境論」「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」および3・4年次春学期科目「NGO・NPO論」「環境と開発」の履修を強く勧めます。

「ゼミナールⅡ」（担当者：戎野 淑子）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	戎野 淑子
テーマ：	「働くこと」と「企業」
概要：	現在、人々の「働き方」が大きく変わりつつあります。正社員として、終身雇用を前提として働く働き方が少なくなってきたり、フリーターや派遣社員など多様な働き方が多く見られるようになってきました。また、若くして新規事業を成功させている人もいます。転職も珍しくなくなり、学校卒業後短期間で仕事を辞めてしまう人も少なくありません。給料の支払われ方も、年功序列から成果主義的になってきていると言われてます。このように状況がどうして起きているのでしょうか？働く場である「企業」の変化と、人々の働くことへの意識・行動の変化の両方が大きいと思われる。そこで、「企業」と「働く人々（会社で働く人や起業家等々）」の双方の視点から、現在の変化について考えてみたいと思います。そして、その時に、日本経済全体の仕組みを理解しつつ、国際化や技術革新など私たちを取り巻く環境の変化についても、検討していきたいです。
授業方法：	春学期は、「働き方と企業」に関する文献（参加者と相談して決定）の輪読を行います。報告と討論を通じて、自分の問題意識を明らかにし、卒業論文のテーマを絞っていきます。 秋学期は、卒業論文のテーマについて、具体的に討論をし、グループでの共同研究を行います。
履修の留意点：	本ゼミナールは、グループでの共同研究も多く、全員が毎回出席することによって、初めて成り立つ授業です。皆で作っていく授業ですので、欠席や無責任な行動は、ゼミナールの全員に迷惑をかけることであることを理解していただきたいです。合宿や企業・工場見学などのイベントも行いたいと考えておりますので、「協力して、楽しいゼミを作ろう」と思ってくださいの方の参加を希望します。
目標と評価：	最終的には、卒業論文の作成（グループによる作成）が目標となります。 3年次は、日ごろのゼミへの取り組み状況（出席、発表、レポートなど）を評価します。 4年次は、それと卒業論文とを総合的に評価します。
選考方法：	簡単に志望理由を書いていただき、面談します。
履修が望ましい科目：	「日本企業と雇用システム」「労働と余暇の経済学」

「ゼミナールⅡ」（担当者：山本 孝夫）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	山本 孝夫
テーマ：	財務会計
概要：	本ゼミナールでは、企業会計の基礎理論を体系的に理解するため、財務会計の構造を考察して、実証的かつ理論的研究能力の涵養を計りたいと思います。 企業における経営活動は、営利活動と非営利活動に分けられますが、とくに営利活動に限定して、社会人に必要な基礎知識、すなわち貸借対照表項目・損益計算書項目と資金計算書項目の関連性を学問的に修得することを目指したいと思います。
授業方法：	3年次は、春学期に簿記学・会計学の基礎理論を深めるため、資産会計論、資本会計論、株式会社社会論などの諸問題を取り上げ、関連する文献の輪読を行います。 秋学期には、有価証券報告書を利用して財務分析を行い、企業の収益性や安全性など財務諸表の読み方について研究したいと思います。 4年次は、卒業論文の作成を目指して、論文の進捗状況に合わせた発表と問題提起等を行います。
履修の留意点：	ゼミナールは、学生が主体で授業が進められるので、簿記・会計に興味を持つ学生であり、簿記の検定資格試験の取得者（少なくとも、会計リテラシの単位取得者）であることが望ましい。意欲的な学生諸君の参加を期待したい。 なお、定期的にゼミ合宿と他大学との合同ゼミ（コンパ）を予定しています。
目標と評価：	主体的な研究姿勢を身に付け、特定の学問について問題意識を明確に持つことができる人材を育成したいと考えております。 評価は、卒業論文が最終的なものとなりますが、ゼミナールへの積極的な参加と研究姿勢も重要な要素となります。
選考方法：	(1) 面接を重視します。 (2) 1・2年次の成績を参考にします。 (3) ゼミ生としてのマナーが身に付いている者を条件とします。
履修が望ましい科目：	3・4年次科目「財務会計論」、「国際会計論」、「連結会計論」、「経営分析論」

「ゼミナールⅡ」（担当者：井上 行忠）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	井上 行忠
テーマ：	簿記論・財務諸表論
概要：	本ゼミナールでは「財務会計」を研究対象とする。財務会計とは、企業の経営成績および財政成績を外部利害関係者（株主、債権者、従業員、税務官庁、監督官庁、取引先、消費者等に報告する会計である。したがって、財務会計は、単に一部の利害関係者の利害に基づくものではなく、企業を取り巻く不特定多数の利害関係者の意思決定に役立つものである。本ゼミナールは、公認会計士試験二次試験・税理士試験・日商簿記検定1級における「簿記論・財務諸表論」の計算および理論の理解を深めることを主要なテーマとする。
授業方法：	授業方法は、各テーマごとに担当者を決定し、発表（報告）形式で行う。 春学期のテーマは、「企業会計の基本原則」「企業会計制度と財務諸表」「損益計算原理と損益計算書の構造」「貸借対照表の構造と貸借対照表原則」「流動資産」「有形固定資産」「無形固定資産および投資その他の資産」「繰延資産」を中心に学習を行う。 秋学期のテーマは、「負債会計」「資本会計」「金融商品会計」「外貨換算会計」「税効果会計」「財務諸表の作成」「連結会計」を中心に学習を行う。 なお、学習内容については、ゼミ受講者と相談して決定する。 注：使用テキストは、ゼミ受講者の目標内容により決定する。
履修の留意点：	将来職業会計人（会計士、税理士、会計事務所、会社経理等）を志す学生の参加を希望します。ゼミ受講者は、平常の授業週において、週2コマの参加を必要とする。
目標と評価：	最終的には、卒業論文の作成を目標とする。卒業論文の作成（資料の収集方法、論文の書き方等）については、3年次に指導を行う。 評価については、目標資格の取得状況、出席状況、報告内容等、総合的に評価を行う。
選考方法：	志望理由、面談の上、決定する。
履修が望ましい科目：	3年次設置科目：財務会計論、管理会計論、連結会計論

「ゼミナールⅡ」（担当者：古賀 義弘）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	古賀 義弘
テーマ：	産業論
概要：	本ゼミナールの研究は「産業論」です。特に現代日本の産業及び企業の構造や、直面している諸問題について研究を進めます。長い不況のもとにあって、苦境に陥っている産業、経営努力をしている企業、海外に展開している企業などを経営の側や労働の側から分析していきます。具体的なテーマの設定は個人あるいは複数で行います。
授業方法：	春学期には『日本のビッグ・インダストリー』8巻シリーズ（古賀他編著 大月書店）の中から取り上げて輪読から始めます。全員が必ず分担部分をまとめて発表し、それをもとに論議をして認識を深めていきます。また秋学期には、4年次に向けてテーマ設定を頭においた発表形成を進みます。
履修の留意点：	オリジナルな卒業論文に仕上げていくことが大きな目標ですから、多くの本や資料に直接あたって研究を進めていきます。さらに、夏合宿も予定しています。
目標と評価：	最終的に卒業論文を作成します。したがって3年次の輪読などで蓄えた知識と方法をもとにテーマを設定し、4年次では中間報告やミーティングによって完成させていきます。また4年次になれば、3年生の学習上の指導をすることで力量アップを図ります。評価については、ゼミナールへの参加と受講態度など総合的に判断して決めます。卒業論文は2万字程度を規定とします。
選考方法：	面接と小論文による決定
履修が望ましい科目：	経済史、戦後日本経済史、産業構造論

「ゼミナールⅡ」（担当者：平井 東幸）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	平井 東幸
テーマ：	流通業の研究
概要：	経済活動を身体にたとえると、「流通」は血管のようなものです。これがなくては経済は一日たりとも成り立ちません。このゼミナールでは、この流通業を具体的な事例を取り上げて調査します。100円ショップや、アウトレットなどの新しい業態はなぜ登場するのか、あるいは、安売りや特売はなぜ常態化するのか、メーカーから小売業までの流通経路はどうなっているのかなどを調べて、消費者としてもっとも身近な小売業を中心にして流通業界と流通企業についての理解を深めたいと思います。
授業方法：	<ol style="list-style-type: none"> 1 新聞・雑誌・ビデオの利用して、コンビニなどの事例を研究します。 2 可能であれば、外部講師を招いたり、企業見学も実施したい。 3 春学期末までにレポートのテーマを決め、秋学期ではその発表を行います。 なお、テーマは流通業に限定せず、広く経営経済に関係するものであればよく、また、このレポートは4年次において卒業制作（本ゼミでは卒業論文）に発展させてもらいます。 4 使用するテキスト、参考書については、追って指示します。
履修の留意点：	<ol style="list-style-type: none"> 1 流通業に関心を有する諸君、および流通業を通して経済経営を勉強しようとする諸君を歓迎します。 2 毎回、トピックをめぐって意見交換をしたいので、各人が新聞・雑誌の記事を持参すること。 3 企業見学等にも参加できること。
目標と評価：	目標：流通業の研究を通じて、経済の動向、企業の実態、日々のビジネスの動き等を理解してもらいたいと思います。あわせて、よき社会人としてのマナーを身につけてもらうよう指導します。 評価：平常点とレポートを中心にいきます。また、4年次では卒業論文（12000字以上）の評価を中心にを行う予定です。
選考方法：	面談によります。成績表を持参して下さい。
履修が望ましい科目：	とくにありません。

「ゼミナールⅡ」（担当者：中野 正健）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	中野 正健
テーマ：	現代世界経済下の企業経営
概要：	共通通貨ユーロ誕生下の欧州経済、I.T革命を軸に発展又I.Tバブル崩壊と9.11後経済異変と戦う米国経済、WTO加盟を基軸に発展中の中国経済、デフレ経済不況に悩む日本経済。こうした世界経済情勢下における企業経営を研究対象とします。
授業方法：	講義を軸に討議討論を重ね、これを基軸に各自独自に主題を研究。アドバイスを受けながらこの成果を研究論文として取り纏め発表。
履修の留意点：	世界政治経済社会と企業経営に、幅広い視点から考察することに興味をもつ意欲的な学生諸君の参加を歓迎します。 履修者は、平常の授業週において、週一コマの参加を必要とします。
目標と評価：	最終的には、卒業論文（20000字程度）の作成が目標となります。卒業論文を提出できないと単位は認定されません。 3年次の評価は、出席、分担報告、ゼミ活動への取り組みなど、総合的に評価します。4年次は、それに卒業論文の評価が加味されます。
選考方法：	志望理由、面談の上、決定します。
履修が望ましい科目：	3年次設置科目「資金調達論」「投資戦略論」の履修。

「ゼミナールⅡ」（担当者：松行 彬子）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	松行 彬子
テーマ：	グローバル企業と経営
概要：	20世紀末から21世紀にかけて経営環境の激変とともに企業経営のパラダイムは根底から転換しました。市場のグローバル化・技術革新の加速化などにより、多くの日本企業はグローバル企業へと変容しています。 本ゼミナールでは'企業のグローバル経営とは何か'を追求します。その中でも特に'企業の競争力'に焦点を当てて、新しい時代の真の企業の競争力を理論的に、実証的に検討します。分析のツールとして、基礎的な経営分析を用います。また、一方では、現代経営学でもっとも注目されている知識を中心としたナレッジ・マネジメントにも踏み込んでいきます。 1,2年で培った経営学の学習を基礎に、受講生が広く経営学に関して問題意識をもち、問題解決へと発展するよう指導したいと思っています。
授業方法：	春学期には企業の競争力に関する最新の文献を輪読します。毎回、指名された各レポーターが内容を発表し、全員で問題点を討論します。 基礎的な経営分析を全員で学習し、それを用いて、企業の業績を分析・比較する方法を習得します。秋学期には、ケース・スタディを行います。ケースごとにグループに別れ、資料収集、競争力を分析し、その結果を比較し、成果をレポートにまとめます。このときに、経営学に関するレポートの書き方を指導します。
履修の留意点：	企業経営に広く興味を持ち、ゼミナール活動に積極的に取り組む熱意ある学生の参加を歓迎します。合宿、工場見学、企業訪問などを予定していますが、参加者との相談により選択します。
目標と評価：	4年次の卒業制作を最終目的とします。そのために、3年次には、資料収集、企業評価方法、基本的な専門知識などをゼミ活動を通じて習得します。 3年次の評価は、出席、授業時の報告・発表、ゼミナールへの取り組みの熱意などを総合的に評価します。
選考方法：	面談によって決定します。そのときに、成績表・本ゼミナールへの志望動機を400字程度にまとめたものを持参してください。
履修が望ましい科目：	経営戦略論、経営学Ⅰ、経営学Ⅱ

「ゼミナールⅡ」（担当者：青山 悦子）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	青山 悦子
テーマ：	日本企業における人事労務管理研究
概要：	日本企業における人事労務管理は、現在大きな変革期にあります。終身雇用や年功制はすでに“博物館”には入りつつあるとさえ言われています。代わって登場したのが、多様化、弾力化、成果主義、個人主義などのキーワードに代表される新たな人事労務管理システムです。日本企業は、どのように変わろうとしているのでしょうか。人事労務管理と労使関係の新たな動向を検証し、それについて深く議論することが、本ゼミナールの主要なテーマとなります。あわせて、ゼミ生各自のこれからの「働き方」を、深く考え、議論する「場」となることを希望しています。
授業方法：	春学期は、人事労務管理に関する文献（参加者と相談して決定）の輪読を行います。毎回レポーターによる報告と討論を積み重ねながら、自分自身の問題関心を絞りこんでいきます。また当該研究にかかわる資料収集の方法も身につけてもらう予定です。秋学期は、テーマごとに分かれたグループでの共同研究を進めます。共同研究の成果はゼミ内での討論を経ながら、最終的にはレポートとしてまとめることで、卒業論文作成のためのスキルの向上を目指します。なお、参加者と相談した上で、本ゼミの準備（レジュメ作成の指導など）を行うサブゼミを弾力的に運営する予定です。
履修の留意点：	サブゼミの弾力的運営がゼミ生と合意された場合は、週2コマの参加が必要になる場合があります。また、夏季合宿や企業・工場見学などをゼミの重要なイベントとして取り組む予定なので、各種の役割を積極的に引き受け、ゼミを主体的に「つくりあげていこう」とする意欲的な学生の参加を希望します。
目標と評価：	最終的には、卒業論文（資料などを含めて、約2万字程度）の作成が目標となります。卒業論文を提出できないと単位は認定されません。3年次の評価は、出席、報告、ゼミ活動への取り組みなど、総合的に評価します。4年次は、それに卒業論文の評価が加味されます。
選考方法：	面談（志望理由など）の上、決定します。
履修が望ましい科目：	3年次設置科目「労務管理論Ⅰ」、「労務管理論Ⅱ」

「ゼミナールⅡ」（担当者：和田 耕治）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	和田 耕治
テーマ：	中小企業論、事業創造論
概要：	本ゼミナールでは、わが国の中小企業の実態、経営、政策などに関して、多面的に検討します。中小企業に対するイメージは人それぞれ、まちまちで、プラスのイメージとマイナスのイメージが混在しています。また、そうした企業の実態も創業まもない従業員10人未満の小規模企業と店頭公開直前の100人程度の中堅企業とは全く異なります。さらに、これらの実態は株式を公開している上場企業とも全く異なります。本ゼミナールではわが国における中小企業の実態について、大企業との比較を意識しつつ、マクロ的な動向を捉えた上で、それぞれの受講者の問題意識に従い、研究内容を発展させていきたいと思っています。
授業方法：	春学期にはわが国における中小企業論に関する基本的な知識を修得するために渡辺幸男、黒瀬直弘他著『21世紀型中小企業論』有斐閣を輪読します。また、秋学期にはわが国における中小企業の動向を把握するために中小企業庁編『中小企業白書』ぎょうせい、を輪読することを予定しています。
履修の留意点：	中小企業、ベンチャー企業、創業、起業について興味を持っている学生の参加を歓迎します。卒業後の進路として、家業を継ぐもの、起業したいもの、公的機関や金融機関等において中小企業に対する支援を職業としたい学生の参加を歓迎します。履修者は、平常の授業週において、週二コマの参加を必要とします。さらに、九月と三月に、それぞれ二泊三日程度の合宿を予定しています。また、工場団地や商店街やショッピングセンターの視察や経済産業省・中小企業庁等が主催する「ベンチャープラザ」「中小企業テクノフェア」の見学を考えています。
目標と評価：	最終的には卒業制作を目標としますが、三年次はその過程における基本となる知識の修得、問題意識の設定に重きをおきます。三年次の評価は、ゼミナールへの出席と授業中での報告、発言などに基づいて下されます。四年次に行う卒業制作は、論文あるいはビジネスプランの作成のいずれかを選択してください。論文については、16000字以上、ビジネスプランに関してはパワーポイントを使つての30分程度のプレゼンテーションと2千字程度の要旨を作成してください。
選考方法：	面接と簡単な作文を書いてもらいます。
履修が望ましい科目：	中小企業論と事業創造論は履修してください。

「ゼミナールⅡ」（担当者：中村 修）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	中村 修
テーマ：	ゼミナールⅠ研究テーマの発展と卒業論文制作
概要：	ゼミナールⅠの研究テーマを継承することを原則として、内容の充実を図ります。また、場合によっては新規テーマを起して研究を進めることも可能とします。ゼミナールⅠ同様、研究テーマは、ゼミ生の自由設定とし、研究の手法について可能な限り指導していきたいと考えています。卒業論文制作では、春学期開始時から少しずつ執筆を進めていきます。学会発表のスタイルに準じた論文の雛形を示しますので、これに肉付けをしていく方法で内容の充実と、深化を進めていきます。卒業論文の目標は、できの良し悪しよりも制作過程における姿勢が適切であることを最重要視します。自主的であることはもちろんですが、自身の頭で独自に考えることができるようにしていくことを大切にします。
授業方法：	各自の自主的な研究活動を基本とし、ゼミナールの時間では、それぞれ1週間分の卒業論文執筆の進捗報告をしてもらいます。また、報告内容に対する意見交換を行います。さらに必要に応じて、関連分野の補足説明も行っていきます。具体的には、設定した研究テーマについて、以下の各研究項目を明らかにしていきます。 (1) 研究の目的：ピンボケにならないようにするためにもしっかり考える必要があります。 (2) 研究の背景：なぜ、その研究をする必要があるのか、この研究が貢献できることは何なのかを明確にする必要があります。 (3) 研究の課題：この研究で解決しようとする問題は何かの的を絞ります。 (4) 類似研究の動向：先人はどこまで、その研究を進めたか、調査・分析を行います。 (5) 研究の課題に対する検討結果：具体的な研究内容を、各研究課題に対応して示していきます。 (6) 結論：得られた研究成果の要点を明らかにします。 (7) 今後の研究課題：やり残した未解決課題を明示します。 (8) 参考文献：研究を遂行するに当たって、重要と考えられる文献を示します。 調査や基本知識の習得に必要な文献や図書については、極力、ゼミナール文献として準備していきたいと思えます。
履修の留意点：	特に以下の3つは重視します。 ★自主的に活動する。 ★約束を守る。守れない約束はしない。 ★ゼミナールを欠席しない。 ※特に情報処理に関して詳しい必要はありません
目標と評価：	以下を個人の成長の基準とします。 (1) 論理的にプレゼンテーションができる。 (2) 自己の調査結果を報告書としてまとめられる。 (3) 自己の検討結果を、調査結果と区別してまとめられる。 これらの結果が、最終的に論文に結びついていけばよしとします。卒業論文の目標は、できの良し悪しよりも制作過程における姿勢が適切であることを最重要視します。自主的であることはもちろんですが、自身の頭で独自に考えることができるようにしていくことを大切にします。
選考方法：	原則として、ゼミナールⅠからの継承とします。
履修が望ましい科目：	特にありません。

「ゼミナールⅡ」（担当者：滑川 光裕）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	滑川 光裕
テーマ：	システム情報論、システムシミュレーション、モデリング論
概要：	現在、一般に利用されているパーソナルコンピュータの能力は、一時代前の大型コンピュータに匹敵するほどの能力を持っています。このような高性能のコンピュータを活用するための一つの方法として、システムシミュレーションというものがあります。システムシミュレーションとは、社会（経済・経営）システム・物理システムなど、あるシステム（体系）に対して模擬実験を行い、そのシステムが有効に活用されているかを評価し、より良い利用方法を考えるものです。シミュレーションを行うためには、現実のシステムを数値・数式として表し、コンピュータ内で処理できるようにする（「モデリング」という）ことを行う必要があります。このモデリングの際に、カオス理論、ファジィ理論などを用いて人間の感覚を数値的に表現したり、遺伝的アルゴリズムやエージェント理論などを用いて、効率性についての追求をすることもあります。このように、本ゼミナールでは、シミュレーションあるいはモデリングを通じて、情報技術の仕組みと利用方法についての勉強を行います。
授業方法：	春学期には、プログラミングの課題を課すとともに、シミュレーションを中心に、ファジィ理論、遺伝的アルゴリズムなどの文献を輪読します。これらの最新技術は、海外の学会誌を原文（英語）で読む必要もあります。ただし、初期段階では、日本語で書かれた書籍を数冊利用する予定です。秋学期の途中からは、これらの理論を理解した上で、プログラム言語を利用してモデリングを行います。ここでは、すでにゼミナールⅡとしての卒業研究および論文を目指した展開になります。
履修の留意点：	CやJavaなどのプログラム言語が必須となります。これらは、勉強した内容を具現するために必須となるツールですので、3年生春学期には命がけで習得してもらいます。ただし、Excelという選択肢もあります。合宿も必須です。ここでは、その時点までに研究（勉強）した内容について、一通りまとめてもらい、プレゼンテーションを行うとともに、様々な議論についても行う予定です。さらに、学生によっては、ソフトウェアライセンスや依存するハードウェアなどの問題、あるいは、より専門的な連携教育のため、他大学に向いてプログラミングをしたり、そこでの教員・学生たちと一緒に議論する場合もあります。
目標と評価：	卒業制作を目標とします。具体的には、それまで勉強してきた内容に関するプログラミングを行い、成果を出すことです。それをもとに講演論文程度の文書を書いてもらい、プレゼンテーションを行います。そして、質問事項への対応などの議論ができることを確認して、ゼミナールⅠおよびⅡとしての評価を出します。
選考方法：	2年生春学期までの成績、作文およびそれをもとにした面接によります。
履修が望ましい科目：	コンピュータ入門、情報システム論Ⅰ・Ⅱ、プログラミングⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

「ゼミナールⅡ」（担当者：南 憲一）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	南 憲一
テーマ：	経営科学
概要：	<p>一般に経営科学と呼ばれる分野の中で、統計解析、データ解析、シミュレーションについて学習を進めます。これらの理論を学んだ上でExcelを用いた実際の経営の問題への応用を行います。</p> <p>統計解析の内容 記述統計、確率、正規分布、標本分布、推定、検定</p> <p>データ解析の内容 分散分析、単回帰分析、重回帰分析、主成分分析、判別分析</p> <p>シミュレーションの内容 擬似乱数と確率分布、計画の問題、決定の問題、在庫の問題、待ち行列の問題</p>
授業方法：	<p>3年次 統計解析、データ解析、シミュレーションの様々な手法について教科書の輪読とExcelを用いた実習を通して学習を進めます。輪読では、各受講生の担当を決め順番に授業までに内容を熟読の上、内容を解説してもらいます。引き続き、実際の経営の問題に関するExcelを用いた分析を行います。</p> <p>4年次 卒業論文作成のために必要な文献購読を行います（輪読形式）。さらに研究テーマを各自設定し、そのテーマによって研究を進めます。研究の途中経過の報告を随時行います。最終的に各自卒業論文を完成させます。</p>
履修の留意点：	<p>通常の授業とゼミナールの異なる点は、ゼミナールが学生参加型・学生主体の授業であるということです。従って、まず欠席しないということが大事です。さらに学生どうしお互い協力しながら学習を進めていくということが求められます。夏期休暇にはゼミ合宿を行い、春学期の学習成果を発表しあう予定です。</p>
目標と評価：	<p>3年次 経営科学の手法を理解し、実際の問題に適用できる能力を養うのが目標です。</p> <p>4年次 研究論文の作成が求められるので、研究のための 1. 目的の設定 2. 方法の選択 3. 実施 4. 結果の評価 という各フェーズをこなし、論文を作成する能力を養うことを目標とします。</p> <p>評価は 1. 日常の受講状況 2. 発表状況 3. 提出レポート、卒業論文の内容 によって行います。</p>
選考方法：	<p>面談で選考します。 これまでの履修状況・出席状況も参考にします。</p>
履修が望ましい科目：	統計学Ⅰ・Ⅱ（2年次までに履修していない人は3年次に履修してください）

「ゼミナールⅡ」（担当者：宮本 勉）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	宮本 勉
テーマ：	経営とコンピュータ
概要：	<p>今日、企業活動においてはコンピュータの存在なくしては語れない。この現状はますますインターネットの利用やIT化の加速とともにさらに進んでいきます。その結果、新たなビジネスも次々と出現してきております。さらに、ビジネスのスタイルもどんどんと変化してきております。SOHOというものも新たな勤務の形式として注目されております。そのほか、無線LANというものもパソコン利用の世界を大きく広げております。</p> <p>このような急速なIT化の進んでいるビジネスのあり方やその実態について学習しさらにパソコンやネットワーク、ITビジネスについて学び実証的な研究を行う。そこで、このゼミナールでは各自のパソコン等でネットワークを構築したりSOHOの環境等を作り事件や実証研究を行う。</p>
授業方法：	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンやネットワーク、IT経営についての学習を通して理論を学ぶ、テキストや文献を輪読して学習する ・必要に応じて企業や展示会等に参加して実際の姿を学ぶ ・各自のパソコンを利用してネットワークの構築を行う ・新たなビジネスの展開に関する資料文献を収集し学習する ・夏休みや春休み等長期の休暇に合宿を実施する ・各自独自のテーマを立てて研究を行い論文をまとめる ・各自が自主的に学習意欲を持っていくことを期待する
履修の留意点：	<p>自ら目標をきめて努力する 欠席をしない ゼミの行事には参加する</p> <p>パソコンのマニア、パソコンの利活用に興味のある学生大歓迎 パソコンの利活用に興味を持ち、自ら授業に取り組む意欲ある学生の参加を希望する。</p>
目標と評価：	<p>1年間の結果をまとめて報告書を作成する ゼミへの参加の状況 平常の授業への意欲、姿勢 各種発表のプレゼンテーション能力 パソコンの利活用の能力および意欲 各自の研究テーマによる論文や最終的な卒業論文 以上を総合的に評価する</p>
選考方法：	<p>基本的には説明会を通して面接により選考する 場合によっては簡単なテストをすることもある</p> <p>希望者は次の時間帯に研究室（E棟404室）へ来てください 月曜日：2時間目と4時間目と放課後 水曜日：1時間目と5時間目以降</p>
履修が望ましい科目：	<p>必須条件ではないけれど経営情報関係科目、プログラム関係科目、ホームページ関係科目、プレゼンテーション関係科目を受講していることが望ましい。</p>

「ゼミナールⅡ」（担当者：加藤 敦宣）の履修の手引き

科目名：	ゼミナールⅡ
担当者：	加藤 敦宣
テーマ：	日本企業の経営戦略
概要：	<p>周知の通り、日本企業は、不況の中にあります。厳しい競争環境の中で、生き抜くためには、効率性の向上、内部蓄積の促進など、新たな経営戦略の展開が、必要とされています。しかも、グローバル化の進展により、中国企業との競争も、厳しさを増しています。これらへの対処も、経営戦略において大きな課題となっています。</p> <p>しかし、競争環境が厳しいことには、依然として変わりはないのですが、その一方で、好業績を収め続けている企業もあれば、業績を回復させつつある企業もあります。どうやら、厳しい競争環境の中に置いて、それを克服するような経営戦略が、日本企業の中にはあるようです。それは果たして、他の企業にも通するような、普遍的な要素を持っているのでしょうか。そこでこのゼミナールでは、日本企業の現在について、経営戦略を通じて、考察を深めていきます。</p>
授業方法：	<p>3年次は、経営戦略論のテキストを、報告・ディスカッション形式で輪読していきます。なお、報告者には、レジメを作成して貰います。</p> <p>4年次は、卒業論文の制作、および進捗に併せて、報告・ディスカッションを進めていきます。</p> <p>予定テキスト：伊丹敬之『企業戦略白書Ⅱ』東洋経済新報社、2003年。</p>
履修の留意点：	経営に興味のある学生の参加を期待します。
目標と評価：	<p>3年次の評価：ゼミナールへの積極的な参加、課題状況、出席状況。</p> <p>4年次の評価：卒業論文を中心に、上記の要件を加味。</p>
選考方法：	<p>ゼミ申込書を事前に記入してきて下さい。</p> <p>ゼミ申込書に基づいて面談を行います。</p> <p>ゼミ申込書は研究室にて配布しております。</p>
履修が望ましい科目：	<p>経営関連科目の受講が望ましい。 （経営学、経営管理論、経営戦略論、経営組織論など）</p>

「ゼミナール」（担当者：大澤 薫）の履修の手引き

科目名：	ゼミナール
担当者：	大澤 薫
テーマ：	文学作品を通して考える―「生きる」とは
概要：	文学作品を読書会形式で読み進めていきます。作品にはその国の風土や時代背景、社会構造、生活習慣、さらにはそこに生きる人々の心や考え方が映し出されています。読書という旅の中で出会う人々の考えや行動を通して、喜びや苦しみに思いをめぐらし、自分の世界を見つめなおしていくこと、言い換えれば自分の生き方を確かめていくこと、これが皆さんの取り組む課題です。
授業方法：	① 第一回目の授業で、課題作品を二つ挙げ、テーマに沿って問題点の捉え方や解釈の方法等について説明します。第二回、第三回の授業では課題作品について全員の意見交換をふまえて、ゼミ生が主体的に作品に取り組めるよう方向付けをします。 ② ゼミ生は各自テキストとなる作品を選び、毎回一名が発表担当者となって、自分の選んだ作品について解説をします。そして全員で討論、意見交換を行い、理解を深めます。異なる意見を聞くことで、作品をさまざまな面から見ることができるでしょう。 ③ 映画化された作品があれば、ビデオ鑑賞も行います。
履修の留意点：	① 発表担当者が指定する作品は小説、詩、エッセイ等ジャンルは問いません。ただし、文庫本とすること。 ② 発表担当者は二週間前に指定作品（タイトル、著者、出版社）を提示して下さい。発表日までに全員必ず読了すること。 ③ 意見交換、討論の際は反論、疑問なんでもためらわずに、のびのびと発表して下さい。
目標と評価：	目標：卒業レポート制作 評価：発表内容・表現、討論の際の積極性、課題レポート、卒業レポート等の総合評価。
履修が望ましい科目：	特にありません。

「ゼミナール」（担当者：松嶋 哲雄）の履修の手引き

科目名：	ゼミナール
担当者：	松嶋 哲雄
テーマ：	在日外国人との交流の架け橋を考える
概要：	日本に経済的・文化的・教育的・人的交流の面で、様々な外国から来日し日本社会に在住中の不慣れな外国人の数が増えている。そうした人々の多くが当面している日本社会との大小の摩擦から生じる諸問題を取りあげ、どのようにしたら日本人との友好関係と共存が可能かを探求し、相互コミュニケーション能力の育成を図る。
授業方法：	講義形式だけでなく、グループ討論・データ情報収集・野外調査研究・聞き取り・アンケートなど
履修の留意点：	一回目の授業で説明
目標と評価：	global mindと複眼的視座の育成を目標に、知識の暗記だけでなく、学外研究（フィールドワーク）とレポート、及び様々な形式の意見発表を基に評価する。
履修が望ましい科目：	なし

「ゼミナール」（担当者：宮本 勉）の履修の手引き

科目名：	ゼミナール
担当者：	宮本 勉
テーマ：	経営とパソコンの利活用
概要：	<p>今日、企業活動においてはコンピュータの存在なくしては語れない。この現状はますますインターネットの利用やIT化の加速とともにさらに進んでいきます。その結果、新たなビジネスも次々と出現してきております。さらに、ビジネスのスタイルもどんどんと変化してきております。SOHOというものも新たな勤務の形式として注目されております。そのほか、無線LANというものもパソコン利用の世界を大きく広げております。</p> <p>このような急速なIT化の進んでいるビジネスのあり方やその実態について学習しさらにパソコンやネットワーク、ITビジネスについて学び実証的な研究を行う。</p>
授業方法：	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンやネットワーク、IT経営についての学習を通して理論を学ぶ、テキストや文献を輪読して学習する ・必要に応じて企業や展示会等に参加して実際の姿を学ぶ ・各自のパソコンを利用してネットワークの構築を行う ・新たなビジネスの展開に関する資料文献を収集し学習する ・夏休みや春休み等長期の休暇に合宿を実施する ・各自独自のテーマを立てて研究を行い論文をまとめる ・各自が自主的に学習意欲を持っていくことを期待する
履修の留意点：	<p>自ら目標をきめて努力する 欠席をしない ゼミの行事には参加する</p> <p>パソコンのマニア、パソコンの利活用に興味のある学生大歓迎 パソコンの利活用に興味を持ち、自ら授業に取り組む意欲ある学生の参加を希望する。</p>
目標と評価：	<p>1年間の結果をまとめて報告書を作成する ゼミへの参加の状況 平常の授業への意欲、姿勢 各種発表のプレゼンテーション能力 パソコンの利活用の能力および意欲 各自の研究テーマによる論文や最終的な卒業論文 以上を総合的に評価する</p>
履修が望ましい科目：	<p>必須条件ではないけれど情報関係科目、プログラム関係科目、ホームページ関係科目、プレゼンテーション関係科目を受講していることが望ましい。</p>

「ゼミナール」（担当者：安富 成良）の履修の手引き

科目名：	ゼミナール
担当者：	安富 成良
テーマ：	在日外国人のための日本語教室
概要：	秋学期の後半に日本で暮らす在住外国人に日本語を教えることを最終目的とし、その為の「初級日本語テキスト」の作成（春学期）と教授法を学びます（秋学期）。このゼミを通し、コミュニケーションの道具としての日本語や日本文化を見つめ直し、在住外国人との交流を通し、異文化理解を深めます。また地域に開かれた「日本語講座」を開設することにより地域活動について考えます。
授業方法：	春学期は： 1) 在住外国人についての学習 2) 「初級日本語入門」のテキスト作り ①既に出版されているテキストの収集と検討 ②自分たちのテキスト作りの編集方法の検討 ③テキスト作成作業 秋学期は： 1) テキスト作り 2) 小平市報などへの広報、受講生の募集作業 3) 日本語教室の見学 4) 日本語教師の講演 5) 学園祭での展示 6) 日本語教室の開講（実際に教える）
履修の留意点：	1) グループワークが多くなるので協調性を持ってもらいたい 2) 各学期1～2回、授業外で学外に行くことあり 3) 夏休み、合宿予定（2泊3日程度） 4) 学園祭で展示を予定 5) 秋学期には日本語教師となる、という自覚を持つ
目標と評価：	1) 目標 最終的には外国人に日本語を教えることであるが、その段階に至るまでに日本語や地域の国際化問題について考える 2) 評価 課題レポート、ゼミナールへの取り組み、出席状況の総合評価
履修が望ましい科目：	特になし

「ゼミナール」（担当者：森 康夫）の履修の手引き

科目名：	ゼミナール
担当者：	森 康夫
テーマ：	ユニバーサルデザインを考える
概要：	<p>これまで人々は便利で豊かな生活を求めてきた。20世紀はその夢を実現すべく様々な追求をして来た。その結果、大量生産された人工物やデザインが氾濫することになった。便利で快適な時代が来たと思われたが、果たしてそうなのか。物が溢れるほど、その製品やサービスに不満を持つ人々も増えているのはなぜなのか。使えない環境や道具に悩まされる人々が増えている。21世紀は高齢化社会の問題も抱えており、企業はこの問題に真剣に取り組まなければならない時代となってきている。障害者や高齢者だけではなく子供も含め、誰にでも平等で、優しく使えるものを生み出すことが求められている。本ゼミでは身の回りのものからこの問題を考えていく。</p>
授業方法：	<p>1、春学期 「ユニバーサルデザインとは何か」から始め、その意義や価値を考える。 1) 基礎的なことについて講義し、質問をして考えさせる。 2) 身の回りのものから観察（調査）する。（観察、体験、情報収集） * 各種テーマに沿って講義と観察（調査）を行う。 * 観察（調査）は全員、又はグループごとに行う。</p> <p>2、秋学期 1) 春学期の観察を各自が発展させて、テーマを決めて、提案まで深める。 * 最終的には、論文、又は作品として発表する。</p>
履修の留意点：	<p>何か新しいことをしてみたい、あるいは発見してみたいという好奇心が旺盛なことが求められる。考えることが苦手な学生は向かないかも。何か役に立つものを考えたいという強い意思を持った学生向きである。</p>
目標と評価：	<p>目標： ユニバーサルデザインについて調べることを通して「自分で考え、行動出来る力を養うと共に、コミュニケーション能力の向上を図る」事を目的とする。</p> <p>評価： 課題制作だけでなく、普段の授業に対する姿勢やグループワークなどを総合的に見て判断する参考にする。</p>
履修が望ましい科目：	「心と造形」

「ゼミナール」（担当者：古閑 博美）の履修の手引き

科目名：	ゼミナール
担当者：	古閑 博美
テーマ：	魅力行動の研究（魅力行動学）
概要：	魅力行動学（「さまざまな出会いを通して魅力的な自己形成と人間関係を求める行動の学」）は、魅力行動を研究するゼミナールです。身の回り30cmからはじめる魅力行動を提唱しています。そのひとつに、「さささ親切運動」があります。この運動は、「さっそく親切」「さりげない親切」「さわやかな親切」を身近な人にたいしおこなおうというものです。表現の人間学として、魅力行動をことば違い、マナーや日常の振る舞い（行住坐臥）から考察し、身につけ、コミュニケーション能力と社会的知性の向上を目指します。国際的視野で魅力行動を考えるとともに、日本文化に親しみ楽しむことから、日本人の魅力行動に迫ります。
授業方法：	講義、演習、学外研修、夏合宿から成り、卒業制作を課します。春学期は『魅力行動学入門』講義、秋学期は学園祭に講演と古典遊戯投扇興を持って参加し、その後、魅力行動の研究を進めます。学外研修は、歌舞伎・文楽鑑賞、茶事、禊（滝修行）、接心（坐禅）、テーブルマナーなどを実施する予定。以上がつつがなく進行するよう運営します。
履修の留意点：	実際に体験することの多い講座です。自己管理・日程管理能力などが問われます。ゼミの企画に参加することを重視します。入ゼミ希望者は、申込書を研究室に持参してください。簡単な面接を実施します。
目標と評価：	魅力行動を学び、身につけ、社会的行動に表現できる魅力的な自己の創造を目指します。クラスでの授業参加態度、学外研修・合宿等における参加の姿勢と取り組み、レポートなどを総合して評価します。
履修が望ましい科目：	ホスピタリティ関連科目、ビジネス関連科目、日本文化関連科目。

「ゼミナール」（担当者：藤井 秀子）の履修の手引き

科目名：	ゼミナール
担当者：	藤井 秀子
テーマ：	故事に学ぶ日本語表現～四字熟語を中心として～
概要：	日本語表現能力とプレゼンテーション能力の開発のために「四字熟語」を採り上げる。四字熟語を学ぶことにより、言葉の意味のみならず、その基となっている故事来歴や表現方法など、深い理解と知識の修得を目指す。 さらにその言葉を自分のものとして、十分に使いこなせるようにするため、短文を作成しお互いに発表しあう。プレゼンテーション能力の向上も図る。 後半は、四字熟語だけではなく、格言や諺なども取り入れて言葉の幅を増やすと同時に自分の心の糧となる「座右の銘」も見つけたい。
授業方法：	* 春学期—四字熟語に関する個人研究発表を中心に行う。各自好きな四字熟語を選んで、その意味や故事来歴、出典、表現方法、用例などを調べ、それに加えてその四字熟語を使って作成した短文をレジュメにし、皆の前で発表する。その後、全員がその言葉を使った短文を作り発表する。 * 秋学期—3人で1グループとなり、四字熟語によるクイズやパズルを作成して、お互いに発表や討論を行う。後半は、四字熟語以外にも枠を広げて格言や諺、書物などの中から好きな言葉を探し出してきて、お互いに発表しあう。
履修の留意点：	日頃から言葉に対する関心を持ってゼミに臨んでほしい。常に人の話をよく聞き、自分の考えを自分の言葉で書き、話す習慣を持つよう心がけてほしい。 レジュメはパソコンで仕上げるので、パソコンの修得が望まれる。 なお、応募者が多い場合は、抽選とする。
目標と評価：	* 目標—四字熟語や格言、諺などの“よい言葉”を通して、「調べる力・考える力・発表する力」を養う。 * 評価—個人研究発表、期末テスト及び積極的姿勢などから総合的に評価する。
履修が望ましい科目：	プレゼンテーション技法

「ゼミナール」（担当者：俵 尚申）の履修の手引き

科目名：	ゼミナール
担当者：	俵 尚申
テーマ：	ビジネスコミュニケーション能力の養成
概要：	ビジネス・コミュニケーション能力の養成を主たる目的とする。学内から社会に目を向け、フィールド（現場）で働く人々（卒業生を含め）の観察、インタビュー、アンケートを通じ、フィールドでものを観る力・行動する力を養う。フィールド上で得られた結果をグループディスカッションによってまとめ、その活動におけるPDSサイクル（計画⇒実行⇒反省）を自分の中に定着させる。グループワークを中心とし、将来的には、学生間（2年生から1年生）の就職支援体制を構築する。
授業方法：	1) 進路指導室との協力を得ながら過去の先輩の報告を、項目ごとにまとめ、卒業生の就職先への訪問インタビュー及びアンケート調査の結果を元に、1年生がより就職活動をしやすいように発表会の準備を進める。 2) ビジネスインターンシップの体験と学部の体験者によるインタビューを元に、進路指導室との協力を得ながら、指導テキストを作成し、1年生が実際に実習先の企業の方にご迷惑を掛けないように、また、1年生が企業から少しでも好意的な評価を受けられるように発表会の準備を進める。尚、発表後の反省等を含めた物を、年度末に小冊子として残す。
履修の留意点：	本履修希望ゼミ生においては、学業と平行した就職準備の重要性及び必要性を認識している者が望ましい。
目標と評価：	調査・分析結果のレポート作成・発表。 発表後の反省等を含めた物を、年度末に小冊子として残す。
履修が望ましい科目：	ビジネスルールとマナー 就職対策トレーニング

「ゼミナール」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	ゼミナール
担当者：	星 ひろみ
テーマ：	スポーツ・イベントを開催しよう！
概要：	<p>インターネットをはじめ益々便利になっていく時代の中で、表現する力やコミュニケーション能力・行動するということが、あらためて見直される機会が増えてきました。『仲間と協力しながら作り上げる力』『考えたことを実行に移す力』は決して簡単に身につくものではありません。本ゼミではスポーツに関連するイベントを企画するところから運営するところまでを「グループワーク」とおとして、「コミュニケーション能力」を養いながら、行っていきたいと考えています。</p> <p>主な内容としては、地域の方々、あるいは学内の学生を対象に『スポーツイベント』（スポーツ大会やスポーツ講習会）を開催します。学生がイベントの種類から種目の選択に始まり、企画・運営を行うゼミナールです。ただ、座って学ぶだけでなく、計画をしたら実行する（実行力・即戦力）。イベントを開催するに必要な、緻密な準備（企画・広報活動など）や実際のイベントの主催者側としての運営と現場で管理する役（講師や審判など）をすべて学生が担い、学ぶと共にリーダーシップ、即戦力・実行力を身につけ、さらには、参加者への気配りや物事の先読みが出来る力をつけ、実際に社会にでて、「役立つ人材」と言われるような力を身につけたいと考えています。</p>
授業方法：	<p>イベントの種類を決めた後、開催に必要な準備を行っていきます。</p> <p>①役割分担をし、パートごとの作業（グループワーク） ②イベント成功にむけての積極的な話し合い（コミュニケーション能力・協調性・リーダーシップ・プレゼンテーション） ③講師・審判が出来るよう、その種目のルールを学んだり、講師が出来るよう実習を行う。（スポーツを学ぶ） ④適当な時期にイベントを実施</p>
履修の留意点：	<p>メンバー同士で話し合い、行動することが常です。最終的にイベントの参加者に楽しんでもらうために、細かいが、表に出ない仕事なども行うことがあります。本ゼミには、スポーツ好きで、責任感があり、行動力のある学生や、人と接せることが好きな学生向きです。また、イベントの開催がゼミナール実施時間とは限らないので、自分の時間がある程度割ける学生が望ましい。</p>
目標と評価：	<p>目標：年2回のイベント開催</p> <p>評価：イベントの開催を基本的な評価対象（単位取得）と考えます。 また、運営にあたり、 ①実行力 ②責任感 ③協力的性 ④リーダーシップ ⑤柔軟な対応力 なども評価対象</p>
履修が望ましい科目：	特になし。

「ゼミナール」（担当者：石川 直弘）の履修の手引き

科目名：	ゼミナール
担当者：	石川 直弘
テーマ：	子どもの認知発達
概要：	子どもの「ユーモアの能力」の発達を通して、乳幼児・児童の心理発達を学んでいく。
授業方法：	まず、文献購読を中心にして学習に必要とされる基本事項を理解していく。 その後に、ディスカッション、データ情報収集をおこなって学習を深めていく。
履修の留意点：	ただ単に知識を獲得するだけでなく、自ら課題を通して考えること、判断することが要求される。 学習したことを、発表することも必要となる。
目標と評価：	研究報告レポートを作成する。
履修が望ましい科目：	人間性の発達

「英語 I (再履修)」 (担当者: 栗野 恵子) の履修の手引き

科目名:	英語 I (再履修)
担当者:	栗野 恵子
設置学期:	春
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	すでに学んできた英語の知識を再度点検・確認しながら、語彙を増やすとともに基本的な文章構造・文法を確実に身につけ、英語力の総合的湖上を図ります。 E-Learning 導入。
授業方法:	説明と作業。 「英検 E-CAT」を使用し、各自が練習問題に取り組み、最後にクラス全体でそのまとめ、確認の方法をとります。6ヶ月間は学習場所・時間を選ばず使用できる教材なので大いに利用してください。
履修の留意点:	E-Learning 導入の授業なのでパソコンは必需品 (ヘッドセット含む) です。 又、「英検 E-CAT」の使用料として 3150円 (6ヶ月分) かかります。
目標と評価:	最適なレベルの「英語検定試験」を受験することを目標とします。 模擬試験を実施し、状況に応じ On Demand あるいは一斉授業を展開していく予定です。 評価方法: ①②のいずれかの方法をとります。 ① 出席: 30% 英検模試による合格: 50% (英語 I は準2級合格で50%、不合格なら0%) 教員側の裁量点: 20% (授業中・外の学習状況) ② 出席: 30% 英検本試験1次合格: 70%
教科書:	英検 E-CAT 旺文社
参考書:	Essential Grammar In Use Oxford

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語 I (再履修)」 (担当者: 栗野 恵子) の履修の手引き

科目名:	英語 I (再履修)
担当者:	栗野 恵子
設置学期:	春
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	すでに学んできた英語の知識を再度点検・確認しながら、語彙を増やすとともに、基本的な文章構造・文法を確実に身につけ、英語の総合的な向上を図ります。 E-Learning 導入。
授業方法:	説明と作業。 「英検 E-CAT」を使用し、各自が問題に取り組み、最後にクラス全体でそのまとめ・確認をする方法をとります。6ヶ月間は学習場所・時間を選ばず使用できる教材なのでおおいに活用してください。
履修の留意点:	E-Learning 導入のため、パソコンは必需品 (ヘッドセット含む) です。 又、「英検 E-Cat」使用料として 3150 円 (6ヶ月分) かかります。
目標と評価:	最適なレベルの「英語検定試験」受験を目標とします。 評価方法: ①②のいずれかの方法により評価 ① 出席: 30% 英検模試による合格: 50% (英語 I 準 2 級合格で 50%・不合格は 0%) 教員による裁量点: 20% (教室内・外での学習状況など) ② 出席: 30% 英検本試験 1 次合格: 70%
教科書:	英検 E-Cat 旺文社
参考書:	Essential Grammar In Use Oxford

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語 I」（担当者：安富 成良）の履修の手引き

科目名：	英語 I
担当者：	安富 成良（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	短期大学部2年生で「英語 I」再履修者は短大1年生の「英語コミュニケーション I」を受講しなければなりません。この授業はコミュニケーションの有効な道具である英語の「読む」「書く」「聴く」「話す」の4技能を総合的に高めることを目標とし、高校までに学習した英語の基本的な文法を確認しながら、実際の場面、特に海外旅行で使える英語の習得を目指して行われます。文法事項の確認については、各文法項目のポイントのまとめと練習問題の学習を通して定着させます。また旅行英語の学習についてはオーディオ・テープを用いて、HearingとSpeakingの能力の向上を図り、旅行に必要な英語を毎回1場面（Unitを一つ）学習します。更にアメリカ人特有の英語の発音にも慣れる様に練習します。英語コミュニケーションの授業は1年間のうち春（秋）学期を日本人の英語教員が担当し、あとの半期の秋（春）学期がネイティブの英語教員が担当する、という授業形態をとっており日本人教員とネイティブの英語教員が連携して1年間の学習を通してで英語力の向上を目指しています。
授業方法：	この授業では学生の発表を重視し、旅行英語の学習では二人ペアとなった会話練習や3分以上のミニスピーチも課します。 ・基本的な文法項目の確認については、プリント教材を使用して講義と練習問題（小テスト）を行い定着化を図ります。
履修の留意点：	特にありませんが、積極的な受講を望みます。
目標と評価：	・目標としては就職試験（英語）で足切りにならないような英語力を身につけると共に、海外旅行である程度英語を話したり、英語を聞き取りが出来るようになることを目指します。 ・定期考査（50％）と平常点（10％）Reading Test（10％） *『トラベル・イングリッシュ』のエッセイ読みのテストも平常点に加算。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語 I」（担当者：松嶋 哲雄）の履修の手引き

科目名：	英語 I
担当者：	松嶋 哲雄（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	英語を実際に使う場合に役立つ力の修得を目標に、英語の既習知識を復習・確認し、発音・イントネーション・語彙・文法・読解と作文などの総合的技能の育成を目指す。
授業方法：	日本人が苦手とする発音、リスニング指導。新しい文法・語句項目の解説。ほぼ毎回復習テスト実施。
履修の留意点：	予習は毎回やってくること。欠席しないこと。
目標と評価：	役立つ英語力を身につけることを目標に、復習テストの結果と出席率、および提出物と積極的な授業態度を考慮して評価する。
教科書：	Smash Hit Listening Stephen Timson MACMILLAN
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語 I」（担当者：松嶋 哲雄）の履修の手引き

科目名：	英語 I
担当者：	松嶋 哲雄（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	この科目は「地球語」としての英語の読む・書く・話す・聞くの4技能をバランスよく向上させ、英語による総合的なコミュニケーション能力を養成する。
授業方法：	ポップソングの聞き取りを通して、日本人が苦手とする発音・イントネーションの練習 文法知識・語句の解説とその運用能力の向上のため、作文・対話による修得
履修の留意点：	欠席しないこと 毎回下調べしてくること
目標と評価：	総合的に評価
教科書：	SMASH HIT LISTENING Stephen Timson MACMILLAN LANGUAGEHOUSE
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語 I (再履修)」 (担当者: 栗野 恵子) の履修の手引き

科目名:	英語 I (再履修)
担当者:	栗野 恵子
設置学期:	秋
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	すでに学んできた英語の知識を再度点検・確認しながら、語彙を増やすとともに、基本的の文章構造・文法を確実に身につけ、英語力の総合的な向上を図ります。 E-Learning 導入
授業方法:	説明と作業 適宜小テストを実施し、状況に応じてOn Demand あるいは一斉授業を展開していく予定です。
履修の留意点:	E-Learning 導入のため、パソコンは必需品です。又、「英検 E-Cat」使用料に3510円(6ヶ月分)がかかります。
目標と評価:	最適な英検レベルの受験を目標とします。 評価方法: 英検 E-Cat 70% 小テスト・提出物状況 30%
教科書:	英検 E-Cat 研究社
参考書:	Essential Grammar In Use Oxford

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語 I (再履修)」 (担当者: 栗野 恵子) の履修の手引き

科目名:	英語 I (再履修)
担当者:	栗野 恵子
設置学期:	秋
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	すでに学んできた英語の知識を再度点検・確認しながら、語彙を増やすとともに、基本的な文章構造・文法を確実に身につけ、英語力の総合的な向上を図ります。 E-Learning 導入
授業方法:	説明と作業 適宜小テストを実施し、状況に応じてOn Demand あるいは一斉授業を展開していく予定です。
履修の留意点:	E-Learning 導入のため、パソコンは必需品です。 又、「英検 E-Cat」使用料として3510円(6ヶ月分)がかかります。
目標と評価:	最適な英検レベルの受験を目標とします。 評価方法: 英検 E-Cat 70% 小テスト・提出物状況 30%
教科書:	英検 E-Cat 研究社
参考書:	Essential Grammar In Use Oxford

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語Ⅱ(再履修)」(担当者: 藤岡 阿由未)の履修の手引き

科目名:	英語Ⅱ(再履修)
担当者:	藤岡 阿由未
設置学期:	春
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	英語Ⅰで学んだ内容をさらに深め、単語と文法の知識に加えて、語法上の約束も確認していきます。また、多種多様な練習問題への取り組みに時間をかけて、各自が達成度を確認しながら進め、英検二級合格程度の実力をつけることを目標とします。
授業方法:	「英検 E-CAT」を使用し、各自が練習問題に取り組み、最後にクラス全体でそのまとめ、確認をする方法を取ります。六ヶ月間は学習場所、時間を選ばず使用できる「E-CAT」を大いに活用し、授業時間以外の自習も求められることになるでしょう。
履修の留意点:	履修者は教材(3150円)を購入し、ヘッド・セットを持参しなければ、授業に出席することはできません。 英語Ⅰと英語Ⅱの両方再履修で単位を取得する場合、必ず英語Ⅰを取得してから、英語Ⅱを取得する必要があります。
目標と評価:	①②のいずれかの方法により評価。 ① 出席: 30% 英検模試による合格: 50% (英語Ⅰは準2級、英語Ⅱは2級を合格で満点、不合格なら0点) 教員による裁重点: 20% (授業中の学習状況と授業外の学習状況) ② 出席: 30% 英検本試験1次合格: 70% <補足> * 英検模試の合否は、授業外受験の状況に不備がある場合(例えば替え玉受験など)判定不可能のため、授業内に行う模試の結果のみを有効とします。 但し、授業内模試を三週間に一回と受験回数を多くすること、また各回の出題模試をあらかじめ指定し、受講者が出題模試の内容を予測し事前に学習できることとします。 * 出席が評価全体の30%を占める点に関しては、この科目を特例としては認められないという教務上の規則のため、上記の評価配分とします。 * 英語Ⅰ、英語Ⅱを両方再履修で取得する場合、先に英検2級模試に合格したという理由で、即座に両科目の単位が認定されるということは、教務規則に従えば不可能ということです。従って、順番に履修する必要があります。
教科書:	英検 E-CAT 研究社
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語Ⅱ(再履修)」(担当者: 藤岡 阿由未)の履修の手引き

科目名:	英語Ⅱ(再履修)
担当者:	藤岡 阿由未
設置学期:	春
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	英語Ⅰで学んだ内容をさらに深め、単語と文法の知識に加えて、語法上の約束も確認していきます。また、多種多様な練習問題への取り組みに時間をかけて、各自が達成度を確認しながら進め、英検二級合格程度の実力をつけることを目標とします。
授業方法:	「英検 E-CAT」を使用し、各自が練習問題に取り組み、最後にクラス全体でそのまとめ、確認をする方法を取ります。六ヶ月間は学習場所、時間を選ばず使用できる「E-CAT」を大いに活用し、授業時間以外の自習も求められることになるでしょう。
履修の留意点:	履修者は教材(3150円)を購入し、ヘッド・セットを持参しなければ、授業に出席することはできません。 英語Ⅰと英語Ⅱの両方再履修で単位を取得する場合、必ず英語Ⅰを取得してから、英語Ⅱを取得する必要があります。
目標と評価:	①②のいずれかの方法により評価。 ① 出席: 30% 英検模試による合格: 50% (英語Ⅰは準2級、英語Ⅱは2級を合格で満点、不合格なら0点) 教員による裁量点: 20% (授業中の学習状況と授業外の学習状況) ② 出席: 30% 英検本試験1次合格: 70% <補足> * 英検模試の合否は、授業外受験の状況に不備がある場合(例えば替え玉受験など)判定不可能のため、授業内に行う模試の結果のみを有効とします。 但し、授業内模試を三週間に一回と受験回数を多くすること、また各回の出題模試をあらかじめ指定し、受講者が出題模試の内容を予測し事前に学習できることとします。 * 出席が評価全体の30%を占める点に関しては、この科目を特例としては認められないという教務上の規則のため、上記の評価配分とします。 * 英語Ⅰ、英語Ⅱを両方再履修で取得する場合、先に英検2級模試に合格したという理由で、即座に両科目の単位が認定されるということは、教務規則に従えば不可能ということです。従って、順番に履修する必要があります。
教科書:	英検 E-CAT 研究社
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語Ⅱ(再履修)」(担当者: 藤岡 阿由未)の履修の手引き

科目名:	英語Ⅱ(再履修)
担当者:	藤岡 阿由未
設置学期:	秋
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	英語Ⅰで学んだ内容をさらに深め、単語と文法の知識に加えて、語法上の約束も確認していきます。また、多種多様な練習問題への取り組みに時間をかけて、各自が達成度を確認しながら進め、英検二級合格程度の実力をつけることを目標とします。
授業方法:	「英検 E-CAT」を使用し、各自が練習問題に取り組み、最後にクラス全体でそのまとめ、確認をする方法を取ります。六ヶ月間は学習場所、時間を選ばず使用できる「E-CAT」を大いに活用し、授業時間以外の自習も求められることになるでしょう。
履修の留意点:	履修者は教材(3150円)を購入し、ヘッド・セットを持参しなければ、授業に出席することはできません。 英語Ⅰと英語Ⅱの両方再履修で単位を取得する場合、必ず英語Ⅰを取得してから、英語Ⅱを取得する必要があります。
目標と評価:	①②のいずれかの方法により評価。 ① 出席: 30% 英検模試による合格: 50% (英語Ⅰは準2級、英語Ⅱは2級を合格で満点、不合格なら0点) 教員による裁重点: 20% (授業中の学習状況と授業外の学習状況) ② 出席: 30% 英検本試験1次合格: 70% <補足> * 英検模試の合否は、授業外受験の状況に不備がある場合(例えば替え玉受験など)判定不可能のため、授業内に行う模試の結果のみを有効とします。 但し、授業内模試を三週間に一回と受験回数を多くすること、また各回の出題模試をあらかじめ指定し、受講者が出題模試の内容を予測し事前に学習できることとします。 * 出席が評価全体の30%を占める点に関しては、この科目を特例としては認められないという教務上の規則のため、上記の評価配分とします。 * 英語Ⅰ、英語Ⅱを両方再履修で取得する場合、先に英検2級模試に合格したという理由で、即座に両科目の単位が認定されるということは、教務規則に従えば不可能ということです。従って、順番に履修する必要があります。
教科書:	英検 E-CAT 研究社
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語Ⅱ(再履修)」(担当者: 藤岡 阿由未)の履修の手引き

科目名:	英語Ⅱ(再履修)
担当者:	藤岡 阿由未
設置学期:	秋
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	英語Ⅰで学んだ内容をさらに深め、単語と文法の知識に加えて、語法上の約束も確認していきます。また、多種多様な練習問題への取り組みに時間をかけて、各自が達成度を確認しながら進め、英検二級合格程度の実力をつけることを目標とします。
授業方法:	「英検 E-CAT」を使用し、各自が練習問題に取り組み、最後にクラス全体でそのまとめ、確認をする方法を取ります。六ヶ月間は学習場所、時間を選ばず使用できる「E-CAT」を大いに活用し、授業時間以外の自習も求められることになるでしょう。
履修の留意点:	履修者は教材(3150円)を購入し、ヘッド・セットを持参しなければ、授業に出席することはできません。 英語Ⅰと英語Ⅱの両方再履修で単位を取得する場合、必ず英語Ⅰを取得してから、英語Ⅱを取得する必要があります。
目標と評価:	①②のいずれかの方法により評価。 ① 出席: 30% 英検模試による合格: 50% (英語Ⅰは準2級、英語Ⅱは2級を合格で満点、不合格なら0点) 教員による裁重点: 20% (授業中の学習状況と授業外の学習状況) ② 出席: 30% 英検本試験1次合格: 70% <補足> * 英検模試の合否は、授業外受験の状況に不備がある場合(例えば替え玉受験など)判定不可能のため、授業内に行う模試の結果のみを有効とします。 但し、授業内模試を三週間に一回と受験回数を多くすること、また各回の出題模試をあらかじめ指定し、受講者が出題模試の内容を予測し事前に学習できることとします。 * 出席が評価全体の30%を占める点に関しては、この科目を特例としては認められないという教務上の規則のため、上記の評価配分とします。 * 英語Ⅰ、英語Ⅱを両方再履修で取得する場合、先に英検2級模試に合格したという理由で、即座に両科目の単位が認定されるということは、教務規則に従えば不可能ということです。従って、順番に履修する必要があります。
教科書:	英検 E-CAT 研究社
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語Ⅱ」（担当者：安富 成良）の履修の手引き

科目名：	英語Ⅱ
担当者：	安富 成良（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>短期大学部2年生で「英語Ⅱ」再履修者は短大1年生の「英語コミュニケーションⅡ」を受講しなければなりません。この授業はコミュニケーションの有効な道具である英語の「読む」「書く」「聴く」「話す」の4技能を総合的に高めることを目標とし、高校までに学習した英語の基本的な文法を確認しながら、実際の場面、特に海外旅行で使える英語の習得を目指して行われます。文法事項の確認については、各文法項目のポイントのまとめと練習問題の学習を通して定着させます。また旅行英語の学習についてはオーディオ・テープを用いて、HearingとSpeakingの能力の向上を図り、旅行に必要な英語を毎回1場面（Unitを一つ）学習します。更にアメリカ人特有の英語の発音にも慣れる様に練習します。英語コミュニケーションの授業は1年間のうち春（秋）学期を日本人の英語教員が担当し、あとの半期の秋（春）学期がネイティブの英語教員が担当する、という授業形態をとっており日本人教員とネイティブの英語教員が連携して1年間の学習を通して英語力の向上を目指しています。</p>
授業方法：	<p>この授業では学生の発表を重視し、旅行英語の学習では二人ペアとなった会話練習や3分以上のミニスピーチも課します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な文法項目の確認については、プリント教材を使用して講義と練習問題（小テスト）を行い定着化を図ります。
履修の留意点：	特にありませんが、積極的な受講を望みます。
目標と評価：	<ul style="list-style-type: none"> ・目標としては就職試験（英語）で足切りにならないような英語力を身につけると共に、海外旅行である程度英語を話したり、英語を聞き取りが出来るようになることを目指します。 ・定期考査（50％）と平常点（10％）Reading Test（10％） * 『トラベル・イングリッシュ』のエッセイ読みのテストも平常点に加算。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語Ⅱ」（担当者：松嶋 哲雄）の履修の手引き

科目名：	英語Ⅱ
担当者：	松嶋 哲雄（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	英語の総合的なコミュニケーションを引き続き学び、トレーニングする中で、コミュニケーションで重要な他者理解を英語というツールを用いて深め、異文化理解で不可欠な知識を身につけ、自己表現としての言葉の重要性、コミュニケーションの大切さを学ぶ。
授業方法：	ポップソングの聞き取りを通して、日本人が苦手とする発音・イントネーションの克服 実用的な文法知識・語句の解説とその運用技能の向上を目指し、作文・対話形式での練習 ほぼ毎回復習・確認テスト実施
履修の留意点：	欠席しないこと 毎回下調べしてくること
目標と評価：	総合的に評価
教科書：	SMASH HIT LISTENING Stephen Timson MACMILLAN LANGUAGEHOUSE
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語Ⅱ」（担当者：松嶋 哲雄）の履修の手引き

科目名：	英語Ⅱ
担当者：	松嶋 哲雄（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	英語の総合的なコミュニケーションを引き続き学び、トレーニングする中で、コミュニケーションにおいて重要な他者理解を英語というツールを用いて深め、異文化理解にとって不可欠となる知識を身につけ、自己表現としての言葉の重要性、コミュニケーションの大切さを学ぶ
授業方法：	ポップソングの聞き取りを通して、日本人が苦手とする発音・イントネーションの修得、実用的な文法知識・語句の解説と、その運用技能の向上を目指し、作文や対話形式での反復練習。ほぼ毎回復習テスト実施。
履修の留意点：	欠席しないこと 毎回下調べしてくること
目標と評価：	総合的に評価
教科書：	SMASH HIT LISTENING Stephen Timson MACMILLAN LANGUAGEHOUSE
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英文講読Ⅰ」（担当者：高野 秀之）の履修の手引き

科目名：	英文講読Ⅰ
担当者：	高野 秀之（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	1年生で学んだ内容をふまえて、多岐にわたるテキストをより多く読みこなす練習をします。特に、未知の語義を文脈の中で推測する力をつけ、その力をより専門的な内容のテキストにまで応用してゆきます。
授業方法：	1年生秋学期の「統一テスト」の結果でクラス分けをしますので、第1回目から授業が始まります。毎回の授業では、さまざまな形で小テストが行われますので、欠席すると平常点が獲得できません。授業には、テキストの背景的な知識、内容の推測、読解、内容把握、文法、作文という流れがありますので、一日も早くその流れをつかんでください。
履修の留意点：	第1回目の授業までにクラスが発表されますので、関連情報をよく確認し、教室を間違えないようにしてください。第1回目の授業では、1年生で学習した内容の復習テストを行います。学期の評価に影響するものですから、必ず受験してください。第2回目以降の授業には辞書が必要になりますので、必ず各自で用意してください。電子辞書を使う予定の学生は、英英辞典の機能を備えた機種が有用でしょう。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとして、受講生のレベルが上がっていることを期待しています。
教科書：	Select Reading: Pre-Intermediate Linda Lee & Erik Gundersen Oxford University Press
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英文講読Ⅰ」（担当者：大澤 薫）の履修の手引き

科目名：	英文講読Ⅰ
担当者：	大澤 薫
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	1年生で学んだ内容をふまえて、多岐にわたるテキストをより多く読みこなす練習をします。特に、未知の語義を文脈の中で推測する力をつけ、その力をより専門的な内容のテキストにまで応用してゆきます。
授業方法：	1年生秋学期の「統一テスト」の結果でクラス分けをしますので、第1回目から授業が始まります。毎回の授業では、さまざまな形で小テストが行われますので、欠席すると平常点が獲得できません。授業には、テキストの背景的な知識、内容の推測、読解、内容把握、文法、作文という流れがありますので、一日も早くその流れをつかんでください。
履修の留意点：	第1回目の授業までにクラスが発表されますので、関連情報をよく確認し、教室を間違えないようにしてください。第1回目の授業では、1年生で学習した内容の復習テストを行います。学期の評価に影響するものですから、必ず受験してください。第2回目以降の授業には辞書が必要になりますので、必ず各自で用意してください。電子辞書を使う予定の学生は、英英辞典の機能を備えた機種が有用でしょう。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとして、受講生のレベルが上がっていることを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英文講読Ⅰ」（担当者：栗野 恵子）の履修の手引き

科目名：	英文講読Ⅰ
担当者：	栗野 恵子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	1年生で学んだ内容をふまえて、多岐にわたるテキストをより多く読みこなす練習をします。特に、未知の語義を文脈の中で推測する力をつけ、その力をより専門的な内容のテキストにまで応用してゆきます。
授業方法：	1年生秋学期の「統一テスト」の結果でクラス分けをしますので、第1回目から授業が始まります。毎回の授業では、さまざまな形で小テストが行われますので、欠席すると平常点が獲得できません。授業には、テキストの背景的な知識、内容の推測、読解、内容把握、文法、作文という流れがありますので、一日も早くその流れをつかんでください。
履修の留意点：	第1回目の授業までにクラスが発表されますので、関連情報をよく確認し、教室を間違えないようにしてください。第1回目の授業では、1年生で学習した内容の復習テストを行います。学期の評価に影響するものですから、必ず受験してください。第2回目以降の授業には辞書が必要になりますので、必ず各自で用意してください。電子辞書を使う予定の学生は、英英辞典の機能を備えた機種が有用でしょう。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとして、受講生のレベルが上がっていることを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英文講読 I」（担当者：藤岡 阿由未）の履修の手引き

科目名：	英文講読 I
担当者：	藤岡 阿由未
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	1年生で学んだ内容をふまえて、多岐にわたるテキストをより多く読みこなす練習をします。特に、未知の語義を文脈の中で推測する力をつけ、その力をより専門的な内容のテキストにまで応用してゆきます。
授業方法：	1年生秋学期の「統一テスト」の結果でクラス分けをしますので、第1回目から授業が始まります。毎回の授業では、さまざまな形で小テストが行われますので、欠席すると平常点が獲得できません。授業には、テキストの背景的な知識、内容の推測、読解、内容把握、文法、作文という流れがありますので、一日も早くその流れをつかんでください。
履修の留意点：	第1回目の授業までにクラスが発表されますので、関連情報をよく確認し、教室を間違えないようにしてください。第1回目の授業では、1年生で学習した内容の復習テストを行います。学期の評価に影響するものですから、必ず受験してください。第2回目以降の授業には辞書が必要になりますので、必ず各自で用意してください。電子辞書を使う予定の学生は、英英辞典の機能を備えた機種が有用でしょう。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとして、受講生のレベルが上がっていることを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英文講読Ⅰ」（担当者：菅原 大一太）の履修の手引き

科目名：	英文講読Ⅰ
担当者：	菅原 大一太
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	1年生で学んだ内容をふまえて、多岐にわたるテキストをより多く読みこなす練習をします。特に、未知の語義を文脈の中で推測する力をつけ、その力をより専門的な内容のテキストにまで応用してゆきます。
授業方法：	1年生秋学期の「統一テスト」の結果でクラス分けをしますので、第1回目から授業が始まります。毎回の授業では、さまざまな形で小テストが行われますので、欠席すると平常点が獲得できません。授業には、テキストの背景的な知識、内容の推測、読解、内容把握、文法、作文という流れがありますので、一日も早くその流れをつかんでください。
履修の留意点：	第1回目の授業までにクラスが発表されますので、関連情報をよく確認し、教室を間違えないようにしてください。第1回目の授業では、1年生で学習した内容の復習テストを行います。学期の評価に影響するものですから、必ず受験してください。第2回目以降の授業には辞書が必要になりますので、必ず各自で用意してください。電子辞書を使う予定の学生は、英英辞典の機能を備えた機種が有用でしょう。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとして、受講生のレベルが上がっていることを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英文講読Ⅰ」（担当者：野口 美咲）の履修の手引き

科目名：	英文講読Ⅰ
担当者：	野口 美咲
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	1年生で学んだ内容をふまえて、多岐にわたるテキストをより多く読みこなす練習をします。特に、未知の語義を文脈の中で推測する力をつけ、その力をより専門的な内容のテキストにまで応用してゆきます。
授業方法：	1年生秋学期の「統一テスト」の結果でクラス分けをしますので、第1回目から授業が始まります。毎回の授業では、さまざまな形で小テストが行われますので、欠席すると平常点が獲得できません。授業には、テキストの背景的な知識、内容の推測、読解、内容把握、文法、作文という流れがありますので、一日も早くその流れをつかんでください。
履修の留意点：	第1回目の授業までにクラスが発表されますので、関連情報をよく確認し、教室を間違えないようにしてください。第1回目の授業では、1年生で学習した内容の復習テストを行います。学期の評価に影響するものですから、必ず受験してください。第2回目以降の授業には辞書が必要になりますので、必ず各自で用意してください。電子辞書を使う予定の学生は、英英辞典の機能を備えた機種が有用でしょう。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとして、受講生のレベルが上がっていることを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英文講読 I (再履修)」 (担当者：菅原 大一太) の履修の手引き

科目名：	英文講読 I (再履修)
担当者：	菅原 大一太
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	受講生のみなさんがこれまで培ってきた英語の知識を出発点として、各々が英語の能力を見直し、それを向上させる機会を提供します。英語に関する基礎的な事項を復習し、また強化しながら英文を読みこなす力をつけていくことを目指します。母国語、外国語を問わず、あるまとまった文章の内容を把握するためには、一文一文のつながり方(前後関係)をとらえなければなりません、外国語で書かれた文章でそのようなするためには、母国語とは違った文法や語彙などをしっかりと身につける必要が出てくるでしょう。文章全体の内容を把握するために、テキストをベースとして英語の規則をこまめに復習・確認しながら、文章の流れを追っていきけるようになることを目標とします。そして授業を通じて、英語が作り出す世界によりスムーズにアクセスできるようになればと願っています。
授業方法：	英語で書かれた文章をゆっくりと読み進めて行く過程で、文法等を含めて内容の全体的な把握に関わる情報を提供します。文章を読む速度をだんだん速めてゆきますので、授業前には必ず予習をしておいてください。 基本的に当科目は講義形式の授業ですが、英語を口にすることから学ぶことも多いと思います。できるだけ時間を作りますので、英文を音読することを通じて、英語を話す人々と同じ呼吸をしてみましょう。 また、事前に割り当てられた受講生による発表を適宜してもらい、その際には担当者以外の受講生からのコメントも求められます。担当者が欠席をするとクラス全員の迷惑となりますから、注意してください。また宿題が出された時は、きちんと提出しませんが平常授業点が得られませんので、気をつけてください。
履修の留意点：	予習・復習を含めて、英語に関して現時点で何がわかっていて、何がわかっていないのかを各々意識しながら履修してもらうことを望みます。学期の始めは、さまざまな角度から皆さんの基礎的な能力を測定しますから、どの部分がよく理解できているのか、何がわからないまましているのかを、各々探し出して下さい。その後で、多くの受講生に共通する問題点を順に解決してゆく予定です。自分の弱点を克服し、得意な部分を伸ばす努力をしてください。 授業に際しては、(電子)辞書を必ず持参してください。ほんやりとしか覚えられていなかった単語を目にした時、手元に辞書があれば、わかりそうでわからないもどかしさをその場で解消することができますと思います。 また、当科目は再履修用です。1年生の必修科目は前提としていませんが、設置されている順に単位を取得することを推奨します。社会が求めている英語の読解力を身に付け、今学期中には単位が取得できるよう、積極的に授業に取り組んでください。
目標と評価：	授業で扱った内容をきちんと吸収し、英文を読んでいくための力をつけていくのが目標です。試験の結果と平常授業点とおおよそ7:3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。
教科書：	Select Readings: Pre-Intermediate Linda Lee, Erik Gundersen Oxford University Press 2002年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英文講読 I (再履修)」 (担当者：菅原 大一太) の履修の手引き

科目名：	英文講読 I (再履修)
担当者：	菅原 大一太
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	受講生のみなさんがこれまで培ってきた英語の知識を出発点として、各々が英語の能力を見直し、それを向上させる機会を提供します。英語に関する基礎的な事項を復習し、また強化しながら英文を読みこなす力をつけていくことを目指します。母国語、外国語を問わず、あるまとまった文章の内容を把握するためには、一文一文のつながり方(前後関係)をとらえなければなりません、外国語で書かれた文章でそのようなするためには、母国語とは違った文法や語彙などをしっかりと身につける必要が出てくるでしょう。文章全体の内容を把握するために、テキストをベースとして英語の規則をこまめに復習・確認しながら、文章の流れを追っていきけるようになることを目標とします。そして授業を通じて、英語が作り出す世界によりスムーズにアクセスできるようになればと願っています。
授業方法：	英語で書かれた文章をゆっくりと読み進めて行く過程で、文法等を含めて内容の全体的な把握に関わる情報を提供します。文章を読む速度をだんだん速めてゆきますので、授業前には必ず予習をしておいてください。 基本的に当科目は講義形式の授業ですが、英語を口にすることから学ぶことも多いと思います。できるだけ時間を作りますので、英文を音読することを通じて、英語を話す人々と同じ呼吸をしてみましょう。 また、事前に割り当てられた受講生による発表を適宜してもらい、その際には担当者以外の受講生からのコメントも求められます。担当者が欠席をするとクラス全員の迷惑となりますから、注意してください。また宿題が出された時は、きちんと提出しませんが平常授業点が得られませんので、気をつけてください。
履修の留意点：	予習・復習時を含めて、英語に関して現時点で何がわかっていて、何がわかっていないのかを各々意識しながら履修してもらいたいことを望みます。学期の始めは、さまざまな角度から皆さんの基礎的な能力を測定しますから、どの部分がよく理解できているのか、何がわからないままなのかを、各々探し出して下さい。その後で、多くの受講生に共通する問題点を順に解決してゆく予定です。自分の弱点を克服し、得意な部分を伸ばす努力をしてください。 授業に際しては、(電子)辞書を必ず持参してください。ほんやりとしか覚えられていなかった単語を目にした時、手元に辞書があれば、わかりそうでわからないもどかしさをその場で解消することができますと思います。 また、当科目は再履修用です。1年生の必修科目は前提としていませんが、設置されている順に単位を取得することを推奨します。社会が求めている英語の読解力を身に付け、今学期中には単位が取得できるよう、積極的に授業に取り組んでください。
目標と評価：	授業で扱った内容をきちんと吸収し、英文を読んでいくための力をつけていくのが目標です。試験の結果と平常授業点とおおよそ7:3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。
教科書：	Select Readings: Pre-Intermediate Linda Lee, Erik Gundersen Oxford University Press 2002年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英文講読 I (再履修)」 (担当者：菅原 大一太) の履修の手引き

科目名：	英文講読 I (再履修)
担当者：	菅原 大一太
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	受講生のみなさんがこれまで培ってきた英語の知識を出発点として、各々が英語の能力を見直し、それを向上させる機会を提供します。英語に関する基礎的な事項を復習し、また強化しながら英文を読みこなす力をつけていくことを目指します。母国語、外国語を問わず、あるまとまった文章の内容を把握するためには、一文一文のつながり方（前後関係）をとらえなければなりません。外国語で書かれた文章でそのようなするためには、母国語とは違った文法や語彙などをしっかりと身につける必要が出てくるでしょう。文章全体の内容を把握するために、テキストをベースとして英語の規則をこまめに復習・確認しながら、文章の流れを追っていきけるようになることを目標とします。そして授業を通じて、英語が作り出す世界によりスムーズにアクセスできるようになればと願っています。
授業方法：	英語で書かれた文章をゆっくりと読み進めて行く過程で、文法等を含めて内容の全体的な把握に関わる情報を提供します。文章を読む速度をだんだん速めてゆきますので、授業前には必ず予習をしておいてください。 基本的に当科目は講義形式の授業ですが、英語を口にすることから学ぶことも多いと思います。できるだけ時間を作りますので、英文を音読することを通じて、英語を話す人々と同じ呼吸をしてみましょう。 また、事前に割り当てられた受講生による発表を適宜してもらい、その際には担当者以外の受講生からのコメントも求められます。担当者が欠席をするとクラス全員の迷惑となりますから、注意してください。また宿題が出された時は、きちんと提出しませんが平常授業点が得られませんので、気をつけてください。
履修の留意点：	予習・復習時を含めて、英語に関して現時点で何がわかっていて、何がわかっていないのかを各々意識しながら履修してもらうことを望みます。学期の始めは、さまざまな角度から皆さんの基礎的な能力を測定しますから、どの部分がよく理解できているのか、何がわからないままなのかを、各々探し出して下さい。その後で、多くの受講生に共通する問題点を順に解決してゆく予定です。自分の弱点を克服し、得意な部分を伸ばす努力をしてください。 授業に際しては、(電子)辞書を必ず持参してください。ほんやりとしか覚えられていなかった単語を目にした時、手元に辞書があれば、わかりそうでわからないもどかしさをその場で解消することができますと思います。 また、当科目は再履修用です。1年生の必修科目は前提としていませんが、設置されている順に単位を取得することを推奨します。社会が求めている英語の読解力を身に着け、今学期中には単位が取得できるよう、積極的に授業に取り組んでください。
目標と評価：	授業で扱った内容をきちんと吸収し、英文を読んでいくための力をつけていくのが目標です。試験の結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。
教科書：	Select Readings: Pre-Intermediate Linda Lee, Erik Gundersen Oxford University Press 2002年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英文講読 I (再履修)」 (担当者：菅原 大一太) の履修の手引き

科目名：	英文講読 I (再履修)
担当者：	菅原 大一太
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	受講生のみなさんがこれまで培ってきた英語の知識を出発点として、各々が英語の能力を見直し、それを向上させる機会を提供します。英語に関する基礎的な事項を復習し、また強化しながら英文を読みこなす力をつけていくことを目指します。母国語、外国語を問わず、あるまとまった文章の内容を把握するためには、一文一文のつながり方(前後関係)をとらえなければなりません。外国語で書かれた文章でそのようなするためには、母国語とは違った文法や語彙などをしっかりと身につける必要が出てくるでしょう。文章全体の内容を把握するために、テキストをベースとして英語の規則をこまめに復習・確認しながら、文章の流れを追っていけるようになることを目標とします。そして授業を通じて、英語が作り出す世界によりスムーズにアクセスできるようになればと願っています。
授業方法：	英語で書かれた文章をゆっくりと読み進めて行く過程で、文法等を含めて内容の全体的な把握に関わる情報を提供します。文章を読む速度をだんだん速めてゆきますので、授業前には必ず予習をしておいてください。 基本的に当科目は講義形式の授業ですが、英語を口にすることから学ぶことも多いと思います。できるだけ時間を作りますので、英文を音読することを通じて、英語を話す人々と同じ呼吸をしてみましょう。 また、事前に割り当てられた受講生による発表を適宜してもらい、その際には担当者以外の受講生からのコメントも求められます。担当者が欠席をするとクラス全員の迷惑となりますから、注意してください。また宿題が出された時は、きちんと提出しませんが平常授業点が得られませんので、気をつけてください。
履修の留意点：	予習・復習時を含めて、英語に関して現時点で何がわかっていて、何がわかっていないのかを各々意識しながら履修してもらうことを望みます。学期の始めは、さまざまな角度から皆さんの基礎的な能力を測定しますから、どの部分がよく理解できているのか、何がわからないままなのかを、各々探し出して下さい。その後で、多くの受講生に共通する問題点を順に解決してゆく予定です。自分の弱点を克服し、得意な部分を伸ばす努力をしてください。 授業に際しては、(電子)辞書を必ず持参してください。ほんやりとしか覚えられていなかった単語を目にした時、手元に辞書があれば、わかりそうでわからないもどかしさをその場で解消することができますと思います。 また、当科目は再履修用です。1年生の必修科目は前提としていませんが、設置されている順に単位を取得することを推奨します。社会が求めている英語の読解力を身に着け、今学期中には単位が取得できるよう、積極的に授業に取り組んでください。
目標と評価：	授業で扱った内容をきちんと吸収し、英文を読んでいくための力をつけていくのが目標です。試験の結果と平常授業点とおおよそ7:3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。
教科書：	Select Readings: Pre-Intermediate Linda Lee, Erik Gundersen Oxford University Press 2002年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英会話 I (再履修)」 (担当者: セツポ クルキ) の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「英会話Ⅱ(再履修)」(担当者: ポール エトガ) の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「英会話Ⅲ」（担当者：フィリップ コリー）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「英会話Ⅲ」（担当者：フィリップ コリー）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「英会話Ⅲ」（担当者：ティム ライアン）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「英会話Ⅲ」（担当者：ティム ライアン）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「英会話Ⅲ」（担当者：マイク ハダス）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「英会話Ⅲ」（担当者：マイク ハダス）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「英会話Ⅲ(再履修)」(担当者: フランク ドネリー)の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「英会話Ⅲ(再履修)」(担当者: フランク ドネリー)の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「基礎英会話Ⅰ」（担当者：ポール エトガ）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「基礎英会話Ⅱ」（担当者：ポール エトガ）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「海外集中英語」（担当者：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	海外集中英語
担当者：	サイモン クレイ（自己紹介ページ）
設置学期：	春（集中授業）
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	This class will take place in UK.
授業方法：	The class will be taught by native teachers and will include useful English that can be used during your visit.
履修の留意点：	This class will take place as part of the 海外研修 visit to UK
目標と評価：	Assessment will be made in UK by the local teachers.
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英文講読Ⅱ」（担当者：高野 秀之）の履修の手引き

科目名：	英文講読Ⅱ
担当者：	高野 秀之（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	英文を読み解くことに興味のある学生のため、選択科目として設置されている科目です。この科目を履修する学生は、内容を理解することにとどまらず、そこに問題点を発見し、積極的に関与してゆく姿勢が要求されます。また、辞書の有効な利用法を学び、辞書さえあれば、どのような英文でも読めるように指導します。学期終了後の達成感はお約束します。
授業方法：	音読と暗唱を通じて、「英語を学習するための脳」を要請します。自分の頭蓋骨に響いた音を感じ取りながら、自分の考えを相手に伝える練習もしてゆきます。これまでとは違う方法で、英語の運用能力を開発します。
履修の留意点：	選択科目であるからこそ、実力要請を求めている受講生が集まることを期待しています。他の学生から刺激を受けるばかりではなく、周囲に刺激を与えられる努力家は、大歓迎です。
目標と評価：	履修した学生には、英語の基本がしっかりと身に着くまでの指導をします。単に雑多な情報を持っている学生でも、それを統合する力によって、真の実力が養成されることと思われれます。毎回の授業が「評価の対象」であることを認識し、授業を欠席しなければ、必ず満足のいく成績が得られると確信しています。
教科書：	Select Reading Linda Lee & Erik Gundersen Oxford University Press
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英文講読Ⅱ」（担当者：大澤 薫）の履修の手引き

科目名：	英文講読Ⅱ
担当者：	大澤 薫
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	春学期で学んだ内容をふまえて、多岐にわたる種類の長文を読み込んでいきます。まず文構造を正確に把握することからはじめ、未知の語義を文脈の中で推測する力を伸ばしながら語彙を豊富にし、長文の読解力を高めていきます。
授業方法：	毎回、テキストの黙読と音読からはじめ、受講生各自が要約を試み、発表します。次に文構造を確認し、重要な語義を文脈のなかで推測、必要な個所は和訳をして文全体の内容を理解していきます。隔週10分程度の小テストを実施（語彙、文法、要約等）、秋学期後半の授業で長文の翻訳テストを行います。（辞書使用可） テキストは「英文講読Ⅰ」で使用した(Select Readings)、その他プリント教材を使用します。
履修の留意点：	① Web上の授業計画で確認の上、予習をして授業に臨んで下さい。 ② 辞書、テキスト、配布したプリント等は必ず持参して下さい。 ③ 定期試験は行いません。平常点（小テスト・口頭発表等）による評価としますので、欠席が多いと評価が出来なくなります。 欠席をしないよう心がけて下さい。
目標と評価：	目標：長文を読み通し、要点を掴み、文全体の内容を理解できるようになること。 評価：出席点（30%）と平常点（70%）の合計によります。
教科書：	Select Readings Linda Lee & Erik Gundersen OXFORD University Press
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：高野 秀之）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	高野 秀之（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	英語の基本的な構造を中心に、高校で学んだ内容を徹底的に復習します。また、文章の読解を通じて、より英語らしい表現のパリエーションを広げてゆきます。受講生は、英語を運用するために必要となる基本4技能（聴く、話す、読む、書く）をすべて、バランスよく身につけてゆくことになります。
授業方法：	ガイダンス期間中にクラス分けテストを行い、それぞれの弱点別に異なるアプローチで共通の内容を学習します。毎回の授業では、さまざまな形で小テストが行われますから、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	この科目は1週間に3回（分）の授業で構成されていますから、確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたします。（当該科目で「不可」の評価を受けると、留年や卒業延期が確定する場合があります）毎回の授業が「評価の対象」であることを十分に認識してください。また、授業関連情報をよく確認し、予習と復習を十分にしてください。学習習慣が定着していないと感じている学生は、必ず「リメディアル」の授業を受け、レベルアップに努めてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとして、各受講生が成績を上げることができていることを期待しています。
教科書：	未定
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：高野 秀之）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	高野 秀之（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	英語の基本的な構造を中心に、高校で学んだ内容を徹底的に復習します。また、文章の読解を通じて、より英語らしい表現のバリエーションを広げてゆきます。受講生は、英語を運用するために必要となる基本4技能（聴く、話す、読む、書く）をすべて、バランスよく身につけてゆくことになります。
授業方法：	ガイダンス期間中にクラス分けテストを行い、それぞれの弱点別に異なるアプローチで共通の内容を学習します。毎回の授業では、さまざまな形で小テストが行われますから、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	この科目は1週間に3回（分）の授業で構成されていますから、確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたします。（当該科目で「不可」の評価を受けると、留年や卒業延期が確定する場合があります）毎回の授業が「評価の対象」であることを十分に認識してください。また、授業関連情報をよく確認し、予習と復習を十分にしてください。学習習慣が定着していないと感じている学生は、必ず「リメディアル」の授業を受け、レベルアップに努めてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとして、各受講生が成績を上げることができていることを期待しています。
教科書：	未定
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：粟野 恵子）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	粟野 恵子
設置学期：	春
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	英語の基本的な構造を中心に、高校で学んだ内容を徹底的に復習します。また、文章の読解を通じて、より英語らしい表現のバリエーションを広げてゆきます。受講生は、英語を運用するために必要となる基本4技能（聴く、話す、読む、書く）をすべて、バランスよく身につけてゆくことになります。
授業方法：	ガイダンス期間中にクラス分けテストを行い、それぞれの弱点別に異なるアプローチで共通の内容を学習します。毎回の授業では、さまざまな形で小テストが行われますから、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	この科目は1週間に3回（分）の授業で構成されていますから、確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたします。（当該科目で「不可」の評価を受けると、留年や卒業延期が確定する場合があります）毎回の授業が「評価の対象」であることを十分に認識してください。また、授業関連情報をよく確認し、予習と復習を十分にしてください。学習習慣が定着していないと感じている学生は、必ず「リメディアル」の授業を受け、レベルアップに努めてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとして、各受講生が成績を上げることができていることを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：粟野 恵子）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	粟野 恵子
設置学期：	春
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	英語の基本的な構造を中心に、高校で学んだ内容を徹底的に復習します。また、文章の読解を通じて、より英語らしい表現のバリエーションを広げてゆきます。受講生は、英語を運用するために必要となる基本4技能（聴く、話す、読む、書く）をすべて、バランスよく身につけてゆくことになります。
授業方法：	ガイダンス期間中にクラス分けテストを行い、それぞれの弱点別に異なるアプローチで共通の内容を学習します。毎回の授業では、さまざまな形で小テストが行われますから、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	この科目は1週間に3回（分）の授業で構成されていますから、確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたします。（当該科目で「不可」の評価を受けると、留年や卒業延期が確定する場合があります）毎回の授業が「評価の対象」であることを十分に認識してください。また、授業関連情報をよく確認し、予習と復習を十分にしてください。学習習慣が定着していないと感じている学生は、必ず「リメディアル」の授業を受け、レベルアップに努めてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとして、各受講生が成績を上げることができていることを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：藤岡 阿由未）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	藤岡 阿由未
設置学期：	春
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	英語の基本的な構造を中心に、高校で学んだ内容を徹底的に復習します。また、文章の読解を通じて、より英語らしい表現のバリエーションを広げてゆきます。受講生は、英語を運用するために必要となる基本4技能（聴く、話す、読む、書く）をすべて、バランスよく身につけてゆくことになります。
授業方法：	ガイダンス期間中にクラス分けテストを行い、それぞれの弱点別に異なるアプローチで共通の内容を学習します。毎回の授業では、さまざまな形で小テストが行われますから、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	この科目は1週間に3回（分）の授業で構成されていますから、確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたします。（当該科目で「不可」の評価を受けると、留年や卒業延期が確定する場合があります）毎回の授業が「評価の対象」であることを十分に認識してください。また、授業関連情報をよく確認し、予習と復習を十分にしてください。学習習慣が定着していないと感じている学生は、必ず「リメディアル」の授業を受け、レベルアップに努めてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとして、各受講生が成績を上げることができていることを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：藤岡 阿由未）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	藤岡 阿由未
設置学期：	春
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	英語の基本的な構造を中心に、高校で学んだ内容を徹底的に復習します。また、文章の読解を通じて、より英語らしい表現のバリエーションを広げてゆきます。受講生は、英語を運用するために必要となる基本4技能（聴く、話す、読む、書く）をすべて、バランスよく身につけてゆくことになります。
授業方法：	ガイダンス期間中にクラス分けテストを行い、それぞれの弱点別に異なるアプローチで共通の内容を学習します。毎回の授業では、さまざまな形で小テストが行われますから、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	この科目は1週間に3回（分）の授業で構成されていますから、確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたします。（当該科目で「不可」の評価を受けると、留年や卒業延期が確定する場合があります）毎回の授業が「評価の対象」であることを十分に認識してください。また、授業関連情報をよく確認し、予習と復習を十分にしてください。学習習慣が定着していないと感じている学生は、必ず「リメディアル」の授業を受け、レベルアップに努めてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとして、各受講生が成績を上げることができていることを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：菅原 大一太）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	菅原 大一太
設置学期：	春
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	英語の基本的な構造を中心に、高校で学んだ内容を徹底的に復習します。また、文章の読解を通じて、より英語らしい表現のバリエーションを広げてゆきます。受講生は、英語を運用するために必要となる基本4技能（聴く、話す、読む、書く）をすべて、バランスよく身につけてゆくことになります。
授業方法：	ガイダンス期間中にクラス分けテストを行い、それぞれの弱点別に異なるアプローチで共通の内容を学習します。毎回の授業では、さまざまな形で小テストが行われますから、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	この科目は1週間に3回（分）の授業で構成されていますから、確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたします。（当該科目で「不可」の評価を受けると、留年や卒業延期が確定する場合があります）毎回の授業が「評価の対象」であることを十分に認識してください。また、授業関連情報をよく確認し、予習と復習を十分にしてください。学習習慣が定着していないと感じている学生は、必ず「リメディアル」の授業を受け、レベルアップに努めてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとして、各受講生が成績を上げることができていることを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：菅原 大一太）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	菅原 大一太
設置学期：	春
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	英語の基本的な構造を中心に、高校で学んだ内容を徹底的に復習します。また、文章の読解を通じて、より英語らしい表現のバリエーションを広げてゆきます。受講生は、英語を運用するために必要となる基本4技能（聴く、話す、読む、書く）をすべて、バランスよく身につけてゆくことになります。
授業方法：	ガイダンス期間中にクラス分けテストを行い、それぞれの弱点別に異なるアプローチで共通の内容を学習します。毎回の授業では、さまざまな形で小テストが行われますから、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	この科目は1週間に3回（分）の授業で構成されていますから、確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたします。（当該科目で「不可」の評価を受けると、留年や卒業延期が確定する場合があります）毎回の授業が「評価の対象」であることを十分に認識してください。また、授業関連情報をよく確認し、予習と復習を十分にしてください。学習習慣が定着していないと感じている学生は、必ず「リメディアル」の授業を受け、レベルアップに努めてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとして、各受講生が成績を上げることができていることを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：野口 美咲）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	野口 美咲
設置学期：	春
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	英語の基本的な構造を中心に、高校で学んだ内容を徹底的に復習します。また、文章の読解を通じて、より英語らしい表現のバリエーションを広げてゆきます。受講生は、英語を運用するために必要となる基本4技能（聴く、話す、読む、書く）をすべて、バランスよく身につけてゆくことになります。
授業方法：	ガイダンス期間中にクラス分けテストを行い、それぞれの弱点別に異なるアプローチで共通の内容を学習します。毎回の授業では、さまざまな形で小テストが行われますから、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	この科目は1週間に3回（分）の授業で構成されていますから、確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたします。（当該科目で「不可」の評価を受けると、留年や卒業延期が確定する場合があります）毎回の授業が「評価の対象」であることを十分に認識してください。また、授業関連情報をよく確認し、予習と復習を十分にしてください。学習習慣が定着していないと感じている学生は、必ず「リメディアル」の授業を受け、レベルアップに努めてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとして、各受講生が成績を上げることができていることを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：野口 美咲）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	野口 美咲
設置学期：	春
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	英語の基本的な構造を中心に、高校で学んだ内容を徹底的に復習します。また、文章の読解を通じて、より英語らしい表現のバリエーションを広げてゆきます。受講生は、英語を運用するために必要となる基本4技能（聴く、話す、読む、書く）をすべて、バランスよく身につけてゆくことになります。
授業方法：	ガイダンス期間中にクラス分けテストを行い、それぞれの弱点別に異なるアプローチで共通の内容を学習します。毎回の授業では、さまざまな形で小テストが行われますから、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	この科目は1週間に3回（分）の授業で構成されていますから、確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたします。（当該科目で「不可」の評価を受けると、留年や卒業延期が確定する場合があります）毎回の授業が「評価の対象」であることを十分に認識してください。また、授業関連情報をよく確認し、予習と復習を十分にしてください。学習習慣が定着していないと感じている学生は、必ず「リメディアル」の授業を受け、レベルアップに努めてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとして、各受講生が成績を上げることができていることを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	サイモン クレイ
設置学期：	春
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	英語の基本的な構造を中心に、高校で学んだ内容を徹底的に復習します。また、文章の読解を通じて、より英語らしい表現のバリエーションを広げてゆきます。受講生は、英語を運用するために必要となる基本4技能（聴く、話す、読む、書く）をすべて、バランスよく身につけてゆくことになります。
授業方法：	ガイダンス期間中にクラス分けテストを行い、それぞれの弱点別に異なるアプローチで共通の内容を学習します。毎回の授業では、さまざまな形で小テストが行われますから、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	この科目は1週間に3回（分）の授業で構成されていますから、確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたします。（当該科目で「不可」の評価を受けると、留年や卒業延期が確定する場合があります）毎回の授業が「評価の対象」であることを十分に認識してください。また、授業関連情報をよく確認し、予習と復習を十分にしてください。学習習慣が定着していないと感じている学生は、必ず「リメディアル」の授業を受け、レベルアップに努めてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとして、各受講生が成績を上げることができていることを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	サイモン クレイ
設置学期：	春
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	英語の基本的な構造を中心に、高校で学んだ内容を徹底的に復習します。また、文章の読解を通じて、より英語らしい表現のバリエーションを広げてゆきます。受講生は、英語を運用するために必要となる基本4技能（聴く、話す、読む、書く）をすべて、バランスよく身につけてゆくことになります。
授業方法：	ガイダンス期間中にクラス分けテストを行い、それぞれの弱点別に異なるアプローチで共通の内容を学習します。毎回の授業では、さまざまな形で小テストが行われますから、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	この科目は1週間に3回（分）の授業で構成されていますから、確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたします。（当該科目で「不可」の評価を受けると、留年や卒業延期が確定する場合があります）毎回の授業が「評価の対象」であることを十分に認識してください。また、授業関連情報をよく確認し、予習と復習を十分にしてください。学習習慣が定着していないと感じている学生は、必ず「リメディアル」の授業を受け、レベルアップに努めてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとして、各受講生が成績を上げることができていることを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	サイモン クレイ
設置学期：	春
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	英語の基本的な構造を中心に、高校で学んだ内容を徹底的に復習します。また、文章の読解を通じて、より英語らしい表現のバリエーションを広げてゆきます。受講生は、英語を運用するために必要となる基本4技能（聴く、話す、読む、書く）をすべて、バランスよく身につけてゆくことになります。
授業方法：	ガイダンス期間中にクラス分けテストを行い、それぞれの弱点別に異なるアプローチで共通の内容を学習します。毎回の授業では、さまざまな形で小テストが行われますから、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	この科目は1週間に3回（分）の授業で構成されていますから、確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたします。（当該科目で「不可」の評価を受けると、留年や卒業延期が確定する場合があります）毎回の授業が「評価の対象」であることを十分に認識してください。また、授業関連情報をよく確認し、予習と復習を十分にしてください。学習習慣が定着していないと感じている学生は、必ず「リメディアル」の授業を受け、レベルアップに努めてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとして、各受講生が成績を上げることができていることを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	サイモン クレイ
設置学期：	春
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	英語の基本的な構造を中心に、高校で学んだ内容を徹底的に復習します。また、文章の読解を通じて、より英語らしい表現のバリエーションを広げてゆきます。受講生は、英語を運用するために必要となる基本4技能（聴く、話す、読む、書く）をすべて、バランスよく身につけてゆくことになります。
授業方法：	ガイダンス期間中にクラス分けテストを行い、それぞれの弱点別に異なるアプローチで共通の内容を学習します。毎回の授業では、さまざまな形で小テストが行われますから、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	この科目は1週間に3回（分）の授業で構成されていますから、確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたします。（当該科目で「不可」の評価を受けると、留年や卒業延期が確定する場合があります）毎回の授業が「評価の対象」であることを十分に認識してください。また、授業関連情報をよく確認し、予習と復習を十分にしてください。学習習慣が定着していないと感じている学生は、必ず「リメディアル」の授業を受け、レベルアップに努めてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとして、各受講生が成績を上げることができていることを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：ポール エトガ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	ポール エトガ
設置学期：	春
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	英語の基本的な構造を中心に、高校で学んだ内容を徹底的に復習します。また、文章の読解を通じて、より英語らしい表現のバリエーションを広げてゆきます。受講生は、英語を運用するために必要となる基本4技能（聴く、話す、読む、書く）をすべて、バランスよく身につけてゆくことになります。
授業方法：	ガイダンス期間中にクラス分けテストを行い、それぞれの弱点別に異なるアプローチで共通の内容を学習します。毎回の授業では、さまざまな形で小テストが行われますから、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	この科目は1週間に3回(分)の授業で構成されていますから、確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたします。(当該科目で「不可」の評価を受けると、留年や卒業延期が確定する場合があります)毎回の授業が「評価の対象」であることを十分に認識してください。また、授業関連情報をよく確認し、予習と復習を十分にしてください。学習習慣が定着していないと感じている学生は、必ず「リメディアル」の授業を受け、レベルアップに努めてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとして、各受講生が成績を上げることができていることを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：ポール エトガ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	ポール エトガ
設置学期：	春
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	英語の基本的な構造を中心に、高校で学んだ内容を徹底的に復習します。また、文章の読解を通じて、より英語らしい表現のバリエーションを広げてゆきます。受講生は、英語を運用するために必要となる基本4技能（聴く、話す、読む、書く）をすべて、バランスよく身につけてゆくことになります。
授業方法：	ガイダンス期間中にクラス分けテストを行い、それぞれの弱点別に異なるアプローチで共通の内容を学習します。毎回の授業では、さまざまな形で小テストが行われますから、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	この科目は1週間に3回（分）の授業で構成されていますから、確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたします。（当該科目で「不可」の評価を受けると、留年や卒業延期が確定する場合があります）毎回の授業が「評価の対象」であることを十分に認識してください。また、授業関連情報をよく確認し、予習と復習を十分にしてください。学習習慣が定着していないと感じている学生は、必ず「リメディアル」の授業を受け、レベルアップに努めてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとして、各受講生が成績を上げることができていることを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：ポール エトガ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	ポール エトガ
設置学期：	春
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	英語の基本的な構造を中心に、高校で学んだ内容を徹底的に復習します。また、文章の読解を通じて、より英語らしい表現のバリエーションを広げてゆきます。受講生は、英語を運用するために必要となる基本4技能（聴く、話す、読む、書く）をすべて、バランスよく身につけてゆくことになります。
授業方法：	ガイダンス期間中にクラス分けテストを行い、それぞれの弱点別に異なるアプローチで共通の内容を学習します。毎回の授業では、さまざまな形で小テストが行われますから、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	この科目は1週間に3回（分）の授業で構成されていますから、確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたします。（当該科目で「不可」の評価を受けると、留年や卒業延期が確定する場合があります）毎回の授業が「評価の対象」であることを十分に認識してください。また、授業関連情報をよく確認し、予習と復習を十分にしてください。学習習慣が定着していないと感じている学生は、必ず「リメディアル」の授業を受け、レベルアップに努めてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとして、各受講生が成績を上げることができていることを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：ポール エトガ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	ポール エトガ
設置学期：	春
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	英語の基本的な構造を中心に、高校で学んだ内容を徹底的に復習します。また、文章の読解を通じて、より英語らしい表現のバリエーションを広げてゆきます。受講生は、英語を運用するために必要となる基本4技能（聴く、話す、読む、書く）をすべて、バランスよく身につけてゆくことになります。
授業方法：	ガイダンス期間中にクラス分けテストを行い、それぞれの弱点別に異なるアプローチで共通の内容を学習します。毎回の授業では、さまざまな形で小テストが行われますから、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	この科目は1週間に3回(分)の授業で構成されていますから、確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたします。(当該科目で「不可」の評価を受けると、留年や卒業延期が確定する場合があります)毎回の授業が「評価の対象」であることを十分に認識してください。また、授業関連情報をよく確認し、予習と復習を十分にしてください。学習習慣が定着していないと感じている学生は、必ず「リメディアル」の授業を受け、レベルアップに努めてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとして、各受講生が成績を上げることができていることを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：セツポ クルキ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	セツポ クルキ
設置学期：	春
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	英語の基本的な構造を中心に、高校で学んだ内容を徹底的に復習します。また、文章の読解を通じて、より英語らしい表現のバリエーションを広げてゆきます。受講生は、英語を運用するために必要となる基本4技能（聴く、話す、読む、書く）をすべて、バランスよく身につけてゆくことになります。
授業方法：	ガイダンス期間中にクラス分けテストを行い、それぞれの弱点別に異なるアプローチで共通の内容を学習します。毎回の授業では、さまざまな形で小テストが行われますから、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	この科目は1週間に3回（分）の授業で構成されていますから、確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたします。（当該科目で「不可」の評価を受けると、留年や卒業延期が確定する場合があります）毎回の授業が「評価の対象」であることを十分に認識してください。また、授業関連情報をよく確認し、予習と復習を十分にしてください。学習習慣が定着していないと感じている学生は、必ず「リメディアル」の授業を受け、レベルアップに努めてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとして、各受講生が成績を上げることができていることを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：セツポ クルキ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	セツポ クルキ
設置学期：	春
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	英語の基本的な構造を中心に、高校で学んだ内容を徹底的に復習します。また、文章の読解を通じて、より英語らしい表現のバリエーションを広げてゆきます。受講生は、英語を運用するために必要となる基本4技能（聴く、話す、読む、書く）をすべて、バランスよく身につけてゆくことになります。
授業方法：	ガイダンス期間中にクラス分けテストを行い、それぞれの弱点別に異なるアプローチで共通の内容を学習します。毎回の授業では、さまざまな形で小テストが行われますから、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	この科目は1週間に3回（分）の授業で構成されていますから、確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたします。（当該科目で「不可」の評価を受けると、留年や卒業延期が確定する場合があります）毎回の授業が「評価の対象」であることを十分に認識してください。また、授業関連情報をよく確認し、予習と復習を十分にしてください。学習習慣が定着していないと感じている学生は、必ず「リメディアル」の授業を受け、レベルアップに努めてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとして、各受講生が成績を上げることができていることを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：セツポ クルキ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	セツポ クルキ
設置学期：	春
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	英語の基本的な構造を中心に、高校で学んだ内容を徹底的に復習します。また、文章の読解を通じて、より英語らしい表現のバリエーションを広げてゆきます。受講生は、英語を運用するために必要となる基本4技能（聴く、話す、読む、書く）をすべて、バランスよく身につけてゆくことになります。
授業方法：	ガイダンス期間中にクラス分けテストを行い、それぞれの弱点別に異なるアプローチで共通の内容を学習します。毎回の授業では、さまざまな形で小テストが行われますから、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	この科目は1週間に3回（分）の授業で構成されていますから、確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたします。（当該科目で「不可」の評価を受けると、留年や卒業延期が確定する場合があります）毎回の授業が「評価の対象」であることを十分に認識してください。また、授業関連情報をよく確認し、予習と復習を十分にしてください。学習習慣が定着していないと感じている学生は、必ず「リメディアル」の授業を受け、レベルアップに努めてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとして、各受講生が成績を上げることができていることを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：セツポ クルキ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	セツポ クルキ
設置学期：	春
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	英語の基本的な構造を中心に、高校で学んだ内容を徹底的に復習します。また、文章の読解を通じて、より英語らしい表現のバリエーションを広げてゆきます。受講生は、英語を運用するために必要となる基本4技能（聴く、話す、読む、書く）をすべて、バランスよく身につけてゆくことになります。
授業方法：	ガイダンス期間中にクラス分けテストを行い、それぞれの弱点別に異なるアプローチで共通の内容を学習します。毎回の授業では、さまざまな形で小テストが行われますから、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	この科目は1週間に3回（分）の授業で構成されていますから、確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたします。（当該科目で「不可」の評価を受けると、留年や卒業延期が確定する場合があります）毎回の授業が「評価の対象」であることを十分に認識してください。また、授業関連情報をよく確認し、予習と復習を十分にしてください。学習習慣が定着していないと感じている学生は、必ず「リメディアル」の授業を受け、レベルアップに努めてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとして、各受講生が成績を上げることができていることを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：フランク ドネリー）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	フランク ドネリー
設置学期：	春
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	英語の基本的な構造を中心に、高校で学んだ内容を徹底的に復習します。また、文章の読解を通じて、より英語らしい表現のバリエーションを広げてゆきます。受講生は、英語を運用するために必要となる基本4技能（聴く、話す、読む、書く）をすべて、バランスよく身につけてゆくことになります。
授業方法：	ガイダンス期間中にクラス分けテストを行い、それぞれの弱点別に異なるアプローチで共通の内容を学習します。毎回の授業では、さまざまな形で小テストが行われますから、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	この科目は1週間に3回（分）の授業で構成されていますから、確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたします。（当該科目で「不可」の評価を受けると、留年や卒業延期が確定する場合があります）毎回の授業が「評価の対象」であることを十分に認識してください。また、授業関連情報をよく確認し、予習と復習を十分にしてください。学習習慣が定着していないと感じている学生は、必ず「リメディアル」の授業を受け、レベルアップに努めてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとして、各受講生が成績を上げることができていることを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：フランク ドネリー）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	フランク ドネリー
設置学期：	春
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	英語の基本的な構造を中心に、高校で学んだ内容を徹底的に復習します。また、文章の読解を通じて、より英語らしい表現のバリエーションを広げてゆきます。受講生は、英語を運用するために必要となる基本4技能（聴く、話す、読む、書く）をすべて、バランスよく身につけてゆくことになります。
授業方法：	ガイダンス期間中にクラス分けテストを行い、それぞれの弱点別に異なるアプローチで共通の内容を学習します。毎回の授業では、さまざまな形で小テストが行われますから、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	この科目は1週間に3回（分）の授業で構成されていますから、確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたします。（当該科目で「不可」の評価を受けると、留年や卒業延期が確定する場合があります）毎回の授業が「評価の対象」であることを十分に認識してください。また、授業関連情報をよく確認し、予習と復習を十分にしてください。学習習慣が定着していないと感じている学生は、必ず「リメディアル」の授業を受け、レベルアップに努めてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとして、各受講生が成績を上げることができていることを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：フランク ドネリー）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	フランク ドネリー
設置学期：	春
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	英語の基本的な構造を中心に、高校で学んだ内容を徹底的に復習します。また、文章の読解を通じて、より英語らしい表現のバリエーションを広げてゆきます。受講生は、英語を運用するために必要となる基本4技能（聴く、話す、読む、書く）をすべて、バランスよく身につけてゆくことになります。
授業方法：	ガイダンス期間中にクラス分けテストを行い、それぞれの弱点別に異なるアプローチで共通の内容を学習します。毎回の授業では、さまざまな形で小テストが行われますから、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	この科目は1週間に3回（分）の授業で構成されていますから、確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたします。（当該科目で「不可」の評価を受けると、留年や卒業延期が確定する場合があります）毎回の授業が「評価の対象」であることを十分に認識してください。また、授業関連情報をよく確認し、予習と復習を十分にしてください。学習習慣が定着していないと感じている学生は、必ず「リメディアル」の授業を受け、レベルアップに努めてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとして、各受講生が成績を上げることができていることを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅠ」（担当者：フランク ドネリー）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅠ
担当者：	フランク ドネリー
設置学期：	春
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	英語の基本的な構造を中心に、高校で学んだ内容を徹底的に復習します。また、文章の読解を通じて、より英語らしい表現のバリエーションを広げてゆきます。受講生は、英語を運用するために必要となる基本4技能（聴く、話す、読む、書く）をすべて、バランスよく身につけてゆくことになります。
授業方法：	ガイダンス期間中にクラス分けテストを行い、それぞれの弱点別に異なるアプローチで共通の内容を学習します。毎回の授業では、さまざまな形で小テストが行われますから、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	この科目は1週間に3回（分）の授業で構成されていますから、確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたします。（当該科目で「不可」の評価を受けると、留年や卒業延期が確定する場合があります）毎回の授業が「評価の対象」であることを十分に認識してください。また、授業関連情報をよく確認し、予習と復習を十分にしてください。学習習慣が定着していないと感じている学生は、必ず「リメディアル」の授業を受け、レベルアップに努めてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとして、各受講生が成績を上げることができていることを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：高野 秀之）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	高野 秀之（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	春学期に学んだ内容を更に深め、自分の考えを、より自然な方法で伝達できるように練習してゆきます。話法の転換、比較、仮定法にも取り組み、状況に応じて要求される表現も復習することになります。単語と文法の知識に加え、語法上の約束も確認してゆきます。簡単な文章の作成や、さまざまな分野にわたるテキストの読解も予定しています。学期の後半にはTOEIC-IPテストの情報も提供されます。
授業方法：	春学期の「統一テスト」の結果でクラス分けをしますので、第1回目から授業が始まります。毎回の授業ではさまざまな形で小テストが行われますので、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	必修科目を確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたしますから注意してください。内容的にも進度的にもレベルアップを図りますので、授業の予習と復習に時間を確保してください。年度の最後に予定されているTOEIC-IPテストで、個々の実力を測定する予定です。その準備にも役立つ授業内容ですから、反復学習を大切にしてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとは、各受講生が成績を上げることができるとを期待しています。
教科書：	未定
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：高野 秀之）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	高野 秀之（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	春学期に学んだ内容を更に深め、自分の考えを、より自然な方法で伝達できるように練習してゆきます。話法の転換、比較、仮定法にも取り組み、状況に応じて要求される表現も復習することになります。単語と文法の知識に加え、語法上の約束も確認してゆきます。簡単な文章の作成や、さまざまな分野にわたるテキストの読解も予定しています。学期の後半にはTOEIC-IPテストの情報も提供されます。
授業方法：	春学期の「統一テスト」の結果でクラス分けをしますので、第1回目から授業が始まります。毎回の授業ではさまざまな形で小テストが行われますので、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	必修科目を確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたしますから注意してください。内容的にも進度的にもレベルアップを図りますので、授業の予習と復習に時間を確保してください。年度の最後に予定されているTOEIC-IPテストで、個々の実力を測定する予定です。その準備にも役立つ授業内容ですから、反復学習を大切にしてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとは、各受講生が成績を上げることができていることを期待しています。
教科書：	未定
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：栗野 恵子）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	栗野 恵子
設置学期：	秋
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	春学期に学んだ内容を更に深め、自分の考えを、より自然な方法で伝達できるように練習してゆきます。話法の転換、比較、仮定法にも取り組み、状況に応じて要求される表現も復習することになります。単語と文法の知識に加え、語法上の約束も確認してゆきます。簡単な文章の作成や、さまざまな分野にわたるテキストの読解も予定しています。学期の後半にはTOEIC-IPテストの情報も提供されます。
授業方法：	春学期の「統一テスト」の結果でクラス分けをしますので、第1回目から授業が始まります。毎回の授業ではさまざまな形で小テストが行われますので、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	必修科目を確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたしますから注意してください。内容的にも進度的にもレベルアップを図りますので、授業の予習と復習に時間を確保してください。年度の最後に予定されているTOEIC-IPテストで、個々の実力を測定する予定です。その準備にも役立つ授業内容ですから、反復学習を大切にしてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとは、各受講生が成績を上げることができるとを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：栗野 恵子）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	栗野 恵子
設置学期：	秋
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	春学期に学んだ内容を更に深め、自分の考えを、より自然な方法で伝達できるように練習してゆきます。話法の転換、比較、仮定法にも取り組み、状況に応じて要求される表現も復習することになります。単語と文法の知識に加え、語法上の約束も確認してゆきます。簡単な文章の作成や、さまざまな分野にわたるテキストの読解も予定しています。学期の後半にはTOEIC-IPテストの情報も提供されます。
授業方法：	春学期の「統一テスト」の結果でクラス分けをしますので、第1回目から授業が始まります。毎回の授業ではさまざまな形で小テストが行われますので、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	必修科目を確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたしますから注意してください。内容的にも進度的にもレベルアップを図りますので、授業の予習と復習に時間を確保してください。年度の最後に予定されているTOEIC-IPテストで、個々の実力を測定する予定です。その準備にも役立つ授業内容ですから、反復学習を大切にしてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとは、各受講生が成績を上げることができると期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：藤岡 阿由未）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	藤岡 阿由未
設置学期：	秋
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	春学期に学んだ内容を更に深め、自分の考えを、より自然な方法で伝達できるように練習してゆきます。話法の転換、比較、仮定法にも取り組み、状況に応じて要求される表現も復習することになります。単語と文法の知識に加え、語法上の約束も確認してゆきます。簡単な文章の作成や、さまざまな分野にわたるテキストの読解も予定しています。学期の後半にはTOEIC-IPテストの情報も提供されます。
授業方法：	春学期の「統一テスト」の結果でクラス分けをしますので、第1回目から授業が始まります。毎回の授業ではさまざまな形で小テストが行われますので、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	必修科目を確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたしますから注意してください。内容的にも進度的にもレベルアップを図りますので、授業の予習と復習に時間を確保してください。年度の最後に予定されているTOEIC-IPテストで、個々の実力を測定する予定です。その準備にも役立つ授業内容ですから、反復学習を大切にしてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとは、各受講生が成績を上げることができるとを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：藤岡 阿由未）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	藤岡 阿由未
設置学期：	秋
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	春学期に学んだ内容を更に深め、自分の考えを、より自然な方法で伝達できるように練習してゆきます。話法の転換、比較、仮定法にも取り組み、状況に応じて要求される表現も復習することになります。単語と文法の知識に加え、語法上の約束も確認してゆきます。簡単な文章の作成や、さまざまな分野にわたるテキストの読解も予定しています。学期の後半にはTOEIC-IPテストの情報も提供されます。
授業方法：	春学期の「統一テスト」の結果でクラス分けをしますので、第1回目から授業が始まります。毎回の授業ではさまざまな形で小テストが行われますので、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	必修科目を確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたしますから注意してください。内容的にも進度的にもレベルアップを図りますので、授業の予習と復習に時間を確保してください。年度の最後に予定されているTOEIC-IPテストで、個々の実力を測定する予定です。その準備にも役立つ授業内容ですから、反復学習を大切にしてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとは、各受講生が成績を上げることができるとを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：菅原 大一太）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	菅原 大一太
設置学期：	秋
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	春学期に学んだ内容を更に深め、自分の考えを、より自然な方法で伝達できるように練習してゆきます。話法の転換、比較、仮定法にも取り組み、状況に応じて要求される表現も復習することになります。単語と文法の知識に加え、語法上の約束も確認してゆきます。簡単な文章の作成や、さまざまな分野にわたるテキストの読解も予定しています。学期の後半にはTOEIC-IPテストの情報も提供されます。
授業方法：	春学期の「統一テスト」の結果でクラス分けをしますので、第1回目から授業が始まります。毎回の授業ではさまざまな形で小テストが行われますので、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	必修科目を確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたしますから注意してください。内容的にも進度的にもレベルアップを図りますので、授業の予習と復習に時間を確保してください。年度の最後に予定されているTOEIC-IPテストで、個々の実力を測定する予定です。その準備にも役立つ授業内容ですから、反復学習を大切にしてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとは、各受講生が成績を上げることができると期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：菅原 大一太）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	菅原 大一太
設置学期：	秋
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	春学期に学んだ内容を更に深め、自分の考えを、より自然な方法で伝達できるように練習してゆきます。話法の転換、比較、仮定法にも取り組み、状況に応じて要求される表現も復習することになります。単語と文法の知識に加え、語法上の約束も確認してゆきます。簡単な文章の作成や、さまざまな分野にわたるテキストの読解も予定しています。学期の後半にはTOEIC-IPテストの情報も提供されます。
授業方法：	春学期の「統一テスト」の結果でクラス分けをしますので、第1回目から授業が始まります。毎回の授業ではさまざまな形で小テストが行われますので、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	必修科目を確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたしますから注意してください。内容的にも進度的にもレベルアップを図りますので、授業の予習と復習に時間を確保してください。年度の最後に予定されているTOEIC-IPテストで、個々の実力を測定する予定です。その準備にも役立つ授業内容ですから、反復学習を大切にしてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとは、各受講生が成績を上げることができると期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：野口 美咲）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	野口 美咲
設置学期：	秋
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	春学期に学んだ内容を更に深め、自分の考えを、より自然な方法で伝達できるように練習してゆきます。話法の転換、比較、仮定法にも取り組み、状況に応じて要求される表現も復習することになります。単語と文法の知識に加え、語法上の約束も確認してゆきます。簡単な文章の作成や、さまざまな分野にわたるテキストの読解も予定しています。学期の後半にはTOEIC-IPテストの情報も提供されます。
授業方法：	春学期の「統一テスト」の結果でクラス分けをしますので、第1回目から授業が始まります。毎回の授業ではさまざまな形で小テストが行われますので、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	必修科目を確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたしますから注意してください。内容的にも進度的にもレベルアップを図りますので、授業の予習と復習に時間を確保してください。年度の最後に予定されているTOEIC-IPテストで、個々の実力を測定する予定です。その準備にも役立つ授業内容ですから、反復学習を大切にしてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとは、各受講生が成績を上げることができるとを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：野口 美咲）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	野口 美咲
設置学期：	秋
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	春学期に学んだ内容を更に深め、自分の考えを、より自然な方法で伝達できるように練習してゆきます。話法の転換、比較、仮定法にも取り組み、状況に応じて要求される表現も復習することになります。単語と文法の知識に加え、語法上の約束も確認してゆきます。簡単な文章の作成や、さまざまな分野にわたるテキストの読解も予定しています。学期の後半にはTOEIC-IPテストの情報も提供されます。
授業方法：	春学期の「統一テスト」の結果でクラス分けをしますので、第1回目から授業が始まります。毎回の授業ではさまざまな形で小テストが行われますので、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	必修科目を確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたしますから注意してください。内容的にも進度的にもレベルアップを図りますので、授業の予習と復習に時間を確保してください。年度の最後に予定されているTOEIC-IPテストで、個々の実力を測定する予定です。その準備にも役立つ授業内容ですから、反復学習を大切にしてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとは、各受講生が成績を上げることができると期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	サイモン クレイ
設置学期：	秋
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	春学期に学んだ内容を更に深め、自分の考えを、より自然な方法で伝達できるように練習してゆきます。話法の転換、比較、仮定法にも取り組み、状況に応じて要求される表現も復習することになります。単語と文法の知識に加え、語法上の約束も確認してゆきます。簡単な文章の作成や、さまざまな分野にわたるテキストの読解も予定しています。学期の後半にはTOEIC-IPテストの情報も提供されます。
授業方法：	春学期の「統一テスト」の結果でクラス分けをしますので、第1回目から授業が始まります。毎回の授業ではさまざまな形で小テストが行われますので、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	必修科目を確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたしますから注意してください。内容的にも進度的にもレベルアップを図りますので、授業の予習と復習に時間を確保してください。年度の最後に予定されているTOEIC-IPテストで、個々の実力を測定する予定です。その準備にも役立つ授業内容ですから、反復学習を大切にしてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとは、各受講生が成績を上げることができると期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	サイモン クレイ
設置学期：	秋
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	春学期に学んだ内容を更に深め、自分の考えを、より自然な方法で伝達できるように練習してゆきます。話法の転換、比較、仮定法にも取り組み、状況に応じて要求される表現も復習することになります。単語と文法の知識に加え、語法上の約束も確認してゆきます。簡単な文章の作成や、さまざまな分野にわたるテキストの読解も予定しています。学期の後半にはTOEIC-IPテストの情報も提供されます。
授業方法：	春学期の「統一テスト」の結果でクラス分けをしますので、第1回目から授業が始まります。毎回の授業ではさまざまな形で小テストが行われますので、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	必修科目を確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたしますから注意してください。内容的にも進度的にもレベルアップを図りますので、授業の予習と復習に時間を確保してください。年度の最後に予定されているTOEIC-IPテストで、個々の実力を測定する予定です。その準備にも役立つ授業内容ですから、反復学習を大切にしてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとは、各受講生が成績を上げることができるとを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	サイモン クレイ
設置学期：	秋
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	春学期に学んだ内容を更に深め、自分の考えを、より自然な方法で伝達できるように練習してゆきます。話法の転換、比較、仮定法にも取り組み、状況に応じて要求される表現も復習することになります。単語と文法の知識に加え、語法上の約束も確認してゆきます。簡単な文章の作成や、さまざまな分野にわたるテキストの読解も予定しています。学期の後半にはTOEIC-IPテストの情報も提供されます。
授業方法：	春学期の「統一テスト」の結果でクラス分けをしますので、第1回目から授業が始まります。毎回の授業ではさまざまな形で小テストが行われますので、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	必修科目を確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたしますから注意してください。内容的にも進度的にもレベルアップを図りますので、授業の予習と復習に時間を確保してください。年度の最後に予定されているTOEIC-IPテストで、個々の実力を測定する予定です。その準備にも役立つ授業内容ですから、反復学習を大切にしてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとは、各受講生が成績を上げることができていることを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	サイモン クレイ
設置学期：	秋
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	春学期に学んだ内容を更に深め、自分の考えを、より自然な方法で伝達できるように練習してゆきます。話法の転換、比較、仮定法にも取り組み、状況に応じて要求される表現も復習することになります。単語と文法の知識に加え、語法上の約束も確認してゆきます。簡単な文章の作成や、さまざまな分野にわたるテキストの読解も予定しています。学期の後半にはTOEIC-IPテストの情報も提供されます。
授業方法：	春学期の「統一テスト」の結果でクラス分けをしますので、第1回目から授業が始まります。毎回の授業ではさまざまな形で小テストが行われますので、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	必修科目を確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたしますから注意してください。内容的にも進度的にもレベルアップを図りますので、授業の予習と復習に時間を確保してください。年度の最後に予定されているTOEIC-IPテストで、個々の実力を測定する予定です。その準備にも役立つ授業内容ですから、反復学習を大切にしてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとは、各受講生が成績を上げることができるとを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：ポール エトガ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	ポール エトガ
設置学期：	秋
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	春学期に学んだ内容を更に深め、自分の考えを、より自然な方法で伝達できるように練習してゆきます。話法の転換、比較、仮定法にも取り組み、状況に応じて要求される表現も復習することになります。単語と文法の知識に加え、語法上の約束も確認してゆきます。簡単な文章の作成や、さまざまな分野にわたるテキストの読解も予定しています。学期の後半にはTOEIC-IPテストの情報も提供されます。
授業方法：	春学期の「統一テスト」の結果でクラス分けをしますので、第1回目から授業が始まります。毎回の授業ではさまざまな形で小テストが行われますので、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	必修科目を確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたしますから注意してください。内容的にも進度的にもレベルアップを図りますので、授業の予習と復習に時間を確保してください。年度の最後に予定されているTOEIC-IPテストで、個々の実力を測定する予定です。その準備にも役立つ授業内容ですから、反復学習を大切にしてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとは、各受講生が成績を上げることができるとを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：ポール エトガ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	ポール エトガ
設置学期：	秋
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	春学期に学んだ内容を更に深め、自分の考えを、より自然な方法で伝達できるように練習してゆきます。話法の転換、比較、仮定法にも取り組み、状況に応じて要求される表現も復習することになります。単語と文法の知識に加え、語法上の約束も確認してゆきます。簡単な文章の作成や、さまざまな分野にわたるテキストの読解も予定しています。学期の後半にはTOEIC-IPテストの情報も提供されます。
授業方法：	春学期の「統一テスト」の結果でクラス分けをしますので、第1回目から授業が始まります。毎回の授業ではさまざまな形で小テストが行われますので、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	必修科目を確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたしますから注意してください。内容的にも進度的にもレベルアップを図りますので、授業の予習と復習に時間を確保してください。年度の最後に予定されているTOEIC-IPテストで、個々の実力を測定する予定です。その準備にも役立つ授業内容ですから、反復学習を大切にしてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとは、各受講生が成績を上げることができるとを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：ポール エトガ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	ポール エトガ
設置学期：	秋
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	春学期に学んだ内容を更に深め、自分の考えを、より自然な方法で伝達できるように練習してゆきます。話法の転換、比較、仮定法にも取り組み、状況に応じて要求される表現も復習することになります。単語と文法の知識に加え、語法上の約束も確認してゆきます。簡単な文章の作成や、さまざまな分野にわたるテキストの読解も予定しています。学期の後半にはTOEIC-IPテストの情報も提供されます。
授業方法：	春学期の「統一テスト」の結果でクラス分けをしますので、第1回目から授業が始まります。毎回の授業ではさまざまな形で小テストが行われますので、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	必修科目を確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたしますから注意してください。内容的にも進度的にもレベルアップを図りますので、授業の予習と復習に時間を確保してください。年度の最後に予定されているTOEIC-IPテストで、個々の実力を測定する予定です。その準備にも役立つ授業内容ですから、反復学習を大切にしてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとは、各受講生が成績を上げることができると期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：ポール エトガ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	ポール エトガ
設置学期：	秋
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	春学期に学んだ内容を更に深め、自分の考えを、より自然な方法で伝達できるように練習してゆきます。話法の転換、比較、仮定法にも取り組み、状況に応じて要求される表現も復習することになります。単語と文法の知識に加え、語法上の約束も確認してゆきます。簡単な文章の作成や、さまざまな分野にわたるテキストの読解も予定しています。学期の後半にはTOEIC-IPテストの情報も提供されます。
授業方法：	春学期の「統一テスト」の結果でクラス分けをしますので、第1回目から授業が始まります。毎回の授業ではさまざまな形で小テストが行われますので、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	必修科目を確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたしますから注意してください。内容的にも進度的にもレベルアップを図りますので、授業の予習と復習に時間を確保してください。年度の最後に予定されているTOEIC-IPテストで、個々の実力を測定する予定です。その準備にも役立つ授業内容ですから、反復学習を大切にしてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとは、各受講生が成績を上げることができるとを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：セツポ クルキ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	セツポ クルキ
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	春学期に学んだ内容を更に深め、自分の考えを、より自然な方法で伝達できるように練習してゆきます。話法の転換、比較、仮定法にも取り組み、状況に応じて要求される表現も復習することになります。単語と文法の知識に加え、語法上の約束も確認してゆきます。簡単な文章の作成や、さまざまな分野にわたるテキストの読解も予定しています。学期の後半にはTOEIC-IPテストの情報も提供されます。
授業方法：	春学期の「統一テスト」の結果でクラス分けをしますので、第1回目から授業が始まります。毎回の授業ではさまざまな形で小テストが行われますので、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	必修科目を確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたしますから注意してください。内容的にも進度的にもレベルアップを図りますので、授業の予習と復習に時間を確保してください。年度の最後に予定されているTOEIC-IPテストで、個々の実力を測定する予定です。その準備にも役立つ授業内容ですから、反復学習を大切にしてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとは、各受講生が成績を上げることができるとを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：セツポ クルキ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	セツポ クルキ
設置学期：	秋
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	春学期に学んだ内容を更に深め、自分の考えを、より自然な方法で伝達できるように練習してゆきます。話法の転換、比較、仮定法にも取り組み、状況に応じて要求される表現も復習することになります。単語と文法の知識に加え、語法上の約束も確認してゆきます。簡単な文章の作成や、さまざまな分野にわたるテキストの読解も予定しています。学期の後半にはTOEIC-IPテストの情報も提供されます。
授業方法：	春学期の「統一テスト」の結果でクラス分けをしますので、第1回目から授業が始まります。毎回の授業ではさまざまな形で小テストが行われますので、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	必修科目を確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたしますから注意してください。内容的にも進度的にもレベルアップを図りますので、授業の予習と復習に時間を確保してください。年度の最後に予定されているTOEIC-IPテストで、個々の実力を測定する予定です。その準備にも役立つ授業内容ですから、反復学習を大切にしてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとは、各受講生が成績を上げることができると期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：セツポ クルキ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	セツポ クルキ
設置学期：	秋
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	春学期に学んだ内容を更に深め、自分の考えを、より自然な方法で伝達できるように練習してゆきます。話法の転換、比較、仮定法にも取り組み、状況に応じて要求される表現も復習することになります。単語と文法の知識に加え、語法上の約束も確認してゆきます。簡単な文章の作成や、さまざまな分野にわたるテキストの読解も予定しています。学期の後半にはTOEIC-IPテストの情報も提供されます。
授業方法：	春学期の「統一テスト」の結果でクラス分けをしますので、第1回目から授業が始まります。毎回の授業ではさまざまな形で小テストが行われますので、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	必修科目を確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたしますから注意してください。内容的にも進度的にもレベルアップを図りますので、授業の予習と復習に時間を確保してください。年度の最後に予定されているTOEIC-IPテストで、個々の実力を測定する予定です。その準備にも役立つ授業内容ですから、反復学習を大切にしてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとは、各受講生が成績を上げることができるとを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：セツポ クルキ）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	セツポ クルキ
設置学期：	秋
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	春学期に学んだ内容を更に深め、自分の考えを、より自然な方法で伝達できるように練習してゆきます。話法の転換、比較、仮定法にも取り組み、状況に応じて要求される表現も復習することになります。単語と文法の知識に加え、語法上の約束も確認してゆきます。簡単な文章の作成や、さまざまな分野にわたるテキストの読解も予定しています。学期の後半にはTOEIC-IPテストの情報も提供されます。
授業方法：	春学期の「統一テスト」の結果でクラス分けをしますので、第1回目から授業が始まります。毎回の授業ではさまざまな形で小テストが行われますので、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	必修科目を確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたしますから注意してください。内容的にも進度的にもレベルアップを図りますので、授業の予習と復習に時間を確保してください。年度の最後に予定されているTOEIC-IPテストで、個々の実力を測定する予定です。その準備にも役立つ授業内容ですから、反復学習を大切にしてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとは、各受講生が成績を上げることができるとを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：フランク ドネリー）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	フランク ドネリー
設置学期：	秋
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	春学期に学んだ内容を更に深め、自分の考えを、より自然な方法で伝達できるように練習してゆきます。話法の転換、比較、仮定法にも取り組み、状況に応じて要求される表現も復習することになります。単語と文法の知識に加え、語法上の約束も確認してゆきます。簡単な文章の作成や、さまざまな分野にわたるテキストの読解も予定しています。学期の後半にはTOEIC-IPテストの情報も提供されます。
授業方法：	春学期の「統一テスト」の結果でクラス分けをしますので、第1回目から授業が始まります。毎回の授業ではさまざまな形で小テストが行われますので、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	必修科目を確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたしますから注意してください。内容的にも進度的にもレベルアップを図りますので、授業の予習と復習に時間を確保してください。年度の最後に予定されているTOEIC-IPテストで、個々の実力を測定する予定です。その準備にも役立つ授業内容ですから、反復学習を大切にしてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとは、各受講生が成績を上げることができるとを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：フランク ドネリー）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	フランク ドネリー
設置学期：	秋
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	春学期に学んだ内容を更に深め、自分の考えを、より自然な方法で伝達できるように練習してゆきます。話法の転換、比較、仮定法にも取り組み、状況に応じて要求される表現も復習することになります。単語と文法の知識に加え、語法上の約束も確認してゆきます。簡単な文章の作成や、さまざまな分野にわたるテキストの読解も予定しています。学期の後半にはTOEIC-IPテストの情報も提供されます。
授業方法：	春学期の「統一テスト」の結果でクラス分けをしますので、第1回目から授業が始まります。毎回の授業ではさまざまな形で小テストが行われますので、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	必修科目を確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたしますから注意してください。内容的にも進度的にもレベルアップを図りますので、授業の予習と復習に時間を確保してください。年度の最後に予定されているTOEIC-IPテストで、個々の実力を測定する予定です。その準備にも役立つ授業内容ですから、反復学習を大切にしてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとは、各受講生が成績を上げることができるとを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：フランク ドネリー）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	フランク ドネリー
設置学期：	秋
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	春学期に学んだ内容を更に深め、自分の考えを、より自然な方法で伝達できるように練習してゆきます。話法の転換、比較、仮定法にも取り組み、状況に応じて要求される表現も復習することになります。単語と文法の知識に加え、語法上の約束も確認してゆきます。簡単な文章の作成や、さまざまな分野にわたるテキストの読解も予定しています。学期の後半にはTOEIC-IPテストの情報も提供されます。
授業方法：	春学期の「統一テスト」の結果でクラス分けをしますので、第1回目から授業が始まります。毎回の授業ではさまざまな形で小テストが行われますので、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	必修科目を確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたしますから注意してください。内容的にも進度的にもレベルアップを図りますので、授業の予習と復習に時間を確保してください。年度の最後に予定されているTOEIC-IPテストで、個々の実力を測定する予定です。その準備にも役立つ授業内容ですから、反復学習を大切にしてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとは、各受講生が成績を上げることができると期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イングリッシュコミュニケーションⅡ」（担当者：フランク ドネリー）の履修の手引き

科目名：	イングリッシュコミュニケーションⅡ
担当者：	フランク ドネリー
設置学期：	秋
開講回数：	全回
週コマ数：	週コマ
概要：	春学期に学んだ内容を更に深め、自分の考えを、より自然な方法で伝達できるように練習してゆきます。語法の転換、比較、仮定法にも取り組み、状況に応じて要求される表現も復習することになります。単語と文法の知識に加え、語法上の約束も確認してゆきます。簡単な文章の作成や、さまざまな分野にわたるテキストの読解も予定しています。学期の後半にはTOEIC-IPテストの情報も提供されます。
授業方法：	春学期の「統一テスト」の結果でクラス分けをしますので、第1回目から授業が始まります。毎回の授業ではさまざまな形で小テストが行われますので、欠席すると平常点が獲得できなくなります。
履修の留意点：	必修科目を確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたしますから注意してください。内容的にも進度的にもレベルアップを図りますので、授業の予習と復習に時間を確保してください。年度の最後に予定されているTOEIC-IPテストで、個々の実力を測定する予定です。その準備にも役立つ授業内容ですから、反復学習を大切にしてください。 必修科目を確実に履修しておかないと、上級学年になって時間割作成に支障をきたしますから注意してください。内容的にも進度的にもレベルアップを図りますので、授業の予習と復習に時間を確保してください。年度の最後に予定されているTOEIC-IPテストで、個々の実力を測定する予定です。その準備にも役立つ授業内容ですから、反復学習を大切にしてください。
目標と評価：	全クラス共通の「統一テスト」を行います。その結果と平常授業点とおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価を算出します。学期の初めと終わりとは、各受講生が成績を上げることができるとを期待しています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語会話入門Ⅰ」（担当者：肖輝）の履修の手引き

科目名：	中国語会話入門Ⅰ
担当者：	肖輝
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>この授業は、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能のうち特に「聞く」「話す」技能を高めるために設定された科目であり、簡単な日常会話を中心に、聞く・話す訓練を行い、さらに数多くの練習問題を解くことによって一年次に学習した中国語の基礎を固めながら、中国語の実用的運用能力をつけることを目標とする。</p> <p>この春学期（半年間）予定されるテーマは次の通りである。 1、挨拶 2、姓名を尋ねる 3、身の廻りに関する表現 4、専攻は 5、相手の都合を尋ねる 6、家族構成について 7、買い物 8、道を尋ねる 9、出迎え 10、友人について 11、工芸品について 12、家族に関する話題 13、万里の長城</p>
授業方法：	<p>講義と演習形式で行う。</p> <p>本文の意味等を説明した上で、場面を設定して口頭による応用練習を行い、反復練習を通して上記の目標の達成を目指す。またテープによるヒアリングも行う予定である。</p>
履修の留意点：	中国語Ⅱを修了した程度の人を対象とする。
目標と評価：	<p>中国語の実用的運用能力をつけることを目標とする。</p> <p>普段の小テストや授業への参加度等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語会話入門Ⅱ」（担当者：肖輝）の履修の手引き

科目名：	中国語会話入門Ⅱ
担当者：	肖輝
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>中国語会話入門Ⅰに引き続き、中国語の4技能のうち特に「聞く」「話す」技能の習得を目指す。日常の様々な場面での実用的な会話を中心に、耳と口の訓練を行い、それによって今まで学んだ中国語の知識の定着を図りながら、各種場面での応用会話力をつけてゆく。最終的な目標としては、様々な日常場面での基本的な表現をマスターし、実践的な伝達能力の向上を目指す。</p> <p>この秋学期（半年間）予定されるテーマは次の通りである。 1、バスに乗って 2、約束 3、相手の予定を尋ねる 4、友人宅を訪問する 5、週末の予定について 6、キャンパス生活 7、天候について 8、海外旅行 9、デパートで 10、夏休みに 11、勉強について 12、友達を誘う 13、郵便局で</p>
授業方法：	<p>講義と演習形式で行う。</p> <p>本文の意味等を説明した上で、場面を設定して口頭による応用練習を行い、反復練習を通して上記の目標の達成を目指す。またテープによるヒアリングも行う予定である。</p>
履修の留意点：	中国語会話入門Ⅰを修了した程度の人を対象とする。
目標と評価：	<p>最終的な目標としては、様々な日常場面での基本的な表現をマスターし、実践的な伝達能力の向上を目指す。</p> <p>普段の小テストや授業への参加度等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語会話Ⅰ」（担当者：馮 雪梅）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「中国語会話Ⅱ」（担当者：馮 雪梅）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「中国語Ⅰ」（担当者：馮 雪梅）の履修の手引き

科目名：	中国語Ⅰ
担当者：	馮 雪梅（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	<p>この授業では現代中国語を習得するための初歩を学習する。入門期に正しい発音を身につけるために先ず音声面の学習に重点を置き、次に中国語のリズムと日中両国語の発想の違いに注意しながら、基本的な文型・文法を日常の初級程度の口語表現を学ぶ中で学習する。</p> <p>授業の前半では、主として発音、形容詞述語文、動詞述語文、名詞述語文、語気助詞“ ”を用いる疑問文、疑問詞疑問文、反復疑問文、選択疑問文、構造助詞“的”、助数詞、連用修飾、数量補語、結果補語を、後半では、動態助詞“了”、語気助詞“了”、動態助詞“ ”、連体修飾、語気助詞“吧”、連動文、方向補語、不定代詞“什么”、否定を表す副詞、比較表現、主な程度を表す副詞、程度補語、主述述語文などについて学習する。</p>
授業方法：	<p>講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。</p> <p>具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。</p>
履修の留意点：	初学者を対象とする。
目標と評価：	<p>最終的な目標を、基本的に中国語の発音をマスターし、文法の基礎的事項を身につけ、表現や理解の基礎を作ることに置く。</p> <p>普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語Ⅰ」（担当者：肖輝）の履修の手引き

科目名：	中国語Ⅰ
担当者：	肖輝
設置学期：	春
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	<p>この授業では現代中国語を習得するための初歩を学習する。入門期に正しい発音を身につけるために先ず音声面の学習に重点を置き、次に中国語のリズムと日中両国語の発想の違いに注意しながら、基本的な文型・文法を日常の初級程度の口語表現を学ぶ中で学習する。</p> <p>授業の前半では、主として発音、形容詞述語文、動詞述語文、名詞述語文、語気助詞“ ”を用いる疑問文、疑問詞疑問文、反復疑問文、選択疑問文、構造助詞“的”、助数詞、連用修飾、数量補語、結果補語を、後半では、動態助詞“了”、語気助詞“了”、動態助詞“ ”、連体修飾、語気助詞“吧”、連動文、方向補語、不定代詞“什么”、否定を表す副詞、比較表現、主な程度を表す副詞、程度補語、主述述語文などについて学習する。</p>
授業方法：	<p>講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。</p> <p>具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。</p>
履修の留意点：	初学者を対象とする。
目標と評価：	<p>最終的な目標を、基本的に中国語の発音をマスターし、文法の基礎的事項を身につけ、表現や理解の基礎を作ることに置く。</p> <p>普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語Ⅰ」（担当者：林 平）の履修の手引き

科目名：	中国語Ⅰ
担当者：	林 平
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	<p>この授業では現代中国語を習得するための初歩を学習する。入門期に正しい発音を身につけるために先ず音声面の学習に重点を置き、次に中国語のリズムと日中両国語の発想の違いに注意しながら、基本的な文型・文法を日常の初級程度の口語表現を学ぶ中で学習する。</p> <p>授業の前半では、主として発音、形容詞述語文、動詞述語文、名詞述語文、語気助詞“ ”を用いる疑問文、疑問詞疑問文、反復疑問文、選択疑問文、構造助詞“的”、助数詞、連用修飾、数量補語、結果補語を、後半では、動態助詞“了”、語気助詞“了”、動態助詞“ ”、連体修飾、語気助詞“吧”、連動文、方向補語、不定代詞“什么”、否定を表す副詞、比較表現、主な程度を表す副詞、程度補語、主述述語文などについて学習する。</p>
授業方法：	<p>講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。</p> <p>具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。</p>
履修の留意点：	初学者を対象とする。
目標と評価：	<p>最終的な目標を、基本的に中国語の発音をマスターし、文法の基礎的事項を身につけ、表現や理解の基礎を作ることに置く。</p> <p>普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語Ⅰ（再履修）」（担当者：曾 蓉子）の履修の手引き

科目名：	中国語Ⅰ（再履修）
担当者：	曾 蓉子
設置学期：	秋
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	<p>この授業では現代中国語を習得するための初歩を学習する。入門期に正しい発音を身につけるために先ず音声面の学習に重点を置き、次に中国語のリズムと日中両国語の発想の違いに注意しながら、基本的な文型・文法を日常の初級程度の口語表現を学ぶ中で学習する。</p> <p>授業の前半では、主として発音、形容詞述語文、動詞述語文、名詞述語文、語気助詞“ ”を用いる疑問文、疑問詞疑問文、反復疑問文、選択疑問文、構造助詞“的”、助数詞、連用修飾、数量補語、結果補語を、後半では、動態助詞“了”、語気助詞“了”、動態助詞“ ”、連体修飾、語気助詞“吧”、連動文、方向補語、不定代詞“什么”、否定を表す副詞、比較表現、主な程度を表す副詞、程度補語、主述述語文などについて学習する。</p>
授業方法：	<p>講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。</p> <p>具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。</p>
履修の留意点：	初学者を対象とする。
目標と評価：	<p>最終的な目標を、基本的に中国語の発音をマスターし、文法の基礎的事項を身につけ、表現や理解の基礎を作ることに置く。</p> <p>普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語Ⅱ（再履修）」（担当者：曾 蓉子）の履修の手引き

科目名：	中国語Ⅱ（再履修）
担当者：	曾 蓉子
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	中国語Ⅰで学んだ中国語の基礎に基づき、日常生活での様々な場面での口語表現を学ぶ。中で中国語文法の一般的事項を学習する。それによって中国語の構文と日常の様々な場面での基本的な表現に慣れ親しみながら、中国語の基礎をマスターする。 授業の前半では、主として前置詞、未来の表現、動作の持続を表す表現、「進行」を表す“在”、特殊疑問文、概数表現、可能補語、助動詞、仮定表現、動態助詞“着”、様態補語、構造助詞“地”、兼語文、接続詞を、後半では、反語表現、受け身文、“動詞の重ね型等十看”、接頭語、方向補語の派生用法、緊縮文、縮略語、“把”構文による処置の表現、4種類の述語文、使役表現、前置詞などについて学習する。
授業方法：	講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。 具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。
履修の留意点：	中国語Ⅰ修了者を対象とする。
目標と評価：	最終的には中国語の基本文法、日常生活に必要な基礎表現法の習得を目指すこととする。 普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語Ⅱ」（担当者：馮 雪梅）の履修の手引き

科目名：	中国語Ⅱ
担当者：	馮 雪梅（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	中国語Ⅰで学んだ中国語の基礎に基づき、日常生活での様々な場面での口語表現を学ぶ。中で中国語文法の一般的事項を学習する。それによって中国語の構文と日常の様々な場面での基本的な表現に慣れ親しみながら、中国語の基礎をマスターする。 授業の前半では、主として前置詞、未来の表現、動作の持続を表す表現、「進行」を表す“在”、特殊疑問文、概数表現、可能補語、助動詞、仮定表現、動態助詞“着”、様態補語、構造助詞“地”、兼語文、接続詞を、後半では、反語表現、受け身文、“動詞の重ね型等十看”、接頭語、方向補語の派生用法、緊縮文、縮略語、“把”構文による処置の表現、4種類の述語文、使役表現、前置詞などについて学習する。
授業方法：	講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。 具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。
履修の留意点：	中国語Ⅰ修了者を対象とする。
目標と評価：	最終的には中国語の基本文法、日常生活に必要な基礎表現法の習得を目指すこととする。 普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語Ⅱ」（担当者：肖輝）の履修の手引き

科目名：	中国語Ⅱ
担当者：	肖輝
設置学期：	秋
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	中国語Ⅰで学んだ中国語の基礎に基づき、日常生活での様々な場面での口語表現を学ぶ。中で中国語文法の一般的事項を学習する。それによって中国語の構文と日常の様々な場面での基本的な表現に慣れ親しみながら、中国語の基礎をマスターする。 授業の前半では、主として前置詞、未来の表現、動作の持続を表す表現、「進行」を表す“在”、特殊疑問文、概数表現、可能補語、助動詞、仮定表現、動態助詞“着”、様態補語、構造助詞“地”、兼語文、接続詞を、後半では、反語表現、受け身文、“動詞の重ね型等十看”、接頭語、方向補語の派生用法、緊縮文、縮略語、“把”構文による処置の表現、4種類の述語文、使役表現、前置詞などについて学習する。
授業方法：	講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。 具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。
履修の留意点：	中国語Ⅰ修了者を対象とする。
目標と評価：	最終的には中国語の基本文法、日常生活に必要な基礎表現法の習得を目指すこととする。 普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語Ⅱ」（担当者：林 平）の履修の手引き

科目名：	中国語Ⅱ
担当者：	林 平
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	中国語Ⅰで学んだ中国語の基礎に基づき、日常生活での様々な場面での口語表現を学ぶ。中で中国語文法の一般的事項を学習する。それによって中国語の構文と日常の様々な場面での基本的な表現に慣れ親しみながら、中国語の基礎をマスターする。 授業の前半では、主として前置詞、未来の表現、動作の持続を表す表現、「進行」を表す“在”、特殊疑問文、概数表現、可能補語、助動詞、仮定表現、動態助詞“着”、様態補語、構造助詞“地”、兼語文、接続詞を、後半では、反語表現、受け身文、“動詞の重ね型等十看”、接頭語、方向補語の派生用法、緊縮文、縮略語、“把”構文による処置の表現、4種類の述語文、使役表現、前置詞などについて学習する。
授業方法：	講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。 具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。
履修の留意点：	中国語Ⅰ修了者を対象とする。
目標と評価：	最終的には中国語の基本文法、日常生活に必要な基礎表現法の習得を目指すこととする。 普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語Ⅲ」（担当者：馮 雪梅）の履修の手引き

科目名：	中国語Ⅲ
担当者：	馮 雪梅（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	<p>一年次に習得した中国語の成果をふまえ、引き続き日常生活での様々な場面での口語表現を学ぶ中で中国語文法の一般的事項を学習する。それによって日常場面での基本的な表現を習得し、体系的な文法の知識を身につけ、やや高度な表現ができるようにならなければならない基礎作りをする。</p> <p>授業の前半では、結果補語“了”、疑問詞の連用、“有～有～”構文、使役の“让”、前置詞“在”、中止を表す“不～了”、“好好儿”、二重否定“非～不可”“不～不行”、離合動詞、方向動詞と方向補語、受身を表す“被”、“叫”、“～”、“～”、方向補語“上去”の派生用法、行為の順序を表す“先～再～”を、後半では、“一心想～”、助動詞“想”と“要”、“一口气儿能～”、“已～了”、“先～、又～”、“然后～”、完了の“了”、変化の“了”、“是～呢？”、“只～、没～”、“别提多～了”、“～都没～”、動量補語、“～的”、“又开始～了”、“再也沒有～了”、時量補語、程度補語、結果補語などについて学習する。</p>
授業方法：	<p>講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。</p> <p>具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、下記の目標の達成を目指す。</p>
履修の留意点：	中国語Ⅱ修了者を対象とする。
目標と評価：	<p>最終的にはHSK 2級程度の実力がつくことを目的とする。</p> <p>普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語Ⅲ」（担当者：肖輝）の履修の手引き

科目名：	中国語Ⅲ
担当者：	肖輝
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	<p>一年次に習得した中国語の成果をふまえ、引き続き日常生活での様々な場面での口語表現を学ぶ中で中国語文法の一般的事項を学習する。それによって日常場面での基本的な表現を習得し、体系的な文法の知識を身につけ、やや高度な表現ができるようによりしっかりした基礎作りをする。</p> <p>授業の前半では、結果補語“ ”、疑問詞の連用、“有～有～”構文、使役の“ ”、前置詞“ ”、中止を表す“不～了”、“好好儿”、二重否定“非～不可”“不～不行”、離合動詞、方向動詞と方向補語、受身を表す“被、 ”、“叫”、“～ ”、“ ”、方向補語“上去”の派生用法、行為の順序を表す“先～再～”を、後半では、“一心想～”、助動詞“想”と“要”、“一口气儿能～”、“已～了”、“先～、又～、然后～”、完了の“了”、変化の“了”、“是～呢？”、“只～、没～”、“别提多～了”、“～都没～”、動量補語、“～的”、“又开始～了”、“再也沒有～了”、時量補語、程度補語、結果補語などについて学習する。</p>
授業方法：	<p>講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。</p> <p>具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、下記の目標の達成を目指す。</p>
履修の留意点：	中国語Ⅱ修了者を対象とする。
目標と評価：	<p>最終的にはHSK 2級程度の実力がつくことを目的とする。</p> <p>普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語Ⅲ（再履修）」（担当者：肖輝）の履修の手引き

科目名：	中国語Ⅲ（再履修）
担当者：	肖輝
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	<p>一年次に習得した中国語の成果をふまえ、引き続き日常生活での様々な場面での口語表現を学ぶ中で中国語文法の一般的事項を学習する。それによって日常場面での基本的な表現を習得し、体系的な文法の知識を身につけ、やや高度な表現ができるようによりしっかりとした基礎作りをする。</p> <p>授業の前半では、結果補語“了”、疑問詞の連用、“有～有～”構文、使役の“让”、前置詞“在”、中止を表す“不～了”、“好好儿”、二重否定“非～不可”“不～不行”、離合動詞、方向動詞と方向補語、受身を表す“被”、“叫”、“～”、“～”、方向補語“上去”の派生用法、行為の順序を表す“先～再～”を、後半では、“一心想～”、助動詞“想”と“要”、“一口气儿能～”、“已～了”、“先～、又～”、“然后～”、完了の“了”、変化の“了”、“是～呢？”、“只～、没～”、“别提多～了”、“～都没～”、動量補語、“～的”、“又开始～了”、“再也沒有～了”、時量補語、程度補語、結果補語などについて学習する。</p>
授業方法：	<p>講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。</p> <p>具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、下記の目標の達成を目指す。</p>
履修の留意点：	中国語Ⅱ修了者を対象とする。
目標と評価：	<p>最終的にはHSK 2級程度の実力がつくことを目的とする。</p> <p>普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語Ⅳ」（担当者：林 平）の履修の手引き

科目名：	中国語Ⅳ
担当者：	林 平
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	<p>今までに身につけた基礎学力をもとに、平易な文体で書かれた中国語のまとまった文章を読むことを通して文法、表現の面でより高度なものを学習しながら、読解力を中心に総合的中国語力、豊かな表現力を身につける。体系的な文法の知識と基礎的表現法を修得することによって中国語の基礎力の定着を図る。</p> <p>この半年間取り扱っていくトピックは次のようなものである。漢字の中日交流、人気の専攻、お茶の飲み方、煙草を勧める、宴会、商売のコツ、若者のアフター、音楽、スポーツ、中国女性、貴族学校、住宅、出稼ぎラッシュ、方言、健康づくりは何？、「かみさん」は「神様」ではない、ユーモア、夢を実現しよう、共通の願い、数字言葉、うまくいかない、記憶力アップの鍵は右脳を鍛えることにある、ポディランゲージ</p>
授業方法：	<p>講義と演習形式で行う。</p> <p>具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後本文の訳読と数多くの練習問題を学生が解答する。それによって既習文法事項の再確認、新出文法の習得、語彙力の一層の充実、中国語構文の把握なども図りながら、中国の文化、社会についてさらに理解を深めていく。</p>
履修の留意点：	中国語Ⅲ修了者を対象とする。
目標と評価：	<p>最終的にはHSK 3級程度の実力がつくことを目的とする。</p> <p>授業への参加度、平常点（授業中の訳読の出来ばえ等）と2回の授業内テスト等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎中国語Ⅰ」（担当者：曾 蓉子）の履修の手引き

科目名：	基礎中国語Ⅰ
担当者：	曾 蓉子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>この授業では、中国語の学習を進めていく上での基礎的知識を学習する。中国語という言葉に慣れ親しむことを中心に据え、入門期に正しい発音を身につけるために先ず音声面の学習に重点を置き、次に中国語のリズムと日中両国語の発想の違いに注意しながら、中国語の初歩的な文法知識を簡単な口語表現を学ぶ中で学習する。基礎中国語Ⅰが終了した時点で中国語の発音に慣れ、初歩的な文法と簡単な文の表現力を身につけることを目標とする。</p> <p>この授業の前半では、主として発音を、後半では、形容詞述語文、動詞述語文、名詞述語文、語気助詞“”を用いる疑問文、疑問詞疑問文、反復疑問文、構造助詞“的”、連用修飾、姓名の尋ね方と答え方、人称代名詞、指示代名詞などについて学習する。</p>
授業方法：	<p>講義と演習形式で行う。</p> <p>具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。</p>
履修の留意点：	初学者を対象とする。
目標と評価：	<p>中国語の発音に慣れ、初歩的な文法と簡単な文の表現力を身につけることを目標とする。</p> <p>普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎中国語Ⅱ」（担当者：曾 蓉子）の履修の手引き

科目名：	基礎中国語Ⅱ
担当者：	曾 蓉子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>春学期授業で学習した基礎中国語Ⅰの持ち上がり授業である。 内容的には、基礎中国語Ⅰの学習内容を継続し、発音の矯正をしながら、初級口語表現を中心に、基本的な文型、文法と表現法を学び、会話の基礎力をつける。基礎中国語Ⅱの学習を終えるまでには、中国語文法の基礎的事項の前半を習得し、基本的な文の構造を理解して、簡単な表現ができるようになりし基礎作りをする。</p> <p>この授業の前半では、主として助数詞、場所を示す指示代詞、二重目的語文、方位詞、疑問代詞、選択疑問文、時刻の表現、数量補語を、後半では、動態助詞“了”、伝聞を表す表現、語気助詞“呢”、語気助詞“呢”、年齢の尋ね方、動態助詞“”、概数表現、連体修飾などについて学習する。</p>
授業方法：	<p>講義と演習形式で行う。</p> <p>具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。</p>
履修の留意点：	基礎中国語Ⅰを修了した程度の人を対象とする。
目標と評価：	<p>中国語文法の基礎的事項の前半を習得し、基本的な文の構造を理解して、簡単な表現ができるようになりし基礎作りをする。</p> <p>普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「海外集中中国語」（担当者：馮 雪梅）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「中国語コミュニケーションⅠ」（担当者：馮 雪梅）の履修の手引き

科目名：	中国語コミュニケーションⅠ
担当者：	馮 雪梅（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	<p>現代中国語を習得するための初歩を学習する。入門期に正しい発音を身につけるためにまず音声面の学習に重点を置き、発音の訓練を徹底的に行う。次に簡単な口語表現を学ぶ中で中国語の初歩的な文法知識を学習する。それによって中国語の基礎を固めながら、実際の運用能力をつけることを目的とする。</p> <p>授業の前半では、主として発音、形容詞述語文、動詞述語文、名詞述語文、語気助詞“ ”を用いる疑問文、疑問詞疑問文、反復疑問文、選択疑問文、構造助詞“的”、助数詞、連用修飾、数量補語、結果補語を、後半では、動態助詞“了”、語気助詞“了”、動態助詞“ ”、連体修飾、語気助詞“吧”、連動文、方向補語、不定代詞“什么”、否定を表す副詞、比較表現、主な程度を表す副詞、程度補語、主述述語文などについて学習する。</p>
授業方法：	<p>講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。</p> <p>具体的な授業の進め方としては、まず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。</p>
履修の留意点：	初学者を対象とする。
目標と評価：	<p>最終的な目標を、基本的に中国語の発音をマスターし、文法の基礎的事項を身につけ、表現や理解の基礎を作ることに置く。</p> <p>普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語コミュニケーションⅠ」（担当者：肖輝）の履修の手引き

科目名：	中国語コミュニケーションⅠ
担当者：	肖輝
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	<p>現代中国語を習得するための初歩を学習する。入門期に正しい発音を身につけるためにまず音声面の学習に重点を置き、発音の訓練を徹底的に行う。次に簡単な口語表現を学ぶ中で中国語の初歩的な文法知識を学習する。それによって中国語の基礎を固めながら、実際の運用能力をつけることを目的とする。</p> <p>授業の前半では、主として発音、形容詞述語文、動詞述語文、名詞述語文、語気助詞“ ”を用いる疑問文、疑問詞疑問文、反復疑問文、選択疑問文、構造助詞“的”、助数詞、連用修飾、数量補語、結果補語を、後半では、動態助詞“了”、語気助詞“了”、動態助詞“ ”、連体修飾、語気助詞“吧”、連動文、方向補語、不定代詞“什么”、否定を表す副詞、比較表現、主な程度を表す副詞、程度補語、主述述語文などについて学習する。</p>
授業方法：	<p>講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。</p> <p>具体的な授業の進め方としては、まず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。</p>
履修の留意点：	初学者を対象とする。
目標と評価：	<p>最終的な目標を、基本的に中国語の発音をマスターし、文法の基礎的事項を身につけ、表現や理解の基礎を作ることに置く。</p> <p>普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語コミュニケーションⅠ」（担当者：林 平）の履修の手引き

科目名：	中国語コミュニケーションⅠ
担当者：	林 平
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	<p>現代中国語を習得するための初歩を学習する。入門期に正しい発音を身につけるためにまず音声面の学習に重点を置き、発音の訓練を徹底的に行う。次に簡単な口語表現を学ぶ中で中国語の初歩的な文法知識を学習する。それによって中国語の基礎を固めながら、実際の運用能力をつけることを目的とする。</p> <p>授業の前半では、主として発音、形容詞述語文、動詞述語文、名詞述語文、語気助詞“ ”を用いる疑問文、疑問詞疑問文、反復疑問文、選択疑問文、構造助詞“的”、助数詞、連用修飾、数量補語、結果補語を、後半では、動態助詞“了”、語気助詞“了”、動態助詞“ ”、連体修飾、語気助詞“吧”、連動文、方向補語、不定代詞“什么”、否定を表す副詞、比較表現、主な程度を表す副詞、程度補語、主述述語文などについて学習する。</p>
授業方法：	<p>講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。</p> <p>具体的な授業の進め方としては、まず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。</p>
履修の留意点：	初学者を対象とする。
目標と評価：	<p>最終的な目標を、基本的に中国語の発音をマスターし、文法の基礎的事項を身につけ、表現や理解の基礎を作ることに置く。</p> <p>普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語コミュニケーションⅠ」（担当者：趙 容）の履修の手引き

科目名：	中国語コミュニケーションⅠ
担当者：	趙 容
設置学期：	春
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	<p>現代中国語を習得するための初歩を学習する。入門期に正しい発音を身につけるためにまず音声面の学習に重点を置き、発音の訓練を徹底的に行う。次に簡単な口語表現を学ぶ中で中国語の初歩的な文法知識を学習する。それによって中国語の基礎を固めながら、実際の運用能力をつけることを目的とする。</p> <p>授業の前半では、主として発音、形容詞述語文、動詞述語文、名詞述語文、語気助詞“ ”を用いる疑問文、疑問詞疑問文、反復疑問文、選択疑問文、構造助詞“的”、助数詞、連用修飾、数量補語、結果補語を、後半では、動態助詞“了”、語気助詞“了”、動態助詞“ ”、連体修飾、語気助詞“吧”、連動文、方向補語、不定代詞“什么”、否定を表す副詞、比較表現、主な程度を表す副詞、程度補語、主述述語文などについて学習する。</p>
授業方法：	<p>講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。</p> <p>具体的な授業の進め方としては、まず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。</p>
履修の留意点：	初学者を対象とする。
目標と評価：	<p>最終的な目標を、基本的に中国語の発音をマスターし、文法の基礎的事項を身につけ、表現や理解の基礎を作ることに置く。</p> <p>普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語コミュニケーションⅠ」（担当者：曾 蓉子）の履修の手引き

科目名：	中国語コミュニケーションⅠ
担当者：	曾 蓉子
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	<p>現代中国語を習得するための初歩を学習する。入門期に正しい発音を身につけるためにまず音声面の学習に重点を置き、発音の訓練を徹底的に行う。次に簡単な口語表現を学ぶ中で中国語の初歩的な文法知識を学習する。それによって中国語の基礎を固めながら、実際の運用能力をつけることを目的とする。</p> <p>授業の前半では、主として発音、形容詞述語文、動詞述語文、名詞述語文、語気助詞“ ”を用いる疑問文、疑問詞疑問文、反復疑問文、選択疑問文、構造助詞“的”、助数詞、連用修飾、数量補語、結果補語を、後半では、動態助詞“了”、語気助詞“了”、動態助詞“ ”、連体修飾、語気助詞“吧”、連動文、方向補語、不定代詞“什么”、否定を表す副詞、比較表現、主な程度を表す副詞、程度補語、主述述語文などについて学習する。</p>
授業方法：	<p>講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。</p> <p>具体的な授業の進め方としては、まず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。</p>
履修の留意点：	初学者を対象とする。
目標と評価：	<p>最終的な目標を、基本的に中国語の発音をマスターし、文法の基礎的事項を身につけ、表現や理解の基礎を作ることに置く。</p> <p>普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語コミュニケーションⅡ」（担当者：曾 蓉子）の履修の手引き

科目名：	中国語コミュニケーションⅡ
担当者：	曾 蓉子
設置学期：	春
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	中国語コミュニケーションIで学んだ中国語の基礎に基づき、内容的に一步進んだ口語表現を勉強すると共に、中国語の基礎文法、表現法を学ぶ。それによって中国語の文の基本的な構造を理解し、各種場面での応用会話力をつけることを目的とする。レベル的には、HSK 1級程度の実力がつくことを目指す。 授業の前半では、主として前置詞、未来の表現、動作の持続を表す表現、「進行」を表す“在”、特殊疑問文、概数表現、可能補語、助動詞、仮定表現、動態助詞“着”、様態補語、構造助詞“地”、兼語文、接続詞を、後半では、反語表現、受け身文、“動詞の重ね型等+看”、接頭語、方向補語の派生用法、緊縮文、縮略語、“把”構文による処置の表現、4種類の述語文、使役表現、前置詞などについて学習する。
授業方法：	講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。 具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。
履修の留意点：	中国語コミュニケーションⅠ修了者を対象とする。
目標と評価：	最終的には中国語の基本文法、日常生活に必要な基礎表現法の習得を目指すこととする。 普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語コミュニケーションⅡ」（担当者：馮 雪梅）の履修の手引き

科目名：	中国語コミュニケーションⅡ
担当者：	馮 雪梅（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	中国語コミュニケーションIで学んだ中国語の基礎に基づき、内容的に一步進んだ口語表現を勉強すると共に、中国語の基礎文法、表現法を学ぶ。それによって中国語の文の基本的な構造を理解し、各種場面での応用会話力をつけることを目的とする。レベル的には、HSK 1級程度の実力がつくことを目指す。 授業の前半では、主として前置詞、未来の表現、動作の持続を表す表現、「進行」を表す“在”、特殊疑問文、概数表現、可能補語、助動詞、仮定表現、動態助詞“着”、様態補語、構造助詞“地”、兼語文、接続詞を、後半では、反語表現、受け身文、“動詞の重ね型等+看”、接頭語、方向補語の派生用法、緊縮文、縮略語、“把”構文による処置の表現、4種類の述語文、使役表現、前置詞などについて学習する。
授業方法：	講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。 具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。
履修の留意点：	中国語コミュニケーションⅠ修了者を対象とする。
目標と評価：	最終的には中国語の基本文法、日常生活に必要な基礎表現法の習得を目指すこととする。 普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語コミュニケーションⅡ」（担当者：肖 輝）の履修の手引き

科目名：	中国語コミュニケーションⅡ
担当者：	肖 輝
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	中国語コミュニケーションIで学んだ中国語の基礎に基づき、内容的に一步進んだ口語表現を勉強すると共に、中国語の基礎文法、表現法を学ぶ。それによって中国語の文の基本的な構造を理解し、各種場面での応用会話力をつけることを目的とする。レベル的には、HSK 1級程度の実力がつくことを目指す。 授業の前半では、主として前置詞、未来の表現、動作の持続を表す表現、「進行」を表す“在”、特殊疑問文、概数表現、可能補語、助動詞、仮定表現、動態助詞“着”、様態補語、構造助詞“地”、兼語文、接続詞を、後半では、反語表現、受け身文、“動詞の重ね型等+看”、接頭語、方向補語の派生用法、緊縮文、縮略語、“把”構文による処置の表現、4種類の述語文、使役表現、前置詞などについて学習する。
授業方法：	講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。 具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。
履修の留意点：	中国語コミュニケーションⅠ修了者を対象とする。
目標と評価：	最終的には中国語の基本文法、日常生活に必要な基礎表現法の習得を目指すこととする。 普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語コミュニケーションⅡ」（担当者：林 平）の履修の手引き

科目名：	中国語コミュニケーションⅡ
担当者：	林 平
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	中国語コミュニケーションIで学んだ中国語の基礎に基づき、内容的に一步進んだ口語表現を勉強すると共に、中国語の基礎文法、表現法を学ぶ。それによって中国語の文の基本的な構造を理解し、各種場面での応用会話力をつけることを目的とする。レベル的には、HSK 1級程度の実力がつくことを目指す。 授業の前半では、主として前置詞、未来の表現、動作の持続を表す表現、「進行」を表す“在”、特殊疑問文、概数表現、可能補語、助動詞、仮定表現、動態助詞“着”、様態補語、構造助詞“地”、兼語文、接続詞を、後半では、反語表現、受け身文、“動詞の重ね型等+看”、接頭語、方向補語の派生用法、緊縮文、縮略語、“把”構文による処置の表現、4種類の述語文、使役表現、前置詞などについて学習する。
授業方法：	講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。 具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。
履修の留意点：	中国語コミュニケーションⅠ修了者を対象とする。
目標と評価：	最終的には中国語の基本文法、日常生活に必要な基礎表現法の習得を目指すこととする。 普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語コミュニケーションⅡ」（担当者：趙 容）の履修の手引き

科目名：	中国語コミュニケーションⅡ
担当者：	趙 容
設置学期：	秋
開講回数：	全39回
週コマ数：	週3コマ
概要：	中国語コミュニケーションIで学んだ中国語の基礎に基づき、内容的に一步進んだ口語表現を勉強すると共に、中国語の基礎文法、表現法を学ぶ。それによって中国語の文の基本的な構造を理解し、各種場面での応用会話力をつけることを目的とする。レベル的には、HSK 1級程度の実力がつくことを目指す。 授業の前半では、主として前置詞、未来の表現、動作の持続を表す表現、「進行」を表す“在”、特殊疑問文、概数表現、可能補語、助動詞、仮定表現、動態助詞“着”、様態補語、構造助詞“地”、兼語文、接続詞を、後半では、反語表現、受け身文、“動詞の重ね型等+看”、接頭語、方向補語の派生用法、緊縮文、縮略語、“把”構文による処置の表現、4種類の述語文、使役表現、前置詞などについて学習する。
授業方法：	講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。 具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。
履修の留意点：	中国語コミュニケーションⅠ修了者を対象とする。
目標と評価：	最終的には中国語の基本文法、日常生活に必要な基礎表現法の習得を目指すこととする。 普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「外国語特論 I」（担当者：馮 雪梅）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「外国語特論Ⅱ」（担当者：馮 雪梅）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「時事外国語Ⅰ」（担当者：高野 秀之）の履修の手引き

科目名：	時事外国語Ⅰ
担当者：	高野 秀之（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講座は、経営経済学部と短期大学の2年生を対象に、広く社会を見渡し、世界の仕組みがどのように関連しあっているものかを探求することを目的としています。この目的に関して比較的多くの情報を提供している英語を用いて、今、まさに起こっていることに関心を寄せる訓練をします。遠くに感じていたことが身近なものになっていく過程をともに経験し、それが将来の社会生活に役立つように、少人数のグループで話し合いを行いながら、教養を高めてゆきましょう。
授業方法：	PCから授業当日のニュースを選び、テキストに現れた情報から、社会に対する考え方を読み取る練習をします。限られた時間内で英文を読み、その内容と自分自身との距離を感じてもらいます。また、実際にテキストを音読し、ニュースが誰かに確実に通じることを体験してもらいます。最終的には、そのニュースを批判的な目で見直し、互いの考えを持ち寄ることにより社会に関与してゆく訓練とします。
履修の留意点：	英語を通じて世界を見ようとするだけでなく、これまで自分の中で育ててきたものの捉え方と実社会との距離を経験する授業ですから、好奇心が旺盛であることが求められます。また、英文を読み解くための努力も求められますので、忍耐力があることが望まれます。途中で投げ出さずに、最後まで取り組む学生が集まることを期待しています。毎回の授業が評価対象です。授業を欠席しないでください。
目標と評価：	授業が終わったときに、個々の学生が社会の一員であることを実感できるようになることが目標です。毎回の授業に積極的に取り組み、毎週の復習課題を提出することにより、得点が累積されてゆきます。第一回目の授業で、より詳しい情報を提供します。
教科書：	未定
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「時事外国語Ⅰ」（担当者：馮 雪梅）の履修の手引き

科目名：	時事外国語Ⅰ
担当者：	馮 雪梅（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>中国語で時事問題を理解することを目的とする。</p> <p>時事外国語Ⅰでは新聞を材料に、過去一年間の中国国内の状況、中国を取り巻く国際情勢を10のテーマに分けて取り上げ、それぞれ最新の時事用語、新聞独特の表現方法などを理解できる知識、技能を習得させながら、目覚しく発展する現代中国について理解を深めていく。</p> <p>この半年間取り扱っていくトピックは次の通りである。</p> <p>1、香港と内地の結束を強化しよう 2、2004年春節トピックス 3、あの女の子が教壇に 4、大相撲北京興行 5、中国電力危機 6、太っちょは警察官になれない？ 7、揚子江ワニを保護しよう 8、全ての職業に英語が必要？ 9、世紀の偉人鄧小平 10、七夕はもう古い？</p>
授業方法：	<p>講義と演習形式で行う。</p> <p>中国語の語彙と文法事項等について必要な説明を行った後、本文の訳読を中心に授業を進める。訳読終了後は音読の練習を行う。</p>
履修の留意点：	中国語Ⅱを修了した程度の人を対象とする。
目標と評価：	<p>中国語で時事問題を理解することを目的とする。</p> <p>年数回の小テストや授業への参加度（授業中の訳読の出来ばえ）等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「時事外国語Ⅱ」（担当者：高野 秀之）の履修の手引き

科目名：	時事外国語Ⅱ
担当者：	高野 秀之（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講座は、経営経済学部と短期大学の2年生を対象に、「時事外国語Ⅰ」を発展させた内容に取り組みむことを目的としています。受講生の多くは、春学期に「時事外国語Ⅰ」で世界の仕組みが関連しあっていることを学んでいます。しかし、その多くは具体的な例で説明されていましたので、今学期の授業では、比較的、表面化していない関連性について取り組みたいと思います。
授業方法：	春学期に開講した「時事外国語Ⅰ」と、基本的な形式は同じものです。大きく異なるのは、小グループで討議された内容が、英語で発表されることが期待されている伝です。それぞれのグループはプロジェクト形式で課題に取り組み、調査・研究の後、プレゼンテーションを行います。グループ相互の評価は点数化され、構成員の評価点として累積されてゆきますので、誰も欠席はできません。
履修の留意点：	グループ学習が中心なので、他の構成員に迷惑をかける人がいると困ります。協調性に富み、仲間と困難を乗り越える努力を惜しまない学生が集まることを期待しています。
目標と評価：	プレゼンテーション能力が高まり、自分の考えが英語で表現できる喜びを感じてもらいたいと思います。プロジェクトの立ち上げから、課題への取り組み、相互評価、プレゼンテーションまでが評価の対象となります。途中で投げ出さないように。
教科書：	未定
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「時事外国語Ⅱ」（担当者：馮 雪梅）の履修の手引き

科目名：	時事外国語Ⅱ
担当者：	馮 雪梅（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>時事外国語Ⅰと同様、中国語で時事問題を理解することを目的とする。</p> <p>時事外国語Ⅱではより高度な専門誌を材料に、過去一年間の中国国内の状況、中国を取り巻く国際情勢を10のテーマに分けて取り上げ、時事問題についてのレベルの高い議論を理解し、そして考えることができるような知識・技能を習得させる。</p> <p>この半年間取り扱っていくトピックは次の通りである。</p> <p>1、中国で韓国ブーム 2、天気予報をゆっくり見たい 3、「雷雨」新バージョン上演 4、ローソン対セブンイレブンin上海 5、世界最標高のポタラ宮 6、オリンピックメインスタジアムのスリム化 7、大都市こぼれ話 8、婚前検査自由化の波紋 9、生まれ変わった唐山市 10、鄭和大航海600周年</p>
授業方法：	<p>講義と演習形式で行う。</p> <p>中国語の語彙と文法事項等について必要な説明を行った後、本文の訳読を中心に授業を進める。訳読終了後は音読の練習を行う。</p>
履修の留意点：	時事外国語Ⅰを修了した程度の人を対象とする。
目標と評価：	<p>時事外国語Ⅰと同様、中国語で時事問題を理解することを目的とする。</p> <p>年数回の小テストや授業への参加度（授業中の訳読の出来ばえ）等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネスコミュニケーションⅠ」（担当者：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	ビジネスコミュニケーションⅠ
担当者：	サイモン クレイ（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	An introduction to English as it is used in the work-place. As much as possible, practical English conversation skills will be taught as well as useful skills such as writing a CV in English, writing basic
授業方法：	Mainly conversation based, there will be work in groups, listening and video exercises and also writing exercises. There will be homework.
履修の留意点：	Nothing in particular
目標と評価：	Assessment will be made on the basis of work in class and an in-class test.
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネスコミュニケーションⅡ」（担当者：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	ビジネスコミュニケーションⅡ
担当者：	サイモン クレイ（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	Continuing from Business Communication I we look at more advanced conversations that are used in the work place, including some simple negotiating skills.
授業方法：	Mainly conversation based, there will be work in groups, listening and video exercises and also writing exercises. There will be homework.
履修の留意点：	Nothing in particular
目標と評価：	Participation in class and a class exam.
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イタリア語Ⅰ」（担当者：嘉悦 克）の履修の手引き

科目名：	イタリア語Ⅰ
担当者：	嘉悦 克
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	長い歴史と文化を誇るイタリアは、美術、音楽等芸術の分野で魅力に満ちている。取り分け、昨今ミラノを発信地とするファッション、或は、イタリア料理に興味と魅力を感じる若者が増えているようである。イタリア人は、陽気で人懐っこい性格の国民であるとともに、長い歴史と伝統をもつ自分たちの文化に誇りを持っている。勿論、自分たちの言語であるイタリア語に関しても、同じである。外国人旅行者が、たどたどしいイタリア語で話しかけると本当に嬉しそうな顔をする。そして、そこから心の交流が始まるのである。
授業方法：	① 教科書が簡単な会話を中心に構成されているので、必ず声を出して反復練習をし、イタリア語の発音に慣れる。 ② 毎回の授業の流れの中で、ラテン系言語特有の文法事項、名詞の性と数、それに伴う冠詞、形容詞等の変化を学ぶ。 ③ ラテン系言語の特徴である動詞の人称活用を重点的に学ぶ。
履修の留意点：	春学期は、イタリア語に慣れるために簡単な日常的な挨拶等を中心に授業を進め、また、イタリア語独自の文法にも多少触れる。
目標と評価：	<目標> 先ず、イタリア語に慣れ親しむこと。 <評価> テスト、平常点を考慮した上で評価する。
教科書：	A ZONZO（ア・ゾンゾ）イタリア語そぞろ歩き 一ノ瀬俊和 株式会社朝日出版社 2003年
参考書：	イタリア語小事典 下位 英一／坂本 鉄男 大学書林

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イタリア語Ⅱ」（担当者：嘉悦 克）の履修の手引き

科目名：	イタリア語Ⅱ
担当者：	嘉悦 克
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	長い歴史と文化を誇るイタリアは、美術、音楽等芸術の分野で魅力に満ちている。取り分け、昨今ミラノを発信地とするファッション、或は、イタリア料理に興味と魅力を感じる若者が増えているようである。イタリア人は陽気で人懐っこい性格の国民であるとともに、長い歴史と伝統をもつ自分たちの文化に誇りを持っている。勿論、自分たちの言語であるイタリア語に関しても同じである。外国人旅行者が、たどたどしいイタリア語で話しかけると本当に嬉しそうな顔をする。そして、そこから心の交流が始まるのである。
授業方法：	① 教科書が簡単な会話を中心に構成されているので、必ず声を出して反復練習をし、イタリア語の発音に慣れる。 ② 毎回の授業の流れの中で、ラテン系言語特有の文法事項、名詞の性と数、それに伴う冠詞、形容詞等の変化を学ぶ。 ③ ラテン系言語の特徴である動詞の人称活用を重点的に学ぶ。
履修の留意点：	秋学期は、春学期で学んだ内容を展開しながら外国語を学ぶ際の基本である、応用力を実践的に身につけるようにする。
目標と評価：	<目標>春に続いて買い物等で簡単な会話を実践できるようにする。 <評価>テスト、平常点を考慮した上で評価する。
教科書：	A ZONZO（ア・ゾンゾ）イタリア語そぞろ歩き 一ノ瀬俊和 株式会社朝日出版社 2003年
参考書：	イタリア語小事典 下位 英一／坂本 鉄男 大学書林

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「フランス語Ⅰ」（担当者：ポール エトガ）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「フランス語Ⅱ」（担当者：ポール エトガ）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「原書講読 I」（担当者：尾村 敬二）の履修の手引き

科目名：	原書講読 I
担当者：	尾村 敬二（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本授業は英語を通じて経済問題を学ぶことを目的とする。卒業後に国際社会で活躍したい学生を歓迎する。教科書はやや難解であるが、努力しだいで、次第に興味が出てくる授業である。英語力が必ずついてくるとともに、経済に関する知識が豊富になる。
授業方法：	予習を支持する教科書の範囲を順番に指名された学生による要約と内容説明を求める。
履修の留意点：	予習・復習を必ず行うこと。授業には英和辞典を必携。
目標と評価：	評価は、日常の授業参加状況と筆記試験によって行う。
教科書：	THE ROARING NINETIES JOSEPH STIGLITZ PENGUIN BOOKS 2004
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「原書講読Ⅱ」（担当者：尾村 敬二）の履修の手引き

科目名：	原書講読Ⅱ
担当者：	尾村 敬二（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	原書購読Ⅰ（春学期）と同じ内容である。継続して履修することが望ましい。
授業方法：	原書購読Ⅰと同じである。
履修の留意点：	原書購読Ⅰと同じである。
目標と評価：	原書購読Ⅰと同じである。
教科書：	THE ROARING NINETIES JOSEPH STIGLITZ PENGUIN BOOKS 2004
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語 I (留学生用)」 (担当者: 河村 玲子) の履修の手引き

科目名:	日本語 I (留学生用)
担当者:	河村 玲子
設置学期:	春
開講回数:	全39回
週コマ数:	週3コマ
概要:	日本語の四技能(読む・書く・話す・聞く)を高め、大学の授業を受ける際の困難を減らすこと、また、日本語能力試験一級程度の日本語力の習得を目的として、主に、講義や教科書等で使用される文語表現の読解や作文に重点をおいて勉強していく。
授業方法:	演習方式で、学生の皆さんの積極的な参加、発言を重視して授業を進める。
履修の留意点:	一回一回の授業に集中し、その時間内に最大限に学習項目を習得してほしい。
目標と評価:	基本的な経済用語を含む文章を読んで理解できること、適切な書き言葉を用いて文章を書けること、日本語能力試験一級程度の日本語力の習得、以上の三点を目標とする。評価については、出席点とは別に、出席、課題への取り組み姿勢や提出状況等、平常点を重視する。
教科書:	大学・大学院留学生の日本語②作文編 アカデミックジャパニーズ研究会編著 株式会社アルク
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語Ⅱ(留学生用)」(担当者: 河村 玲子)の履修の手引き

科目名:	日本語Ⅱ(留学生用)
担当者:	河村 玲子
設置学期:	秋
開講回数:	全39回
週コマ数:	週3コマ
概要:	日本語の四技能(読む・書く・話す・聞く)を高め、大学の授業を受ける際の困難を減らすこと、また、日本語能力試験一級程度の日本語力の習得を目的として、主に、講義や教科書等で使用される文語表現の読解や作文に重点をおいて勉強していく。
授業方法:	演習方式で、学生の皆さんの積極的な参加、発言を重視して授業を進める。
履修の留意点:	一回一回の授業に集中し、その時間内に最大限に学習項目を習得してほしい。
目標と評価:	基本的な経済用語を含む文章を読んで理解できること、適切な書き言葉を用いて文章を書けること、日本語能力試験一級程度の日本語力の習得、以上の三点を目標とする。評価については、出席点とは別に、出席、課題への取り組み姿勢や提出状況等、平常点を重視する。
教科書:	大学・大学院留学生の日本語②作文編 アカデミックジャパニーズ研究会編著 株式会社アルク
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「スピーチトレーニング」（担当者：熊谷 美代子）の履修の手引き

科目名：	スピーチトレーニング
担当者：	熊谷 美代子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>人前で話すのは苦手だからと言って、いつもスピーチから逃げている人はいませんか。でも、逃げてばかりではいつまでたっても話すことに自信が持てません。ちょっとした会合で自己紹介をしたり、就職のための採用面接で自分をアピールしたり、人前で自分の意見をしっかりと述べたり・・・など、スピーチをする機会は案外多いものです。スピーチ上手になると、自分の生き方に自信が持てるようになります。そして、周囲の人たちのあなたに対する評価も変わってくるはずですよ。</p> <p>企業の採用担当者は採用条件のひとつである「コミュニケーション能力」を重要視しています。上手なスピーチは人を惹きつける力をもっていますが、ことばたくみな口先だけの話し手は警戒されます。話には必ずその人の人間性があらわれるからです。</p> <p>この授業では、どうすれば効果的なスピーチができるようになるかを学び、同時にスピーチのトレーニングを通して自分自身の人間性と向き合い、より質の高いコミュニケーション能力を身に付けることを目指します。</p>
授業方法：	<p>講義の他に、毎回スピーチの実習の時間を設けます。</p> <p>一人1分～2、3分以内です。</p> <p>テーマは「自己紹介」、「自己PR」、「その他（その都度テーマを与える）」です。</p>
履修の留意点：	<p>スピーチ実習は全員に当たります。</p> <p>定期試験は行いません。その代わりに、出席（遅刻も）、授業態度、スピーチの成績を重視します。</p>
目標と評価：	<p>目標 1、話の障害（あがるなど）を克服し、スピーチ上手になる。</p> <p>2、論理矛盾のない（筋の通った）話ができる。</p> <p>3、自分の考えを正しく表現することができる。</p> <p>4、スピーチの原稿が書ける。</p> <p>5、聞く事の重要性を理解し、良い聞き手になれる。</p> <p>評価 「平常評価」とします。</p> <p>①スピーチ実習の成績（スピーチの原稿も参考にします）</p> <p>②受講態度</p> <p>③出席状況</p> <p>によって評価します。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「スピーチトレーニング」（担当者：熊谷 美代子）の履修の手引き

科目名：	スピーチトレーニング
担当者：	熊谷 美代子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>人前で話すのは苦手だからと言って、いつもスピーチから逃げている人はいませんか。でも、逃げてばかりではいつまでたっても話すことに自信が持てません。ちょっとした会合で自己紹介をしたり、就職のための採用面接で自分をアピールしたり、人前で自分の意見をしっかりと述べたり・・・など、スピーチをする機会は案外多いものです。スピーチ上手になると、自分の生き方に自信が持てるようになります。そして、周囲の人たちのあなたに対する評価も変わってくるはずですよ。</p> <p>企業の採用担当者は採用条件のひとつである「コミュニケーション能力」を重要視しています。上手なスピーチは人を惹きつける力をもっていますが、ことばたくみな口先だけの話し手は警戒されます。話には必ずその人の人間性があらわれるからです。</p> <p>この授業では、どうすれば効果的なスピーチができるようになるかを学び、同時にスピーチのトレーニングを通して自分自身の人間性と向き合い、より質の高いコミュニケーション能力を身に付けることを目指します。</p>
授業方法：	<p>講義の他に、毎回スピーチの実習の時間を設けます。</p> <p>一人1分～2、3分以内です。</p> <p>テーマは「自己紹介」、「自己PR」、「その他（その都度テーマを与える）」です。</p>
履修の留意点：	<p>スピーチ実習は全員に当たります。</p> <p>定期試験は行いません。その代わりに、出席（遅刻も）、授業態度、スピーチの成績を重視します。</p>
目標と評価：	<p>目標 1、話の障害（あがるなど）を克服し、スピーチ上手になる。</p> <p>2、論理矛盾のない（筋の通った）話ができる。</p> <p>3、自分の考えを正しく表現することができる。</p> <p>4、スピーチの原稿が書ける。</p> <p>5、聞く事の重要性を理解し、良い聞き手になれる。</p> <p>評価 「平常評価」とします。</p> <p>①スピーチ実習の成績（スピーチの原稿も参考にします）</p> <p>②受講態度</p> <p>③出席状況</p> <p>によって評価します。</p>
教科書：	話し方の技術 大島 常靖 総合法令出版（株）
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「芸術と社会Ⅰ」（担当者：森 康夫）の履修の手引き

科目名：	芸術と社会Ⅰ
担当者：	森 康夫（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	日常生活の中で「芸術」はどのような意味を持っているのか。そしてそれはどのような働きをしているのか。現代は物質欲を満足させることで豊かさを感じる傾向にある。しかし、真の豊かさとは精神面の充実や心の豊かさであり、それを求めなくてはならないことを分かってはいるが、そのアプローチは様々であり、大変難しい。当科目はこの問題を「美術」の面からとらえ、考えていこうというものです。具体的には、西洋美術史を中心に展開するが単に知識の吸収に止まらず、見学などを通して自分の目で確認し、自分なりの物の見方や感じ方を磨いて欲しい。「感情」を学ぶ良い機会ですし。「社交」という面からも必ず役立つはずです。
授業方法：	毎回、テーマのポイントを書いたプリントを配り、それに沿って講義を行う。画集やビデオを見ながら進めるので理解しやすいと思います。 <年間授業計画と芸術全般について説明> *ルネサンスを中心としてロマン派までを解説する /導入として「エジプト美術」のねじれた人物について解説 /ギリシャ/ローマ/ヴィザンチン /ロマネスク/ゴシック /ルネサンス（イタリア）（北方） /バロック/ロココ /新古典派/ロマン派
履修の留意点：	テーマのポイントを書いたプリントを配りますが、自分なりにノートも取ること。気を抜かないこと。
目標と評価：	目標：自分なりの物の見方や感じ方を磨いて欲しい。 評価：基本的には「展覧会についてのレポート」と「テスト」の両者によるが、授業態度も加味して総合的に評価する。 *「テスト」は簡単なクイズ形式で行う予定。 再試はかなり難しいので、最初のテストで頑張ることをお勧めする。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「芸術と社会Ⅱ」（担当者：森 康夫）の履修の手引き

科目名：	芸術と社会Ⅱ
担当者：	森 康夫（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	日常生活の中で「芸術」はどのような意味を持っているのか。そしてそれはどのような働きをしているのか。現代は物質欲を満足させることで豊かさを感じる傾向にある。しかし、真の豊かさとは精神面の充実や心の豊かさであり、それを求めなくてはならないことを分かってはいるが、そのアプローチは様々であり、大変難しい。 当科目はこの問題を「美術」の面からとらえ、考えていこうというものです。具体的には、西洋美術史を中心に展開するが単に知識の吸収に止まらず、見学などを通して自分の目で確認し、自分なりの物の見方や感じ方を磨いて欲しい。「感情」を学ぶ良い機会ですし。「社交」という面からも必ず役立つはずです。
授業方法：	毎回、テーマのポイントを書いたプリントを配り、それに沿って講義を行う。画集やビデオを見ながら進めるので理解しやすいと思う。 <年間の授業計画を説明する> * 写実派や印象派から抽象絵画までを解説する 写実派／印象派／後期印象派／象徴派／アールヌーボー／新印象派／ナビ派 ／ナイーブ派／野獣派（フォーヴィズム）／立体派（キューヴィズム） ドイツ表現派／超現実派（シュールレアリスム）／エコールドパリ／抽象絵画
履修の留意点：	テーマのポイントを書いたプリントを配りますが、自分なりにノートも取ること。 気を抜かない事。
目標と評価：	目標：自分なりの物の見方や感じ方を磨いて欲しい。 評価：基本的には「展覧会についてのレポート」と「テスト」の両者によるが、授業態度も加味して総合的に評価する。 * 「テスト」は簡単な三択形式で行う予定。 再試はかなり難しいので、最初のテストで頑張ることをお勧めする。
教科書：	西洋美術史 高階秀爾 美術出版社
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代社会と倫理 I」（担当者：半田 栄一）の履修の手引き

科目名：	現代社会と倫理 I
担当者：	半田 栄一
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>倫理学や哲学の立場から、近代、現代に至るまでの倫理、政治、宗教について考えていく。現代社会の抱える問題を解決し、未来を志向する上で、特に古代ギリシャにおける哲学と政治的理想（ポリス）、日本固有の文化的伝統や倫理思想、宗教意識に力点が置かれるであろう。</p> <p>近代市民社会以降における権利、人権、自由、平等、公正、正義等の理念とその実現は現代の政治的状況を結実させたといえるが、その成果と矛盾について考えていきたい。</p> <p>常に、人間として社会に生きるということ（権利と義務など）を中心に据え、21世紀の国際社会の中における日本のあるべき姿をも問いたい。自らの社会的なあり方を学生各自が考えて欲しい。</p> <p>授業の体系</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、倫理学への理解を通し、人が生きることは、社会的に他者と共にあることであるということを知る。 2、古代ギリシャから近現代に至る倫理思想と政治のあり方を理解する。 3、われわれ現代の日本および日本人は、国際社会の中でどうあるべきか、いかに生きるべきかを日本文化と国際社会の現状を通して考えていく。
授業方法：	<p>講義を中心とするが、必要に応じて学生による発表、討議も行う。</p> <p>授業は受身になって聴いていけばよいというのではなく、学生自らが問題意識を持って考えることが最も大切である。理解を確認しながら授業を進めていくため、大事なところはしばしば質問する。</p> <p>ノートは板書してあることを、ただ書きうつすのではなく、考えながらまとめていくことが必要である。ノートは必ず手書きによること。</p>
履修の留意点：	<ol style="list-style-type: none"> 1、授業を受ける大前提は、「社会人」としてのエチケットが守られることである。遅刻、授業中の私語、携帯電話の使用（メールの受信を含め）などは厳禁とする。 2、必ず、手書きのノートを持参すること。 3、授業を受けて、わからなかった事はそのままにしないこと。必ず自分で調べたり、授業が終わった後で、質問すること。 4、本講義では、特定のテキスト（教科書）は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。参考書のみあけておく。この他の参考書は適宜指示していく。
目標と評価：	<p>習得した知識の量よりも、授業に対する取り組みの熱意（どのくらい自分で考えたか）をみていく。</p> <p>評価は授業期間中の数回の小テスト、宿題（レポート）、発表などを中心に平常点とする。</p>
教科書：	
参考書：	政治思想史 小笠原弘親・小野紀明・藤原保信 有斐閣 2000年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代社会と倫理Ⅱ」（担当者：半田 栄一）の履修の手引き

科目名：	現代社会と倫理Ⅱ
担当者：	半田 栄一
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>近現代の科学・技術の発達は目ざましく、われわれに多大な恩恵を与えているが、同時に、地球環境問題、生命倫理や現代医療の抱える様々な問題等が生じ、コンピューターの発達もかつてない便利さをもたらしたが、これに伴う犯罪の増加や人間疎外が問題となりつつあり、科学・技術は人類の危機、脅威を生ずる。</p> <p>こうした問題を取り上げつつ、倫理学の立場から科学技術を扱う人間のあるべき姿を問いたい。関連する宗教、コミュニケーション、性、現代文化等にも触れることになろう。</p> <p>常に人が「生きる」ということ、「いのち」や「自然」の本来の姿を問いつつ文明・文化の意味をふりかえる。</p> <p>このテーマは「自然と人間」の関係を問い直すことだといえるであろう。</p>
授業方法：	<p>講義を中心とするが、必要に応じて学生による発表、討議も行う。</p> <p>授業は受身になって聴いていけばよいというのではなく、学生自らが問題意識を持って考えることが最も大切である。理解を確認しながら授業を進めていくため、大事なところはしばしば質問する。</p> <p>ノートは板書してあることを、ただ書きうつすのではなく、考えながらまとめていくことが必要である。ノートは必ず手書きによること。</p>
履修の留意点：	<p>1、授業を受ける大前提は、「社会人」としてのエチケットが守られることである。遅刻、授業中の私語、携帯電話の使用（メールの交信を含め）などは厳禁とする。</p> <p>2、必ず、手書きのノートを持参すること。</p> <p>3、授業を受けて、わからなかった事はそのままだにしないこと。必ず自分で調べたり、授業が終わった後で、質問すること。</p> <p>4、本講義では、特定のテキスト（教科書）は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。参考書のみあげておく。（教科書の欄にあげた本も参考書である。この他の参考書は適宜指示していく。）</p>
目標と評価：	<p>習得した知識の量よりも、授業に対する取り組みの熱意（どのくらい自分で考えたか）をみていく。</p> <p>評価は授業期間中の数回の小テスト、宿題（レポート）、発表などを中心に平常点とする。</p>
教科書：	現代世界の思想的課題 中山愈 弘文堂 平成10年
参考書：	新版生命倫理の扉一生と死を考える― 小松奈美子 北樹出版 2003年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代日本の政治Ⅰ」（担当者：倉爪 真一郎）の履修の手引き

科目名：	現代日本の政治Ⅰ
担当者：	倉爪 真一郎
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>人間は、社会の中で、一人で生きて（生活して）いるわけではない。個々の人間は、家族、学校・会社等の組織、共同体、国家の中で生きている。政治とは、まずもって、自分たちが生きる場である共同体（特に国家）をつくり、その秩序を維持しようとする営みであると言えるだろう。しかし共同体の秩序を維持するために、場合によっては、メンバーの生命を奪う行為が正当化される（戦争、警察による正当防衛、犯罪者の死刑）。つまり共同体をつくり、その秩序を維持するという政治的営みは、そのメンバーの生命の安全を保障すると同時に、その生命を奪う（あるいは危険にさらす）可能性を合わせもつのである。</p> <p>他方われわれは憲法をもち、民主主義という制度を有する国家の中に生きている。つまり憲法を軸にして、自分達のことは自分達で決めることができる社会の中に生きている。</p> <p>それでは、学生諸君もおそらく聞き慣れているこの「憲法」「民主主義」という思想・制度は、われわれの「生命の安全」を保障し、社会の「秩序を維持」しなければならないという切迫した現実と、どのように関わるのだろうか。この問題を考えることがこの講義の目的である。</p>
授業方法：	<p>毎回レジュメ、および新聞・論文の一部を授業冒頭で配布し、その内容について講義する。基本的には毎回2、3のポイントに絞って講義し、学生諸君との議論する時間を十分取りながら授業を行いたいと考えている。また毎回授業の最後5分間に、授業で重要だと感じた点、感想・要望を「アンケート」として提出してもらおう。それに対するコメントは次回の授業冒頭で行う。また疑問があれば、授業中に随時質問していただいてもかまわないし、授業最後の「アンケート」あるいはメールで提起していただいてもかまわない。</p>
履修の留意点：	<p>WEB上の「授業計画」に次回授業の内容は逐次掲載するので、確認されたい。予習は特に必要としない。授業に集中し、指定した本をじっくり読めば、学期末試験には十分対処できるはずである。</p>
目標と評価：	<p>自分の周囲で起こっている問題、新聞やテレビのニュースで取り上げられる問題が、自分の生活、自分の生き方に関わるのか。その問題意識をもつと同時に、自分の意見を明確に表現できることが目標である。</p> <p>評価点は以下の形で算出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席時の積極的発言による貢献（10%） ・中間レポート（40%） ・学期末試験（50%）
教科書：	政治学 久米郁男、川出良枝、古城佳子、田中愛治、馬淵勝 有斐閣 2003年
参考書：	デモクラシーの論じ方 杉田敦 筑摩書房（ちくま新書） 2001年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代日本の政治Ⅱ」（担当者：倉爪 真一郎）の履修の手引き

科目名：	現代日本の政治Ⅱ
担当者：	倉爪 真一郎
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	「現代日本の政治Ⅰ」（春学期）の履修を前提に、政治学の基本概念についての理解を深めることが目的である。「現代日本の政治Ⅰ」では「生命の安全」と「秩序の維持」というテーマを基軸に議論するが、その際「生命の安全」を保障するのは国家である。そして国家の骨格となるのは、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義をかかげる日本国憲法である。本授業では、戦後日本において、日本国憲法のもと民主主義が具体的制度としてどのように機能してきたのかを考えてみたい。また戦後日本において、主権者であるわれわれ国民の生命の安全がどのように保障されてきたのか、またわれわれは民主主義という制度の中で自らの生命を守り、自由に生きることができているのか、という問題を考えてみたい。
授業方法：	毎回レジュメ、および新聞・論文の一部を授業冒頭で配布し、その内容について講義する。基本的には毎回2、3のポイントに絞って講義し、学生諸君との議論する時間を十分取りながら授業を行いたいと考えている。また毎回授業の最後5分間に、授業で重要だと感じた点、感想・要望を「アンケート」として提出してもらう。それに対するコメントは次回の授業冒頭で行う。また疑問があれば、授業中に随時質問していただいてもかまわないし、授業最後の「アンケート」あるいはメールで提起していただいてもかまわない。
履修の留意点：	WEB上の「授業計画」に次回授業の内容は逐次掲載するので、確認されたい。予習は特に必要としない。授業に集中し、指定した本をじっくり読めば、学期末試験には十分対処できるはずである。
目標と評価：	自分の周囲で起こっている問題、新聞やテレビのニュースで取り上げられる問題が、自分の生活、自分の生き方に関わるのか。その問題意識をもつと同時に、自分の意見を明確に表現できることが目標である。 評価点は以下の形で算出する。 ・出席時の積極的発言による貢献（10%） ・中間レポート（40%） ・学期末試験（50%）
教科書：	使わない
参考書：	デモクラシーの論じ方（ちくま新書） 杉田敦 筑摩書房 2001年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際社会と日本Ⅰ」（担当者：山田 寛）の履修の手引き

科目名：	国際社会と日本Ⅰ
担当者：	山田 寛（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	第二次大戦後から現在まで、アジアで起きてきたこと、起きていることを知って、考えてもらう。北東アジアの北朝鮮から南西アジアのアフガニスタンまで、今日のアジアはいろいろな問題を抱えているが、なぜそうなったのか、何が問題なのかを学習する。20世紀は戦争と革命と流血の世紀だったなどと言われる。アジアでも戦争、内戦、革命、核兵器開発、民主化運動への弾圧、開発独裁（経済発展第一、政治の民主化は二の次）など、いろいろな事態が起きてきた。そうした基本的事実を説明する。そして、アジアと日本の関係を考えよう。
授業方法：	テキストを使う。ただし、テキストをそのまま読むような講義はやらない。イメージをつかんでもらうためにできるだけビデオや写真などを使用する。
履修の留意点：	アジアというと、イデオロギーがからんで、主観的な説明が行われることが少なくない。朝鮮戦争も、ベトナム戦争も、中国の文化大革命も、イデオロギーによってさまざまに解釈される。私は、左でも右でもなく、できるだけ客観的に事実を伝える。客観的事実を知ろうとしてほしい。政治と経済は密接につながっているので、経済を勉強するのに、（国際）政治を知ることが不可欠です。
目標と評価：	とにかく、アジアの現代政治について関心を持ってもらうこと、だいたい知識を持ってもらうことを目標にする。期末試験と平常点を合わせて評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際社会と日本Ⅱ」（担当者：山田 寛）の履修の手引き

科目名：	国際社会と日本Ⅱ
担当者：	山田 寛（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	いま世界で何が起きているか、その中で日本はどうすべきか、私たちはどう生きるべきかを学習し、考える。同時進行で現に起きているできごともどんどん取り上げる。グローバルな政治・経済・社会問題にも取り組む。同時進行では、同時多発テロ、アフガニスタン戦争、イラク戦争、拉致問題などを扱った。ほかに、世界の食糧、捕鯨問題、地球温暖化、東アジア地域協力、貧困とエイズ、人身売買、子ども労働、ノーベル平和賞といった、さまざまな問題をテーマにしてきている。
授業方法：	教科書は使用せず、そのときどきプリント配布やパワーポイントで説明する。とくにビデオや写真などをできるだけ使い、具体的イメージを持ってもらう。
履修の留意点：	春学期に「国際社会と日本Ⅰ」を履修していることが望ましいが、履修していなくてもOK。
目標と評価：	グローバルな問題への関心を広げてほしい。紛争や貧困の状況に接して、ただ「自分は日本に生まれてよかった」でなく、そこに生きる人々に共感を持ってほしい。 期末試験の成績と平常点をあわせて評価する。 全体の比率としては、出席点30%、平常点20%、期末試験50%となる。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「社会認識の歩み I」（担当者：久保 真）の履修の手引き

科目名：	社会認識の歩み I
担当者：	久保 真（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	我々が住まう近代社会は、それ以前の前近代社会とは根本的に異なるものと考えられてきました。そのような差異ゆえに、社会を如何に認識するかはここ数百年間繰り返し人類のテーマとされてきたのです。本講義では、過去の思想家が「近代社会」を如何に特徴づけてきたかを見てみることで、「近代社会」の「近代性」とはどのようなものかを考えていきたいと思います。 取り扱う思想家は、(1)福沢諭吉(2)アダム・スミス(3)カール・マルクス(4)アレクシス・ド・トクヴィル(5)オルテガ・イ・ガゼット(6)フリートリッヒ・ニーチェなどを予定しています。
授業方法：	通常の講義によっておこないますが、できるだけ双方向性を確保すべく努力します。
履修の留意点：	2006年度以降は休講となる予定ですので、履修予定の方は今年度に必ず履修して下さい。
目標と評価：	目標は、社会思想上の概念や通念を理解し、概念的な操作がある程度できるようになることです。 評価は、通常授業週の取り組み（30%）と試験期間に行う筆答試験（持ち込み可、70%）にもとづいて下します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「社会認識の歩みⅡ」（担当者：久保 真）の履修の手引き

科目名：	社会認識の歩みⅡ
担当者：	久保 真（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	われわれが暮らしている社会は、個人の自由と平等とを前提とする契約による役割分担を基本としています。しかしながら、実際我々の目の前には、多くの不自由と不平等が存在しているのも疑う余地のない事実です。このことに鑑みて、いかにして事前的な自由および平等を確保すべきか（あるいはすべきでないか）と、いかにして事後的な不自由もしくは不平等とを正当化するか（もしくは批判するか）ということを歴史的に考察することを、本講義の課題とします。取り扱う思想家は、(1)ジョン・ロック (2) デイヴィッド・リカードウ (3) ハーバート・スペンサー (4) ウィリアム・ベヴァリッジ (5) ジョン・メイナード・ケインズ (6) フリードリヒ・ハイエクなどを予定しています。
授業方法：	通常の講義によっておこないますが、できるだけ双方向性を確保すべく努力します。
履修の留意点：	2006年度以降は休講となる予定ですので、履修予定の方は今年度に必ず履修して下さい。
目標と評価：	目標は、社会思想上の概念や通念を理解し、概念的な操作がある程度できるようになることです。 評価は、通常授業週の取り組み（30%）と試験期間に行う筆答試験（持ち込み可、70%）にもとづいて下します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「文化にみる現代社会Ⅰ」（担当者：有原 誠治）の履修の手引き

科目名：	文化にみる現代社会Ⅰ
担当者：	有原 誠治
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	アニメーションやさまざまな文化に反映された現代社会のさまざまな断面を明らかにしつつ、現実社会を理解する手助けとする。加えて、文化の役割を明らかにし、文化と社会のあり方を考える。
授業方法：	講師が用意した映像とテキスト(レジュメ=教科書)に添っての講義。 主たるテーマ 1. 「アニメーションと現代の日本の文化」 2. 「アニメなどの映像メディアの役割」 3. 「メディアとコモディティズム」 4. 「メディアと子どもの発達」 5. 「メディア・リテラシーの役割」 6. 「人間と文化と自然」
履修の留意点：	文化や人間や社会のあり方に関心を抱く人を歓迎する。 数度の小論文提出がある。 できれば、次の書籍を参考書として読んでほしい。 子どもたちに夢と平和を 有原誠治 新日本出版社 メディア・リテラシー 菅谷明子 岩波書店 子育ての脳生理学 高木貞敬 朝日新聞社 世界がもしも100人の村だったら 池田香代子 マガジンハウス ぼくはマンガ家 手塚治虫 光文社 人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ ロバート・フルガム 河出文庫 敗北を抱きしめて 上・下 ジョン・タワー 岩波書店
目標と評価：	目標と評価※： 日頃、意識化されない文化のあり方や問題点を考える土台を培う。 学期末には、学生自身が強い関心を持つ文化(作品)を題材に、そこに観ることのできる現代社会の特徴を明らかにすることを到達目標とする。 評価 三度の課題論文の提出で30点。 内容や表現力で60点。 出席や授業態度で10点。 合計で100点。
教科書：	教科書は、授業ごとに講師が用意します。 有原誠治
参考書：	子どもたちに夢と平和を 有原誠治 新日本出版社 1997年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「文化にみる現代社会Ⅱ」（担当者：有原 誠治）の履修の手引き

科目名：	文化にみる現代社会Ⅱ
担当者：	有原 誠治
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>アニメーションやさまざまなメディア、文化に反映された現代社会のさまざまな断面を明らかにしつつ、現実社会を理解する手助けとする。加えて、メディアや文化の役割を明らかにし、社会のあり方を考える。</p> <p>主たるテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「社会とメディアの役割」 2. 「メディア（アニメ）制作の実態と課題」 3. 「メディア・リテラシーの実際」
授業方法：	講師が用意したテキストと映像資料をもとにして授業を進める。
履修の留意点：	<p>文化や人間のあり方に関心を抱く人を歓迎する。 数度の小論文提出がある。 できれば、次の書籍を参考書として読んでほしい。</p> <p>子どもたちに夢と平和を 有原誠治 新日本出版社 メディア・リテラシー 菅谷明子 岩波書店 子育ての脳生理学 高木貞敬 朝日新聞社 世界がもしも100人の村だったら 池田香代子 マガジンハウス ぼくはマンガ家 手塚治虫 光文社 人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ ロバート・フルガム 河出文庫 敗北を抱きしめて 上・下 ジョン・ダワー 岩波書店</p>
目標と評価：	<p>日頃、意識化されないメディアや文化のあり方を考える土台を培う。 学期末には、学生自身が強い関心を持つ文化(作品)を題材に、そこに観ることのできる現代社会の特徴を明らかにすることを到達目標とする。</p> <p>評価</p> <p>三度の課題論文の提出で30点。 内容や表現力で60点。 出席や授業態度で10点。 合計で100点。</p>
教科書：	授業ごとに講師が用意する。 有原誠治
参考書：	子どもたちに夢と平和を 有原誠治 新日本出版社 1997年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代企業と社会」（担当者：天野 義也）の履修の手引き

科目名：	現代企業と社会
担当者：	天野 義也
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>①「大学生」として、何故この科目を履修するのか？ - 人間としての「風格作り」とは何か - 社会・会社と諸君との接点とは何か</p> <p>②「戦後日本社会・企業の変化」と、「現在の世界の中における日本」の位置付けは？ - 経済的に日本はどこに行くのか？</p> <p>③「労働」の質的变化は我々の生活にどんな変化を求めているのか？ - 肉体労働から「知的労働」へ</p> <p>④「現実の社会・企業生活」とは？ - 社会・企業のなかでどんな「自己実現」を目指すのか - 「女性の社会進出」と社会・企業構造の変化とは</p> <p>⑤「社会の変遷」と人間の意識変化は？ - 社会現象から見た将来の日本はどうなるか</p> <p>⑥「人間としての生き様」と、「考え抜く」ということ - 「風格」「論理的思考」を持った人間を目指す</p>
授業方法：	<p>①社会・企業の具体的事例（私の経験、新聞、雑誌等）を示しながら、「社会と企業のかかわり」や「人間の生き様」について講義する</p> <p>②生徒数によるが、時々、課題を決めてレポートの実習をする</p>
履修の留意点：	<p>①教室に出る以上は自分なりの問題意識をもって受講すること</p> <p>②1人でも私の授業を真剣に聞いている限り、私語を許さないので喋りたい生徒は静かに教室を退場すること</p>
目標と評価：	<p>[目標]</p> <p>①様々な社会現象を的確に把握し、複眼的な思考で対応する力を養成する</p> <p>②大学生として、真の大人として、社会人への心構えを習得する</p> <p>③自己実現に向け、自分の頭で考える力を身に付ける</p> <p>④人間としての「風格」を身につける大切さを知る</p> <p>[評価]</p> <p>①自分の頭で考えることを主眼としているために、前期の期間中に2回ほど論文の作成を要求する</p> <p>②出席を重視しているので、授業中に出てくるテーマを課題に論文を書かせるのでよく授業を聞いていないとピント外れの論文になってしまうので注意</p> <p>③時々、生徒諸君と直接議論をしながら生徒諸君の問題意識を確認</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代企業と人材」（担当者：天野 義也）の履修の手引き

科目名：	現代企業と人材
担当者：	天野 義也
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	①「大学生」として、何故この科目を履修するのか？——社会は諸君に対して、何を望んでいるか？ ②日本の社会・企業はどのように変化してきたか、また今後、どのような社会が出現するか？この中で諸君はどんな生活をしていくのか？——世界と日本との関係 ③労働の質的变化は、われわれの生活にどんな影響を与えるか？——肉体労働から「知的労働」へ ④現実の社会・企業と自己実現について——「女性の社会進出」により社会・企業の構造はどのように変化するか？ ⑤日本式経営とアメリカ式経営の違いは？——「経営（マネージメント）」とは？ ⑥人間としての生き方と、考えながら生きていくということとは？——「風格」「論理的思考」を持った人間への成長
授業方法：	①社会現象・企業活動の具体的事例（私の経験、新聞、雑誌等）を示しながら、「企業の経営理念」「人間の生き様」について講義する ②生徒数によるが、課題を決めリポートの実習をする
履修の留意点：	①授業に出る以上は、自分なりの「問題意識」をもって受講すること ②1人でも私の授業を真剣に聞いている限り、私語を許さないので喋りたい生徒は、静かに教室を出ること
目標と評価：	[目標] ①さまざまな社会現象を的確に把握し、「複眼的な思考」で対応する力を養成する ②大学生として、真の大人として「社会人への心構え」を習得する ③「自己実現」に向け、自分の頭で考える力を身に付ける ④人間としての「風格」を身につける大切さを知る [評価] ①自分の頭で考えることを主眼としているために、後期の期間中に2回ほど「論文」の作成を要求する ②出席を重視しているので、授業中に出てくるテーマを課題に論文を書かせるので、よく授業を聞いていないとピント外れの論文になってしまうので注意 ③時々、生徒諸君と直接議論をしながら生徒諸君の問題意識を確認
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代企業と人材」（担当者：天野 義也）の履修の手引き

科目名：	現代企業と人材
担当者：	天野 義也
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	①「大学生」として、何故この科目を履修するのか？——社会は諸君に対して、何を望んでいるか？ ②日本の社会・企業はどのように変化してきたか、また今後、どのような社会が出現するか？この中で諸君はどんな生活をしていくのか？——世界と日本との関係 ③労働の質的变化は、われわれの生活にどんな影響を与えるか？——肉体労働から「知的労働」へ ④現実の社会・企業と自己実現について——「女性の社会進出」により社会・企業の構造はどのように変化するか？ ⑤日本式経営とアメリカ式経営の違いは？——「経営（マネージメント）」とは？ ⑥人間としての生き方と、考えながら生きていくということは？——「風格」「論理的思考」を持った人間への成長
授業方法：	①社会現象・企業活動の具体的事例（私の経験、新聞、雑誌等）を示しながら、「企業の経営理念」「人間の生き様」について講義する ②生徒数によるが、課題を決めリポートの実習をする
履修の留意点：	①授業に出る以上は、自分なりの「問題意識」をもって受講すること ②1人でも私の授業を真剣に聞いている限り、私語を許さないので喋りたい生徒は、静かに教室を出ること
目標と評価：	[目標] ①さまざまな社会現象を的確に把握し、「複眼的な思考」で対応する力を養成する ②大学生として、真の大人として「社会人への心構え」を習得する ③「自己実現」に向け、自分の頭で考える力を身に付ける ④人間としての「風格」を身につける大切さを知る [評価] ①自分の頭で考えることを主眼としているために、後期の期間中に2回ほど「論文」の作成を要求する ②出席を重視しているので、授業中に出てくるテーマを課題に論文を書かせるので、よく授業を聞いていないとピント外れの論文になってしまうので注意 ③時々、生徒諸君と直接議論をしながら生徒諸君の問題意識を確認
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「人間社会とテクノロジーⅠ」（担当者：生井 良一）の履修の手引き

科目名：	人間社会とテクノロジーⅠ
担当者：	生井 良一（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>概要</p> <p>科学技術と人間あるいは科学技術と社会との関係を多方面から考察することによって、科学技術のプラス面とマイナス面の両面から把握できる力を養うことを目指すものである。</p> <p>20世紀に科学技術は急激な発達をとげた。身近なところで見ると、テレビも、車も、GPSもあり、一方ではエアコンも普及し、快適で便利な生活がおくれるようになった。江戸時代には東京から京都まで歩いておよそ14日かかったが、飛行機や新幹線の発達で速くどこへでも行けるようになった。パソコンも個人で持てるようになった。携帯電話やインターネットの利用も活発である。科学・技術の進歩で不可能だったことも可能となった。これは、我々にとって大きな恩恵ではないだろうか。</p> <p>その一方で、ややもすると人間が機械に使われてはいないだろうか。便利になったのに、生活が忙しくなっていないだろうか。あるいは人間らしさというものが失われてはいないだろうか。ギスギスした社会になってはいないだろうか。本当に技術の進歩は人間を幸せにしたのだろうか。</p> <p>技術と人間あるいは技術と社会との関係をこうした現代技術のプラス面とマイナス面とから考えてみる。</p> <p>一般に人間の問題や社会の問題は正解が無かったり、あったとしてもなかなか見つからないものである。たとえば臓器移植の問題である。賛成の人もいれば、反対の人もいるだろう。中には条件つきでという人もいれば、よく分からないという人もいるだろう。こうした問題に対して、あえて結論は出さずにいろいろな側面から考えてみよう。</p> <p>授業では、以下のようなことを取り上げる。</p> <p>昨年は地震災害の多い年であった。そこで、まず地震について取り上げる。地震発生メカニズムとしてのプレートテクトニクスの話や地震予知について紹介する。その上で、地震が起こった後で、どのような救援活動が大切か、そのようなことについていろいろな側面から考えてみる。</p> <p>次いで、時間や天体、宇宙といったことについて考えてみる。時間の流れと暮らしのとらえかたについては、時代とともに変わってきた。国によっても異なる。江戸時代では、同じ「いつとき」でも昼と夜で長さが違っていったのだ。なぜだろう。あるいは時計が無い時代に、どうやって待ち合わせをしたのだろうか。そんなことを考えると、時計の歴史も、暦の歴史も興味深いものがある。なぜ、うるう年があるのだろうか。こうした歴史を振り返ることで、我々の現代生活を相対的に見つめ、考えてみよう。一方では、世界共通の正確な時間がなぜ必要なのだろうか。</p> <p>日本地図を作った伊能忠敬は50歳を過ぎてから隠居し、それから天文学、測量学を学んだ。およそ1800年頃の江戸時代である。そして日本全国を歩いて測量し日本地図を作った。歩いた距離はほぼ地球一周分に相当する。この地図は、現在の精密な測定方で作った地図と比べてもあまり違いはないほど正確なものだという。ときには、このような過去の先人たちの興味あるエピソードも紹介したい。そこから昔の人と現代人について考えてみたい。</p> <p>20世紀は生命科学の進歩が著しく、遺伝子の解明も進んだ。同時に遺伝子診断や臓器移植、あるいは不妊治療、再生医療の技術も進歩した。それに伴い、生命倫理という問題も浮上した。生命技術は一部とはいえ生命そのものの根源まで解明するほど進歩したが、その一方では、脳死問題などこれらの技術は社会的に大きな問題を投げかけている。そこで代理母出産などいろいろな生殖医療やクローン技術、その倫理的問題、あるいは脳死や臓器移植、再生技術といったことに対して、いろいろな事例をあげて考えてみたい。それぞれ自分のことも含めて、人間が生きるとはどういうことだろうか、皆で考えてみよう。</p> <p>それから、福祉にかかわる技術や環境にかかわる技術についてもぜひ取り上げてみたい。トイレで流した後の水はどのようにして処理されているのだろうか。あるいは、二酸化炭素の排出を減らすためにはどんな取り組みがあるのだろうか。障害を持つ人たちはどのような不便を感じているのだろうか。たとえば、目が見えなくて耳も不自由という人たちもいる。どうコミュニケーションを取るのだろうか。技術はその解決にどれだけ貢献してきたのだろうか。</p>
授業方法：	<p>授業の方法</p> <p>講義内容を具体的に理解できるようにいろいろな事例を紹介する。そのためビデオ教材を使用したり、必要に応じてプリントを配布する。質問は大歓迎。疑問に思ったことは皆で議論し、考えるようにしていきたい。ときには、アンケートなどで君たちの意見を聞いたりして、それを授業に反映させていきたい。</p>
履修の留意点：	<p>履修上の留意点</p> <p>〔現代社会とテクノロジーⅠ〕と、秋学期には〔現代社会とテクノロジーⅡ〕もあるが、それぞれの科目単独でも受講することはできる。なお、受講する上で、必ずしも技術に関する知識は必要としない。ただ、できれば技術に関するニュースや社会現象などに関するニュースなどには関心を持って新聞などを見ていて欲しい。</p> <p>備考：2004年度以前入学者は「人間社会とテクノロジーⅠ」として、この科目を履修する。</p>

<p>目標と評価 :</p>	<p>目標と評価</p> <p>目標 1 : 技術の進歩はすばらしいが、主体はあくまでも人間であることをしっかり認識して欲しい。</p> <p>目標 2 : 最近の医療技術についてはいろいろな意見があることを知って欲しい。そして、そのケースの背景に目を向けて欲しい。</p> <p>目標 3 : 技術の進歩と人間社会の進歩を対比して、現代生活を考えて欲しい。</p> <p>評価の方法</p> <p>評価については、学期末の試験あるいはそれに替るレポート、それと出席点で決定する。他に授業に積極的に参加しているかどうか、授業中の態度について考慮することもある。100点満点のうち、評価点が70%、出席点が30%である。</p> <p>教科書</p> <p>教科書は使用しない。</p> <p>参考書</p> <p>その代わりに、テーマごとに関係のある参考書を紹介する。</p>
<p>教科書 :</p>	
<p>参考書 :</p>	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「人間社会とテクノロジー I」（担当者：永松 陽明）の履修の手引き

科目名：	人間社会とテクノロジー I
担当者：	永松 陽明
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週0コマ
概要：	<p>今日、我々の生活は、多くの「テクノロジー（技術）」を利用している。また、「技術」は、生活だけでなく、社会に対しても、企業に対しても大きな影響を与えている。</p> <p>こうした生活・社会・企業に対する「技術が与える影響」は、プラス面だけではなく、マイナス面もある。例えば、自動車の発展は、容易にどこにでも行けるというプラスの効果を持つ反面、環境に負荷を与えるガスの排出というマイナスの効果を持つ。</p> <p>本講義では、「技術が与える影響」を「自動車」「流通（コンビニエンスストア）」「通信（携帯電話）」の3テーマを通じて説明する。</p> <p>また、「技術が与える影響」を理解する上で重要となる「産業構造」、「企業・技術の将来動向」の説明を併せて行う。</p>
授業方法：	講義（60分）と課題レポート作成（30分）を実施する。
履修の留意点：	<p>「現代社会とテクノロジーII」の履修を前提としない。</p> <p>備考 2004年度以前の入学者は「人間社会とテクノロジーI」として、この科目を履修する。</p>
目標と評価：	<p>【目標】 生活・社会・企業に対する「技術が与える影響」（プラス面・マイナス面）を理解する。 「自動車」「流通（コンビニエンスストア）」「通信（携帯電話）」における「産業構造」を理解する。例えば、どんな企業があるのか、市場のシェアはどうなっているのかなど。 「自動車」「流通（コンビニエンスストア）」「通信（携帯電話）」における「企業・技術の将来動向」を理解する。例えば、環境に対する技術など。</p> <p>【評価】 評価は、下記項目で算出する。 講義内での課題レポート 学期末レポート</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「人間社会とテクノロジーⅡ」（担当者：生井 良一）の履修の手引き

科目名：	人間社会とテクノロジーⅡ
担当者：	生井 良一（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>概要</p> <p>化学技術が発達したおかげで便利な世の中となった。やく20年前に初めてワープロが開発された。その時の値段は一台600万円以上もしたが、日本語を自由に書けるすばらしさに皆驚嘆した。それが今やばこそん、インターネット、携帯電話の時代となった。障害者もパソコンのおかげで世界が広がった。</p> <p>その一方で、情報交換の手段は進んだのに、人間関係が希薄になったとも言われている。これは、どうしたことだろうか。さらには、やもすると人間が機械に使われるという心配もある。機会は道具であり、それを使うのは人間なのだ。機械は社会の在りかたまで変えてしまうかもしれない。だからこそ、科学技術と社会と人間の関係に注目して、技術のプラス面とマイナス面について考えたい。その中で、科学技術の歴史にも触れることになるだろう。</p> <p>まず、情報化社会について、いろいろな事例を紹介しながら考えたい。情報のやりとりは手軽なものとなった。その便利さは計り知れないほどであるため、多くの人が参加して使用している。したがって、そこには必ずルール、マナーが必要となる。匿名だからといって、何を書いてもいいというものではない、相手を傷つけるようなことをしてはいけないのだ。また、プライバシーが漏れてしまう心配もある。加えて、意識的に悪用するケースもある。出会い系サイトや自殺願望サイトまでである。せっかくのすばらしい情報機器も使う人しだいでも良くもなり、悪くもなる。情報化社会にあっては、これらプラス面とマイナス面をしっかり認識し、有効な利用を心がけたいものである。どんなにすばらしい機器であっても、それを使うのは人間なのである。</p> <p>インターネットにはさまざまな情報が載っている。正しい情報があれば、誤った情報もある。中には危険な情報もある。どれが信頼できる情報化、それを判断するのは利用者自身である。その判断力をどう養えばよいのだろうか。こう考えてみると、それぞれにとって情報とは何だろうか、その意味をあらためて考えてみる必要がある。</p> <p>次に、産業革命をもたらした技術と、その人間生活への影響を考えてみる。蒸気機関の開発に始まり、綿工業、鉄道、通信技術、製鉄業など関連産業が次々と勃興した。これらは人間・社会にきわめて大きな影響を及ぼしたが、それはどんなものだったろうか。そして、産業革命の流れは現代にまで引き続いていている。</p> <p>さて、ライト兄弟がエンジンによる初飛行に成功したのは1903年のこと、今から100年前のことだ。それが現在では、ジェット機宇宙ロケットの時代になった。それを支える通信技術の発達も著しい。そして電気工業、電子工業、化学工業、バイオテクノロジーと続く。現在では、生命科学、ナノテクノロジーがさかんに研究されている。他方、軍事技術の進歩も著しい。これらの技術の進歩を概観し、人間生活や社会、あるいは人間の精神に及ぼした影響を考えてみたい。</p> <p>これだけすばらしい技術に囲まれていても、事故は起こる。医療事故や交通事故はなかなか無くならない。そこには人的ミス、ヒューマンエラーがかかわっている、そう考えられるのではないだろうか。ボカミスは人間にはつきものだ。ヒューマンエラーによる事故の事例を取りあげて、どうして事故につながったのか、どんな対応策があれば良いか、皆で考えてみよう。</p> <p>また、情報技術が発達したにもかかわらず人間関係は希薄になったと言われている。なぜだろうか。あるいは、「ひきこもり」や「アダルトチルドレン」といった現象も多く起きている。こうしたことについても、事例を取りあげながら皆で考えてみたい。</p> <p>エネルギー使用の歴史についても考えてみたい。人類は火の使用に始まり、ついには原子力を手に入れた。その間に産業革命がおこって、石炭の使用が始まった。ついで石油の使用。車や電気製品の開発はエネルギーをますます必要とした。大量の石油石炭の使用は地球温暖化、酸性雨などをはじめ、いろいろな環境問題を引き起こした。そこで、石油石炭からのエネルギー変換を迫られている。これをどう乗り切るか、過去のエネルギー危機などと合わせて現在の状況を紹介したい。</p> <p>さて、人類は宇宙に足を踏み出した。そしてさまざまな危機を使って、宇宙の始まりから宇宙の構造まで解明しようとしている。ときには、こうした宇宙の神秘についても語りたい。</p> <p>また、環境保全機器や福祉機器とテクノロジーの進歩についても実例を挙げながら取りあげてみたい。</p>
授業方法：	<p>授業の方法</p> <p>講義内容を具体的に理解できるようにいろいろな事例を紹介する。そのためビデオ教材を使用したり、必要に応じてプリントを配布する。質問は大歓迎、結論は出なくても皆で議論し、考えるようにしていきたい。</p>
履修の留意点：	<p>履修上の留意点</p> <p>〔人間社会とテクノロジーⅠ〕を履修していなくても、この科目を履修することはできる。授業に際しては、自分の経験と照らし合わせながら聞いて欲しい。なお、受講する上で、必ずしも技術に関する知識は必要としない。ただ、できれば情報に関するニュース、あるいは技術に関するニュースなどには関心を持って新聞などを見ていて欲しい。</p> <p>備考：2004年度以前入学者は「人間社会とテクノロジーⅡ」として、この科目を履修する。</p>

<p>目標と評価 :</p>	<p>目標と評価</p> <p>目標 1 : インターネットやメールはルールを守って使うことを確認する</p> <p>目標 2 : 情報社会の危険な面もしっかり認識すること</p> <p>目標 3 : 歴史的にみても、技術の発達は人間・社会に良い影響と悪い影響を及ぼしてきた、この両面性を理解すること</p> <p>目標 4 : 人間生活、社会生活を陰で支えている技術についても認識すること</p> <p>評価の方法</p> <p>評価については、学期末の試験あるいはそれに替るレポート、それに出席点を合わせて決定する。なお、100点満点のうち、評価点は70%、出席点は30%とする。</p> <p>教科書</p> <p>とくに教科書は使用しない。</p> <p>参考書</p> <p>その時々に応じて関係のある参考書を紹介する。</p>
<p>教科書 :</p>	
<p>参考書 :</p>	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「人間社会とテクノロジーⅡ」（担当者：永松 陽明）の履修の手引き

科目名：	人間社会とテクノロジーⅡ
担当者：	永松 陽明
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週0コマ
概要：	<p>企業にとって、「テクノロジー（技術）」を生み出し、利益をもたらす仕組みをつくるのが益々重要になってきている。</p> <p>パーソナルコンピュータ市場でのインテルとマイクロソフトの成功は、その重要性を示す好例である。一方で、技術を生み出すことと利益をもたらす仕組みをつくるが出来なかった企業は、市場から退出している。例としては家庭用ゲーム機器のセガなどが挙げられる。</p> <p>本講義では、「技術を生み出し、利益をもたらす仕組みの重要性」を下記のテーマを通じて説明する。 (1) 技術の導入、(2) 技術の代替、(3) 特許の有効性、(4) 技術の多角化、(5) ネットワークの外部性とデファクトスタンダード、(6) 共同研究、(7) 政策と技術開発、(8) 技術の評価。 各項目とも、多くの事例を用いて説明を行う。</p>
授業方法：	講義（60分）と課題レポート作成（30分）を実施する。
履修の留意点：	<p>「現代社会とテクノロジーⅠ」の履修を前提としない。</p> <p>備考 2004年度以前の入学者は「人間社会とテクノロジーⅠ」として、この科目を履修する。</p>
目標と評価：	<p>【目標】 「技術を生み出し、利益をもたらす仕組みの重要性」の概要を理解する。 インテル・マイクロソフトの市場地位が築かれたメカニズムを理解する。 技術に関連する国の役割を理解する。</p> <p>【評価】 評価は、下記項目で算出する。 講義内での課題レポート 学期末レポート</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「人間・社会・性Ⅰ」（担当者：黒田 慶子）の履修の手引き

科目名：	人間・社会・性Ⅰ
担当者：	黒田 慶子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この講義ではジェンダー—社会的性差というものが、社会のなかでどのように作られ、またどのように再生産されているのか、また変化してきているのかということを勉強します。その前にまずジェンダーとは何かということを知ることが必要です。ジェンダーは私たちがそれと気づかないまま、つまりあたりまえだと思っていることがらのなかに存在しています。ジェンダーという概念を考える時、そこにジェンダーがあるというに気づくことが実は何より大切なことです。そこで講義の前半はテレビドラマや映画、アニメなどのビジュアルな教材を使いながら私たちの日々の生活のなかに存在しているジェンダーを考えてみます。後半ではジェンダーがどのように社会のなかで再生産されているかということ、少し広い見地から検討します。最後にジェンダーをめぐる今後の展望について考えていきたいと思っています。
授業方法：	講義ならびにビデオの鑑賞と意見発表、討論
履修の留意点：	毎回の授業にどれほど積極的にかかわったかを重視します。出席はその前提にすぎません。討論への参加やレポートの提出でそれをみたいと思っていますので積極的な態度で講義に臨んでください。なお、参考書は私自身も執筆していますので、事前に通読しておくことで授業がずっとわかりやすくなるでしょう。
目標と評価：	本講義を通じて、現代社会におけるジェンダーとはなにか、その社会的役割を理解することを目標とします。 評価は 出席 意見発表 討論への参加 レポート 定期試験 を総合的に評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「人間・社会・性Ⅱ」（担当者：青山 悦子）の履修の手引き

科目名：	人間・社会・性Ⅱ
担当者：	青山 悦子（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	「現代企業とジェンダー」と同一内容の講義が行われるので、同講義の「履修の手引き」を参照。
授業方法：	「現代企業とジェンダー」の「履修の手引き」を参照。
履修の留意点：	「現代企業とジェンダー」の「履修の手引き」を参照。
目標と評価：	「現代企業とジェンダー」の「履修の手引き」を参照。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代社会とファッション」（担当者：高梨 正見）の履修の手引き

科目名：	現代社会とファッション
担当者：	高梨 正見
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>今日は、何を着ていこうか、今日会う人に自分をどう印象付けるか考えて家を出たことありますか？全身を鏡に映してみたことありますか？これは、日々変化する自分を認識する第一歩であり、同時に自分を変化させていきます。自分の社会へのプレゼンテーションでもあります。生活している現代社会は、突然できたものではなく時の流れあり、その時々々の価値観があり流行があります。</p> <p>ファッションとは、流行、流行、服飾と辞書にあります。現代はファッションを服飾（アパレル）業界に主に使われていますが、この授業では、ファッションを本来の広い意味「流行」とらえ「建築・食・生活品・スポーツ・・・」など生活事例をテーマとしてライフスタイルと流行（ファッション）との係わりを考えます同時に、ファッションの要因であるデザイン・情報・企画とは何かを演習で学びます。</p>
授業方法：	<p>テーマ設定による講義。 Q & Aによる対話。 テーマによる演習。 ビデオソフト・パワーポイントによるプロジェクターによる講義。 この映像が教科書に成ります。 講義60分 対話20分。</p>
履修の留意点：	日々の生活の中で周りに起きている「流行」を、意識した生活をしてください。
目標と評価：	「現代社会におけるファッションの意味と役割」への理解と興味の醸成。生活上の日常的出来事につながる（役立つ）情報学習を中軸とする。
教科書：	使いません
参考書：	生活デザイン論 城 一夫 建帛社

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代社会とデザイン」（担当者：高梨 正見）の履修の手引き

科目名：	現代社会とデザイン
担当者：	高梨 正見
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>デザインは私達の日々の生活を快適に、心豊かにしてくれる活動の一つです。私達の生活環境のあらゆることに影響を与えているのがデザインであり、コミュニケーションデザイン、スペースデザイン、インダストリアルデザインなどに分類されている。</p> <p>「遊ぶ・学ぶ・つくる・感じる・交流する」などの創造性を優先する価値観で生活している私達にとって、デザインは空気のようなものでもありますが、自己表現として大切なものでもあります。</p> <p>デザインを感じる(選ぶ)のにも、デザインをするのにもクリエイティビティが必要です。日常的事象から、デザインと生活とのかかわりを考察し、同時にデザインニング、プランニングなどを学びます。</p>
授業方法：	<p>テーマ設定による講義。 Q & Aによる対話。 テーマによる演習。 ビデオソフトとパワーポイントによる プロジェクター映像講義（この映像が教科書に成ります）。 講義60分 対話20分。</p>
履修の留意点：	日々の生活で周りあるデザインを常に“自分ならこうする”の視点をもって生活すること。
目標と評価：	<p>「現代社会におけるデザインの意味と役割」の理解と興味の醸成。 日常生活に役立つための情報学習を中軸とする。 最終評価：授業での演習、レポートなどの合算で評価します。</p>
教科書：	使いません
参考書：	生活デザイン論 城 一夫 建帛社 平成11年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「社会と生涯スポーツ」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「社会と生涯スポーツ」（担当者：俵 尚申）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「社会と生涯スポーツ」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	社会と生涯スポーツ
担当者：	星 ひろみ（自己紹介ページ）
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>日々、高齢化がすすむ現代社会において、どのようにしたら充実したライフスタイルが築けるだろうか。そのことをスポーツという視点から考えてみると、「健康の維持・増進に励み、スポーツを楽しむ、ゆとりある生活」ということが大前提である。IT化が進む中、自然に目をむけながらスポーツを楽しむことや、恵まれた食生活という反面、健康を害する中高年世代にとって、適度な運動というものはとても重要なはずである。「社会と生涯スポーツ」の授業では、まず、恵まれた自然の中でからだを動かし、汗を流すことの快適さをしり、そして、スポーツを「文化」ととらえて学んでいきたい。春学期は実技（各種スポーツ）と講義を行う。秋学期は学内での授業はなく、2月3～4週目頃（予定）の海外スポーツ研修に参加する。</p> <p>《コース紹介》</p> <p>① パラオ・ライセンス取得コース *パラオスケジュール ～パラオにてダイビングC級ライセンス取得を目的としたコース。 費用：2004年度実績 ¥241,600（5泊7日）</p> <p>② パラオ・ファンダイブコース *スケジュール（別途説明） ～すでにライセンスを取得している学生でパラオにてダイビング楽しむコース。 費用：2004年度実績 ¥218,600（5泊7日）</p> <p>③ パラオ・アクティビティコース *スケジュール（別途説明） ～世界一透明度の高い海でシーカヤックやシュノーケルを行い、ジャングルに覆われた島を散策するなど、自然をフルに楽しむコース （TBS「サバイバー」の舞台になったところですよ） その他、オプションでダイビングやフィッシングも可 費用：2004年度実績 ¥184,700（5泊7日）（オプション代は含まない）</p>
授業方法：	<ul style="list-style-type: none"> ・春学期は様々なスポーツを行う（ゴルフ・バトミント・卓球・ソフトバレーボールなど） ・秋学期は講義を含む事前研修と実習の参加のみ（実技授業は行わない） ・実習は2月の3～4週目頃を予定 <p>*春学期の授業参加が芳しくない場合、実習に参加できないことがある。</p>
履修の留意点：	秋学期の海外スポーツ実習に参加するには、春学期の授業の履修が必須である。（履修希望者は必ず第1週目の授業に参加すること。）
目標と評価：	春学期の実技授業の参加と秋学期の海外スポーツ実習の参加・内容によって評価するが、実習に参加しないと評価できない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代企業とジェンダー」（担当者：青山 悦子）の履修の手引き

科目名：	現代企業とジェンダー
担当者：	青山 悦子（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	ジェンダー（社会的性差）の問題は、様々な角度から取り上げられているが、本講義では、皆さんがこれから直面するであろう日本の女性労働の問題点を、ジェンダーの視点から、見ていくことにする。
授業方法：	教科書は特に指定しないが、参考文献は、その都度紹介する。資料も随時配布し、最新の統計、情報を使用しながら、日本の女性労働の問題点を明らかにする。さらに世界の動向も紹介しながら、どうすれば男女が共に平等に処遇される社会が実現できるのかといった議論も、受講者で行っていききたい。
履修の留意点：	広く男女の受講者を希望。
目標と評価：	男女が共に平等に処遇される社会について、世界の動きも参考にしながら考察する事が目標。評価については、春学期末の定期試験で評価するが、平常の授業への参加度も加味される。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代社会と法Ⅰ」（担当者：林 康平）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「現代社会と法Ⅱ」（担当者：林 康平）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「現代社会と民族Ⅰ」（担当者：安富 成良）の履修の手引き

科目名：	現代社会と民族Ⅰ
担当者：	安富 成良（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	春学期で現代社会における世界の民族問題について包括的に学んだものをもとに、秋学期では国民国家の枠組みの中に存在する民族問題の代表的な事例としてアメリカの民族問題を素材に現代社会における民族のあり方と国家との関係について考察します。世界各地で起きている民族問題が日本にも直接的・間接的に多大な影響を与える一方、日本にとって日米関係はとりわけこれまで以上に重要になってきており、多民族国家・アメリカを知る事は大きな意味を持つようになってきています。ぜひ学んでおきたい科目です。
授業方法：	講義と受講生各自の与えられたテーマに関する発表を基本とします。
履修の留意点：	秋学期には具体的な事例としてアメリカの民族問題について深く学び、「現代社会と民族」の授業が完結します。春学期の受講者は秋学期も継続して受講する事が望まれます。特にアメリカに関心を持つ受講生の場合は、秋学期のみの受講も可能です。
目標と評価：	レポートと口頭発表により評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代社会と民族Ⅱ」（担当者：安富 成良）の履修の手引き

科目名：	現代社会と民族Ⅱ
担当者：	安富 成良（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	春学期で現代社会における世界の民族問題について包括的に学んだものをもとに、秋学期では国民国家の枠組みの中に存在する民族問題の代表的な事例としてアメリカの民族問題を素材に現代社会における民族のあり方と国家との関係について考察します。世界各地で起きている民族問題が日本にも直接的・間接的に多大な影響を与える一方、日本にとって日米関係はとりわけこれまで以上に重要になってきており、多民族国家・アメリカを知る事は大きな意味を持つようになってきています。ぜひ学んでおきたい科目です。
授業方法：	講義と受講生各自の与えられたテーマに関する発表を基本とします。
履修の留意点：	秋学期には具体的な事例としてアメリカの民族問題について深く学び、「現代社会と民族」の授業が完結します。春学期の受講者は秋学期も継続して受講する事が望まれます。特にアメリカに関心を持つ受講生の場合は、秋学期のみの受講も可能です。
目標と評価：	レポートと口頭発表により評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「環境と社会Ⅰ」（担当者：生井 良一）の履修の手引き

科目名：	環境と社会Ⅰ
担当者：	生井 良一（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>概要：</p> <p><div>環境問題、特に地球環境問題は世界的にも大きな社会問題となっており、無視することはできない。対策も急がれている。たとえば、今年の2月に地球温暖化防止のための国際的な取り決めである京都議定書が発効することとなり、日本は1990年度の二酸化炭素排出量に対し、14%の削減を実現しなければならない。エネルギー無しでは現在の社会生活の維持は困難であるが何とか実現しなければならない。どう実現するかが大きな課題である。社会としても君たち一人一人としても考えていかなければならないことである。</p> <p>さて、世界人口の急増と盛んな人間活動によって、地球的規模でかけがえの無い自然が破壊されようとしている。環境の悪化は人間社会にも、生き物たちの暮らしにも大きな影響を及ぼそうとしている。</p> <p>本来大気や水、土壌といったものは自然と地球生命が一体となって、長い年月をかけて創りあげてきたものである。この地球の自然システムは回復能力を持っているものであるが、最近の人間活動はその回復能力を超えて拡大しつつある。地球の大きさも有限であり、限界があることを認識しなければならない。このままでは、自分たちの生きる基盤の存続さえ危うくなる。人間もこの自然システムの一員である以上、自然環境を無視しては、持続的な発展を望むことはむずかしい。</p> <p>こうした観点から、自然のしくみのすばらしさ、環境破壊の現状について紹介し、合わせて環境保全の取り組みもしようかという。また環境と経済社会、環境と南北問題などについても触れていきたい。これらの基礎的な概念を学び、環境問題への配慮なくしては成り立たない将来の社会活動という視座を獲得する。</p> <p>具体的には、まず地球温暖化の影響を概観し、二酸化炭素の削減について考える。そのことで、今年発効する京都議定書に関連する報道に関心を持ってほしいと考える。</p> <p>概要： ついで、森林の大切さについて学ぶ。いわゆる水と緑の関係、そして土との関係である。森林は水の保全力がきわめて大きく、森林と水がある所は自然が豊かであり、一方森林が無くなると土地は荒廃していく。このように森林は環境にとって大事なものだ。それに生物の多様性にも関係している。ところが熱帯林の破壊や世界の森林減少は続いている。このような中で、森林の再生に力を尽くしている人々についても紹介したい。</p> <p>また、森と海は密接な関係を持っている。どんな関係だろうか。そのような事例も紹介し、森のさまざまななはたらきについて考える。</p> <p>次に、オゾン層破壊の問題を取り上げる。オゾン層とはどんなものか、どんなはたらきをしているのだろうか。地球にはオゾン層は元々存在しないものであったが、数10億年という長い年月をかけて地球生命それ自身がつくりあげてきた。それは地上の生命を守るバリアーなのだ。それが人間のつくりだした物質によって、ここ数10年で破壊されるという問題が起こった。破壊の原因、オゾン層のはたらき、経済と環境の問題、南北問題、オゾン層保護に世界はどう取り組んできたか、現在の問題点は何か、といったことについて解説する。</p> <p>ごみ問題・廃棄物問題も世界的な問題となっている。ごみの現状、ごみとリサイクル、ごみを減らす取り組み、世界の状況などについて紹介する。ゼロ・エミッションの取り組みや環境に取り組む企業なども紹介したい。</p> <p>環境問題はごみのことから分かるように、私たち一人一人が被害者でもあり、加害者でもあるのだ。したがって、一人一人が自分の問題として環境問題を考えることが大切なことだ。Think globally, Act locally（視野は広く、行動は足元から）である。</p>

目標と評価：	目標3：人間活動について、その影響の大きさを理解すること 目標4：個人の生活スタイルも見直す機会とすること
	評価方法 評価は、学期末の試験あるいはそれに替るレポート、それと出席点を合わせて決定する。ときには、授業中の態度が考慮の対象となることもある。なお、総合点は、評価点が70%、出席点が30%である。
	教科書 とくに教科書は使用しない。
	参考書 参考書については、その都度必要に応じて紹介する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「環境と社会Ⅱ」（担当者：生井 良一）の履修の手引き

科目名：	環境と社会Ⅱ
担当者：	生井 良一（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>概要</p> <p>まず、大きな環境問題である地球温暖化問題を詳しく解説する。次いで、世界の人口爆発と食料問題、関連して水問題や土壌劣化の問題をとりあげたい。21世紀は水問題の世紀になるのではないとも言われている。</p> <p>人類はおよそ200年前の産業革命依頼、大量のエネルギーを消費してきた。その結果社会が豊かになった、一方でさまざまな環境問題を引き起こしてきた。石炭や石油の大量使用によって、地球温暖化が現実になるようになっている。地球温暖化はいろいろな環境問題の中でも、最も大きな環境問題と言われている。暖かくなることで、海面が上昇し、海水が押し寄せてくるのだ。また、気象にも地球的規模で異常が生じ、異常気象が多発するようになると予想される。熱波や寒波、洪水や旱魃、乾燥化、沙漠化などである。こうしたことが世界的規模で起こると、生き物にとっても人間にとっても生存がそれだけ困難になる。食糧生産もきびしくなり、世界の食糧危機も心配されている。</p> <p>こうした地球温暖化について、そのしくみやさまざまな影響、そして温暖化防止のためのいろいろな取り組みなどについてかなりの時間を費やして説明する。</p> <p>対策として、大きく分けて二つ考えてみる。一つは省エネルギーである。無駄なエネルギーの使用を減らそうというものだ。もう一つの対策は新エネルギーの開発である。石油や石炭などの化石燃料に代わるエネルギー源を探そうというものだ。これはかなり難しいことである。そうした状況の中でも、風力発電、太陽光発電などの自然エネルギーの利用も進んでいる。あるいは発電時に出る熱も合わせて利用するコージェネレーションもある。また、燃料電池の開発も大いに期待されている。燃料電池とは、水素を燃料として発電し、廃棄物は水というクリーンエネルギーである。燃料電池は小型発電所から家庭用電源、携帯電話の電源、燃料電池で動く車などいろいろな利用が考えられている。これら分散型発電方式は世界的にも取り組みが行われている。このような新エネルギーについてもぜひ紹介したい。とにかく地球温暖化は一度引き金が引かれると、人間の力ではそれをくい止めることはできないと言われている。化石燃料の使用を抑えることは経済活動と直接関係するだけに、地球温暖化を防止することは非常に難しいことであるが、でも何とかしなければならぬ。</p> <p>このような意味で、経済と環境の問題についても、いろいろな視点から考えてみたい。</p> <p>次に酸性雨について取り上げる。酸性雨は1960年代にヨーロッパや北米で大きな被害をもたらした。湖の魚が死滅したり、森林の木が立ち枯れ状態となった。原因は石炭や石油の燃焼から発生するイオウ酸化物やチッソ酸化物である。これらが空気中で雨に溶けると、硫酸や硝酸という強い酸になるからだ。現在の日本では、イオウ分を除去する脱硫装置があるのでイオウ酸化物についての心配はほぼ無くなった。しかし、チッソ酸化物については車の排気ガスから相変わらず発生している。これが酸性雨の原因となって、空気の流れによっては森林の立ち枯れが起こっている所もある。他方、脱硫装置が無かったり、質の悪い燃料を使っている地域や国では大気汚染もひどく酸性雨による被害も続いている。長い期間酸性雨が続けば、土地の酸性化がいつそう進んで、土壌から重金属が溶け出すという心配もある。とにかく、イオウ酸化物やチッソ酸化物を含んだ空気は国境を越えて広がっていく。そのために被害は汚染物質の発生した地域に限らず、遠く離れた国や地域にも影響する。</p> <p>ついで、世界の人口問題を取りあげる。世界人口は爆発的に増加している。日本では少子化が問題となっているが、全地球的にみると事情は一変する。途上国を中心に20世紀に入ってからのたった100年間で世界人口は4倍ちかくにも急増した。16億人だったのが、60億人を越えたのである。では、その食糧はどうしたか。人々はまずは食べなければならぬ。それに応えたのが緑の革命であった。20世紀後半に起こった緑の革命は食糧増産に成功した。それには、種子の品種改良、かんがい用水の大量使用、化学肥料や農薬の使用が必要だった。ところが、現在は食糧生産は頭打ちとなってしまった。その一方で世界人口の増加は止まらない。逆に緑の革命は土壌の荒廃、土壌の侵蝕をもたらした。耕地を減少させてしまった。また、水を使い過ぎて水不足ももたらした。中国の大河である黄河でさえ水が無くなっているのだ。日本では実感はわからないが、この水不足は今後21世紀の大きな問題になるのではないとも言われている。</p> <p>人口が増加すれば、食料の需要もエネルギーの需要も増すことになる。それが世界的規模で起これば、地球環境に及ぼす影響は計り知れない。森林を切り払って畑をつくらうとし、あるいは家畜を増やそうとする。家畜の群れは草や木の緑を食べ尽くす。化石燃料の使用も増加し、化石燃料が入手できない所では木を切ったきぎきとしている。こうして森が無くなり、土地の荒廃が進んでいって、自らの生存条件さえ危うくなっているのだ。</p> <p>増加した人間活動により、熱帯雨林の破壊も続いている。同じくマングローブ林も減少しているが、これについては日本との関係が深い。熱帯林は地球の肺とも呼ばれ、多くの生物種が存在しており、きわめて重要なものである。熱帯林を生活の場としている人々にとっても、そこに暮らす生き物にとっても、熱帯林が無くなることは大きな問題でもある。他方、森林を護ろうと植林を続けている人たちもいる。意外なことだが、熱帯林の土地はやせているものなのだ。そして強い陽射し。そうした条件のもとでは植林活動は大変な作業となる。そんな事例も紹介したい。こうした状況の元であらためて、土のはたらき、森林のはたらき、水の循環といった基本的なことに目を向けて、人間活動と「母なる大地」との関係を考えてみたい。</p> <p>さらには、エイズなどの感染症についても言及したい。アフリカやアジアなどでは、現在爆発的にエイズ感染者が増えている。世界としての取り組みも迫られている。先進国といわれる地域では、日本だけが感染者の増加が続いている。あらためて正しい知識を説明し、注意を喚起したい。</p>
授業方法：	<p>授業の方法</p> <p>講義内容を具体的に理解できるように、いろいろな事例を紹介する。そのために、ビデオ教材をみんなに使用する。プリントは必要に応じて配布する。どんな質問でも大歓迎、こんなことと思われるようなことでも気軽に質問して欲しい。</p>

履修の留意点：	<p>履修上の留意点</p> <p>[地球と環境Ⅰ]を履修していなくても、この科目は履修が可能である。環境と経済、それは対立するものなのか、調和できるものなのか、あるいはどんな調和のための取り組みがあるのか、そんなことを自らに問いかけながら授業を聞いて欲しい。なお、受講に際しては、[視野は地球的規模で、行動は足元から]の観点から、自分でもできることは実践しよう、そんな気持で講義を聞いて欲しい。</p> <p>備考：2004年度以前入学者は「地球と環境Ⅱ」として、この科目を履修する。</p>
目標と評価：	<p>〈h3目標と評価</p> <p>目標1：地球温暖化の重要性をしっかりと認識すること</p> <p>目標2：人間活動について、その影響の大きさを理解すること</p> <p>目標3：個人の生活スタイルを見直す機会とすること</p> <p>目標4：自然界では、いろいろなことが互いに関連している、そのことを理解すること</p> <p>評価の方法</p> <p>評価については、学期末の試験あるいはそれに替るレポート、それと出席点で決定する。ときには、授業中の態度が考慮の対象となることもある。</p> <p>教科書</p> <p>とくに教科書は使わない。</p> <p>参考書</p> <p>そのかわり、その都度必要に応じて参考書を紹介する。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「環境と社会Ⅱ」（担当者：松本 清文）の履修の手引き

科目名：	環境と社会Ⅱ
担当者：	松本 清文
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>「21世紀は環境の世紀」とも言われている。ここでは、地球温暖化問題を始めとする環境と社会の係わりについて、企業・組織の立場から、実例を取り上げながら、解説し、持続可能な社会を構築する方策を検討する。</p> <p>具体的には、まず企業・組織と社会の関係、また社会の変化について解説する。続いて日本を中心にした環境史を概観する。</p> <p>そして、なぜ企業・組織は今環境問題に取り組みなくてはならないか、日本の環境経営を解説する。続いて、企業・組織と社会の相互理解をめざした環境コミュニケーションの意義・事例を解説する。</p> <p>また、企業・組織の環境負荷削減の取組みの取組みを紹介する。併せてライフサイクルアセスメント（LCA）の考え方や、用途、実施例などを解説する。</p> <p>最後に、地球温暖化問題と企業・組織活動、経営意思決定からみた企業・組織の環境経営、環境経営とコーポレートブランドについて解説する。</p>
授業方法：	講義内容を理解できるように、いろいろな事例を紹介する。プリントは必要に応じて配布する。質問大歓迎、気軽に質問して下さい。
履修の留意点：	「環境と社会Ⅰ」を履修していなくても、この科目の履修は可能である。地球環境と社会、それをいかに持続可能なものとするために、企業・組織が、そして個人がどんなことができるのか考えながら授業に参加して欲しい。
目標と評価：	<p>目標1：地球環境問題の重要性を認識して欲しい 目標2：人間生活・活動の影響の広がりを認識して欲しい 目標3：個人の生活スタイルの見直す機会として欲しい 目標4：我々が住む地球で行われている企業・組織・個人の活動の係わりを認識して欲しい</p> <p>評価：学期末の試験あるいはそれに替わるレポート、それと出席点で決定する。授業中の態度が考慮の対象になることがある。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代社会とテクノロジーⅠ」（担当者：生井 良一）の履修の手引き

科目名：	現代社会とテクノロジーⅠ
担当者：	生井 良一（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>概要</p> <p>科学技術と人間あるいは科学技術と社会との関係を多方面から考察することによって、科学技術のプラス面とマイナス面の両面から把握できる力を養うことを目指すものである。</p> <p>20世紀に科学技術は急激な発達をとげた。身近なところで見ると、テレビも、車も、GPSもあり、一方ではエアコンも普及し、快適で便利な生活がおくれるようになった。江戸時代には東京から京都まで歩いておよそ14日かかったが、飛行機や新幹線の発達で速くどこへでも行けるようになった。パソコンも個人で持てるようになった。携帯電話やインターネットの利用も活発である。科学・技術の進歩で不可能だったことも可能となった。これは、我々にとって大きな恩恵ではないだろうか。</p> <p>その一方で、ややもすると人間が機械に使われてはいないだろうか。便利になったのに、生活が忙しくなっていないだろうか。あるいは人間らしさというものが失われてはいないだろうか。ギスギスした社会になってはいないだろうか。本当に技術の進歩は人間を幸せにしたのだろうか。</p> <p>技術と人間あるいは技術と社会との関係をこうした現代技術のプラス面とマイナス面とから考えてみる。</p> <p>一般に人間の問題や社会の問題は正解が無かったり、あったとしてもなかなか見つからないものである。たとえば臓器移植の問題である。賛成の人もいれば、反対の人もいるだろう。中には条件つきでという人もいれば、よく分からないという人もいるだろう。こうした問題に対して、あえて結論は出さずにいろいろな側面から考えてみよう。</p> <p>授業では、以下のようなことを取り上げる。</p> <p>昨年は地震災害の多い年であった。そこで、まず地震について取り上げる。地震発生メカニズムとしてのプレートテクトニクスの話や地震予知について紹介する。その上で、地震が起こった後で、どのような救援活動が大切か、そのようなことについていろいろな側面から考えてみる。</p> <p>次いで、時間や天体、宇宙といったことについて考えてみる。時間の流れと暮らしのとらえかたについては、時代とともに変わってきた。国によっても異なる。江戸時代では、同じ「いつとき」でも昼と夜で長さが違っていったのだ。なぜだろう。あるいは時計が無い時代に、どうやって待ち合わせをしたのだろうか。そんなことを考えると、時計の歴史も、暦の歴史も興味深いものがある。なぜ、うるう年があるのだろうか。こうした歴史を振り返ることで、我々の現代生活を相対的に見つめ、考えてみよう。一方では、世界共通の正確な時間がなぜ必要なのだろうか。</p> <p>日本地図を作った伊能忠敬は50歳を過ぎてから隠居し、それから天文学、測量学を学んだ。およそ1800年頃の江戸時代である。そして日本全国を歩いて測量し日本地図を作った。歩いた距離はほぼ地球一周分に相当する。この地図は、現在の精密な測定方で作った地図と比べてもあまり違いはないほど正確なものだという。ときには、このような過去の先人たちの興味あるエピソードも紹介したい。そこから昔の人と現代人について考えてみたい。</p> <p>20世紀は生命科学の進歩が著しく、遺伝子の解明も進んだ。同時に遺伝子診断や臓器移植、あるいは不妊治療、再生医療の技術も進歩した。それに伴い、生命倫理という問題も浮上した。生命技術は一部とはいえ生命そのものの根源まで解明するほど進歩したが、その一方では、脳死問題などこれらの技術は社会的に大きな問題を投げかけている。そこで代理母出産などいろいろな生殖医療やクローン技術、その倫理的問題、あるいは脳死や臓器移植、再生技術といったことに対して、いろいろな事例をあげて考えてみたい。それぞれ自分のことも含めて、人間が生きてるとはどういうことだろうか、皆で考えてみよう。</p> <p>それから、福祉にかかわる技術や環境にかかわる技術についてもぜひ取り上げてみたい。トイレで流した後の水はどのようにして処理されているのだろうか。あるいは、二酸化炭素の排出を減らすためにはどんな取り組みがあるのだろうか。障害を持つ人たちはどのような不便を感じているのだろうか。たとえば、目が見えなくて耳も不自由という人たちもいる。どうコミュニケーションを取るのだろうか。技術はその解決にどれだけ貢献してきたのだろうか。</p>
授業方法：	<p>授業の方法</p> <p>講義内容を具体的に理解できるようにいろいろな事例を紹介する。そのためビデオ教材を使用したり、必要に応じてプリントを配布する。質問は大歓迎。疑問に思ったことは皆で議論し、考えるようにしていきたい。ときには、アンケートなどで君たちの意見を聞いたりして、それを授業に反映させていきたい。</p>
履修の留意点：	<p>履修上の留意点</p> <p>〔現代社会とテクノロジーⅠ〕と、秋学期には〔現代社会とテクノロジーⅡ〕もあるが、それぞれの科目単独でも受講することはできる。なお、受講する上で、必ずしも技術に関する知識は必要としない。ただ、できれば技術に関するニュースや社会現象などに関するニュースなどには関心を持って新聞などを見ていて欲しい。</p> <p>備考：2004年度以前入学者は「人間社会とテクノロジーⅠ」として、この科目を履修する。</p>

<p>目標と評価 :</p>	<p>目標と評価</p> <p>目標 1 : 技術の進歩はすばらしいが、主体はあくまでも人間であることをしっかり認識して欲しい。</p> <p>目標 2 : 最近の医療技術についてはいろいろな意見があることを知って欲しい。そして、そのケースの背景に目を向けて欲しい。</p> <p>目標 3 : 技術の進歩と人間社会の進歩を対比して、現代生活を考えて欲しい。</p> <p>評価の方法</p> <p>評価については、学期末の試験あるいはそれに替るレポート、それと出席点で決定する。他に授業に積極的に参加しているかどうか、授業中の態度について考慮することもある。100点満点のうち、評価点が70%、出席点が30%である。</p> <p>教科書</p> <p>教科書は使用しない。</p> <p>参考書</p> <p>その代わりに、テーマごとに関係のある参考書を紹介する。</p>
<p>教科書 :</p>	
<p>参考書 :</p>	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代社会とテクノロジーⅠ」（担当者：永松 陽明）の履修の手引き

科目名：	現代社会とテクノロジーⅠ
担当者：	永松 陽明
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>今日、我々の生活は、多くの「テクノロジー（技術）」を利用している。また、「技術」は、生活だけでなく、社会に対しても、企業に対しても大きな影響を与えている。こうした生活・社会・企業に対する「技術が与える影響」は、プラス面だけではなく、マイナス面もある。例えば、自動車の発展は、容易にどこにでも行けるというプラスの効果を持つ反面、環境に負荷を与えるガスの排出というマイナスの効果を持つ。</p> <p>本講義では、「技術が与える影響」を「自動車」「流通（コンビニエンスストア）」「通信（携帯電話）」の3テーマを通じて説明する。</p> <p>また、「技術が与える影響」を理解する上で重要となる「産業構造」、「企業・技術の将来動向」の説明を併せて行う。</p>
授業方法：	講義（60分）と課題レポート作成（30分）を実施する。
履修の留意点：	<p>「現代社会とテクノロジーⅡ」の履修を前提としない。</p> <p>備考 2004年度以前の入学者は「人間社会とテクノロジーⅠ」として、この科目を履修する。</p>
目標と評価：	<p>【目標】 生活・社会・企業に対する「技術が与える影響」（プラス面・マイナス面）を理解する。 「自動車」「流通（コンビニエンスストア）」「通信（携帯電話）」における「産業構造」を理解する。例えば、どんな企業があるのか、市場のシェアはどうなっているのかなど。 「自動車」「流通（コンビニエンスストア）」「通信（携帯電話）」における「企業・技術の将来動向」を理解する。例えば、環境に対する技術など。</p> <p>【評価】 評価は、下記項目で算出する。 講義内での課題レポート 学期末レポート</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代社会とテクノロジーⅡ」（担当者：生井 良一）の履修の手引き

科目名：	現代社会とテクノロジーⅡ
担当者：	生井 良一（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>概要</p> <p>化学技術が発達したおかげで便利な世の中となった。やく20年前に初めてワープロが開発された。その時の値段は一台600万円以上もしたが、日本語を自由に書けるすばらしさに皆驚嘆した。それが今やばこそん、インターネット、携帯電話の時代となった。障害者もパソコンのおかげで世界が広がった。</p> <p>その一方で、情報交換の手段は進んだのに、人間関係が希薄になったとも言われている。これは、どうしたことだろうか。さらには、ややもすると人間が機械に使われるという心配もある。機会は道具であり、それを使うのは人間なのだ。機械は社会の在りかたまで変えてしまうかもしれない。だからこそ、科学技術と社会と人間の関係に注目して、技術のプラス面とマイナス面について考えたい。その中で、科学技術の歴史にも触れることになるだろう。</p> <p>まず、情報化社会について、いろいろな事例を紹介しながら考えたい。情報のやりとりは手軽なものとなった。その便利さは計り知れないほどであるため、多くの人が参加して使用している。したがって、そこには必ずルール、マナーが必要となる。匿名だからといって、何を書いてもいいというものではない、相手を傷つけるようなことをしてはいけないのだ。また、プライバシーが漏れてしまう心配もある。加えて、意識的に悪用するケースもある。出会い系サイトや自殺願望サイトまでである。せつかくのすばらしい情報機器も使う人しだいでも良くもなり、悪くもなる。情報化社会にあっては、これらプラス面とマイナス面をしっかり認識し、有効な利用を心がけたいものである。どんなにすばらしい機器であっても、それを使うのは人間なのである。</p> <p>インターネットにはさまざまな情報が載っている。正しい情報があれば、誤った情報もある。中には危険な情報もある。どれが信頼できる情報化、それを判断するのは利用者自身である。その判断力をどう養えばよいのだろうか。こう考えてくると、それぞれにとって情報とは何だろうか、その意味をあらためて考えてみる必要がある。</p> <p>次に、産業革命をもたらした技術と、その人間生活への影響を考えてみる。蒸気機関の開発に始まり、綿工業、鉄道、通信技術、製鉄業など関連産業が次々と勃興した。これらは人間・社会にきわめて大きな影響を及ぼしたが、それはどんなものだったろうか。そして、産業革命の流れは現代にまで引き続いていている。</p> <p>さて、ライト兄弟がエンジンによる初飛行に成功したのは1903年のこと、今から100年前のことだ。それが現在では、ジェット機宇宙ロケットの時代になった。それを支える通信技術の発達も著しい。そして電気工業、電子工業、化学工業、バイオテクノロジーと続く。現在では、生命科学、ナノテクノロジーがさかんに研究されている。他方、軍事技術の進歩も著しい。これらの技術の進歩を概観し、人間生活や社会、あるいは人間の精神に及ぼした影響を考えてみたい。</p> <p>これだけすばらしい技術に囲まれていても、事故は起こる。医療事故や交通事故はなかなか無くならない。そこには人的ミス、ヒューマンエラーがかかわっている、そう考えられるのではないだろうか。ボカミスは人間にはつきものだ。ヒューマンエラーによる事故の事例を取りあげて、どうして事故につながったのか、どんな対応策があれば良いか、皆で考えてみよう。</p> <p>また、情報技術が発達したにもかかわらず人間関係は稀薄になったと言われている。なぜだろうか。あるいは、「ひきこもり」や「アダルトチルドレン」といった現象も多く起きている。こうしたことについても、事例を取りあげながら皆で考えてみたい。</p> <p>エネルギー使用の歴史についても考えてみたい。人類は火の使用に始まり、ついには原子力を手に入れた。その間に産業革命がおこって、石炭の使用が始まった。ついで石油の使用。車や電気製品の開発はエネルギーをますます必要とした。大量の石油石炭の使用は地球温暖化、酸性雨などをはじめ、いろいろな環境問題を引き起こした。そこで、石油石炭からのエネルギー変換を迫られている。これをどう乗り切るか、過去のエネルギー危機などと合わせて現在の状況を紹介したい。</p> <p>さて、人類は宇宙に足を踏み出した。そしてさまざまな危機を使って、宇宙の始まりから宇宙の構造まで解明しようとしている。ときには、こうした宇宙の神秘についても語りたい。</p> <p>また、環境保全機器や福祉機器とテクノロジーの進歩についても実例を挙げながら取りあげてみたい。</p>
授業方法：	<p>授業の方法</p> <p>講義内容を具体的に理解できるようにいろいろな事例を紹介する。そのためビデオ教材を使用したり、必要に応じてプリントを配布する。質問は大歓迎、結論は出なくても皆で議論し、考えるようにしていきたい。</p>
履修の留意点：	<p>履修上の留意点</p> <p>〔人間社会とテクノロジーⅠ〕を履修していなくても、この科目を履修することはできる。授業に際しては、自分の経験と照らし合わせながら聞いて欲しい。なお、受講する上で、必ずしも技術に関する知識は必要としない。ただ、できれば情報に関するニュース、あるいは技術に関するニュースなどには関心を持って新聞などを見ていて欲しい。</p> <p>備考：2004年度以前入学者は「人間社会とテクノロジーⅡ」として、この科目を履修する。</p>

<p>目標と評価 :</p>	<p>目標と評価</p> <p>目標 1 : インターネットやメールはルールを守って使うことを確認する</p> <p>目標 2 : 情報社会の危険な面もしっかり認識すること</p> <p>目標 3 : 歴史的にみても、技術の発達は人間・社会に良い影響と悪い影響を及ぼしてきた、この両面性を理解すること</p> <p>目標 4 : 人間生活、社会生活を陰で支えている技術についても認識すること</p> <p>評価の方法</p> <p>評価については、学期末の試験あるいはそれに替るレポート、それに出席点を合わせて決定する。なお、100点満点のうち、評価点は70%、出席点は30%とする。</p> <p>教科書</p> <p>とくに教科書は使用しない。</p> <p>参考書</p> <p>その時々に応じて関係のある参考書を紹介する。</p>
<p>教科書 :</p>	
<p>参考書 :</p>	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代社会とテクノロジーⅡ」（担当者：永松 陽明）の履修の手引き

科目名：	現代社会とテクノロジーⅡ
担当者：	永松 陽明
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>企業にとって、「テクノロジー（技術）」を生み出し、利益をもたらす仕組みをつくることが益々重要になってきている。</p> <p>パーソナルコンピュータ市場でのインテルとマイクロソフトの成功は、その重要性を示す好例である。一方で、技術を生み出すことと利益をもたらす仕組みをつくることが出来なかった企業は、市場から退出している。例としては家庭用ゲーム機器のセガなどが挙げられる。</p> <p>本講義では、「技術を生み出し、利益をもたらす仕組みの重要性」を下記のテーマを通じて説明する。 (1) 技術の導入、(2) 技術の代替、(3) 特許の有効性、(4) 技術の多角化、(5) ネットワークの外部性とデファクトスタンダード、(6) 共同研究、(7) 政策と技術開発、(8) 技術の評価。 各項目とも、多くの事例を用いて説明を行う。</p>
授業方法：	講義（60分）と課題レポート作成（30分）を実施する。
履修の留意点：	<p>「現代社会とテクノロジーⅠ」の履修を前提としない。</p> <p>備考 2004年度以前の入学者は「人間社会とテクノロジーⅠ」として、この科目を履修する。</p>
目標と評価：	<p>【目標】 「技術を生み出し、利益をもたらす仕組みの重要性」の概要を理解する。 インテル・マイクロソフトの市場地位が築かれたメカニズムを理解する。 技術に関連する国の役割を理解する。</p> <p>【評価】 評価は、下記項目で算出する。 講義内での課題レポート 学期末レポート</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ジェンダーと社会Ⅰ」（担当者：黒田 慶子）の履修の手引き

科目名：	ジェンダーと社会Ⅰ
担当者：	黒田 慶子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この講義ではジェンダー—社会的性差というものが、社会のなかでどのように作られ、またどのように再生産されているのか、また変化してきているのかということを勉強します。その前にまずジェンダーとは何かということを知ることが必要です。ジェンダーは私たちがそれと気づかないまま、つまりあたりまえだと思っていることがらのなかに存在しています。ジェンダーという概念を考える時、そこにジェンダーがあるというに気づくことが実は何より大切なのです。そこで講義の前半はテレビドラマや映画、アニメなどのビジュアルな教材を使いながら私たちの日々の生活のなかに存在しているジェンダーを考えてみます。後半ではジェンダーがどのように社会のなかで再生産されているかということ、少し広い見地から検討します。最後にジェンダーをめぐる今後の展望について考えていきたいと思っています。
授業方法：	講義ならびにビデオの鑑賞と意見発表、討論
履修の留意点：	毎回の授業にどれほど積極的にかかわったかを重視します。出席はその前提にすぎません。討論への参加やレポートの提出でそれをみたいと思っていますので積極的な態度で講義に臨んでください。なお、参考書は私自身も執筆していますので、事前に一通り読んでおくと授業がずっとわかりやすくなるでしょう。
目標と評価：	本講義を通じて、現代社会におけるジェンダーとはなにか、その社会的役割を理解することを目標とします。 評価は 出席 意見発表 討論への参加 レポート 定期試験 を総合的に評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ジェンダーと社会Ⅱ」（担当者：青山 悦子）の履修の手引き

科目名：	ジェンダーと社会Ⅱ
担当者：	青山 悦子（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	ジェンダー（社会的性差）の問題は、さまざまな角度から取り上げられているが、本講義では、労働の場におけるジェンダーの構造を明らかにしながら、男女が共に平等に処遇される社会の実現について考察する。
授業方法：	教科書は特に指定しないが、参考文献はその都度紹介する。授業では、資料を随時配布し、どうすれば男女が共に平等に処遇される社会に近付けるのかといった議論も併せて受講者と行っていきたい。
履修の留意点：	広く男女の受講者を希望。
目標と評価：	男女が共に平等に処遇される社会について、世界の動向も参考にしながら考察することが目標。評価については、春学期末の定期試験で評価するが、平常の授業への参加度も加味される。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「社会と異文化コミュニケーション」（担当者：松嶋 哲雄）の履修の手引き

科目名：	社会と異文化コミュニケーション
担当者：	松嶋 哲雄（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	同国同士でも異国人間でも、年齢・経験・生活様式・価値観・文化背景などの面で、人間は一人一人違っている。そうした相違を乗り越えて円滑なコミュニケーション技能をどのようにしたら獲得できるか考え、実践してみる講座である。身近な問題を取り上げて解決方法を理論や研究書だけでなく、経験も通して探っていく。
授業方法：	講義形式だけでなく下調べ、討論、及び実験形式も行い、時にレポート作成も課す
履修の留意点：	コミュニケーションの諸問題に関心を持つこと
目標と評価：	同文化・異文化でのコミュニケーション能力の育成 発表能力とレポート、及び出席率で評価
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「社会と生涯スポーツⅠ」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「社会と生涯スポーツⅠ」（担当者：俵 尚申）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「社会と生涯スポーツⅠ」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	社会と生涯スポーツⅠ
担当者：	星 ひろみ（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>日々、高齢化がすすむ現代社会において、どのようにしたら充実したライフスタイルが築けるだろうか。そのことをスポーツという視点から考えてみると、「健康の維持・増進に励み、スポーツを楽しむ、ゆとりある生活」ということが大前提である。IT化が進む中、自然に目をむけながらスポーツを楽しむことや、恵まれた食生活という反面、健康を害する中高年世代にとって、適度な運動というものはとても重要なはずである。「社会と生涯スポーツ」の授業では、まず、恵まれた自然の中でからだを動かし、汗を流すことの快適さをしり、そして、スポーツを「文化」ととらえて学んでいきたい。春学期は実技（各種スポーツ）と講義を行う。秋学期は学内での授業はなく、2月3～4週目頃（予定）の海外スポーツ研修に参加する。</p> <p>《コース紹介》</p> <p>① パラオ・ライセンス取得コース *パラオスケジュール ～パラオにてダイビングC級ライセンス取得を目的としたコース。 費用：2004年度実績 ￥241,600（5泊7日）</p> <p>② パラオ・ファンダイブコース *スケジュール（別途説明） ～すでにライセンスを取得している学生でパラオにてダイビング楽しむコース。 費用：2004年度実績 ￥218,600（5泊7日）</p> <p>③ パラオ・アクティビティコース *スケジュール（別途説明） ～世界一透明度の高い海でシーカヤックやシュノーケルを行い、ジャングルに覆われた島を散策するなど、自然をフルに楽しむコース （TBS「サバイバー」の舞台になったところです。） その他、オプションでダイビングやフィッシングも可 費用：2004年度実績 ￥184,700（5泊7日）（オプション代は含まない）</p>
授業方法：	<ul style="list-style-type: none"> ・春学期は様々なスポーツを行う（ゴルフ・バドミント・卓球・ソフトバレーボールなど） ・秋学期は講義を含む事前研修と実習の参加のみ（実技授業は行わない） ・実習は2月の3～4週目頃を予定 <p>* 春学期の授業参加が芳しくない場合、実習に参加できないことがある。</p>
履修の留意点：	秋学期の海外スポーツ実習に参加するには、春学期の授業の履修が必須である。（履修希望者は必ず第1週目の授業に参加すること。）
目標と評価：	春学期の実技授業の参加と秋学期の海外スポーツ実習の参加・内容によって評価するが、実習に参加しないと評価できない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「社会と生涯スポーツⅡ」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「社会と生涯スポーツⅡ」（担当者：俵 尚申）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「社会と生涯スポーツⅡ」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	社会と生涯スポーツⅡ
担当者：	星 ひろみ（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>日々、高齢化がすすむ現代社会において、どのようにしたら充実したライフスタイルが築けるだろうか。そのことをスポーツという視点から考えてみると、「健康の維持・増進に励み、スポーツを楽しむ、ゆとりある生活」ということが大前提である。IT化が進む中、自然に目をむけながらスポーツを楽しむことや、恵まれた食生活という反面、健康を害する中高年世代にとって、適度な運動というものはとても重要なはずである。「社会と生涯スポーツ」の授業では、まず、恵まれた自然の中でからだを動かし、汗を流すことの快適さをしり、そして、スポーツを「文化」ととらえて学んでいきたい。春学期は実技（各種スポーツ）と講義を行う。秋学期は学内での授業はなく、2月3～4週目頃（予定）の海外スポーツ研修に参加する。</p> <p>《コース紹介》</p> <p>① パラオ・ライセンス取得コース *パラオスケジュール ～パラオにてダイビングC級ライセンス取得を目的としたコース。 費用：2004年度実績 ¥241,600（5泊7日）</p> <p>② パラオ・ファンダイブコース *スケジュール（別途説明） ～すでにライセンスを取得している学生でパラオにてダイビング楽しむコース。 費用：2004年度実績 ¥218,600（5泊7日）</p> <p>③ パラオ・アクティビティコース *スケジュール（別途説明） ～世界一透明度の高い海でシーカヤックやシュノーケルを行い、ジャングルに覆われた島を散策するなど、自然をフルに楽しむコース （TBS「サバイバー」の舞台になったところです。） その他、オプションでダイビングやフィッシングも可 費用：2004年度実績 ¥184,700（5泊7日）（オプション代は含まない）</p>
授業方法：	<ul style="list-style-type: none"> ・春学期は様々なスポーツを行う（ゴルフ・バトミント・卓球・ソフトバレーボールなど） ・秋学期は講義を含む事前研修と実習の参加のみ（実技授業は行わない） ・実習は2月の3～4週目頃を予定 <p>*春学期の授業参加が芳しくない場合、実習に参加できないことがある。</p>
履修の留意点：	秋学期の海外スポーツ実習に参加するには、春学期の授業の履修が必須である。（履修希望者は必ず第1週目の授業に参加すること。）
目標と評価：	春学期の実技授業の参加と秋学期の海外スポーツ実習の参加・内容によって評価するが、実習に参加しないと評価できない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「社会と文化受容」（担当者：倉田 安里）の履修の手引き

科目名：	社会と文化受容
担当者：	倉田 安里（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	日本の現代文化は、今にはじまったことではなく、太古の昔から少しずつ浸透してきたものです。しかし、最も顕著なのは、日本がそれを消化・吸収し、日本独自のものにしてきたという点にあります。日常生活の中で私たちがその恩恵にあずかっている様々な日本文化が、どのように海外から入り、どのように市価していったのかをこの科目では学んでいきたいと思ひます。
授業方法：	第1回の授業の受講者数を見て、講義形式か演習方式かを検討したいと思ひます。
履修の留意点：	とにかくやる気のある受講生を募集します。日常あることが対象となりますので、特に厳重な予習は必要ありませんが、復習は十分行なって下さい。
目標と評価：	日本の文化について、外国の人々にわかりやすく説明できる位の知識を身につけていただきます。また、評価については、学期末の定期試験で評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「少子・高齢化社会と福祉Ⅰ」（担当者：山崎 常雄）の履修の手引き

科目名：	少子・高齢化社会と福祉Ⅰ
担当者：	山崎 常雄
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	豊かな社会の繁栄の中にあつて、児童を取り巻く環境は必ずしも良好とは言えない。少子化傾向が進む中、不登校児童・生徒は年々増加し、いじめによる自殺者も後を絶たない。非行も残虐化し、マスコミによって社会問題として大きく報道され、その原因を究明するが根拠は至って希薄である。一方政府は、子育てを支援する施策を「エンゼルプラン」として事業の目標を示しているが、女性就労の増大と核家族化による児童の環境整備も緊急の課題である。保育所待機数の解消や児童虐待も深刻である。児童福祉の視点から、児童福祉サービス体系を「法と施策」について紹介し、健全な子育て及び支援のあり方について学習する。
授業方法：	講義形式による。内容は理論と共に実践例を取り上げ、問題を日常的に考え、児童理解を深めることを目指す。
履修の留意点：	現在の児童問題がとういう点にあり、現状はどうなっているのかという問題意識をもって授業に臨むこと。それには新聞・テレビなど日常的で身近な報道に関心を持ち、講義で学んでいることと実情はどう異なるかという意味を持つことが必要である。
目標と評価：	目標 「少子・高齢社会」と言われて久しいが、子ども数が減少してゆく中で、様々な問題が起こっている。何故子ども数がすくなくなつてゆくのか、それによってどういふ問題が起こるのか、国の施策はどうなつていふのか等を把握できるように学ぶ。 評価方法 基本的には筆記試験による。受講学生が少人数の場合は、レポートによる評価方法も考慮したい。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「少子・高齢化社会と福祉Ⅰ」（担当者：山崎 常雄）の履修の手引き

科目名：	少子・高齢化社会と福祉Ⅰ
担当者：	山崎 常雄
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	豊かな社会の繁栄の中にあつて、児童を取り巻く環境は必ずしも良好とは言えない。少子化傾向が進む中、不登校児童・生徒は年々増加し、いじめによる自殺者も後を絶たない。非行も残虐化し、マスコミによって社会問題として大きく報道され、その原因を究明するが根拠は至って希薄である。一方政府は、子育てを支援する施策を「エンゼルプラン」として事業の目標を示しているが、女性就労の増大と核家族化による児童の環境整備も緊急の課題である。保育所待機数の解消や児童虐待も深刻である。児童福祉の視点から、児童福祉サービス体系を「法と施策」について紹介し、健全な子育て及び支援のあり方について学習する。
授業方法：	講義形式による。内容は理論と共に実践例を取り上げ、問題を日常的に考え、児童理解を深めることを目指す。
履修の留意点：	現在の児童問題がとういう点にあり、現状はどうなっているのかという問題意識をもって授業に臨むこと。それには新聞・テレビなど日常的で身近な報道に関心を持ち、講義で学んでいることと実情はどう異なるかという意味を持つことが必要である。
目標と評価：	目標 「少子・高齢社会」と言われて久しいが、子ども数が減少してゆく中で、様々な問題が起こっている。何故子ども数がすくなくなつてゆくのか、それによってどういふ問題が起こるのか、国の施策はどうなつていふのか等を把握できるように学ぶ。 評価方法 基本的には筆記試験による。受講学生が少人数の場合は、レポートによる評価方法も考慮したい。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「少子・高齢化社会と福祉Ⅱ」（担当者：山崎 常雄）の履修の手引き

科目名：	少子・高齢化社会と福祉Ⅱ
担当者：	山崎 常雄
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	わが国の高齢者問題は、世界一の長寿国であると同時に総人口に占める65歳以上の高齢者の割合が2015年には4人に1人になるという他に例をみない高齢化の速さにある。この人口構成は様々な分野において問題化し、労働人口不足を始め、年金、介護、医療、生きがい等避けて通ることのできない重要な課題である。誰もが高齢者問題を、健康で生きがいのある生活を送れることは幸せである。一方要介護者の問題も年を追うごとに様々な分野で増加し、その対応が追いつかないのが現状である。老後の問題は身近な家族だけのもの、或いは他人事という考えから、いずれ自分たちの問題であることの認識をもって学習する。
授業方法：	講義形式による。内容は理論と共に新聞などによる実践例をとりあげ、高齢者をめぐる日常的報道を念頭に置き問題意識をもち理解を深める。
履修の留意点：	現在の高齢者問題がどういう点にあり、現状はどうなっているのかをという問題意識をもって授業に望むこと。それには新聞・テレビなど日常的で身近な報道に関心を持ち、講義で学んでいることと実情はどう異なるかという意識を持つことが必要である。
目標と評価：	<p>目標 「少子・高齢社会」といわれる中で、わが国は世界に類を見ないほどの速さで高齢化が進み、高齢化率も年々高くなっている。高齢社会になると、どういう問題があって、それに対し国の施策はどうなっているのかということ把握する。</p> <p>評価方法 基本的には筆記試験による。受講生が少ない場合には、レポートによる採点方法も考慮したい。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「少子・高齢化社会と福祉Ⅱ」（担当者：山崎 常雄）の履修の手引き

科目名：	少子・高齢化社会と福祉Ⅱ
担当者：	山崎 常雄
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	わが国の高齢者問題は、世界一の長寿国であると同時に総人口に占める65歳以上の高齢者の割合が2015年には4人に1人になるという他に例をみない高齢化の速さにある。この人口構成は様々な分野において問題化し、労働人口不足を始め、年金、介護、医療、生きがい等避けて通ることのできない重要な課題である。誰もが高齢者問題を、健康で生きがいのある生活を送れることは幸せである。一方要介護者の問題も年を追うごとに様々な分野で増加し、その対応が追いつかないのが現状である。老後の問題は身近な家族だけのもの、或いは他人事という考えから、いずれ自分たちの問題であることの認識をもって学習する。
授業方法：	講義形式による。内容は理論と共に新聞などによる実践例をとりあげ、高齢者をめぐる日常的報道を念頭に置き問題意識をもち理解を深める。
履修の留意点：	現在の高齢者問題がどういう点にあり、現状はどうなっているのかをという問題意識をもって授業に望むこと。それには新聞・テレビなど日常的で身近な報道に関心を持ち、講義で学んでいることと実情はどう異なるかという意識を持つことが必要である。
目標と評価：	<p>目標 「少子・高齢社会」といわれる中で、わが国は世界に類を見ないほどの速さで高齢化が進み、高齢化率も年々高くなっている。高齢社会になると、どういう問題があって、それに対し国の施策はどうなっているのかということ把握する。</p> <p>評価方法 基本的には筆記試験による。受講生が少ない場合には、レポートによる採点方法も考慮したい。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済学史 I」（担当者：佐藤 方宣）の履修の手引き

科目名：	経済学史 I
担当者：	佐藤 方宣
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>・この「経済学史 I」では、経済学という独特の思考体系がどのように誕生してきたのか、その歴史的プロセスを学びます。経済現象についてこれまでどのような捉え方・考え方が提起されてきたのかを「分配」「再生産と価値」「生存」「政府」といった主題ごとに見ていくなかで、それぞれの時代において人々がどのような問題に直面していたのか、そして個々の経済学説・経済思想がそれに対していかなるかたちで解答しようとする試みであったのか、という点に焦点をあてたいと思います。また現在では自明視されている経済学概念や分析用具がどのような歴史的経緯で確立してきたのかを学ぶことで、経済学をより深く理解できるようになることを目指します。</p>
授業方法：	<p>・講義形式で行います。また講義時にレスポンス・ペーパーを記入してもらうなどして、履修者からの意見・質問を参考になるべくインタラクティブな授業となるようにしたいと考えています。</p>
履修の留意点：	<p>・履修希望者は、第1回の講義に必ず参加すること。何らかの理由で参加できなかった場合は、第2回以降、すぐに講師にコンタクトをとること。 ・他の学生の静かな受講を妨げる行為については、特に厳しく対処します。あらかじめ留意しておくこと。 ・予習・復習には下記の参考書を利用してください。</p>
目標と評価：	<p>講義の目標 ・講義の目標：第一に、経済学の成立と発展についての歴史的知識を習得すること、第二に、基本的な概念や分析用具の歴史的形成過程を知ることによって経済学をより深く理解できるようになること。</p> <p>評価について ・学期末試験の点数に平常点（出席、受講態度、レスポンス・ペーパーなど）を加味して総合的に判断します。 ・また任意提出の読書レポートの評価を加点することも考えています。</p>
教科書：	
参考書：	小田中直樹『ライブ・経済学の歴史』勁草書房2003年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済学史Ⅱ」（担当者：佐藤 方宣）の履修の手引き

科目名：	経済学史Ⅱ
担当者：	佐藤 方宣
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>・この「経済学史Ⅱ」では、経済学という独特の思考体系がどのように誕生してきたのか、その歴史的プロセスを学びます。経済現象についてこれまでどのような捉え方・考え方が提起されてきたのかを「効用」「企業」「失業」といった主題ごとに見ていくなかで、それぞれの時代において人々がどのような問題に直面していたのか、そして個々の経済学説・経済思想がそれに対していかなるかたちで解答しようとする試みであったのか、という点に焦点をあてたいと思います。また現在では自明視されている経済学概念や分析用具がどのような歴史的経緯で確立してきたのかを学ぶことで、経済学をより深く理解できるようになることを目指します。</p>
授業方法：	<p>・講義形式で行います。また講義時にレスポンス・ペーパーを記入してもらうなどして、履修者からの意見・質問を参考になるべくインタラクティブな授業となるようにしたいと考えています。</p>
履修の留意点：	<p>・履修希望者は、第1回の講義に必ず参加すること。何らかの理由で参加できなかった場合は、第2回以降、すぐに講師にコンタクトをとること。 ・他の学生の静かな受講を妨げる行為については、特に厳しく対処します。あらかじめ留意しておくこと。 ・予習・復習には下記の参考書を利用してください。</p>
目標と評価：	<p>講義の目標 ・第一に、経済学の成立と発展についての歴史的知識を習得すること、第二に、基本的な概念や分析用具の歴史的形成過程を知ることによって経済学をより深く理解できるようになること。</p> <p>評価について ・学期末試験の点数に平常点（出席、受講態度、レスポンス・ペーパーなど）を加味して総合的に判断します。 ・また任意提出の読書レポートの評価を加点することも考えています。</p>
教科書：	
参考書：	小田中直樹『ライブ・経済学の歴史』勁草書房2003年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「戦後日本経済史」（担当者：劉 暢）の履修の手引き

科目名：	戦後日本経済史
担当者：	劉 暢（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この授業は歴史的観点から、現代日本経済システムの特徴と問題点について、戦後復興・高度成長が多種多様な要因の相互作用、総合的な働きによる結果であることを説明する予定である。その中で、特に戦後日本経済の劇的変化がアメリカの対日政策と密接に関連するという視角から、それぞれの発展時期における特定の問題を取り上げ、検討を行う。これらを通して、日本経済はどうあるべきかという問題を考えてみたい。
授業方法：	授業は通常の講義形式で行う。
履修の留意点：	①今日の日本経済システムの特徴と問題点に対して関心をもつ学生の履修を歓迎する。 ②3年次秋学期に「日中比較経済論」を受講したい場合は、この授業を履修することが望ましい。 ③教科書は履修者の予備知識、授業への関心そして理解など前提にし、必要に応じて授業の時に提示する。
目標と評価：	目標： 戦後日本経済の成長について理解を深め、日本経済はどうあるべきかという問題を独自の視角から検討できる能力を身につけることを目標とする。 評価： 筆記試験、受講態度などを総合して、成績を評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済数学 I」（担当者：山崎 康之）の履修の手引き

科目名：	経済数学 I
担当者：	山崎 康之（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	<p>経済学の理論を学習する上で必要となる数学について講義します。その基礎的知識の習得とそれが経済学とどのように関係しているかを理解することがその目的です。経済数学 I では、その内、ベクトルと行列（高校の数学では、それぞれ「数学B」と「数学C」にあります）と行列式などの線形代数を使って、連立方程式の一般的解法について学びます。</p> <p>この授業で取り上げる主なトピックとその順序は、以下の通りです。</p> <p>線形代数 1. ベクトルと行列 2. 連立1次方程式 3. 行列式</p> <p>教科書： やさしく学べる基礎数学—線形代数・微分積分— 石村園子 共立出版 2001年</p>
授業方法：	通常の講義によります。
履修の留意点：	高校の数学 I をきちんと理解していることが望ましい。
目標と評価：	中間試験および期末試験（各50%）の結果により評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済数学Ⅱ」（担当者：山崎 康之）の履修の手引き

科目名：	経済数学Ⅱ
担当者：	山崎 康之（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>経済学の理論を学習する上で必要となる数学について講義します。その基礎理論の習得とそれが経済学とどのように関係しているのかを理解することがその目的です。経済数学Ⅱでは、その内、微分と積分などの解析（高校の数学では、「数学Ⅱ」と「数学Ⅲ」にあります）について、その初歩的理論と経済学的応用について学びます。</p> <p>この授業で取り上げる主なトピックとその順序は、以下の通りです。</p> <p>微分積分 1. 関数 2. 微分 3. 積分</p> <p>教科書：石村園子 やさしく学べる基礎数学—線形代数・微分積分— 共立出版 2001年</p>
授業方法：	通常の講義によります。
履修の留意点：	高校の数学Ⅰをきちんと理解していることが望ましい。
目標と評価：	中間試験および期末試験（各50%）の結果により評価します。
教科書：	やさしく学べる基礎数学—線形代数・微分積分— 石村園子 共立出版 2001年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「統計学 I」（担当者：木村 剛）の履修の手引き

科目名：	統計学 I
担当者：	木村 剛
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>統計学 I では統計のごく初歩的な学習を行います。統計学は与えられたデータを記述したり、整理したりして、データからある傾向を読み取るための手法です。現在、コンピュータが普及しインターネットを活用することによって、データは比較的集めやすいものになりました。しかし、そのデータから何を読み取り、そこからどのような傾向をつかみとればよいのかは難しい課題です。そして、その重要性は情報化社会といわれる中にあつてますます高まってきました。統計学で学ぶ色々な手法は、こうした課題にひとつの答えを導き出してくれます。そのデータからどのようなことがいえるのか、そうした手法を基礎から学習していきます。</p>
授業方法：	<p>講義では実際の企業の具体的なデータを使った分析なども取り入れたいと考えています。統計学 I では統計の初歩から平均、分散、相関までの意味と計算公式などについて学びます。主な項目は下記の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 統計とは何か 2. 度数分布とは 3. 代表値と散布度 4. 平均とは 5. 分散とは 6. 相関係数とは
履修の留意点：	<p>特にありませんが、数学的な知識よりも、分析に興味がある学生の履修を望みます。数学にあまり自信のない人の履修も歓迎しますが、積み重ねが大事なので、出席することが重要な要件となります。</p>
目標と評価：	<p>統計学 I では、統計学の考え方、体系、データ分析の初歩を習得することを目標とします。評価については、期末試験を中心に、授業態度等を総合的に評価します。また、途中で確認テストを行う場合もあります。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「統計学Ⅱ」（担当者：木村 剛）の履修の手引き

科目名：	統計学Ⅱ
担当者：	木村 剛
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	統計学Ⅱでは、統計学Ⅰで学んだ基礎的な知識をベースに、引き続き、経済分析や経営分析などで使用される統計的手法の初歩的な解説を行います。テキストや授業計画などをみると、難しそうに思えるかもしれませんが、こうした統計の知識は天気予報やコンビニエンス・ストアのPOSデータの解析など、私たちの生活の身近なところで使われています。現在は優秀なコンピュータとソフトがあり、比較的容易に分析できるようになっていますが、それを使いこなしていくためには、統計学の基本が不可欠です。統計学Ⅱでは、その手法や考え方について学んでいきます。
授業方法：	講義はテキストを用い、理解しながらゆっくりと進めていきます。また実際の企業の具体的なデータなども用いながら、より実践的な力を養っていきます。 具体的には統計学Ⅱでは、確率変数、確率分布の基礎及び推測や検定の手法、回帰分析などについて解説します。主なテーマは下記の通りです。 1. 確率変数とは 2. 確率分布とは～正規分布や二項分布 3. 推測統計とは①～標本分布 4. 推測統計とは②～区間推定と仮説検定 5. 検定とは 6. 回帰分析とは
履修の留意点：	特にありませんが、数学的な知識よりも、データや分析に興味のある学生の履修を望みます。数学にあまり自信のない人の履修も歓迎しますが、積み重ねが大事ですから、出席し続けることが重要です。
目標と評価：	統計学Ⅱでは、確率を中心に学んでいきます。 評価については、期末試験を中心に、授業態度等を総合的に評価します。また、途中で確認テストを行う場合もあります。
教科書：	入門ビジュアルサイエンス「統計・確率のしくみ」 郡山彬・和泉澤正隆著 日本実業出版社
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「数学 I」（担当者：山崎 康之）の履修の手引き

科目名：	数学 I
担当者：	山崎 康之（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>経済学の理論を学習する上で必要となる数学について講義します。その基礎的知識の習得とそれが経済学とどのように関係しているかを理解することがその目的です。経済数学 I では、その内、ベクトルと行列（高校の数学では、それぞれ「数学B」と「数学C」にあります）と行列式などの線形代数を使って、連立方程式の一般的解法について学びます。</p> <p>この授業で取り上げる主なトピックとその順序は、以下の通りです。</p> <p>線形代数 1. ベクトルと行列 2. 連立 1 次方程式 3. 行列式</p> <p>教科書： やさしく学べる基礎数学—線形代数・微分積分— 石村園子 共立出版 2001年</p>
授業方法：	通常の講義によります。
履修の留意点：	高校の数学 I をきちんと理解していることが望ましい。
目標と評価：	中間試験および期末試験（各 50%）の結果により評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「数学Ⅱ」（担当者：山崎 康之）の履修の手引き

科目名：	数学Ⅱ
担当者：	山崎 康之（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>経済学の理論を学習する上で必要となる数学について講義します。その基礎理論の習得とそれが経済学とどのように関係しているのかを理解することがその目的です。経済数学Ⅱでは、その内、微分と積分などの解析（高校の数学では、「数学Ⅱ」と「数学Ⅲ」にあります）について、その初歩的理論と経済学的応用について学びます。</p> <p>この授業で取り上げる主なトピックとその順序は、以下の通りです。</p> <p>微分積分 1. 関数 2. 微分 3. 積分</p> <p>教科書：石村園子 やさしく学べる基礎数学—線形代数・微分積分— 共立出版 2001年</p>
授業方法：	通常の講義によります。
履修の留意点：	高校の数学Ⅰをきちんと理解していることが望ましい。
目標と評価：	中間試験および期末試験（各50%）の結果により評価します。
教科書：	やさしく学べる基礎数学—線形代数・微分積分— 石村園子 共立出版 2001年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済政策 I」（担当者：佐藤 方宣）の履修の手引き

科目名：	経済政策 I
担当者：	佐藤 方宣
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<ul style="list-style-type: none"> ・この「経済政策 I」では「経済政策」の問題を論じる上での基本的知識、とりわけ経済学的な知識の取得を目指します。市場を中心とした民間の経済活動にたいして政府がどのように介入すべきか、という問題を皮切りに、財政政策と金融政策、インフレとデフレ、経済成長や国際通貨をめぐる問題など、さまざまな政策問題について、経済学的な観点から捉えられるようになっていただければと思います。
授業方法：	<ul style="list-style-type: none"> ・講義形式で行います。 ・授業時間内にレスポンス・ペーパーを記入してもらうなどして、履修者からの意見・質問を参考になるべくインタラクティブな授業となるようにしたいと考えています。
履修の留意点：	<ul style="list-style-type: none"> ・履修希望者は、第1回の講義に必ず参加すること。何らかの理由で参加できなかった場合は、第2回以降、すぐに講師にコンタクトをとること。 ・受講者は、下記の参考書を用いて予習・復習するなど、積極的な態度で講義に参加する必要があります。 ・他の学生の静かな履修を妨げる行為については、特に厳しく対処します。あらかじめ留意しておくこと。
目標と評価：	<p>講義の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一に、経済政策の問題を論じるための経済学の基本的知識を習得すること、第二に、現代の政策問題について考慮に入れるべきさまざまな観点到目配りした上で自分自身の判断を下せるようになること。 <p>評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期末試験の点数に平常点（出席、受講態度、レスポンス・ペーパーなど）を加味して総合的に判断します。 ・また任意提出の読書レポートの評価を加点することも考えています。
教科書：	
参考書：	大久保隆弘『経済学が面白いほどわかる本【マクロ経済編／経済政策論】』中経出版、2003年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済政策Ⅱ」（担当者：佐藤 方宣）の履修の手引き

科目名：	経済政策Ⅱ
担当者：	佐藤 方宣
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<ul style="list-style-type: none"> ・経済政策の問題を考える上では経済学の基本的知識が重要になりますが、それだけでは十分とはいえません。例えば近年話題になっている若年層の雇用環境の問題（若年層の失業率の増大やフリーター・ニートの増加）、あるいは年金や社会保険など社会保障制度のあり方、そして環境・貿易問題への公的介入といった問題を考えるためには、個別の政策論点にそくして、さまざまな観点から政策の望ましさや適切さを考える必要があります。 この「経済政策Ⅱ」では、以上のような“経済社会の公正さ”をめぐる問題を中心に、経済政策に関する問題について、経済学とその周辺領域の知見を参照しつつ、少し広い観点から考えてみたいと思います。
授業方法：	<ul style="list-style-type: none"> ・講義形式で行います。 ・授業時間内にレスポンス・ペーパーを記入してもらうなどして、履修者からの意見・質問を参考になるべくインタラクティブな授業となるようにしたいと考えています。 ・必要に応じて、「経済政策Ⅰ」の内容の復習を行います。
履修の留意点：	<ul style="list-style-type: none"> ・履修希望者は、第1回の講義に必ず参加すること。何らかの理由で参加できなかった場合は、第2回以降、すぐに講師にコンタクトをとること。 ・講義の際には必要に応じて配布資料を用います。また適宜参考文献を指示します。 ・他の学生の静かな履修を妨げる行為については、特に厳しく対処します。あらかじめ留意しておくこと。
目標と評価：	<p>講義の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一に、経済政策の具体的な問題を考える上で最低限必要な知識を習得し、具体的な問題を考える際に自分でそれを利用できるようになること。第二に、具体的な政策問題にそくして自分自身で考えられるようになること。 <p>評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期末試験の点数に平常点（出席、受講態度、レスポンス・ペーパーなど）を加味して総合的に判断します。 ・また任意提出の読書レポートの評価を加点することも考えています。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「地球と環境Ⅰ」（担当者：生井 良一）の履修の手引き

科目名：	地球と環境Ⅰ
担当者：	生井 良一（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>概要：</p> <p><div>環境問題、特に地球環境問題は世界的にも大きな社会問題となっており、無視することはできない。対策も急がれている。たとえば、今年の2月に地球温暖化防止のための国際的な取り決めである京都議定書が発効することとなり、日本は1990年度の二酸化炭素排出量に対し、14%の削減を実現しなければならない。エネルギー無しでは現在の社会生活の維持は困難であるが何とか実現しなければならない。どう実現するかが大きな課題である。社会としても君たち一人一人としても考えていかなければならないことである。</p> <p>さて、世界人口の急増と盛んな人間活動によって、地球的規模でかけがえの無い自然が破壊されようとしている。環境の悪化は人間社会にも、生き物たちの暮らしにも大きな影響を及ぼそうとしている。</p> <p>本来大気や水、土壌といったものは自然と地球生命が一体となって、長い年月をかけて創りあげてきたものである。この地球の自然システムは回復能力を持っているものであるが、最近の人間活動はその回復能力を超えて拡大しつつある。地球の大きさも有限であり、限界があることを認識しなければならない。このままでは、自分たちの生きる基盤の存続さえ危うくなる。人間もこの自然システムの一員である以上、自然環境を無視しては、持続的な発展を望むことはむずかしい。</p> <p>こうした観点から、自然のしくみのすばらしさ、環境破壊の現状について紹介し、合わせて環境保全の取り組みもしようかという。また環境と経済社会、環境と南北問題などについても触れていきたい。これらの基礎的な概念を学び、環境問題への配慮なくしては成り立たない将来の社会活動という視座を獲得する。</p> <p>具体的には、まず地球温暖化の影響を概観し、二酸化炭素の削減について考える。そのことで、今年発効する京都議定書に関連する報道に関心を持ってほしいと考える。</p> <p>概要：</p> <p>ついで、森林の大切さについて学ぶ。いわゆる水と緑の関係、そして土との関係である。森林は水の保全力がきわめて大きく、森林と水がある所は自然が豊かであり、一方森林が無くなると土地は荒廃していく。このように森林は環境にとって大事なものだ。それに生物の多様性にも関係している。ところが熱帯林の破壊や世界の森林減少は続いている。このような中で、森林の再生に力を尽くしている人々についても紹介したい。</p> <p>また、森と海は密接な関係を持っている。どんな関係だろうか。そのような事例も紹介し、森のさまざまなはたらきについて考える。</p> <p>次に、オゾン層破壊の問題を取り上げる。オゾン層とはどんなものか、どんなはたらきをしているのだろうか。地球にはオゾン層は元々存在しないものであったが、数10億年という長い年月をかけて地球生命それ自身がつくりあげてきた。それは地上の生命を守るバリアーなのだ。それが人間のつくりだした物質によって、ここ数10年で破壊されるという問題が起こった。破壊の原因、オゾン層のはたらき、経済と環境の問題、南北問題、オゾン層保護に世界はどう取り組んできたか、現在の問題点は何か、といったことについて解説する。</p> <p>ごみ問題・廃棄物問題も世界的な問題となっている。ごみの現状、ごみとリサイクル、ごみを減らす取り組み、世界の状況などについて紹介する。ゼロ・エミッションの取り組みや環境に取り組む企業なども紹介したい。</p> <p>環境問題はごみのことから分かるように、私たち一人一人が被害者でもあり、加害者でもあるのだ。したがって、一人一人が自分の問題として環境問題を考えることが大切なことだ。Think globally, Act locally（視野は広く、行動は足元から）である。</p>

目標と評価：	目標3：人間活動について、その影響の大きさを理解すること 目標4：個人の生活スタイルも見直す機会とすること
	評価方法 評価は、学期末の試験あるいはそれに替るレポート、それと出席点を合わせて決定する。ときには、授業中の態度が考慮の対象となることもある。なお、総合点は、評価点が70%、出席点が30%である。
	教科書 とくに教科書は使用しない。
	参考書 参考書については、その都度必要に応じて紹介する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「地球と環境Ⅱ」（担当者：生井 良一）の履修の手引き

科目名：	地球と環境Ⅱ
担当者：	生井 良一（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>概要</p> <p>まず、大きな環境問題である地球温暖化問題を詳しく解説する。次いで、世界の人口爆発と食料問題、関連して水問題や土壌劣化の問題をとりあげたい。21世紀は水問題の世紀になるのではないとも言われている。</p> <p>人類はおよそ200年前の産業革命依頼、大量のエネルギーを消費してきた。その結果社会が豊かになった、一方でさまざまな環境問題を引き起こしてきた。石炭や石油の大量使用によって、地球温暖化が現実になるようになっている。地球温暖化はいろいろな環境問題の中でも、最も大きな環境問題と言われている。暖かくなることで、海面が上昇し、海水が押し寄せてくるのだ。また、気象にも地球的規模で異常が生じ、異常気象が多発するようになると予想される。熱波や寒波、洪水や旱魃、乾燥化、沙漠化などである。こうしたことが世界的規模で起こると、生き物にとっても人間にとっても生存がそれだけ困難になる。食糧生産もきびしくなり、世界の食糧危機も心配されている。</p> <p>こうした地球温暖化について、そのしくみやさまざまな影響、そして温暖化防止のためのいろいろな取り組みなどについてかなりの時間を費やして説明する。</p> <p>対策として、大きく分けて二つ考えてみる。一つは省エネルギーである。無駄なエネルギーの使用を減らそうというものだ。もう一つの対策は新エネルギーの開発である。石油や石炭などの化石燃料に代わるエネルギー源を探そうというものだ。これはかなり難しいことである。そうした状況の中でも、風力発電、太陽光発電などの自然エネルギーの利用も進んでいる。あるいは発電時に出る熱も合わせて利用するコージェネレーションもある。また、燃料電池の開発も大いに期待されている。燃料電池とは、水素を燃料として発電し、廃棄物は水というクリーンエネルギーである。燃料電池は小型発電所から家庭用電源、携帯電話の電源、燃料電池で動く車などいろいろな利用が考えられている。これら分散型発電方式は世界的にも取り組みが行われている。このような新エネルギーについてもぜひ紹介したい。とにかく地球温暖化は一度引き金が引かれると、人間の力ではそれをくい止めることはできないと言われている。化石燃料の使用を抑えることは経済活動と直接関係するだけに、地球温暖化を防止することは非常に難しいことであるが、でも何とかしなければならぬ。</p> <p>このような意味で、経済と環境の問題についても、いろいろな視点から考えてみたい。</p> <p>次に酸性雨について取り上げる。酸性雨は1960年代にヨーロッパや北米で大きな被害をもたらした。湖の魚が死滅したり、森林の木が立ち枯れ状態となった。原因は石炭や石油の燃焼から発生するイオウ酸化物やチツソ酸化物である。これらが空気中で雨に溶けると、硫酸や硝酸という強い酸になるからだ。現在の日本では、イオウ分を除去する脱硫装置があるのでイオウ酸化物についての心配はほぼなくなった。しかし、チツソ酸化物については車の排気ガスから相変わらず発生している。これが酸性雨の原因となって、空気の流れによっては森林の立ち枯れが起こっている所もある。他方、脱硫装置が無かったり、質の悪い燃料を使っている地域や国では大気汚染もひどく酸性雨による被害も続いている。長い期間酸性雨が続けば、土地の酸性化がいつそう進んで、土壌から重金属が溶け出すという心配もある。とにかく、イオウ酸化物やチツソ酸化物を含んだ空気は国境を越えて広がっていく。そのために被害は汚染物質の発生した地域に限らず、遠く離れた国や地域にも影響する。</p> <p>ついで、世界の人口問題を取りあげる。世界人口は爆発的に増加している。日本では少子化が問題となっているが、全地球的にみると事情は一変する。途上国を中心に20世紀に入ってからのたった100年間で世界人口は4倍ちかくにも急増した。16億人だったのが、60億人を越えたのである。では、その食糧はどうしたか。人々はまずは食べなければならぬ。それに応えたのが緑の革命であった。20世紀後半に起こった緑の革命は食糧増産に成功した。それには、種子の品種改良、かんがい用水の大量使用、化学肥料や農薬の使用が必要だった。ところが、現在は食糧生産は頭打ちとなってしまった。その一方で世界人口の増加は止まらない。逆に緑の革命は土壌の荒廃、土壌の侵蝕をもたらした。耕地を減少させてしまった。また、水を使い過ぎて水不足ももたらした。中国の大河である黄河でさえ水が無くなっているのだ。日本では実感はわからないが、この水不足は今後21世紀の大きな問題になるのではないとも言われている。</p> <p>人口が増加すれば、食料の需要もエネルギーの需要も増すことになる。それが世界的規模で起これば、地球環境に及ぼす影響は計り知れない。森林を切り払って畑をつくらうとし、あるいは家畜を増やそうとする。家畜の群れは草や木の緑を食べ尽くす。化石燃料の使用も増加し、化石燃料が入手できない所では木を切ったきぎきとしていく。こうして森が無くなり、土地の荒廃が進んでいって、自らの生存条件さえ危うくなっているのだ。</p> <p>増加した人間活動により、熱帯雨林の破壊も続いている。同じくマングローブ林も減少しているが、これについては日本との関係が深い。熱帯林は地球の肺とも呼ばれ、多くの生物種が存在しており、きわめて重要なものである。熱帯林を生活の場としている人々にとっても、そこに暮らす生き物にとっても、熱帯林が無くなることは大きな問題でもある。他方、森林を護ろうと植林を続けている人たちもいる。意外なことだが、熱帯林の土地はやせているものなのだ。そして強い陽射し。そうした条件のもとでは植林活動は大変な作業となる。そんな事例も紹介したい。</p> <p>こうした状況の元であらためて、土のはたらき、森林のはたらき、水の循環といった基本的なことに目を向けて、人間活動と「母なる大地」との関係を考えてみたい。</p> <p>さらには、エイズなどの感染症についても言及したい。アフリカやアジアなどでは、現在爆発的にエイズ感染者が増えている。世界としての取り組みも迫られている。先進国といわれる地域では、日本だけが感染者の増加が続いている。あらためて正しい知識を説明し、注意を喚起したい。</p>
授業方法：	<p>授業の方法</p> <p>講義内容を具体的に理解できるように、いろいろな事例を紹介する。そのために、ビデオ教材をみんなに使用する。プリントは必要に応じて配布する。どんな質問でも大歓迎、こんなことと思われるようなことでも気軽に質問して欲しい。</p>

履修の留意点：	<p>履修上の留意点</p> <p>[地球と環境Ⅰ]を履修していなくても、この科目は履修が可能である。環境と経済、それは対立するものなのか、調和できるものなのか、あるいはどんな調和のための取り組みがあるのか、そんなことを自らに問いかけながら授業を聞いて欲しい。なお、受講に際しては、[視野は地球的規模で、行動は足元から]の観点から、自分でもできることは実践しよう、そんな気持で講義を聞いて欲しい。</p> <p>備考：2004年度以前入学者は「地球と環境Ⅱ」として、この科目を履修する。</p>
目標と評価：	<p>〈h3目標と評価</p> <p>目標1：地球温暖化の重要性をしっかりと認識すること</p> <p>目標2：人間活動について、その影響の大きさを理解すること</p> <p>目標3：個人の生活スタイルを見直す機会とすること</p> <p>目標4：自然界では、いろいろなことが互いに関連している、そのことを理解すること</p> <p>評価の方法</p> <p>評価については、学期末の試験あるいはそれに替るレポート、それと出席点で決定する。ときには、授業中の態度が考慮の対象となることもある。</p> <p>教科書</p> <p>とくに教科書は使わない。</p> <p>参考書</p> <p>そのかわり、その都度必要に応じて参考書を紹介する。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「地球と環境Ⅱ」（担当者：松本 清文）の履修の手引き

科目名：	地球と環境Ⅱ
担当者：	松本 清文
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週0コマ
概要：	<p>「21世紀は環境の世紀」とも言われている。ここでは、地球温暖化問題を始めとする環境と社会の係わりについて、企業・組織の立場から、実例を取り上げながら、解説し、持続可能な社会を構築する方策を検討する。</p> <p>具体的には、まず企業・組織と社会の関係、また社会の変化について解説する。続いて日本を中心にした環境史を概観する。</p> <p>そして、なぜ企業・組織は今環境問題に取り組みなくてはならないか、日本の環境経営を解説する。続いて、企業・組織と社会の相互理解をめざした環境コミュニケーションの意義・事例を解説する。</p> <p>また、企業・組織の環境負荷削減の取組みの取組みを紹介する。併せてライフサイクルアセスメント（LCA）の考え方や、用途、実施例などを解説する。</p> <p>最後に、地球温暖化問題と企業・組織活動、経営意思決定からみた企業・組織の環境経営、環境経営とコーポレートブランドについて解説する。</p>
授業方法：	講義内容を理解できるように、いろいろな事例を紹介する。プリントは必要に応じて配布する。質問大歓迎、気軽に質問して下さい。
履修の留意点：	「環境と社会Ⅰ」を履修していなくても、この科目の履修は可能である。地球環境と社会、それをいかに持続可能なものとするために、企業・組織が、そして個人がどんなことができるのか考えながら授業に参加して欲しい。
目標と評価：	<p>目標1：地球環境問題の重要性を認識して欲しい 目標2：人間生活・活動の影響の拡がりを認識して欲しい 目標3：個人の生活スタイルの見直す機会として欲しい 目標4：我々が住む地球で行われている企業・組織・個人の活動の係わりを認識して欲しい</p> <p>評価：学期末の試験あるいはそれに替わるレポート、それと出席点で決定する。授業中の態度が考慮の対象になることがある。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済データの読み方」（担当者：久保 真）の履修の手引き

科目名：	経済データの読み方
担当者：	久保 真（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	自らの主張をより説得力のあるものにする最良の方法の一つは、数字を示すことです。逆に、当たり前なことだと考えている事柄でも、数字の裏付けが全くないようなものもあります。また、このような数字は、元データをいかに加工するかによって、まったく異なった結果が得られることも少なくありません。本講義は、経済やビジネスデータを題材に取りながら、そのような数字のマジックやトリックを見破ったり活用したりするために必要な術を身につけることを目的として、行われます。高校まで数学が苦手であったという人でも、数学的思考を深めたいという人なら、大変役に立つ授業になるよう努めます。
授業方法：	講義と実習とを組み合わせで行います。実習は、表計算ソフト（Microsoft Excel）を用いて、データ分析を行ってまいります。また、授業情報をウェブにて発信しますので、予復習を必ず行って下さい。
履修の留意点：	(1) 履修を希望するものは必ず初回の授業に出席して下さい。 (2) 授業にはパソコンをかならず持参して下さい。 なお、この授業は2005年度以降の入学者に対しては、「表計算によるビジネス情報分析」という名称で開講されます。
目標と評価：	具体的には、以下の三つの事柄を行えるようになることが目標です。 (1) 新聞記事やテレビのニュースのもとになっている元データにアクセスする (2) 表計算ソフトを、表作成ソフトとしてではなく、データ分析ソフトとして使う (3) ある主張を、データによって、実証または反証する 授業週に提出される課題（50%）と定期試験期間に提出されるレポート（50%）にもとづいて総合的に評価を下します。ただし、上記のレポートを提出することが単位修得の必要条件です。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「時事経済Ⅰ」（担当者：尾村 敬二）の履修の手引き

科目名：	時事経済Ⅰ
担当者：	尾村 敬二（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	新聞、雑誌等を継続的に読む訓練を通じて、時事経済問題を理解できるようになることを目的とする。内容は、日本経済の動きを中心に、現状を把握し、将来を見通すことが課題である。日本経済の活力の源泉、企業のパフォーマンス、財政赤字問題、年金問題、地方自治と分権化、国際経済と日本など多分野にわたる学習を行う。
授業方法：	最初は教科書を読むことで、日本経済の現状と、解決すべき課題を学習し、最終的には個人が選択する日本経済に関するテーマについての時事解説を行う。
履修の留意点：	定期的に新聞を読むことにこころがけることが肝要である。授業では宿題についての発表形式を主に採用する。
目標と評価：	大学生以上の水準で、日本経済の現状を語るができるようにする。評価は授業の参加度合いと、筆記試験で行う。
教科書：	2005年日本経済 世界同時失速の年になる 高橋兼宣 東洋経済新報社 2004年11月
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「時事経済Ⅱ」（担当者：尾村 敬二）の履修の手引き

科目名：	時事経済Ⅱ
担当者：	尾村 敬二（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	時事経済Ⅰ（春学期）と同じである。
授業方法：	時事経済Ⅰ（春学期）と同じである。
履修の留意点：	時事経済Ⅰ（春学期）と同じである。
目標と評価：	時事経済Ⅰ（春学期）と同じである。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「アカデミックディベート」（担当者：森本 孝）の履修の手引き

科目名：	アカデミックディベート
担当者：	森本 孝（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>「日本語」によるディベートを通じて、今後の社会で必要とされる知的基礎体力を身につけることを目的とした科目である。</p> <p>私たちが仕事をしたり、日常生活を送る上で、①「物事を論理的に考える」論理的な思考力と②「相手に自分の考えを適切に伝え、相手の考えを的確に受け取る」コミュニケーション能力の2つはとても大切です。</p> <p>ディベートを行うと、「考える力」（＝論理的思考力）、「聴く力・表現する力」（＝コミュニケーション能力）が鍛えられます。</p> <p>この授業では、ディベートを行うことそれ自体を目的とするのではなく、ディベートを行うための基礎訓練を中心に進行することによって、ディベート力だけではなく、大学で学習したり、将来企業で働く場合に役立つ総合的な知的基礎体力の育成を目指します。</p>
授業方法：	<p>授業は、学期の前半は、ディベートのための知的基礎体力を養う準備パートとし、学期の後半に具体的なテーマを決めてディベートを実施します。</p> <p>「コミュニケーション能力」を養うことが教育目標の柱の一つですから、授業中にできるだけ頻繁にプレゼンテーションの機会を設けていきます。</p>
履修の留意点：	<p>① 単に聴くだけの授業ではありません。 授業に積極的に参加し、行動することが求められます。 履修する場合は、この点に注意してください。</p> <p>② 英語でのディベートは行いません。 すべて日本語でディベートをします。 英語のディベートを期待する場合は、期待に応えられません。</p>
目標と評価：	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な課す課題と授業での様々なアクティビティの結果を総合して評価します。 ・学期末のペーパーテストは実施しません。 <p>西部直樹 『誰でもできるディベート入門講座—ビジネス・コミュニケーションを活性化させる技術』 ぱる出版 2002年10月 1,470円</p>
教科書：	『誰でもできるディベート入門講座—ビジネス・コミュニケーションを活性化させる技術』 西部直樹 ぱる出版 2002年10月
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「アカデミックディベート」（担当者：森本 孝）の履修の手引き

科目名：	アカデミックディベート
担当者：	森本 孝（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	日本語」によるディベートを通じて、今後の社会で必要とされる知的基礎体力を身につけることを目的にした科目である。 私たちが仕事をしたり、日常生活を送る上で、①「物事を論理的に考える」論理的な思考力と②「相手に自分の考えを適切に伝え、相手の考えを的確に受け取る」コミュニケーション能力の2つはとても大切です。 ディベートを行うと、「考える力」（＝論理的思考力）、「聴く力・表現する力」（＝コミュニケーション能力）が鍛えられます。 この授業では、ディベートを行うことそれ自体を目的とするのではなく、ディベートを行うための基礎訓練を中心に進行することによって、ディベート力だけではなく、大学で学習したり、将来企業で働く場合に役立つ総合的な知的基礎体力の育成を目指します。
授業方法：	授業は、学期の前半は、ディベートのための知的基礎体力を養う準備パートとし、学期の後半に具体的なテーマを決めてディベートを実施します。 「コミュニケーション能力」を養うことが教育目標の柱の一つですから、授業中にできるだけ頻繁にプレゼンテーションの機会を設けていきます。
履修の留意点：	① 単に聴くだけの授業ではありません。 授業に積極的に参加し、行動することが求められます。 履修する場合は、この点に注意してください。 ② 英語でのディベートは行いません。 すべて日本語でディベートをします。 英語のディベートを期待する場合は、期待に応えられません。
目標と評価：	・定期的に課す課題と授業での様々なアクティビティの結果を総合して評価します。 ・学期末のペーパーテストは実施しません。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「スポーツ（男子）」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「スポーツ（男子）」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「スポーツ（男子）」（担当者：俵 尚申）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「スポーツ（男子）」（担当者：俵 尚申）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「スポーツ（女子）」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	スポーツ（女子）
担当者：	星 ひろみ（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなってしまう。特に、子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・パソコンを選ぶということが体力低下に結びついているといえよう。その結果、体力の低下だけでなく、日常の中で対人関係に悩む人が増え、学校や社会に様々な問題を提起している。だからこそIT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる中、学校体育として何ができるかを考えなければならない。</p> <p>本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。さらに、友人関係を深めるためにスポーツはとても有効な手段なので、楽しみながら、からだを鍛えることを学生に学んでもらいたい。</p> <p>また、からだの成長だけは年々早くなる中で、10代後半～20代の女性に、女性ならではのからだの変化・病気なども多くなっている。自分の「からだをやる」ということが如何に大切かを授業をとおして認識してもらい、これからの生活に役立ててもらいたい。</p>
授業方法：	<p>◎4年生女子の「スポーツ」は短期大学のウーマンズボディ&フィットネスⅡ（秋学期）【1単位】である。秋学期履修は実技（ソフトバレーボール）・講義（女性のからだについて）を行う。（エアビクス・ダンスとゴルフは春学期ウーマンズボディ&フィットネスⅠ）</p> <p>① ソフトバレーボール・・・グループ競技を取り上げ、力をあわせて、ゲームを楽しむ授業である。ソフトバレーボールは6人制バレーボールより体力的・技術的に苦手な学生にも取り組みやすい競技なので、誰でもが楽しめる要素が多いのが特徴。コミュニケーションをとるスポーツとして特に適している。授業はゲームを中心に行い、チームが週をおうごとにどれだけ向上するかをみる。</p> <p>③ 講義『女性と健康』・・・特に女性のからだを中心に学んでいく。実際に女性におこりうるからだの変化や病気について正しい知識を持ってもらいたい。</p>
履修の留意点：	<p>4年生女子の「スポーツ女子」は短期大学のウーマンズボディ&フィットネスⅡ（秋学期）【1単位】である。（春学期はウーマンズボディ&フィットネスⅠ。どちらか1単位しか取れないが、運動が好きな学生は聴講という形で参加可能なので、その際は第1週の授業に必ず連絡すること）</p> <p>*細かいルールがあるが、授業が安全実施できるよう、協力・厳守してほしい。</p>
目標と評価：	<p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出するが詳細は第1回目の授業（オリエンテーション）説明する。実技試験は実技の授業内試験とする。但し、出欠席を重視する。実技と講義、の総合評価とする。</p> <p>*出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価する。また、講義は授業内試験（筆記試験）を行う。</p> <p>*詳細はプリント参照（オリエンテーションで配布）</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「スポーツ（女子）」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	スポーツ（女子）
担当者：	星 ひろみ（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなってしまう。特に、子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・パソコンを選ぶということが体力低下に結びついているといえよう。その結果、体力の低下だけでなく、日常の中で対人関係に悩む人が増え、学校や社会に様々な問題を提起している。だからこそIT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる中、学校体育として何ができるかを考えなければならない。</p> <p>本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。さらに、友人関係を深めるためにスポーツはとても有効な手段なので、楽しみながら、からだを鍛えることを学生に学んでもらいたい。</p> <p>また、からだの成長だけは年々早くなる中で、10代後半～20代の女性に、女性ならではのからだの変化・病気なども多くなっている。自分の「からだをやる」ということが如何に大切かを授業をとおして認識してもらい、これからの生活に役立ててもらいたい。</p>
授業方法：	<p>◎4年生女子の「スポーツ」は短期大学のウーマンズボディ&フィットネスⅡ（秋学期）【1単位】である。秋学期履修は実技（ソフトバレーボール）・講義（女性のからだについて）を行う。（エアビクス・ダンスとゴルフは春学期ウーマンズボディ&フィットネスⅠ）</p> <p>① ソフトバレーボール・・・グループ競技を取り上げ、力をあわせて、ゲームを楽しむ授業である。ソフトバレーボールは6人制バレーボールより体力的・技術的に苦手な学生にも取り組みやすい競技なので、誰でもが楽しめる要素が多いのが特徴。コミュニケーションをとるスポーツとして特に適している。授業はゲームを中心に行い、チームが週をおうごとにどれだけ向上するかをみる。</p> <p>③ 講義『女性と健康』・・・特に女性のからだを中心に学んでいく。実際に女性におこりうるからだの変化や病気について正しい知識を持ってもらいたい。</p>
履修の留意点：	<p>4年生女子の「スポーツ女子」は短期大学のウーマンズボディ&フィットネスⅡ（秋学期）【1単位】である。（春学期はウーマンズボディ&フィットネスⅠ。どちらか1単位しか取れないが、運動が好きな学生は聴講という形で参加可能なので、その際は第1週の授業に必ず連絡すること）</p> <p>*細かいルールがあるが、授業が安全実施できるよう、協力・厳守してほしい。</p>
目標と評価：	<p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出するが詳細は第1回目の授業（オリエンテーション）説明する。実技試験は実技の授業内試験とする。但し、出欠席を重視する。実技と講義、の総合評価とする。</p> <p>*出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価する。また、講義は授業内試験（</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「スポーツ（女子）」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	スポーツ（女子）
担当者：	星 ひろみ（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病というが、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなってしまう。特に、子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・パソコンを選ぶということが体力低下に結びついているといえよう。その結果、体力の低下だけでなく、日常の中で対人関係に悩む人が増え、学校や社会に様々な問題を提起している。だからこそIT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる中、学校体育として何ができるかを考えなければならない。</p> <p>本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。さらに、友人関係を深めるためにスポーツはとても有効な手段なので、楽しみながら、からだを鍛えることを学生に学んでもらいたい。</p> <p>また、からだの成長だけは年々早くなる中で、10代後半～20代の女性に、女性ならではのからだの変化・病気なども多くなっている。自分の「からだをやる」ということが如何に大切かを授業をとおして認識してもらい、これからの生活に役立ててもらいたい。</p>
授業方法：	<p>◎4年生女子の「スポーツ」は短期大学のウーマンズボディ&フィットネスⅡ（秋学期）【1単位】である。秋学期履修は実技（ソフトバレーボール）・講義（女性のからだについて）を行う。（エアビクス・ダンスとゴルフは春学期ウーマンズボディ&フィットネスⅠ）</p> <p>① ソフトバレーボール・・・グループ競技を取り上げ、力をあわせて、ゲームを楽しむ授業である。ソフトバレーボールは6人制バレーボールより体力的・技術的に苦手な学生にも取り組みやすい競技なので、誰でもが楽しめる要素が多いのが特徴。コミュニケーションをとるスポーツとして特に適している。授業はゲームを中心に行い、チームが週をおうごとにどれだけ向上するかをみる。</p> <p>③ 講義『女性と健康』・・・特に女性のからだを中心に学んでいく。実際に女性におこりうるからだの変化や病気について正しい知識を持ってもらいたい。</p>
履修の留意点：	<p>4年生女子の「スポーツ女子」は短期大学のウーマンズボディ&フィットネスⅡ（秋学期）【1単位】である。（春学期はウーマンズボディ&フィットネスⅠ。どちらか1単位しか取れないが、運動が好きな学生は聴講という形で参加可能なので、その際は第1週の授業に必ず連絡すること）</p> <p>*細かいルールがあるが、授業が安全実施できるよう、協力・厳守してほしい。</p>
目標と評価：	<p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出するが詳細は第1回目の授業（オリエンテーション）説明する。実技試験は実技の授業内試験とする。但し、出欠席を重視する。実技と講義、の総合評価とする。</p> <p>*出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価する。また、講義は授業内試験（</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計リテラシ(日商3級)」(担当者:井上 行忠)の履修の手引き

科目名:	会計リテラシ(日商3級)
担当者:	井上 行忠(自己紹介ページ)
設置学期:	春
開講回数:	全0回
週コマ数:	週0コマ
概要:	概要: 複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素(費用・収益・資産・負債・資本)の認識、及び会計処理(仕訳)を学び、問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。 日商簿記検定3級・全経簿記検定3級の合格を目指す。
授業方法:	授業方法: 授業方法: テキストを中心に授業を行う。授業体系は、簿記一巡の流れを把握し、前半は個別取引を中心に学習を行い、後半は総合問題対策(試算表作成、精算表作成、補助簿:仕入帳、売上帳、現金出納帳、小口現金出納帳、当座預金出納帳、手形記入帳、商品有高帳等)を中心に授業を行う。7月の全経簿記検定3級に目標を定め学習を行う。6月の日商簿記検定3級を目指す学生は、週一回実施される「会計リテラシ」の補講を聴講すること。
履修の留意点:	履修上の留意点: 履修の留意点: 学習に当たり、電卓が必要となります。最初の授業で指示をしますので、事前に購入しないで下さい。
目標と評価:	目標と評価※: 目標と評価: この授業は、日商簿記検定3級または全経簿記検定2級の資格試験に合格する事を目標としています。
教科書:	教科書 教科書①: 例解演習 基本簿記 教科書 ②: 日商簿記検定試験3級出題傾向と対策 ① 山本孝夫・前川邦生共著 ② 税務経理協会 ① 創成社 ② 税務経理協会
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計リテラシ(全経3級)」(担当者: 飯野 幸江)の履修の手引き

科目名:	会計リテラシ(全経3級)
担当者:	飯野 幸江
設置学期:	春
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	本講義では会計の基礎となる簿記を学習します。簿記は企業の経済活動を記録・計算・整理する技法です。その目的は、財務諸表(貸借対照表、損益計算書)を作成することによって、企業の財政状態および経営成績を明らかにすることです。本講義では、企業の経済活動の記録から財務諸表作成までのプロセスを学ぶことによって、簿記の基本的なしくみを理解することを目的とします。
授業方法:	本講義では記帳練習問題を通じて、簿記の基本的なしくみを理解してもらいます。したがって授業は、教科書で基本的な論点を説明した後、記帳練習問題を解いてもらうという方法で行います。簿記の学習は、講義の内容を頭で理解するよりも、数多くの記帳練習問題を解いて身体で覚えることが重要です。そこで、授業中に小テストを行ったり、記帳練習問題を課題として提出してもらうこともありますので、そのつもりでいて下さい。
履修の留意点:	本講義は、記帳練習を通じて簿記のしくみを学習しますので、授業には教科書の他に、電卓、赤ペンおよび定規を持参して下さい。簿記は積み重ねの学問です。1回でも欠席をすると授業がわからなくなることがあります。予習をする必要はありませんが、必ず復習をして下さい。
目標と評価:	本講義は、7月に実施される全経簿記検定3級の合格を目標とします。
教科書:	例解演習 基本簿記 山本孝夫・前川邦生 創成社 2004年
参考書:	新検定簿記ワークブック 3級 商業簿記 加古宜士・渡部裕亘 中央経済社 2005年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計リテラシ(全経3級)」(担当者: 前川 道生)の履修の手引き

科目名:	会計リテラシ(全経3級)
担当者:	前川 道生
設置学期:	春
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素(費用・収益・資産・負債・資本)、の認識、及び会計処理(仕訳)を学び、問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。全経簿記検定3級の合格を目指す。
授業方法:	テキストを中心に授業を行う。授業体系は、簿記一巡の流れを把握し、前半は個別取引を中心に学習を行い、後半は総合問題対策(試算表作成、精算表作成、補助簿:仕入帳、売上帳、現金出納帳、小口現金出納帳、当座預金出納帳、手形記入帳、商品有高帳等)を中心に授業を行う。7月の全経簿記検定3級に目標を定め学習を行う。
履修の留意点:	学習に当たり、電卓が必要となります。最初の授業で指示をしますので、事前に購入しないで下さい。
目標と評価:	全経簿記検定3級の資格試験に合格する事を目標としています。また、成績評価(評価点70点)は、試験および授業態度(小テスト、宿題など)により評価します。出席点(30点)は通常通り評価します。
教科書:	例解演習 基本簿記 山本孝夫・前川邦生共著 創成社
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計リテラシ(日商3級)」(担当者: 飯野 幸江)の履修の手引き

科目名:	会計リテラシ(日商3級)
担当者:	飯野 幸江
設置学期:	春
開講回数:	全26回
週コマ数:	週2コマ
概要:	本講義では会計の基礎となる簿記を学習します。簿記は企業の経済活動を記録・計算・整理するための技法です。その目的は、財務諸表(貸借対照表、損益計算書)を作成することにより、企業の財政状態と経営成績を明らかにすることです。本講義では、企業の経済活動の記録から財務諸表作成までのプロセスを学ぶことによって、簿記の基本的なしくみを理解することを目的とします。
授業方法:	簿記の効果的な学習方法は、数多くの記帳練習問題を解くことです。しかし残念ながら、本講義は6月初旬に実施される日商簿記検定3級の合格を目標としますので、授業時間中に記帳練習問題を解く時間はありません。そこで授業では教科書を用いて簿記の基本的な論点を説明するとともに、記帳練習問題は各自、自宅等で解いてもらうことにします。 なお、6月の日商簿記検定まであまり時間ありませんので、かなり早いペースで授業を進めます。授業での配布物および授業内容の詳細(教科書の該当するページ、解いておくべき記帳練習問題など)は、学ナビに最新情報を掲載していきますので、マメに学ナビをチェックして下さい。
履修の留意点:	本講義は、記帳練習問題を通じて簿記のしくみを学習しますので、授業には教科書の他に、電卓、赤ペンおよび定規を持参して下さい。 簿記は積み重ねの学問です。1回でも欠席をすると授業がわからなくなることがあります。予習をする必要はありませんが、必ず復習をして下さい。
目標と評価:	本講義は、6月に実施される日商簿記検定3級の合格を目標とします。 成績は、原則として定期試験の結果(7割)と出席点(3割)で評価します。ただし、日商簿記検定3級に合格した学生については、無条件に定期試験の成績を満点とします。
教科書:	①例解演習 基本簿記 ②新検定簿記ワークブック 3級 商業簿記 ①山本孝夫・前川邦生 ②加古宜士・渡部裕巨 ①創成社 ②中央経済社 ①2004年 ②2005年
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計リテラシ(日商3級)」(担当者: 飯野 幸江)の履修の手引き

科目名:	会計リテラシ(日商3級)
担当者:	飯野 幸江
設置学期:	秋
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	本講義では会計の基礎となる簿記を学習します。簿記は企業の経済活動を記録・計算・整理するための技法です。その目的は、財務諸表(貸借対照表、損益計算書)を作成することにより、企業の財政状態と経営成績を明らかにすることです。本講義では、企業の経済活動の記録から財務諸表作成までのプロセスを学ぶことによって、簿記の基本的なしくみを理解することを目的とします。
授業方法:	本講義では記帳練習問題を通じて、簿記の基本的なしくみを理解してもらいます。したがって、授業は教科書で基本的な論点を説明した後、記帳練習問題を解いてもらうという方法で行います。簿記の学習は、講義の内容を頭で理解するよりも、数多くの記帳練習問題を解いて身体で覚えることが重要です。そのため授業中に小テストを行ったり、記帳練習問題を課題として提出してもらうこともあります。
履修の留意点:	本講義は、記帳練習問題を通じて簿記のしくみを学習しますので、授業には教科書の他に、電卓、赤ペンおよび定規を持参して下さい。簿記は積み重ねの学問です。1回でも欠席をすると授業がわからなくなることがあります。予習をする必要はありませんが、必ず復習をして下さい。
目標と評価:	本講義は、2006年2月に実施される日商簿記検定3級の合格を目標とします。成績は、原則として定期試験の結果で評価します。ただし、2005年11月の日商簿記検定で3級に合格した学生については、無条件に定期試験の成績を満点とします。
教科書:	①例解演習 基本簿記 ②新検定簿記ワークブック 3級 商業簿記 ①山本孝夫・前川邦生 ②加古宜士・渡部裕巨 ①創成社 ②中央経済社 ①2004年 ②2005年
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計リテラシ(全経3級)」(担当者: 前川 道生)の履修の手引き

科目名:	会計リテラシ(全経3級)
担当者:	前川 道生
設置学期:	秋
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素(費用・収益・資産・負債・資本)、の認識、及び会計処理(仕訳)を学び、問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。全経簿記検定3級の合格を目指す。
授業方法:	テキストを中心に授業を行う。授業体系は、簿記一巡の流れを把握し、前半は個別取引を中心に学習を行い、後半は総合問題対策(試算表作成、精算表作成、補助簿:仕入帳、売上帳、現金出納帳、小口現金出納帳、当座預金出納帳、手形記入帳、商品有高帳等)を中心に授業を行う。7月の全経簿記検定3級に目標を定め学習を行う。
履修の留意点:	学習に当たり、電卓が必要となります。最初の授業で指示をしますので、事前に購入しないで下さい。
目標と評価:	全経簿記検定3級の資格試験に合格する事を目標としています。また、成績評価(評価点70点)は、試験および授業態度(小テスト、宿題など)により評価します。出席点(30点)は通常通り評価します。
教科書:	例解演習 基本簿記 山本孝夫・前川邦生共著 創成社
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済史」（担当者：内藤 勝）の履修の手引き

科目名：	経済史
担当者：	内藤 勝（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	日本資本主義の歩みを中心に講義をする。戦後を10年単位で刻みながら歴史を整理する。この中から「歴史の教訓」を導きたい。
授業方法：	ビデオと講義による。
履修の留意点：	なし
目標と評価：	最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 期末テストによる。
教科書：	物質循環とエントロピーの経済学 内藤勝 高文堂 2004
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計学総論(日商3級)」(担当者:井上 行忠)の履修の手引き

科目名:	会計学総論(日商3級)
担当者:	井上 行忠(自己紹介ページ)
設置学期:	春
開講回数:	全0回
週コマ数:	週0コマ
概要:	概要: 概要: 複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素(費用・収益・資産・負債・資本)の認識、及び会計処理(仕訳)を学び、問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。日商簿記検定3級・全経簿記検定3級の合格を目指す。
授業方法:	授業方法: 授業方法: 授業方法: テキストを中心に授業を行う。授業体系は、簿記一巡の流れを把握し、前半は個別取引を中心に学習を行い、後半は総合問題対策(試算表作成、精算表作成、補助簿:仕入帳、売上帳、現金出納帳、小口現金出納帳、当座預金出納帳、手形記入帳、商品有高帳等)を中心に授業を行う。7月の全経簿記検定3級に目標を定め学習を行う。6月の日商簿記検定3級を目指す学生は、週一回実施される「会計リテラシ」の補講を聴講すること。
履修の留意点:	履修上の留意点: 履修上の留意点: 履修の留意点: 学習に当たり、電卓が必要となります。最初の授業で指示をしますので、事前に購入しないで下さい。
目標と評価:	目標と評価: この授業は、日商簿記検定3級または全経簿記検定2級の資格試験に合格する事を目標としています。
教科書:	①: 例解演習 基本簿記 教科書②: 日商簿記検定試験3級出題傾向と対策 ① 山本孝夫・前川邦生共著 ② 税務経理協会 ① 創成社 ② 税務経理協会
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計学総論」（担当者：井上 行忠）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「会計学総論(日商3級)」(担当者: 飯野 幸江)の履修の手引き

科目名:	会計学総論(日商3級)
担当者:	飯野 幸江
設置学期:	秋
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	本講義では会計の基礎となる簿記を学習します。簿記は企業の経済活動を記録・計算・整理するための技法です。その目的は、財務諸表(貸借対照表、損益計算書)を作成することにより、企業の財政状態と経営成績を明らかにすることです。本講義では、企業の経済活動の記録から財務諸表作成までのプロセスを学ぶことによって、簿記の基本的なしくみを理解することを目的とします。
授業方法:	本講義では記帳練習問題を通じて、簿記の基本的なしくみを理解してもらいます。したがって、授業は教科書で基本的な論点を説明した後、記帳練習問題を解いてもらうという方法で行います。簿記の学習は、講義の内容を頭で理解するよりも、数多くの記帳練習問題を解いて身体で覚えることが重要です。そのため授業中に小テストを行ったり、記帳練習問題を課題として提出してもらうこともあります。
履修の留意点:	本講義は、記帳練習問題を通じて簿記のしくみを学習しますので、授業には教科書の他に、電卓、赤ペンおよび定規を持参して下さい。簿記は積み重ねの学問です。1回でも欠席をすると授業がわからなくなることがあります。予習をする必要はありませんが、必ず復習をして下さい。
目標と評価:	本講義は、2006年2月に実施される日商簿記検定3級の合格を目標とします。成績は、原則として定期試験の結果で評価します。ただし、2005年11月の日商簿記検定で3級に合格した学生については、無条件に定期試験の成績を満点とします。
教科書:	①例解演習 基本簿記 ②新検定簿記ワークブック 3級 商業簿記 ①山本孝夫・前川邦生 ②加古宜士・渡部裕巨 ①創成社 ②中央経済社 ①2004年 ②2005年
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「企業論」（担当者：曹 勤）の履修の手引き

科目名：	企業論
担当者：	曹 勤
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>皆さんは大学卒業するとどこかの企業で働くこととなります。企業とはどんなものか、どのように行動するかを理解することが重要です。企業の種類や行動原理を知れば、経済学や経営額の理解にも役に立ちます。企業の評価。企業の問題点を分析する力を身につければ、就職の時の企業選択ばかりではなく、就職後の活動、さらに企業の将来を考える事ができるでしょう。</p> <p>この講義では、経済活動の主体である企業について、具体的な事例をあげながら、いろいろな問題点を分析して、現代企業の在り方や企業人の使命について考えます。また、経済グローバル化の中で、大きな影響力を持ち始めた中国の事情を日本と比較して考察したいと思います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、企業とは何か、企業と市場、企業と産業、企業の社会的役割 2、いろいろな企業の形態と特徴 3、企業と消費者の行動原理 4、企業間の競争（市場原理） 5、企業の行動がもたらす結果 6、企業間の結合・提携 7、市場競争のルール（独占禁止法と規制緩和） 8、グローバル化と企業の対応（中国経済との関連を含め） 9、望ましい企業とは（財務分析、経営理念、社会貢献） 10、事例研究
授業方法：	プリントによって上記の項目を講義するほか、時事的な問題を取り上げて解説します。また、インターネットを活用して、ホットな情報を集め、企業の分析と評価について考えます。
履修の留意点：	特にありません。 参考書は講義に指示します。
目標と評価：	<p>企業の行動原理や企業の評価について、マスメディアなどで紹介される通説や俗説を鵜呑みにすることなく、理論的な視点からその真偽を批判的に検討できるスキルを身につけ、自分で考える力を養います。また、実社会での自分の役割や企業の社会的責任を理解して主体的に取り込む姿勢をもてるような授業を行いたいです。</p> <p>評価：宿題 20% 学期末テスト 80%</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「企業論」（担当者：曹 勤）の履修の手引き

科目名：	企業論
担当者：	曹 勤
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>皆さんは大学卒業するとどこかの企業で働くこととなります。企業とはどんなものか、どのように行動するかを理解することが重要です。企業の種類や行動原理を知れば、経済学や経営額の理解にも役に立ちます。企業の評価。企業の問題点を分析する力を身につければ、就職の時の企業選択ばかりではなく、就職後の活動、さらに企業の将来を考える事ができるでしょう。</p> <p>この講義では、経済活動の主体である企業について、具体的な事例をあげながら、いろいろな問題点を分析して、現代企業の在り方や企業人の使命について考えます。また、経済グローバル化の中で、大きな影響力を持ち始めた中国の事情を日本と比較して考察したいと思います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、企業とは何か、企業と市場、企業と産業、企業の社会的役割 2、いろいろな企業の形態と特徴 3、企業と消費者の行動原理 4、企業間の競争（市場原理） 5、企業の行動がもたらす結果 6、企業間の結合・提携 7、市場競争のルール（独占禁止法と規制緩和） 8、グローバル化と企業の対応（中国経済との関連を含め） 9、望ましい企業とは（財務分析、経営理念、社会貢献） 10、事例研究
授業方法：	プリントによって上記の項目を講義するほか、時事的な問題を取り上げて解説します。また、インターネットを活用して、ホットな情報を集め、企業の分析と評価について考えます。
履修の留意点：	特にありません。 参考書は講義に指示します。
目標と評価：	<p>企業の行動原理や企業の評価について、マスメディアなどで紹介される通説や俗説を鵜呑みにすることなく、理論的な視点からその真偽を批判的に検討できるスキルを身につけ、自分で考える力を養います。また、実社会での自分の役割や企業の社会的責任を理解して主体的に取り込む姿勢をもてるような授業を行いたいです。</p> <p>評価：宿題 20% 学期末テスト 80%</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「企業論」（担当者：趙 容）の履修の手引き

科目名：	企業論
担当者：	趙 容
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>本講義では、まず企業とは何でしょうか、企業の役割は何ですか、企業はどのように生成と発展してきましたか、また企業の様々な形態と特徴はどのようになっていますか。次に企業はどのような組織でどんな活動を行っていますか。企業間の関係や企業の社会的責任とはなんですか。そのため、以下のような内容構成となっています。さらに将来の企業像はどうなっていくべきかについて一緒に考えていきましょう。</p> <p>第1章 企業とは何か 第2章 企業の新動向 第3章 企業の生成と発展 第4章 企業の形態と特徴 第5章 日本企業の生成と発展 第6章 企業のガバナンス 第7章 企業と経営者 第8章 企業の経営管理</p>
授業方法：	<p>①レジュメをほぼ毎回配布。 ②参考書：坂野峰彦・平井東幸・猪平進・海野博・籠幾緒共著『企業経営学の基礎』税務経理協会、平成15年。 ③ビデオは適宜使用する。 ④新聞や雑誌の資料は活用する。</p>
履修の留意点：	<p>企業論は皆さんに何が役に立ちますか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職に当たっての企業選びに必要な基礎知識があります。 ・市場経済の社会において、社会人になってくる皆さんは、企業がその基本単位としてかかわった基礎を知る必要があります。 ・企業論はその他の専門科目（経済学、経営学、財務会計論、経営分析論、中小企業経営論など）を理解するための基礎知識です。 ・企業論を通じて、他の国の企業と比較しながら関連な知識を身につけることができます。 ・企業法人も私たちの人間と同様に、関係する法律の枠内で活動しなければなりません。たとえば、会社法、商法、独占禁止法、貿易管理法、などですが、海外に進出した場合、またその所在地の国の法律を熟知し、守らなければなりません。
目標と評価：	成績評価：春期試験40%、秋学期試験60%。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「企業論」（担当者：平井 東幸）の履修の手引き

科目名：	企業論
担当者：	平井 東幸（自己紹介ページ）
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>私たちは企業（会社）と無関係では一日たりとも生活ができません。その企業とは、どういうものか、その仕組み、役割や使命について基礎的な説明をします。企業についての理解を深めておくことは、経済や産業、経営を理解するにも、また、就職する上でも、将来ビジネスをするためにも必要不可欠です。</p> <p>この講義では、家計と政府（それに最近はNPO）とともに経済活動の主体である企業について、著名な大企業だけではなく、有名無名の中小企業にも焦点を当てて、メーカーはもとより、小売業、外食産業などの業種についてもトピック的、具体的な諸問題を取り上げるほか、企業をめぐる新しい課題や話題（企業統治、1円起業、委員会等設置会社、企業の社会的責任など）についても取り上げて解説します。毎回企業をめぐるトピックを取り上げて、そこから企業論に入っていく講義をしましょう。</p> <p>主な項目は次の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 会社とは、企業とは 2 企業経営学とは 3 企業の定義と仕組み 4 企業と生産と流通 5 企業と従業員 6 企業と経営財務 7 日本の経営とは 8 企業の社会的責任 9 中小企業の重要性 10 優れた企業とは 11 これからの企業像
授業方法：	プリントとテキストを参照しながら、上記の項目について講義するほか、毎回経済・産業・企業に関する時事問題（トピック）を取り上げて解説します。必要に応じて、ビデオの上映、また可能であれば外部講師の招聘も行います。
履修の留意点：	とくにありません。 参考書： 『会社とはなにか』（岩波ジュニア新書） 奥村宏 岩波書店 2001年 『会社で働くということ』（岩波ジュニア新書） 森 清 岩波書店 1996年
目標と評価：	目標は、上記の概要で述べたように、現在の企業についての基礎的理解を深め、併せて会社をめぐるさまざまな出来事や事件について初歩的な知識をることであり、経営経済学部で学ぶ上での入門的な科目です。 評価については、課題、平常点、定期試験で行います。
教科書：	『企業経営学の基礎』 猪平・海野・籠・阪野・平井 税務経理協会 2002年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「企業論（集中授業）」（担当者：趙 容）の履修の手引き

科目名：	企業論（集中授業）
担当者：	趙 容
設置学期：	春（集中授業）
開講回数：	全20回
週コマ数：	週2コマ
概要：	<p>本講義では、まず企業とは何でしょうか、企業の役割は何ですか、企業はどのように生成と発展してきましたか、また企業の様々な形態と特徴はどのようになっていますか。次に企業はどのような組織でどんな活動を行っていますか。企業間の関係や企業の社会的責任とはなんですか。そのため、以下のような内容構成となっています。さらに将来の企業像はどうなっていくべきかについて一緒に考えていきましょう。</p> <p>第1章 企業とは何か 第2章 企業の新動向 第3章 企業の生成と発展 第4章 企業の形態と特徴 第5章 日本企業の生成と発展 第6章 企業のガバナンス 第7章 企業と経営者 第8章 企業の経営管理</p>
授業方法：	<p>①レジュメをほぼ毎回配布。 ②参考書：坂野峰彦・平井東幸・猪平進・海野博・籠幾緒共著『企業経営学の基礎』税務経理協会、平成15年。 ③ビデオは適宜使用する。 ④新聞や雑誌の資料は活用する。</p>
履修の留意点：	<p>企業論は皆さんに何が役に立ちますか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職に当たっての企業選びに必要な基礎知識があります。 ・市場経済の社会において、社会人になってくる皆さんは、企業がその基本単位としてかかわった基礎を知る必要があります。 ・企業論はその他の専門科目（経済学、経営学、財務会計論、経営分析論、中小企業経営論など）を理解するための基礎知識です。 ・企業論を通じて、他の国の企業と比較しながら関連な知識を身につけることができます。 ・企業法人も私たちの人間と同様に、関係する法律の枠内で活動しなければなりません。たとえば、会社法、商法、独占禁止法、貿易管理法、などですが、海外に進出した場合、またその所在地の国の法律を熟知し、守らなければなりません。
目標と評価：	成績評価：春期試験40%、秋学期試験60%。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「企業論（集中授業）」（担当者：趙 容）の履修の手引き

科目名：	企業論（集中授業）
担当者：	趙 容
設置学期：	秋（集中授業）
開講回数：	全20回
週コマ数：	週2コマ
概要：	<p>本講義では、まず企業とは何でしょうか、企業の役割は何ですか、企業はどのように生成と発展してきましたか、また企業の様々な形態と特徴はどのようになっていますか。次に企業はどのような組織でどんな活動を行っていますか。企業間の関係や企業の社会的責任とはなんですか。そのため、以下のような内容構成となっています。さらに将来の企業像はどうなっていくべきかについて一緒に考えていきましょう。</p> <p>第1章 企業とは何か 第2章 企業の新動向 第3章 企業の生成と発展 第4章 企業の形態と特徴 第5章 日本企業の生成と発展 第6章 企業のガバナンス 第7章 企業と経営者 第8章 企業の経営管理</p>
授業方法：	<p>①レジュメをほぼ毎回配布。 ②参考書：坂野峰彦・平井東幸・猪平進・海野博・籠幾緒共著『企業経営学の基礎』税務経理協会、平成15年。 ③ビデオは適宜使用する。 ④新聞や雑誌の資料は活用する。</p>
履修の留意点：	<p>企業論は皆さんに何が役に立ちますか ・就職に当たっての企業選びに必要な基礎知識があります。 ・市場経済の社会において、社会人になってくる皆さんは、企業がその基本単位としてかかわった基礎を知る必要があります。 ・企業論はその他の専門科目（経済学、経営学、財務会計論、経営分析論、中小企業経営論など）を理解するための基礎知識です。 ・企業論を通じて、他の国の企業と比較しながら関連な知識を身につけることができます。 ・企業法人も私たちの人間と同様に、関係する法律の枠内で活動しなければなりません。たとえば、会社法、商法、独占禁止法、貿易管理法、などですが、海外に進出した場合、またその所在地の国の法律を熟知し、守らなければなりません。</p>
目標と評価：	目標と評価※： 成績評価：春期試験40%、秋学期試験60%。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本経済論」（担当者：飯島 正義）の履修の手引き

科目名：	日本経済論
担当者：	飯島 正義
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	日本経済はバブル崩壊以降、長期低迷が続いています。また、80年代後半以降、経済のグローバル化が一層進展し、日本経済は大きく構造的に変化しようとしています。授業では、まず第2次大戦後の日本経済のあゆみと構造的特徴を理解していきます。その上で、90年代以降の日本経済について経済指標などを通して今日の日本経済を考えていきたいと思えます。
授業方法：	講義形式で行います。
履修の留意点：	毎回の積み重ねが重要です。特に出席回数に注意してください。また、内容的にむずかしいところがあるかもしれませんが、がんばってください。
目標と評価：	日本経済の現状を歴史的に、また理論的に理解できるようにしていくことを目標とします。評価は授業中に行う確認、レポート、試験の成績等で総合的に評価します。
教科書：	『新訂現代日本経済史年表』、矢部洋三編、日本経済評論社
参考書：	随時紹介します。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本経済論」（担当者：飯島 正義）の履修の手引き

科目名：	日本経済論
担当者：	飯島 正義
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	日本経済は、バブル崩壊後、長期低迷を続けています。80年代後半以降、経済のグローバル化が一層進展し、日本経済は構造的に大きく変化しようとしています。授業では、まず第2次大戦後の日本経済のあゆみとその構造的特徴を理解していきます。その上で、90年代以降の日本経済の状況について経済指標などを分析し、今日の日本経済について考えたいと思います。
授業方法：	講義形式で行います。
履修の留意点：	毎回の積み重ねが大切です。内容的にむずかしく感じる点も出てくると思いますががんばってください。出席回数に注意してください。
目標と評価：	日本経済を歴史的に、また理論的に考えられるようにしていくことを目標とします。評価は、授業中に行う確認、レポート、試験などを総合的に評価します。
教科書：	『新訂現代日本経済史年表』 矢部洋三編 日本経済評論社
参考書：	随時紹介します。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本経済論」（担当者：貝塚 亨）の履修の手引き

科目名：	日本経済論
担当者：	貝塚 亨
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	現在の日本経済は、景気の先行きに明るい兆しが見え始めたとはいえ、90年代前半から続く平成不況下にあります。また近年急速に進む経済のグローバル化や高齢化のなかで、これまでの日本的な経済システムの改革が求められています。そこで、本講義では、現在の日本経済の特徴や構造を明らかにし、今後の方向性を考えていきます。その前提として、戦後復興、高度経済成長、石油危機、円高、バブル経済など、日本経済の歴史的経緯を学習します。具体的にはGDP、経常収支、為替相場などの推移や、産業の中心が製造業の重厚長大産業から軽薄短小産業やサービス産業に移行してきたことを学習します。サービス産業には現在では日本の就業者の半数以上が集中しており、サービス経済化は、現在の日本経済を理解するだけでなく、今後を展望する上で重要な問題なので、とくに詳しく学習していきます。
授業方法：	基本的に講義形式でおこないます。
履修の留意点：	毎回の授業で、感想等を書いてもらいます。単に講義を聴くだけでなく、自分で考え、理解し、問題意識をもつといった積極的な態度が必要です。
目標と評価：	目標：○日本経済に関する基本的用語を理解することができる。 ○経済統計の数値の意味を理解することができる。 ○新聞の経済欄を理解することができる。 評価：学期末テスト(70%)、出席(30%)
教科書：	現代日本経済史年表 矢部洋三・古賀義弘・渡辺広明・飯島正義 日本経済評論社 2001年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本経済論」（担当者：貝塚 亨）の履修の手引き

科目名：	日本経済論
担当者：	貝塚 亨
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	現在の日本経済は、景気の先行きに明るい兆しが見え始めたとはいえ、90年代前半から続く平成不況下にあります。また近年急速に進む経済のグローバル化や高齢化のなかで、これまでの日本的な経済システムの改革が求められています。そこで、本講義では、現在の日本経済の特徴や構造を明らかにし、今後の方向性を考えていきます。その前提として、戦後復興、高度経済成長、石油危機、円高、バブル経済など、日本経済の歴史的経緯を学習します。具体的にはGDP、経常収支、為替相場などの推移や、産業の中心が製造業の重厚長大産業から軽薄短小産業やサービス産業に移行してきたことを学習します。サービス産業には現在では日本の就業者の半数以上が集中しており、サービス経済化は、現在の日本経済を理解するだけでなく、今後を展望する上で重要な問題なので、とくに詳しく学習していきます。
授業方法：	基本的に講義形式でおこないます。
履修の留意点：	毎回の授業で、感想等を書いてもらいます。単に講義を聴くだけでなく、自分で考え、理解し、問題意識をもつといった積極的な態度が必要です。
目標と評価：	目標：○日本経済に関する基本的用語を理解することができる。 ○経済統計の数値の意味を理解することができる。 ○新聞の経済欄を理解することができる。 評価：学期末テスト(70%)、出席(30%)
教科書：	現代日本経済史年表 矢部洋三・古賀義弘・渡辺広明・飯島正義 日本経済評論社 2001年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本経済論（集中授業）」（担当者：貝塚 亨）の履修の手引き

科目名：	日本経済論（集中授業）
担当者：	貝塚 亨
設置学期：	春（集中授業）
開講回数：	全20回
週コマ数：	週2コマ
概要：	現在の日本経済は、景気の先行きに明るい兆しが見え始めたとはいえ、90年代前半から続く平成不況下にあります。また近年急速に進む経済のグローバル化や高齢化のなかで、これまでの日本的な経済システムの改革が求められています。そこで、本講義では、現在の日本経済の特徴や構造を明らかにし、今後の方向性を考えていきます。その前提として、戦後復興、高度経済成長、石油危機、円高、バブル経済など、日本経済の歴史的経緯を学習します。具体的にはGDP、経常収支、為替相場などの推移や、産業の中心が製造業の重厚長大産業から軽薄短小産業やサービス産業に移行してきたことを学習します。サービス産業には現在では日本の就業者の半数以上が集中しており、サービス経済化は、現在の日本経済を理解するだけでなく、今後を展望する上で重要な問題なので、とくに詳しく学習していきます。
授業方法：	基本的に講義形式でおこないます。
履修の留意点：	毎回の授業で、感想等を書いてもらいます。単に講義を聴くだけでなく、自分で考え、理解し、問題意識をもつといった積極的な態度が必要です。
目標と評価：	目標：○日本経済に関する基本的用語を理解することができる。 ○経済統計の数値の意味を理解することができる。 ○新聞の経済欄を理解することができる。 評価：学期末テスト(70%)、出席(30%)
教科書：	現代日本経済史年表 矢部洋三・古賀義弘・渡辺広明・飯島正義 日本経済評論社 2001年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本経済論（集中授業）」（担当者：飯島 正義）の履修の手引き

科目名：	日本経済論（集中授業）
担当者：	飯島 正義
設置学期：	秋（集中授業）
開講回数：	全20回
週コマ数：	週2コマ
概要：	日本経済は、バブル崩壊後、長期低迷を続けています。また、80年代後半以降、経済のグローバル化が一層進展し、日本経済の構造は大きく変化しようとしています。授業では、まず第2次大戦後の日本経済のあゆみとその構造的特徴を理解していきます。その上で、90年代の日本経済について経済指標等の分析を行い、今日の日本経済を考えていきたいと思ひます。
授業方法：	講義形式で行ひます。
履修の留意点：	集中講義ですので通常授業よりも厳しいと思ひますのでがんばってください。出席は非常に大切です。
目標と評価：	日本経済について歴史的に、また理論的に考えられるようにしていくことを目標とします。試験は集中授業の中で行ひます。評価については授業中に行う確認、試験等で総合的に行ひます。
教科書：	使用しません。資料を配布します。
参考書：	『新訂現代日本経済史年表』 矢部洋三編 日本経済評論社

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済学入門（再履修）」（担当者：渡辺 広明）の履修の手引き

科目名：	経済学入門（再履修）
担当者：	渡辺 広明（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>受講生の皆さんの多くは経済学を勉強したことがありますネ。「経済学」と言うコトバを聞いて、どんな感想・イメージをお持ちになりますか。多くは「難しい専門用語があり、分かり難い科目」とか、「数値を扱うので嫌いな科目」とか、マイナスなイメージがあります。残念ながら、経済学の専門学部の学生諸君にも不人気な科目の一つです。多くの学生諸君にとって経済学は「経済が苦」となってしまいうのです。でも、最近のニュースを見ると、経済に関係している事柄が多いのも事実です。景気の継続的な悪化、大企業の倒産、リストラの激化、不良債権の拡大、財政の赤字、失業率の史上最高など経済問題に事欠きません。市民として、あるいは大学生としてこのような経済的諸問題を避けて生活する事は出来ないと思われず。その第一歩がこの経済学入門です。経済学の基礎の基礎を学習します。初学者の経済学ですから授業展開で留意した点は、身近な経済問題を取り上げると共に内容を絞り込み、分かりやすい授業を行う事に入れました。主な内容は、パンダ・タイムマシンに乗る（経済学とは何か）、パンダの身体の仕組み（国民経済の仕組みと循環）、パンダ・お元気ですか（景気の話とGDP）、パンダ海外旅行に行こう（外国為替とその相場、円高・円安）、パンダの体調と血圧（銀行の仕事、中央銀行の役割、株式）、パンダの頭痛の種（財政の役割、赤字財政の問題）、パンダの日記（3大経済学者の考え方）等です。教科書は特に有りません。</p>
授業方法：	<p>基本的には、講義形式です。毎回、パソコンを利用した作業があります。これが平常点にもなります。奮って参加してください。</p>
履修の留意点：	<p>この講義では、ホームランを打つ事が出来ません。毎日の積み重ねが大切です。ヒットをこつこつ打ってください。毎日、経済学のことを少しでも考えてもらいたい。そのため授業に出席するのはもとより、毎回、パソコンを利用する作業が課されます。それらを積極的に取り組んでください。もちろん、パソコンが毎時間、必携です。教科書はありませんが、参考書をあげておきます。 『ゼロからわかる経済の基本』 野口旭 講談社現代新書 2002年 『やさしい経済学』 日本経済新聞社編 日経ビジネス人文庫 2002 『経済のニュースが面白いほどわかる本・日本経済編、世界経済編』 細野真宏 中経出版 2000、2003年 『優しい経済学』 高橋伸彰 ちくま新書 2003年 『はじめての経済学 上下』 伊藤元重 日経文庫 2004年</p>
目標と評価：	<p>経済学の基本的な用語を学ぶ事が出来る。 経済新聞を理解する事が出来る。 評価：学期末テスト（50%）、作業・平常点（50%）</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済学入門（再履修）」（担当者：渡辺 広明）の履修の手引き

科目名：	経済学入門（再履修）
担当者：	渡辺 広明（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	受講生の皆さんの多くは経済学を勉強したことがありますネ。「経済学」と言うコトバを聞いて、どんな感想・イメージをお持ちになりますか。多くは「難しい専門用語があり、分かり難い科目」とか、「数値を扱うので嫌いな科目」とか、マイナスなイメージがあります。残念ながら、経済学の専門学部の学生諸君にも不人気な学科の一つです。多くの学生諸君にとって経済学は「経済が苦」となってしまいうのです。でも、最近のニュースを見ると、経済に関係している事柄が多いのも事実です。景気の継続的な悪化、大企業の倒産、リストラの激化、不良債権の拡大、財政の赤字、失業率の史上最高など経済問題に事欠きません。市民として、あるいは大学生としてこのような経済的諸問題を避けて生活する事は出来ないと思われず。その第一歩がこの経済学入門です。経済学の基礎の基礎を学習します。初学者の経済学ですから授業展開で留意した点は、身近な経済問題を取り上げると共に内容を絞り込み、分かりやすい授業を行う事に入れました。主な内容は、パンダ・タイムマシンに乗る（経済学とは何か）、パンダの身体の仕組み（国民経済の仕組みと循環）、パンダ・お元気ですか（景気の話とGDP）、パンダ海外旅行に行こう（外国為替とその相場、円高・円安）、パンダの体調と血圧（銀行の仕事、中央銀行の役割、株式）、パンダの頭痛の種（財政の役割、赤字財政の問題）、パンダの日記（3大経済学者の考え方）等です。教科書は特に有りません。
授業方法：	基本的には、講義形式です。毎回、パソコンを利用した作業があります。これが平常点にもなります。奮って参加してください。
履修の留意点：	この講義では、ホームランを打つ事が出来ません。毎日の積み重ねが大切です。ヒットをこつこつ打ってください。毎日、経済学のことを少しでも考えてもらいたい。そのため授業に出席するのはもとより、毎回、パソコンを利用する作業が課されます。それらを積極的に取り組んでください。もちろん、パソコンが毎時間、必携です。教科書はありませんが、参考書をあげておきます。 『ゼロからわかる経済の基本』 野口旭 講談社現代新書 2002年 『やさしい経済学』 日本経済新聞社編 日経ビジネス人文庫 2002 『経済のニュースが面白いほどわかる本・日本経済編、世界経済編』 細野真宏 中経出版 2000、2003年 『優しい経済学』 高橋伸彰 ちくま新書 2003年 『はじめての経済学 上下』 伊藤元重 日経文庫 2004年
目標と評価：	経済学の基本的な用語を学ぶ事が出来る。 経済新聞を理解する事が出来る。 評価：学期末テスト（50%）、作業・平常点（50%）
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学入門」（担当者：木村 剛）の履修の手引き

科目名：	経営学入門
担当者：	木村 剛
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>企業を取り巻く環境は「情報化」や「規制緩和」そして「国際化」などといった流れのなかで、これまでになく複雑なものになっています。こうした流れのなかで、企業の経営が今後どのように変化していくのか、またそれが私達の生活にどのような影響を及ぼすのか。これらの点について経営を体系的に理解するのが本講義の目的です。</p> <p>経営学入門では、経営学の基礎的な理解を踏まえ、より実践的な解説を行います。具体的には、会社の機能や責任、他社との競争などといったことから、人事管理、生産管理、財務管理、情報管理などといった組織内の諸活動について解説することを通じて、実際のビジネスがどのように動いているのかを理解します。また本講義では、実際に使われることの多い、ビジネス用語についても紹介します。</p>
授業方法：	テキストを中心に、講義形式で進めていきますが、なるべく具体的な企業のケースを取り入れ、場合によってはビデオ等を見てもらうことがあります。
履修の留意点：	経営に対して体系的に理解するために、欠席はしないようにして下さい。 私語の多い学生には、退室してもらいますので注意して下さい。
目標と評価：	<p>最低限知っておいて欲しい基礎的な事柄について、体系的に「経営」というものを理解してもらうことが本講義の目的です。</p> <p>評価は、期末試験と講義中で行う小テスト（もしくはレポート）等によって総合的に評価します。</p>
教科書：	経営をしっかりと理解する 岩崎尚人／神田良 日本能率協会マネジメントセンター 2005
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学入門」（担当者：木村 剛）の履修の手引き

科目名：	経営学入門
担当者：	木村 剛
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>企業を取り巻く環境は「情報化」や「規制緩和」そして「国際化」などといった流れのなかで、これまでになく複雑なものになっています。こうした流れのなかで、企業の経営が今後どのように変化していくのか、またそれが私達の生活にどのような影響を及ぼすのか。これらの点について経営を体系的に理解するのが本講義の目的です。</p> <p>経営学入門では、経営学の基礎的な理解を踏まえ、より実践的な解説を行います。具体的には、会社の機能や責任、他社との競争などといったことから、人事管理、生産管理、財務管理、情報管理などといった組織内の諸活動について解説することを通じて、実際のビジネスがどのように動いているのかを理解します。また本講義では、実際に使われることの多い、ビジネス用語についても紹介します。</p>
授業方法：	テキストを中心に、講義形式で進めていきますが、なるべく具体的な企業のケースを取り入れ、場合によってはビデオ等を見てもらうことがあります。
履修の留意点：	経営に対して体系的に理解するために、欠席はしないようにして下さい。 私語の多い学生には、退室してもらいますので注意して下さい。
目標と評価：	<p>最低限知っておいて欲しい基礎的な事柄について、体系的に「経営」というものを理解してもらうことが本講義の目的です。</p> <p>評価は、期末試験と講義中で行う小テスト（もしくはレポート）等によって総合的に評価します。</p>
教科書：	経営をしっかりと理解する 岩崎尚人 神田良編著 日本能率協会マネジメントセンター 2005
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「人間関係論」（担当者：石川 直弘）の履修の手引き

科目名：	人間関係論
担当者：	石川 直弘（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この講義では、日常生活で見られる人間の社会的行動から、いくつかのテーマを取り上げて、自己と他者の関係およびその背景にある心理の特質を、科学的に分析し考察していく。 さまざまな形の人間関係のなかから、具体例をあげて学んでいく。 集団力学（Group dynamics）に関しては、実験例をもとにして特に詳しく学ぶ。
授業方法：	通常の講義形式で授業を行う。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	定期試験によって成績を評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営管理論Ⅰ」（担当者：白坂 亨）の履修の手引き

科目名：	経営管理論Ⅰ
担当者：	白坂 亨
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	企業経営に関わるさまざまな問題を管理という立場から観察し、その理解を深めます。
授業方法：	まず、その日の講義内容を板書し、出席カードを配布してから講義を始めます。 講義終了後、出席カードの裏側の余白を利用して小テストをしたうえで出席カードを回収します。
履修の留意点：	講義はできるだけわかりやすくしますが、期末のレポート作成のため、自宅での準備も必要です。
目標と評価：	評価は期末のレポートを中心に総合的に判定いたします。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営管理論Ⅰ」（担当者：白坂 亨）の履修の手引き

科目名：	経営管理論Ⅰ
担当者：	白坂 亨
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	企業経営に関わるさまざまな問題を管理という立場から観察し、その理解を深めます。
授業方法：	まず、その日の講義内容を板書し、出席カードを配布してから講義を始めます。 講義終了後、出席カードの裏側の余白を利用して小テストをしたうえで出席カードを回収します。
履修の留意点：	講義はできるだけわかりやすくしますが、期末のレポート作成のため、自宅での準備も必要です。
目標と評価：	評価は期末のレポートを中心に総合的に判定いたします。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営管理論 I（再履修用）」（担当者：白坂 亨）の履修の手引き

科目名：	経営管理論 I（再履修用）
担当者：	白坂 亨
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	企業経営に関わるさまざまな問題を管理という立場から観察し、その理解を深めます。
授業方法：	まず、その日の講義内容を板書し、出席カードを配布してから講義を始めます。 講義終了後、出席カードの裏側の余白を利用して小テストをしたうえで出席カードを回収します。
履修の留意点：	講義はできるだけわかりやすくしますが、期末のレポート作成のため、自宅での準備も必要です。
目標と評価：	評価は期末のレポートを中心に総合的に判定いたします。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計リテラシ I (日商3級)」 (担当者: 井上 行忠) の履修の手引き

科目名:	会計リテラシ I (日商3級)
担当者:	井上 行忠 (自己紹介ページ)
設置学期:	春
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素(費用・収益・資産・負債・資本)の認識、及び会計処理(仕訳)を学び、問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。日商簿記検定3級・全経簿記検定3級の合格を目指す。
授業方法:	授業方法: テキストを中心に授業を行う。授業体系は、簿記一巡の流れを把握し、前半は個別取引を中心に学習を行い、後半は総合問題対策(試算表作成、精算表作成、補助簿:仕入帳、売上帳、現金出納帳、小口現金出納帳、当座預金出納帳、手形記入帳、商品有高帳等)を中心に授業を行う。7月の全経簿記検定3級に目標を定め学習を行う。6月の日商簿記検定3級を目指す学生は、週一回実施される「会計リテラシ」の補講を聴講すること。
履修の留意点:	履修の留意点: 学習に当たり、電卓が必要となります。最初の授業で指示をしますので、事前に購入しないで下さい。
目標と評価:	目標と評価: この授業は、日商簿記検定3級または全経簿記検定2級の資格試験に合格する事を目標としています。
教科書:	教科書①: 例解演習 基本簿記 教科書②: 日商簿記検定試験3級出題傾向と対策 ① 山本孝夫・前川邦生共著 ② 税務経理協会 ① 創成社 ② 税務経理協会
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計リテラシⅠ(全経3級)」(担当者: 飯野 幸江)の履修の手引き

科目名:	会計リテラシⅠ(全経3級)
担当者:	飯野 幸江
設置学期:	春
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	本講義では会計の基礎となる簿記を学習します。簿記は企業の経済活動を記録・計算・整理する技法です。その目的は、財務諸表(貸借対照表、損益計算書)を作成することによって、企業の財政状態および経営成績を明らかにすることです。本講義では、企業の経済活動の記録から財務諸表作成までのプロセスを学ぶことによって、簿記の基本的なしくみを理解することを目的とします。
授業方法:	本講義では記帳練習問題を通じて、簿記の基本的なしくみを理解してもらいます。したがって授業は、教科書で基本的な論点を説明した後、記帳練習問題を解いてもらうという方法で行います。簿記の学習は、講義の内容を頭で理解するよりも、数多くの記帳練習問題を解いて身体で覚えることが重要です。そこで、授業中に小テストを行ったり、記帳練習問題を課題として提出してもらうこともありますので、そのつもりでいて下さい。
履修の留意点:	本科目は「会計リテラシⅡ(全経3級)」とセットになっている科目です。したがって、本科目を履修する学生は、必ず「会計リテラシⅡ(全経3級)」も履修して下さい。授業は「会計リテラシⅠ(全経3級)」と「会計リテラシⅡ(全経3級)」の両科目を履修していることを前提に行います。本講義は、記帳練習を通じて簿記のしくみを学習しますので、授業には教科書の他に、電卓、赤ペンおよび定規を持参して下さい。簿記は積み重ねの学問です。1回でも欠席をすると授業がわからなくなることがあります。予習をする必要はありませんが、必ず復習をして下さい。
目標と評価:	本講義は、7月に実施される全経簿記検定3級の合格を目標とします。成績は、原則として定期試験の結果(7割)と出席点(3割)で評価します。ただし、全経簿記検定3級に合格した学生については、無条件に定期試験の成績を満点とします。
教科書:	例解演習 基本簿記 山本孝夫・前川邦生 創成社 2004年
参考書:	新検定簿記ワークブック 3級 商業簿記 加古宜士・渡部裕巨 中央経済社 2005年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計リテラシ I (全経3級)」 (担当者: 前川 道生) の履修の手引き

科目名:	会計リテラシ I (全経3級)
担当者:	前川 道生
設置学期:	春
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素(費用・収益・資産・負債・資本)、の認識、及び会計処理(仕訳)を学び、問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。全経簿記検定3級の合格を目指す。
授業方法:	テキストを中心に授業を行う。授業体系は、簿記一巡の流れを把握し、前半は個別取引を中心に学習を行い、後半は総合問題対策(試算表作成、精算表作成、補助簿:仕入帳、売上帳、現金出納帳、小口現金出納帳、当座預金出納帳、手形記入帳、商品有高帳等)を中心に授業を行う。7月の全経簿記検定3級に目標を定め学習を行う。
履修の留意点:	学習に当たり、電卓が必要となります。最初の授業で指示をしますので、事前に購入しないで下さい。
目標と評価:	全経簿記検定3級の資格試験に合格する事を目標としています。また、成績評価(評価点70点)は、試験および授業態度(小テスト、宿題など)により評価します。出席点(30点)は通常通り評価します。
教科書:	例解演習 基本簿記 山本孝夫・前川邦生共著 創成社
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計リテラシ I (日商3級)」 (担当者: 飯野 幸江) の履修の手引き

科目名:	会計リテラシ I (日商3級)
担当者:	飯野 幸江
設置学期:	春
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	本講義では会計の基礎となる簿記を学習します。簿記は企業の経済活動を記録・計算・整理するための技法です。その目的は、財務諸表（貸借対照表、損益計算書）を作成することによって、企業の財政状態および経営成績を明らかにすることです。本講義では、企業の経済活動の記録から財務諸表作成までのプロセスを学ぶことによって、簿記の基本的なしくみを理解することを目的とします。
授業方法:	簿記の効果的な学習方法は、数多くの記帳練習問題を解くことです。しかし残念ながら本講義は、6月初旬に実施される日商簿記検定3級の合格を目標としますので、授業時間中に記帳練習問題を解く時間はありません。そこで授業では教科書を用いて簿記の基本的な論点を説明するとともに、記帳練習問題は各自、自宅等で解いてもらうことにします。 なお、6月の日商簿記検定まであまり時間がないので、かなり早いペースで授業を進めます。授業での配布物および授業内容の詳細（教科書の該当するページ、解いておくべき記帳練習問題など）は、学ナビに最新情報を掲載していきますので、マメに学ナビをチェックして下さい。
履修の留意点:	本科目は「会計リテラシ II (日商3級)」とセットになっている科目です。したがって、本科目を履修する学生は、必ず「会計リテラシ II (日商3級)」も履修して下さい。授業は「会計リテラシ I (日商3級)」と「会計リテラシ II (日商3級)」の両科目を履修していることを前提に行います。本講義は、記帳練習を通じて簿記のしくみを学習しますので、授業には教科書の他に、電卓、赤ペンおよび定規を持参して下さい。 簿記は積み重ねの学問です。1回でも欠席をすると授業がわからなくなることがあります。予習をする必要はありませんが、必ず復習をして下さい。
目標と評価:	本講義は、6月に実施される日商簿記検定3級の合格を目標とします。 成績は、原則として定期試験の結果（7割）と出席点（3割）で評価します。ただし、日商簿記検定3級に合格した学生については、無条件に定期試験の成績を満点とします。
教科書:	①例解演習 基本簿記 ②新検定簿記ワークブック 3級 商業簿記 ①山本孝夫・前川邦生 ②加古宜士・渡部裕亘 ①創成社 ②中央経済社 ①2004年 ②2005年
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計リテラシ I (全経3級)」 (担当者: 前川 道生) の履修の手引き

科目名:	会計リテラシ I (全経3級)
担当者:	前川 道生
設置学期:	秋
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素(費用・収益・資産・負債・資本)、の認識、及び会計処理(仕訳)を学び、問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。全経簿記検定3級の合格を目指す。
授業方法:	テキストを中心に授業を行う。授業体系は、簿記一巡の流れを把握し、前半は個別取引を中心に学習を行い、後半は総合問題対策(試算表作成、精算表作成、補助簿:仕入帳、売上帳、現金出納帳、小口現金出納帳、当座預金出納帳、手形記入帳、商品有高帳等)を中心に授業を行う。7月の全経簿記検定3級に目標を定め学習を行う。
履修の留意点:	学習に当たり、電卓が必要となります。最初の授業で指示をしますので、事前に購入しないで下さい。
目標と評価:	全経簿記検定3級の資格試験に合格する事を目標としています。また、成績評価(評価点70点)は、試験および授業態度(小テスト、宿題など)により評価します。出席点(30点)は通常通り評価します。
教科書:	例解演習 基本簿記 山本孝夫・前川邦生共著 創成社
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計リテラシ I (日商3級)」 (担当者: 飯野 幸江) の履修の手引き

科目名:	会計リテラシ I (日商3級)
担当者:	飯野 幸江
設置学期:	秋
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	本講義では会計の基礎となる簿記を学習します。簿記は企業の経済活動を記録・計算・整理するための技法です。その目的は、財務諸表(貸借対照表、損益計算書)を作成することにより、企業の財政状態と経営成績を明らかにすることです。本講義では、企業の経済活動の記録から財務諸表作成までのプロセスを学ぶことによって、簿記の基本的なしくみを理解することを目的とします。
授業方法:	本講義では記帳練習問題を通じて、簿記の基本的なしくみを理解してもらいます。したがって、授業は教科書で基本的な論点を説明した後、記帳練習問題を解いてもらうという方法で行います。簿記の学習は、講義の内容を頭で理解するよりも、数多くの記帳練習問題を解いて身体で覚えることが重要です。そのため授業中に小テストを行ったり、記帳練習問題を課題として提出してもらうこともあります。
履修の留意点:	本講義は、記帳練習問題を通じて簿記のしくみを学習しますので、授業には教科書の他に、電卓、赤ペンおよび定規を持参して下さい。簿記は積み重ねの学問です。1回でも欠席をすると授業がわからなくなることがあります。予習をする必要はありませんが、必ず復習をして下さい。また、本科目は「会計リテラシ I (日商3級)」とセットになっている科目です。本科目を履修する学生は、必ず「会計リテラシ II (日商3級)」も履修して下さい。授業は「会計リテラシ I (日商3級)」と「会計リテラシ II (日商3級)」の両科目を履修していることを前提に行います。
目標と評価:	本講義は、2006年2月に実施される日商簿記検定3級の合格を目標とします。成績は、原則として定期試験の結果で評価します。ただし、2005年11月の日商簿記検定で3級に合格した学生については、無条件に定期試験の成績を満点とします。
教科書:	①例解演習 基本簿記 ②新検定簿記ワークブック 3級 商業簿記 ①山本孝夫・前川邦生 ②加古宜士・渡部裕亘 ①創成社 ②中央経済社 ①2004年 ②2005年
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計リテラシⅡ(日商3級)」(担当者:井上 行忠)の履修の手引き

科目名:	会計リテラシⅡ(日商3級)
担当者:	井上 行忠(自己紹介ページ)
設置学期:	春
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	概要: 複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素(費用・収益・資産・負債・資本)の認識、及び会計処理(仕訳)を学び、問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。 日商簿記検定3級・全経簿記検定3級の合格を目指す。
授業方法:	授業方法: テキストを中心に授業を行う。授業体系は、簿記一巡の流れを把握し、前半は個別取引を中心に学習を行い、後半は総合問題対策(試算表作成、精算表作成、補助簿:仕入帳、売上帳、現金出納帳、小口現金出納帳、当座預金出納帳、手形記入帳、商品有高帳等)を中心に授業を行う。7月の全経簿記検定3級に目標を定め学習を行う。6月の日商簿記検定3級を目指す学生は、週一回実施される「会計リテラシ」の補講を聴講すること。
履修の留意点:	履修上の留意点: 履修の留意点: 学習に当たり、電卓が必要となります。最初の授業で指示をしますので、事前に購入しないで下さい。
目標と評価:	目標と評価※: 目標と評価: この授業は、日商簿記検定3級または全経簿記検定2級の資格試験に合格する事を目標としています。
教科書:	教科書 教科書①: 例解演習 基本簿記 教科書②: 日商簿記検定試験3級出題傾向と対策 ① 山本孝夫・前川邦生共著 ② 税務経理協会 ① 創成社 ② 税務経理協会
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計リテラシⅡ（全経3級）」（担当者：飯野 幸江）の履修の手引き

科目名：	会計リテラシⅡ（全経3級）
担当者：	飯野 幸江
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講義では会計の基礎となる簿記を学習します。簿記は企業の経済活動を記録・計算・整理する技法です。その目的は、財務諸表（貸借対照表、損益計算書）を作成することによって、企業の財政状態および経営成績を明らかにすることです。本講義では、企業の経済活動の記録から財務諸表作成までのプロセスを学ぶことによって、簿記の基本的なしくみを理解することを目的とします。
授業方法：	本講義では記帳練習問題を通じて、簿記の基本的なしくみを理解してもらいます。したがって授業は、教科書で基本的な論点を説明した後、記帳練習問題を解いてもらうという方法で行います。簿記の学習は、講義の内容を頭で理解するよりも、数多くの記帳練習問題を解いて身体で覚えることが重要です。そこで、授業中に小テストを行ったり、記帳練習問題を課題として提出してもらうこともありますので、そのつもりでいて下さい。
履修の留意点：	本科目は「会計リテラシⅠ（全経3級）」とセットになっている科目です。したがって、本科目を履修する学生は、必ず「会計リテラシⅠ（全経3級）」も履修して下さい。授業は、「会計リテラシⅠ（全経3級）」と「会計リテラシⅡ（全経3級）」の両科目を履修していることを前提に行います。本講義は、記帳練習問題を通じて簿記のしくみを学習しますので、授業には教科書の他に、電卓、赤ペンおよび定規を持参して下さい。簿記は積み重ねの学問です。1回でも欠席すると授業がわからなくなることがあります。予習をする必要はありませんが、必ず復習をして下さい。
目標と評価：	本講義は、7月に実施される全経簿記検定3級の合格を目標とします。成績は、原則として定期試験の結果（7割）と出席点（3割）で評価します。ただし、全経簿記検定3級に合格した学生については、無条件に定期試験の成績を満点とします。
教科書：	例解演習 基本簿記 山本孝夫・前川邦生 創成社 2004年
参考書：	新検定簿記ワークブック 3級 商業簿記 加古宣士・渡部裕亘 中央経済社 2005年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計リテラシⅡ(全経3級)」(担当者:前川 道生)の履修の手引き

科目名:	会計リテラシⅡ(全経3級)
担当者:	前川 道生
設置学期:	春
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素(費用・収益・資産・負債・資本)、の認識、及び会計処理(仕訳)を学び、問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。全経簿記検定3級の合格を目指す。
授業方法:	テキストを中心に授業を行う。授業体系は、簿記一巡の流れを把握し、前半は個別取引を中心に学習を行い、後半は総合問題対策(試算表作成、精算表作成、補助簿:仕入帳、売上帳、現金出納帳、小口現金出納帳、当座預金出納帳、手形記入帳、商品有高帳等)を中心に授業を行う。7月の全経簿記検定3級に目標を定め学習を行う。
履修の留意点:	学習に当たり、電卓が必要となります。最初の授業で指示をしますので、事前に購入しないで下さい。
目標と評価:	全経簿記検定3級の資格試験に合格する事を目標としています。また、成績評価(評価点70点)は、試験および授業態度(小テスト、宿題など)により評価します。出席点(30点)は通常通り評価します。
教科書:	例解演習 基本簿記 山本孝夫・前川邦生共著 創成社
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計リテラシⅡ(日商3級)」(担当者: 飯野 幸江)の履修の手引き

科目名:	会計リテラシⅡ(日商3級)
担当者:	飯野 幸江
設置学期:	春
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	本講義では会計の基礎となる簿記を学習します。簿記は企業の経済活動を記録・計算・整理するための技法です。その目的は、財務諸表(貸借対照表、損益計算書)を作成することによって、企業の財政状態および経営成績を明らかにすることです。本講義では、企業の経済活動の記録から財務諸表作成までのプロセスを学ぶことによって、簿記基本的なしくみを理解することを目的とします。
授業方法:	簿記の効果的な学習方法は、数多くの記帳練習問題を解くことです。しかし残念ながら、本講義は6月初旬に実施される日商簿記検定3級の合格を目標としますので、授業時間中に記帳練習問題を解く時間はありません。そこで授業では教科書を用いて簿記の基本的な論点を説明するにとどめ、記帳練習問題は各自、自宅等で解いてもらうことにします。なお、6月の日商簿記検定まであまり時間がないので、かなり早いペースで授業を進めます。授業での配布物および授業内容の詳細(教科書の該当するページ、解いておくべき記帳練習問題など)は、学ナビに最新情報を掲載していきますので、マメに学ナビをチェックして下さい。
履修の留意点:	本科目は「会計リテラシⅠ(日商3級)」とセットになっている科目です。したがって、本科目を履修する学生は、必ず「会計リテラシⅠ(日商3級)」も履修して下さい。授業は「会計リテラシⅠ(日商3級)」と「会計リテラシⅡ(日商3級)」の両科目を履修していることを前提に行います。本講義は記帳練習問題を通じて簿記のしくみを学習しますので、授業には教科書の他に、電卓、赤ペンおよび定規を持参して下さい。簿記は積み重ねの学問です。1回でも欠席をすると授業がわからなくなることがあります。予習をする必要はありませんが、必ず復習をして下さい。
目標と評価:	本講義は、6月に実施される日商簿記検定3級の合格を目標とします。成績は、原則として定期試験の結果(7割)と出席点(3割)で評価します。ただし、日商簿記検定3級に合格した学生については、無条件に定期試験の成績を満点とします。
教科書:	①例解演習 基本簿記 ②新検定簿記ワークブック 3級 商業簿記 ①山本孝夫・前川邦生 ②加古宜士・渡部裕巨 ①創成社 ②中央経済社 ①2004年 ②2005年
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計リテラシⅡ(全経3級)」(担当者:前川 道生)の履修の手引き

科目名:	会計リテラシⅡ(全経3級)
担当者:	前川 道生
設置学期:	秋
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素(費用・収益・資産・負債・資本)、の認識、及び会計処理(仕訳)を学び、問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。全経簿記検定3級の合格を目指す。
授業方法:	テキストを中心に授業を行う。授業体系は、簿記一巡の流れを把握し、前半は個別取引を中心に学習を行い、後半は総合問題対策(試算表作成、精算表作成、補助簿:仕入帳、売上帳、現金出納帳、小口現金出納帳、当座預金出納帳、手形記入帳、商品有高帳等)を中心に授業を行う。7月の全経簿記検定3級に目標を定め学習を行う。
履修の留意点:	学習に当たり、電卓が必要となります。最初の授業で指示をしますので、事前に購入しないで下さい。
目標と評価:	全経簿記検定3級の資格試験に合格する事を目標としています。また、成績評価(評価点70点)は、試験および授業態度(小テスト、宿題など)により評価します。出席点(30点)は通常通り評価します。
教科書:	例解演習 基本簿記 山本孝夫・前川邦生共著 創成社
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計リテラシⅡ(日商3級)」(担当者: 飯野 幸江)の履修の手引き

科目名:	会計リテラシⅡ(日商3級)
担当者:	飯野 幸江
設置学期:	秋
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	本講義では会計の基礎となる簿記を学習します。簿記は企業の経済活動を記録・計算・整理するための技法です。その目的は、財務諸表(貸借対照表、損益計算書)を作成することにより、企業の財政状態と経営成績を明らかにすることです。本講義では、企業の経済活動の記録から財務諸表作成までのプロセスを学ぶことによって、簿記の基本的なしくみを理解することを目的とします。
授業方法:	本講義では記帳練習問題を通じて、簿記の基本的なしくみを理解してもらいます。したがって、授業は教科書で基本的な論点を説明した後、記帳練習問題を解いてもらうという方法で行います。簿記の学習は、講義の内容を頭で理解するよりも、数多くの記帳練習問題を解いて身体で覚えることが重要です。そのため授業中に小テストを行ったり、記帳練習問題を課題として提出してもらうこともあります。
履修の留意点:	本講義は、記帳練習問題を通じて簿記のしくみを学習しますので、授業には教科書の他に、電卓、赤ペンおよび定規を持参して下さい。簿記は積み重ねの学問です。1回でも欠席をすると授業がわからなくなることがあります。予習をする必要はありませんが、必ず復習をして下さい。また、本科目は「会計リテラシⅠ(日商3級)」とセットになっている科目です。本科目を履修する学生は、必ず「会計リテラシⅠ(日商3級)」も履修して下さい。授業は「会計リテラシⅠ(日商3級)」と「会計リテラシⅡ(日商3級)」の両科目を履修していることを前提に行います。
目標と評価:	本講義は、2006年2月に実施される日商簿記検定3級の合格を目標とします。成績は、原則として定期試験の結果で評価します。ただし、2005年11月の日商簿記検定で3級に合格した学生については、無条件に定期試験の成績を満点とします。
教科書:	①例解演習 基本簿記 ②新検定簿記ワークブック 3級 商業簿記 ①山本孝夫・前川邦生 ②加古宜士・渡部裕亘 ①創成社 ②中央経済社 ①2004年 ②2005年
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学概論」（担当者：木村 剛）の履修の手引き

科目名：	経営学概論
担当者：	木村 剛
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	経営学というと、私たちの生活には直接関係が無いようなイメージがありますが、実は密接に関係しています。いずれ就職したり、多かれ少なかれビジネスというものに関わっていくことを考えると、会社組織の仕組みやビジネスの仕組みはどのようになっているのかを知っておくことは非常に重要です。この経営学概論では経営の基本的な仕組みについて理解するとともに、組織のあり方についても学習します。現代の企業は厳しい競争のなかで生き残りをかけて、組織を変革し、環境変化に対応しています。そのために企業はどのような努力を行っているのかを、経営の基礎理論を踏まえながら概観していきます。
授業方法：	テキストをベースにしながら、様々な企業の事例を概観することによって、より実践的な知識の習得を目指します。なるべく具体的な企業のケースを取り入れ、場合によってはビデオ等を見てもらうことによって理解を深めてもらいます。
履修の留意点：	経営に対して体系的に理解するために、欠席はしないようにして下さい。 私語の多い学生には、退室してもらいますので注意して下さい。
目標と評価：	会社の仕組みやビジネスの流れといった基本的なことについての理解を深めつつ、より実践的な「経営」の知識を高めてもらうことが本講義の目的です。社会に出たとき、自分の会社がどのような仕組みで動いているのかを学ぶことを通して、企業を客観的に見ていくための目を養いましょう。 評価は、期末試験と講義の中で行う小テスト（もしくはレポート）等によって総合的に評価します。
教科書：	経営をしっかりと理解する 岩崎尚人／神田良 日本能率協会マネジメントセンター 2005
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学概論」（担当者：木村 剛）の履修の手引き

科目名：	経営学概論
担当者：	木村 剛
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	経営学というと、私たちの生活には直接関係が無いようなイメージがありますが、実は密接に関係しています。いずれ就職したり、多かれ少なかれビジネスというものに関わっていくことを考えると、会社組織の仕組みやビジネスの仕組みはどのようになっているのかを知っておくことは非常に重要です。この経営学概論では経営の基本的な仕組みについて理解するとともに、組織のあり方についても学習します。現代の企業は厳しい競争のなかで生き残りをかけて、組織を変革し、環境変化に対応しています。そのために企業はどのような努力を行っているのかを、経営の基礎理論を踏まえながら概観していきます。
授業方法：	テキストをベースにしながら、様々な企業の事例を概観することによって、より実践的な知識の習得を目指します。なるべく具体的な企業のケースを取り入れ、場合によってはビデオ等を見てもらうことによって理解を深めてもらいます。
履修の留意点：	経営に対して体系的に理解するために、欠席はしないようにして下さい。 私語の多い学生には、退室してもらいますので注意して下さい。
目標と評価：	会社の仕組みやビジネスの流れといった基本的なことについての理解を深めつつ、より実践的な「経営」の知識を高めてもらうことが本講義の目的です。社会に出たとき、自分の会社がどのような仕組みで動いているのかを学ぶことを通して、企業を客観的に見ていくための目を養いましょう。 評価は、期末試験と講義の中で行う小テスト（もしくはレポート）等によって総合的に評価します。
教科書：	経営をしっかり理解する 岩崎尚人／神田良 日本能率協会マネジメントセンター 2005
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営と会計」（担当者：井上 行忠）の履修の手引き

科目名：	経営と会計
担当者：	井上 行忠（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	会計理論は簿記によって具体化し、簿記は会計理論の助けを得て機能する。会計は、企業の経営活動を貨幣単位で計算し、報告することに妥当性を与えるための基準を提供する会計（理論）と、その基準に従って経営活動を正確に記録し、報告するための技術である会計（簿記）に分けることができる。したがって、会計は簿記と理論を共に理解することにより、会計の全体を理解したことになる。ここに本講義は、①会計の範囲・資格について、②複式簿記のルール、③簿記一巡の流れ、④会社の設立、⑤税金・個人の所得、⑥給料（厚生年金・健康保険料・住民税・所得税等）、⑦手形・小切手について、⑧損益分岐点とは、⑨企業の業種について、基本的事項を学習する。
授業方法：	理論の解説を中心に行い、実務と理論を結びつける。
履修の留意点：	履修の留意点： 出席を重視する。 教科書は、授業中にプリントを配布する。
目標と評価：	目標と評価： 経営と会計の基本を学習し、将来職業会計人としての知識を学ぶ。
教科書：	「なし」 「なし」 「なし」
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営と会計」（担当者：飯野 幸江）の履修の手引き

科目名：	経営と会計
担当者：	飯野 幸江
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>会計は、企業の経済活動を貨幣額で記録・計算・報告するシステムです。企業は、自らの経済活動の成果を「会計」という技法で作成された財務諸表（損益計算書や貸借対照表）を通じて明らかにし報告します。したがって、会計は企業を経営していく上で不可欠なものといえます。本講義では会計の基礎知識を学ぶことにより、企業の経営活動において会計が果たしている役割を学びます。講義で取り上げる内容は、以下のものを予定しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業と会計 2. 会計学の体系 3. アカウンタビリティとステークホルダー 4. 会計制度 5. 会計公準と会計原則 6. 簿記システムと財務諸表 7. 職業会計人と監査 <p>最近、会計に関する諸問題がテレビや新聞で大きく取り上げられております。こうした会計の時事的な問題についても適宜、授業で触れていく予定です。</p>
授業方法：	<p>講義形式を中心としますが、会計に関するアンケート（テストではありません）をしたりしながら、できるだけ双方向の授業を展開していく予定です。また、学ナビのレポート機能を用いて、授業の最後の15～20分で、その回の授業のポイントをまとめたものを課題として提出してもらいます（これがその回の授業の「ノート」となります）。</p>
履修の留意点：	<p>毎回、パソコンを使って課題を提出してもらいますので、第1回目の授業からパソコンを持参して下さい。</p>
目標と評価：	<p>会計学の基本的な知識を修得するとともに、会計学の基本的な考え方を身につけることを目標とします。成績は、毎回の授業で提出する課題（5割）と定期試験（5割）で評価します。</p>
教科書：	<p>使用しません。</p>
参考書：	<p>第1回目の授業で紹介します。</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営と政策」（担当者：内田 和夫）の履修の手引き

科目名：	経営と政策
担当者：	内田 和夫（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>この講義は、2年次に進む段階で1年生諸君がコース選択を行う上で、役立つ判断の材料を提供するために設置されたものです。公共経営コースで学ぶ事柄はどんなことなのか、イメージをつかんでもらうこと、そして同コースのカリキュラムについても紹介すること、を目的としています。本格的専門の講義というよりも、身近な話題や親しみのもてる話題をもとに、受講生諸君にあれこれ考えること、発見があることを目指しています。つぎのような章立てを予定していますが、素材やゲストの関係で一部変更される場合があります。</p> <p><1> 「学校給食」の思い出分析 ---「政策」と「経営」とは---</p> <p><2> 「ボランティア」「NPO」の実際 ---市民という生き方と可能性---</p> <p><3> 「市役所」の仕事と「地域づくり」 ---公務員のやりがいと困難（1）---</p> <p><4> 「交通警察官」からみた公共サービス ---公務員のやりがいと困難（2）---</p> <p><5> 「福祉作業所」から考える福祉の実際 ---市民という生き方と可能性（2）---</p> <p><6> 21世紀型の発想転換 ---現場優先の組織と経営---</p> <p><7> 公共経営コースで何が学べるか ---いくつかのキーワードによるまとめ---</p>
授業方法：	<p>① 受講者に意見や感想をどしどし書いてもらい、それに対する応答をする形で進めることを工夫します。</p> <p>② 公務員を初め、広い意味での「公共」の担い手をゲストとして招きます。</p> <p>③ 公共経営コースの味わいを実感できる工夫を試みます。</p>
履修の留意点：	<p>① 特別の準備は必要ありません。</p> <p>② 経営法学科の諸君は春学期か秋学期のどちらかで履修をしてください。</p>
目標と評価：	<p>① 公共経営コースで学ぶことはどんなことなのか、ひとりひとりの中に手がかりができることを目標にしています。</p> <p>② 講義中を書くレポートを中心に評価する予定です。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営と政策」（担当者：内田 和夫）の履修の手引き

科目名：	経営と政策
担当者：	内田 和夫（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>この講義は、2年次に進む段階で1年生諸君がコース選択を行う上で、役立つ判断の材料を提供するために設置されたものです。公共経営コースで学ぶ事柄はどんなことなのか、イメージをつかんでもらうこと、そして同コースのカリキュラムについても紹介すること、を目的としています。本格的専門の講義というよりも、身近な話題や親しみのもてる話題をもとに、受講生諸君にあれこれ考えること、発見があることを目指しています。つぎのような章立てを予定していますが、素材やゲストの関係で一部変更される場合があります。</p> <p><1> 「学校給食」の思い出分析 ---「政策」と「経営」とは---</p> <p><2> 「ボランティア」「NPO」の実際 ---市民という生き方と可能性---</p> <p><3> 「市役所」の仕事と「地域づくり」 ---公務員のやりがいと困難（1）---</p> <p><4> 「交通警察官」からみた公共サービス ---公務員のやりがいと困難（2）---</p> <p><5> 「福祉作業所」から考える福祉の実際 ---市民という生き方と可能性（2）---</p> <p><6> 21世紀型の発想転換 ---現場優先の組織と経営---</p> <p><7> 公共経営コースで何が学べるか ---いくつかのキーワードによるまとめ---</p>
授業方法：	<p>① 受講者に意見や感想をどしどし書いてもらい、それに対する応答をする形で進めることを工夫します。</p> <p>② 公務員を初め、広い意味での「公共」の担い手をゲストとして招きます。</p> <p>③ 公共経営コースの味わいを実感できる工夫を試みます。</p>
履修の留意点：	<p>① 特別の準備は必要ありません。</p> <p>② 経営法学科の諸君は春学期か秋学期のどちらかで履修をしてください。</p>
目標と評価：	<p>① 公共経営コースで学ぶことはどんなことなのか、ひとりひとりの中に手がかりができることを目標にしています。</p> <p>② 講義中を書くレポートを中心に評価する予定です。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営と組織」（担当者：木村 剛）の履修の手引き

科目名：	経営と組織
担当者：	木村 剛
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	経営学というと、私たちの生活には直接関係が無いようなイメージがありますが、実は密接に関係しています。いずれ就職したり、多かれ少なかれビジネスというものに関わっていくことを考えると、会社組織の仕組みやビジネスの仕組みはどのようになっているのかを知っておくことは非常に重要です。この経営学概論では経営の基本的な仕組みについて理解するとともに、組織のあり方についても学習します。現代の企業は厳しい競争のなかで生き残りをかけて、組織を変革し、環境変化に対応しています。そのために企業はどのような努力を行っているのかを、経営の基礎理論を踏まえながら概観していきます。
授業方法：	テキストをベースにしながら、様々な企業の事例を概観することによって、より実践的な知識の習得を目指します。なるべく具体的な企業のケースを取り入れ、場合によってはビデオ等を見てもらうことによって理解を深めてもらいます。
履修の留意点：	経営に対して体系的に理解するために、欠席はしないようにして下さい。 私語の多い学生には、退室してもらいますので注意して下さい。
目標と評価：	会社の仕組みやビジネスの流れといった基本的なことについての理解を深めつつ、より実践的な「経営」の知識を高めてもらうことが本講義の目的です。社会に出たとき、自分の会社がどのような仕組みで動いているのかを学ぶことを通して、企業を客観的に見ていくための目を養いましょう。 評価は、期末試験と講義の中で行う小テスト（もしくはレポート）等によって総合的に評価します。
教科書：	経営をしっかりと理解する 岩崎尚人／神田良 日本能率協会マネジメントセンター 2005
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営と組織」（担当者：木村 剛）の履修の手引き

科目名：	経営と組織
担当者：	木村 剛
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	経営学というと、私たちの生活には直接関係が無いようなイメージがありますが、実は密接に関係しています。いずれ就職したり、多かれ少なかれビジネスというものに関わっていくことを考えると、会社組織の仕組みやビジネスの仕組みはどのようになっているのかを知っておくことは非常に重要です。この経営学概論では経営の基本的な仕組みについて理解するとともに、組織のあり方についても学習します。現代の企業は厳しい競争のなかで生き残りをかけて、組織を変革し、環境変化に対応しています。そのために企業はどのような努力を行っているのかを、経営の基礎理論を踏まえながら概観していきます。
授業方法：	テキストをベースにしながら、様々な企業の事例を概観することによって、より実践的な知識の習得を目指します。なるべく具体的な企業のケースを取り入れ、場合によってはビデオ等を見てもらうことによって理解を深めてもらいます。
履修の留意点：	経営に対して体系的に理解するために、欠席はしないようにして下さい。 私語の多い学生には、退室してもらいますので注意して下さい。
目標と評価：	会社の仕組みやビジネスの流れといった基本的なことについての理解を深めつつ、より実践的な「経営」の知識を高めていってもらうことが本講義の目的です。社会に出たとき、自分の会社がどのような仕組みで動いているのかを学ぶことを通して、企業を客観的に見ていくための目を養いましょう。 評価は、期末試験と講義の中で行う小テスト（もしくはレポート）等によって総合的に評価します。
教科書：	経営をしっかりと理解する 岩崎尚人／神田良 日本能率協会マネジメントセンター 2005
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済学概論」（担当者：久保 真）の履修の手引き

科目名：	経済学概論
担当者：	久保 真（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	我々現代人は日々買い物などの経済活動をしているにも拘わらず、いやそれだからこそというべきでしょうか、経済の仕組みや成り立ちには無関心な人が少なくありません。しかし他方で、いわゆる「自己責任」の時代の到来とともに、経済に関する知識や理解は普通の人々にもますます求められるようになって来ています。このような現実を鑑み、本講義は、経済学の初学者が、経済というものに興味を持つよう促すことを目的とします。このような目的を果たすために、できるだけ身近なトピックも取り上げるようにしますので、受講生諸君は、新聞やテレビなどで報じられる経済関連ニュースに、日頃から接するように心がけてください。 講義において扱う具体的なテーマは、(1)生産と消費 (2)市場 (3)企業 (4)経済成長 (5)通貨 (6)景気循環とポリシーミックス (8)国際経済 を予定しています。
授業方法：	通常の講義によって行いますが、できるだけ双方向性を確保するよう努力するつもりです。特に教科書は使いませんので、授業中は講義内容の理解に全身全霊を注いでください。また、復習を欠かさず行って下さい。
履修の留意点：	本講義は、経営経済学科の学生には「経済と政策」という名称で開講されます。
目標と評価：	目標は以下の三点です。 (1) 経済学の基本的な概念を理解する。 (2) 日常的な経済事象や言葉を、経済学の概念を用いて説明する。 (3) 大学における授業形態や試験形式に馴れる。 評価は、通常授業週での取り組み（30%）と定期試験に行われる筆答試験（持ち込み可、70%）とを総合して下します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済学概論」（担当者：久保 真）の履修の手引き

科目名：	経済学概論
担当者：	久保 真（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	我々現代人は日々買い物などの経済活動をしているにも拘わらず、いやそれだからこそというべきでしょうか、経済の仕組みや成り立ちには無関心な人が少なくありません。しかし他方で、いわゆる「自己責任」の時代の到来とともに、経済に関する知識や理解は普通の人々にもますます求められるようになって来ています。このような現実を鑑み、本講義は、経済学の初学者が、経済というものに興味を持つよう促すことを目的とします。このような目的を果たすために、できるだけ身近なトピックも取り上げるようにしますので、受講生諸君は、新聞やテレビなどで報じられる経済関連ニュースに、日頃から接するように心がけてください。 講義において扱う具体的なテーマは、(1)生産と消費 (2)市場 (3)企業 (4)経済成長 (5)通貨 (6)景気循環とポリシーミックス (8)国際経済 を予定しています。
授業方法：	通常の講義によって行いますが、できるだけ双方向性を確保するよう努力するつもりです。特に教科書は使いませんので、授業中は講義内容の理解に全身全霊を注いでください。また、復習を欠かさず行って下さい。
履修の留意点：	本講義は、経営経済学科の学生には「経済と政策」という名称で開講されます。
目標と評価：	目標は以下の三点です。 (1) 経済学の基本的な概念を理解する。 (2) 日常的な経済事象や言葉を、経済学の概念を用いて説明する。 (3) 大学における授業形態や試験形式に馴れる。 評価は、通常授業週での取り組み（30%）と定期試験に行われる筆答試験（持ち込み可、70%）とを総合して下します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済と政策」（担当者：久保 真）の履修の手引き

科目名：	経済と政策
担当者：	久保 真（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週0コマ
概要：	我々現代人は日々買い物などの経済活動をしているにも拘わらず、いやそれだからこそというべきでしょうか、経済の仕組みや成り立ちには無関心な人が少なくありません。しかし他方で、いわゆる「自己責任」の時代の到来とともに、経済に関する知識や理解は普通の人々にもますます求められるようになって来ています。このような現実を鑑み、本講義は、経済学の初学者が、経済というものに興味を持つよう促すことを目的とします。このような目的を果たすために、できるだけ身近なトピックも取り上げるようにしますので、受講生諸君は、新聞やテレビなどで報じられる経済関連ニュースに、日頃から接するように心がけてください。 講義において扱う具体的なテーマは、(1)生産と消費 (2)市場 (3)企業 (4)経済成長 (5)通貨 (6)景気循環とポリシーミックス (8)国際経済 を予定しています。
授業方法：	通常の講義によって行いますが、できるだけ双方向性を確保するよう努力するつもりです。特に教科書は使いませんので、授業中は講義内容の理解に全身全霊を注いでください。また、復習を欠かさず行って下さい。
履修の留意点：	本講義は、経営法学科の学生には「経済学概論」という名称で開講されます。
目標と評価：	目標は以下の三点です。 (1) 経済学の基本的な概念を理解する。 (2) 日常的な経済事象や言葉を、経済学の概念を用いて説明する。 (3) 大学における授業形態や試験形式に馴れる。 評価は、通常授業週での取り組み（30%）と定期試験に行われる筆答試験（持ち込み可、70%）とを総合して下します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済と政策」（担当者：久保 真）の履修の手引き

科目名：	経済と政策
担当者：	久保 真（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週0コマ
概要：	我々現代人は日々買い物などの経済活動をしているにも拘わらず、いやそれだからこそというべきでしょうか、経済の仕組みや成り立ちには無関心な人が少なくありません。しかし他方で、いわゆる「自己責任」の時代の到来とともに、経済に関する知識や理解は普通の人々にもますます求められるようになって来ています。このような現実を鑑み、本講義は、経済学の初学者が、経済というものに興味を持つよう促すことを目的とします。このような目的を果たすために、できるだけ身近なトピックも取り上げるようにしますので、受講生諸君は、新聞やテレビなどで報じられる経済関連ニュースに、日頃から接するように心がけてください。 講義において扱う具体的なテーマは、(1)生産と消費 (2)市場 (3)企業 (4)経済成長 (5)通貨 (6)景気循環とポリシーミックス (8)国際経済 を予定しています。
授業方法：	通常の講義によって行いますが、できるだけ双方向性を確保するよう努力するつもりです。特に教科書は使いませんので、授業中は講義内容の理解に全身全霊を注いでください。また、復習を欠かさず行って下さい。
履修の留意点：	本講義は、経営法学科の学生には「経済学概論」という名称で開講されます。
目標と評価：	目標は以下の三点です。 (1) 経済学の基本的な概念を理解する。 (2) 日常的な経済事象や言葉を、経済学の概念を用いて説明する。 (3) 大学における授業形態や試験形式に馴れる。 評価は、通常授業週での取り組み（30%）と定期試験に行われる筆答試験（持ち込み可、70%）とを総合して下します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学Ⅰ」（担当者：小沢 勝之）の履修の手引き

科目名：	経営学Ⅰ
担当者：	小沢 勝之
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>経営学は企業や組織の行動やしぐみを明らかにする学問です。私達は生活するために必要な商品やサービスのほとんどを企業や組織から買っていますし、生活資金を得るために企業や組織で働き給料をもらっています。このように企業や組織は私達の生活と大変深い関係があるのですが、どのようなしぐみでどのようにして企業が運営され行動しているのか、まだよく分からないとおもいます。こうした事について、一つ一つ分かりやすく理解してもらおうのがこの授業の目的です。国内外の企業の競争はどのように行われているのか、日本企業の強みと弱み、企業の環境対策や社会的責任など、企業の現代的課題についても解説します。</p>
授業方法：	講義形式主体ですが、分かりやすくするために、理論だけでなく、できるだけ多くの実際の企業が行っている事例も紹介しますし、楽しい授業にするためにクイズ形式の質疑応答の方法も交えて進めようと考えています。
履修の留意点：	<p>特にありませんが、ノートは工夫しながらきちんと作ってください。それから、私語をしない、帽子をとる、携帯電話の電源は切る、など授業を受ける最低限のマナーは守ってください。教科書は使用しません。参考書は授業中に紹介します。</p>
目標と評価：	<p>経営経済学部学生として必要な、基本的な経営学の知識や考え方を身につけて貰うことを目標としています。評価は期末テスト6割、ミニテストや授業態度4割の割合で評価します。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学Ⅰ」（担当者：山川 肇）の履修の手引き

科目名：	経営学Ⅰ
担当者：	山川 肇
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>●早ければ在学中から会社を創って事業を経営しようと志す人は当然経営学を専攻するだろうし、会社に勤めるからには常識として経営学を学ぶことが有益と考える人も多いただろう。しかし、経営学は経営者を養成するためが主目的ではない。会社に関するあらゆる利害関係者の利益を配慮するいわば社会の経営であり、さらに、グローバルな視点から「文化・歴史」に触れ、時代の変化に即応する姿勢から「社会性生活・市場」を見つめ、他人とどう付き合うかという点から「心理学」や「マネジメント実務」を学び、分析のための「数学・統計学・会計学」も復習することになり、効率的な仕組みを研究開発するためには「最新通信情報技術」の知識を持つことも必要、というようにこれらを同時に学びつつ広い視野で取組むべき極めて総合的な科学である。</p> <p>●しかし、単なる広範囲の「教養」ではなく、実社会で役に立つ理論・知識を身に付けたいというニーズが生れて当然である。広範囲の「実学」であり、細分化してきているので短期間では全てを応用まで習得するのは困難かもしれない。「経営学Ⅰ」は、基礎コースを踏まえて経営学全体を把握するために、理論的体系をしっかりと会得できるように学習する。</p> <p>●会社に入ってからや管理職になってからは、経営を体系的に勉強することはほとんど無いといってよい。在学中に経営体系を確実に把握すれば、氾濫する経営理論や方法論に惑わされず、その功罪を的確に判断できるようになり、より有益な知識・方法だけを自分の仕事に活用できる。</p>
授業方法：	<p>◆会社の誕生から成長・発展から衰退までのプロセスを各段階毎に「学習テーマ」を決めて学習し、結果として経営の全体像を描くことで、確実に理解できるようにする。</p> <p>◆授業は基本的に教科書に従って行うが、必要な資料の随時配布やその時期に相応しい臨時的テーマを解説したりするので、欠席をすると目的の全体的把握が困難になる。出席点の規則もあり、全出席を心がけて欲しい。</p> <p>◆2回程度の課題レポートを出題し、最終評価の参考とする。</p>
履修の留意点：	<p>○理解すべき「言葉」や「数式」が多く提示される。理解できないままでは全体を把握できない。授業の前・際中・後に遠慮なく質問をすること。</p> <p>○講師は現役の経営者でもあり、学ナビ上では十分な応対時間が取れない場合があるので、上記のように講義の際に直接質疑応答したい。やむを得ず欠席した場合は、指定のアドレスへのメールを受け付ける。</p> <p>○計算機の持参を前週に指示するので用意すること。</p>
目標と評価：	<p>* 目標は上記概要や授業方法で触れた通りである。 * 最終評価方法は、課題レポートの提出を求める・自らの研究成果をきちんと表現していることを特に評価する。</p> <p>* 授業中の提出レポートの評点も加味する。</p> <p>* 出席点も大学の制度及び評点とは別に、本講義独自に出席の状況を最終評価に加味する場合がある。理由は本講義の目的であるプロセス型コース設定による経営体系の流れを、確実に学習してもらうためであることは言うまでも無い。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学Ⅰ」（担当者：山川 肇）の履修の手引き

科目名：	経営学Ⅰ
担当者：	山川 肇
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>●早ければ在学中から会社を創って事業を経営しようと志す人は当然経営学を専攻するだろうし、会社に勤めるからには常識として経営学を学ぶことが有益と考える人も多いただろう。しかし、経営学は経営者を養成するためが主目的ではない。会社に関するあらゆる利害関係者の利益を配慮するいわば社会の経営であり、さらに、グローバルな視点から「文化・歴史」に触れ、時代の変化に即応する姿勢から「社会性生活・市場」を見つめ、他人とどう付き合うかという点から「心理学」や「マネジメント実務」を学び、分析のための「数学・統計学・会計学」も復習することになり、効率的な仕組みを研究開発するためには「最新通信情報技術」の知識を持つことも必要、というようにこれらを同時に学びつつ広い視野で取組むべき極めて総合的な科学である。</p> <p>●しかし、単なる広範囲の「教養」ではなく、実社会で役に立つ理論・知識を身に付けたいというニーズが生れて当然である。広範囲の「実学」であり、細分化してきているので短期間では全てを応用まで習得するのは困難かもしれない。「経営学Ⅰ」は、基礎コースを踏まえて経営学全体を把握するために、理論的体系をしっかりと会得できるように学習する。</p> <p>●会社に入ってからや管理職になってからは、経営を体系的に勉強することはほとんど無いといってよい。在学中に経営体系を確実に把握すれば、氾濫する経営理論や方法論に惑わされず、その功罪を的確に判断できるようになり、より有益な知識・方法だけを自分の仕事に活用できる。</p>
授業方法：	<p>◆会社の誕生から成長・発展から衰退までのプロセスを各段階毎に「学習テーマ」を決めて学習し、結果として経営の全体像を描くことで、確実に理解できるようにする。</p> <p>◆授業は基本的に教科書に従って行うが、必要な資料の随時配布やその時期に相応しい臨時的テーマを解説したりするので、欠席をすると目的の全体的把握が困難になる。出席点の規則もあり、全出席を心がけて欲しい。</p> <p>◆2回程度の課題レポートを出題し、最終評価の参考とする。</p>
履修の留意点：	<p>○理解すべき「言葉」や「数式」が多く提示される。理解できないままでは全体を把握できない。授業の前・際中・後に遠慮なく質問をすること。</p> <p>○講師は現役の経営者でもあり、学ナビ上では十分な応対時間が取れない場合があるので、上記のように講義の際に直接質疑応答したい。やむを得ず欠席した場合は、指定のアドレスへのメールを受け付ける。</p> <p>○計算機の持参を前週に指示するので用意すること。</p>
目標と評価：	<p>* 目標は上記概要や授業方法で触れた通りである。 * 最終評価方法は、課題レポートの提出を求める・自らの研究成果をきちんと表現していることを特に評価する。</p> <p>* 授業中の提出レポートの評点も加味する。</p> <p>* 出席点も大学の制度及び評点とは別に、本講義独自に出席の状況を最終評価に加味する場合がある。理由は本講義の目的であるプロセス型コース設定による経営体系の流れを、確実に学習してもらうためであることは言うまでも無い。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「簿記論Ⅰ」（担当者：飯野 幸江）の履修の手引き

科目名：	簿記論Ⅰ
担当者：	飯野 幸江
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講義は、「会計リテラシ」で学んだ知識を前提として、簿記についての知識と理解を深めていきます。具体的には、日商簿記検定2級の商業簿記の内容（特殊商品売買取引、株式会社会計、本支店会計、帳簿組織など）を学習することによって、より高度な簿記の理論と技術を身につけていきます。
授業方法：	本講義では記帳練習問題を通じて、簿記の理論と技術を学んでもらいます。したがって、授業は教科書で基本的な論点を説明した後、記帳練習問題を解いてもらうという方法で行います。簿記の学習は、講義の内容を頭で理解するよりも、数多くの記帳練習問題を解いて身体で覚えることが重要です。そのため授業中に小テストを行ったり、記帳練習問題を課題として提出してもらうこともあります。
履修の留意点：	本講義は、記帳練習問題を通じて簿記のしくみを学習しますので、授業には教科書の他に、電卓、赤ペンおよび定規を持参して下さい。簿記は積み重ねの学問です。1回でも欠席をすると授業がわからなくなることがあります。予習をする必要はありませんが、必ず復習をして下さい。なお、本科目は「簿記論Ⅱ」とセットになっている科目です。本科目を履修する学生は、必ず「簿記論Ⅱ」も履修して下さい。授業は「簿記論Ⅰ」と「簿記論Ⅱ」の両科目を履修していることを前提に行います。
目標と評価：	2006年2月の日商簿記検定2級の受験を目標とします。成績は、原則として定期試験の結果で評価します。
教科書：	①加古宜士・渡部裕巨 ②加古宜士・渡部裕巨 ①新検定簿記講義2級商業簿記 ②新検定簿記ワークブック2級商業簿記 ①中央経済社 ②中央経済社
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際関係論」（担当者：安田 利枝）の履修の手引き

科目名：	国際関係論
担当者：	安田 利枝（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	<p>国際関係論は、「現代世界の諸事象を政治、法制度、経済、社会、文化などの諸科学と世界の諸地域の地域研究との交錯の中で考察する」比較的新しい学問分野です。</p> <p>近現代の国際秩序は、西欧に生まれた主権国家体系の世界的拡大というかたちで展開してきました。このような国際秩序を理解する中心的概念は各主権国家のパワーでした。20世紀の終わり頃から、この国際秩序はさまざまな点で行き詰まりを見せ、経済面での一体化（グローバリゼーション）が進む一方、世界の貧富の格差が拡大、宗教や文明の違いがさまざまなエスニック集団間の紛争をもたらし、先進地域での排外主義も生じています。諸個人がさまざまなレベルで異質な集団間の共生を模索しなければならない時代だと言えます。</p> <p>こうした国際社会のありようを考える基本的な知識を身につけるための科目です。</p> <p>授業の体系</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際関係論とは 2. 国際社会理解の基礎 3. 国際社会のイメージ：4つの類型 4. リアリズムとリベラリズム 5. 国家間の関係：西欧国際体系 華夷秩序 イスラム国際体系 6. 国家の分類と多様性 7. 国家間の協力・対立・紛争 8. 東西冷戦の時代 9. 国際連合と国連平和維持活動 10. フレトウッズ体制：IMFと世界銀行 GATT 11. 経済のグローバル化・リージョナル化 自由貿易圏から地域統合へ 12. パワーの分散 大企業のカ・NGOのカ 13. 南北問題と発展途上国のグローバリゼーション 14. 今後の国際秩序
授業方法：	レジュメと教科書に基づいた講義、グループ作業、ビデオの視聴、シュミレーションゲームを組み合わせ進めます。 受講者には「ただ授業を聞きに来る」、「黙って座っていればいい」ということ以上の積極的な参加を求めます。
履修の留意点：	国際関係論は、相当に幅広い地理、近現代史、時事問題などの基礎知識を必要とします。新聞や雑誌で国際政治経済の諸問題に親しみ、良質のドキュメンタリーなど報道番組を観るよう心がけ、大いに知的好奇心を燃やしましょう。
目標と評価：	<p>目標と評価：この科目を履修することによって、次のような成果が得られることを期待します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が生き、生かされている世界への想像力を持つこと。 ・一国主義の克服 ・善玉・悪玉論の克服 ・国際政治経済についての一般常識 <p>成績評価は、以下の項目によって行ないます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加度 20% ・授業内容の理解度 50%（定期試験時に実施する理解度試験） ・勉学度 30%（定期試験時に提出する小論述課題レポート）
教科書：	世界地図で読むグローバル経済 伊藤正直編 旬報者ブックス 2004年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際関係論（集中授業）」（担当者：安田 利枝）の履修の手引き

科目名：	国際関係論（集中授業）
担当者：	安田 利枝（自己紹介ページ）
設置学期：	秋（集中授業）
開講回数：	全20回
週コマ数：	週2コマ
概要：	<p>国際関係論は、「現代世界の諸事象を政治、法制度、経済、社会、文化などの諸科学と世界の諸地域の地域研究との交錯の中で考察する」比較的新しい学問分野です。</p> <p>近現代の国際秩序は、西欧に生まれた主権国家体系の世界的拡大というかたちで展開してきました。このような国際秩序を理解する中心的概念は各主権国家のパワーでした。20世紀の終わり頃から、この国際秩序はさまざまな点で行き詰まりを見せ、経済面での一体化（グローバリゼーション）が進む一方、世界の貧富の格差が拡大、宗教や文明の違いがさまざまなエスニック集団間の紛争をもたらし、先進地域での排外主義も生じています。諸個人がさまざまなレベルで異質な集団間の共生を模索しなければならない時代だと言えます。</p> <p>こうした国際社会のありようを考える基本的な知識を身につけるための科目です。</p> <p>授業の体系</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際関係論とは 2. 国際社会理解の基礎 3. 国際社会のイメージ：4つの類型 4. リアリズムとリベラリズム 5. 国家間の関係：西欧国際体系 華夷秩序 イスラム国際体系 6. 国家の分類と多様性 7. 国家間の協力・対立・紛争 8. 東西冷戦の時代 9. 国際連合と国連平和維持活動 10. フレイトンウッズ体制：IMFと世界銀行 GATT 11. 経済のグローバル化・リージョナル化 自由貿易圏から地域統合へ 12. パワーの分散 大企業のカ・NGOのカ 13. 南北問題と発展途上国のグローバリゼーション 14. 今後の国際秩序
授業方法：	レジュメと教科書に基づいた講義、グループ作業、ビデオの視聴、シュミレーションゲームを組み合わせ進めます。 受講者には「ただ授業を聞きに来る」、「黙って座っていればいい」ということ以上の積極的な参加を求めます。
履修の留意点：	国際関係論は、相当に幅広い地理、近現代史、時事問題などの基礎知識を必要とします。新聞や雑誌で国際政治経済の諸問題に親しみ、良質のドキュメンタリーなど報道番組を観るよう心がけ、大いに知的好奇心を燃やしましょう。
目標と評価：	<p>この科目を履修することによって、次のような成果が得られることを期待します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が生き、生かされている世界への想像力を持つこと。 ・一国主義の克服 ・善玉・悪玉論の克服 ・国際政治経済についての一般常識 <p>成績評価は、以下の項目によって行ないます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加度 20% ・授業内容の理解度 50%（定期試験時に実施する理解度試験） ・勉学度 30%（定期試験時に提出する小論文課題レポート）
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「生活経済学」（担当者：鈴木 奈穂美）の履修の手引き

科目名：	生活経済学
担当者：	鈴木 奈穂美
設置学期：	春
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	我が国は少子・高齢社会の時代となり、性別に関係なく自身の能力や技術などを活かせる男女共同参画社会を実現するため、女性の多方面での活躍が期待されている。また、世帯構造が変化し、これまで家庭内で担われていたさまざまな労働が、企業によって提供される財・サービスや公的なサービスによって代替されている。 一方、世界的な話題としては、地球環境の悪化がある。この悪化は、生活環境への影響も懸念されており、我々のライフスタイルを改めなおす契機ともなっている。 このように時代が急速に変化する中、我々の価値観は多様化し、我々の生活を取り巻く諸条件が大きく変化している。そこで、本講義は、理論的基礎を経済学におきつつ、日々の生活で起こっている生活問題に焦点をあてて進めていく。
授業方法：	授業は、講義形式が中心となる。毎回テーマを設定し、講義を進めていく。 テーマは以下のものを予定している（順不同）。 生活単位としての家族 ライフコースとジェンダー ライフステージと家計 職業生活と家庭生活のバランス 地域福祉と生活保障 持続可能な消費生活 など 詳細は最初の講義で説明する。
履修の留意点：	・ 出席は、毎時間とする。 ・ 再試験…日ごろの出席状況や授業態度なども勘案する。そのため、出席率の悪い再試験受験生に合格を与えることはないので、注意する必要がある。
目標と評価：	目標 ・ 自身の身の回りで起きている生活問題・社会問題に対し興味・関心を持つこと。そして、それらの問題を解決するための方策を、考えられるようにする。 ・ 客観的な指標をもちいて、現代の生活問題や社会問題を捉える能力を身につける。 評価 定期試験、中間試験、レポート、出席、授業態度などによる総合評価 ・ レポート：国民生活白書や厚生労働白書など生活経済学と関連する複数の白書の中から、関心のあるものを各自1冊選び、全体の内容を要約し、そこから浮かび上がる問題点を指摘する。詳細は授業の際に説明する。 ・ 中間試験：5月下旬から6月上旬の授業の中で実施する
教科書：	生活経済論 馬場紀子、宮本みち子、御船美智子 有斐閣アルマ 2002年
参考書：	新版 消費生活経済学 伊藤セツ・川島美保 光生館 2002年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「高等簿記論」（担当者：山本 孝夫）の履修の手引き

科目名：	高等簿記論
担当者：	山本 孝夫（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	<p>簿記は、企業の経営活動をステイクホルダーに報告する「共通言語」として利用され、企業が作成する損益計算書（経営成績の表示）および貸借対照表（財政状態の表示）の基礎知識となるものである。このように企業の経営に必要な不可欠な複式簿記を正しく理解するために、取引の認識・測定から決算書の作成・報告までを解説する。具体的な授業内容は、以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 資産の特殊問題と評価 2. 特殊商品売買取引の処理 3. 株式会社の設立と資本会計 4. 本支店会計と合併会計 5. 財務諸表の体系と作成方法
授業方法：	理論的側面と実践的側面とを両立させながら実社会に即した授業を進めていく。また、定期的に復習問題の出題と解説を行う。
履修の留意点：	既に簿記の基本原則（簿記検定3級合格程度）を修得した者を対象として、より高度な知識と応用的技術を培いたいと思う。
目標と評価：	成績評価は、定期試験の他に授業中の小テストや授業態度などを総合的に判断して行う。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学Ⅱ」（担当者：松行 彬子）の履修の手引き

科目名：	経営学Ⅱ
担当者：	松行 彬子（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>経営学Ⅱでは、伝統的な経営学の領域だけではなく、現代経営学において新しく注目されている領域も同時に網羅し、講義する。近年、企業を取り巻く経営環境の変化は激しい。企業はこの変化をいかにとらえ、いかに創造的に適応しようとしているのか。このような経営の現実をを射程に入れ、今後、経営学の勉学を続けていくにあたって、必要と考えられる興味深い現代的な研究テーマを紹介する。本講における主要な講義内容は、次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 組織学習と組織間学習 2. コーポレートガバナンス 3. コンプライアンス経営 4. 企業の社会貢献 5. 価値創造経営
授業方法：	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義を中心とする。 2. 理解を促進するために、スライドやビデオなどの視聴覚教材を使用することがある。 3. ケース・スタディをできるだけ取り入れる。
履修の留意点：	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中に課題を出し、レポートを提出することが数度ある。 2. 授業計画は、学生の学習進度等により変更する場合がある。 3. カード・リーダーにより出席をとるので、必ず学生証を携帯すること。
目標と評価：	定期試験・出席の結果に、小テスト、レポート、発表、受講態度などを加味して評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学Ⅱ」（担当者：木村 剛）の履修の手引き

科目名：	経営学Ⅱ
担当者：	木村 剛
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	経営学Ⅰの基礎的な学習をベースとして、経営学の基本的な理論を踏まえながら、より実践的な経営の実態について学んでいきます。企業を存続させ、成長させていくためには企業内部の体制はもちろんのこと、競合他社との競争、景気や法律、流行などといった経営環境の変化を見据えて、的確な意思決定をしていかななくてはなりません。そのためには何を、どのようにすべきなのか、そうした企業運営のあり方について学んでいきます。
授業方法：	テキストをベースにしながら、様々な企業の事例を概観することによって、より実践的な知識の習得を目指します。なるべく具体的な企業のケースを取り入れ、場合によってはビデオ等を見てもらうことによって理解を深めてもらいます。
履修の留意点：	私語の多い学生には、退室してもらいますので注意して下さい。
目標と評価：	会社の仕組みやビジネスの流れといった基本的なことについての理解を深めつつ、より実践的な「経営」の知識を高めていくことが本講義の目的です。社会に出たとき、自分の会社がどのような仕組みで動いているのかを学ぶことを通して、企業を客観的に見ていくための目を養いましょう。 評価は、期末試験及び講義の中で行う小テスト（もしくはレポート）等によって総合的に評価します。
教科書：	よくわかる経営のしくみ 岩崎尚人／神田良 日本能率協会マネジメントセンター 1998
参考書：	

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学Ⅱ」（担当者：山川 肇）の履修の手引き

科目名：	経営学Ⅱ
担当者：	山川 肇
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>■う現在は、多くの難問が企業経営を取巻く新たな環境として表面化してきており、この諸問題は、国際的には政治・経済・文化的要因との関連性の深まりとともに、地球規模での視点の必要性が経営者に要求され、国内的には、高齢化社会の到来への対応、価値観の多様化、消費構造の変化、自然環境やリサイクル運動への関心の高まり等に対応を迫られている。</p> <p>■これら経営諸問題の理解とその動向と展開の考察にあたっては、我々も幅広い視点と、単なる理論ではなく実際の取組みを具体的に研究し、自らの経営に活用し、また企業経営者に提案しなければならない。</p> <p>■「経営学」とは「生きた学問」としての性格を持っていることを改めて認識しなければならない。従って、理論的側面も触れるが実践的側面を特に研究しながら広義の経営学を習得し、企業経営が「社会の縮図」であるならば、企業の経営のみならず良き社会生活者に、また良き市民になることが可能であろう。</p>
授業方法：	<p>■社会と企業の係わり合いはどのようなものか、企業はどのような考えで活動しているのか、我々が望む商材やサービスはどのように造られ提供されているのか、働くことはどのようなことなのか、即ち経営の実態を完全に理解しながら、経営者としてまた社会市民としての両面から、自分の将来設計に役立つような研究との機会と具体的演習を提供する。</p> <p>■従って、教科書をも基本とするが、実際の企業経営と同様の課題解決や、新しい知識の習得、人間関係の研究をケーススタディ中心に講義する。留学生も在籍するので、黒板への板書きも多いが確実にノートしてほしい。</p> <p>■課題解決のレポート提出を数回求める場合がある。自分自身の研究成果を少しでも表現してほしい。</p>
履修の留意点：	<p>①理解すべき「言葉」や「数値」が多く提示される。似たようなものも多い。誤った用語や数式は実際の経営ではロスにつながる。正確に理解できるまで、質問をすること。</p> <p>②卓上計算機の常時帯同が望ましい。</p> <p>③資料を配布することや、レポート課題解説も行うので、欠席をすると研究や学習にきわめて不利である。</p>
目標と評価：	<p>★目標はもちろん「優れた経営者」、良き社会生活者」への自分自身の目標とロマン実現のためのフェイズⅠを完了することである。</p> <p>★最終評価方法は、課題レポートの提出を求め、自らの研究成果を表現しているかどうかを主なポイントとして、かつ実際の企業経営者としての立場と視点で評価する。</p> <p>★出席点（30％）については既に承知していると思うが全出席を心がけてほしい。</p>
教科書：	現代経営学要論 市川 彰 / 名取 修一 編著 同友館 94. 7. 15 第1刷
参考書：	演習 経営学 亀川 雅人 新世社

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学Ⅱ」（担当者：山川 肇）の履修の手引き

科目名：	経営学Ⅱ
担当者：	山川 肇
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>■う現在は、多くの難問が企業経営を取巻く新たな環境として表面化してきており、この諸問題は、国際的には政治・経済・文化的要因との関連性の深まりとともに、地球規模での視点の必要性が経営者に要求され、国内的には、高齢化社会の到来への対応、価値観の多様化、消費構造の変化、自然環境やリサイクル運動への関心の高まり等に対応を迫られている。</p> <p>■これら経営諸問題の理解とその動向と展開の考察にあたっては、我々も幅広い視点と、単なる理論ではなく実際の取組みを具体的に研究し、自らの経営に活用し、また企業経営者に提案しなければならない。</p> <p>■「経営学」とは「生きた学問」としての性格を持っていることを改めて認識しなければならない。従って、理論的側面も触れるが実践的側面を特に研究しながら広義の経営学を習得し、企業経営が「社会の縮図」であるならば、企業の経営のみならず良き社会生活者に、また良き市民になることが可能であろう。</p>
授業方法：	<p>■社会と企業の係わり合いはどのようなものか、企業はどのような考えで活動しているのか、我々が望む商材やサービスはどのように造られ提供されているのか、働くことはどのようなことなのか、即ち経営の実態を完全に理解しながら、経営者としてまた社会市民としての両面から、自分の将来設計に役立つような研究との機会と具体的演習を提供する。</p> <p>■従って、教科書をも基本とするが、実際の企業経営と同様の課題解決や、新しい知識の習得、人間関係の研究をケーススタディ中心に講義する。留学生も在籍するので、黒板への板書きも多いが確実にノートしてほしい。</p> <p>■課題解決のレポート提出を数回求める場合がある。自分自身の研究成果を少しでも表現してほしい。</p>
履修の留意点：	<p>①理解すべき「言葉」や「数値」が多く提示される。似たようなものも多い。誤った用語や数式は実際の経営ではロスにつながる。正確に理解できるまで、質問をすること。</p> <p>②卓上計算機の常時帯同が望ましい。</p> <p>③資料を配布することや、レポート課題解説も行うので、欠席をすると研究や学習にきわめて不利である。</p>
目標と評価：	<p>★目標はもちろん「優れた経営者」、良き社会生活者」への自分自身の目標とロマン実現のためのフェイズⅠを完了することである。</p> <p>★最終評価方法は、課題レポートの提出を求め、自らの研究成果を表現しているかどうかを主なポイントとして、かつ実際の企業経営者としての立場と視点で評価する。</p> <p>★出席点（30％）については既に承知していると思うが全出席を心がけてほしい。</p>
教科書：	現代経営学要論 市川 彰 / 名取 修一 編著 同友館 94. 7. 15 第1刷
参考書：	演習 経営学 亀川 雅人 新世社

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学Ⅱ」（担当者：木村 剛）の履修の手引き

科目名：	経営学Ⅱ
担当者：	木村 剛
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	経営学Ⅰの基礎的な学習をベースとして、経営学の基本的な理論を踏まえながら、より実践的な経営の実態について学んでいきます。企業を存続させ、成長させていくためには企業内部の体制はもちろんのこと、競合他社との競争、景気や法律、流行などといった経営環境の変化を見据えて、的確な意思決定をしていかななくてはなりません。そのためには何を、どのようにすべきなのか、そうした企業運営のあり方について学んでいきます。
授業方法：	テキストをベースにしなが、様々な企業の事例を概観することによって、より実践的な知識の習得を目指します。なるべく具体的な企業のケースを取り入れ、場合によってはビデオ等を見てもらうことによって理解を深めてもらいます。
履修の留意点：	私語の多い学生には、退室してもらいますので注意して下さい。
目標と評価：	会社の仕組みやビジネスの流れといった基本的なことについての理解を深めつつ、より実践的な「経営」の知識を高めていくことが本講義の目的です。社会に出たとき、自分の会社がどのような仕組みで動いているのかを学ぶことを通して、企業を客観的に見ていくための目を養いましょう。 評価は、期末試験及び講義の中で行う小テスト（もしくはレポート）等によって総合的に評価します。
教科書：	よくわかる経営のしくみ 岩崎尚人／神田良 日本能率協会マネジメントセンター 1998
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営情報論」（担当者：中村 修）の履修の手引き

科目名：	経営情報論
担当者：	中村 修（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	<p>情報処理およびネットワークを基盤とする現在の企業活動には、各種の情報をコンピュータで扱えるようにするための情報化が企業の生き残りのために必須となっています。それは、ITバブル崩壊後の現在においても、情報系企業のみならず業種を越えて、さらに世界的規模で進められています。本講義では、この情報化に関連する歴史、技術、システム、制度、等について基礎知識の習得を目的として学習を進めます。さらに、基本情報処理技術者試験の出題範囲の内、情報化と経営の内容(企業会計を除く)について学習を進めます。講義の具体的な内容は、後述の教科書に従い、下記を予定しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) セキュリティとその管理法 (2) 標準化 (3) 情報戦略 (4) 経営工学 (5) 情報システムの活用 (6) 関連法規
授業方法：	<p>基本的には、講義を中心としますが、演習、レポート、等を適宜取り入れていきます。また、e-Campusをフルに活用するため、毎回の授業では、ノートPCが必須となります。そこで、斡旋パソコンを購入した人は、大容量バッテリーへの充電を十分にできて下さい。また、斡旋パソコン以外の人は、嘉悦e-Campusに無線LANカードで接続できるようにし、さらに、大容量のバッテリーを用意し、十分に充電して授業に臨んで下さい。</p>
履修の留意点：	<p>授業中、e-Campusへの接続が必須ですので、講義が始まるまでには、必ずe-Campusネットワークに接続できるようにしておいて下さい。 授業は、通常の講義科目の2倍の時間を使いますので、内容もかなり広い範囲を扱います。個々の知識も大事ですが、様々な知識の背景にある基礎概念(目的、考え方、等)を理解するようにして下さい。また、情報に関連する分野は変化が激しく、社会の変動とも同期しています。講義範囲にとらわれることなく、自身で自主的に社会の動向を見極める視野を持つことを目標にして下さい。</p>
目標と評価：	<p>嘉悦大学では、出席点が30点あります。1回の欠席で1.5点減点、3回の遅刻（開始から15分まで）で1回の欠席となってしまいます。本講義の内容は多岐にわたっていますので、自分が興味のある内容の回や興味のない回もあると思いますが、知らないことを知ること、または興味のないことに興味を持つことの方が却って新しい世界との出会いがあり、自信の進路の選択肢を広げる可能性があります。ですから、授業には、欠かさず出席しましょう。また、出席するからには、授業に集中しましょう。期末には、筆記試験を予定しています。落とすための試験ではありません。普通に学習し、授業に出席していれば、A以上の評価がつくはずですよ。</p>
教科書：	セキュリティと標準化・情報化と経営 平井 利明 実教出版株式会社 2003年11月(¥1,680税込み)
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営情報論」（担当者：宮本 勉）の履修の手引き

科目名：	経営情報論
担当者：	宮本 勉（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	<p>情報処理およびネットワークを基盤とする現在の企業活動には、各種の情報をコンピュータで扱えるようにするための情報化が企業の生き残りのために必須となっています。それは、ITバブル崩壊後の現在においても、情報系企業のみならず業種を越えて、さらに世界的規模で進められています。本講義では、この情報化に関連する歴史、技術、システム、制度、等について基礎知識の習得を目的として学習を進めます。さらに、基本情報処理技術者試験の出題範囲の内、システム開発と運用、ならびに情報化と経営（情報戦略、企業会計を除く）の内容について学習を進めます。講義の具体的な内容は、後述の2冊の教科書に従い、下記を予定しています。</p> <p>第Ⅰ部 システム開発と運用</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 開発手法 (2) プログラム言語 (3) プログラミング手法 (4) テスト・レビューの手法 (5) 開発環境 (6) 開発管理 (7) ソフトウェアパッケージ (8) システムの運用と保守 <p>第Ⅱ部 情報化と経営</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 経営工学 (2) 情報システムの活用 (3) 関連法規と標準化 (4) セキュリティ
授業方法：	<p>基本的には、講義を中心としますが、演習、レポート、実習、等を適宜取り入れていきます。また、e-Campusをフルに活用するため、毎回の授業では、ノートPCが必須となります。そこで、斡旋パソコンを購入した人は、大容量バッテリーへの充電を十分にしてください。また、斡旋パソコン以外の人は、嘉悦e-Campusに無線LANカードで接続できるようにし、さらに、大容量のバッテリーを用意し、十分に充電して授業に臨んでください。</p>
履修の留意点：	<p>毎回、ノートPCを利用しますので、パソコン講習会には必ず出席して下さい。また、授業中、e-Campusへの接続が必須ですので、講義が開講されるまでには、必ずe-Campusネットワークに接続できるようにしておいて下さい。</p> <p>主に、インターネット検索により関連情報の収集をおこなったり、グループに別れた調査研究発表などもできたら行っていきたいと考えています。</p> <p>授業は、受講生の平均的な知識レベルを前提に進めますので、既に知識のある人には退屈になり、初めの人には難しすぎるといった問題が生じます。そうならないように、講師側も努力をしますが、皆さんも、特に初めての方は予習・復習、講師への質問等をe-Campusを活用して行って下さい。</p>
目標と評価：	<p>嘉悦では、出席点が30点あります。1回の欠席で3点減点、3回の遅刻（開始から15分まで）で1回の欠席となってしまいます。本講義の内容は多岐にわたっていますので、自分が興味のある内容の回や興味のない回もあると思いますが、知らないことを知ること、または興味のないことに興味を持つことの方が却って新しい世界との出会いがあり、自信の進路の選択肢を広げる可能性があります。ですから、授業には、欠かさずに出席しましょう。また、出席するからには、授業に集中しましょう。期末には、筆記試験を予定しています。落とすための試験ではありませんので、最後まで諦めずに頑張ってください。</p>
教科書：	情報化と経営攻略ハンドブック リックテレコム
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際経済学」（担当者：馬田 啓一）の履修の手引き

科目名：	国際経済学
担当者：	馬田 啓一
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講義は、最新かつ重要な国際経済の諸問題を平易に解説します。講義を通じて、現実の国際経済の動きに対する学生諸君の問題意識を高めたいと思います。そのため、単なる基礎的な経済理論の説明にとどまらず、いま論議を呼んでいる国際経済のさまざまなトピックス、たとえば、貿易摩擦、企業の海外投資、WTO交渉、地域統合の動きなどをできるだけ講義のテーマに取り上げていく方針です。前期は、日本の対外経済政策、とくにアメリカおよび東アジアとの経済関係について取り上げ、日米貿易摩擦、東アジアとの競争激化の問題を中心に、日本の対応のあり方を考えます。後期は、世界貿易システムの問題を取り上げ、WTO交渉と地域統合化への動きを中心に、新たな秩序の構築について講義します。
授業方法：	授業の方法は、学生諸君の興味と関心を惹くような重要なテーマを毎回提示し講義していく一回完結方式です。予定している毎回の講義テーマについては「授業計画」を参照してください。テキストを用いるだけでなく、講義内容を要約した簡単なレジュメを毎回配布します。
履修の留意点：	経済学の基礎知識があることが望ましいですが、なくても構いません。国際経済の動きに対する旺盛な問題意識さえあれば、必ず興味深く受講できます。重要な時事問題も積極的に取り上げますので、是非とも新聞の経済記事を読みようにしてください。
目標と評価：	春学期と秋学期の定期試験の結果に基づいて成績評価をします。試験の方法は、毎回の講義テーマの中から自由に一つを選んで論述するという形式です。
教科書：	『日本の通商政策入門』 青木健・馬田啓一編著 東洋経済新報社 2002年
参考書：	『国際日本経済論』 池間誠・大山道広編著 文真堂 2002年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「社会福祉概論」（担当者：坂田 伸子）の履修の手引き

科目名：	社会福祉概論
担当者：	坂田 伸子
設置学期：	通年
開講回数：	全26回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この授業では、現代が抱える社会福祉問題について、考える力を身につけることを目指し、問題を克服するために取り組まれている社会福祉実践、社会福祉制度の現状と課題を学びます。前期の授業では、社会福祉の概念・歴史・制度・法律などの基本的なことを学びます。後期は各授業ごとに、少子高齢化、児童虐待、介護などの社会問題にテーマを絞り、一緒に考えます。1年間の授業を通して、皆さんと「社会福祉とは何か」を明らかにしていきたいと思っています。
授業方法：	講義（プリント配布）とビデオを使用して授業を行います。
履修の留意点：	特になし
目標と評価：	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉問題を取上げた新聞記事、TVの報道番組などの内容を理解する。 ・社会福祉情報を収集し利用する方法を身につける。 ・自分にとっての「社会福祉」とは何かを明らかにする。 <p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート（夏季・冬季休暇） ・授業時の提出物等平常点 ・定期試験 ・出席（遅刻3回で欠席1回、15分以上の遅刻は欠席とみなす） <p>上記による総合評価</p>
教科書：	『社会福祉小六法 2005』 ミネルヴァ書房編集部編 ミネルヴァ書房 2004年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計学」（担当者：山本 孝夫）の履修の手引き

科目名：	会計学
担当者：	山本 孝夫（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	<p>会計は、企業の経営活動についての情報を利害関係者に報告するため、一定の期間を人為的に区切り、一般に認められた会計原則によって損益計算書、貸借対照表および資金計算書を作成する手続きである。この会計原則および会計基準により体系化された企業の経営成績と財政状態の報告内容を研究領域とする学問が会計学である。</p> <p>本講座では、現行会計制度の基本構造を明確に捉えるため、会計学の歴史的な変遷過程も考慮し、欧米式の体系化された会計について解説する。</p>
授業方法：	<p>会計学は、きわめて実践的な学問である。したがって、現行の会計実務を参考にしながら会計思考を養いたい。</p> <p>講義は、以下の内容を予定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 会計理論の形成と会計の社会的役割 2. 企業会計の基礎概念と会計法規 3. 企業会計原則の体系 4. 損益計算書・貸借対照表・資金計算書の必要性 5. 資産評価と分配可能利益
履修の留意点：	<p>会計学の学習は、段階的な積み重ねを必要とするため、会計に興味をもち、会計の理解に積極的に取り組もうと考える学生の履修を期待する。また、過去に簿記を学んだことのある学生あるいは簿記検定の上級資格を取得したいと考えている学生の履修が望ましい。</p>
目標と評価：	<p>講義目標は、企業で行われている会計の仕組みが理解できるレベルの内容を考えている。</p> <p>評価は、理解度を見るため課題レポートの提出および小テストを実施し、総合的な成績評価を行う。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中小企業論」（担当者：和田 耕治）の履修の手引き

科目名：	中小企業論
担当者：	和田 耕治（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	20世紀において進展した資本の集中・集積に伴う企業の大規模化は、大量生産・大量消費型の社会を構築させ、我々の生活を飛躍的に豊かにさせた。しかしながら、近年においては、大企業支配型の社会の問題性も顕在化するようになり、20世紀型生産体制（フォードイズム）の変革の必要性が唱えられている。変革に関しては、さまざまな方向性が考えられるが、その回答のひとつは、中小企業型社会の構築があげられよう。中小企業の柔軟性ある専門化（フレキシブルスペシャライゼーション）による協業は、フォードイズムにとって代わる可能性を秘めている。本講義では以上を問題意識としつつ、歴史的、空間的な広がりの中で中小企業の位置付けを考える
授業方法：	講義形式で行う。受講者の理解を促進するために視聴覚教材を使用する。 講義は以下の点に触れつつ、進める。 1. 中小企業をみる視点、中小企業概念 2. 中小企業の存立形態 3. 大企業と中小企業 4. 中小企業の歴史的展開 5. 二重構造論、中小企業の近代化 6. ペンチャービジネス 7. 地域社会と中小企業（産業集積、商業集積） 8. 中小企業政策 履修の留意点：
履修の留意点：	講義ノートは必ず取ること。
目標と評価：	学期末試験による評価
教科書：	講義ノートをとって下さい
参考書：	中小企業政策の国際比較 福島久一編 新評論 2002年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中小企業論」（担当者：和田 耕治）の履修の手引き

科目名：	中小企業論
担当者：	和田 耕治（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	20世紀において進展した資本の集中・集積に伴う企業の大規模化は、大量生産・大量消費型の社会を構築させ、我々の生活を飛躍的に豊かにさせた。しかしながら、近年においては、大企業支配型の社会の問題性も顕在化するようになり、20世紀型生産体制（フォードイズム）の変革の必要性が唱えられている。変革に関しては、さまざまな方向性が考えられるが、その回答のひとつは、中小企業型社会の構築があげられよう。中小企業の柔軟性ある専門化（フレキシブルスペシャライゼーション）による協業は、フォードイズムにとって代わる可能性を秘めている。本講義では以上を問題意識としつつ、歴史的、空間的な広がりの中で中小企業の位置付けを考える
授業方法：	講義形式で行う。受講者の理解を促進するために視聴覚教材を使用する。 講義は以下の点に触れつつ、進める。 1. 中小企業をみる視点、中小企業概念 2. 中小企業の存立形態 3. 大企業と中小企業 4. 中小企業の歴史的展開 5. 二重構造論、中小企業の近代化 6.ベンチャービジネス 7. 地域社会と中小企業（産業集積、商業集積） 8. 中小企業政策 履修の留意点：
履修の留意点：	講義ノートは必ず取ること。
目標と評価：	学期末試験による評価
教科書：	講義ノートをとって下さい
参考書：	中小企業政策の国際比較 福島久一編 新評論 2002年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済学Ⅰ」（担当者：山崎 康之）の履修の手引き

科目名：	経済学Ⅰ
担当者：	山崎 康之（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>現代経済学理論のマクロ経済学(国民所得理論)の部分について講義します。GDP（国内総生産）や国民所得、物価上昇率、失業率および経常収支などの一国経済全体の活動水準を示す代表的な変数の意味を明らかにするとともに、それらの変数の決定要因や相互依存関係について学びます。マクロ経済学の分析の基本的枠組みを理解することがその目的です。</p> <p>この講義で取り上げる主なトピックとその順序は、以下の通りです。</p> <p>マクロ経済学</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マクロ経済学のデータ 2. 長期の実物経済 3. 長期における貨幣と価格 4. 開放経済のマクロ経済学 5. 短期の景気変動 <p>教科書： マンキュー経済学Ⅱ マクロ編 N・グレゴリー・マンキュー 東洋経済新報社 2001年</p>
授業方法：	通常の講義によります。
履修の留意点：	ありません。
目標と評価：	期末試験の結果により評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済学Ⅰ」（担当者：山崎 康之）の履修の手引き

科目名：	経済学Ⅰ
担当者：	山崎 康之（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>現代経済学理論のマクロ経済学(国民所得理論)の部分について講義します。GDP（国内総生産）や国民所得、物価上昇率、失業率および経常収支などの一国経済全体の活動水準を示す代表的な変数の意味を明らかにするとともに、それらの変数の決定要因や相互依存関係について学びます。マクロ経済学の分析の基本的枠組みを理解することがその目的です。</p> <p>この講義で取り上げる主なトピックとその順序は、以下の通りです。</p> <p>マクロ経済学</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マクロ経済学のデータ 2. 長期の実物経済 3. 長期における貨幣と価格 4. 開放経済のマクロ経済学 5. 短期の景気変動 <p>教科書： マンキュー経済学Ⅱ マクロ編 N・グレゴリー・マンキュー 東洋経済新報社 2001年</p>
授業方法：	通常の講義によります。
履修の留意点：	ありません。
目標と評価：	期末試験の結果により評価します。
教科書：	マンキュー経済学Ⅱ マクロ編 N・グレゴリー・マンキュー 東洋経済新報社 2001年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ホスピタリティ入門」（担当者：古閑 博美）の履修の手引き

科目名：	ホスピタリティ入門
担当者：	古閑 博美（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	ホスピタリティは、もてなしの観点からは、他者に配慮する行為とみなされる。本科目では「ホスピタリティ」の意味と行為を理解し、ホスピタリティの精神の涵養と、実践の重要性について学ぶ。ホスピタリティに必要な技法を身につけ、職場で必要とされるホスピタリティについて具体的に学ぶ。ホスピタリティの視点で社会を考察することも試みたい。 全員に「身近なホスピタリティ」（共通課題）の発表を課し、「Blind Walk」「声で伝えるホスピタリティ」などの演習を実施する。
授業方法：	講義と演習
履修の留意点：	出席、授業態度、提出物の締切期限内提出などに留意する。
目標と評価：	①ホスピタリティを理解する。 ②ホスピタリティを実践する。 評価は、平常の授業態度やレポート等によっておこなう。
教科書：	『看護のホスピタリティとマナー』 古閑博美 鷹書房弓プレス 2001年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ホスピタリティ I」（担当者：古閑 博美）の履修の手引き

科目名：	ホスピタリティ I
担当者：	古閑 博美（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	ホスピタリティについて基本理論の講義および実践をおこなう。 ホスピタリティは、もてなしの観点からは、他者に配慮する行為とみなされる。本科目では「ホスピタリティ」の意味と行為を理解し、ホスピタリティの精神の涵養と、実践の重要性について学ぶ。ホスピタリティに必要な技法を身につけ、職場で必要とされるホスピタリティについて具体的に学ぶ。ホスピタリティの視点で社会を考察することも試みたい。 全員に「身近なホスピタリティ」（共通課題）の発表を課し、「Blind Walk」「声で伝えるホスピタリティ」などの演習を実施する。 「身近なホスピタリティ」のテーマでレポート作成および発表をおこなう。
授業方法：	講義と演習。
履修の留意点：	積極的に参加する。
目標と評価：	目標：ホスピタリティを理解し、技能を身につけた実践者となる。 ①ホスピタリティを理解する。 ②ホスピタリティを身につける。 ③ホスピタリティを実践する。 評価：平常点、出席点等を総合して評価する。
教科書：	『看護のホスピタリティとマナー』 古閑博美 鷹書房弓プレス 2001年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「CS実践論」（担当者：栗原 りか）の履修の手引き

科目名：	CS実践論
担当者：	栗原 りか
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	商品やサービスの価格や品質の差別化が困難になっている今日、時代は“物”から“人”へとシフトしている。企業においても顧客満足が重要な経営戦略とされている。この授業では、顧客満足の理論のみならず、それに不可欠な「コミュニケーション」「サービス」「ホスピタリティー」について考える。又、演習や実技を通じ、「コミュニケーション能力」「ビジネスマナー」を身に付ける
授業方法：	講義、演習及び実技
履修の留意点：	講義内容に関するプリントを適宜配布
目標と評価：	目標：顧客満足とは何かを理解し、演習、実技を通して実際に社会で役立つコミュニケーション能力、ビジネスマナーを身に付ける。 評価：授業への取り込み姿勢（20%） 各回プリント提出（40%） 学期末試験（40%） 評価点は、上記の項目毎に加算式で算出する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「工業簿記Ⅰ」（担当者：井上 行忠）の履修の手引き

科目名：	工業簿記Ⅰ
担当者：	井上 行忠（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	概要： 複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）、の認識及び会計処理（仕訳）を学び、製造業会計にける工業簿記・原価計算を中心に問題集等を使用して、工業簿記の基本的な技術を習得する。日商簿記検定2級工業簿記・原価計算の範囲を学習する。
授業方法：	授業方法： 授業方法は、費目別原価計算（材料費・労務費・経費・製造間接費）、部門別原価計算、個別原価計算、総合原価計算、製造原価報告書の作成等を中心に授業を行う。また、標準原価計算及び直接原価計算にあつては、特に重要な範囲であるため、多くの時間を割いて学習を行う。
履修の留意点：	履修上の留意点： 履修の留意点： 出席率100%を目指して欲しい。
目標と評価：	目標と評価※： 目標と評価： 平成18年2月の日商簿記検定2級（工業簿記・原価計算）の受験を目指して学習する。 参考書 新検定簿記講義2級工業簿記 染谷・新井・岡本 中央経済社
教科書：	教科書 日商簿記検定試験出題傾向と対策「2級」 税務経理協会 税務経理協会
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「工業簿記Ⅱ」（担当者：井上 行忠）の履修の手引き

科目名：	工業簿記Ⅱ
担当者：	井上 行忠（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	概要： 複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）、の認識及び会計処理（仕訳）を学び、製造業会計にをける工業簿記・原価計算を中心に問題集等を使用して、工業簿記の基本的な技術を習得する。日商簿記検定2級工業簿記・原価計算の範囲を学習する。
授業方法：	授業方法： 授業方法： 授業方法： 授業体系は、費目別原価計算（材料費・労務費・経費・製造間接費）、部門別原価計算、個別原価計算、総合原価計算、製造原価報告書の作成等を中心に授業を行う。また、標準原価計算及び直接原価計算にあつては、特に重要な範囲であるため、多くの時間を割いて学習を行う。
履修の留意点：	履修上の留意点： 履修上の留意点： 履修の留意点： 出席率100%を目指して欲しい。
目標と評価：	目標と評価※： 目標と評価※： 目標と評価： 平成18年2月の日商簿記検定2級（工業簿記・原価計算）の受験を目指して学習する。
教科書：	日商簿記検定試験出題傾向と対策「2級」 税務経理協会 税務経理協会
参考書：	参考書 新検定簿記講義2級工業簿記 染谷・新井・岡本 中央経済社

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際協力論」（担当者：安田 利枝）の履修の手引き

科目名：	国際協力論
担当者：	安田 利枝（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>国際協力論とは、諸国の政府や民間団体が協力するパターンやメカニズム、協力の原因や影響を考える国際関係論の一分野です。経済学では、国際協力論を途上国の経済開発に対する協力の分野に限定して考えますが、本学カリキュラムでは「国際援助論」という独立した科目を置いているため、この「国際協力論」では様々な問題領域を扱います。すなわち、(通貨、貿易、金融などの国際経済学の問題を除いて)地球規模の問題群である、人口、食糧、資源(海洋・森林)、エネルギー、環境保全と汚染防止、人権、貧困と開発、軍縮、紛争予防、平和維持などの課題について、主要な国際協定、国際組織、各国の協力関係を探っていきます。</p> <p>授業の体系</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レジーム論 2. 人口・食糧 3. 資源・エネルギー 4. 平和維持と予防外交 5. 人権 6. 地球環境問題 7. 途上国への開発協力
授業方法：	配布するレジメと部分的なビデオ教材の視聴に基づいて問題の概略をお話していきます。受講者には「ただ授業を聞きに来る」、「黙って座っていればいい」ということ以上の積極的な参加をディスカッションや質疑応答のかたちで求めます。グループワークをできるだけ取り入れていくつもりです。
履修の留意点：	この科目を履修するには、春学期の「国際関係論」を履修、合格していることが望ましい。
目標と評価：	<p>目標：この科目を履修することによって、次のような成果が得られることを期待します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球規模の課題と国際協力の現状について、一般常識を身につけること ・一人一人の関心と行動が、国家の政策決定に影響を及ぼし、そして何かを変えていくことに気付くこと <p>成績評価は、以下の項目によって行ないます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加度 20%（各授業の終わりに提出する授業メモへの記入） ・授業内容の理解度 50%（定期試験時に実施する理解度試験） ・勉学度 30%（定期試験時に提出する小論文問題への解答）
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際援助論」（担当者：尾村 敬二）の履修の手引き

科目名：	国際援助論
担当者：	尾村 敬二（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	先進国と開発途上国の間の経済格差がますます拡大していること、途上国での貧困問題が一向に改善されていないこと、世界の環境問題が深刻化することなどの世界の現状を打開するための一方法として、国際援助の役割は重要である。本授業では公的開発援助（ODA）の現状と将来の方向を、実際の政策を通じて理解することを目的とする。
授業方法：	授業は教材をもとに、一般講義方式で行う。教材はメールを通じて配布するが、教材なしでの講義も行うので、しっかりノートをとる必要がある。
履修の留意点：	授業内容を理解できないと単位修得は困難であるから、欠席しないことが重要である。
目標と評価：	筆記試験で成績評価を行う。
教科書：	国際援助の限界 ローマクラブレポート ベルトラン・シュナイダー 田草川弘・日比野正明訳 朝日新聞社 1996年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「地域経済論」（担当者：飯島 正義）の履修の手引き

科目名：	地域経済論
担当者：	飯島 正義
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	戦後の経済発展は、地域格差をもたらし、これまでこれを是正するための政策が展開されてきました。しかし、大都市圏への集中は是正されることなく、むしろ東京一極集中を強めることになっています。バブル経済の崩壊後、経済の長期低迷が続く中で、グローバル化が一層進展し、日本経済の構造を激変させています。そして、それは地域経済にも影響を及ぼしています。授業では、これまでの地域経済の特徴と地域政策を確認しながら地域経済の現状をみていきたいと思えます。
授業方法：	講義形式で行います。
履修の留意点：	毎回の積み重ねが重要です。出席回数には注意してください。
目標と評価：	各地域の経済的特徴と現状の理解を深めることを目標とします。評価は、授業中に行う確認、レポート等で総合的に評価します。
教科書：	使用しません。資料を配布します。
参考書：	随時紹介します。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「農業経済論」（担当者：内藤 勝）の履修の手引き

科目名：	農業経済論
担当者：	内藤 勝（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	自然の摂理に基づき農業のメカニズムを解明する。
授業方法：	講義とビデオにより世界の農業を研究する。特に「水（仮想水）」との関連で生産を分析する。そして人の命と食料の関連を考察する。
履修の留意点：	なし。
目標と評価：	興味のある所をレポートに作成する。
教科書：	自然と産業 内藤勝 高文堂 1996
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「金融論 I」（担当者：松田 岳）の履修の手引き

科目名：	金融論 I
担当者：	松田 岳
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>「不良債権問題」「電子マネー」「ペイオフ」「金融危機」。。。最近の経済ニュースに金融問題が登場しない日が無いといっても過言ではありません。なぜなら、最近起こったあるいは起こりつつある経済問題には、必ずといって良いほど金融が関わっているからです。政治・財界・行政・マスコミがつねに金融に関心を払っているのも当然のことといえます。学生の皆さんも金融から逃れることはできません。「金融リテラシ」という言葉が最近よく聞かれるようになりました。これは、従来のリテラシ＝「読み」「書き」「そろばん」と同じぐらい「金融への理解」が必須のものとなりつつありますことを示しています。しかしその一方で、「金融は難しいのでイヤ」という学生さんが多いのも事実です。そしてその難解さの原因は「金融に関する自分の知識不足だ」と考える傾向にあります。ところが事実は逆です。金融が難しく見えるのは、情報の発信者が金融理論をよく理解していないからであって、決して皆さんの責任ではありません。誤解を多く含んだ「幻想的」な主張こそが、みなさんの混乱を招いているのです。</p> <p>金融論Iでは、金融の基礎知識・基礎理論・基礎的な制度を取り上げ、まず「金融」に慣れてもらおうと思えます。その際、一般的な見解・議論がもっている誤まりを正すことで、みなさんの混乱を解きほぐし、金融への理解を深めてもらおうと考えています。</p>
授業方法：	<ul style="list-style-type: none"> ・確認テストの日を除き、全て講義形式で行う。代表的な講義プロセスは以下の通り。 [1] 20分 <ul style="list-style-type: none"> ・プリント配布 ・過去一週間の出来事についてコメント。（授業と現実が密接不可分の関係にあることを再認識してもらいます） ・前回の復習。（前回の授業を思い出し、理解を深めてもらいます） ・前回の講義に対する代表的な疑問に答えます。（前回の授業に関する疑問を解消します） [2] 60分 <ul style="list-style-type: none"> ・一回の授業につき、原則として一つのテーマに取り組みます。（内容にまとまりを持たせるためです） ・授業時間中にいくつかの質問を出し、回答を求めます。（授業への積極的な参加が求められます） [3] 10分 <ul style="list-style-type: none"> ・授業の最後に講義への質問を考えてもらいます。 ・口頭による質問も受け付けます。（「どこが解らないのか」を自分に問いかけることで理解度がより深まります）
履修の留意点：	<ul style="list-style-type: none"> [1] 授業妨害行為に対し、1度目は警告、2度目は退出指示、3度目は「履修相談」を行います。 [2] 課題は約30題あります。課題数を覚悟した上で履修するかどうかを判断して下さい。 [3] 座席は履修確定後、全席指定します。 [4] 講義中はPCの使用も机上に出すことも認めていません。 [5] 金融論Iと金融論IIは併せて履修することが望ましい（強制ではありません）。
目標と評価：	<p>[目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> [1] 金融の基礎知識・基礎理論・基礎的な制度を理解すること。 [2] 金融を材料として論理的思考力を身につけること。 <p>[評価]</p> <p>評価点の構成要素と評価ポイントは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> [1] 課題 (60%) <ul style="list-style-type: none"> ・「予習」、「復習」、「質問」の三種類からなる。約30題を課す予定。 ・講義理解度の向上、講義内容の定着を目的に行う。 [2] 確認テスト (20%) <ul style="list-style-type: none"> ・出題範囲を限定したテスト。2回実施の予定。 ・講義の理解度を測り、向上させることを目的に行う。 ・持ち込み不可。 [3] 定期試験 (20%) <ul style="list-style-type: none"> ・出題範囲を限定しないテスト。 ・講義目標の達成度を測るために行う。 ・持ち込み不可。
教科書：	開講時に指示します。
参考書：	授業中に紹介します。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「金融論Ⅱ」（担当者：松田 岳）の履修の手引き

科目名：	金融論Ⅱ
担当者：	松田 岳
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>「不良債権問題」「電子マネー」「ペイオフ」「金融危機」。。。最近の経済ニュースに金融問題が登場しない日が無いといっても過言ではありません。なぜなら、最近起こったあるいは起こりつつある経済問題には、必ずといって良いほど金融が関わっているからです。政治・財界・行政・マスコミがつねに金融に関心を払っているのも当然のことといえます。学生の皆さんも金融から逃れることはできません。「金融リテラシ」という言葉が最近よく聞かれるようになりました。これは、従来のリテラシ＝「読み」「書き」「そろばん」と同じぐらい「金融への理解」が必須のものとなりつつありますことを示しています。しかしその一方で、「金融は難しいのでイヤ」という学生さんが多いのも事実です。そしてその難解さの原因は「金融に関する自分の知識不足だ」と考える傾向にあります。ところが事実は逆です。金融が難しく見えるのは、情報の発信者が金融理論をよく理解していないからであって、決して皆さんの責任ではありません。誤解を多く含んだ「幻想的」な主張こそが、みなさんの混乱を招いているのです。</p> <p>金融の基礎理論と制度についてわかりやすく解説する点では金融論Iと共通ですが、金融論IIではIに比べより複雑な金融問題に取り組みたいと考えています。その際、一般的な見解・議論がもっている誤まりを正すことで、みなさんの混乱を解きほぐし、金融への理解を深めてもらおうと考えています。</p>
授業方法：	<ul style="list-style-type: none"> ・確認テストの日を除き、全て講義形式で行う。代表的な講義プロセスは以下の通り。 [1] 20分 <ul style="list-style-type: none"> ・プリント配布 ・過去一週間の出来事についてコメント。 (授業と現実が密接不可分の関係にあることを再認識してもらいます) ・前回の復習。 (前回の授業を思い出し、理解を深めてもらいます) ・前回の講義に対する代表的な疑問に答えます。 (前回の授業に関する疑問を解消します) [2] 60分 <ul style="list-style-type: none"> ・一回の授業につき、原則として一つのテーマに取り組みます。 (内容にまとまりを持たせるためです) ・授業時間中にいくつかの質問を出し、回答を求めます。 (授業への積極的な参加が求められます) [3] 10分 <ul style="list-style-type: none"> ・授業の最後に講義への質問を考えてもらいます。 ・口頭による質問も受け付けます。 (「どこが解らないのか」を自分に問いかけることで理解度がより深まります)
履修の留意点：	<p>[1] 授業妨害行為に対し、1度目は警告、2度目は退出指示、3度目は「履修相談」を行います。</p> <p>[2] 課題は約30題あります。課題数を覚悟した上で履修するかどうかを判断して下さい。</p> <p>[3] 座席は履修確定後、全席指定します。</p> <p>[4] 講義中はPCの使用も机上に出すことも認めていません。</p> <p>[5] 金融論Iと金融論IIは併せて履修することが望ましい（強制ではありません）。</p>
目標と評価：	<p>〔目標〕</p> <p>[1] 金融の基礎知識・基礎理論・基礎的な制度を理解すること。</p> <p>[2] 金融を材料として、論理的思考力を身につけること。</p> <p>[3] 金融を材料として、様々な考えが存在し、それぞれの理屈があり、対立していることを知ること。</p> <p>〔評価〕</p> <p>評価点の構成要素と評価ポイントは以下のとおりです。</p> <p>[1] 課題(60%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「予習」、「復習」、「質問」の三種類からなる。約30題を課す予定。 ・講義理解度の向上、講義内容の定着を目的に行う。 <p>[2] 確認テスト(20%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出題範囲を限定したテスト。2回実施の予定。 ・講義の理解度を測り、向上させることを目的に行う。 ・持ち込み不可。 <p>[3] 定期試験(20%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出題範囲を限定しないテスト。 ・講義目標の達成度を測るために行う。 ・持ち込み不可。
教科書：	開講時に指示します。
参考書：	授業中に紹介します。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済学Ⅱ」（担当者：山崎 康之）の履修の手引き

科目名：	経済学Ⅱ
担当者：	山崎 康之（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>現代経済学理論のミクロ経済学（価格理論）の部分について講義します。市場経済において価格がどのように決定され、どのような役割を果たしているかについて学びます。すなわち、さまざまな財・サービスの価格の決定メカニズムと一国経済を構成する家計・企業・政府などの個々の経済主体の消費・生産といった経済行動がこの価格メカニズムを通じていかにして決定、調整されていくのか、またされるべきなのかについて講義します。ミクロ経済学の分析の基本的枠組みを理解することがその目的です。</p> <p>この講義で取り上げる主なトピックとその順序は、以下の通りです。</p> <p>ミクロ経済学</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 市場における需要と供給の作用。 2. 弾力性とその応用。 3. 需要、供給および政府の政策。 4. 消費者、生産者、市場の効率性。 <p>教科書： マンキュー経済学Ⅱ ミクロ編 N・グレゴリー・マンキュー 東洋経済新報社 2000年</p>
授業方法：	通常の講義によります。
履修の留意点：	ありません。
目標と評価：	期末試験の結果により評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「世界の民族と宗教」（担当者：畑中 敏夫）の履修の手引き

科目名：	世界の民族と宗教
担当者：	畑中 敏夫
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この講義では、日常、私達が余り意識することのない宗教を取り上げ、宗教という視点から現代世界の問題点を考えていくことが、主眼になります。最初に、世界の三大宗教の成立やその独自性、その民族的背景を勉強します。又、日本人の民族宗教とも言うべき神道を取り上げ日本人の宗教観の特色を明らかにするつもりです。最後に現代世界の焦眉の問題である民族紛争を宗教という観点からアプローチし現代における宗教の意義を考えていくつもりです。
授業方法：	講義が中心の授業ですが、私達になじみの少ない宗教をテーマとする時は、ビデオ教材を活用し、できる限り具体的な事例に即して授業を進めます。
履修の留意点：	特別にありませんが、現代世界のアクチュアルな問題に興味のある人にとってもらいたいと思っています。
目標と評価：	目標：宗教が今、現に起きている世界の出来事に大いに関わっているということ、つまりその現代性を理解すること。 評価：学期末に実施する筆記試験とレポートの内容によって判断する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際理解と交流」（担当者：山田 寛）の履修の手引き

科目名：	国際理解と交流
担当者：	山田 寛（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	私の「国際理解と交流」は、私たち日本人が外国人や外国文化とどう交流しているか、そして、どんな問題を抱えているかを主なテーマとします。私たちは、移民労働者、留学生、難民といった様々な形で日本にくる外国人に、どれほど門戸と心を開いているか、外国人に偏見をもっているか、人種差別をしているか、在日コリアン（韓国・朝鮮人）に対してはどうか、市民レベルでは、どんな草の根交流が行われているか、文化交流は活発か、など、いろいろな問題をとりあげる予定です。
授業方法：	テキストなどは使わず、そのつどプリント配布やパワーポイントなどで見てもらいます。とくに、ビデオをできるだけ使います。講義だけでなく、講義と実習をミックスして行きます。できたら関係者、当事者の話を直接聴く機会も作りたいと考えています。
履修の留意点：	学部、学科、コースを問わず、国際問題、外国人、国際協力、国際関係などに関心のある学生の受講を歓迎します。
目標と評価：	国際交流に関心を深め、できたら自分でもそれを行うようになってほしい。この科目をとって、夏休みの「国際ボランティア体験研修」に参加すると、「国際交流研修」の単位も取得できます。成績評価は、平常点プラス期末試験によります。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「開発経済学Ⅰ」（担当者：尾村 敬二）の履修の手引き

科目名：	開発経済学Ⅰ
担当者：	尾村 敬二（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	開発途上国の経済発展と安定が世界の経済の発展に不可欠な条件である。それゆえ、開発途上国の開発をいかに達成するかについての方法を、理論的に学習することが本授業の目的である。しかし、理論を教科書の説明だけで理解しにくいので、開発の実態などを織りまぜて講義する。65億人の世界人口の中で、豊かに生活できる人口は5分の1だけであり、下層の5分の1は1日1ドル以下の収入でしか生活できない。この実態に目を向け、開発とは何かを考える必要がある。また、先進国、開発途上国を問わず、開発の代償として環境破壊の問題がある。開発と環境の問題も考察する。
授業方法：	教科書を中心とする一般講義であるが、教科書の内容を説明するのではなく、教科書を題材にした実態的説明をする。それゆえ、教科書の予習復習のみでなく、授業に出席して授業内容のノートをしっかりとることが単位修得の条件となる。
履修の留意点：	ノートをしっかりとれるよう努力すること。
目標と評価：	持ち込みなしでの筆記試験により成績評価をする。
教科書：	開発経済学入門 第2版 渡辺利夫 東洋経済新報社 2004年4月
参考書：	開発経済学 貧困削減へのアプローチ 黒崎 卓 山形辰史 日本評論者 2003年5月

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「開発経済学Ⅱ」（担当者：尾村 敬二）の履修の手引き

科目名：	開発経済学Ⅱ
担当者：	尾村 敬二（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本授業科目は開発経済学Ⅰと連続セットの科目であり、Ⅰ及びⅡを同時に履修しなければならない。内容はⅠと同じである。
授業方法：	開発経済学Ⅰと同じである。
履修の留意点：	開発経済学Ⅰと同じである。
目標と評価：	開発経済学Ⅰと同じである。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「世界経済と資源」（担当者：沼田 郷）の履修の手引き

科目名：	世界経済と資源
担当者：	沼田 郷
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>みなさん、「世界経済」と聞いてどんなことを連想しますか？同じように、「資源」と聞いて何を想像するでしょうか？また、今日の世界経済を正確に理解するためには、「グローバル化」が意味するものを正しく認識する必要があります。一般的に「グローバル化」とは、アメリカ化、世界的規模での競争の激化などと指摘されています。しかしながら、それは「グローバル化」の一面を捉えたものに過ぎません。本講義では、この「グローバル化」が何を意味し、どのような影響を「世界経済」に与えているのかを様々な側面から考察したいと考えています。講義内容としては、「グローバル化」がもたらす影響を経済理論と最新の統計を用いて様々な角度から考察し、その実体をみなさんと一緒に探ってゆきます。さらに、こうした影響を先進国と発展途上国に分けて考察することによって、今後世界経済がどのように変化するかをある程度予測することが可能になるでしょう。経済理論というと非常に難解な理論や高等数学を用いなければならないと考えている諸君も多いと思いますが、本講義に必要な理論は、特定の人のみが理解できる難解なものではありません。また高等数学を用いたりすることもありませんのでご心配なく。そして、資源とは一体どのようなものを指すのかを明らかにし、特に重要と思われる石油やレアメタルなどの鉱物資源に焦点を当て、その歴史を含めて考察を行います。</p> <p>授業方法：講義（12回ないし11回）およびビデオによる学習（1回ないし2回）</p> <p>講義は「世界経済」と「資源」に関する概説を行う。その後、最新の統計データを用いながら「世界経済」と「資源」に関する知識を深める。</p> <p>ビデオ学習に関しては、石油に関するプログラムをいくつか鑑賞してもらい、学習した点、疑問に感じた点などを小レポートとして提出していただきます。</p>
授業方法：	<p>講義（12回ないし11回）およびビデオによる学習（1回ないし2回）</p> <p>講義は「世界経済」と「資源」に関する概説を行う。その後、最新の統計データを用いながら「世界経済」と「資源」に関する知識を深める。</p> <p>ビデオ学習に関しては、石油に関するプログラムをいくつか鑑賞してもらい、学習した点、疑問に感じた点などを小レポートとして提出していただきます。</p>
履修の留意点：	<p>今日の世界はまさに混沌としています。ですから、これだけは学んでおいてくださいという理論や知識は申し上げられません。その代わりに、皆さんが普段の生活の中で気になっていること、理解しにくいことがらなどを整理して講義に望んでいただけたら幸いです。みなさんの疑問を可能な限り講義に反映させたいと考えています。</p> <p>教科書は特に指定しませんが、講義開始までに読むことをお勧めする参考図書をいくつか挙げておきます。また、より専門的な知識を得たいと考える諸君には講義中にも参考図書を紹介いたします。最後に、あたりまえのことですが、私語や他人に迷惑をかける行為に関しては、即刻退室していただきます。また、携帯電話の使用はその一切を禁止します。</p>
目標と評価：	<p>目標</p> <p>世界経済の諸側面を統計データを用いて理解する。 資源に関する今日的問題を理解する。 「グローバル化」がもたらした諸問題を理解する。 「グローバル化」といわれている現象の本質を理解する。</p> <p>評価</p> <p>講義終了時に行うレポート作成。現時点では4回を予定（1回につき10%、計40%）。 期末のレポート作成（60%）</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「欧米経済論」（担当者：馬田 啓一）の履修の手引き

科目名：	欧米経済論
担当者：	馬田 啓一
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講義は、最新かつ重要な欧米経済の諸問題を平易に解説します。前半はアメリカ経済を取り上げ、米景気の動向と財政金融政策、米通商政策の新展開、米企業のグローバル戦略、日米経済関係の行方などについて講義します。後半はヨーロッパ経済を取り上げ、欧州統合の歩み、通貨統合の意義と課題、東欧の経済改革とEU加盟、ドル・ユーロ二極体制の展望などについて講義します。
授業方法：	授業の方法は一回完結方式です。予定している毎回の講義テーマについては「授業計画」を参照してください。特定の教科書は使用せず、講義内容を要約した簡単なレジュメを毎回配布します。
履修の留意点：	経済学の基礎知識があることが望ましいですが、なくても構いません。アメリカやヨーロッパの経済問題に対する旺盛な問題意識さえあれば、必ず興味深く受講できます。
目標と評価：	定期試験の結果に基づき評価をします。試験の方法は、毎回の講義テーマの中から一つを選んで論述するという形式です。
教科書：	
参考書：	『日米経済関係』 青木健・馬田啓一編著 勁草書房 1996年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際金融論」（担当者：堀内 健一）の履修の手引き

科目名：	国際金融論
担当者：	堀内 健一
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>概要：この講義では、国際通貨、為替レート、国際収支、国際金融市場などの問題を理論、制度、現状などの観点から学び、グローバル化時代の経済問題、経営問題に対応する能力を身につけることをねらいとしています。</p> <p>ではまず、外国貿易などによる国境を越えた取引ではどの国の通貨が多く使われているのでしょうか？現在ではアメリカ合衆国の国内で使われる米ドルが国際取引で多く使われています。また、アメリカ人（アメリカ居住者）を取引当事者とする場合はもちろんのこと、アメリカ人を取引当事者としないう国際取引でも、その多くはドルが利用され日常的に決済されています。このことをもって現在、ドルに「国際通貨」という規定が与えられているのです。</p> <p>では、ドルは実際、国際取引でどのように利用されているのでしょうか？現在ではアメリカのニューヨークの銀行に常時一定額預けてあるドル預金が増え続けることによって対外取引の多くが決済されています。そして、このドル預金を振替えるときに必要なのがドル為替であり、外国人（アメリカ非居住者）は頻りにこのドル為替を自国通貨を対価として売り買いする取引、つまり外国為替取引が必要になるのです。そして、国際通貨ドルの実体はアメリカの銀行にあるアメリカ非居住者のドル預金残高であり、取引されるドル為替であるのです。このドル為替と自国通貨を交換するときの交換比率が「為替レート」であり、ドルと円との交換であれば、1ドル何円と日本では表示されるのです。</p> <p>では、為替レートはどのようにして決定されるのでしょうか？その相場を決定するのはドル為替に対する需要と供給のバランスであり、相場の変動要因はドル為替に対する需要と供給の関係の変動で、為替レートは市場で絶えず変動しています。そして実際には為替の需給関係は銀行間市場（外国為替市場）に集約されているのです。</p> <p>では、ドル為替の需給関係は何によって決まるのでしょうか？一定期間の為替の需給関係には、その背後にある対外取引の動向が反映されているのです。その対外取引の一定期間の受払を集約してその収支差額を記録したものが「国際収支」統計です。対外取引は、①モノの取引（財貨＝有形財）、②サービスの取引（無形財取引）、③カネの取引（資本取引）、そして④資本取引の結果生じる投資収益（利子、配当など）の受払に分類されます。それらが、①貿易収支、②サービス収支、③資本収支・外貨準備増減、④所得収支という名称で記録されているのです。</p> <p>ただし、今日の為替レートを動かすのは、ほとんどがカネの取引によるもので、「国際金融市場」における資本取引の激増、なかでも投機的な資本取引の激増の結果です。今日の外国為替取引の圧倒的部分は、金融収益を獲得するための資本取引を反映しているのです。金融グローバル化、デリバティブ取引の急増、急速な資本移動、マネー・ゲーム、急速な円高・円安、通貨危機、カジノ資本主義といったキーワードはこのことに関連するのです。そして、今日、日本において為替レートとりわけ円ドル相場の変動が大きな問題となり注目されるのは、日本経済とアメリカ経済が貿易や資本取引において密接不可分の関係にあるからなのです。</p> <p>では、国際通貨国アメリカと貿易立国日本の関係は実際どうなっているのでしょうか？日本とアメリカのGDPは、あわせて世界全体の48%を占めています。この両大国は互いに補完しあいながらますます関係を強めています。というのは、第1に、日本の輸出はアジア経由を含めて半分ぐらいはアメリカに依存しているからです。近年、中国が巨大な消費市場として成長していますが、日本の対米輸出の中継基地としても大きな役割を果たしつつあります。今やアメリカ経済とアジア経済が日本経済の生命を制しているといっても過言ではありません。その結果、日本では対米輸出拡大による貿易黒字が拡大する一方で、アメリカでは史上最大の財政赤字と経常収支（貿易収支）赤字の拡大が続いています。また、アメリカは外貨でなく自国通貨ドルで世界中からモノを買うことができるので、ある一定限度までは赤字の拡大が持続可能なのです。</p> <p>第2に、現在、アメリカ経済は政府部門によって一定程度引っ張られていますが、その資金的支柱は日本になっていきます。アメリカ政府の発行する国債を大量に買っているのは日本だからです。そのことも1つの大きな要因となって、資本収支は日本の大幅赤字、アメリカの大幅黒字となり、さらにアメリカは世界最大の債権国、日本は世界最大の債務国となっているのです。</p> <p>しかし、日本の経済は内需ではなく、巨大な貿易赤字の背後にあるアメリカ人の低貯蓄と過剰消費に依存しているといえるのです。したがって、この関係がいつまでも持続可能ではないことも明らかになってくるのです。さらにアメリカの貿易赤字の持続は、アメリカの購買力の一方的な対外流出を意味し、アメリカ国内の雇用問題を悪化させることとなります。</p> <p>このようにして、国際金融の制度や理論を知ることで、貿易におけるアメリカ依存の日本経済と日本と資金循環で結びつくアメリカ経済という特異な構造が見えてきます。すなわち、ドルに依存しつつドルを支えるという日本の対外取引におけるバランスを欠いた奇妙な関係が見えてくるのです。そして、そここそ自立性のない日本の経済政策の根源があるといえます。グローバル化が大きく進展した今日ですが、グローバル化の実態を正しく認識することが必要であり、そこから浮かび上がる日本経済の問題、さらには日本企業の経営の問題を根本的に理解することが必要となっています。そのためには国際金融の知識が不可欠といえます。</p> <p>以上の観点から、国際金融論では、1) 国際金融の理論と制度についての基礎的な知識、2) 国際金融から見てくる日本経済の問題点、あるいは企業経営の課題について展開し、みなさんの国際金融への理解を深めてもらいたいと考えています。</p>
授業方法：	<p>授業は全て講義形式でおこない、毎回、講義資料を配付します。授業は基本的には以下の流れで行う予定です。</p> <p>[1] 前回講義の復習および質問に対するリプライ [2] 講義 [3] 授業内容等に関する質問票提出</p>
履修の留意点：	必ずしも前提とはしませんが、関連する科目として「金融論」、「証券論」、「国際経済学」、「欧米経済論」等を履修していると学習効果は高まるでしょう。
目標と評価：	<p>[目標] [1] 国際金融における基礎的な理論・制度に関する知識を獲得する [2] 国際金融に関する知識がなぜ必要なのか、その意義を理解する [3] グローバル化とその実態、国際金融の視点から見てくる日本経済や日本企業の経営の問題を認識し、それにどう対応するべきか自分自身の見解を確立する</p> <p>[評価] 期末試験の結果に、質問票に対する評価などの平常点を加味して評価します。 評価の配点は以下のとおりです。 [1] 平常点 (30%) [2] 試験 (70%)</p>
教科書：	
参考書：	『金融論』 関根猪一郎・木村二郎・大畠重衛・小西一雄 青木書店 2000年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日中比較経済論」（担当者：劉 暢）の履修の手引き

科目名：	日中比較経済論
担当者：	劉 暢（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この授業では、まず比較経済学の研究対象、分析方法及び研究内容に関する基礎概念を講義する予定である。そして比較経済学の視点から日中比較経済研究の可能性、前提及び目的等を説明する。これらに基づき、講義時間が許す限り、日中両国の比較経済体制を中心とする諸問題を取り上げ具体的な検討を行いたい。
授業方法：	授業は通常の講義形式で行う。
履修の留意点：	①今日の日本経済および中国経済に対して関心をもつ学生の履修を歓迎する。 ②2年次秋学期に「戦後日本経済史」の授業を履修しておくことが望ましい。 ③教科書は履修者の予備知識、授業への関心そして理解など前提にし、必要に応じて授業の時に提示する。
目標と評価：	目標： ①比較経済論の視点から日中比較経済研究の基礎知識を身につける。 ②よって、日中比較経済研究に関する具体的な考察を理解できることを目指す。 評価： 筆記試験、受講態度などを総合して、成績を評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「アジア経済論」（担当者：平井 東幸）の履修の手引き

科目名：	アジア経済論
担当者：	平井 東幸（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>「21世紀はアジアの時代」といわれています。日本とアジア諸国との貿易や投資、そして人的な交流を通じて、アジアの経済社会が国・地域別にどのように発展しているかについて学ぶことを目標にします。「世界の工場」「世界の市場」の中国、先進国の仲間入りを果たした韓国、そして経済成長が著しい台湾や東南アジア諸国の状況、日本との関係を業種（たとえば繊維産業）のケーススタディを含めて紹介します。また、人口40万人弱の小さな王国ブルネイ、何かと注目を集めている北朝鮮などについても解説しましょう。</p> <p>世界は経済が発展する国と停滞を続ける国・地域に別れますが、なぜアジア、とくに東アジアは過去半世紀にわたって経済発展が目覚ましいのか、「後発の利益」「開発独裁」「雁行形態発展論」などの開発経済学の初歩的な解説も含めて、また話題のFTA（自由貿易協定）など地域統合なども講義する予定です。</p>
授業方法：	<p>プリントを配布して講義形式で行います。一部でビデオも使用します。また、資料を配布して、それをもとに表を作成するなど、参加型の授業方法も取り入れます。</p> <p>なお、外部から講師を招聘する予定です。</p>
履修の留意点：	<p>とくにありません。</p> <p>教科書は使用しません。</p> <p>参考書：『やさしい開発経済学』山形辰史 日本貿易振興機構アジア経済研究所 1998年 『成長のアジア 停滞のアジア』（講談社学芸文庫）渡辺利夫 講談社 『日本産業と中国経済の新世紀』古賀義弘ほか 唯学書房 2004年 『岩波小事典 国際経済 金融』岩本 阿部 岩波書店 2003年</p>
目標と評価：	<p>目標は上記の概要で述べたとおり、21世紀はアジアの時代だとすれば、日本とアジアとのビジネスがさらに広範囲に躍進するはずですが、この講義を通じて、アジアの経済を日本との関係において理解を深めてもらいたいと思います。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際貿易論」（担当者：亀卦川 芽以）の履修の手引き

科目名：	国際貿易論
担当者：	亀卦川 芽以
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	世界はグローバル化が進み、モノやサービスは国境を越えて取引されています。この「国際貿易論」では前半に、貿易が起こる仕組みなどを理論的に分析をしていこうと思っています。具体的な内容としては交易条件、リカード・モデル、ヘクシャー＝オリーンの理論などです。後半では、時事的な内容を項目別に分けて授業を行います。具体的な内容は、GATT＝WTO体制、地域内交渉、二国間協定などです。
授業方法：	講義形式で行います。しかし、こちらが一方的に話すのではなく、皆さんに質問を投げかけて答えてもらう方法で授業を行いたいと思っています。
履修の留意点：	この科目に興味がある学生は全員歓迎します。ただし基本的な経済学の内容が分からず、授業についてこれない場合は、こちらが指定した本で勉強してもらいます。また科目の性質上、留学生の受講者が多いですが、日本語の試験をクリアして嘉悦大学に入学しているので特別扱いはしません。日本人であろうと留学生であろうと同じように試験の採点をします。また、授業の連絡を嘉悦大学のHPからメールを送るので、確認することができることを履修の条件とします。 授業では教科書は使わず、こちらからプリントを配布します。サイズはA4に統一しますので、なくならないようファイルを用意して下さい。 この科目の再試験に関しては、出席点は加味しません。しかし、試験の内容に関しては本試験と異なるものにしますので、きちんと授業を受けていなければ合格はできないと考えていて下さい。
目標と評価：	この科目を受講した場合の目標は、 ・基本的な貿易メカニズムを図や文章を使って理解できる。 ・現在さまざまな貿易体制があるが、それぞれの仕組みを理解できる。 評価の方法は、学期末試験（90点）と課題の提出状況（10点）の合計100点満点で採点します。 ・学期末試験は追試との関係で最後の授業ではなく、学校が定めた試験期間中に行います。 ・課題は自分のためにやるものと考えていますので、提出期間内に提出をすれば点数を加算します。ただし、白紙が多い場合はこの通りではありません。課題の回数に関しては、受講生の理解度によって決めたいと思っています。 ・大学生ですので授業を一生懸命受けるのは当然だと考えています。そのため、授業態度に関してはきちんと受けているからといって加算せず、逆に授業態度が悪い場合のみ減点の対象とします。
教科書：	
参考書：	ゼミナール国際経済入門 伊藤元重 日本経済新聞社 1989年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際文化論」（担当者：畑中 敏夫）の履修の手引き

科目名：	国際文化論
担当者：	畑中 敏夫
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この講義は大別すれば二つの内容から成っています。一つは日本人の起源の問題、もう一つは日本語の起源とその特色に関する問題です。つまり人種と文化という視点から私達自身の事を考えていこうと言う事です。前者は、人類学や考古学の成果を踏まえ私達のルーツを探り、又この問題の展開を通して人種の差異がどのように生じてきたかを明らかにし、人種という概念自体を相対化して行きます。後者については、他の言語との比較を通じて日本語の特色や日本文化の有り方を考え、異文化理解の問題点にまで言及する予定です。
授業方法：	講義中心の授業ですが、適時、ビデオ教材を用いて具体的に上記の問題の理解が進むよう展開していくつもりです。
履修の留意点：	特別にありません。上記のテーマに関心のある人が望ましい。
目標と評価：	目標：異文化理解を通して私達自身の事をよりよく理解すること。 評価：学期末に実施する筆記試験とレポートとを総合的に判断する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本文化 I」（担当者：石田 雅彦）の履修の手引き

科目名：	日本文化 I
担当者：	石田 雅彦
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本授業の目的は学期の間に、日本の先人たちが現在にまで届けた伝統文化の一端に触れることにある。また日本の文化史を理解することにより、日本の文化が回りを取り囲む国々との交流によっていかに成り立ってきたを知り、それにより他の国々との友好の大切さを理解するにある。
授業方法：	日本の文化の成り立ちを理解しながら、現在も日本の伝統文化を維持されておられる講師の方々に来ていただきその文化に直接触れる。また、毎回授業において鎌倉時代発の日本文化のひとつである、抹茶を学生間で点てることにより、もてなしの心を身につける。またその間に箸のもちかた等の日本人の基本のマナーにも立ち入って学ぶ。年間のカリキュラムは授業開始当日の出席学生数に応じて作成する。
履修の留意点：	上記を目的とする授業であるので、出席体験することが基本になる。したがって出席しない学生には本授業を受ける意味がない。毎回必ず出席を取るので受講希望の学生諸君には了解してもらいたい。授業においては文化史関係の資料は毎回授業の初めに配布する。
目標と評価：	目標は文化体験にある。この体験が受講したそれぞれの学生諸君の人生に於いて役に立つことがあるであろう。評価は毎授業を出席したかどうかを中心になる。また期の最後に「論文」を提出する。以上を合わせ評価する。出席なくして評価は無いことを理解してほしい。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本文化Ⅱ」（担当者：石田 雅彦）の履修の手引き

科目名：	日本文化Ⅱ
担当者：	石田 雅彦
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	日本文化Ⅰに同じ
授業方法：	日本文化Ⅰに同じ
履修の留意点：	日本文化Ⅰに同じ
目標と評価：	日本文化Ⅰに同じ
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「家庭経営論」（担当者：青山 理恵子）の履修の手引き

科目名：	家庭経営論
担当者：	青山 理恵子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>少子・高齢化と一口に現代社会の現象を表現するが、その内容は晩婚・非婚・また、就労形態・就労構造の変化など家族及び社会の環境は多様化している。多様化する中で自分はどうあるべきか、自己の生きる生活力、消費者力とも言える主体的判断力を身につけるべく、1、急激に変化する家族関係、2、社会経済の変化に対応する家計管理、3、衣・食・住を巡る消費生活という3つの柱を軸に家庭経営を捉え、基礎的知識を学ぶ。</p> <p>自立した生活者となるためには、家庭、社会、政治、経済、そして、地球環境と無縁ではいられない。日常生活も自己の選択眼により、大きな差異が生じることを学ぶ必要がある。この数年、生活者を取り巻く消費者法も大きな転換点を迎え、消費者基本法、個人情報保護法、裁判員法など、目新しい法律が成立している。否応なく社会の一員としての判断を求められることになる。日常の一コマから社会の仕組みを洞察する力を身につけるため、消費者運動史、消費者行政の歴史、消費者法の体系、衣食住・生活設計などを具体的に学び、修了時には消費生活アドバイザーの資格取得にチャレンジできる力を身に付けられるよう講義を進めたい。</p>
授業方法：	<p>基本的には講義形式である。講義にはその都度、講師が資料を用意して講義を進める。現代社会を取りまく状況、例えば、ある機関のアンケート調査で「20年前と著しく変わって悪くなったもの・・・治安」という結果が出ているが、そういったホットな情報、新聞・雑誌・ネットなどから見えてきたものを学生はどう分析するかなど問題提起しながら議論及び講義を進める。また、選択性夫婦別姓などの問題など、賛成派、反対派などに別れ、教室内でのディベートなども出来ればと考える。生活設計の考え方などについては外部講師・・・ファイナンシャルプランナーなどの・・・を招いての専門的見地からの講義も考え、一方的講義にならないよう努めたい。</p>
履修の留意点：	<p>参考書などは第一回目の講義に提示したいが、通常は消費者法の改定など「今」の状況を講義したいので、その都度のプリントを用意するため、欠席すると資料は受け取れない。それ以外の履修の条件はありません。また、「今、消費者問題とは」という簡単な教科書を講師が作っているので、第一回の講義時間に間に合えば差し上げます。</p>
目標と評価：	<p>ペーパーテストは行わない。</p> <p>講義半ばで学生一人一人に異なるテーマの課題を提供する。課題に沿って、12回目にレポートの提出を求め、そのレポートの内容を13回目には発表してもらう。課題に的確に答えているレポートであるか、また、その趣旨を100%活かしたプレゼンテーションが出来ているか、他者をナットクさせる、効果的なプレゼンが出来ているか等の評価を行う。</p> <p>通常講義の7割の評価点のうち、このレポート提出とプレゼンテーションで60%の評価を行い、後の20%は他者の発表内容をどれだけ自分のものとする事が出来るか、学習効果を高めるために積極的に質問、ディスカッションに参加できているかを評価したい。また、通常の講義時間においても質問、意見交換など、積極性を重視し、取り組み姿勢を評価するが素の評価点を20%としたい。</p> <p>先にも述べたが、目標は、消費者問題全般の知識、専門性を身につけ、将来において、企業と消費者の架け橋となれるような消費生活アドバイザーの資格取得を視野に入れる。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「生活環境論」（担当者：生井 良一）の履修の手引き

科目名：	生活環境論
担当者：	生井 良一（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全013回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>概要</p> <p>生活空間にもさまざまな環境問題が起きている。車による大気汚染、飲み水の問題、騒音問題、食品の安全性などが問題となっている。とくにごみの問題はどこの地域でもきびしい状態である。また、子供のアレルギーが増えている。花粉症も10人に一人の割合という。これらは、大気汚染や化学物質によるところが大きいのではないかとされている。最近では、化学物質による環境ホルモンの問題もある。</p> <p>授業では、まずは、ごみの問題を取り上げる。どこの自治体でも一番困っているのが埋立地の不足である。そのためにさまざまなごみの減量に取り組んでいる。リサイクルや有料化もその一つである。焼却場からはダイオキシンも発生する。これら、ごみ問題の実情とさまざまな取り組みを紹介する。</p> <p>アスベスト汚染も問題となりつつある。以前にビルなどの断熱材として使われたアスベスト。現在これらの建物が建て替え時期を迎えて、解体工事でアスベストが四散する恐れがある。アスベストは非常に微細な物質で呼吸により肺に吸い込まれる。それが長い時期を経て、がんなどを引き起こす危険性があるのだ。</p> <p>ついで、食品の問題。狂牛病、鳥インフルエンザの広がりなどが次々と起きている。それに食品添加物の問題もある。一方、生活スタイルの多様化により「個食」や「孤食」、ファーストフードに偏りがちといった状況もある。</p> <p>水は生活に欠かせない。人は一人一日およそ3リットルほどの水を飲んでいる。家庭における一人一日の生活用水はおよそ250リットルにも達している。毎日これだけの水を使い、これだけの水を排出している。水道の蛇口に来るまでの水の旅、家庭から流れ去った後の水の行方。これを追いかけていくことで、水の汚染や水の処理といったことを学ぶ。下水処理場ではどんな処理をしているのだろうか。また、どんな問題があるのだろうか。湖の汚染「あおこ」はなぜ発生するのだろうか。こうした水の高度処理とはどんなものだろうか。また、水道の歴史、さらにさかのぼって玉川上水の歴史などにも言及したい。</p> <p>都市の水をつくってくれているのが上流の山村地帯。水と緑の関係について、ぜひとも知って欲しい。森のはたらきはそれだけではない。都市から林が無くなると、ヒートアイランド現象がいつそうすすむ。ヒートアイランド現象とは何か。都市の温暖化も年々ひどくなっている。それをやわらげてくれるのが樹木なのである。都市の緑の大切さを再認識したい。</p> <p>車による大気汚染も進んでいる。排気ガスに含まれる窒素酸化物や粒子状物質（すす）がぜんそくなど呼吸器系の病の原因となっている。それに排気ガスは酸性雨の原因にもなっているのだ。車の数をどう減らすか、排気ガスをどう改善するか、渋滞をどう改善するかなど最近の動きを紹介する。</p> <p>地球温暖化問題と関連して、省エネルギーをどう進めるか、生活スタイルをどう変えていくかなど、エネルギーと生活の関係についても考えてみる。身そして身近な行動につなげたい。今年は二酸化炭素削減の国際的な取り組みである京都議定書が2月に発効する。日本は今の14%を削減しなければならぬのだ。</p> <p>少しでも暮らしやすい町づくりを進めたい。暮らしやすいまちづくり、それは子供にとっても、障害者にとっても、お年寄りにとっても暮らしやすいもの。いわゆるバリアフリーのまちづくりである。最近では、もっと範囲を広げて誰にとっても暮らしやすいという意味でユニバーサルデザインと呼ばれている。その前に、人間の心のバリアもフリーにしたいもの。そんな取り組みも紹介する。</p> <p>他に、公害の原点でもある足尾銅毒事件、有機水銀による水俣病、大気汚染による四日市ぜんそく、カドミウム汚染によるイタイイタイ病についても紹介する。これらを学ぶことによって、環境の大切さを確認したい。</p>
授業方法：	<p>授業の方法</p> <p>内容を具体的に理解できるように、いろいろな事例を紹介する。そのために、ビデオ教材をひんばんに使用する。プリントは必要に応じて配布する。とにかく、どんな質問でも大歓迎、ささいなことでも質問して欲しい。</p>
履修の留意点：	<p>履修上の留意点</p> <p>自分の住んでいる地域の環境と対応させながら話を聞いて欲しい。それに、自分たちでもできる身近な環境のための取り組みは何か、そんなことも考えて欲しいと願っている。</p>
	<p>目標と評価</p> <p>目標1：身近な環境に関心を持つこと 目標2：身近なことで、できるところから実践すること 目標3：世界の環境にも関心を持つこと</p> <p>評価の方法</p>

<p>目標と評価：</p>	<p>学期末の試験あるいはそれに替るレポートと出席点によって評価を決定する。ときには、授業中の態度が考慮の対象となることもある。なお、100点満点のうち、評価点が70%、出席点が30%である。</p> <p>教科書</p> <p>教科書は使わない。</p> <p>参考書</p> <p>そのかわり、必要に応じ参考書を紹介する。</p>
<p>教科書：</p>	
<p>参考書：</p>	

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「NGO・NPO論」（担当者：内田 和夫）の履修の手引き

科目名：	NGO・NPO論
担当者：	内田 和夫（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>公共的な仕事を政府だけが担う時代は終わって、自発的な市民がさまざまな形でそうした仕事に取り組む時代となりました。自発的な市民が共同で取り組むための組織がNGOであり、NPOです。この講義では、そうしたNGOやNPOの活動の実際に受講生諸君に触れてもらう中で、そうしたことに取り組む人々が目指すのはどんな社会なのかを一緒に考えてみたいと思います。以下のような章立てを予定して講義を進めます。都合により、NGO/NPOの事例を入れ替える場合があります。</p> <p><1> NGO/NPOとは <2> 市民として「世の中」を考えると <3> NGO/NPOの実際（1） ---- 自立援助ホーム「星の家」の場合 <4> NGO/NPOの実際（2） ---- ジャブラニール=市民による海外協力の会の場合 <5> NGO/NPOの実際（3） ---- 人道目的の地雷除去の会の場合 <6> NGO/NPOの実際（4） ---- CAPの場合 <7> NGO/NPO論のまとめ</p>
授業方法：	<p>① 受講者に意見や感想をどしどし書いてもらい、それに対する応答をする形で進めることを工夫します。</p> <p>② ビデオ、ゲスト、記録、などを通じて、実際に触れてもらいます。</p> <p>③ 読書レポートが最低2本あります。</p>
履修の留意点：	<p>① 講義に出てきて実際に手を動かして書くことの多い講義です。前向きに社会の問題や課題と向き合う機会として活用してください。</p> <p>② 読書レポートの提出が必須です。</p>
目標と評価：	<p>① 受講者自身のNGO/NPO像を描くことを目標とします。</p> <p>② 講義中の小レポート3割、読書レポート4割で評価する予定です。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「環境経済論」（担当者：内藤 勝）の履修の手引き

科目名：	環境経済論
担当者：	内藤 勝（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	農業の原理は、リサイクルである。ところが、工業はその機能が無い。例えば、石油からナイロンを作る過程を考えたらよい。まず、石油という資源を失う。製造過程で、大量の排ガス(高エントロピー)を環境に捨てる。これが公害の原因である。厳密に言えば、原油から石油に精製する過程からも高エントロピーは排出される。更に、ナイロン等の工業製品が捨てられ焼却される過程からも高エントロピーは生まれる。これ等が、環境の汚染、つまり公害の発生源だと言ってよい。経済学は、市場メカニズムにのったものしか評価できない。しかし、今後の社会では、排ガス等の高エントロピーをCO2税、環境税等によって課税し環境経済活動をエントロピー（エネルギーの汚す。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。
授業方法：	ビデオ等を利用しながら、講義をする。
履修の留意点：	なし
目標と評価：	○目標 自然・経済・生活の中から環境問題を考える。自然の視点より現代社会を観る。経済活動をエントロピー（エネルギーの汚れ）から分析する。 ○評価 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 レポートによる。
教科書：	物質循環とエントロピーの経済学 内藤勝 高文堂出版社 2004
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「児童福祉論」（担当者：黒田 慶子）の履修の手引き

科目名：	児童福祉論
担当者：	黒田 慶子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	数年前まで「児童福祉」とよばれていたことがらは、現在「児童家庭福祉」「子ども家庭福祉」などと呼ぶ人が多くなっている。それはなぜだろうか。このような問題意識を背景に、本講義では戦後日本の子どもをめぐる環境の変化に焦点をあて、あなたがた自身の記憶をもとどりながら、現代日本の子どもたちが直面している状況について一緒に考えてみよう。そのうえで「児童家庭福祉」の現状を概観し、その特徴と問題点を理解することをめざしたい。
授業方法：	講義、意見発表、討論
履修の留意点：	本講義はその内容からいって、学生自身の体験や記憶を披露してもらうことが多い。自分の体験を言語化するのには簡単ではないが、きわめて個人的な体験が実は時代のものであることに気づく人も多いだろう。授業時間内の発表やレポートなどで、「目からウロコ」体験をしてもらえれば、それだけでも価値があることだと思っている。ぜひ積極的に自分の体験を客観化する醍醐味を味わってほしい。がそのためには全員が講義に前向きに関わる姿勢が大事である。この授業の成否は一人ひとりの関わりかたにかかっているということを忘れずに参加してほしい。なお、参考文献は講義のなかで適宜伝える。
目標と評価：	目標：戦後日本の子どもをめぐる変化と、現代の子どもがおかれている現状、ならびにその対策の課題を理解することをめざす。 評価：出席、意見の発表、討論、レポート、定期試験を総合的に評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「家計と金融」（担当者：堀内 健一）の履修の手引き

科目名：	家計と金融
担当者：	堀内 健一
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>この講義では、現在の日本の標準的な家計における収入と支出および貯蓄の動向を把握し、教育資金や老後資金を含めて、生涯にわたる豊かな暮らしを支えるための生活設計、資産管理、資産設計に関する基本的な考え方を学ぶことをねらいとしています。</p> <p>では、家計とは何でしょうか？また、家計と金融とはどのように関わっているのでしょうか？日本の標準的な家計は、労働力を提供することによって賃金所得を得て、かつ金融機関への預金・証券投資によって利子や配当所得を得ることで所得を得ています。さらに家計はその所得を企業からの財・サービスの購入にあてる（消費行動）ことと、金融機関への預金・証券投資（貯蓄行動）に配分しています。またさらに家計は公共部門に対して税金（所得税や消費税）と社会保険料（年金・医療等）の拠出を行い公共サービスと社会保険給付を政府から受けとっています。</p> <p>すなわち、家計は収入を得て、税や社会保険料の支払いをしたり消費をしたりして支出をし、残ったお金は貯蓄にまわっています。貯蓄にはいろいろな手段がありますが、それによって家計は資産を形成し、消費生活の安定・向上、健康、子供の教育・自立、家族の自己実現、余暇活動、保険、老後生活への準備など現在から将来にかけての必要な資金を確保しようとしています。さらに、家計は支出が収入を上まわるとき、あるいは投資が貯蓄を上まわるときには、消費者ローン、住宅ローン、教育ローンなどのかたがたで負債を負うこととなります。</p> <p>このような家計のプロセスにおいて前提になるのは、生活設計、すなわち現在や将来に対する望ましい生活像を描き、そのような生活はどのような条件・状況のもとで実現可能かを考え、目的達成のため、具体的計画を立てることです。将来の目標を達成するためには、現在から将来にかけての暮らし方を考えるだけではなく、将来から逆に現在までの暮らしをたどり、現在の時点で何をしておくべきかを考えることが大切になってくるのです。</p> <p>こういった生活設計をしやすくするために、通常、ライフステージを考えます。すなわち人の一生をいくつかの段階に区切って考えるのです。たとえば、人の誕生から成長発展の過程について、乳児期、幼児期、児童期、少年・少女期、青年期、労働期、引退期と分けたり、また準備期、順応期、蓄積期、両親期、再発見期、引退期と分けたりします。そして、それぞれのライフステージでの生活課題を予見し検討することによって、より具体性のある生活設計をして1回限りの人生を意義あるものにしようとするのです。</p> <p>そして、それを実現するために、合理的・効率的な家計（キャッシュ・フロー、資産・負債）管理や資産設計という技術が必要になり、そのための知識が必須となるのです。また、その際に税金や社会保険に関する知識も必須となるのはいうまでもありません。</p> <p>さらに、家計をとりまく経済状況や金融情勢についても正確な理解と判断力が求められるようになります。経済については、右肩上がりの成長の時代が終わり、雇用情勢の悪化や賃金の低下、また社会保障の後退による負担増給付減などによって収入は減り、家計は支出削減を迫られています。一方で、養育費や教育費はかさむばかりでそれが出生率低下、少子高齢化社会の加速の一因になっています。さらに、貯蓄率の低下や個人破産の急増が目立つようになってきました。</p> <p>また、1990年代に発生した不良債権問題、金融危機が引き金となったゼロ金利、ペイオフ問題、金融再編など、家計の資産運用にとってはリスクの高まりとともに、リターンをあまり期待できない非常に厳しい時代になっています。こうした家計をとりまく困難な状況を理解すると共に、このような状況の中で家計はどのような対応をするべきなのかを問われています。あるいはかつてなく将来不安に直面した家計には、なにがどこまでできて、なにができないのかを正しく認識する必要があります。</p> <p>以上の視点から、1) 家計における金融の役割とその活用のための知識、2) 家計から見た日本の経済・金融とその家計への影響について講義を展開し、みなさんの家計と金融についての理解を深めてもらいたいと考えています。</p>
授業方法：	<p>授業は全て講義形式でおこない、毎回、講義資料を配付します。授業は基本的には以下の流れで行う予定です。</p> <p>[1] 前回講義の復習および質問に対するリプライ [2] 講義 [3] 授業内容等に関する質問票提出</p>
履修の留意点：	必ずしも前提とはしませんが、関連する科目として「金融論」、「財政学」、「労働経済論」、「社会保障論」、「福祉政策」等を履修していると学習効果は高まるでしょう。
目標と評価：	<p>[目標] [1]家計と金融についての基礎的な知識を獲得する [2]生活設計、家計（キャッシュ・フロー、資産・負債）管理、資産設計の意義を理解する [3]現在、家計をとりまく諸条件すなわち経済状況、金融の最新動向について理解し、それに家計はどのように対応すべきか自分自身の見解を確立する</p> <p>[評価] 期末試験の結果に、質問票に対する評価などの平常点を加味して評価します。 評価の配点は以下のとおりです。 [1]平常点(30%) [2]試験(70%)</p> <p>参考書2 書名：『暮らしと金融なんでもデータ（平成16年度版）』 ※同上書の内容は次のウェブサイトからもダウンロードできます。 http://www.shiruporuto.jp/save/book.html 著者名：渡辺孝監修 出版社名：金融広報中央委員会、 出版年：2004年</p>
教科書：	
参考書：	『家計から見る日本経済』（岩波新書） 橋本俊詔 岩波書店 2004年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「社会保障論」（担当者：南雲 智映）の履修の手引き

科目名：	社会保障論
担当者：	南雲 智映
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	初めの数回の講義では社会保障の意義、役割、基本的な考え方を学ぶ。そのあと、日本の社会保障制度（医療保険、生活保護、社会福祉制度、介護保険、年金、雇用保険など）の概要を整理し、高齢化と財政の問題などこれから日本国民が直面する問題点を解説する。また日本の社会保障制度の変遷をその時代背景とともに解説する。
授業方法：	講義形式を基本とする。これに加えて、履修者に課題を出すことがあるが、課題の内容について全員参加型のディスカッションを行いたい。 また、個人が生活設計するにあたって、社会保障制度の動向を捉えておく必要がある。それゆえ、履修者自身が、社会保障制度を考慮に入れた上で自分の将来を考えていくような時間を取りたい。
履修の留意点：	この講義は、受講者が初めて社会保障を体系的に学ぶ人であることを想定しているため、社会福祉士などの資格試験を考えている人にとっては、この講義の内容だけでは少し不足だと思う。そのような人たちには別途、相談に乗る。
目標と評価：	日本の社会保障制度を体系的に理解するとともにその背後にある考え方も理解し、社会保障を通して個人の将来を見直してもらうことを目標とする。また、諸外国の社会保障に興味がある履修者にとっても、日本の社会保障制度をベンチマークとして理解してもらうようにする。 評価は期末試験を基本とするが、課題の回答状況も加味する。レポート等はなし。
教科書：	平成17年版 社会保障入門 社会保障入門編集委員会 中央法規出版 2005年3月（予定）
参考書：	社会福祉士養成講座 新版（第3版） 5 社会保障論 社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 2005年1月

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代消費論」（担当者：三村 光代）の履修の手引き

科目名：	現代消費論
担当者：	三村 光代
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	消費生活及び消費者問題について学ぶ。その中から自己責任時代の消費者の権利と役割及び責務について考える。さらに消費者被害発生メカニズムを分析。
授業方法：	<ol style="list-style-type: none"> 1. 消費者問題の基礎 2. 消費者運動の歴史と現状 3. 消費者被害の発生とメカニズム 4. 最近の消費者問題 5. 事業者活動と消費者問題 6. 環境とエネルギー問題 7. 裁判所とのかかわり 8. その他
履修の留意点：	必要に応じパンフレットや資料をコピーして使用する。テーマに関連するビデオ
目標と評価：	期末テストとレポートの提出及び出席状況
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「環境と開発」（担当者：沼田 郷）の履修の手引き

科目名：	環境と開発
担当者：	沼田 郷
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	我々人類の歴史は、そのまま開発の歴史と言い換えても過言ではない。開発を行うことは、自然状態に何らかの手を加えることを意味している。このように考えると、人類の歴史は常に開発と環境の問題を抱えてきていると言える。 20世紀は成長の世紀と言われるほど、我々の生活は少なくとも物質的には便利に豊かになったと言える。そうした意味においては、20世紀の「開発」は成功したと言って良い。しかしながら、我々の生命を根底から支える食料、水、大地、大気などは危機的状況にあり、20世紀型の「開発」に対して地球環境が警告を発している。かつて、我々人類は地球という同じ船に乗った運命共同体であると述べた学者がいたが、今日の状況はまさに我等が地球号の危機である。しかしながら、「開発」と「環境」とが両立しにくい非常に難しい問題であると世界的に認識されたのは、ここ数十年間のことである。我々が考察すべき問題は、自然が持っている自浄能力もしくは再生能力を著しく越えて開発が行われた点にこそある。そこで、本講義では「開発」と「環境」の両立を困難にしている諸問題を明らかにする。また、この古くて新しい問題にこれまでどのように対応してきたのかを世界と日本の事例を交えて考察し、21世紀に我々が進むべき道を模索してみたい。
授業方法：	基本的な講義は、パワーポイントを用いて行う。また、必要に応じてビデオなどの映像を用いた講義も行う予定である。 さらに、今日の「開発」、「環境」の実態を把握していただくために統計を多用する。皆さんの理解と疑問点の解消を目的として、講義中に小レポートを提出していただくことも検討している。講義中にホームページなどを参照していただくことがあるので、ノートパソコンを必要とする。
履修の留意点：	「開発」と「環境」というテーマは、我々にとって身近な問題であるにもかかわらず、こうした研究はまだまだ始まったばかりと言えます。ですから、みなさんの周囲で起こっていることすべてがテキストであり、研究課題になると言ってよいでしょう。ですから、本講義では皆さんの興味・関心が重要になってきます。視野を広げて、日々のニュースを見てください。講義では「開発」に関する初歩的な理論を扱いますが、高等数学などを必要とするものではありませんのでご安心ください。教科書は特に指定しませんが、講義開始までに読むことをお勧めする参考図書をいくつか挙げておきます。また、より専門的な知識を得たいと考える諸君には講義中にも参考図書を紹介します。最後に、あたりまえのことですが、私語や他人に迷惑をかける行為に関しては、即刻退室していただきます。さらに、遅刻や居眠りなどもチェックします。最後に、携帯電話の使用はその一切を禁止します。 参考書 宮元憲一『環境と開発』岩波書店、1992年。 宇沢弘文『地球温暖化を考える』岩波新書、1996年。 石弘之『地球環境報告Ⅱ』岩波新書、1998年。 定方正毅『中国で環境問題に取り組む』岩波新書、2000年。
目標と評価：	これまでの「開発」（特に20世紀型の「開発」）がどのようなものであったのかを理解すること。これからの「開発」に欠かすことのできない「環境」というファクターを認識し、今後どのような「開発」を行っていくべきかを考える基本的知識を身につけること。 これらの知識を習得することによって、21世紀のキーワードである「環境」に対して深い関心と考え方の基礎を見つけていただく。 評価は期末の試験（もしくはレポート）60% 講義中の小レポートおよび中レポート 40%
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「食糧経済論」（担当者：内藤 勝）の履修の手引き

科目名：	食糧経済論
担当者：	内藤 勝（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	人は、食料を食べて生きている。その食料は、国、地域、場所によって異なる。時代によっても、異なる。農業経済学では、生産に重点をおいた。ここでは、食べる、料理、流通、加工と言った点を講義したい。
授業方法：	講義、ビデオ等を活用して、講義する。
履修の留意点：	特に無し。
目標と評価：	期末にレポートによる。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「労働と余暇の経済学」（担当者：戎野 淑子）の履修の手引き

科目名：	労働と余暇の経済学
担当者：	戎野 淑子（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	今日、労働を取り巻く環境は大きく変化し、「働き方」も多様化している。また、それに伴い、様々な問題も発生してきた。そこで、この講義では、まず労働経済について理論的な理解を深め、その後今日生じている変化およびその背景である経済・社会的環境について学ぶ。さらに、労働基準法やILOなど諸制度や仕組みについても、明らかにしていく。
授業方法：	講義形式で行う
履修の留意点：	春学期の「日本企業と雇用システム」を受講していることが望ましい。
目標と評価：	原則として中間試験、期末試験によって評価するが、授業態度など平常点も考慮する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「土地・住宅経済学」（担当者：恵藤 晃朗）の履修の手引き

科目名：	土地・住宅経済学
担当者：	恵藤 晃朗
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	私の時間は教える（ティーチング）ではなく、その人の住宅経済に対する能力をひき出すよう指導（コーチング）するものである。私は学者ではない、住宅業界で身をもって体験した実務（人材開発）実学をお話し申し上げたいと思っております。 衣食住という基本的なもののうち、「住」これは人にとって生活の場であり、コミュニケーションの場でもある。 講義は秋学期である日本の住宅メーカーがどのような人間を育て求めているか土地・住宅問題を主として、住宅メーカーの動き、土地の有効利用、規制緩和、住宅税制の現状と課題を考えていく、その為に住宅の歴史、材料というものを考えていかななくてはならないので生活という視点から土地・住宅経済学をスタートさせていく。
授業方法：	講義中心の授業であるが授業中テーマを与え討論してもらう場合もある、これは人の意見に耳をかたむける訓練（ヒアリング）でもある。 はじめに ①、② 特に土地というものの考え方と木（材料）は住宅の基礎となるので学習する。 ③、④ 住宅の歴史にふれ、戸建の在来工法住宅、プレハブ住宅、2×4工法住宅を学習する。 ⑤ 賃貸住宅、土地活用（日本の土地利用規制による生活空間の質確保） ⑥、⑦ 住宅金融と税制の返還 ⑧ 住宅物件の今後の方向性 プライバシーの質的变化、商品開発、住宅メーカーの価格方策他 ⑨ インターネットの可能性、生産中心から消費者中心に移行していく問題点、住宅業界、建材業界のネット事業の実態 ⑩ 宅建材のリサイクル市場について資源循環型社会の実現化 ⑪ 住宅の資産価格について ⑫ 住宅建築の将来 高齢社会が進むにつれてバリアフリー住宅を考えねばならない、住む人の心のバリアフリーも大切である。 ⑬ 今後の住宅業界の課題について ⑭ 総まとめ、将来住宅業界に進む学生へアドバイス、常に自分の考え方が主張出来るようにし、自分の魅力が十分発揮出来ると共に住宅業界で生きていく人物を育てる。（住宅メーカーの求めている人物とは・・・）。
履修の留意点：	土地・住宅経済学とむずかしく考える必要はない。 自分達がいかに快適に生活していくかが問題なのだから。 先づは人の話を聞く（リスニング）事からはじめるとよい。 数字、データ等はデータ集を見ればわかる、だが土地・住宅にたずさわの方々のは、人と話し聞き、自分で感ずるしかない。
目標と評価：	この授業を受講した学生しょくんは、人の話を聞く姿勢を学び、住宅業界用語を理解し、自己主張が出来、相手に感動を与える表現が自然に身につく事を望みます。 評価については ・ 出席および議論における積極性 ・ 中間レポート ① 我国の住宅税制について ② 住宅建設の動向について 上記の①②のいずれかを選び12月中間までに提出すること ・ 学期末レポート試験 ① 本格的な長寿社会の到来 ② 木のいのち木のころ 上記より①②のいずれかを選びレポートを書く
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「土地・住宅経済学」（担当者：恵藤 晃朗）の履修の手引き

科目名：	土地・住宅経済学
担当者：	恵藤 晃朗
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	私の時間は教える（ティーチング）ではなく、その人の住宅経済に対する能力をひき出すよう指導（コーチング）するものである。私は学者ではない、住宅業界で身をもって体験した実務（人材開発）実学をお話し申し上げたいと思っております。 衣食住という基本的なもののうち、「住」これは人にとって生活の場であり、コミュニケーションの場でもある。 講義は秋学期である日本の住宅メーカーがどのような人間を育て求めているか土地・住宅問題を主として、住宅メーカーの動き、土地の有効利用、規制緩和、住宅税制の現状と課題を考えていく、その為に住宅の歴史、材料というものを考えていかななくてはならないので生活という視点から土地・住宅経済学をスタートさせていく。
授業方法：	講義中心の授業であるが授業中テーマを与え討論してもら場合もある、これは人の意見に耳をかたむける訓練（ヒアリング）でもある。 はじめに ①、② 特に土地というものの考え方と木（材料）は住宅の基礎となるので学習する。 ③、④ 住宅の歴史にふれ、戸建の在来工法住宅、プレハブ住宅、2×4工法住宅を学習する。 ⑤ 賃貸住宅、土地活用（日本の土地利用規制による生活空間の質確保） ⑥、⑦ 住宅金融と税制の返還 ⑧ 住宅物件の今後の方向性 プライバシーの質的变化、商品開発、住宅メーカーの価格方策他 ⑨ インターネットの可能性、生産中心から消費者中心に移行していく問題点、住宅業界、建材業界のネット事業の実態 ⑩ 宅建材のリサイクル市場について資源循環型社会の実現化 ⑪ 住宅の資産価格について ⑫ 住宅建築の将来 高齢社会が進むにつれてバリアフリー住宅を考えねばならない、住む人の心のバリアフリーも大切である。 ⑬ 今後の住宅業界の課題について ⑭ 総まとめ、将来住宅業界に進む学生へアドバイス、常に自分の考え方が主張出来るようにし、自分の魅力が十分発揮出来ると共に住宅業界で生きていく人物を育てる。（住宅メーカーの求めている人物とは・・・）。
履修の留意点：	土地・住宅経済学とむずかしく考える必要はない。 自分達がいかに快適に生活していくかが問題なのだから。 先づは人の話を聞く（リスニング）事からはじめるとよい。 数字、データ等はデータ集を見ればわかる、だが土地・住宅にたずさわの方々のは、人と話し聞き、自分で感ずるしかない。
目標と評価：	この授業を受講した学生しょくんは、人の話を聞く姿勢を学び、住宅業界用語を理解し、自己主張が出来、相手に感動を与える表現が自然に身につく事を望みます。 評価については ・ 出席および議論における積極性 ・ 中間レポート ① 我国の住宅税制について ② 住宅建設の動向について 上記の①②のいずれかを選び12月中間までに提出すること ・ 学期末レポート試験 ① 本格的な長寿社会の到来 ② 木のいのち木のころ 上記より①②のいずれかを選びレポートを書く
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「高齢化社会論」（担当者：南雲 智映）の履修の手引き

科目名：	高齢化社会論
担当者：	南雲 智映
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	急速な高齢化は日本社会に大きな変化をもたらしている。この講義では、まずわが国の高齢化がどのような原因で、どれくらい進行しているのかを解説する。その後、高齢化に伴う家族、労働、余暇、年金、医療、介護、世代間コンフリクト等の諸問題を履修者の問題意識にあわせながら考察する。また、高齢化の進行度合いについて、国際比較も試みる。
授業方法：	講義形式で行うが、毎回授業時間の一部を使って課題を出題する。課題に回答する過程で受講者の発言を求めるなどして、講義内容の理解を深める。
履修の留意点：	高齢化が日本の社会保障制度に与える影響を考察する回もあるので、理解を深めるためには前期の社会保障論の履修が望ましい。（もちろん、履修していなくても対応できるように配慮は行う。）
目標と評価：	受講者各自が、これからも急速に進む高齢化が日本社会に与える影響を理解し、日本や諸外国の高齢化問題に対して自分なりの考えを持つようになることを目標とする。 期末テストの点数による評価が主だが、課題への回答状況も加味して成績をつける。
教科書：	高齢社会白書 平成17年版 内閣府 財務省印刷局 2005年6月（予定）
参考書：	図説高齢者白書 2004年度版 三浦 文夫 全国社会福祉協議会 2004年12月

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代社会と福祉Ⅰ」（担当者：山崎 常雄）の履修の手引き

科目名：	現代社会と福祉Ⅰ
担当者：	山崎 常雄
設置学期：	春
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	豊かな社会の繁栄の中にあつて、児童を取り巻く環境は必ずしも良好とは言えない。少子化傾向が進む中、不登校児童・生徒は年々増加し、いじめによる自殺者も後を絶たない。非行も残虐化し、マスコミによって社会問題として大きく報道され、その原因を究明するが根拠は至って希薄である。一方政府は、子育てを支援する施策を「エンゼルプラン」として事業の目標を示しているが、女性就労の増大と核家族化による児童の環境整備も緊急の課題である。保育所待機数の解消や児童虐待も深刻である。児童福祉の視点から、児童福祉サービス体系を「法と施策」について紹介し、健全な子育て及び支援のあり方について学習する。
授業方法：	講義形式による。内容は理論と共に実践例を取り上げ、問題を日常的に考え、児童理解を深めることを目指す。
履修の留意点：	現在の児童問題がとういう点にあり、現状はどうなっているのかという問題意識をもって授業に臨むこと。それには新聞・テレビなど日常的で身近な報道に関心を持ち、講義で学んでいることと実情はどう異なるかという意味を持つことが必要である。
目標と評価：	目標 「少子・高齢社会」と言われて久しいが、子ども数が減少してゆく中で、様々な問題が起こっている。何故子ども数がすくなくなつてゆくのか、それによってどういふ問題が起こるのか、国の施策はどうなつていふのか等を把握できるように学ぶ。 評価方法 基本的には筆記試験による。受講学生が少人数の場合は、レポートによる評価方法も考慮したい。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代社会と福祉Ⅰ」（担当者：山崎 常雄）の履修の手引き

科目名：	現代社会と福祉Ⅰ
担当者：	山崎 常雄
設置学期：	春
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	豊かな社会の繁栄の中にあつて、児童を取り巻く環境は必ずしも良好とは言えない。少子化傾向が進む中、不登校児童・生徒は年々増加し、いじめによる自殺者も後を絶たない。非行も残虐化し、マスコミによって社会問題として大きく報道され、その原因を究明するが根拠は至って希薄である。一方政府は、子育てを支援する施策を「エンゼルプラン」として事業の目標を示しているが、女性就労の増大と核家族化による児童の環境整備も緊急の課題である。保育所待機数の解消や児童虐待も深刻である。児童福祉の視点から、児童福祉サービス体系を「法と施策」について紹介し、健全な子育て及び支援のあり方について学習する。
授業方法：	講義形式による。内容は理論と共に実践例を取り上げ、問題を日常的に考え、児童理解を深めることを目指す。
履修の留意点：	現在の児童問題がとういう点にあり、現状はどうなっているのかという問題意識をもって授業に臨むこと。それには新聞・テレビなど日常的で身近な報道に関心を持ち、講義で学んでいることと実情はどう異なるかという意味を持つことが必要である。
目標と評価：	<p>目標 「少子・高齢社会」と言われて久しいが、子ども数が減少してゆく中で、様々な問題が起こっている。何故子ども数がすくなくなつてゆくのか、それによってどういふ問題が起こるのか、国の施策はどうなつていふのか等を把握できるように学ぶ。</p> <p>評価方法 基本的には筆記試験による。受講学生が少人数の場合は、レポートによる評価方法も考慮したい。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代社会と福祉Ⅱ」（担当者：山崎 常雄）の履修の手引き

科目名：	現代社会と福祉Ⅱ
担当者：	山崎 常雄
設置学期：	秋
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	わが国の高齢者問題は、世界一の長寿国であると同時に総人口に占める65歳以上の高齢者の割合が2015年には4人に1人になるという他に例をみない高齢化の速さにある。この人口構成は様々な分野において問題化し、労働人口不足を始め、年金、介護、医療、生きがい等避けて通ることのできない重要な課題である。誰もが高齢者問題を、健康で生きがいのある生活を送れることは幸せである。一方要介護者の問題も年を追うごとに様々な分野で増加し、その対応が追いつかないのが現状である。老後の問題は身近な家族だけのもの、或いは他人事という考えから、いずれ自分たちの問題であることの認識をもって学習する。
授業方法：	講義形式による。内容は理論と共に新聞などによる実践例をとりあげ、高齢者をめぐる日常的報道を念頭に置き問題意識をもち理解を深める。
履修の留意点：	現在の高齢者問題がどういふ点にあり、現状はどうなっているのかをという問題意識をもって授業に望むこと。それには新聞・テレビなど日常的で身近な報道に関心を持ち、講義で学んでいることと実情はどう異なるかという意識を持つことが必要である。
目標と評価：	目標 「少子・高齢社会」といわれる中で、わが国は世界に類を見ないほどの速さで高齢化が進み、高齢化率も年々高くなっている。高齢社会になると、どういふ問題があつて、それに対し国の施策はどうなっているのかということ把握する。 評価方法 基本的には筆記試験による。受講生が少ない場合には、レポートによる採点方法も考慮したい。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代社会と福祉Ⅱ」（担当者：山崎 常雄）の履修の手引き

科目名：	現代社会と福祉Ⅱ
担当者：	山崎 常雄
設置学期：	秋
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	わが国の高齢者問題は、世界一の長寿国であると同時に総人口に占める65歳以上の高齢者の割合が2015年には4人に1人になるという他に例をみない高齢化の速さにある。この人口構成は様々な分野において問題化し、労働人口不足を始め、年金、介護、医療、生きがい等避けて通ることのできない重要な課題である。誰もが高齢者問題を、健康で生きがいのある生活を送れることは幸せである。一方要介護者の問題も年を追うごとに様々な分野で増加し、その対応が追いつかないのが現状である。老後の問題は身近な家族だけのもの、或いは他人事という考えから、いずれ自分たちの問題であることの認識をもって学習する。
授業方法：	講義形式による。内容は理論と共に新聞などによる実践例をとりあげ、高齢者をめぐる日常的報道を念頭に置き問題意識をもち理解を深める。
履修の留意点：	現在の高齢者問題がどういふ点にあり、現状はどうなっているのかをという問題意識をもって授業に望むこと。それには新聞・テレビなど日常的で身近な報道に関心を持ち、講義で学んでいることと実情はどう異なるかという意識を持つことが必要である。
目標と評価：	目標 「少子・高齢社会」といわれる中で、わが国は世界に類を見ないほどの速さで高齢化が進み、高齢化率も年々高くなっている。高齢社会になると、どういふ問題があつて、それに対し国の施策はどうなっているのかということ把握する。 評価方法 基本的には筆記試験による。受講生が少ない場合には、レポートによる採点方法も考慮したい。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ボランティア論」（担当者：内田 和夫）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「財政学」（担当者：大澤 覚）の履修の手引き

科目名：	財政学
担当者：	大澤 覚
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	今日の社会は、ほとんどの国が資本主義という経済制度をとっています。資本主義経済ですから「民間の経済活動が中心になっている」と考えてよいわけですが、それぞれの国を細かく見ると、どの国でも国や地方の政府の経済活動が次第に比重を増してきて、今日では4割から6割を占めるようになっているのがわかります。つまり、資本主義経済とはいうものの、政府の役割や資金の使われ方をよく知らない、じつはその国の経済そのものもよくわからないというのが実情です。同時に、政府は行政機関ですから、その資金は、民間の営利活動と比べて非常に政治的意味をもって使われます。たとえば、日本では、国家財政だけでも80兆円以上もの資金がその時々々の政治判断のもとに使われています。この講義では、民間の経済活動と並んで存在する巨額の資金が、どういうふうを集められ、どういう手続きや目的・意味をもって使われているかの把握をつうじて、政治や社会と経済のあり方を考えます。
授業方法：	「財政とは、どうあるべきものか、どう見るべきものか」ということを主眼に講義します。講義の順序は、大筋で「経費—予算—租税—公債—財政と金融」という順ですが、財政にかかわる大きな出来事や話題があれば、積極的に取り上げ、意見を求めることもします。
履修の留意点：	<ul style="list-style-type: none"> * 自分の考え（イデオロギー）をもてるように努力してください。これは独断（ドグマ）とは違います。そのためには、大学で勉強する意味やそのありがたさを考え、見通しをもって20年先（たとえば親の年齢になったとき）を考えて勉強してください。そして、この科目としては、いろいろな問題を「どのように財政とかかわるか」と考えてみてください。 * 新聞を毎日読んで、必要なところや興味のあるところは切抜きを作ってみてください。できれば、複数の新聞を読んでください。図書館にもあります。各政党のビラやチラシなども有効です。 * 秋学期の「地方財政学」も続けて履修してください。「国と地方は別」と思い込んでいる人が多いのですが、実際には、「国の政策や資金が地方財政をつうじて執行されていくことが多い」のです。つまり、「国家財政だけでは、半分しかわかったことにならない」といってよいのです。 * テキストを作成中ですが、場合によっては、プリントを用意します。頒布方法は未定。
目標と評価：	<ul style="list-style-type: none"> * 目標は、国の財政を中心に、いろいろな問題を「財政問題として考える」目を養うことです。 * 評価は、学期末試験、出席によります。講義にかかわって大きな出来事や話題があれば、感想・意見・レポートをもとめることもあります。
教科書：	
参考書：	その都度、講義の中で紹介します。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本企業と雇用システム」（担当者：戎野 淑子）の履修の手引き

科目名：	日本企業と雇用システム
担当者：	戎野 淑子（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	「働く」ということを通じて、人間は生活し、さらに社会を形成し発展させてきた。つまり、労働は、人間にとって基本的で非常に大切な営みである。そして、今日、従来まで安定的であった日本的雇用関係が、様々な諸条件の変化により近年崩れつつあり、大きな動揺が生じている。そこで、この講義では、日本社会における労働、特に「雇用」に関する具体的な仕組み（採用、労働時間、賃金、教育、評価・昇進、退職など）や制度について理解し、現在の変容について検討を行う。
授業方法：	講義形式で行う
履修の留意点：	秋学期の「労働と余暇経済学」とあわせて受講するとよい。
目標と評価：	成績は、原則として中間レポートと期末試験によって評価するが、平常点も考慮する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「人口論」（担当者：早瀬 保子）の履修の手引き

科目名：	人口論
担当者：	早瀬 保子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	最新の国連推計によると、21世紀中葉には世界人口は89億人となる見通しで、その8割を占める途上国の人口爆発と食糧・資源・環境問題は、緊急で重要な課題として、国際的に関心が高まっています。本科目では世界の人口問題について、途上国、先進国、日本、アジア、欧米諸国と対比しながら、人口の基礎的な知識を習得し、初歩的な人口用語やその分析方法について学びます。主な講義内容は以下のとおりです。（1）人口問題とは何か、人口学の対象領域、（2）世界の人口問題のビデオ鑑賞と討論、討論、（3）世界の人口動向：途上地域と先進地域、（4）人口増加の動向、（5）出生率の動きとその要因、（6）家族計画について、（7）中国の一人っ子政策のビデオ鑑賞と討論、（8）死亡率とHIV/AIDS、（9）少子高齢化、（10）21世紀世界人口のゆくえと人口問題解決に対する国際会議の動き
授業方法：	授業は原則として講義の形をとりますが、テーマによっては受講者に課題を与え、各人が調べたことを発表してもらい場合もあります。また人口問題に関するビデオの利用、資料配布なども行い、学生がこれら課題について発表していただきます。
履修の留意点：	履修の条件はありませんが、課題を出しますので、積極的に取り組む学生、知的好奇心が旺盛な学生の履修を望みます。
目標と評価：	この授業を履修した学生は、①人口現象を統計的に把握する方法とデータの読み方について基本的技術を身に付けること、②人口現象が社会経済的のどのような意味を持ちうるのかを考えるフレームを身に付けることが期待されています。評価点は、学期末の試験結果（6割）、課題の提出状況と質問や発言などを含む授業での態度（4割）などを加味して算出します。
教科書：	アジアの人口 グローバル化の波の中で 早瀬 保子 日本貿易振興機構アジア経済研究所 2004年
参考書：	少子化の社会経済学 大淵寛・兼清弘之 原書房 2005年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「地方財政学」（担当者：大澤 覚）の履修の手引き

科目名：	地方財政学
担当者：	大澤 覚
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	現在、日本には3000を超える自治体があります。この中には、東京都のように人口1000万人、予算規模6兆円の大規模な自治体もあれば、人口200人、予算規模10億円程度の東京都青ヶ島村のような小自治体もあります。したがって、この全部を扱うことはできませんが、基本知識を習得したうえで、履修者の出身地の財政分析を試みます。
授業方法：	「財政とは、どうあるべきなのか。どう見るべきなのか」ということを主眼に講義します。講義の順序は、大筋では、第I編第1・2・9・3・4・5・6・7・8・10章、第II編第1・6・4章の順ですが、地方財政にかかわって大きな出来事や話題があれば積極的にとりあげます。
履修の留意点：	<ul style="list-style-type: none"> * 自分の考え（イデオロギー）をもてるように努力してください。これは独断（ドグマ）とは違います。そのためには、大学で勉強する意味やそのありがたさを考え、見通しをもって20年先（たとえば親の年齢になったとき）を考えて勉強してください。そして、この科目としては、いろいろな問題を「どのように財政とかかわるか」と考えてみてください。 * 新聞を毎日読んで、必要なところや興味のあるところは切り抜きを作ってみてください。できれば、複数の新聞を読んでください。大学の図書館にもあります。各政党のビラやチラシなども有効です。 * できれば、春学期の「財政学」を未修得の人は履修しないでください。 * テキストのほかに適宜プリントを配布する予定です。
目標と評価：	目標は、国と地方の財政関係や地方財政が読めるようになること、とくに自分の出身地の財政状態などがよく理解できるようになることです。評価は、学期末試験、出席によります。講義にかかわって大きな出来事があれば、感想・意見、レポートを求めます。
教科書：	現代の地方財政[第3版] 和田八束・星野泉・青木宗明編 有斐閣 2004年4月30日
参考書：	その都度、講義の中で紹介します

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「証券論」（担当者：堀内 健一）の履修の手引き

科目名：	証券論
担当者：	堀内 健一
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>本講義では、証券の種類、証券取引のしくみ、仲介者である証券会社などの業務などについて、証券業の実務面の立場から講述し、理解することをねらいとしています。</p> <p>では、まず証券とは何でしょうか？どんな種類があるのでしょうか？証券市場における証券とは、財産権を表す有価証券としての株式、債券（社債、国債）などを指します。財産権を表すために発行された有価証券は、譲渡されることでその権利が譲渡先に移転するとともに換金される、すなわち流通することが特徴です。株式は、株式会社制度の発展に伴い出資の持分を表す有価証券として登場し、社債は会社の借金（債務）を、国債は国の借金（債務）を有価証券化したものです。そして、これらを購入して取得した者、すなわち出資者や資金の貸し手は配当金や利子を受け取ることができるのです。</p> <p>では、証券市場とは何でしょうか？証券市場は株式市場と公社債市場からなっていて、公社債市場は、公共債市場（国債、地方債など）と民間債市場（社債など）とに分けられています。そして、それぞれの市場で証券の発行市場と発行済みの証券が売買される流通市場があるのです。いわゆる間接金融（銀行）優位の構造により戦後の日本の証券市場の発達は遅れてきましたが、1975年以降の国債の大量発行にもなっており、国債の流通市場が急拡大することで証券市場全体が拡大してきたという経緯があります。</p> <p>では、証券市場で証券会社はどのような業務を行っているのでしょうか？金融を資金融通としてとらえる、すなわち資金供給者から資金需要者への資金の流れを金融と見なした場合、金融は、銀行の預金貸付業務を通じた資金の流れ（間接金融）と、証券の発行・取得、流通という市場での証券取引を通じた資金の流れ（直接金融）とに大別することができます。証券業とは、資金の出し手と取り手との間を証券によって仲介する業者をさし、それを専門的にいとなむ業者が証券会社です。したがって、証券会社は直接金融を仲介するのです。証券業の業務は、1) 発行市場関係と2) 流通市場関係に大別され、さらに前者は①有価証券の引受と売出（アンダーライター業務）、②有価証券の募集・売出の際の分売（セリング業務）に、後者は③他人の証券売買等の仲介（ブローカー業務）、④自ら計算しリスクを負う証券売買（ディーリング業務）に大別されます。</p> <p>こうした証券会社の本来業務の他に付随業務や兼業業務があり、これらには信用取引や金利、為替スワップなどの証券以外のデリバティブ取引のほか、M&A、資産の証券化、未公開株ファンドの組成など、広く投資銀行業務とよばれる業務が含まれています。</p> <p>現在、証券市場は激動期を迎えています。従来、日本の証券会社はブローカー業務による委託手数料を主要な収益源とする収益構造を特徴としてきました。しかし、1990年代に入って日本版「ビッグバン」の一環として委託手数料が自由化され、業務・収益構造の多様化が避けられない経営課題となっています。さらに、大手銀行による本格的な証券業務への進出が展開されています。そうした中で1つ注目されたのが投資信託の残高を増加させることでありました。またインターネット取引の活発化、東証マザーズやジャスダックなどの新興市場が現れるなど、続々と新しい変化が起きています。</p> <p>さらに、リスクをとることを避けている個人投資家に証券市場への参加を促すべく証券仲介制度が開始され、他方、個人向け国債や社債、地方債のミニ市場公募債など個人をターゲットとする証券が発行されて、家計の金融資産を証券市場に取り込もうとする試みが官民一体となって行われています。</p> <p>以上の視点から、この講義では1) 証券の理論と制度についての基礎的な知識、2) 基礎知識を応用することでみえてくる金融の世界とりわけ証券市場で急速におこりつつある変化について展開していき、とかく敬遠されがちな証券への理解を深めてもらいたいと考えています。</p>
授業方法：	<p>授業は全て講義形式でおこない、毎回、講義資料を配付します。授業は基本的には以下の流れで行う予定です。</p> <p>[1] 前回講義の復習および質問に対するリプライ [2] 講義 [3] 授業内容等に関する質問票提出</p>
履修の留意点：	必ずしも前提とはしませんが、関連する科目として「金融論」、「資金調達・投資戦略論」、「事業創造論」等を履修していると学習効果は高まるでしょう。
目標と評価：	<p>〔目標〕 [1]証券の基礎的な理論・制度に関する知識を獲得する [2]証券に関する知識がなぜ必要なのか、その意義を理解する [3]証券市場における急速な変化、とりわけ家計の金融資産を証券市場に取り込もうとする試みなどに対し、どう対応するべきか自分自身の見解を確立する</p> <p>〔評価〕 期末試験の結果に、質問票に対する評価などの平常点を加味して評価します。 評価の配点は以下のとおりです。 [1]平常点(30%) [2]試験(70%)</p> <p>参考書2 書名 『金融論』 著者名 関根猪一郎・木村二郎・大島重衛・小西一雄 出版社名 青木書店 出版年 2000年</p>
教科書：	
参考書：	『証券論』（有斐閣ブックス） 釜江廣志・北岡孝義・大塚晴之・鈴木喜久 有斐閣 2004年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「簿記論Ⅱ」（担当者：飯野 幸江）の履修の手引き

科目名：	簿記論Ⅱ
担当者：	飯野 幸江
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講義は、「会計リテラシ」で学んだ知識を前提として、簿記についての知識と理解を深めていきます。具体的には、日商簿記検定2級の商業簿記の内容（特殊商品売買取引、株式会社会計、本支店会計、帳簿組織など）を学習することによって、より高度な簿記の理論と技術を身につけていきます。
授業方法：	本講義では記帳練習問題を通じて、簿記の理論と技術を学んでもらいます。したがって、授業は教科書で基本的な論点を説明した後、記帳練習問題を解いてもらうという方法で行います。簿記の学習は、講義の内容を頭で理解するよりも、数多くの記帳練習問題を解いて身体で覚えることが重要です。そのため授業中に小テストを行ったり、記帳練習問題を課題として提出してもらうこともあります。
履修の留意点：	本講義は、記帳練習問題を通じて簿記のしくみを学習しますので、授業には教科書の他に、電卓、赤ペンおよび定規を持参して下さい。簿記は積み重ねの学問です。1回でも欠席をすると授業がわからなくなることがあります。予習をする必要はありませんが、必ず復習をして下さい。なお、本科目は「簿記論Ⅰ」とセットになっている科目です。本科目を履修する学生は、必ず「簿記論Ⅰ」も履修して下さい。授業は「簿記論Ⅰ」と「簿記論Ⅱ」の両科目を履修していることを前提に行います。
目標と評価：	2006年2月の日商簿記検定2級の受験を目標とします。成績は、原則として定期試験の結果で評価します。
教科書：	①加古宜士・渡部裕巨 ②加古宜士・渡部裕巨 ①新検定簿記講義2級商業簿記 ②新検定簿記ワークブック2級商業簿記 ①中央経済社 ②中央経済社
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「原価計算論Ⅰ」（担当者：井上 行忠）の履修の手引き

科目名：	原価計算論Ⅰ
担当者：	井上 行忠（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	概要：複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）、の認識及び会計処理（仕訳）を学び、製造業会計における工業簿記・原価計算を中心に問題集等を使用して、工業簿記の基本的な技術を習得する。日商簿記検定2級工業簿記・原価計算の範囲を学習する。
授業方法：	授業方法：授業体系は、費目別原価計算（材料費・労務費・経費・製造間接費）、部門別原価計算、個別原価計算、総合原価計算、製造原価報告書の作成等を中心に授業を行う。 また、標準原価計算及び直接原価計算にあつては、特に重要な範囲であるため、多くの時間を割いて学習を行う。
履修の留意点：	履修の留意点：出席率100%を目指して欲しい。
目標と評価：	目標と評価：平成18年2月の日商簿記検定2級（工業簿記・原価計算）の受験を目指して学習する。
教科書：	日商簿記検定試験出題傾向と対策「2級」 税務経理協会 税務経理協会
参考書：	新検定簿記講義2級工業簿記 染谷・新井・岡本 中央経済社

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「原価計算論Ⅱ」（担当者：井上 行忠）の履修の手引き

科目名：	原価計算論Ⅱ
担当者：	井上 行忠（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	概要： 概要： 複式簿記の基本原理解である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）、の認識及び会計処理（仕訳）を学び、製造業会計にける工業簿記・原価計算を中心に問題集等を使用して、工業簿記の基本的な技術を習得する。日商簿記検定2級工業簿記・原価計算の範囲を学習する。
授業方法：	授業方法： 授業方法： 授業体系は、費目別原価計算（材料費・労務費・経費・製造間接費）、部門別原価計算、個別原価計算、総合原価計算、製造原価報告書の作成等を中心に授業を行う。また、標準原価計算及び直接原価計算にあつては、特に重要な範囲であるため、多くの時間を割いて学習を行う。
履修の留意点：	履修上の留意点： 履修の留意点： 出席率100%を目指して欲しい。
目標と評価：	目標と評価※： 目標と評価： 平成18年2月の日商簿記検定2級（工業簿記・原価計算）の受験を目指して学習する。
教科書：	教科書 日商簿記検定試験出題傾向と対策「2級」 税務経理協会 税務経理協会
参考書：	参考書 新検定簿記講義2級工業簿記 染谷・新井・岡本 中央経済社

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「財務諸表論」（担当者：井上 行忠）の履修の手引き

科目名：	財務諸表論
担当者：	井上 行忠（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	概要： 会計理論は簿記によって具体化し、簿記は会計理論の助けを得て機能する。会計は、企業の経営活動を貨幣単位で計算し、報告することに妥当性を与えるための基準を提供する会計（理論）と、その基準に従って経営活動を正確に記録し、報告するための技術である会計（簿記）に分けることが出来る。したがって、会計は簿記と理論を共に理解することにより、会計の全体を理解したことになる。ここに本講義は、会計学（理論）に制約を与える会計法令（商法・証券取引法・企業会計原則・法人税等）を中心に会計学の基本的事項を学習する。
授業方法：	授業方法： 理論の解説を中心に行い、計算問題の反復により、理論と簿記を結びつける。 授業体形は、前半は、企業会計の意義・目的（会計公準論・会計主体論・商法会計・証券取引法会計等）を中心に学習する。後半は、一般原則（真实性の原則、正規の簿記の原則、資本取引・損益取引区別の原則、明瞭制の原則、継続性の原則、保守主義の原則、単一性の原則等）及び、損益計算書原則、貸借対照表原則を学習する。
履修の留意点：	履修の留意点： 出席を重視する。
目標と評価：	目標と評価： 日商簿記検定2級以上を学習している学生を対象とする。
教科書：	財務会計の入門講義 岡村勝義・菊谷正人著 中央経済社 平成15年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「財務会計論Ⅰ」（担当者：山本 孝夫）の履修の手引き

科目名：	財務会計論Ⅰ
担当者：	山本 孝夫（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	財務会計は、株主・債権者・従業員・税務当局・取引先・消費者その他企業のステイクホルダー又は情報利用者に対して、当該企業の経営活動による財務情報内容を問題領域とする学問である。本講義では、現行財務会計の基礎構造を学習するため、「商法」、「証券取引法」および「法人税法」からなる企業会計基準について解説する。また、社会環境のめまぐるしい変化から生ずる新しい問題についても検討を加える予定である。
授業方法：	講義形式による授業を行うが、上場企業が公表している決算書類を用いて分析・検討を加える方法も取り入れたいと考えている。 講義内容は、主に以下のとおりである。 1. 財務会計の意義とフレームワーク 2. 財務会計の基礎理論 3. 株式会社の資本会計 4. 株式会社の資産評価 5. 財務諸表の作成基準
履修の留意点：	財務会計は、制度として社会的な規範に裏付けられた報告内容が義務づけられているため、簿記知識（取引の仕訳から損益計算書と貸借対照表が作成できる）のある学生の履修が望ましい。
目標と評価：	講義目標は、企業の会計責任者レベルの内容を予定している。 成績評価は、課題レポートの提出および小テストの総合評価による。
教科書：	「財務会計の入門講義」 菊谷正人・岡村勝義編著 中央経済社 2004年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「財務会計論Ⅱ」（担当者：山本 孝夫）の履修の手引き

科目名：	財務会計論Ⅱ
担当者：	山本 孝夫（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講座は、現行財務会計の基礎構造を理解するために、企業会計原則および会計基準を解説し、社会環境のめまぐるしい変化から生ずる問題点について検討を加える。 特に、財務会計は「商法」、「証券取引法」および「法人税法」からなる企業会計の基準に準拠する部分があるため、講義は制度としての会計を中心に取り上げ、各テーマごとに解説する予定である。
授業方法：	講義形式で行うが、上場企業が公表している決算書類を参照しながら、分析・検討を加える方法を取り入れる予定である。 講義内容は、主に以下のとおりである。 1. 在外支店の外貨換算会計 2. 在外子会社の外貨換算会計 3. キャッシュ・フロー計算書 4. 税効果会計 5. 金融商品会計 6. リース取引の会計
履修の留意点：	財務会計は、制度として社会的な規範に裏付けられた報告内容が義務づけられているため、簿記知識のある学生の履修が望ましい。
目標と評価：	講義目標は、企業の会計責任者レベルの内容を予定している。 成績評価は、小テストおよび課題レポート提出による総合評価を考えている。
教科書：	「財務会計の入門講義」 菊谷正人・岡村勝義編著 中央経済社 2004年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「管理会計論Ⅰ」（担当者：井上 行忠）の履修の手引き

科目名：	管理会計論Ⅰ
担当者：	井上 行忠（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	概要：複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）、の認識及び会計処理（仕訳）を学び、製造業会計にける工業簿記・原価計算を中心に問題集等を使用して、工業簿記及び原価計算の基本に基づいた応用的な技術を習得する。日商簿記検定1級工業簿記・原価計算の範囲を学習する。
授業方法：	授業方法：授業方法は、授業体系は、費目別原価計算（材料費・労務費・経費・製造間接費）、部門別原価計算、個別原価計算、総合原価計算、製造原価報告書の作成等を中心に授業を行う。また、標準原価計算、直接原価計算及び意思決定会計にあつては、特に重要な範囲であるため、多くの時間を割いて学習を行う。
履修の留意点：	履修上の留意点：履修の留意点：出席率100%を目指して欲しい。
目標と評価：	目標と評価：平成18年2月の日商簿記検定1級（工業簿記・原価計算）の受験を目指して学習する。
教科書：	とおるテキスト 日商簿記1級 工業簿記・原価計算（Ⅰ） TAK出版
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「管理会計論Ⅱ」（担当者：井上 行忠）の履修の手引き

科目名：	管理会計論Ⅱ
担当者：	井上 行忠（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	概要： 複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）、の認識及び会計処理（仕訳）を学び、製造業会計にをける工業簿記・原価計算を中心に問題集等を使用して、工業簿記及び原価計算の基本に基づいた応用的な技術を習得する。日商簿記検定1級工業簿記・原価計算の範囲を学習する。
授業方法：	授業方法： 授業方法： 授業方法： 授業体系は、費目別原価計算（材料費・労務費・経費・製造間接費）、部門別原価計算、個別原価計算、総合原価計算、製造原価報告書の作成等を中心に授業を行う。また、標準原価計算、直接原価計算及び意思決定会計にあつては、特に重要な範囲であるため、多くの時間を割いて学習を行う。
履修の留意点：	履修上の留意点： 履修上の留意点： 履修の留意点： 出席率100%を目指して欲しい。
目標と評価：	目標と評価： 平成18年2月の日商簿記検定1級（工業簿記・原価計算）の受験を目指して学習する。
教科書：	教科書 とおるテキスト 日商簿記1級 工業簿記・原価計算（Ⅱ） TAK出版
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「税務会計論Ⅰ」（担当者：前川 邦生）の履修の手引き

科目名：	税務会計論Ⅰ
担当者：	前川 邦生
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>企業会計で算出した利益に対して、法人税法を中心として「課税所得」算出の理解のために。租税は国家存続に必要な経費（費用）を国が、国民に経済負担を求めるものである。まず、租税法を学び、人と国家と法との関係から理解を進める。つまり、国家の租税観を前提として、法と経済の調和がどのように法律上に現れ、また、現されるべきかを研究対象とする。このことは、租税法律主義を背景に法人税法・租税特別措置法等を学び、企業会計の前提に「別段の定め」により調整して、課税所得を算出することが税務会計である。本講義では、法律的視点から判例研究も含め、分析検討を行い、望ましい「租税節約」を学ぼうとするものである。</p>
授業方法：	税理士試験科目「法人税法」・「所得税法」等に役立ことを考慮して講義を進める。
履修の留意点：	簿記論、財務会計（会計学）、税法等の関連科目の履修されていることが望ましい。
目標と評価：	税理士試験科目「法人税法」・「所得税法」等に役立つことを考慮して講義を進める。期中のレポート、期末の試験等を総合して評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「税務会計論Ⅱ」（担当者：前川 邦生）の履修の手引き

科目名：	税務会計論Ⅱ
担当者：	前川 邦生
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	企業会計で算出した利益に対して、法人税法を中心として「課税所得」算出の理解のために。租税は国家存続に必要な経費（費用）を国が、国民に経済負担を求めるものである。まず、租税法を学び、人と国家と法との関係から理解を進める。つまり、国家の租税観を前提として、法と経済の調和がどのように法律上に現れ、また、現されるべきかを研究対象とする。このことは、租税法律主義を背景に法人税法・租税特別措置法等を学び、企業会計の前提に「別段の定め」により調整して、課税所得を算出することが税務会計である。本講義では、法律的視点から判例研究も含め、分析検討を行い、望ましい「租税節約」を学ぼうとするものである。
授業方法：	税理士試験科目「法人税法」・「所得税法」等に役立ことを考慮して講義を進める。
履修の留意点：	簿記論、財務会計（会計学）、税法等の関連科目の履修されていることが望ましい。
目標と評価：	税理士試験科目「法人税法」・「所得税法」等に役立ことを考慮して講義を進める。期中のレポート、期末の試験等を総合して評価する。
教科書：	法人税法要説 菊谷正人著 同文館出版
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「連結会計論Ⅰ」（担当者：松井 泰則）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「連結会計論Ⅱ」（担当者：松井 泰則）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「国際会計論Ⅰ」（担当者：松井 泰則）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「国際会計論Ⅱ」（担当者：松井 泰則）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「監査論 I」（担当者：山本 孝夫）の履修の手引き

科目名：	監査論 I
担当者：	山本 孝夫（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>会計監査の目的は、企業の作成した財務諸表が一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成されているか否かを監査人が意見表明することにより、財務諸表に対する社会の信頼性を高めようとするものである。</p> <p>この講義では、一部企業の不正問題の発生に伴い、その役割が重要視されていることから、会計監査の発展過程、監査制度、監査の社会的役割などを中心に取り上げ、受講者の理解を深めたい。</p>
授業方法：	講義形式で行う。
履修の留意点：	<p>会計監査は、財務諸表の適正性についての意見表明を目的とするものであるから、簿記学、会計学、財務会計論及び財務諸表論の講義を履修し、財務諸表について十分理解していることが望ましい。</p>
目標と評価：	成績は、レポート課題の提出および学期末テストの総合評価とする。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「監査論Ⅱ」（担当者：山本 孝夫）の履修の手引き

科目名：	監査論Ⅱ
担当者：	山本 孝夫（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	会計監査の目的は、企業の作成した財務諸表が一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成されているか否かを監査人が意見表明することにより、財務諸表に対する社会の信頼性を高めるものである。 この講義では、監査の社会的役割を中心に取り上げ、監査基準・準則および監査実施の全体構造を解説する。
授業方法：	講義形式で行う。
履修の留意点：	会計監査は、財務諸表の適正性について意見表明を目的とするものであるから、簿記・会計学、財務会計論および財務諸表論の講義を履修し、財務諸表について十分理解を深めていることが望ましい。
目標と評価：	成績は、レポート課題の提出および学期末テストの総合評価を予定している。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータ会計論Ⅰ」（担当者：大塚 俊仁）の履修の手引き

科目名：	コンピュータ会計論Ⅰ
担当者：	大塚 俊仁
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	今日の情報社会において、パソコンの役割はビジネスツールとしてどんどん広がっています。会社の経理業務においてもOA化する事により、転記や集計ミスがなくなり時間の短縮になる等、数多くのメリットがあります。授業内容としては、いかに効率よく利用者の目的にあったコンピュータ処理を行えるかという利用者の視点に立脚した、利用技術の習得を中心に行います。
授業方法：	講義及びパソコンを使用した実習
履修の留意点：	日商簿記3級程度の知識
目標と評価：	授業中の実習結果（印刷物）により評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータ会計論Ⅱ」（担当者：大塚 俊仁）の履修の手引き

科目名：	コンピュータ会計論Ⅱ
担当者：	大塚 俊仁
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	今日の情報社会において、パソコンの役割はビジネスツールとしてどんどん広がっています。会社の経理業務においてもOA化する事により、転記や集計ミスがなくなり時間の短縮になる等、数多くのメリットがあります。授業内容としては、いかに効率よく利用者の目的にあったコンピュータ処理を行えるかという利用者の視点に立脚した、利用技術の習得を中心に行います。
授業方法：	講義及びパソコンを使用した実習
履修の留意点：	日商簿記3級程度の知識
目標と評価：	授業中の実習結果（印刷物）により評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「財務管理論」（担当者：宮永 賢久）の履修の手引き

科目名：	財務管理論
担当者：	宮永 賢久
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>「財務管理論」（担当者：宮永 賢久）の履修の手引き 科目名：財務管理論 担当者：宮永 賢久 対象学生：経営経済学部3年 設置学期：春 概要：現代の財務管理は複雑な様相を示しています。ここでは基本的な側面を学んで基礎的な知識や理解を得るようにします。 財務管理を知るためには、これまでの大きな二つの流れを理解する必要があります。 一つは、第2次大戦後から今日まで50年にわたって形成・展開されてきた法人資本主義のもとでの取引拡大経営です。もう一つは、1990年代後半から日本に上陸してきた欧米機関株主資本主義のもとでの株主価値経営です。 取引拡大経営は、企業集団など企業相互の取引を拡大していくことによって、売上げ、資産、シェアなどを多面的に成長させようとするものです。株主価値経営は、株主の成長を目的に利益率の引上げをはかるため適正な資本規模を維持するとともに無駄なコストを排除するというものです。 取引拡大経営のもとでの財務は、資産規模の成長を目指し、株主価値経営のもとでの財務は、株主上昇のための利益率の引き上げを目指しています。 現代の状況は、このように売上げ、資産、シェアの引上げを狙った取引拡大経営のための財務が底流に存在し、その上に株主引上げのための利益率向上を目的とするコスト削減財務が流れ込んでいます。 財務管理論では、こうした規模拡大とコスト削減という二つの対立的な様相をしめす現代の複雑な財務管理の基本的な側面を、できるだけ解りやすく、基礎的な知識や理解が得られるように講義をします。</p>
授業方法：	授業方法：講義（11回）およびディスカッション（2回）。
履修の留意点：	<p>履修の留意点：財務管理論で学ぶ事柄では、新しい概念や事柄が多数あります。実社会で必ず必要になるので、予習をし、講義の中身で理解が不足したと思った事柄については、その都度復習をしておくようにしましょう。 目標と評価：この授業では、経済活動の主役になう企業・会社が社会でどのような役割や動きをしているのか、新聞紙上や経済週刊誌などを使い、基礎的な理解ができているかどうか、次のチャプターに沿って評価をします。 ①企業の形態・責任制度について、実態経済の基本的な知識がついているか。 ②株式資本の調達と所有の法人化がどのように進むのか、説明できること。 ③自己金融の形態と方法について、説明できること。 ④借入金の調達が企業における金融でどのような役割を果たしているか説明できること。 ⑤日本の銀行が問題となっているBIS規制と成長財務について説明できること。 ⑥経営計画と財務計画の立案と分析を簡単な事例でレポートすること。 ⑦高度なデリバティブやM&Aの基本的な戦略について説明できること。 ⑧中小企業やベンチャービジネスの財務について説明できること。 ⑨財務諸表の仕組みについて説明できること。</p>
目標と評価：	<p>上記の各チャプターの理解度と問題意識を評価します。 ①出席態度、受講の積極性[30%] ②レポート課題提出、問題意識・態度、レポート内容・理解度で採点[70%] ※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p>
教科書：	テキスト 財務管理論 坂本恒夫編、現代財務管理論研究会編 中央経済社 平成15年4月
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータ会計Ⅰ」（担当者：大塚 俊仁）の履修の手引き

科目名：	コンピュータ会計Ⅰ
担当者：	大塚 俊仁
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	今日の情報社会において、パソコンの役割はビジネスツールとしてどんどん広がっています。会社の経理業務においてもOA化する事により、転記や集計ミスがなくなり時間の短縮になる等、数多くのメリットがあります。授業内容としては、いかに効率よく利用者の目的にあったコンピュータ処理を行えるかという利用者の視点に立脚した、利用技術の習得を中心に行います。
授業方法：	講義及びパソコンを使用した実習
履修の留意点：	日商簿記3級程度の知識
目標と評価：	授業中の実習結果（印刷物）により評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータ会計Ⅱ」（担当者：大塚 俊仁）の履修の手引き

科目名：	コンピュータ会計Ⅱ
担当者：	大塚 俊仁
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	今日の情報社会において、パソコンの役割はビジネスツールとしてどんどん広がっています。会社の経理業務においてもOA化する事により、転記や集計ミスがなくなり時間の短縮になる等、数多くのメリットがあります。授業内容としては、いかに効率よく利用者の目的にあったコンピュータ処理を行えるかという利用者の視点に立脚した、利用技術の習得を中心に行います。
授業方法：	講義及びパソコンを使用した実習
履修の留意点：	日商簿記3級程度の知識
目標と評価：	授業中の実習結果（印刷物）により評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計リテラシ特論」（担当者：井上 行忠）の履修の手引き

科目名：	会計リテラシ特論
担当者：	井上 行忠（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	概要： 複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）の認識、及び会計処理（仕訳）を学び、問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。 日商簿記検定3級・全経簿記検定3級の合格を目指す。
授業方法：	授業方法： 授業方法： テキストを中心に授業を行う。授業体系は、簿記一巡の流れを把握し、前半は個別取引を中心に学習を行い、後半は総合問題対策（試算表作成、精算表作成、補助簿：仕入帳、売上帳、現金出納帳、小口現金出納帳、当座預金出納帳、手形記入帳、商品有高帳等）を中心に授業を行う。7月の全経簿記検定3級に目標を定め学習を行う。6月の日商簿記検定3級を目指す学生は、週一回実施される「会計リテラシ」の補講を聴講すること。
履修の留意点：	履修上の留意点： 履修の留意点： 学習に当たり、電卓が必要となります。最初の授業で指示をしますので、事前に購入しないで下さい。
目標と評価：	目標と評価※： 目標と評価： この授業は、日商簿記検定3級または全経簿記検定2級の資格試験に合格する事を目標としています。
教科書：	教科書 教科書①： 例解演習 基本簿記 教科書②： 日商簿記検定試験3級出題傾向と対策 ① 山本孝夫・前川邦生共著 ②税務経理協会 ①創成社 ②税務経理協会
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「商業簿記Ⅰ」（担当者：飯野 幸江）の履修の手引き

科目名：	商業簿記Ⅰ
担当者：	飯野 幸江
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講義は、「会計リテラシ」で学んだ知識を前提として、簿記についての知識と理解を深めていきます。具体的には、日商簿記検定2級の商業簿記の内容（特殊商品売買取引、株式会社会計、本支店会計、帳簿組織など）を学習することによって、より高度な簿記の理論と技術を身につけていきます。
授業方法：	本講義では記帳練習問題を通じて、簿記の理論と技術を学んでもらいます。したがって、授業は教科書で基本的な論点を説明した後、記帳練習問題を解いてもらうという方法で行います。簿記の学習は、講義の内容を頭で理解するよりも、数多くの記帳練習問題を解いて身体で覚えることが重要です。そのため授業中に小テストを行ったり、記帳練習問題を課題として提出してもらうこともあります。
履修の留意点：	本講義は、記帳練習問題を通じて簿記のしくみを学習しますので、授業には教科書の他に、電卓、赤ペンおよび定規を持参して下さい。簿記は積み重ねの学問です。1回でも欠席をすると授業がわからなくなることがあります。予習をする必要はありませんが、必ず復習をして下さい。なお、本科目は「商業簿記Ⅱ」とセットになっている科目です。本科目を履修する学生は、必ず「商業簿記Ⅱ」も履修して下さい。授業は「商業簿記Ⅰ」と「商業簿記Ⅱ」の両科目を履修していることを前提に行います。
目標と評価：	2006年2月の日商簿記検定2級の受験を目標とします。成績は、原則として定期試験の結果で評価します。
教科書：	①加古宜士・渡部裕巨 ②加古宜士・渡部裕巨 ①新検定簿記講義2級商業簿記 ②新検定簿記ワークブック2級商業簿記 ①中央経済社 ②中央経済社
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「商業簿記Ⅱ」（担当者：飯野 幸江）の履修の手引き

科目名：	商業簿記Ⅱ
担当者：	飯野 幸江
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講義は、「会計リテラシ」で学んだ知識を前提として、簿記についての知識と理解を深めていきます。具体的には、日商簿記検定2級の商業簿記の内容（特殊商品売買取引、株式会社会計、本支店会計、帳簿組織など）を学習することによって、より高度な簿記の理論と技術を身につけていきます。
授業方法：	本講義では記帳練習問題を通じて、簿記の理論と技術を学んでもらいます。したがって、授業は教科書で基本的な論点を説明した後、記帳練習問題を解いてもらうという方法で行います。簿記の学習は、講義の内容を頭で理解するよりも、数多くの記帳練習問題を解いて身体で覚えることが重要です。そのため授業中に小テストを行ったり、記帳練習問題を課題として提出してもらうこともあります。
履修の留意点：	本講義は、記帳練習問題を通じて簿記のしくみを学習しますので、授業には教科書の他に、電卓、赤ペンおよび定規を持参して下さい。簿記は積み重ねの学問です。1回でも欠席をすると授業がわからなくなることがあります。予習をする必要はありませんが、必ず復習をして下さい。なお、本科目は「商業簿記Ⅰ」とセットになっている科目です。本科目を履修する学生は、必ず「商業簿記Ⅰ」も履修して下さい。授業は「商業簿記Ⅰ」と「商業簿記Ⅱ」の両科目を履修していることを前提に行います。
目標と評価：	2006年2月の日商簿記検定2級の受験を目標とします。成績は、原則として定期試験の結果で評価します。
教科書：	①加古宜士・渡部裕巨 ②加古宜士・渡部裕巨 ①新検定簿記講義2級商業簿記 ②新検定簿記ワークブック2級商業簿記 ①中央経済社 ②中央経済社
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「産業構造論」（担当者：古賀 義弘）の履修の手引き

科目名：	産業構造論
担当者：	古賀 義弘（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	keizai / 経済社会の発展は、産業の動向に深く関連している。近代社会の端緒となった産業革命以降、産業の中核はそれまでの農業から工業へと変化し、その中でも軽工業から重工業そして重化学工業へと大きく変貌を遂げていった。同時に経済・産業活動も急速に世界的広がりをみせていった。 今日の産業社会はまた、世界的規模で新たな段階へと移行している。例えば産業の中核も重化学工業からエレクトロニクスなど先端的産業の展開、サービス業に代表される第3次産業の隆盛、或いは中国など東アジア諸国の急速な発展、日本の産業の空洞化など多くの問題を提起している。 本講義では、このような産業の構造がどのようにして形成され、どのような問題を提起してきたのか、懇意地の日本や主要な諸国の産業の構造がどのような状況にあり、将来的に同う言う方向をたどるか、これらの問題について事例をあげて説明をする。
授業方法：	<ul style="list-style-type: none"> ・講義を中心として進める。講義の途中で関係資料の配布や参考文献などの紹介をする。 ・特定のテキストは使用しないが、紹介する参考書には必ず目を通すこと ・出席と同時に簡潔な「まとめ」の文章をほぼ毎回書いて提出
履修の留意点：	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートは板書以外にも耳で聞いたこともきちんととる ・新聞は日常的に目を通すようにする ・授業中は授業に集中する（脱帽、飲食禁止、遅刻・退席禁止など）
目標と評価：	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で決めた評価 ・レポート（1課題10点を目安） ・「まとめ」文（10点を目安9
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「マーケティング論Ⅰ」（担当者：南 亮一）の履修の手引き

科目名：	マーケティング論Ⅰ
担当者：	南 亮一
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	マーケティングとは、企業が顧客を満足させつつ商品・サービスを販売することによって利益をあげていくことです。実際の企業のマーケティング活動には泥臭い部分も少なくありませんが、この授業では、そうして泥臭さはちよつと横において、マーケティングの基本的な考え方について、学んでいきます。競合他社がひしめくなかで、多数の顧客を相手に商品の販売を伸ばしていくにはどのような戦略が必要なのかについて、製品計画、価格戦略、競争戦略、流通戦略、販売促進、ブランドなどのテーマごとに各回の授業を行っていきます。
授業方法：	教科書は特に指定しませんが、参考書は適宜授業中に提示します。
履修の留意点：	
目標と評価：	マーケティングの基礎的な考え方と用語を習得し、企業の販売活動の事例をマーケティングの視点から理解することができるようになることを目標とします。 評価点は、学期末試験の点数を中心に、授業中のミニレポートの評価を加味して算出します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「マーケティング論Ⅰ」（担当者：南 亮一）の履修の手引き

科目名：	マーケティング論Ⅰ
担当者：	南 亮一
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	マーケティングとは、企業が顧客を満足させつつ商品・サービスを販売することによって利益をあげていくことです。実際の企業のマーケティング活動には泥臭い部分も少なくありませんが、この授業では、そうして泥臭さはちよつと横において、マーケティングの基本的な考え方について、学んでいきます。競合他社がひしめくなかで、多数の顧客を相手に商品の販売を伸ばしていくにはどのような戦略が必要なのかについて、製品計画、価格戦略、競争戦略、流通戦略、販売促進、ブランドなどのテーマごとに各回の授業を行っていきます。
授業方法：	教科書は特に指定しませんが、参考書は適宜授業中に提示します。
履修の留意点：	
目標と評価：	マーケティングの基礎的な考え方と用語を習得し、企業の販売活動の事例をマーケティングの視点から理解することができるようになることを目標とします。 評価点は、学期末試験の点数を中心に、授業中のミニレポートの評価を加味して算出します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「マーケティング論Ⅱ」（担当者：南 亮一）の履修の手引き

科目名：	マーケティング論Ⅱ
担当者：	南 亮一
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	マーケティングの諸活動のあり方は、商品・サービスの特性や市場特性、競争環境などによって、あるいは各社の考え方によって異なったものになります。そこで、この授業では、流通業、食品産業、アパレル産業などいくつかの産業・企業をピックアップして、それぞれの産業の事情に触れながら、そこで企業が展開しているマーケティング活動について学んでいきます。特に、流通業については時間をかけて売場構成なども含めてマーケティングの諸活動について触れます。
授業方法：	教科書は特に指定しませんが、参考書は適宜授業中に提示します。
履修の留意点：	マーケティングⅠの授業は前提とはしませんが、マーケティングに関する基本的な用語などが頭に入っていたほうが授業を理解しやすいと思います。
目標と評価：	各産業における企業活動を、マーケティングの視点から理解することができるようになることを目標とします。 評価点は、学期末試験の点数を中心に、授業中のミニレポートの評価を加味して算出します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「組織行動論」(担当者:曹 勤)の履修の手引き

科目名:	組織行動論
担当者:	曹 勤
設置学期:	春
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	<p>企業などのある目的を持った人間の集合体を組織として捉えて、企業組織の中の人間は一体何に動機づけられて働くのだろうか?給料だろうか?仕事のやり甲斐だろうか?この組織行動論研究分野の最大テーマとも言えるワーク・モチベーションに焦点をあて、組織の中の人間行動を理解するためには、組織と個人のマネジメント、特にモチベーション、リーダーシップ、人材開発などについての理論を解説します。</p> <p>この講義では、企業組織で働く人間の行動を理解することを目的として、様々な企業実例を提供し勉強する事と共に、どのような組織デザインや経営管理のあり方が組織の生産性に寄与できるのか、組織の構造や変革によってそこで働く人間の意識はどのように変化すること等を考察します。また、企業経営、組織行動に関わる重要な時事的問題も随時取り上げ、現在厳しい経営環境の中に、問題を抱える企業、逆に急成長している企業を紹介・分析します。</p> <p>1、組織行動論とは何か 2、モチベーションの古典的理論(欲求階層理論、X理論-Y理論) 3、モチベーションの古典的理論(動機づけ衛生理論) 4、モチベーションの近代的理論(ERG理論、マズローの欲求理論) 5、モチベーションの近代的理論(公正理論、期待理論) 6、集団活動 集団意思決定とコミュニケーション 7、リーダーシップと管理者行動理論① 8、リーダーシップと管理者行動理論② 9、自律的キャリア開発と支援システム 10、国際化、人材流動化時代と自己啓発 11、組織行動論と日本的経営(新しい働き方と働き方) 12、実例研究 13、まとめ</p>
授業方法:	プリントによって上記の項目を講義するほか、時事的な問題を取り上げて解説します。また、インターネットを活用して、ホットな情報を集め、企業の分析と評価について考えます。
履修の留意点:	特にありません。 参考書は講義に指示します。
目標と評価:	<p>企業の行動原理や企業の評価について、マスメディアなどで紹介される通説や俗説を鵜呑みにすることなく、理論的な視点からその真偽を批判的に検討できるスキルを身につけ、自分で考える力を養います。また、実社会での自分の役割や企業の社会的責任を理解して主体的に取り込む姿勢をもてるような授業を行いたいです。</p> <p>評価:宿題 20% 学期末テスト 80%</p>
教科書:	
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「組織行動論」(担当者:曹 勤)の履修の手引き

科目名:	組織行動論
担当者:	曹 勤
設置学期:	秋
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	<p>企業などのある目的を持った人間の集合体を組織として捉えて、企業組織の中の人間は一体何に動機づけられて働くのだろうか?給料だろうか?仕事のやり甲斐だろうか?この組織行動論研究分野の最大テーマとも言えるワーク・モチベーションに焦点をあて、組織の中の人間行動を理解するためには、組織と個人のマネジメント、特にモチベーション、リーダーシップ、人材開発などについての理論を解説します。</p> <p>この講義では、企業組織で働く人間の行動を理解することを目的として、様々な企業実例を提供し勉強する事と共に、どのような組織デザインや経営管理のあり方が組織の生産性に寄与できるのか、組織の構造や変革によってそこで働く人間の意識はどのように変化すること等を考察します。また、企業経営、組織行動に関わる重要な時事的問題も随時取り上げ、現在厳しい経営環境の中に、問題を抱える企業、逆に急成長している企業を紹介・分析します。</p> <p>1、組織行動論とは何か 2、モチベーションの古典的理論(欲求階層理論、X理論-Y理論) 3、モチベーションの古典的理論(動機づけ衛生理論) 4、モチベーションの近代的理論(ERG理論、マズローの欲求理論) 5、モチベーションの近代的理論(公正理論、期待理論) 6、集団活動 集団意思決定とコミュニケーション 7、リーダーシップと管理者行動理論① 8、リーダーシップと管理者行動理論② 9、自律的キャリア開発と支援システム 10、国際化、人材流動化時代と自己啓発 11、組織行動論と日本的経営(新しい働き方と働き方) 12、実例研究 13、まとめ</p>
授業方法:	プリントによって上記の項目を講義するほか、時事的な問題を取り上げて解説します。また、インターネットを活用して、ホットな情報を集め、企業の分析と評価について考えます。
履修の留意点:	特にありません。 参考書は講義に指示します。
目標と評価:	<p>企業の行動原理や企業の評価について、マスメディアなどで紹介される通説や俗説を鵜呑みにすることなく、理論的な視点からその真偽を批判的に検討できるスキルを身につけ、自分で考える力を養います。また、実社会での自分の役割や企業の社会的責任を理解して主体的に取り込む姿勢をもてるような授業を行いたいです。</p> <p>評価:宿題 20% 学期末テスト80%</p>
教科書:	
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営戦略論」（担当者：松行 彬子）の履修の手引き

科目名：	経営戦略論
担当者：	松行 彬子（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>現代企業による経営戦略は、1980年代後半を境として、企業を取り囲む経営環境の急激な変化に対応して、大きく変容した。それは、従来の「競争」重視の経営戦略から、「協力と競争」重視の経営戦略へと、明らかにパラダイム転換が行われた。このような経営戦略転換を踏まえて、本講では、まず、経営戦略論を理解するために必要とされる基本的知識を講義する。さらに、従来の伝統的な経営戦略理論から現在の先端的理論にいたるまでの主要な理論を事例をも含め紹介する。そして、日本企業が真のグローバル企業として成長・発展するための経営戦略もあわせて検討・考察する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経営戦略の概念 2. 経営戦略の構造 3. 経営戦略の策定 4. 主要な経営戦略の理論（ドメイン戦略、競争戦略、資源戦略） 5. 戦略的提携とM&A
授業方法：	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義を中心とする。 2. 理解を深めるためにスライドやビデオ等視聴覚教材を併用する。 3. ケース・スタディをできるだけ取り入れる。
履修の留意点：	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業計画は、受講者の学習進度により変更することがある。 2. カード・リーダーにより出席をとるので、学生証を携帯すること
目標と評価：	出席・期末試験・小テスト・授業時の発表・受講態度等により評価する
教科書：	『組織間学習論—創発のマネジメント—』 松行康夫・松行彬子 白桃書房 2002年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営組織論Ⅰ」（担当者：曹 勤）の履修の手引き

科目名：	経営組織論Ⅰ
担当者：	曹 勤
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>組織をつくるという作業は、人類の歴史と同じくらい古くから私達人間が行う活動の一部として形成してきました。組織というのはとても身近なもので誰もがよくわかったような気になってしまいがちでもあります。しかし、身近であるゆえに理論的な視点からきっちりと分析することなく、ついつい経験的に語ってしまうことが多いのではないでしょうか。この講義では、実例を交えて厳密化組織化された近代経営の組織的諸特性を解説する事によって、組織社会といわれる現代社会貫徹する法則を把握して、現代経営組織に抱えている問題と課題をめいかくにします。また、時事的な問題も取り上げ、基本的知識を修得すると共に、学生達がより洞察力を養えるような授業にしたいです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、経営組織とは 2、組織の諸類型① 3、組織の諸類型② 4、人間結合の原理 6、経営と組織 7、経営トップマネジメントの組織 8、取締役会と委員会 9、経営組織の歴史的形成要因 10、近代組織の特性 11、組織化プロセス 12、実例研究 13、まとめ
授業方法：	プリントによって上記の項目を講義するほか、時事的な問題を取り上げて解説します。また、インターネットを活用して、ホットな情報を集め、企業の分析と評価について考えます。
履修の留意点：	特にありません。 参考書は講義に指示します。
目標と評価：	<p>企業の行動原理や企業の評価について、マスメディアなどで紹介される通説や俗説を鵜呑みにすることなく、理論的な視点からその真偽を批判的に検討できるスキルを身につけ、自分で考える力を養います。また、実社会での自分の役割や企業の社会的責任を理解して主体的に取り込む姿勢をもてるような授業を行いたいです。</p> <p>評価：宿題 20% 学期末テスト80%</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営組織論Ⅱ」（担当者：曹 勤）の履修の手引き

科目名：	経営組織論Ⅱ
担当者：	曹 勤
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>経営組織論Ⅰの講義に引き続き、実例を交えて厳密化組織化された近代経営の組織的諸特性を解説します。また、最近の国際化、IT化によって多国籍企業経営環境変化に伴う組織の変革をより実証的研究を深めることを目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、組織の階層① 2、組織の階層② 3、部門化 4、権限委譲 5、組織形態① 6、組織形態② 7、経営組織の二面性 8、ししきと統合の問題 9、官僚制と支配 10、組織と人間 11、現代経営組織の問題 12、実例研究 13、まとめ
授業方法：	プリントによって上記の項目を講義するほか、時事的な問題を取り上げて解説します。また、インターネットを活用して、ホットな情報を集め、企業の分析と評価について考えます。
履修の留意点：	経営組織論Ⅰを履修することが望ましい。 参考書は講義に指示します。
目標と評価：	<p>企業の行動原理や企業の評価について、マスメディアなどで紹介される通説や俗説を鵜呑みにすることなく、理論的な視点からその真偽を批判的に検討できるスキルを身につけ、自分で考える力を養います。また、実社会での自分の役割や企業の社会的責任を理解して主体的に取り込む姿勢をもてるような授業を行いたいです。</p> <p>評価：宿題 20% 学期末テスト 80%</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営管理論」（担当者：木村 剛）の履修の手引き

科目名：	経営管理論
担当者：	木村 剛
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>私達の生活は、企業経営によって成り立っているといっても過言ではありません。あらゆるモノやサービスが次々に生み出されることによって、私達ははじめて便利に生活を送っていくことができます。しかしその一方で、近年の消費の多様化などといった経営環境の変化が、企業にとって大きな負荷となっていることも事実です。</p> <p>そうした経営環境の変化に対応していくためには、企業が有している経営資源を最大限に無駄なく効果的に活用することが必要になってきます。企業は、自社の経営資源をどのように管理し、どのように活用していくべきなのか。この講義では、経営管理の歴史的な変遷を踏まえながら「管理する」という事はどういうことなのかという視点から詳しく解説していきます。</p>
授業方法：	経営学における基本的な理論を説明しながら、経営の誕生、経営管理の発展、経営戦略、経営資源管理、組織の活性化、リーダーシップなどのテーマを取り上げ、経営を「管理」していくというのとはどういうことなのかという点について詳しく説明していきます。
履修の留意点：	私語の多い学生には、退室してもらいますので注意して下さい。
目標と評価：	<p>経営管理についての基本的な理解を深めつつ、ビジネスの現場では何が起きているのかという点について考えてみましょう。</p> <p>評価は、期末試験及び講義の中で行う小テスト（もしくはレポート）等によって総合的に評価します。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「マーケティングリサーチ」（担当者：南 亮一）の履修の手引き

科目名：	マーケティングリサーチ
担当者：	南 亮一
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	マーケティング活動を展開していくためには、当然まず消費者を知るということが重要になります。消費が低迷していることもあって自社の商品が売れず、消費者はいったい何を求めているのだろうと迷う企業は少なくありません。そこで、多くの企業では消費者を対象とした様々なマーケティング・リサーチを行い、その結果を製品開発や販売戦略等に活かしています。この授業では、マーケティングリサーチにはアンケート調査をはじめ、グループインタビューなど多様な調査手法があるということ、そしてそれぞれのタイプの調査によって消費者の意識や行動をどのように分析していけばよいのかについて学んでいきます。
授業方法：	教科書は特に指定しませんが、参考書は適宜授業中に提示します。
履修の留意点：	
目標と評価：	マーケティングリサーチには多様なリサーチの手法があること、そしてそれぞれのリサーチ手法によってどのようなことが把握できるのか、どのように分析を展開していけばいいのかを習得することを目標とします。評価点は、学期末試験の点数を中心に、授業中のミニレポートの評価を加味して算出します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「労務管理論Ⅰ」（担当者：青山 悦子）の履修の手引き

科目名：	労務管理論Ⅰ
担当者：	青山 悦子（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	企業の経営管理活動の一環としての「労務管理」は、企業にとっては、従業員をいかに有効に活用するかといった役割を担っているが、私たちにとっては、その有り様は、それぞれの就職・働き方・生活を大きく左右するものである。例えば、採用、配置、昇進・昇格、賃金、労働時間、教育・訓練など、企業に雇用されて働く限り、常に必要となる領域である。 そこで、本講義では、企業への入り口から出口に至るまでのそれぞれの局面に沿って、労務管理の最新の動向を提供することで、日本企業における人事労務管理についての理解を深めていきたい。
授業方法：	教科書黒田・関口他『現代の人事労務管理』（八千代出版）に沿って授業を進めていく。資料、統計も随時配布し、最新の情報を提供しながら理解を深めていく。
履修の留意点：	新聞を読むことによって、社会・労働全般に関する関心を広げていくことが大切。
目標と評価：	多くの学生が就職することになる日本企業の人事労務管理の動向について、事前に理解を深めることが目標。成績は、原則として、春学期末の定期試験で評価するが、平常の授業への参加度も加味される。
教科書：	『現代の人事労務管理』 黒田・関口他 八千代出版 2001年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「労務管理論Ⅱ」（担当者：青山 悦子）の履修の手引き

科目名：	労務管理論Ⅱ
担当者：	青山 悦子（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講義では、「労務管理論Ⅰ」で学んだ中で、特に今焦点となっている問題、例えば、成果主義賃金、労働時間の弾力化、雇用形態の多様化等々の問題について、より深く考察する予定である。なお講義では、欧米諸国の動向にも言及しながら、受講者と共に、激動期にある日本の労務管理のあるべき姿について考えてみることにしたい。
授業方法：	教科書は使用しない予定。資料・データを配布するので、それらをもとに、受講生参加型の授業を進めていく。
履修の留意点：	「労務管理論Ⅰ」を履修していることが望ましいが、熱意のある学生については、受講を認める。毎日、新聞を読むことによって、労務管理を取り巻く経済・経営・社会環境について広く学ぶことが必要。
目標と評価：	1990年代半ば以降、大きく変貌している日本企業の人事労務管理についての理解を深めることが目標。評価は、秋学期末の定期試験と平常の授業への参加度による。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「販売管理論」（担当者：宮永 賢久）の履修の手引き

科目名：	販売管理論
担当者：	宮永 賢久
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>「販売管理論」（担当者：宮永 賢久）の履修の手引き 科目名：販売管理論 担当者：宮永 賢久 対象学生：経営経済学部3年 設置学期：秋 概要：企業活動では、ユーザーと接し営業活動をおこなって、売上をたてるところが販売部門です。現代では、商売と取引の仕組み・形態が、製造業や流通・小売など活動分野によってさまざまに異なっているように見えます。また、営業・企画・マーケティングが、ますます一体となって活動が行われているのが特徴だと言えます。</p> <p>こうした企業の販売部門における活動を、より計画的・効率的に行うためには、商品の管理、販売組織の編成、受注・発注、売上、仕入れ・在庫の科学的管理等の方法が必要となります。これらの方法論は、基本的なところはメーカー、流通、小売のいずれにおいても、共通のものが大部分です。この講義では、販売に関する戦略的な管理を扱う「マーケティング論」に対し、上述の部門管理の方法論を、流通・商業をとりあげて2冊の教科書にもとづき学びます。特に、今日ではITを使ったマネジメントが当たり前となっています。実践的なシステムの基本構造の概念を学んでいくようにします。また、ケース・スタディを、皆さんにとってなじみの深い自動車業界とPC業界を事例として、発表・討論をおこない、レポートを提出してもらいます。</p>
授業方法：	授業方法：講義（11回）およびディスカッション（2回）。
履修の留意点：	<p>履修の留意点：販売管理の基本的な方法論は、今日ではそのほとんどがIT化されています。そのマネジメント・ソフトウェアの基本構造を、併せて商売の原則・商人の行動原理などを、できるだけ解りやすく学んでいくようにします。しかし、取引構造などは業種によって様々な形態が存在し、それによって方法論も異なっていますので、教科書2の「商売と取引のしくみ」を併せて読んで、どンドン積極的に自ら理解を深めてください。</p> <p>目標と評価：次に示している①から⑭に従って、商取引の基本を理解し、流通チャネルの結びつき、業界別の産業組織や商取引の仕組みを学びます。併せて、IT化されているマネジメント・ソフトウェアの概要を知ってもらうようにします。実体経済・産業界で必須の知識なので、実学として学んだ事柄を評価します。</p> <p>①流通の社会的役割と流通機構 ……流通業界の変革 ②流通機能—所有権の流れ ……商取引の基本部分 流通機能—財の流れ 流通機能—情報の伝達 ③商取引の形態について（討論1） ④流通機能の分化と結合 ……流通チャネルの結びつき 消費者と流通 生産者と流通 商業の存立基盤 ⑤流通チャネルの変革 ⑥小売業の役割と機能 小売業の構造 小売業の諸形態 ⑦卸売業の役割と機能 卸売業の構造と諸形態 ⑧卸売業と小売業について ⑨e - コマースの仕組みと変革インパクト 流通・商業に対する公共政策 ⑩インターネット取引について ⑪受注・出荷システムおよび販売管理システムの概要 ⑫サプライチェーン・マネジメントの概要 ⑬業種別ケース・スタディ1 [例：自動車業界予定] ⑭業種別ケース・スタディ2 [例：PC業界予定]</p>
目標と評価：	<p>上記の各チャプターの理解度と問題意識を評価します。</p> <p>①出席態度、受講の積極性[30%] ②レポート課題提出、問題意識・態度、レポート内容・理解度で採点[70%]</p> <p>※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p>
教科書：	新・流通と商業 鈴木安昭 有斐閣 2002年9月15日改定版第2補訂第2刷
参考書：	商売と取引のしくみ 藤岡仁吉 ぜんにち 2002年11月

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ベンチャー経営論(5・6時限連続)」(担当者:鈴木 勘一郎)の履修の手引き

科目名:	ベンチャー経営論(5・6時限連続)
担当者:	鈴木 勘一郎(自己紹介ページ)
設置学期:	春
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	ベンチャー経営はビジネス創造の最前線である。ベンチャー経営論の授業を通じて目指しているものは、(1)将来のベンチャー企業経営者、(2)ベンチャー企業の経営チームとして貢献できる人材、(3)大企業、中堅企業、中小企業においてベンチャー精神を持った能力ある人材、などを養成することである。本科目では、様々な演習を通じてベンチャープロセスの知識(事業機会の評価、環境分析、事業プランの策定、経営資源の調達・管理など)の理解を深め、履修者に対して、起業家精神、実践的な思考、積極的な行動、組織メンバーとしての規律、的確な判断力を身につけてもらう。 この科目を履修するには、①価値を創造し新しいことにチャレンジしようという意欲があること、②ハードな課題をこなす意欲があること、③グループ活動に積極的に参加する意欲があること、などを条件とする。この3条件に合わない場合には、最初から履修しないこと。
授業方法:	本授業は、講義に加えて、グループ作業や発表など様々なプレゼン能力を磨く機会を提供する。グループ活動は、各人が数人ずつのグループに分かれて実習課題をこなし、それをクラスで発表評価していく。 テキスト(課題のベースとなる教科書) (A)日経文庫「ベンチャー企業」<新版> 松田修一著、日本経済新聞社 (B)角川Oneテーマ21「組織IQ」鈴木勘一郎著、角川書店 参考図書(授業の理解を助ける意味で、一読を薦める。) ・鈴木勘一郎「組織IQ戦略」野村総合研究所 ・日経文庫「経営学入門(上下)」榊原清則著、日本経済新聞社
履修の留意点:	履修上の留意点 本科目は(1)基礎的知識の習得と(2)起業家的意識の涵養を目指しており、この科目単独でも履修できるが、総合的な起業家能力の向上には、引き続き秋学期で「経営事例研究」並びに「起業家論」の履修することを薦める。 学生と教師の役割 「学生」:起業家精神やベンチャー経営を学ぶのであるから、クラスへの積極的な参加が求められる。起業家精神とは、指示待ちの受身な態度ではなく、何かを付け加えようという積極的な態度だからである。その起業家精神を養うことが授業の目的の一つである。また授業では、議論を通じて学んでいくことが大切だと考えている。そのためにも積極的に自分の意見を言うことが評価される。さらにグループ活動でのリーダーシップや協調性を重視する。組織は一人では動かせない。他のメンバーをよく理解し、自分も他のメンバーに理解してもらうにはどうすれば良いか、を常に考え行動する。 「教師」:この授業に参加して「積極的に学ぼうとする学生」の手助けをする。 成績の評価 評価の視点 % 1)クラス議論への参加(個人): 25% 2)グループ課題への貢献(グループ): 25% 3)試験(個人): 50% *出席点では(当然だが)差はつかないし、出席するだけではクラスへの貢献はない。授業に積極的に参加して初めて出席の意味がある。この科目の成績は(1)「努力した人」>「努力しない人」と、(2)「積極的に参加する人」>「積極的に参加しない人」となるように考慮する。起業家精神を実践したい人で、努力する人を評価する。(例えば、クラスでの発言回数など。)
目標と評価:	(1) 起業家精神の発揮 (2) ベンチャー経営についての理解 (3) チームワーク能力の向上
教科書:	「ベンチャー企業」<新版> 松田修一著 日本経済新聞社(日経文庫)
参考書:	組織IQ戦略 鈴木勘一郎 野村総合研究所

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「生産管理論」（担当者：宮永 賢久）の履修の手引き

科目名：	生産管理論
担当者：	宮永 賢久
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>「生産管理論」（担当者：宮永 賢久）の履修の手引き 科目名：生産管理論 担当者：宮永 賢久 対象学生：経営経済学部3年 設置学期：秋 概要：これまで日本経済は高度な生産技術を背景にして目覚ましい発展を遂げて来ました。明治以来、欧米の技術を真似ることから始まった生産活動は、独自のTQC運動を産み出し経営環境を大きく変え、トヨタ自動車のかんばん方式などの生産活動を産み出しながら、世界トップレベルに位置付けられるようになってきました。 しかし、今日の日本産業は、安価な人件費などを武器に台頭してきたアジア諸国がライバルとなり、新たな生産システムの構築をせまられている環境下にあると言えます。 生産管理論では、取り上げる領域が極めて多岐にわたっています。それは、製品の生産を中心に実施されてきた現場周りの生産管理（production control）活動（activity）が、企業全体の問題として総合的な視点から把握される（production management）ようになり、さらにサービス産業をも対象となってきたからです。 企業における生産活動を学するためには、ベースといえる骨格を、より計画的・効率的に行うために必要となる生産計画（production planning）と生産活動の統制（現場周りの生産管理＝production control）との一連の流れから、理解を深めていくことが大切です。生産計画の種類とその特徴を学び、生産統制の手順、特に計画と実績との差異の測定、その原因の追求と対策を考えていきます。 生産管理全体では、小骨にあたる周辺のいくつかの大切なシステムがあります。需要予測では需要変動の原因・種類・予測方法、製品計画では主に新製品開発の必要性、資材管理では資材の流れに沿って購買・外注業務・受け入れ検査業務・保管業務・運搬業務という生産対象に対する管理、設備管理では保守活動を中心に生産手段に対する管理、品質管理では品質の定義・品質管理手法などです。 生産管理論では、このような構成を念頭に入れながら、生産の科学的管理手法を実務的知識を中心に学ことをめざします。</p>
授業方法：	授業方法：講義（11回）とディスカッション（2回）。
履修の留意点：	<p>履修の留意点：履修にあたって、前もって「履修の手引き」に記されている教科書の第1章「生産管理とは何か」（P11からP30）を必ず読んでおくこと。</p> <p>* 生産管理のなかで、計画の内容、統制の内容を具体的に説明できること。 * 周辺のシステムで、需要予測、製品計画、資材管理、設備管理、品質管理、作業管理、工程管理、外注管理の意味を具体的に正確に説明できること。 * 成績評価の基準は、実務の理解度を重要視し、レポートと試験を半々して見ることとします。</p>
目標と評価：	<p>目標と評価：この授業を受講した学生は、現代の生産管理の全体を理解し、各論にあたるシステムを知ることとなります。</p> <p>※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p>
教科書：	よくわかるこれからの生産管理 菅間正二 同文館出版 平成16年5月
参考書：	「生産管理論」 西尾 篤人 創成社 2002年11月10日 初版 第1刷

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「企業診断論」（担当者：小沢 勝之）の履修の手引き

科目名：	企業診断論
担当者：	小沢 勝之
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	企業診断（企業経営コンサルティング）の目的、役割、発展について学んだ後、主な手法や体系および実際のやり方を、講義と実習の形式をミックスして理解して行きます。 企業診断の国家資格に中小企業診断士があるように、この学問はかなり専門的な職業に就きたい人に役立つものです。 もちろん、必ずしも経営コンサルタントにならなくても、企業経営を分析、診断、改善できるようになることは、大変素晴らしいことであり、これからの社会で尊重されることになるでしょう。
授業方法：	最初は講義形式が主体ですが、やがて実際の企業について調査、分析、診断、提言をレポートする診断レポート作成の実習の形式になります。その上で各自の診断報告の発表、ディスカッションの形となります。 自分で診断し、皆とディスカッションする、意欲と努力のない人は履修を控えた方がいいでしょう。
履修の留意点：	実際の企業を診断するわけですから、経営学や簿記会計学についてその基礎を身につけてない人は、履修を控えてください。 また、毎週理解を積み上げていくものですから、毎週休まないで出席する人でないと、理解できなくなります。 さらに、予習、復習をきちんとやり、自分で積極的に調べる努力と皆でディスカッションする際に後れない姿勢を持てる人の履修する科目です。
目標と評価：	企業診断の基本を理解し、実際に簡単な企業診断ができるようになることが目標です。 評価は2回の診断レポートの作成内容とディスカッションの態度を総合して行います。
教科書：	企業診断の実際 宮崎一紀、柳田謙 日経文庫 2003年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営事例研究」（担当者：堀江 国明）の履修の手引き

科目名：	経営事例研究
担当者：	堀江 国明
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>人間は、生まれると直ちに栄養素を摂取して身体を維持し成長させます。その生存活動の過程において、身体機能に故障が生じた場合には、自らこれを自覚するとともに、これを自力で治癒する能力を内蔵しています。</p> <p>自らの力で治癒できないときは、薬を服用して治癒能力を促進させるかまたは医師の力を頼って外科手術による故障部分の除去などにより、生存活動を回復させます。</p> <p>企業が事業を営み成長する過程は、あたかも人間の生存活動に似ていますが、根本的に異なるところは、企業が固有の活動力を内蔵しているのではなく経営者である人間によりその活動がなされると点です。</p> <p>したがって、企業の活動機能の障害は、経営者においては自覚症状によって知ることができませんから、積極的に監視して発見しなければならないのです。ここに財務分析を導入する必要性が存在するのです。</p> <p>そこで、講義では財務分析の手法について説明し、さらに、事例研究を行いたいと思います。皆さんも、いずれ企業に就職なさったりあるいは独立して事業を起こすことでしょう。財務分析は、必ず役立つものとなるはずで、入門をお待ちしております。</p>
授業方法：	講義（10回）および討論（3回）。討論は、特定の受講生をレポーターに指名して行います。
履修の留意点：	「履修の手引き」に記されている教科書の第一章を読んでおくこと。 授業では、下記の教科書内容のプリント配付物や、その他の資料などを使用します。
目標と評価：	<p>この授業を受講した学生は、以下のことが出来るようになっているはずです。 また、そうなるように学習することを望みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・損益計算書の意味と特徴と見方 ・貸借対照表の意味と特徴と見方 ・キャッシュフロー計算書の意味と特徴と見方 ・資金体質図の意味と特徴と見方 ・関係比率の意味と特徴と見方 ・損益分岐点の意味と特徴と見方 <p>評価点は以下の項目毎に加算方式で算出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席および議論における発言の積極性[60] ・レポーター、質問者としての貢献、および小さな課題の提出状況[40]
教科書：	これだけでわかる決算書【読み方のコツ】 税理士 堀江国明・原義彦 池田書店 平成15年5月20日[発行]以降のもの
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「資金調達論」（担当者：中野 正健）の履修の手引き

科目名：	資金調達論
担当者：	中野 正健（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>経済のグローバル化が進む中、金融業界も同業者間との合併、提携、そして異業種間との垣根の撤廃、海外企業の参入等、正にボーダレスの時代に突入。資金の調達、運用、投資戦略面を軸にした金融システムそのものが大きな変革の時代に突入した。</p> <p>この結果、各企業共に経営システムの改革を迫られることとなり、海外での変革動向も見据えながら、今後日本の金融業界は、どう再生、活性化していくべきか、この問題を探り上げる。</p>
授業方法：	講義と、より実践的に修得する目的で映像教育を実施する。
履修の留意点：	資金調達論と投資戦略論は、一貫して受講することが望まれる。
目標と評価：	銀行、証券、保険、損保、消費者金融、政府系金融機関等、日本の金融機関の現状と将来像を学習する。 評価は定期試験等。授業態度等平常点も考慮する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「投資戦略論」（担当者：中野 正健）の履修の手引き

科目名：	投資戦略論
担当者：	中野 正健（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>経済のグローバル化が進む中、金融業界も同業者間との合併、提携、そして異業種間との垣根の撤廃、海外企業の参入等、正にボーダレスの時代に突入。資金の運用、投資戦略面を軸にした金融システムそのものが大きな変革の時代に突入した。</p> <p>この結果、各企業共に経営システムの改革を迫られることとなり、海外での変革動向も見据えながら、今後日本の金融業界は、どう再生、活性化していくべきか、この問題を探り上げる。</p>
授業方法：	講義と、より実践的に修得する目的で映像教育を実施する。
履修の留意点：	資金調達論と投資戦略論は、一貫して受講することが望まれる。
目標と評価：	銀行、証券、保険、損保、消費者金融、政府系金融機関等、日本の金融機関の現状と将来像を学習する。 評価は定期試験等。授業態度等平常点も考慮する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中小企業経営論」（担当者：宮永 賢久）の履修の手引き

科目名：	中小企業経営論
担当者：	宮永 賢久
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>「中小企業経営論」（担当者：宮永 賢久）の履修の手引き 科目名： 中小企業経営論 担当者： 宮永 賢久 対象学生： 経営経済学部3年 設置学期： 春 概要： 中小企業とよばれる企業規模の領域には、実に多数の業種、業態の企業が存在しています。あるいは耳にしたことがあると思いますが、「中小企業はわが国産業の礎」とか、「中小企業によって大企業は支えられている」と言われています。 これらの中小企業について、全体像を簡単にとらえることは難しいのですが、産業の重要な部分を担っている事実を知って、正しくその動向や役割を理解することがとても大切です。 この講義では、「最近の中小企業をめぐる動向」と「誕生、発展・成長する存在としての中小企業」の姿を学び、具体的に理解するするようにして下さい。皆さんが実社会へ出た時にしばしば出会う幾多の課題が、中小企業の生き様に必ず存在しているはずで、問題解決にそのことを知らずして当ることは、稚拙であり、産業界として資質を疑われかねません。 授業では、中小企業白書を使いながら、複雑で多面的な動きを見せている中小企業の経営について、豊富な統計数値やグラフ、図にもとづき、課題や動向を理解していきましょう。</p>
授業方法：	授業方法： 講義（11回）、およびディスカッション（2回）。
履修の留意点：	<p>履修の留意点： 「中小企業論」は、一元的に把握することが難しく、ともすると学問的な観点が薄いと見がちですが、実はそうではなくて、広い分野で多くの学ぶべき事柄を我々に教えています。現実の経済・産業を理解する入り口であり、他方、永遠の問題をはらんでいるところでもあります。その中のいくつかの課題は、職業につけば、ただちに何らかの形で係りを持つようになります。身近な問題意識をもって、できるだけ広い視野と理解力をつけるようにして下さい。 目標と評価： 中小企業を広く、深く捉え、抱えている問題を具体的に理解するようにして下さい。</p> <p>①中小企業の定義と特徴、これまで担ってきた産業・経済における役割 ②最近の中小企業の動向 ③デフレ下の中小企業と海外進出 ④創業と廃業問題 ⑤創業の促進（討論1） ⑥発展成長と経営革新 ⑦廃業・倒産問題（討論2） ⑧金融の課題 ⑨雇用創出と喪失問題（討論3） ⑩まちの起業家と経済活性化 ⑪中小企業の経営革新支援策（討論4） ⑫まちづくりと中小商業対策（討論5） ⑬ものづくりと技術開発支援 ⑭総括の討論（討論6）</p> <p>履修のためには次の事柄を留意すること。 ①日ごろから広い視野と問題意識を持って思考する態度を身に付けること。 ②そのために、経済誌やTV、INTの経済・産業記事に目を通しておくこと。</p> <p>⑥</p> <p>教科書： 中小企業白書 2002年版 中小企業庁 編 株ぎょうせい 平成14年5月15日</p>
目標と評価：	<p>学期末レポート試験[70%]+出席点[30%] ※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p>
教科書：	中小企業白書 中小企業庁 株ぎょうせい 2004年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ベンチャーキャピタル論」（担当者：飯島 寛之）の履修の手引き

科目名：	ベンチャーキャピタル論
担当者：	飯島 寛之
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>長期にわたる経済停滞を背景に、新技術・産業社会を切り拓く経済活性化の鍵としてベンチャー企業（V B）への期待が官民を問わず高まっている。同時に、従来型の銀行融資とは異なる形態でV Bの設立にかかわり、ある程度の成長段階にまで育てていく、ベンチャーキャピタルという資金存在にも注目が集まりつつある。だが、日本におけるベンチャーキャピタルの地位は欧米に比べて脆弱といわざるをえない。それどころか、「ベンチャーキャピタル」と聞いただけで怪しげな印象をもち、それを中小企業論の一分野として議論すること自体を問題とする声さえある。一体ベンチャーキャピタルとはどのような存在なのか？ 日本のベンチャーキャピタルが抱える問題点とは何だろうか？</p> <p>本講義はベンチャーキャピタルの基本的仕組みを体系的に解説することはもちろん、V Bの設立・育成にあたってベンチャーキャピタルの果たす役割や機能をベンチャーキャピタル先進国である欧米と比較しながら説明することで上記の疑問に答えていく。その上で、ベンチャーキャピタルのもつ機能を地域経済の活性化や産業政策へ応用するための方策や今後の課題について考えてみたいと思う。</p> <p>具体的な講義の内容・順序については初回の授業で説明を行う。</p>
授業方法：	<p>講義（12回）＋授業内試験。</p> <p>講義中の発問に積極的に答えること、レジュメの空欄部分に積極的なメモが残されることを期待する。教科書・参考書の利用については、適宜指示する。</p>
履修の留意点：	<p>必ずしも前提とはしないが、ベンチャーキャピタルから資金面その他で支援を受け協力して企業の発展を目指すことを起業家側の立場から知る上でも「起業家論」を履修していること、またベンチャーキャピタルと他の金融機関との相違を明確にするために「金融論」や「資金調達論」を履修していることが望ましい。</p>
目標と評価：	<p>【目標】</p> <p>本講義では、ベンチャーキャピタルやベンチャーキャピタリストについての基本的な正しい認識を身につけることを最大の目的としている。その上で、欧米との比較を踏まえ、日本のベンチャーキャピタルの現状について的確に問題点を捉え、その方策と可能性について自ら考える力を養う事ができるようになること、またそうなるように考えながら学習することを望む。</p> <p>【評価】</p> <p>試験の結果を重視しつつ、平常点も加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「事業創造論」（担当者：和田 耕治）の履修の手引き

科目名：	事業創造論
担当者：	和田 耕治（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講義では、起業、創業、新分野進出などといった企業のイノベーション、経営革新といった分野に焦点をあて、その理論を踏まえつつも具体的なケースを紹介しながら、歴史的、空間的な広がりの中での事業創造のあり方を考える。
授業方法：	講義形式による授業。 講義は以下の点に触れながら展開される。 1. 事業創造にかかわる理論 2. 企業のライフサイクル 3. 第一次ベンチャーブーム 4. 第二次ベンチャーブーム 5. 第三次ベンチャーブーム 6. ベンチャーキャピタルと証券市場 7. インキュベーション施設と地域プラットフォーム 8. 産学官連携と地域振興 9. ベンチャー支援政策の展開 10. ケーススタディー
履修の留意点：	講義ノートは必ずとること
目標と評価：	学期末試験による評価 ただし、履修者人数が少なければ、平常点での評価とする。
教科書：	講義ノートとって下さい
参考書：	現代中小企業の創業と革新 三井逸友編 同友館 2001年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「産業集積論」（担当者：平井 東幸）の履修の手引き

科目名：	産業集積論
担当者：	平井 東幸（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>京都・西陣などの伝統的な繊維産地、日立などの企業城下町、東京・渋谷の商業・情報産業・エンターテインメントなどの複合集積、杉並区のアニメ産業・・・これらはいずれも特定地域に特定の産業が集中して立地することでメリットを発揮するもので、産業集積といいます。</p> <p>日本経済はもとより地域の活性化の切り札のひとつとして、このような産業集積は経済社会にどのような影響を及ぼしているのか、またそれをどう活用したらよいかなどを考えていきます。</p> <p>講義の主要な項目は次の通りです（予定）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 産業集積の定義と分類・・・産業クラスターとは 2 その役割・・・地域経済社会への貢献 3 なぜ今、注目されるのか 4 工業集積・・・産地（繊維、眼鏡、陶磁器など）、工業団地、企業城下町の場合 5 商業集積・・・流通団地、複合商業施設の場合 6 複合集積・・・東京・渋谷ほか 7 多摩地区の産業集積・・・地元の産業形成の歴史ほか 8 集積が形成される歴史的な要因背景 9 集積のメリットとデメリット 10 産業集積が直面する課題と展望
授業方法：	講義形式で行います。ビデオの上映、外部講師の招聘もします。
履修の留意点：	とくにありません。
目標と評価：	<p>上記の概要で触れたように、産業集積が、モノ作りを基盤とするわが国経済社会を支えていること、そして地域の活性化、経済活性化の有力な手段であることを理解していただきたい。</p> <p>評価については、出席・平常点と定期試験によります。</p> <p>教科書は使用しません。</p> <p>参考文献としては、取り敢えずは『産業集積の本質』（有斐閣）を薦めます。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営分析論Ⅰ」（担当者：長谷川 美千留）の履修の手引き

科目名：	経営分析論Ⅰ
担当者：	長谷川 美千留
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>私たちの生活は、企業と密接に結び付いています。企業なくして、私たちの生活は、成立たないとも言えるでしょう。その企業が開示する情報（会計情報）を活用し、その企業の実態を的確に読み取る能力は、これからより一層重要となっていくでしょう。</p> <p>この講義では、まずはじめに前述の様な能力をつける為の基礎、即ち財務諸表に関する基礎を復習します。つづいて、財務諸表に記載されたデータから、企業の経営分析を行なう為の基礎的な手法について学習します。企業の安全性分析、収益性分析、効率性分析などについて検討出来るように、基本的な指標から学習して行きます。</p>
授業方法：	一般的な講義形式です。時折、授業中に簡単な質問をして答えてもらう事もあります。
履修の留意点：	授業中の私語やメールは、しないように心掛けて下さい。 会計学・財務諸表・簿記等の基礎知識がある方が、理解が容易でしょう。
目標と評価：	期末にレポートを作成してもらい、これにより評価を行ないます。
教科書：	図解でわかる経営分析 金井正義 西東社 2003年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営分析論Ⅱ」（担当者：長谷川 美千留）の履修の手引き

科目名：	経営分析論Ⅱ
担当者：	長谷川 美千留
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	経営分析2では、経営分析1での学習を基礎として、より実践的な学習を進めていきます。実際の企業データ（財務諸表）から当該企業の経営状況や問題点などを読み取っていきます。さらに、同業他社の比較や時系列の動向なども行なっていきます。
授業方法：	講義形式ですが、学習が進むにつれ、実際に自分でデータを集めたり、分析をしたりする事も要求されます。
履修の留意点：	私語やメールは慎んでください。経営分析1を履修していることが望ましいでしょう。
目標と評価：	期末にレポートを作成してもらい、これにより評価を行ないます。
教科書：	図解で分かる経営分析 金井正義 西東社 2003年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「人的資源Ⅰ」（担当者：南雲 智映）の履修の手引き

科目名：	人的資源Ⅰ
担当者：	南雲 智映
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>企業などの経営資源としてヒト・モノ・カネ・情報というものがあげられるが、この講義はそのうちの「ヒト」（人的資源）を扱う。具体的には、企業の従業員もしくは労働者といわれる人たちを企業その他の組織体がどのように管理しているのかということに焦点を当てる。</p> <p>「人的資源Ⅰ」では主に、雇用管理（だれをどのくらい雇うのか）、人事管理（従業員をどのように格づけし評価するか）、賃金管理（どのように賃金を決めるか）、昇進管理（だれをどのように昇進させるか）といった話題について講義を行う予定である。</p>
授業方法：	講義形式が基本。また、授業中に課題を出し、それについて皆で考えるという時間をできるだけとりたい。
履修の留意点：	秋学期に「人的資源Ⅱ」も併せて履修すると、理解が深まると思われる。
目標と評価：	<p>まずは、企業等が人的資源をどのように管理しているかを理解してもらうこと、そして次のステップとして、人的資本に関する基本的な資料・統計にはどのようなものがあるかを理解してもらい、自分の興味に合わせてそれらを調べられるようになることを目標とする。</p> <p>評価は期末テストの点数が基本である。それに加えて、課題への回答状況を加味する予定である。</p>
教科書：	新しい人事労務管理 佐藤博樹・藤村博之・八代充史 有斐閣（アルマ）（2005年春に補訂版出版予定）
参考書：	2005年版 活用労働統計 生産性労働情報センター 社会経済生産性本部生産性労働センター 2005年1月

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「人的資源Ⅱ」（担当者：南雲 智映）の履修の手引き

科目名：	人的資源Ⅱ
担当者：	南雲 智映
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>従業員、労働者は企業等の人的資源という側面があるとともに、社会生活を営む人間だという側面もある。そしてそれゆえに、我々が働く上でさまざまな規制が存在しているし、政府や企業によってさまざまな支援がなされている。また、労働者の能力開発の必要性も生じるし、企業としては従業員との関係を良好に保つことが大切になってくる。</p> <p>「人的資源Ⅱ」ではこういった側面に注意しながら、主に、労働時間管理（どれくらい働いてもらうか）、能力開発（どのような能力をつけてもらうか）、女性や高齢者への就業支援、福利厚生（給料以外の報酬）、労使関係（雇う側と雇われる側の関係）といった話題について講義を行う予定である。</p>
授業方法：	講義形式が基本。また、授業中に課題を出し、それについて皆で考えるという時間をできるだけとりたい。
履修の留意点：	人的資源を管理するための仕組みは、さまざまな要素が複雑にからまってできている。それゆえ、春学期の「人的資源Ⅰ」に関連する話題も出てくるので、この授業の履修者は「人的資源Ⅰ」を併せて履修することをすすめる。
目標と評価：	<p>ヒューマン・リソース・マネジメントのさまざまな側面と役割について理解してもらうこと、そして、各自の興味に応じて自分で統計資料やケースを調べられるようになってもらうことが目標である。</p> <p>評価は期末テストの点数が基本である。それに加えて、課題への回答状況を加味する予定である。</p>
教科書：	新しい人事労務管理 佐藤博樹・藤村博之・八代充史 有斐閣（アルマ）（2005年春に補訂版出版予定）
参考書：	2005年版 活用労働統計 生産性労働情報センター 社会経済生産性本部生産性労働センター 2005年1月

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営プレゼンテーション論」（担当者：由木尾 武）の履修の手引き

科目名：	経営プレゼンテーション論
担当者：	由木尾 武
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>企業活動における会議や営業の際に利用されることの多いプレゼンテーションソフトウェアの利用法を中心にデジタル時代のプレゼンテーション手法を学ぶ。</p> <p>使用ソフト：PowerPoint 到達目標：企業活動を通じて自己実現を図るための自己表現手法を身に付ける。 受講対象：ピカールの企業人になることを目指す人</p>
授業方法：	<p>机上の講義ではなく、プレゼンテーションのための作品作成と実習を通じて、実践的なプレゼンテーション手法を学ぶ。</p> <p>組織人としての自己表現方法を身につけるためのプレゼンテーション ・会社のPR ・商品説明 ・グラフ ・論点整理</p>
履修の留意点：	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション手法を習得するためには、初回はもとより、毎回継続して受講すること。 ・市販の教科書は使いません。毎回、履修内容にそったマニュアルを用意します。
目標と評価：	<ul style="list-style-type: none"> ・履修状況とプレゼンテーションの出来栄（プレゼンテーション力）で評価する。 ・定期試験は行わない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「多国籍企業論」（担当者：馬田 啓一）の履修の手引き

科目名：	多国籍企業論
担当者：	馬田 啓一
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講義では、最新かつ重要な多国籍企業と海外直接投資の諸問題について平易に解説します。前半は多国籍企業の海外投資戦略に関する一般的な問題を取り上げ、海外直接投資の諸要因と形態、企業内貿易の実態、投資摩擦への対応などについて講義します。後半は日本企業のグローバル化を取り上げ、その現状と問題点、今後のグローバル戦略の行方などについて講義します。
授業方法：	授業の方法は一回完結方式です。予定している毎回の講義テーマについては「授業計画」を参照してください。特定の教科書は使用せず、講義内容を要約した簡単なレジュメを毎回配布します。
履修の留意点：	経済学や経営学の基礎知識があることが望ましいですが、なくても構いません。多国籍企業問題に対する旺盛な問題意識さえあれば、必ず興味深く受講できます。
目標と評価：	定期試験の結果に基づき評価をします。試験の方法は、毎回の講義テーマの中から一つ選んで論述するという形式です。
教科書：	
参考書：	『日本企業と直接投資』 青木健・馬田啓一編著 勁草書房 1997年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営史」（担当者：小沢 勝之）の履修の手引き

科目名：	経営史
担当者：	小沢 勝之
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	コンビニエンスストアのセブンイレブンやアメリカの自動車会社であるGM社など現代を代表する企業は、どのようにして発展してきたのかを明らかにするのが経営史です。理論よりも実際の企業が行ってきた経営革新の軌跡を比較分析して、現代企業の成り立ちや特徴を明らかにしていきます。経営史は経営の歴史を扱う学問ですが、決して古い時代だけを対象にするのではなく、現在やこれからの企業経営を考えるために、これまで発展してきた企業の実験の経験を分析するものです。
授業方法：	そのため学説や理論よりも、実際の企業が行ってきた経営革新の事例（ケース）を多数紹介します。ノートのとり方を工夫してください。講義形式だけでなく、事例を示して、あなたが経営者であったらどのような経営戦略を採用しますか？、というような質問をして、答えてもらい、その上で皆でディスカッションする形式も時々行います。
履修の留意点：	特にありませんが、経営学の基本はきちんと理解してください。教科書は使いませんが、参考書は授業中に紹介します。
目標と評価：	経営史の基本的な見方ができ、企業の発展の軌跡の概要を理解できるようになるのが目標です。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営史」（担当者：小沢 勝之）の履修の手引き

科目名：	経営史
担当者：	小沢 勝之
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	コンビニエンスストアのセブンイレブンやアメリカの自動車会社であるGM社など現代を代表する企業は、どのようにして発展してきたのかを明らかにするのが経営史です。理論よりも実際の企業が行ってきた経営革新の軌跡を比較分析して、現代企業の成り立ちや特徴を明らかにしていきます。経営史は経営の歴史を扱う学問ですが、決して古い時代だけを対象にするのではなく、現在やこれからの企業経営を考えるために、これまで発展してきた企業の実験の経験を分析するものです。
授業方法：	そのため学説や理論よりも、実際の企業が行ってきた経営革新の事例（ケース）を多数紹介します。ノートのとり方を工夫してください。講義形式だけでなく、事例を示して、あなたが経営者であったらどのような経営戦略を採用しますか？、というような質問をして、答えてもらい、その上で皆でディスカッションする形式も時々行います。
履修の留意点：	特にありませんが、経営学の基本はきちんと理解してください。教科書は使いませんが、参考書は授業中に紹介します。
目標と評価：	経営史の基本的な見方ができ、企業の発展の軌跡の概要を理解できるようになるのが目標です。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「商品企画」（担当者：小林 伸行）の履修の手引き

科目名：	商品企画
担当者：	小林 伸行
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>「企画」とはものづくりの基本です。企画することは形のあるもので表現することに限らず、形のないものでも表現されます。例えば友人との間で催す集いで、そこに工夫を盛り込むことは「企画」のひとつです。こうした人が集まる場で事前に考案した「企画」は「目新しさ」や「驚き」を披露し、楽しさを分かち合うことができる形のない企画といえます。</p> <p>身の回りでは、テレビ宣伝などで新しい事柄が毎日のように目や耳に飛び込んできますね。目新しい製品やサービスは私たちに共感や快適さを与え、ライフスタイルに変化をもたらし、また社会の発展に寄与します。こうした商品企画がもたらす効果は、現在も将来も私たちの生活に無縁ではありえません。それらを分類すると、形のある「新製品」の他に、形のない「新サービス」もあることが理解できます。</p> <p>「企画」それ自体は無形ですが、具体化し表現されたものが毎日のように作り手から「商品」となって送り出されています。その商品は「商品企画」によって生まれます。</p> <p>「商品企画」は作り手が商品の価値を生み出すためにあり、企業活動では大きな利益を得るための重要な役割を担います。</p> <p>この授業では、無形商品のひとつである「旅行商品」を例題に、商品作りの基本を理解することを手始めに、「商品企画」の実践に取り組みます。また、「旅行」という商品の作り手として、商品を世に送り出すことに関わる販売上の工夫や課題を理解します。</p>
授業方法：	<p>講義形式をとります。（13回）商品企画（旅行商品）の考案と演習を2回に分けて実践します。講義資料は適宜その内容をプリントで配布します。</p> <p>講義テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●商品企画概論 ●旅行の定義、歴史、法令について ●旅行商品に関わるマーケティング ●旅行商品のブランドについて ●旅行商品のプレゼンテーションについて ●旅行商品の販売について ●旅行商品企画の重要性と課題について ●国内と海外における旅行業務の役割について ●旅行企画の考案と実践について
履修の留意点：	<p>毎回の講義内容を参考に、「復習」として興味を引かれた商品を見つけ、その商品の感想をまとめてください。（400字程度。）</p> <p>「旅行商品」に限らず、有形・無形の製品やサービスに目を向け、「復習」として対象を選んだ製品かサービスの「なに」が「いつ」「どこで」あなたの目に触れ、「いかに」興味を惹かれて、「なぜ」購買意欲が触発されたかなどについて「各自の雑記帳」に記述してください。毎回の講義では提出を求めませんが、小レポートの作成に役立ちます。</p> <p>着眼点のキーワードは「観察」「発見」と「感動」です。</p> <p>例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品名 ・商品を見つけた日付、広告媒体名や場所（新聞、雑誌、商店街…） ・商品内容（簡単な説明） （資料：可能であれば記事や広告の実物やコピーを保管するのよい。） ・どのように興味を引かれましたか？ 目にとまった理由・感想など。 ・実際に買ってみたい、使ってみてみたいと思えた動機や理由。 ・または、興味はあるが買わない理由。 ・その商品の改善点。など
目標と評価：	<p>講義を通じて、商品の作り手の立場を理解し、その「企画」意図を学び、さらに他者に一步先んじる企画上手をめざします。積極的な受講姿勢を期待します。</p> <p>評価点は以下のとおりにおこないます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「平常評価」を行います。 ●受講姿勢を重視します。（10%） ●講義でおこなう商品企画の「考案」や「実践」の小レポートで、企画の内容のみならず、企画にいたる着眼点やプロセスならびに受講内容の理解度を評価します。（60%） ●講義の進み具合により適宜小レポートを予定します。（30%）
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「広報・宣伝企画」（担当者：饗場 義晃）の履修の手引き

科目名：	広報・宣伝企画
担当者：	饗場 義晃
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>広報・宣伝とは何か？ 現代社会の中でどのような意味があるのか？ 私達を取り巻く日常生活の中でどのような役割を果たしているのか？ 私達は広報・宣伝に関する知識やスキルをどのように有効活用出来るのか？ この様な問題意識で広報・宣伝という概念を考え整理します。 広報・宣伝という概念は似ている所も有りますが、基本的に異なるものです。 俗な言葉で言えば自分や特定の物を売りこむ事とも言えますが、もう少し体系的に理論的に整理して、私達の知的な武器にする事を目指します。</p>
授業方法：	<p>13回の講義なので、難解な解説よりも成るべく身近なテーマを取り上げ学生との討論やレポートを通して、広報・宣伝という概念理解を目指します。 例えば、最近のニュースや事件、話題となった広告、斬新な宣伝などを取り上げ、具体的に効率的で有効なメッセージを発信しているか？あるいは、想定された広報・宣伝目的を達成しているか？などを議論し、私達と社会の関わり方における広報宣伝の意味を研究します。</p>
履修の留意点：	<p>私達が生きている現代社会では、いろいろな情報が飛び交っています。 これらの情報洪水の中には、極めて有用なものに混じってある特定の目的意図を持って流されているものが沢山あります。 私達は情報革命といわれる時代の中で、ハイテク機器を縦横に使いながら生活していますが、このような情報戦略に強い興味・関心を持っている方々の聴講をお勧めします。 講義の随所で、いわゆるマスメディアに流された情報を教材に使用し、ディスカッションあるいはレポート提出を考えています。</p>
目標と評価：	<p>現代情報戦略の基礎を習得する事を目標とする 評価は、学期末レポートを50%、通常講義中における活動を50%程度と致します。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営情報論Ⅰ」（担当者：田中 明通）の履修の手引き

科目名：	経営情報論Ⅰ
担当者：	田中 明通
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>企業経営における情報通信技術(IT)の重要度は、情報系企業のみならず業種を超えて高まってきており、ITを活用できる人材が強く求められるようになっていきます。</p> <p>本講義では、様々な経営活動に活用できる情報関連技術について、歴史、制度、等も含めて基礎知識の習得を目的として学習を進めます。範囲としては、基本情報処理技術者試験の出題範囲の内、セキュリティと標準化、情報化と経営の内容(企業会計を除く)を扱います。</p> <p>講義の具体的な内容は、後述の教科書に従い、下記を予定しています。</p> <p>(1)セキュリティとその管理法 (2)標準化 (3)情報戦略</p>
授業方法：	<p>基本的には講義を中心としますが、インターネットからの情報収集、演習、レポート等を適宜取り入れていきます。また、e-Campusをフルに活用するため、毎回の授業ではノートPCが必須となります。e-Campusに無線LANカードで接続できるように準備をしておいて下さい。</p>
履修の留意点：	<p>授業中e-Campusへの接続が必須ですので、講義が始まるまでにe-Campusネットワークに無線LANで接続できるようにしておいて下さい。</p> <p>講義の中では、個々の知識の説明だけでなく、その知識の背景にある考え方等も合わせて説明していきます。単なる知識の暗記に終わるのではなく、知識を真に自分のものとして吸収し、自分自身の意見を持つために活用できることを目標にして下さい。</p>
目標と評価：	<p>中間レポートおよび期末の筆記試験により評価します。講義中のアクティビティについては、特に優れたものについてはプラス点として加味して採点します。</p> <p>学習の目標は、特に以下の点について基礎的な知識を得て、理解を深めることです。</p> <p>1. セキュリティの重要性、セキュリティ対策の手法、セキュリティポリシー 2. 標準化の重要性、標準規格の例、標準化のための組織 3. 企業組織の形態、情報化戦略</p>
教科書：	セキュリティと標準化・情報化と経営 平井利明他 実教出版 2003年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営情報論 I (再履修用)」 (担当者: 中村 修) の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「経営情報論Ⅱ」（担当者：田中 明通）の履修の手引き

科目名：	経営情報論Ⅱ
担当者：	田中 明通
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>本講義では、経営情報論Ⅰの講義に続いて、様々な経営活動に活用できる情報関連技術について、歴史、制度、等も含めて基礎知識の習得を目的として学習を進めます。範囲としては、基本情報処理技術者試験の出題範囲の内、セキュリティと標準化、情報化と経営の内容(企業会計を除く)を扱います。講義の具体的な内容は、後述の教科書に従い、下記を予定しています。</p> <p>(1) 経営工学 (2) 情報システムの活用 (3) 関連法規</p>
授業方法：	<p>基本的には講義を中心としますが、インターネットからの情報収集、演習、レポート等を適宜取り入れていきます。また、e-Campusをフルに活用するため、毎回の授業ではノートPCが必須となります。e-Campusに無線LANカードで接続できるように準備をしておいて下さい。</p>
履修の留意点：	<p>授業中e-Campusへの接続が必須ですので、講義が始まるまでにe-Campusネットワークに無線LANで接続できるようにしておいて下さい。</p> <p>講義の中では、個々の知識の説明だけでなく、その知識の背景にある考え方も合わせて説明していきます。単なる知識の暗記に終わるのではなく、知識を真に自分のものとして吸収し、自分自身の意見を持つために活用できることを目標にして下さい。</p>
目標と評価：	<p>中間レポートおよび期末の筆記試験により評価します。講義中のアクティビティについては、特に優れたものについてはプラス点として加味して採点します。</p> <p>学習の目標は、特に以下の点について基礎的な知識を得て、理解を深めることです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経営工学で使われるツール、図表類 2. 情報システムの種類、特徴 3. 知的財産に関する法規の種類、目的
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ネットワークビジネス論」（担当者：滑川 光裕）の履修の手引き

科目名：	ネットワークビジネス論
担当者：	滑川 光裕（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	ネットワークビジネスを知るためには、まず知的所有権について知る必要がある。知的所有権には、工業所有権と著作権があり、これらが知的労働をコンピュータのコピー文化から保護する役目をしている。しかしながら、近年では、「ビジネスモデル特許」といわれるものが表れ、工業所有権の仕組みによってビジネスの方法を保護する動きがある。しかしながら、知的所有権は、昔から国際勢力による「グレイゾーン」があり、難しい側面を持っている。 また、P2P（ピアツーピア）という技術により、特に著作権の保護が難しくなっている。しかし、これについても今後は、新たな情報技術とビジネスモデルの導入によって解決が図られるものと思われる。これについては、音楽関係部門を持つ幾つかの先進企業が様々な取り組みをしている。 以上について、ネットワークビジネスを技術と法律の面からの考察を行う。
授業方法：	講義形式で行う。授業中に小テスト・レポート提出を行う。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	授業中の小テスト・レポートと期末テストによる評価を行う。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営管理論Ⅱ」（担当者：白坂 亨）の履修の手引き

科目名：	経営管理論Ⅱ
担当者：	白坂 亨
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	経営管理論Ⅰに続き、企業経営に関わる問題を管理の立場から理解を深めます。
授業方法：	まず、その日の講義内容を板書し、出席カードを配布してから講義を始めます。講義終了後、出席カードの裏側の余白を利用して小テストをしたうえで出席カードを回収します。
履修の留意点：	講義はできるだけわかりやすくしますが、期末のレポート作成のため、自宅での準備も必要です。
目標と評価：	評価は期末のレポートを中心に総合的に判定いたします。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「組織心理学」（担当者：石川 直弘）の履修の手引き

科目名：	組織心理学
担当者：	石川 直弘（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	組織の人間行動について学ぶ。 採用と人事配置、職場管理とリーダーシップ、働く人のモチベーション、作業環境と能率、 ストレスとヒューマンエラーなどの問題を中心にして、組織における人の行動を実証的に学んでいく。
授業方法：	通常の講義形式で授業を行う。
履修の留意点：	「人間の行動を通俗的に解釈するのではなく、科学的に説明する。」という基本的枠組みを 常に意識して学習することが求められる。
目標と評価：	定期試験の成績によって評価を行う。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「組織心理学（再履修用）」（担当者：石川 直弘）の履修の手引き

科目名：	組織心理学（再履修用）
担当者：	石川 直弘（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	組織の人間行動について学ぶ。 採用と人事配置、職場環境とリーダーシップ、働く人のモチベーション、作業環境と能率、 ストレスとヒューマンエラーなどの問題を中心にして組織における人の行動を実証的に学んでいく。
授業方法：	通常の講義形式で授業を行う。
履修の留意点：	「人間の行動を通俗的に解釈するのではなく、科学的に説明する」という基本的な枠組みを常に意識して学習することが求められる。
目標と評価：	定期試験の成績によって評価を行う。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ファイナンシャルベーシック(FP講座)」(担当者:梶原 稔)の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「ライフプランニング(FP講座)」(担当者:梶原 稔)の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「タックスプランニングⅠ」（担当者：梶原 稔）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「タックスプランニングⅡ」（担当者：梶原 稔）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「オフィス実務Ⅰ」（担当者：藤井 秀子）の履修の手引き

科目名：	オフィス実務Ⅰ
担当者：	藤井 秀子（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>企業に代表される組織体の中で「働く」ということを想定して、オフィスにおける仕事の基本的知識と具体的業務との両面を学ぶ。</p> <p>まず基本的なこととして、組織といわれるものの種類、企業の種類や形態、目的など概論的な知識を得た上で、企業の各部署において日常的に行われる業務について、具体的な処理の仕方を、実務を通して身につけるようにする。</p> <p>日常的な業務の中でも、職場におけるコミュニケーションや人間関係、職場のルールやマナーなど、主に対人関係の業務について深く掘り下げて、学習する。</p>
授業方法：	<p>はじめに、組織や企業および仕事の処理の仕方などを講義形式で行い、次に実務面の学習のために、書類作成やレポート、電話や接遇のロールプレイングなどを行う。</p> <p>なお、現代の企業活動に欠かせないカタカナ語の修得のために、毎回授業のはじめに「カタカナ言葉」を5語ずつ覚えるようにし、20語になると小テストを行う。</p>
履修の留意点：	<p>「働く」ということに関心を持ち、自分は何のために働くのか、自分は仕事とどう関わり方をしたいのかということを考えておくこと。</p> <p>なお、この科目の完成度を高めるために、秋学期開講の「オフィスコミュニケーションⅡ」の履修もすすめたい。</p>
目標と評価：	<p>* 目標—企業というものの本質を捉え、その中で自分の位置や仕事に対する考え方を確立する。そして、社会人として、立派に企業の業務に携われる知識と技能を身につける。</p> <p>* 評価—一次の4つの平均点からの総合評価とする。</p> <p>1、期末テスト 2、随時行う小テスト 3、実務の評価 4、授業中の態度</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「オフィス実務Ⅰ」（担当者：藤井 秀子）の履修の手引き

科目名：	オフィス実務Ⅰ
担当者：	藤井 秀子（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	企業に代表される組織体の中で「働く」ということを想定して、オフィスにおける仕事の基本的知識と具体的業務との両面を学ぶ。 まず基本的なこととして、組織といわれるものの種類、企業の種類や形態、目的など概論的な知識を得た上で、企業の各部署において日常的に行われる業務について、具体的な処理の仕方を、実務を通して身につけるようにする。 日常的な業務の中でも、職場におけるコミュニケーションや人間関係、職場のルールやマナーなど、主に対人関係の業務について深く掘り下げて、学習する。
授業方法：	はじめに、組織や企業および仕事の処理の仕方などを講義形式で行い、次に実務面の学習のために、書類作成やレポート、電話や接遇のロールプレイングなどを行う。 なお、現代の企業活動に欠かせないカタカナ語の修得のために、毎回授業のはじめに「カタカナ言葉」を5語ずつ覚えるようにし、20語になると小テストを行う。
履修の留意点：	「働く」ということに関心を持ち、自分は何のために働くのか、自分は仕事とどう関わり方をしたいのかということを考えておくこと。 なお、この科目の完成度を高めるために、秋学期開講の「オフィスコミュニケーションⅡ」の履修もすすめたい。
目標と評価：	* 目標—企業というものの本質を捉え、その中で自分の位置や仕事に対する考え方を確立する。そして、社会人として、立派に企業の業務に携われる知識と技能を身につける。 * 評価—一次の4つの平均点からの総合評価とする。 1、期末テスト 2、随時行う小テスト 3、実務の評価 4、授業中の態度
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「オフィス実務Ⅰ」（担当者：藤井 秀子）の履修の手引き

科目名：	オフィス実務Ⅰ
担当者：	藤井 秀子（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>企業に代表される組織体の中で「働く」ということを想定して、オフィスにおける仕事の基本的知識と具体的業務との両面を学ぶ。</p> <p>まず基本的なこととして、組織といわれるものの種類、企業の種類や形態、目的など概論的な知識を得た上で、企業の各部署において日常的に行われる業務について、具体的な処理の仕方を、実務を通して身につけるようにする。</p> <p>日常的な業務の中でも、職場におけるコミュニケーションや人間関係、職場のルールやマナーなど、主に対人関係の業務について深く掘り下げて、学習する。</p>
授業方法：	<p>はじめに、組織や企業および仕事の処理の仕方などを講義形式で行い、次に実務面の学習のために、書類作成やレポート、電話や接遇のロールプレイングなどを行う。</p> <p>なお、現代の企業活動に欠かせないカタカナ語の修得のために、毎回授業のはじめに「カタカナ言葉」を5語ずつ覚えるようにし、20語になると小テストを行う。</p>
履修の留意点：	<p>「働く」ということに関心を持ち、自分は何のために働くのか、自分は仕事とどう関わり方をしたいのかということを考えておくこと。</p> <p>なお、この科目の完成度を高めるために、秋学期開講の「オフィスコミュニケーションⅡ」の履修もすすめたい。</p>
目標と評価：	<p>* 目標—企業というものの本質を捉え、その中で自分の位置や仕事に対する考え方を確立する。そして、社会人として、立派に企業の業務に携われる知識と技能を身につける。</p> <p>* 評価—一次の4つの平均点からの総合評価とする。</p> <p>1、期末テスト 2、随時行う小テスト 3、実務の評価 4、授業中の態度</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「オフィス実務Ⅱ」（担当者：藤井 秀子）の履修の手引き

科目名：	オフィス実務Ⅱ
担当者：	藤井 秀子（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	「オフィスコミュニケーションⅠ」で学習した、オフィスにおける基本的なコミュニケーションと実務をふまえて、それらをより実践的に身に付けるために「イン・バスケット」という実習形式でより深く学ぶ。
授業方法：	13回の授業で、3冊の「イン・バスケット」を学習する。まず第1冊目では、ポイントを説明したあと、皆で一緒に考えながら行う。第2冊目と第3冊目は、それまで学んだものを生かして自分の力だけで仕上げ、それに対して添削と講評をするという方法で進める。 なお、授業のはじめに、カタカナ言葉を5語ずつ覚えてもらい、それが20語になると小テストを行う。
履修の留意点：	この科目は、春学期の「オフィスコミュニケーションⅠ」で学んだことの発展的科目であるため、それを履修しておくことが望まれる。
目標と評価：	* 目標—社会人として通用するコミュニケーション能力の4分野—話す、聞く、読む、書く—の向上をはかる。 * 評価—一次の4つの平均点からの総合評価とする。 1、「イン・バスケットⅡ」の評価 2、「イン・バスケットⅢ」の評価 3、随時行う小テスト 4、授業中の態度
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「オフィス実務Ⅱ」（担当者：藤井 秀子）の履修の手引き

科目名：	オフィス実務Ⅱ
担当者：	藤井 秀子（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	「オフィスコミュニケーションⅠ」で学習した、オフィスにおける基本的なコミュニケーションと実務をふまえて、それらをより実践的に身に付けるために「イン・バスケット」という実習形式でより深く学ぶ。
授業方法：	13回の授業で、3冊の「イン・バスケット」を学習する。まず第1冊目では、ポイントを説明したあと、皆で一緒に考えながら行う。第2冊目と第3冊目は、それまで学んだものを生かして自分の力だけで仕上げ、それに対して添削と講評をするという方法で進める。 なお、授業のはじめに、カタカナ言葉を5語ずつ覚えてもらい、それが20語になると小テストを行う。
履修の留意点：	この科目は、春学期の「オフィスコミュニケーションⅠ」で学んだことの発展的科目であるため、それを履修しておくことが望まれる。
目標と評価：	* 目標—社会人として通用するコミュニケーション能力の4分野—話す、聞く、読む、書く—の向上をはかる。 * 評価—一次の4つの平均点からの総合評価とする。 1、「イン・バスケットⅡ」の評価 2、「イン・バスケットⅢ」の評価 3、 随時行う小テスト 4、 授業中の態度
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「オフィス実務Ⅱ」（担当者：藤井 秀子）の履修の手引き

科目名：	オフィス実務Ⅱ
担当者：	藤井 秀子（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	「オフィスコミュニケーションⅠ」で学習した、オフィスにおける基本的なコミュニケーションと実務をふまえて、それらをより実践的に身に付けるために「イン・バスケット」という実習形式でより深く学ぶ。
授業方法：	13回の授業で、3冊の「イン・バスケット」を学習する。まず第1冊目では、ポイントを説明したあと、皆で一緒に考えながら行う。第2冊目と第3冊目は、それまで学んだものを生かして自分の力だけで仕上げ、それに対して添削と講評をするという方法で進める。 なお、授業のはじめに、カタカナ言葉を5語ずつ覚えてもらい、それが20語になると小テストを行う。
履修の留意点：	この科目は、春学期の「オフィスコミュニケーションⅠ」で学んだことの発展的科目であるため、それを履修しておくことが望まれる。
目標と評価：	* 目標—社会人として通用するコミュニケーション能力の4分野—話す、聞く、読む、書く—の向上をはかる。 * 評価—一次の4つの平均点からの総合評価とする。 1、「イン・バスケットⅡ」の評価 2、「イン・バスケットⅢ」の評価 3、随時行う小テスト 4、授業中の態度
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネス文書Ⅰ」（担当者：藤井 秀子）の履修の手引き

科目名：	ビジネス文書Ⅰ
担当者：	藤井 秀子（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	企業で日常使われているビジネス文書を大きく分けると、社内文書と社外文書となる。この科目「ビジネス文書Ⅰ」では、社内文書について、その種類や形式、用語と書き方について学ぶ。
授業方法：	はじめにそれぞれのタイプの社内文書についてポイントを説明する。次に実際に文書を作成し提出してもらい、それらを添削して返すという方法をとる。
履修の留意点：	自分の身の回りにあるさまざまな文書に目をとめ、関心を持つよう日ごろからの習慣を大切にほしい。書いて覚えるために、課題を出し、文書を作成し提出することが多いので、必ず提出すること。なお、企業で働くには、社外文書の修得も必須であるから、秋学期の「ビジネス文書Ⅱ」も履修するとよい。
目標と評価：	* 目標—いろいろな種類の社内文書を何も見ずに作成できるようになること * 評価—期末試験、提出物、授業態度からの総合評価とする。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネス文書Ⅱ」（担当者：藤井 秀子）の履修の手引き

科目名：	ビジネス文書Ⅱ
担当者：	藤井 秀子（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	「ビジネス文書Ⅱ」においては、社外文書の種類、形式、用語、書き方について学ぶ。それに加えて、社外文書の一種で一般的に「社交文書」と称される縦書きの手紙についても形式と書き方を学ぶ。
授業方法：	はじめにそれぞれのタイプの社外文書について、ポイントを説明する。次に、実際に社外文書を作成し提出してもらい、それらを添削して返すという方法をとる。
履修の留意点：	社外文書には独特の用語があり、日ごろ見慣れない漢字が多いので、パソコンだけに頼らず漢字を手で書く練習もしてほしい。提出物が多くなるが、必ず文書を作成し提出すること。なお、ビジネス文書の基本中の基本は、春学期に開講されている「ビジネス文書Ⅰ」で学ぶことになるので、「ビジネス文書Ⅱ」を学ぶには、「ビジネス文書Ⅰ」を履修しておくことが望まれる。
目標と評価：	* 目標—伝えたい内容によって、どんな種類の社外文書を書くか判断し、完全な社外文書を作成できるようになること。 * 評価—期末試験、提出物、授業態度からの総合評価とする。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「事務管理論Ⅰ」（担当者：杉浦 允）の履修の手引き

科目名：	事務管理論Ⅰ
担当者：	杉浦 允
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	企業を取り巻く環境の変化には、目を見張るものがあります。事務を執ると言うことは、情報を生産し、活用する活動に等しいのです。そこで、オフィスにおける事務管理活動について、事務とは何か、事務システムや事務の効率化の問題、事務と情報との関連、事務処理の知識・技術をやさしく講義します。
授業方法：	授業は、講義を主体に行います。 理解促進のためにととき演習問題を付加しながら進めます。
履修の留意点：	毎回、授業に出て、講義を聞いてその場で理解する。
目標と評価：	情報化社会の到来に伴い、企業を発展させ優位な立場を維持して行くには、広範囲の知識と情報が必要になります。企業経営に於いて情報を生産し、活用する活動が事務なのです。 ここでは、事務の本質をとらえ、事務と情報との関連に於いて、事務システムをどう組み立てたらよいか、それを構築する考え方の基本を習得することをねらいとする。 評価については、出席条件を満たした者に対して、春学期本試験を実施する。 試験の得点に平常点を勘案して評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「事務管理論Ⅰ」（担当者：杉浦 允）の履修の手引き

科目名：	事務管理論Ⅰ
担当者：	杉浦 允
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	企業を取り巻く環境の変化には、目を見張るものがあります。事務を執ると言うことは、情報を生産し、活用する活動に等しいのです。そこで、オフィスにおける事務管理活動について、事務とは何か、事務システムや事務の効率化の問題、事務と情報との関連、事務処理の知識・技術をやさしく講義します。
授業方法：	授業は、講義を主体に行います。 理解促進のためにととき演習問題を付加しながら進めます。
履修の留意点：	毎回、授業に出て、講義を聞いてその場で理解する。
目標と評価：	情報化社会の到来に伴い、企業を発展させ優位な立場を維持して行くには、広範囲の知識と情報が必要になります。企業経営に於いて情報を生産し、活用する活動が事務なのです。 ここでは、事務の本質をとらえ、事務と情報との関連に於いて、事務システムをどう組み立てたらよいか、それを構築する考え方の基本を習得することをねらいとする。 評価については、出席条件を満たした者に対して、春学期本試験を実施する。 試験の得点に平常点を勘案して評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「事務管理論 I（再履修用）」（担当者：杉浦 允）の履修の手引き

科目名：	事務管理論 I（再履修用）
担当者：	杉浦 允
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	企業を取り巻く環境の変化には、目を見張るものがあります。事務を執ると言うことは、情報を生産し、活用する活動に等しいのです。そこで、オフィスにおける事務管理活動について、事務とは何か、事務システムや事務の効率化の問題、事務と情報との関連、事務処理の知識・技術をやさしく講義します。
授業方法：	授業は、講義を主体に行います。 理解促進のためにとどき演習問題を付加しながら進めます。
履修の留意点：	毎回、授業に出て、講義を聞いてその場で理解する。
目標と評価：	情報化社会の到来に伴い、企業を発展させ優位な立場を維持して行くには、広範囲の知識と情報が必要になります。企業経営に於いて情報を生産し、活用する活動が事務なのです。 ここでは、事務の本質をとらえ、事務と情報との関連に於いて、事務システムをどう組み立てたらよいか、それを構築する考え方の基本を習得することをねらいとする。 評価については、出席条件を満たした者に対して、春学期本試験を実施する。 試験の得点に平常点を勘案して評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「事務管理論Ⅱ」（担当者：杉浦 允）の履修の手引き

科目名：	事務管理論Ⅱ
担当者：	杉浦 允
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	オフィスには、多くの情報が日々発生しています。この情報を上手に使いこなすには、どうしたら良いのか、オフィスにおける文書情報を管理し、活用する方法を中心に、文書の作り方、扱い方、整理の仕方など情報管理に近い考え方で講義します。
授業方法：	授業は、講義形式で行います。ときどき理解促進のための演習をしながら進めていきたいと思えます。
履修の留意点：	毎回授業に出て、講義を聴いて理解する。
目標と評価：	企業の内外には、多くの文書が流通しています。その文書の機能・作成方法・文書のファイリングシステムなどについて理解することを目標とします。 評価については、出席条件を満たした者に対して秋学期本試験を実施する。 試験の得点と平常点を加味して評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「オフィスコミュニケーションⅠ」（担当者：藤井 秀子）の履修の手引き

科目名：	オフィスコミュニケーションⅠ
担当者：	藤井 秀子（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	企業に代表される組織体の中で「働く」ということを想定して、オフィスにおける仕事の基本的知識と具体的業務との両面を学ぶ。 まず基本的なこととして、組織といわれるものの種類、企業の種類や形態、目的など概論的な知識を得た上で、企業の各部署において日常的に行われる業務について、具体的な処理の仕方を、実務を通して身につけるようにする。 日常的な業務の中でも、職場におけるコミュニケーションや人間関係、職場のルールやマナーなど、主に対人関係の業務について深く掘り下げて、学習する。
授業方法：	はじめに、組織や企業および仕事の処理の仕方などを講義形式で行い、次に実務面の学習のために、書類作成やレポート、電話や接遇のロールプレイングなどを行う。 なお、現代の企業活動に欠かせないカタカナ語の修得のために、毎回授業のはじめに「カタカナ言葉」を5語ずつ覚えるようにし、20語になると小テストを行う。
履修の留意点：	「働く」ということに関心を持ち、自分は何のために働くのか、自分は仕事とどう関わり方をしたいのかということを考えておくこと。 なお、この科目の完成度を高めるために、秋学期開講の「オフィスコミュニケーションⅡ」の履修もすすめたい。
目標と評価：	* 目標—企業というものの本質を捉え、その中で自分の位置や仕事に対する考え方を確立する。そして、社会人として、立派に企業の業務に携われる知識と技能を身につける。 * 評価—一次の4つの平均点からの総合評価とする。 1、期末テスト 2、随時行う小テスト 3、実務の評価 4、授業中の態度
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「オフィスコミュニケーションⅠ」（担当者：藤井 秀子）の履修の手引き

科目名：	オフィスコミュニケーションⅠ
担当者：	藤井 秀子（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	企業に代表される組織体の中で「働く」ということを想定して、オフィスにおける仕事の基本的知識と具体的業務との両面を学ぶ。 まず基本的なこととして、組織といわれるものの種類、企業の種類や形態、目的など概論的な知識を得た上で、企業の各部署において日常的に行われる業務について、具体的な処理の仕方を、実務を通して身につけるようにする。 日常的な業務の中でも、職場におけるコミュニケーションや人間関係、職場のルールやマナーなど、主に対人関係の業務について深く掘り下げて、学習する。
授業方法：	はじめに、組織や企業および仕事の処理の仕方などを講義形式で行い、次に実務面の学習のために、書類作成やレポート、電話や接遇のロールプレイングなどを行う。 なお、現代の企業活動に欠かせないカタカナ語の修得のために、毎回授業のはじめに「カタカナ言葉」を5語ずつ覚えるようにし、20語になると小テストを行う。
履修の留意点：	「働く」ということに関心を持ち、自分は何のために働くのか、自分は仕事とどう関わり方をしたいのかということを考えておくこと。 なお、この科目の完成度を高めるために、秋学期開講の「オフィスコミュニケーションⅡ」の履修もすすめたい。
目標と評価：	* 目標—企業というものの本質を捉え、その中で自分の位置や仕事に対する考え方を確立する。そして、社会人として、立派に企業の業務に携われる知識と技能を身につける。 * 評価—一次の4つの平均点からの総合評価とする。 1、期末テスト 2、随時行う小テスト 3、実務の評価 4、授業中の態度
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「オフィスコミュニケーションⅠ」（担当者：藤井 秀子）の履修の手引き

科目名：	オフィスコミュニケーションⅠ
担当者：	藤井 秀子（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	企業に代表される組織体の中で「働く」ということを想定して、オフィスにおける仕事の基本的知識と具体的業務との両面を学ぶ。 まず基本的なこととして、組織といわれるものの種類、企業の種類や形態、目的など概論的な知識を得た上で、企業の各部署において日常的に行われる業務について、具体的な処理の仕方を、実務を通して身につけるようにする。 日常的な業務の中でも、職場におけるコミュニケーションや人間関係、職場のルールやマナーなど、主に対人関係の業務について深く掘り下げて、学習する。
授業方法：	はじめに、組織や企業および仕事の処理の仕方などを講義形式で行い、次に実務面の学習のために、書類作成やレポート、電話や接遇のロールプレイングなどを行う。 なお、現代の企業活動に欠かせないカタカナ語の修得のために、毎回授業のはじめに「カタカナ言葉」を5語ずつ覚えるようにし、20語になると小テストを行う。
履修の留意点：	「働く」ということに関心を持ち、自分は何のために働くのか、自分は仕事とどう関わり方をしたいのかということを考えておくこと。 なお、この科目の完成度を高めるために、秋学期開講の「オフィスコミュニケーションⅡ」の履修もすすめたい。
目標と評価：	* 目標—企業というものの本質を捉え、その中で自分の位置や仕事に対する考え方を確立する。そして、社会人として、立派に企業の業務に携われる知識と技能を身につける。 * 評価—一次の4つの平均点からの総合評価とする。 1、期末テスト 2、随時行う小テスト 3、実務の評価 4、授業中の態度
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「オフィスコミュニケーションⅡ」（担当者：藤井 秀子）の履修の手引き

科目名：	オフィスコミュニケーションⅡ
担当者：	藤井 秀子（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	「オフィスコミュニケーションⅠ」で学習した、オフィスにおける基本的なコミュニケーションと実務をふまえて、それらをより実践的に身に付けるために「イン・バスケット」という実習形式でより深く学ぶ。
授業方法：	13回の授業で、3冊の「イン・バスケット」を学習する。まず第1冊目では、ポイントを説明したあと、皆で一緒に考えながら行う。第2冊目と第3冊目は、それまで学んだものを生かして自分の力だけで仕上げ、それに対して添削と講評をするという方法で進める。 なお、授業のはじめに、カタカナ言葉を5語ずつ覚えてもらい、それが20語になると小テストを行う。
履修の留意点：	この科目は、春学期の「オフィスコミュニケーションⅠ」で学んだことの発展的科目であるため、それを履修しておくことが望まれる。
目標と評価：	* 目標—社会人として通用するコミュニケーション能力の4分野—話す、聞く、読む、書く—の向上をはかる。 * 評価—一次の4つの平均点からの総合評価とする。 1、「イン・バスケットⅡ」の評価 2、「イン・バスケットⅢ」の評価 3、随時行う小テスト 4、授業中の態度
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「オフィスコミュニケーションⅡ」（担当者：藤井 秀子）の履修の手引き

科目名：	オフィスコミュニケーションⅡ
担当者：	藤井 秀子（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	「オフィスコミュニケーションⅠ」で学習した、オフィスにおける基本的なコミュニケーションと実務をふまえて、それらをより実践的に身に付けるために「イン・バスケット」という実習形式でより深く学ぶ。
授業方法：	13回の授業で、3冊の「イン・バスケット」を学習する。まず第1冊目では、ポイントを説明したあと、皆で一緒に考えながら行う。第2冊目と第3冊目は、それまで学んだものを生かして自分の力だけで仕上げ、それに対して添削と講評をするという方法で進める。 なお、授業のはじめに、カタカナ言葉を5語ずつ覚えてもらい、それが20語になると小テストを行う。
履修の留意点：	この科目は、春学期の「オフィスコミュニケーションⅠ」で学んだことの発展的科目であるため、それを履修しておくことが望まれる。
目標と評価：	* 目標—社会人として通用するコミュニケーション能力の4分野—話す、聞く、読む、書く—の向上をはかる。 * 評価—一次の4つの平均点からの総合評価とする。 1、「イン・バスケットⅡ」の評価 2、「イン・バスケットⅢ」の評価 3、随時行う小テスト 4、授業中の態度
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「オフィスコミュニケーションⅡ」（担当者：藤井 秀子）の履修の手引き

科目名：	オフィスコミュニケーションⅡ
担当者：	藤井 秀子（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	「オフィスコミュニケーションⅠ」で学習した、オフィスにおける基本的なコミュニケーションと実務をふまえて、それらをより実践的に身に付けるために「イン・バスケット」という実習形式でより深く学ぶ。
授業方法：	13回の授業で、3冊の「イン・バスケット」を学習する。まず第1冊目では、ポイントを説明したあと、皆で一緒に考えながら行う。第2冊目と第3冊目は、それまで学んだものを生かして自分の力だけで仕上げ、それに対して添削と講評をするという方法で進める。 なお、授業のはじめに、カタカナ言葉を5語ずつ覚えてもらい、それが20語になると小テストを行う。
履修の留意点：	この科目は、春学期の「オフィスコミュニケーションⅠ」で学んだことの発展的科目であるため、それを履修しておくことが望まれる。
目標と評価：	* 目標—社会人として通用するコミュニケーション能力の4分野—話す、聞く、読む、書く—の向上をはかる。 * 評価—一次の4つの平均点からの総合評価とする。 1、「イン・バスケットⅡ」の評価 2、「イン・バスケットⅢ」の評価 3、 随時行う小テスト 4、 授業中の態度
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「キャリアデザインⅢ」（担当者：戎野 淑子）の履修の手引き

科目名：	キャリアデザインⅢ
担当者：	戎野 淑子（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	これから、就職活動に取り組むにあたり、基礎となる講義である。就職では、自分で考え、自分で判断することが非常に重要となってくる。とりわけ、今日、決して就職環境に恵まれているとは言えず、各自十分な準備が必要であろう。そこで、この講義では、就職活動するにあたり必要となる知識を身につけ、充実した就職活動が行うことができるための準備を行う。
授業方法：	講義が中心ではあるが、発表等もある。
履修の留意点：	自らの積極的な取り組みが必要である
目標と評価：	原則として、レポートおよび発表によって評価するが、授業態度も考慮する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「医療秘書トレーニングⅠ」（担当者：増澤 将江）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「医療秘書トレーニングⅡ」（担当者：増澤 将江）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「ホスピタリティⅡ」（担当者：古閑 博美）の履修の手引き

科目名：	ホスピタリティⅡ
担当者：	古閑 博美（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	古今の「ホスピタリティ」を考察し、ホスピタリティ産業におけるホスピタリティのあり方について考える。共通研究課題（「キャンパス・ホスピタリティ」）と取り組み、レポートを提出する。
授業方法：	講義と演習
履修の留意点：	出席、授業態度、提出物の期限内提出などに留意する。
目標と評価：	①ホスピタリティを理解する。 ②ホスピタリティを実践する。 ③ホスピタリティの精神と技能に磨きをかける。 評価：平常の授業態度、レポート等で評価する。
教科書：	『ホスピタリティ概論』 古閑博美 学文社 2003年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代社会と観光Ⅰ」（担当者：上野 まさる）の履修の手引き

科目名：	現代社会と観光Ⅰ
担当者：	上野 まさる
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	観光（Tourism）は、人間の自由時間活動の中でもっとも人気が高く、現代社会の代表的なライフスタイルです。観光産業の経済効果は、その付加価値がGDPの5～6%を占めており、経済的な影響力は極めて大きく、「観光は21世紀のリーディング産業（平成15年版観光白書）」と言われています。また、2003年1月の小泉首相の施政方針演説で外国人の訪日客倍増方針が示され、「観光立国」が政策の大きな柱になっています。 この授業では、観光の定義、観光の現状を学習し、主として国内に的を絞った観光地、観光資源と観光産業の歴史と実態について解説します。また、世界遺産やテーマパークについて学び、観光開発・町づくりについて研究します。
授業方法：	講義とそれに付随した演習を行います。 教科書は使用せず、毎回テーマに沿った資料を配布します。
履修の留意点：	この授業は、国内旅行業務取扱主任者試験対策の科目と連動させ、国内の観光資源や観光地の学習に重点を置きます。本科目は旅行業だけではなく、交通業（航空・鉄道・バス等）、宿泊業、テーマパーク業など、観光産業全般に関心を持つ学生への知識・教養を高めることを目標とします。 秋学期の「現代社会と観光Ⅱ」も合わせて履修することが望ましいです。
目標と評価：	演習、ミニテスト、期末レポートを総合的に勘案して評価します。
教科書：	
参考書：	観光読本（第2版）（財）日本交通公社（編） 東洋経済新報社 2004年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代社会と観光Ⅱ」（担当者：上野 まさる）の履修の手引き

科目名：	現代社会と観光Ⅱ
担当者：	上野 まさる
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	観光（Tourism）とは、日常生活圏を離れてどこかへ移動し、滞在してまた戻ってくる活動を指します。出張などの業務活動も含みますが、授業では主に自由時間活動としての観光を取り上げます。産業革命以前は一部の特権階級しか観光を楽しめませんでしたが、今日では一般大衆も楽しむことができます。こうした観光の大衆化を促進したのは、何といても革新的な輸送手段が次々登場してきたからです。馬車や帆船に代わって、鉄道・汽船・自動車・飛行機が登場することによって移動が容易になり、移動時間が短縮し、移動コストが低減してきました。授業ではまず、これら移動手段の変遷と観光の発展について概観します。また、世界の空港等、観光インフラについても学んでいきます。さらに、IT（情報技術）社会を迎え、観光の現在と今後の趨勢を世界的な視野で捉えていくことにします。
授業方法：	講義とそれに付随した演習を行います。 教科書は使用せず、毎回テーマに沿った資料を配布します。
履修の留意点：	ここでは、春学期の「現代社会と観光Ⅰ」で学んだ観光の基礎を発展させ、長期的視点・世界的視点から観光を取り上げます。近代観光は19世紀に英国で始まり、運輸産業の発達とともに発展してきました。観光は文化であり、時代により、価値観により、観光スタイルも変わってきます。旅行産業に関心のある学生は是非受講してください。 また、旅行業に特化してさらに詳しく学びたい学生は「トラベルビジネス」（秋学期）を受講することを推奨します。
目標と評価：	演習、ミニテスト、期末レポートを総合的に勘案して評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ホテルビジネス」（担当者：須藤 眞一）の履修の手引き

科目名：	ホテルビジネス
担当者：	須藤 眞一
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	ホテルビジネスは、サービス産業の中でも、とりわけ良質のホスピタリティを中心とするサービスが必要とされる。 この授業において、「ホスピタリティ」がサービス産業、特にホテルビジネスにいかに関与しているか、また、他方において、「ホスピタリティ」と「サービス」の違いについても学習する。 また、ホテル産業の歴史、社会的意義や、今後の成長の見通しに関する講義演習を行いホテル産業の全体像を把握する。さらに、実地見学、研修、および、ロールプレイなどを取り入れた実地主義に基づく学生主体型の授業を行う。 これによって、「ホテルビジネスにおけるサービスとホスピタリティ」を理解し、体得することを授業の目標とする。
授業方法：	授業は、以下の方法により行う。 ① 実際のホテルの見学、視察、および、実習。 ② ホテル産業、および実務に関する講義。（ビデオ、OHP、パワーポイント等を必要に応じて使用する。） ③ ホテル実務についてのロールプレイ。 ④ ホテルビジネスに関する学生間のディスカッションとプレゼンテーション。 ⑤ ホテルビジネスに関する理解度の確認（小論文、小テスト、レポート、等による。）
履修の留意点：	① 受講生は、ホテル、および、ホテル関連産業に興味を持っていること。 ② 将来、ホテル、および、ホテル関連産業の分野に進むことを希望している学生の受講が望ましいが、他の分野に進みたいと考えている学生にも、一般教養として受講することを勧める。 ③ 教科書(教材)、および、参考書は必ずしも購入する必要はない。授業に必要な教材は、その都度、教員が受講生に配付する。
目標と評価：	①目標 (財)日本ホテル教育センターが実施している「ホテルビジネス実務検定」のベーシック レベル2級の知識を身に付けることを目標とする。 ②評価 「授業への参画度」と、適宜行う「小論文」、「小テスト」、「レポート」、および、「最終試験」により、総合的に評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「トラベルビジネス」（担当者：小林 伸行）の履修の手引き

科目名：	トラベルビジネス
担当者：	小林 伸行
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>トラベルビジネスとは、広義では交通業・宿泊業・飲食業・レジャー業などの旅行関連ビジネスを含みますが、狭義では旅行業を示します。</p> <p>本講座では、旅行業における旅行業務を中心に、関連のさまざまな基礎知識を学びます。</p> <p>この授業は、トラベルビジネス分野への就職志望者のみを対象にしているわけではありません。旅行はだれにとっても身近なレジャー活動です。従って、旅行先を調べたり、旅行計画を練ったりという、旅行の準備の楽しさを演習に取り入れています。</p> <p>演習を楽しみながら、旅行業の実務に役立つ基礎知識を習得できるように、カリキュラムを編成します。</p> <p>また、旅行業のマーケティングを詳しく取り上げる予定です。旅行業に限らず、あらゆる産業、特にサービス産業で必要とされるマーケティングの基礎知識でもあります。</p> <p>旅行商品の概論から旅行業務の経営にかかわる実務まで広くトラベルビジネスを学びます。</p>
授業方法：	<p>義形式をとります。（13回） また、グループ研究や自主的な演習方式を取り入れます。</p> <p>講義テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● トラベルビジネスとは ● 旅行計画、商品、市場について ● 旅行業界について ● 旅行業の業務（営業・仕入れ企画など）について ● 旅行業におけるマーケティングについて ● 旅行業における品質管理、SC（顧客満足）について ● 基礎テスト、演習、グループ発表
履修の留意点：	<p>旅行社の店頭に並ぶ旅行パンフレットや近年急増するネットを通じた旅行商品に関心を持ち受講の予備資料としてください。工夫に満ちた豊富な品揃えの旅行をビジネスとして捉えて、基礎的な知識を積極的に修得してください。</p>
目標と評価：	<p>この授業は、次の目標達成を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 旅行や旅行業に必要な基礎知識を習得する。 ● 旅行業に関わる情報収集にインターネットなどの利用を習熟する。 ● 自主研究、グループ研究の進め方を習得する。 ● レポート作成、グループ発表などを通じて、思考能力や表現能力を磨く。 <p>評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 小テスト、小レポート（個人研究）、グループ研究 ● その他、受講姿勢。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「顧客満足実践論」（担当者：栗原 りか）の履修の手引き

科目名：	顧客満足実践論
担当者：	栗原 りか
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	商品やサービスの価格や品質の差別化が困難になっている今日、時代は“物”から“人”へとシフトしている。企業においても顧客満足が重要な経営戦略とされている。この授業では、顧客満足の理論のみならず、それに不可欠な「コミュニケーション」「サービス」「ホスピタリティー」について考える。又、演習や実技を通じ、「コミュニケーション能力」「ビジネスマナー」を身に付ける
授業方法：	講義、演習及び実技
履修の留意点：	講義内容に関するプリントを適宜配布
目標と評価：	目標：顧客満足とは何かを理解し、演習、実技を通して実際に社会で役立つコミュニケーション能力、ビジネスマナーを身に付ける。 評価：授業への取り込み姿勢（20%） 各回プリント提出（40%） 学期末試験（40%） 評価点は、上記の項目毎に加算式で算出する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「紛争の政治経済学」（担当者：山田 寛）の履修の手引き

科目名：	紛争の政治経済学
担当者：	山田 寛（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>いま世界には紛争がいっぱい。日本だっていつでも戦争やテロに巻き込まれる可能性がある。国境紛争、民族紛争、宗教紛争、資源争いなど種類もさまざま。そうした最近の紛争、現在の紛争を、政治や経済や子どもへの影響など、さまざまな視点から取り上げて行く。紛争の現地にいた人の話を聴く機会も作りたい。</p> <p>紛争で傷つけられ、苦しむ民衆、子どもにもきちんと目を向けたい。</p> <p>紛争を予防する方策についても考えたい。</p>
授業方法：	教科書は使わない。プリント配布やパワーポイントなどにより説明したい。イメージを持ってもらうため、ビデオや写真をできるだけ使う。
履修の留意点：	国際経済コースの学生は、履修することが望ましい。
目標と評価：	<p>「日本に生まれて、こうした紛争と無関係にいられてよかった」ではなく、紛争の政治的、経済的影響を自分のこととして考え、日本がどうしたらよいかを考えてもらいたい。</p> <p>期末試験と平常点をあわせて評価する。出席点30%、平常点20%、試験50%</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「地方自治論Ⅰ」（担当者：内田 和夫）の履修の手引き

科目名：	地方自治論Ⅰ
担当者：	内田 和夫（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>公務員には地方公務員と国家公務員があることは知っていると思います。地方自治論は地方公務員の人たちが活躍する市区町村と都道府県について考えます。市区町村と都道府県は合わせて自治体と呼ばれます。地域に住む住民が市民として地域の課題の解決にあたるためにあるからこそ自治体と呼ばれるのです。</p> <p>地方自治論Ⅰは、（１）そうした自治体実際にどんな仕事をしているのか、（２）普通に市民はどんなかわり方ができるのか、（３）地方自治制度の基礎理解、をテーマとしています。</p> <p>一番身近な政府である、自治体について自分のイメージをぜひ形づくってみてください。</p>
授業方法：	<p>Ⅰ 自治体について書かれたさまざまなルポやビデオを読んで、感想を書いてもらい、それに応答する形で講義を進めることを試みます。</p> <p>Ⅱ 基礎理解のための用語や仕組みを最低限身につくためのドリルも工夫したいと思いま す。</p> <p>Ⅲ 2回ほど、ゲスト・スピーカーを予定しています。</p>
履修の留意点：	<p>Ⅰ 読書レポートも書いてもらうことを予定しています。</p> <p>Ⅱ フィールドレポートを作成してもらう場合があります。</p>
目標と評価：	<p>1 地域、そして自治体は身近に感じられることを第1の目標とします。</p> <p>2 講義内の小レポート3割、読書レポート4割を予定しています。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「地方自治論Ⅱ」（担当者：内田 和夫）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「行政学」（担当者：高野 恵亮）の履修の手引き

科目名：	行政学
担当者：	高野 恵亮
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>近年、ニュース番組だけでなくワイドショーやバラエティー番組においても総理大臣の動向、官僚の不祥事、公共事業に関する問題など政治や行政にまつわる話題がとりあげられ、国民の関心は以前にも増して高まってきています。その反面で、こうした様々な問題について、自分とは直接関係のない、言ってみればテレビの中で映し出される娯楽のひとつとして受け止められがちであるということもまた現実です。</p> <p>しかしながら都市型社会となった現在、この自分たちとは縁遠い世界のように思われる政治や行政は、皆さんの想像よりもずっと深く皆さんの生活の中に入り込んでいます。</p> <p>そこでこの授業では、都市型社会における行政の意義を理解するとともに、こうした行政を動かしている仕組みについてより深く理解することを目指します。そのためにこの授業では国家行政組織の変遷、公務員制度、中央省庁の意思決定過程、予算・財政のしくみ、行政改革、地方分権、政策評価、行政の市民参加などについて、主に日本の事例を中心に学んでいきたいと考えています。</p>
授業方法：	<p>講義形式で授業をすすめます。授業で取り扱う予定の項目は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市型社会と行政・行政の概念・国家行政組織の変遷と現在・中央省庁の意思決定過程・公務員制度・行政管理・予算、財政の仕組み・行政改革をめぐる経緯と現状・地方分権・政策評価・行政の市民参加
履修の留意点：	<p>講義はそのつど配布するプリントを中心にしますが、参考書として以下の図書をあげておきます。</p> <p>行政学 [新版] 西尾勝 有斐閣 2001年4月20日 新版 第1刷発行</p>
目標と評価：	<p>この授業を受講した学生は以下のことができるようになっているはずですが、また、そうなるように学習することを望みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 都市型社会における行政の意義について説明できること ● 国家行政組織についてその変遷と現在の体制について説明できること ● 日本における公務員制度の歴史と現状について説明できること ● 中央省庁の意思決定過程について説明できること ● 行政改革をめぐる経緯と現状について説明できること <p>評価については原則として学期末試験の成績を基準としますが、適宜授業内小テストを行い、これらの結果を加味して算出します。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「地方行政学」（担当者：高野 恵亮）の履修の手引き

科目名：	地方行政学
担当者：	高野 恵亮
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>都市の生活においては行政活動が提供する公共サービスを欠かすことができません。行政学ではこれを「政策」といいます。しかしこの「政策」は行政だけが提供するものではありません。「政策」は主権を持ち、納税の義務を果たし、あるいはサービスを享受している「みんなのもの」です。この授業では身近な政府としての市町村を取り上げ、この市町村が提供している身近な行政サービスを中心に理解を深めていきたいと考えています。</p> <p>ところでこの「政策」は日本社会が都市化していった結果、拡大してきたものです。都市とは人が集まる場所ですが、人が集まって生活するところから、水道やガス、電気や地下鉄・電車などの様々な「政策」が必要になってきます。この授業におけるもうひとつの視点はこうした「都市」に注目することです。「政策」と「都市」が交錯する場所、それが、現在私達が住んでいる「まち」だからです。この授業では、日常的な「行政サービス」を提供してくれる自治体をより深く理解することを目指します。また行政学という学問からこのことを理解しようとする中で、行政活動のダイナミックな側面を把握しようとする。そのためには行政学の知見のほか、歴史的側面や比較都市論の要素も必要になります。これらのインターディシプリナーリーな学問が地方行政学です。</p>
授業方法：	講義形式で授業をすすめます。授業で取り扱う予定の項目は以下のとおりです。 ・都市型社会と行政・地方自治とは・地方自治の制度・旧体制下の地方自治・現憲法下の地方自治・地方分権・地方議会と首長・自治体の職員・自治体の財政・行政の市民参加
履修の留意点：	この授業を受講する学生は、春学期に開講される「行政学」を履修することが望ましいと考えます。理由は基礎的な知識に共通することが多く、本講座の理解を助けてくれると考えるからです。講義はそのつど配布するプリントを中心にしますが、参考書として以下の図書をあけておきます。 『市民のための地方自治入門』 佐藤竺監修・今川晃編著 実務教育出版 2002年 『現代地方自治の現状と課題』 浅野一弘著 同文館 2004年
目標と評価：	<p>この授業を受講した学生は以下のことができるようになっているはずですが、また、そうなるように学習することを望みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自治がなぜ重要か説明できること ● 自治と都市の問題を説明できること ● 自治体の歴史を説明できること ● 自治体の仕組みを説明できること ● 市民社会と自治体との関係を説明できること <p>評価については原則として学期末試験の成績を基準としますが、適宜授業内小テストを行い、これらの結果を加味して算出します。</p>
教科書：	
参考書：	市民のための地方自治入門 佐藤竺監修・今川晃編著 実務教育出版 2002年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「労働法」（担当者：林 康平）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「労働法」（担当者：林 康平）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「民法」（担当者：石川 光晴）の履修の手引き

科目名：	民法
担当者：	石川 光晴
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>われわれが社会生活を営む上において護らなければならないルールを定めたものが法律です。本講義では、法律のうち、私人間における行為を規律する法律である民法を学びます。法学はわれわれにとって「当たり前」のことを学ぶ常識の学問であり、その本質を理解することはさほど困難ではありません。</p> <p>とはいえ、われわれが日常生活を営む上での常識、言い換えれば、世間一般に言われるところの常識と法律が定める内容とは異なるところがあるので注意が必要です。また、法学を学ぶ上で重要なことは、どのような結論に至ったかということよりも、その結論に達するためにどのような理論構成やプロセスをとるかということにあります。誤解されている方が多いのですが、法学は数学と異なり1つの問題に解答がただ1つしかないということはありません。</p> <p>本講義では、当該問題となっている紛争の妥当な解決のためにどのように法律（民法）を解釈し、適用するかという理論構成やそのプロセスを重点的に学びます。例えば、①ある商品を購入したが、本来意図していた商品とは異なるものであった、または②商品を納得して購入したが、一見しただけではわからないところに傷がついていた場合の処理、③レストランで料理を注文したとき、注文とは異なる料理が出てきたにもかかわらず、同席した友人が注文したのだろうと思って食べてしまったところ、レストランの間違いであることに気がついた場合、もしくは④途中で間違いに気がついたがそのまま食べてしまった場合それぞれの支払義務、⑤友人の借金の保証人になったら友人が失踪してしまった場合の保証人の義務、⑥ある契約が成立した後、相手方が一方的に契約を解除してしまった場合の処理等々、われわれが気づかないだけで民法の規律に服する場面は日常生活においても多々あります。これらの問題もしくは紛争について民法はどのような処理をするのかを学びます。</p> <p>また、本講義では、民法の知識を学ぶことはもちろん、法律家としての思考方法、いわゆる「リーガルマインド」を身につけることをその目的とします。同時に、受講生が民法をただ学問としてだけでなく、実務において活用できるようにすることを目的とした内容の講義を行います。</p>
授業方法：	講義（全13回）及び定期試験を行います。講義はできる限り具体的なケースを取扱い、受講者が理解しやすいように努めるつもりです。
履修の留意点：	本講義を履修するにあたり、とくに法律に関する知識は必要としません。事前に特定の科目の知識が必要ということもありません。ただし、六法は小型のもので構わないので毎回持参して下さい。法学を上達させる最も優れた方法は、毎回条文を確認することにあります。また、講義は1回ごとに完結するわけではなく、同時に出席点も勘案して成績を決定しますので、必ず毎回受講するようにして下さい。
目標と評価：	概要にも少し書きましたが、本講義の目的は①リーガルマインドを身につける、②実社会において民法その他の法律を応用し、具体的に活用できるようにする、③商法をはじめとする他の法律科目を学ぶ上での基礎知識を取得することです。さらに、最終的には会社を運営するために必要な実務の知識を取得することもその目的とします。評価は出席状況、受講態度及び定期試験の結果等を総合的に判断して決定します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「民法」（担当者：石川 光晴）の履修の手引き

科目名：	民法
担当者：	石川 光晴
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>われわれが社会生活を営む上において護らなければならないルールを定めたものが法律です。本講義では、法律のうち、私人間における行為を規律する法律である民法を学びます。法学はわれわれにとって「当たり前」のことを学ぶ常識の学問であり、その本質を理解することはさほど困難ではありません。</p> <p>とはいえ、われわれが日常生活を営む上での常識、言い換えれば、世間一般に言われるところの常識と法律が定める内容とは異なるところがあるので注意が必要です。また、法学を学ぶ上で重要なことは、どのような結論に至ったかということよりも、その結論に達するためにどのような理論構成やプロセスをとるかということにあります。誤解されている方が多いのですが、法学は数学と異なり1つの問題に解答がただ1つしかないということはありません。</p> <p>本講義では、当該問題となっている紛争の妥当な解決のためにどのように法律（民法）を解釈し、適用するかという理論構成やそのプロセスを重点的に学びます。例えば、①ある商品を購入したが、本来意図していた商品とは異なるものであった、または②商品を納得して購入したが、一見しただけではわからないところに傷がついていた場合の処理、③レストランで料理を注文したとき、注文とは異なる料理が出てきたにもかかわらず、同席した友人が注文したのだろうと思って食べてしまったところ、レストランの間違いであることに気がついた場合、もしくは④途中で間違いに気がついたがそのまま食べてしまった場合それぞれの支払義務、⑤友人の借金の保証人になったら友人が失踪してしまった場合の保証人の義務、⑥ある契約が成立した後、相手方が一方的に契約を解除してしまった場合の処理等々、われわれが気づかないだけで民法の規律に服する場面は日常生活においても多々あります。これらの問題もしくは紛争について民法はどのような処理をするのかを学びます。</p> <p>また、本講義では、民法の知識を学ぶことはもちろん、法律家としての思考方法、いわゆる「リーガルマインド」を身につけることをもその目的とします。同時に、受講生が民法をただ学問としてだけでなく、実務において活用できるようにすることを目的とした内容の講義を行います。</p>
授業方法：	講義（全13回）及び定期試験を行います。講義はできる限り具体的なケースを取扱い、受講者が理解しやすいように努めるつもりです。
履修の留意点：	本講義を履修するにあたり、とくに法律に関する知識は必要としません。事前に特定の科目の知識が必要ということもありません。ただし、六法は小型のもので構わないので毎回持参して下さい。法学を上達させる最も優れた方法は、毎回条文を確認することにあります。また、講義は1回ごとに完結するわけではなく、同時に出席点も勘案して成績を決定しますので、必ず毎回受講するようにして下さい。
目標と評価：	概要にも少し書きましたが、本講義の目的は①リーガルマインドを身につける、②実社会において民法その他の法律を応用し、具体的に活用できるようにする、③商法をはじめとする他の法律科目を学ぶ上での基礎知識を取得することです。さらに、最終的には会社を運営するために必要な実務の知識を取得することもその目的とします。評価は出席状況、受講態度及び定期試験の結果等を総合的に判断して決定します。
教科書：	民事法入門 第3版 野村豊弘 有斐閣アルマ
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「商法」（担当者：林 康平）の履修の手引き

科目名：	商法
担当者：	林 康平
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>商法は本来、商業に関して発生したものです。商業とは、商人が生産者と消費者の間を媒介する存在として「安く仕入れて、高く売る」ことで利潤を得ることを目的とした企業です。しかし、現在では商法の規制対象は、商業ばかりではなく、製造業・運送業・サービス業・その他の企業を広く含むものとなっており、およそ利潤を得る為に特別の施設、又は組織を利用し計画的・継続的に資力と労力を投じて経済的給付を行う行為は、全て商法の規制の対象になります。従って、商法はその広範な規制対象をカバーするため成文法として商法典以外にも多くの商事特別法や条約を有すると共に、不文法として商習慣法、商事判例法を有しています。</p> <p>授業では、商法典が定める習慣法に共通な企業の施設ないし組織に関する規定及び、企業の活動に関する規定を取り上げます。前者に属するのは、企業の物的施設としての商号・商業帳簿・営業所であり、企業の人的施設、即ち企業の補助者としての商業代理人、代理商です。後者に属するのは商行為に関する総則、各種営業、そして企業の決済手段としての手形・小切手です。</p>
授業方法：	商法は、かなり技術的性格の強い学問であり、討論や特定人を指名して解答させるといった授業形式は採りづらいので、講義（全13回）を中心として行います。また、質問がある場合には、他の学生の理解を促進する為にも授業の最中でも自由に行ってもらって結構です。
履修の留意点：	教科書を予習して授業に望まなくても良いが、ノートをしっかり取って要点を把握した後に教科書で復習することによって知識の定着を図ること。疑問に思ったこと、解らなかったことは必ず質問すること。
目標と評価：	企業が人的・物的施設（例えば、支配人等の商業使用人や営業所）又は、組織（会社の機関）を利用して営利活動を行うのを法律の定めるルールに従わせることが商法の目的です。従って、商法は特定に人的施設は組織については、それがどういう権限や義務を負っているかを詳しく定めています。また、営利活動については、商行為として民法とは違った原則が支配すること、更に商行為の相手方保護の為に各種の商行為を行う上での基本的権利義務関係を定めています。このような基本的構造をしっかり理解することがまず重要です。そして個別の法制度については、互いに利害関係が対立する恐れのある当事者（例えば、物やサービスを供給する側と供給を受ける側）の権利義務関係を整理して理解しておくこと。評価点は、学期末試験の点数を基本にして、それに質問回数や質問内容を加味して算出します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「商法」（担当者：林 康平）の履修の手引き

科目名：	商法
担当者：	林 康平
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>商法は本来、商業に関して発生したものです。商業とは、商人が生産者と消費者の間を媒介する存在として「安く仕入れて、高く売る」ことで利潤を得ることを目的とした企業です。しかし、現在では商法の規制対象は、商業ばかりではなく、製造業・運送業・サービス業・その他の企業を広く含むものとなっており、およそ利潤を得る為に特別の施設、又は組織を利用し計画的・継続的に資力と労力を投じて経済的給付を行う行為は、全て商法の規制の対象になります。従って、商法はその広範な規制対象をカバーするため成文法として商法典以外にも多くの商事特別法や条約を有すると共に、不文法として商習慣法、商事判例法を有しています。</p> <p>授業では、商法典が定める習慣法に共通な企業の施設ないし組織に関する規定及び、企業の活動に関する規定を取り上げます。前者に属するのは、企業の物的施設としての商号・商業帳簿・営業所であり、企業の人的施設、即ち企業の補助者としての商業代理人、代理商です。後者に属するのは商行為に関する総則、各種営業、そして企業の決済手段としての手形・小切手です。</p>
授業方法：	商法は、かなり技術的性格の強い学問であり、討論や特定人を指名して解答させるといった授業形式は採りづらいので、講義（全13回）を中心として行います。また、質問がある場合には、他の学生の理解を促進する為にも授業の最中でも自由に行ってもらって結構です。
履修の留意点：	教科書を予習して授業に望まなくても良いが、ノートをしっかり取って要点を把握した後に教科書で復習することによって知識の定着を図ること。疑問に思ったこと、解らなかったことは必ず質問すること。
目標と評価：	企業が人的・物的施設（例えば、支配人等の商業使用人や営業所）又は、組織（会社の機関）を利用して営利活動を行うのを法律の定めるルールに従わせることが商法の目的です。従って、商法は特定に人的施設は組織については、それがどういう権限や義務を負っているかを詳しく定めています。また、営利活動については、商行為として民法とは違った原則が支配すること、更に商行為の相手方保護の為に各種の商行為を行う上での基本的権利義務関係を定めています。このような基本的構造をしっかり理解することがまず重要です。そして個別の法制度については、互いに利害関係が対立する恐れのある当事者（例えば、物やサービスを供給する側と供給を受ける側）の権利義務関係を整理して理解しておくこと。評価点は、学期末試験の点数を基本にして、それに質問回数や質問内容を加味して算出します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「税法」（担当者：前川 邦生）の履修の手引き

科目名：	税法
担当者：	前川 邦生
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講義では、国および地方公共団体の課税権の根拠を明確にして、わが国憲法第30条84条の関係を「租税法律主義」という。租税法における課税権の根拠を自然法に求め、我々人間の「自然権」（生命・自由・財産）の保護に求め、その国家観と租税との関係を明確にしていきたい。その上で、われわれに日常の上で生ずる税金問題を「所得」にも求め、所得税法を通じて解明を試みたいと考えている。受講者諸君には税理士試験科目の「所得税法」等に役立つことを考慮して講義を進める。
授業方法：	税理士試験科目の「所得税法」等に役立つことを考慮して講義を進める。
履修の留意点：	簿記論、財務会計（会計学）、税務会計論Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。
目標と評価：	期中レポート、期末試験等を総合して評価する。
教科書：	税法入門 第5版 金子宏・他著 有斐閣新書
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「税法」（担当者：前川 邦生）の履修の手引き

科目名：	税法
担当者：	前川 邦生
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講義では、国および地方公共団体の課税権の根拠を明確にして、わが国憲法第30条84条の関係を「租税法律主義」という。租税法における課税権の根拠を自然法に求め、我々人間の「自然権」（生命・自由・財産）の保護に求め、その国家観と租税との関係を明確にしていきたい。その上で、われわれに日常の上で生ずる税金問題を「所得」にも求め、所得税法を通じて解明を試みたいと考えている。受講者諸君には税理士試験科目の「所得税法」等に役立つことを考慮して講義を進める。
授業方法：	税理士試験科目の「所得税法」等に役立つことを考慮して講義を進める。
履修の留意点：	簿記論、財務会計（会計学）、税務会計論Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。
目標と評価：	期中レポート、期末試験等を総合して評価する。
教科書：	税法入門 第5版 金子宏・他著 有斐閣新書
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会社法」（担当者：林 康平）の履修の手引き

科目名：	会社法
担当者：	林 康平
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	会社法は、商法の一部であり商法第2編第52条から第499条までに定めてある条文と有限会社法及び、商法特例法等を含めて普通「会社法」と呼んでいます。会社法は、その名称からも分かるように会社に関する法律です。現代では、企業が行う営利活動は、そのほとんどが会社という形態、特に株式会社という形態で行われています。これは、個人個人が商行為をするのとは違って、とても大きくて複雑な組織で行われているので、法律上特別の配慮をせざるを得ないのです。株式会社では、その組織は、株主総会、取締役会、代表取締役、監査役（会）という複雑な組織に分化してしまっていて、権限もそれぞれに分配されています。会社法では、この組織間の権限分配関係になり株式会社組織をより効率的に運営していくことを目的としています。また、それだけでなく、企業の営利活動の原資を獲得するための手段として新株発行したり社債を発行したりすることも重要ですので、これに関しても法律に定められたルールに従い行うことを要求しています。
授業方法：	講義（13回）を中心にします。質問に対しては、他の学生の理解を助ける効果も期待できますので、その場に対応します。もちろん、授業後であっても質問はかまいません。会社は現代では様々な社会現象事件を引き起こしている存在ですので、授業中に新聞記事等の資料を配布することで理解の助けにする予定です。
履修の留意点：	会社法は、改正も多く、法律の中でも特に難しい分野であると言われています。授業では、できるだけ法制度を分かり易くするため、黒板に図式化したものを多く用いますので、ノートは必ず取ることも、もし、欠席した場合には、出席した人のノートを写しておくことが重要です。また、最新（平成16年度）の小六法を授業の時には持参していただくことが望ましいです。
目標と評価：	株式会社の内部組織の権限分配関係、取締役の職務に関する義務と責任、資金調達方法の概略が理解できれば、履修の一応の目的は達成できたと言えるでしょう。評価点は、学期末試験の点数を基本にして、それに、質問回数と内容を加味して算出します。
教科書：	現代株式会社法 嵯峨野書院
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会社法」（担当者：林 康平）の履修の手引き

科目名：	会社法
担当者：	林 康平
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	会社法は、商法の一部であり商法第2編第52条から第499条までに定めてある条文と有限会社法及び、商法特例法等を含めて普通「会社法」と呼んでいます。会社法は、その名称からも分かるように会社に関する法律です。現代では、企業が行う営利活動は、そのほとんどが会社という形態、特に株式会社という形態で行われています。これは、個人個人が商行為をするのとは違って、とても大きくて複雑な組織で行われているので、法律上特別の配慮をせざるを得ないのです。株式会社では、その組織は、株主総会、取締役会、代表取締役、監査役（会）という複雑な組織に分化してしまっていて、権限もそれぞれに分配されています。会社法では、この組織間の権限分配関係になり株式会社組織をより効率的に運営していくことを目的としています。また、それだけでなく、企業の営利活動の原資を獲得するための手段として新株発行したり社債を発行したりすることも重要ですので、これに関しても法律に定められたルールに従い行うことを要求しています。
授業方法：	講義（13回）を中心にします。質問に対しては、他の学生の理解を助ける効果も期待できますので、その場に対応します。もちろん、授業後であっても質問はかまいません。会社は現代では様々な社会現象事件を引き起こしている存在ですので、授業中に新聞記事等の資料を配布することで理解の助けにする予定です。
履修の留意点：	会社法は、改正も多く、法律の中でも特に難しい分野であると言われています。授業では、できるだけ法制度を分かり易くするため、黒板に図式化したものを多く用いますので、ノートは必ず取ることも、もし、欠席した場合には、出席した人のノートを写しておくことが重要です。また、最新（平成16年度）の小六法を授業の時には持参していただくことが望ましいです。
目標と評価：	株式会社の内部組織の権限分配関係、取締役の職務に関する義務と責任、資金調達方法の概略が理解できれば、履修の一応の目的は達成できたと言えるでしょう。評価点は、学期末試験の点数を基本にして、それに、質問回数と内容を加味して算出します。
教科書：	現代株式会社法 嵯峨野書院
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営と法」（担当者：小菅 成一）の履修の手引き

科目名：	経営と法
担当者：	小菅 成一
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>本授業では、経営法コースに進学を希望する学生を対象に、企業経営と法律との関わりについて学習していきます。具体的には、①私法（民法や商法）と公法（憲法や刑法、行政法）との関係、②企業間の取引活動（契約の役割等）、③企業の組織（会社の経営機構、株主の役割、会社と従業員との関係）、④企業の資金繰り（企業の資金調達方法のいろいろ、株式、社債について）、⑤企業の責任（企業に対する民事的・刑事的責任の追求、行政処分、企業活動と消費者保護）、⑥訴訟社会と紛争（裁判と裁判所、裁判以外の紛争解決手段のいろいろ）、⑦企業の結びつき（企業グループの形成、M&Aとは何か？）、⑧競争と独占（企業活動の独占禁止と競争秩序の確保）等です。したがって、対象となる法律分野も民法や商法が中心となりますが、その他にも国家の基本法ともいべき憲法や裁判制度を規律する刑事訴訟法や民事訴訟法等についても取り上げていく予定です。</p>
授業方法：	講義形式です。
履修の留意点：	本授業は、2年次以降の法律系科目の基礎教育科目となります。
目標と評価：	法律を学ぶことで、リーガルマインド（法律的なモノの考え方）を身に付けることを目標としていきます。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営と法」（担当者：小菅 成一）の履修の手引き

科目名：	経営と法
担当者：	小菅 成一
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>本授業では、経営法コースに進学を希望する学生を対象に、企業経営と法律との関わりについて学習していきます。具体的には、①私法（民法や商法）と公法（憲法や刑法、行政法）との関係、②企業間の取引活動（契約の役割等）、③企業の組織（会社の経営機構、株主の役割、会社と従業員との関係）、④企業の資金繰り（企業の資金調達方法のいろいろ、株式、社債について）、⑤企業の責任（企業に対する民事的・刑事的責任の追求、行政処分、企業活動と消費者保護）、⑥訴訟社会と紛争（裁判と裁判所、裁判以外の紛争解決手段のいろいろ）、⑦企業の結びつき（企業グループの形成、M&Aとは何か？）、⑧競争と独占（企業活動の独占禁止と競争秩序の確保）等です。したがって、対象となる法律分野も民法や商法が中心となりますが、その他にも国家の基本法ともいべき憲法や裁判制度を規律する刑事訴訟法や民事訴訟法等についても取り上げていく予定です。</p>
授業方法：	講義形式です。
履修の留意点：	本授業は、2年次以降の法律系科目の基礎教育科目となります。
目標と評価：	法律を学ぶことで、リーガルマインド（法律的なモノの考え方）を身に付けることを目標としていきます。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「デザインの基礎」（担当者：森 康夫）の履修の手引き

科目名：	デザインの基礎
担当者：	森 康夫（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	人がコミュニケーションをしていく上で言葉や文字だけでは表現しきれない物がある。それらに対しては色や形、材料という造形言語表現を使って情報をビジュアルに表わしコミュニケーションする方法がある。ここではDTPやウェブページなどをデザインする上で役立つ一般的なデザインとレイアウトの基礎を学ぶ。
授業方法：	講義だけではなく実習を行うことで更に認識を高める。 <講義> ・デザインとは何か／デザインと芸術 ・デザインの基本（点、線、面） ・視覚伝達デザイン（サイン、マーク、ポスターの効果） ・レイアウトの基本（様式の8要素／視覚度、図版率、文字のジャンプ率、写真のジャンプ率、グリッド拘束率、版面率、構成の原則、書体のイメージ）（造形の8原則／主役を明示する、純主役を離す、群化、あいまいは不安、流れを整理する、余白は主役の領域、四隅をおさえる、反面線を利用する） ・レイアウトの手順 <実習>様々なレイアウトの実習
履修の留意点：	課題をこなしながら覚えていく授業なので休まないことが大事である
目標と評価：	目標：目にした広告について批評、評価できること。 評価：授業への取組方、提出物の状況などを重視する。 （知識も必要であるので、小テストも行う）。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「デザインと色彩」（担当者：森 康夫）の履修の手引き

科目名：	デザインと色彩
担当者：	森 康夫（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	人がコミュニケーションをしていく上で言葉や文字だけでは表現しきれない物がある。それらに対しては色や形、材料という造形言語表現を使って情報をビジュアルに表わしコミュニケーションする方法がある。ここではDTPやウェブページなどをデザインする上で役立つ一般的なデザインと色彩の基礎を学ぶ。
授業方法：	講義だけではなく実習を行うことで更に認識を高める。 <講義> 1、日常生活の色彩（流行色、インテリア、ファッションなど） 色彩の心理的効果／環境と色彩／経済と色彩 色の表現（絵画と色彩、ポスター、サイン、標識） 2、三原色（色料、色光）／色の三属性（色相、明度、彩度） トーン概念／色の分類と体系／混色／色の見え・対比／ 配色の基本 <実習> 様々な配色の実習
履修の留意点：	実習があるので必ず教科書及び配色カードを用意すること。 1、デザインの色彩 / 日本色研事業株式会社 2、配色カード 199a / 日本色研事業株式会社
目標と評価：	目標：色彩のセンスを磨いて欲しい。 評価：授業への取組方、提出物の状況などを重視する。また、知識も必要なので、テストも行い、総合して評価する。
教科書：	「デザインの色彩」と「配色カード 199a」：日本色研事業株式会社
参考書：	

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「心と造形」（担当者：森 康夫）の履修の手引き

科目名：	心と造形
担当者：	森 康夫（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年、人々の抱えている悩みや不安が増大し深刻化してきているなかで、「心の癒し」の問題が取り上げられるようになってきた。その解消法は様々だが、当授業ではそれを美術（造形）の面から考えていく。悩みや不安は考えているだけでは解消されるものではない。頭で考えるだけでなく行動することも大事であり、体験することで何かが得られると考える。そこで、当授業では講義だけでなく、造形の遊びを通して心の解放を目指し、どんなことが「心の癒し」に効果があるのかも探究していく。様々な体験を通して新たな発見や感動、創造することの喜びなどを実感して欲しい。
授業方法：	前提講義の後、各テーマに添って作業をする。主に平面に取り組む。 <講義> 造形とは何か、人とどのように関わっているのか。 子供のこころの発達／美術教育の弊害 <各テーマの講義と実習> 形の遊び（既成概念にとらわれない自由な表現について） （抽象画／素朴画を描く） [形の深層心理]（形が人に与える影響） [形と色の深層心理] フロッターージュ／デカルコマニー／コラージュからヒントを得る。
履修の留意点：	手を使って何かを創造することが好きな学生が望ましい。 * うまい、へた、は関係ない作品作りをするので安心して来てください。
目標と評価：	目標：造形の遊びを通して心の解放や心の癒しの方法を知って欲しい。また、様々な体験を通して新たな発見や感動、創造することの喜びなどを実感して欲しい。 評価：授業への取り組み及び作品提出状況とレポート提出により総合して決定する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「人間性の発達」（担当者：石川 直弘）の履修の手引き

科目名：	人間性の発達
担当者：	石川 直弘（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	この講義では、生理的早産の形で誕生した人間が、どのような経過をたどって人間的発達をとげていくかを考察する。直立二足歩行、手の操作、音声言語の使用からはじまって、最終的には形式的操作の思考にいたるまで、その経過をできるだけ詳細に見ていく。
授業方法：	通常の講義形式で授業を行う。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	定期試験によって成績を評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータ入門」（担当者：南 憲一）の履修の手引き

科目名：	コンピュータ入門
担当者：	南 憲一（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>コンピュータはハードウェアとソフトウェアで構成され、最近では、コンピュータ同士が、お互いにネットワークで接続されるような形で利用される。本講義では最初に、ハードウェアを構成する5つの基本装置と、これに接続して利用される周辺機器について学ぶ。次に、コンピュータを利用する上で最も基本的なソフトウェアであるオペレーティングシステム（Windows XP）の利用方法について学ぶ。さらに、学内のネットワーク（LAN）のしくみと利用方法について学び、最後にインターネットについて学習する。</p> <p>（内容） パソコン一般知識 LAN OS（オペレーティングシステム） インターネット 情報モラル</p>
授業方法：	パソコンを使用しながら講義を進めていくので、ノートパソコンを必ず持参すること。
履修の留意点：	嘉悦e-Campusを活用して授業を進めるので、授業時間内だけでなく自宅でも授業情報のページを開き、予習・復習に役立てること。
目標と評価：	パソコン検定試験（P検）の3級に受かるレベルを目標に、学習を進めていく。定期試験で評価する。
教科書：	IT活用のためのビギナーズブック 中村修 他 日科技連 2005年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータ入門」（担当者：中村 修）の履修の手引き

科目名：	コンピュータ入門
担当者：	中村 修（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>コンピュータの内、特にノートパソコンの基礎知識を習得することを目的に学習を進めます。このため、講義の対象としているのは、ノートパソコンについて初心者であり、これから本格的にノートパソコンを使っていこうと考えている皆さんです。</p> <p>嘉悦大学では、入学前のパソコン講習会、必修科目であるパソコンリテラシでも、ノートパソコンについて学習します。パソコン講習会では、嘉悦e-Campusを使いこなしていくための知識を中心に、また、パソコンリテラシでは主にマイクロソフトのOfficeというアプリケーションソフトウェアの使い方を学習します。コンピュータ入門では、これらの講習会や講義で扱わないハードウェア、基本ソフトウェア、及びネットワーク利用を含む全般にわたる範囲を扱います。</p> <p>具体的な内容は主に以下に示すとおりです(教科書内容に準じます)。</p> <p>第1回 パソコンの基礎知識 第2回 パソコンの操作 第3回 情報モラルとセキュリティ① 第4回 情報モラルとセキュリティ② 第5回 パソコンの拡張 第6回 インターネットの活用(電子メールの送受信他) 第7回 LANの活用(ネットワークプリンタ、ネットワークフォルダ) 第8回 ネットワークの仕組み 第9回 ワープロソフトの活用 第10回 Wordによる論文・レポートの作成 第11回 マルチメディアの活用 第12回 Webページの作成と公開 第13回 プレゼンテーションソフトの活用</p>
授業方法：	<p>基本的には、講義を中心としますが、演習、レポート、実習、等を適宜取り入れていきます。また、e-Campusをフルに活用するため、毎回の授業では、ノートPCが必須となります。そこで、斡旋パソコンを購入した人は、バッテリーへの充電を十分にできて下さい。また、斡旋パソコン以外の方は、嘉悦e-Campusに無線LANカードで接続できるようにすること、大容量のバッテリーを用意し、十分に充電して授業に臨んで下さい。</p>
履修の留意点：	<p>毎回、ノートPCを利用しますので、パソコン講習会には必ず出席して下さい。また、授業中、e-Campusへの接続が必須ですので、講義が開設されるまでには、必ずe-Campusネットワークに接続できるようにしておいて下さい。</p> <p>授業は、受講生の平均的な知識レベルを前提に進めますので、既に知識のある人には退屈になり、初めての人には難しすぎるという問題が生じます。そうならないように、講師側も努力をしますが、皆さんも、特に初めての人は予習・復習、講師への質問等をe-Campusを活用して行って下さい。この授業で踏くと、これからのキャンパスライフに何らかの悪影響が出ますので頑張ってください。</p>
目標と評価：	<p>大目標は、ノートパソコンを自身の標準的な道具として使いこなせるようになることです。成績評価については、まず出席を重視します。嘉悦では、出席点が30点あります。1回の欠席で3点減点、3回の遅刻(開始から15分まで)で1回の欠席となってしまいます。パソコンに自信のある人も、また逆でない人も、授業には、欠かさずに出席しましょう。また、出席するからには、授業に集中しましょう。</p> <p>期末には、持ち込み不可の筆記試験を予定しています。落とすための試験ではありません。普通に学習し、授業に出席していれば、A以上の評点がつくはずですよ。</p>
教科書：	IT活用のためのビギナーズブック 中村修 他 日科技連 2005年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータ入門」（担当者：滑川 光裕）の履修の手引き

科目名：	コンピュータ入門
担当者：	滑川 光裕（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	パソコン動作の仕組みや周辺機器の種類や接続方法など、「パソコンを十二分に使いこなせる」ことを目的とした授業である。 そのために、ハードウェアとソフトウェアの操作と動作の仕組みなどを連動して説明していく。また、現在の生活では欠かせないネットワークについても、使い方から種類・仕組みまでを解説する。 （最初に、電子メールの送受信、ウイルスチェックソフトの利用方法、WindowsUpdateの使い方など、嘉悦大学生として欠かせないネットワークの利用とセキュリティに関連した操作について行います。）
授業方法：	講義形式で行うが、途中でコンピュータの操作を行う。 また、授業中に小テスト・レポート提出を行う。 ※教科書として、「IT活用のためのビギナーズブック」（日科技連、3月出版予定）を中心に進める。 ※授業ですべてをカバーするわけではありませんが、P検3級取得支援を行っています。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	授業中に行う幾つかの小テストやレポートの点数と期末の試験での評価を行う。
教科書：	IT活用のためのビギナーズブック 中村修 他 日科技連 2005年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータ入門」（担当者：山際 基）の履修の手引き

科目名：	コンピュータ入門
担当者：	山際 基
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>本講義はパソコンの基礎知識を習得し、パソコンを道具として使いこなせるようになることを目的に学習を行なう。講義の対象としているのは、これから本格的にノートパソコンを使用していく学生である。</p> <p>講義ではハードウェアや基本ソフトウェア、ネットワーク利用といった、パソコンとその関連事項（P検3級程度の内容）についても取り扱う。</p> <p>具体的な内容は主に以下に示すとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. パソコンを利用する前に（情報モラルとセキュリティ） 2. パソコンとは何か？ 3. 文字の入力 4. ファイルとフォルダの管理 5. インターネット（Webページ閲覧、電子メール） 6. マルチメディア（音楽やデジタルカメラの画像、動画）の活用 7. プレゼンテーションの基礎（PowerPoint）
授業方法：	<p>講義を中心とするが実習を適宜取り入れる。毎回の講義ではノートPCが必須となる。またノートPCの充電やACアダプタを持参するなど電源にも留意していただきたい。</p> <p>講義は受講生の平均的な知識レベルを前提に進めるため、理解度や講義に対する充実度に個人差が発生する可能性がある。特に初心者は予習・復習、講師への質問等をe-Campusを活用して行なうこと。この講義でつまずくとこれからのキャンパスライフにおいて確実に悪影響が出るので確実に受講していただきたい。</p>
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	<p>最終目標はノートパソコンを道具として使いこなせるようになることである。</p> <p>成績については講義中の実習と期末の筆記試験にて評価する。実習での評価を重視する。</p>
教科書：	I T活用のためのビギナーズブック -パソコンを120%使う本- 中村 修、南 憲一、滑川 光裕、森本 孝、山際 基、栗原 美紀 日科技連 2005(3月出版予定)
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータ入門」（担当者：宮本 勉）の履修の手引き

科目名：	コンピュータ入門
担当者：	宮本 勉（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>コンピュータの知識のうち、パーソナルコンピュータの基礎知識を習得するとともにパソコン検定（P検）3級の出題範囲の一部を学習する。講義は主に2部構成として行う</p> <p>第Ⅰ部 一般知識（P検テキスト：リテラシー用のテキスト）</p> <p>1、情報モラル 2、パソコンの一般知識 3、LAN</p> <p>第Ⅱ部 パソコンの仕組み（下記の本講義の教科書）</p> <p>1、派損の起動と終了 2、CPUとメモリ、ディスク 3、機器の動作 4、ファイル 5、インターネット</p>
授業方法：	基本的には講義であるが演習、レポート、実習等をおこなうので各自のノートPCを持参することが必須。授業開始までにネットワークに接続しておくこと。
履修の留意点：	基本的には講義であるが演習、レポート、実習等をおこなうので各自のノートPCを持参することが必須。《大容量バッテリーを使用すること》 テキストは下記の2種類使用する
目標と評価：	パソコン検定3級を目標とします パソコンを使いこなすための基本知識を身に着けること
教科書：	IT活用のためのビギナーズブック 中村修、南憲一、滑川光裕、森本孝、山際基、栗原美紀 株式会社日科技連出版社 2005年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータ入門」（担当者：宮本 勉）の履修の手引き

科目名：	コンピュータ入門
担当者：	宮本 勉（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>コンピュータの知識のうち、パーソナルコンピュータの基礎知識を習得するとともにパソコン検定（P検）3級の出題範囲の一部を学習する。講義は主に2部構成として行う</p> <p>第Ⅰ部 一般知識（P検テキスト：リテラシー用のテキスト）</p> <p>1、情報モラル 2、パソコンの一般知識 3、LAN</p> <p>第Ⅱ部 パソコンの仕組み（下記の本講義の教科書）</p> <p>1、派損の起動と終了 2、CPUとメモリ、ディスク 3、機器の動作 4、ファイル 5、インターネット</p>
授業方法：	基本的には講義であるが演習、レポート、実習等をおこなうので各自のノートPCを持参することが必須。授業開始までにネットワークに接続しておくこと。
履修の留意点：	本的には講義であるが演習、レポート、実習等をおこなうので各自のノートPCを持参することが必須。《大容量バッテリーを使用すること》 テキストは下記の2種類使用する
目標と評価：	パソコン検定3級を目標とします パソコンを使いこなすための基本知識を身に着けること
教科書：	IT活用のためのビギナーズブック 中村修、南憲一、滑川光裕、森本孝、山際基、栗原美紀 株式会社日科技連出版社 2005年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータ入門」（担当者：宮本 勉）の履修の手引き

科目名：	コンピュータ入門
担当者：	宮本 勉（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>コンピュータの知識のうち、パーソナルコンピュータの基礎知識を習得するとともにパソコン検定（P検）3級の出題範囲の一部を学習する。講義は主に2部構成として行う</p> <p>第Ⅰ部 一般知識（P検テキスト：リテラシー用のテキスト）</p> <p>1、情報モラル 2、パソコンの一般知識 3、LAN</p> <p>第Ⅱ部 パソコンの仕組み（下記の本講義の教科書）</p> <p>1、派損の起動と終了 2、CPUとメモリ、ディスク 3、機器の動作 4、ファイル 5、インターネット</p>
授業方法：	基本的には講義であるが演習、レポート、実習等をおこなうので各自のノートPCを持参することが必須。授業開始までにネットワークに接続しておくこと。
履修の留意点：	基本的には講義であるが演習、レポート、実習等をおこなうので各自のノートPCを持参することが必須。《大容量バッテリーを使用すること》 テキストは下記の2種類使用する
目標と評価：	パソコン検定3級を目標とします パソコンを使いこなすための基本知識を身に着けること
教科書：	IT活用のためのビギナーズブック 中村修、南憲一、滑川光裕、森本孝、山際基、栗原美紀 株式会社日科技連出版社 2005年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータアーキテクチャ」（担当者：山際 基）の履修の手引き

科目名：	コンピュータアーキテクチャ
担当者：	山際 基
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>本講義では主にコンピュータのハードウェアを中心とした講義を行う。はじめに情報科学の基礎的な知識について（コンピュータでの情報の扱いや計算方法について）の講義を行う。そして、コンピュータの基本機能、プロセッサ内部およびメモリでの処理方法、プロセッサ、メモリの種類、入出力とのインタフェースなどのコンピュータの仕組みについての講義を行う。</p> <p>具体的な内容は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報科学の基礎（基数変換・演算など） 2. 情報素子（集積回路・半導体メモリ） 3. プロセッサアーキテクチャ 4. メモリアーキテクチャ 5. 補助記憶装置 6. 入出力アーキテクチャと装置 7. コンピュータの種類とアーキテクチャの特徴
授業方法：	講義を中心とするが、課題や講義資料はナビゲーションシステムを利用する。また講義毎に内容習得の確認の課題を行なう。
履修の留意点：	ノートPCを持参することが望ましい。
目標と評価：	<p>目標はハードウェア周辺に関する知識の習得である。可能であれば基本情報処理技術者試験などにも挑戦していただきたい。</p> <p>評価は講義中の課題と期末テストにより行なう。</p>
教科書：	基本情報技術者テキスト2005年版「コンピュータシステム」 中央情報教育研究所 コンピュータ・エージ社
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「オペレーティングシステム論」（担当者：南 憲一）の履修の手引き

科目名：	オペレーティングシステム論
担当者：	南 憲一（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	オペレーティングシステム（OS:Operating System）はコンピュータを利用する上で必要不可欠なソフトウェアである。本講義ではパソコン用の代表的なOSであるWindows XPについて学習する。 （内容） 基本的な操作 ネットワークの利用 パソコンの共用 ファイルとフォルダの利用 カスタマイズ システムの管理
授業方法：	パソコンを使用しながら講義を進めていくので、ノートパソコンを必ず持参すること。
履修の留意点：	パソコンを使用しながら講義を進めていくので、ノートパソコンを必ず持参すること。
目標と評価：	Windows XPを自由に取り扱いできるようになることを目標とする。 定期試験で評価する。
教科書：	できるWindows XP 完全活用編 神田知宏&できるシリーズ編集部 インプレス 2003年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「情報社会論Ⅰ」（担当者：宮本 勉）の履修の手引き

科目名：	情報社会論Ⅰ
担当者：	宮本 勉（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年の情報通信技術(IT)のめざましい発展は、企業、家庭など社会の様々な側面に大きな影響を与えています。それには人々の生活を豊かにする正の面があると同時に、デジタルデバイド、有害情報の流通のような負の面も含まれます。本講義では発展著しい情報通信技術の例としてインターネットをとりあげ、その歴史と現状、基礎となる技術を学習します。そしてその社会へのインパクトを、プラスとマイナスの両方の側面から考察し、将来どのような方向に進むべきかを考えていきます。
授業方法：	基本的には講義を中心としますが、インターネットからの情報収集、演習、レポート等を適宜取り入れていきます。また、e-Campusをフルに活用するため、毎回の授業ではノートPCが必須となります。e-Campusに無線LANカードで接続できるように準備をしておいて下さい。
履修の留意点：	授業中e-Campusへの接続が必須ですので、講義が始まるまでにe-Campusネットワークに無線LANで接続できるようにしておいて下さい。講義の中では、個々の知識の説明だけでなく、その知識の背景にある考え方も合わせて説明していきます。単なる知識の暗記に終わるのではなく、知識を真に自分のものとして吸収し、自分自身の意見を持つために活用できることを目標にして下さい。
目標と評価：	中間レポートおよび期末の筆記試験により評価します。講義中のアクティビティについては、特に優れたものについてはプラス点として加味して採点します。学習の目標は、特に以下の点について基礎的な知識を得て、理解を深めることです。 1. インターネットの歴史と現状、それを支える基礎技術 2. インターネットの社会へのインパクト(プラスの面、マイナスの面) 3. インターネットが進むべき方向
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「情報社会論Ⅱ」（担当者：宮本 勉）の履修の手引き

科目名：	情報社会論Ⅱ
担当者：	宮本 勉（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講義では情報化と社会Ⅰの講義に続き、情報通信技術(IT)の新しい流れの例としてモバイル・コンピューティング、ユビキタス・コンピューティングをとりあげます。それぞれが表す概念から始め、現状、基礎となる技術を学習します。そしてこれらの社会へのインパクトを、プラスとマイナスの両方の側面から考察し、将来どのような方向に進むべきかを考えていきます。
授業方法：	基本的には講義を中心としますが、インターネットからの情報収集、演習、レポート等を適宜取り入れていきます。また、e-Campusをフルに活用するため、毎回の授業ではノートPCが必須となります。e-Campusに無線LANカードで接続できるように準備をしておいて下さい。
履修の留意点：	授業中e-Campusへの接続が必須ですので、講義が始まるまでにe-Campusネットワークに無線LANで接続できるようにしておいて下さい。 講義の中では、個々の知識の説明だけでなく、その知識の背景にある考え方も合わせて説明していきます。単なる知識の暗記に終わるのではなく、知識を真に自分のものとして吸収し、自分自身の意見を持つために活用できることを目標にして下さい。
目標と評価：	中間レポートおよび期末の筆記試験により評価します。講義中のアクティビティについては、特に優れたものについてはプラス点として加味して採点します。 学習の目標は、特に以下の点について基礎的な知識を得て、理解を深めることです。 1. モバイル・コンピューティング、ユビキタス・コンピューティングの概念 2. 現状、支える基礎技術 3. 社会へのインパクト(プラスの面、マイナスの面) 4. 進むべき方向
教科書：	デジタル社会と情報リテラシー 弘学出版
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「情報システム論 I」（担当者：滑川 光裕）の履修の手引き

科目名：	情報システム論 I
担当者：	滑川 光裕（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	「情報」の概念について考え、「情報システム」の役割について考える。 実際に社会で運用されているシステムの実例をもとに、そこで利用されている情報技術（マンマシンインタフェース・データベースの設計技法など）や、システムのライフサイクルについて学ぶことで、情報システムの本質を理解することを目的としている。
授業方法：	講義形式で行う。 授業中に、小テスト・レポート提出を行う。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	授業中の小テスト・レポートと期末のテストによる評価を行う。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「情報システム論Ⅱ」（担当者：滑川 光裕）の履修の手引き

科目名：	情報システム論Ⅱ
担当者：	滑川 光裕（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>情報システムを支える高度な理論・技術について学び、より複雑な情報システムの構築についての講義を行う。</p> <p>また、最新のネットワーク技術と情報システムの関わりなどについても学ぶ。</p> <p>具体的には、情報システムの分析・設計技法としての予測・最適化・シミュレーション技術、並列・分散処理技術などである。</p> <p>また、ファジィ理論、ニューラルコンピューティング理論などについても触れたい。</p>
授業方法：	<p>講義形式で行う。</p> <p>授業中に、小テスト・レポート提出を行う。</p>
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	授業中の小テスト・レポートと期末テストによる評価を行う。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「データ構造とアルゴリズム」（担当者：南 憲一）の履修の手引き

科目名：	データ構造とアルゴリズム
担当者：	南 憲一（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	データ構造とアルゴリズムはコンピュータのプログラムを構成する重要な概念である。最初に基本データ構造として、基本データ型、構造型、抽象データ型、問題向きデータ構造としてリスト構造、スタック、キュー、ツリー構造、ハッシュについて学ぶ。次に、探索アルゴリズム、整列アルゴリズム、再起的アルゴリズムといった各種のアルゴリズムについて学ぶ。最後にアルゴリズムの評価とアルゴリズムの設計方法について学習する。
授業方法：	C言語によるプログラミングを取り入れながら授業を進める。
履修の留意点：	嘉悦e-Campusを活用して授業を進めるので、授業時間内だけでなく自宅でも授業情報のページを開き、予習・復習に役立てること。
目標と評価：	定期試験で評価する。
教科書：	明解C言語第 I 巻入門編 柴田望洋 ソフトバンク 1999年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「インターネットビジネス論」（担当者：佐々木 洋）の履修の手引き

科目名：	インターネットビジネス論
担当者：	佐々木 洋
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	みなさんは、例えば、「IT革命」と「IT革新」の違い、「デフレ」と「不況」の違いについてはどのように考えられていますか。このような言葉は、連日マスコミでも取り上げられていますが、それぞれの論者によって違う解釈をして使われています。そして、言葉自体ではなくて、言葉の解釈の背後にある事実認識の違いによって、現実に対する対応行動が違ってくるのがよくあります。経済や経営の世界には、経理の世界の会計原則のような一律的に適用されるようなルールや判断基準（正解）がありません。これは、多かれ少なかれ、「情報不足のままリスクを犯して意思決定しなければならない」要素があるためであると考えられます。従って、ビジネスやマーケティングの当事者として最適な意思決定をするためには、限られた情報の中から「正解」に最も近いと考えられる考え方（仮説）を自ら導き出していく必要があります。特に、生成してから未だ日が浅く絶えず流動している「インターネット・ビジネス」については、いたずらに表層的な事象や言葉に目を奪われることなく、本質に遡って因果関係を考察し、自分なりの仮説を構成してこれを体系化してゆくことが極めて重要になります。当講座では、インターネット・ビジネスの可能性、方法、利点、問題点などについて考察した結果をそれぞれの仮説の体系に取り込むことを学ぶことによって、将来、事業家、起業家ないしは企業人としてビジネスチャンスを的確に捉えるための基礎的な能力を習得していただきたいと思っております。
授業方法：	自分自身が大学生時代に経済学部で学んだ事柄、(株)東芝に於けるIT部門を中心とした業務で経験した事項、三井産研研究所関連で出会った三井系各企業、MIT等のキーマンたちから得た教訓、更には、日経連関連の国際IT研修の企画運営を通じて見聞した事柄等々私自身の体験の中から得て組み立てた仮説を交えて、有用と考えられる内容を講義によりお伝えしていきたいと思っております。全13回の講義の構成は概ね以下のようにしたいと考えておりますが、極力質疑応答などによる双方向情報交換の機会を増やすとともに、受講者数やリクエスト次第では、受講生自身による事例研究のプレゼンテーションや企業における実務者の講話聴取などをプログラムに採り入れるなど、柔軟な講座運営の編成と運営を図っていくつもりです。 第1回 導入 第2-3回 インターネットの歴史的・社会的意義 第4-9回 ビジネスに及ぼすインパクトの諸相 第10-13回 ケース・スタディー（先進企業事例研究） 第13回 総括
履修の留意点：	「情報リテラシイ=ITリテラシイ+ビジネス・リテラシイ」という仮説に基づいて、前期の「インターネット・ビジネス論」はビジネス・リテラシイ、後期の「コミュニケーション・メディア論」はITリテラシイに、それぞれ焦点を当てて講座を構成したいと思っております。両講座は視点を異にするものであるうえ、ともに自己完結する形をとりますので、必ずしも両講座を併せて受講する必要はありません。 教科書について： 日本経済新聞を講義構成のための基本的な情報源としますので、同紙のインターネット・ビジネス関連記事については常々問題意識を持って目を通しておくことをお勧めします。また、具体的なテキストは、マイホームページ「東芝38年生の酒記」の「インターネットビジネス論」を用いる予定です。以下のURLで参照し、ご自分の見解（仮説）の検証と構成に役立ててください。積極的反論も大歓迎です。 http://www4.ocn.ne.jp/~daimajin/InternetBusiness.htm
目標と評価：	具体的に「日本経済新聞のインターネット・ビジネスに関する記事を読みこなすだけの力をつける」ことを学習目標として掲げます。“読みこなす”ということは、記事の内容を単に“理解する／覚える”のではなくて“評価しながら自分の見解（仮説）に取り入れる”ことに重点がありますので、受講の結果が情報の評価能力と仮説の構成能力の向上の形で結果することを願っております。従って、学習成果の評価のためのテストとしては、指定した日本経済新聞のインターネット・ビジネス関連の記事について「A. 大意の把握、B. 内容の評価、C. 自分としての見解」を内容とするレポートを作成願ひ、Aに60点、BおよびCに各20点をそれぞれ配点し100点満点にて評価を行う予定です。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「エンドユーザコンピューティング論」（担当者：中村 修）の履修の手引き

科目名：	エンドユーザコンピューティング論
担当者：	中村 修（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>従来のエンドユーザコンピューティング（EUC）では、パソコンに関する一般知識、ワープロや表計算などのアプリケーションプログラムの使用方法を学習し、初級システム・アドミニストレータ試験レベルの内容と範囲を対象としてきました。しかし、社会における情報化の普及はめざましく、さらにインターネットを利用したビジネスが急速に拡大していく状況においては、従来のEUCの学習範囲は、本来のエンドユーザとしての能力を活用するには陳腐化し、不足する状況にあります。</p> <p>幸いにして、嘉悦大学では本講義以外の科目でも、より丁寧なEUCに関連する講義がなされています。そこで、本講義では、時代の要請に速やかに応えるため、e-ビジネスというより広い枠組みで、必要な基礎知識の学習を進めます。具体的には、以下に示す教科書の項目に従って学習を進めます。</p> <p>【使用教科書目次】</p> <p>プロローグ 本書のねらいとe-ビジネスの現在</p> <p>第1部 インターネットビジネスをモデルから理解する</p> <p>第1章 e-ビジネスモデル入門</p> <p>第2章 e-ビジネスモデルの作りかた</p> <p>第3章 進化するe-ビジネスモデル～B2Bを例として～</p> <p>第2部 e-ビジネスを実現技術の面から解剖する</p> <p>～e-ビジネスを可能にするIT～</p> <p>第1章 e-ビジネス向け情報システム</p> <p>第2章 コンテンツの圧縮とe-ビジネス</p> <p>第3章 情報セキュリティとe-ビジネス</p> <p>第4章 データベースと情報検索、そしてデータマイニング</p> <p>第5章 オブジェクト指向技術</p> <p>第6章 インターネットとWeb統合技術</p> <p>第7章 XMLとe-ビジネス～データベースの視点から～</p>
授業方法：	<p>基本的には、講義を中心としますが、演習、レポート、実習、等を適宜取り入れていきます。また、e-Campusをフルに活用するため、毎回の授業では、ノートPCが必須となります。そこで、斡旋パソコンを購入した人は、大容量バッテリーへの充電を十分にしてきて下さい。また、斡旋パソコン以外の人は、嘉悦e-Campusに無線LANカードで接続できるようにし、さらに、大容量のバッテリーを用意し、十分に充電して授業に臨んで下さい。</p>
履修の留意点：	<p>毎回、ノートPCを利用しますので、パソコン講習会には必ず出席して下さい。また、授業中、e-Campusへの接続が必須ですので、講義が開講されるまでには、必ずe-Campusネットワークに接続できるようにしておいて下さい。</p> <p>主に、インターネット検索により関連情報の収集をおこなったり、グループに別れた調査研究発表などもできたら行っていきたいと考えています。</p> <p>授業は、受講生の平均的な知識レベルを前提に進めますので、既に知識のある人には退屈になり、初めての人には難しすぎるという問題が生じます。そうならないように、講師側も努力をしますが、皆さんも、特に初めての人は予習・復習、講師への質問等をe-Campusを活用して行って下さい。</p>
目標と評価：	<p>本講義の内容は多岐にわたっていますので、自分が興味のある内容の回や興味のない回もあると思いますが、知らないことを知ること、または興味のないことに興味を持つことの方が却って新しい世界との出会いがあり、自信の進路の選択肢を広げる可能性があります。ですから、授業には、欠かさずに出席しましょう。また、出席するからには、授業に集中しましょう。</p> <p>期末には、筆記試験を予定しています。落とすための試験ではありません。普通に学習し、授業に出席していれば、A以上の評点がつくはずで。</p>
教科書：	ビジネスコンピューティング検定試験2・3級知識科目学習ガイド 日本商工会議所 日刊工業新聞社 平成16年2月
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「データベース特論」（担当者：村上 哲也）の履修の手引き

科目名：	データベース特論
担当者：	村上 哲也
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	現代社会において、コンピュータ・ネットワークを対象とするデータベースおよびデータベースシステムは、情報の管理、蓄積、編集、運用などを実現するための役割を担っている。本講義ではデータベースの概念とデータ構造、データベース管理システム(DBMS)の機能、データ操作言語の定義方法について理解した上で、ネットワークを前提とした経営支援のためのデータベースシステムの構築と運用の実際を学ぶ。
授業方法：	ノートパソコンを用い、リレーショナルデータベースシステム(Microsoft Access)およびデータベース言語SQLにより、データベースの設計・構築を行う。
履修の留意点：	データベース入門データベース応用の履修を前提とする。
目標と評価：	講義・実習によりデータベースシステムの概念、データ構造を理解し、データベースの設計・構築方法、操作方法を演習を通し理解する。 ■評価は提出課題による。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータによるビジネス情報分析Ⅰ」（担当者：南 憲一）の履修の手引き

科目名：	コンピュータによるビジネス情報分析Ⅰ
担当者：	南 憲一（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>ビジネスの現場では、現状を把握しよりの確な行動を選択できるように各種ビジネス情報の分析が必要である。この授業ではパソコンを利用したビジネス情報分析について学習する。アプリケーションソフトとしてMicrosoft Excelを用い、データ集計、各種データ分析手法、グラフの活用方法について順に学習を進める。</p> <p>（内容）</p> <p>ビジネスデータ分析とは ピボットテーブルとピボットグラフ ドリルダウン・ドリルアップ分析 ドリルスルー分析 スライス&ダイス分析 要因分析 ABC分析グラフ Zチャート レーダーチャート ヒストグラム</p>
授業方法：	パソコンを使用しながら授業を進めていくので、ノートパソコンを必ず持参すること。
履修の留意点：	<p>WindowsおよびExcelをある程度使いこなせることが履修の条件。</p> <p>嘉悦e-Campusを活用して授業を進めるので、授業時間内だけでなく自宅でも授業情報のページを開き、予習・復習に役立てること。</p>
目標と評価：	定期試験で評価する。
教科書：	Excelでマスターする ビジネスデータ分析 実践の極意 住中光夫 アスキー 2003年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータによるビジネス情報分析Ⅱ」（担当者：南 憲一）の履修の手引き

科目名：	コンピュータによるビジネス情報分析Ⅱ
担当者：	南 憲一（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>ビジネスの現場では、現状を把握しよりの確な行動を選択できるように各種ビジネス情報の分析が必要である。この授業ではパソコンを利用したビジネス情報分析について学習する。ビジネス情報分析Ⅰの授業に引き続き、アプリケーションソフトとしてMicrosoft Excelを用い、業務部門別のデータ分析について実践的に学習を進める。</p> <p>（内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> 営業部門で行うビジネスデータ分析 経理部門で行うビジネスデータ分析 部門別科目推移データの分析 企画部門で行うビジネスデータ分析 エリアマーケティングで行うデータ分析 統計データの収集方法とその利用 広告部門で行うデータ分析 アンケート結果から見るデータ分析 自治体業務で行うデータ分析
授業方法：	パソコンを使用しながら授業を進めていくので、ノートパソコンを必ず持参すること。
履修の留意点：	<p>WindowsおよびMicrosoft Excelをある程度使いこなせることが履修の条件。</p> <p>嘉悦e-Campusを活用して授業を進めるので、授業時間内だけでなく自宅でも授業情報のページを開き、予習・復習に役立てること。</p>
目標と評価：	定期試験で評価する。
教科書：	Excelでマスターする ビジネスデータ分析 実践の極意 住中光夫 アスキー 2003年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「情報化と社会 I」（担当者：宮本 勉）の履修の手引き

科目名：	情報化と社会 I
担当者：	宮本 勉
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	近年の情報通信技術(IT)のめざましい発展は、企業、家庭など社会の様々な側面に大きな影響を与えています。それには人々の生活を豊かにする正の面があると同時に、デジタルデバイド、有害情報の流通のような負の面も含まれます。本講義では発展著しい情報通信技術の例としてインターネットをとりあげ、その歴史と現状、基礎となる技術を学習します。そしてその社会へのインパクトを、プラスとマイナスの両方の側面から考察し、将来どのような方向に進むべきかを考えていきます。
授業方法：	基本的には講義を中心としますが、インターネットからの情報収集、演習、レポート等を適宜取り入れていきます。また、e-Campusをフルに活用するため、毎回の授業ではノートPCが必須となります。e-Campusに無線LANカードで接続できるように準備をしておいて下さい。
履修の留意点：	授業中e-Campusへの接続が必須ですので、講義が始まるまでにe-Campusネットワークに無線LANで接続できるようにしておいて下さい。講義の中では、個々の知識の説明だけでなく、その知識の背景にある考え方も合わせて説明していきます。単なる知識の暗記に終わるのではなく、知識を真に自分のものとして吸収し、自分自身の意見を持つために活用できることを目標にして下さい。
目標と評価：	中間レポートおよび期末の筆記試験により評価します。講義中のアクティビティについては、特に優れたものについてはプラス点として加味して採点します。学習の目標は、特に以下の点について基礎的な知識を得て、理解を深めることです。 1. インターネットの歴史と現状、それを支える基礎技術 2. インターネットの社会へのインパクト(プラスの面、マイナスの面) 3. インターネットが進むべき方向
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「情報化と社会Ⅱ」（担当者：宮本 勉）の履修の手引き

科目名：	情報化と社会Ⅱ
担当者：	宮本 勉（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本講義では情報化と社会Ⅰの講義に続き、情報通信技術(IT)の新しい流れの例としてモバイル・コンピューティング、ユビキタス・コンピューティングをとりあげます。それぞれが表す概念から始め、現状、基礎となる技術を学習します。そしてこれらの社会へのインパクトを、プラスとマイナスの両方の側面から考察し、将来どのような方向に進むべきかを考えていきます。
授業方法：	基本的には講義を中心としますが、インターネットからの情報収集、演習、レポート等を適宜取り入れていきます。また、e-Campusをフルに活用するため、毎回の授業ではノートPCが必須となります。e-Campusに無線LANカードで接続できるように準備をしておいて下さい。
履修の留意点：	授業中e-Campusへの接続が必須ですので、講義が始まるまでにe-Campusネットワークに無線LANで接続できるようにしておいて下さい。 講義の中では、個々の知識の説明だけでなく、その知識の背景にある考え方も合わせて説明していきます。単なる知識の暗記に終わるのではなく、知識を真に自分のものとして吸収し、自分自身の意見を持つために活用できることを目標にして下さい。
目標と評価：	中間レポートおよび期末の筆記試験により評価します。講義中のアクティビティについては、特に優れたものについてはプラス点として加味して採点します。 学習の目標は、特に以下の点について基礎的な知識を得て、理解を深めることです。 1. モバイル・コンピューティング、ユビキタス・コンピューティングの概念 2. 現状、支える基礎技術 3. 社会へのインパクト(プラスの面、マイナスの面) 4. 進むべき方向
教科書：	デジタル社会と情報リテラシー 弘学出版
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「表計算によるビジネス情報分析」（担当者：久保 真）の履修の手引き

科目名：	表計算によるビジネス情報分析
担当者：	久保 真（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	自らの主張をより説得力のあるものにする最良の方法の一つは、数字を示すことです。逆に、当たり前なことだと考えている事柄でも、数字の裏付けが全くないようなものもあります。また、このような数字は、元データをいかに加工するかによって、まったく異なった結果が得られることも少なくありません。本講義は、経済やビジネスデータを題材に取りながら、そのような数字のマジックやトリックを見破ったり活用したりするために必要な術を身につけることを目的として、行われます。高校まで数学が苦手であったという人でも、数学的思考を深めたいという人なら、大変役に立つ授業になるよう努めます。
授業方法：	講義と実習とを組み合わせで行います。実習は、表計算ソフト（Microsoft Excel）を用いて、データ分析を行ってまいります。また、授業情報をウェブにて発信しますので、予復習を必ず行って下さい。
履修の留意点：	(1) 履修を希望するものは必ず初回の授業に出席して下さい。 (2) 授業にはパソコンをかならず持参して下さい。 なお、この授業は2004年度以前の入学者に対しては、「経済データの読み方」という名称で開講されます。
目標と評価：	具体的には、以下の三つの事柄を行えるようになることが目標です。 (1) 新聞記事やテレビのニュースのもとになっている元データにアクセスする (2) 表計算ソフトを、表作成ソフトとしてではなく、データ分析ソフトとして使う (3) ある主張を、データによって、実証または反証する 授業週に提出される課題（50%）と定期試験期間に提出されるレポート（50%）にもとづいて総合的に評価を下します。ただし、上記のレポートを提出することが単位修得の必要条件です。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「インターネット入門」（担当者：暮田 豊）の履修の手引き

科目名：	インターネット入門
担当者：	暮田 豊
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>アメリカでインターネットの起源といわれるネットワーク研究が始まって35年以上経過した。今では日本でもパソコンを使用している人々にとって、インターネットを利用する情報のやりとりは半ば当然の事となっている。</p> <p>又その間にコンピュータについても著しい変化や進歩があり、ネットワークとコンピュータが一体化する事により、コンピュータの利用分野も拡大していった。</p> <p>最近においては携帯電話等、手軽に持ち運びができる小型端末でも、インターネットを利用できる迄に技術が進んでいる。</p> <p>春学期においてはインターネットの歴史を学んだ後、クライアント側（使用する側）からの立場でブラウザ、電子メール、FTP、ネットニュース、チャットなどの利用法を学習していく。</p>
授業方法：	授業計画に基づき、インターネットの歴史及び様々な利用方法を順に学習していく。
履修の留意点：	インターネットの習得が目的であるので、パソコンは毎授業持参する事。
目標と評価：	インターネットの歴史についての基本的な知識を身に付ける事、又利用法に習熟する事が目的であるので、テスト及び実習により総合的に評価を行う。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「インターネット入門」（担当者：暮田 豊）の履修の手引き

科目名：	インターネット入門
担当者：	暮田 豊
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>アメリカでインターネットの起源といわれるネットワーク研究が始まって35年以上経過した。今では日本でもパソコンを使用している人々にとって、インターネットを利用する情報のやりとりは半ば当然の事となっている。</p> <p>又その間にコンピュータについても著しい変化や進歩があり、ネットワークとコンピュータが一体化する事により、コンピュータの利用分野も拡大していった。</p> <p>最近においては携帯電話等、手軽に持ち運びができる小型端末でも、インターネットを利用できる迄に技術が進んでいる。</p> <p>春学期においてはインターネットの歴史を学んだ後、クライアント側（使用する側）からの立場でブラウザ、電子メール、FTP、ネットニュース、チャットなどの利用法を学習していく。</p>
授業方法：	授業計画に基づき、インターネットの歴史及び様々な利用方法を順に学習していく。
履修の留意点：	インターネットの習得が目的であるので、パソコンは毎授業持参する事。
目標と評価：	インターネットの歴史についての基本的な知識を身に付ける事、又利用法に習熟する事が目的であるので、テスト及び実習により総合的に評価を行う。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「インターネット応用」（担当者：暮田 豊）の履修の手引き

科目名：	インターネット応用
担当者：	暮田 豊
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	春学期ではクライアント側（利用する側）からのインターネット技術を学んだ。秋学期では視点を変え、サーバー側（提供する側）からインターネットの仕組みを学ぶ。WWW、MAIL、FTP、NNTP、IRC等の用語のいくつかは、一般によく知られているが、このようなインターネット上のサービスが、どのような仕組みで提供されているのか学んでいく。又インターネットが広がっていくにつれて、ネットワーク上のトラブルも多発している。これに関連して、プライバシー保護やセキュリティの問題も法律化されつつあり、これらの基礎的な知識も学ぶ。更にHTMLやXMLによるWebページの学習、CGI、SSI等のサーバーを利用したWebサイトの作成等、実習を通じて基礎的な知識を習得する。
授業方法：	授業計画に則って、各項目を順に学習していく。
履修の留意点：	毎授業各自パソコンを持参する事。
目標と評価：	サーバー側に立ってインターネットの仕組みを理解する事が目標である。又HTML、CGI等の実習によりサーバー側プログラミングの仕組みを理解する。 評価の方法はテスト及び実習により総合的に行う。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「インターネット応用」（担当者：暮田 豊）の履修の手引き

科目名：	インターネット応用
担当者：	暮田 豊
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	春学期ではクライアント側（利用する側）からのインターネット技術を学んだ。秋学期では視点を変え、サーバー側（提供する側）からインターネットの仕組みを学ぶ。WWW、MAIL、FTP、NNTP、IRC等の用語のいくつかは、一般によく知られているが、このようなインターネット上のサービスが、どのような仕組みで提供されているのか学んでいく。又インターネットが広がっていくにつれて、ネットワーク上のトラブルも多発している。これに関連して、プライバシー保護やセキュリティの問題も法律化されつつあり、これらの基礎的な知識も学ぶ。更にHTMLやXMLによるWebページの学習、CGI、SSI等のサーバーを利用したWebサイトの作成等、実習を通じて基礎的な知識を習得する。
授業方法：	授業計画に則って、各項目を順に学習していく。
履修の留意点：	毎授業各自パソコンを持参する事。
目標と評価：	サーバー側に立ってインターネットの仕組みを理解する事が目標である。又HTML、CGI等の実習によりサーバー側プログラミングの仕組みを理解する。 評価の方法はテスト及び実習により総合的に行う。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネスアプリケーション応用Ⅰ」（担当者：木下 恂）の履修の手引き

科目名：	ビジネスアプリケーション応用Ⅰ
担当者：	木下 恂
設置学期：	春
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	テーマ：Excelによる表計算 パソコンの代表的なアプリケーションソフトであるExcelを用いて、表計算の概念を学び、様々な表やデータを整理するために必要な基本操作を習得する。
授業方法：	毎回、実践的な例題による演習中心で進める。 内容は概略、以下のスケジュールによる。 <第1週> 表作成（1）：Excelの基本操作 入力と編集 <第2週> 表作成（2）：計算式を使った表の作成 <第3週> 関数（1）：関数の設定方法 <第4週> 関数（2）：いろいろな関数 <第5週> 関数（3）：関数の活用 <第6週> グラフ（1）：グラフの作成とアレンジ <第7週> グラフ（2）：目的に合ったグラフの選択（1） <第8週> グラフ（3）：目的に合ったグラフの選択（2） <第9週> グラフ（4）：複雑なグラフ、グラフでの分析 <第10週> 分析とシミュレーション <第11週> 複数ページの利用 <第12週> データ処理（1）：データ処理用の表の規則 <第13週> データ処理（2）：データの集計
履修の留意点：	ノートパソコン等を使用する。 遅刻/早退の場合は、必ず理由を報告すること
目標と評価：	目標は、Excelの基本的な操作ができるようになる。 評価は、試験、レポート、出席状況による。
教科書：	使用しない（資料を配布する）
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネスアプリケーション応用Ⅱ」（担当者：木下 恂）の履修の手引き

科目名：	ビジネスアプリケーション応用Ⅱ
担当者：	木下 恂
設置学期：	秋
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	<p>テーマ：Excel+VBA 表計算アプリケーションExcelに付属するプログラミング言語Visual Basic for Application (VBA)を利用した独自のプロシージャの作成により、データ処理の自動化、データベースなど他のアプリケーションとの連携、効果的なユーザーインターフェースの設計を行う技法を身に付けることを目的とする。更に、一般的なプログラミングを行う際に必要となる技法や作法を学ぶ。</p>
授業方法：	<p>Excelが搭載されているノート型パソコンを用い、実習と演習を中心とした実践的な授業をすすめる。概略以下のスケジュールによる。</p> <p> <第1週> VBAの基本(1) <第2週> VBAの基本(2) <第3週> VBAの基本(3) <第4週> プログラミングの基本(1) <第5週> プログラミングの基本(2) <第6週> プログラミングの基本(3) <第7週> プログラミングの基本(4) <第8週> ちょっと高度なプログラミング(1) <第9週> ちょっと高度なプログラミング(2) <第10週> ちょっと高度なプログラミング(3) <第11週> ダイアログとユーザーインターフェースの設計(1) <第12週> ダイアログとユーザーインターフェースの設計(2) <第13週> ダイアログとユーザーインターフェースの設計(3) </p>
履修の留意点：	<p>本講座を受講するには、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ビジネスアプリケーション応用Ⅰ」をあらかじめ受講済みであること。 ・Windowsを中心とするパソコン開発環境に慣れていること。 <p>遅刻/早退の場合は、必ず理由を報告すること。</p>
目標と評価：	<p>目標は、VBAによる一般的なプログラミング技法や作法を身に付ける。 評価は、課題、レポートの成績、および日頃の実習態度により総合判断する。</p>
教科書：	使用しない。(必要な資料は配布する)
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「データベース入門」（担当者：村上 哲也）の履修の手引き

科目名：	データベース入門
担当者：	村上 哲也
設置学期：	春
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	ワードプロセッサ、表計算、データベースの三つは、パーソナルコンピュータで利用するソフトウェアの基本と言われている。その中でワードプロセッサと表計算は文書作成のために使われるいわば付随的なソフトウェアであるのに対し、データベースは、パーソナルコンピュータに限らず、本来コンピュータの事務的な使用の基本であるデータ処理を行うためのソフトウェアである。このソフトウェアを使って作るのは、文書のようなデータではなく、データを処理するための様々な仕組みである。この仕組みを理解するためにデータベースの設計・データ入力・データベースの利用を演習を通し習得する。
授業方法：	ノートパソコンを用い、リレーショナルデータベースソフトウェア「Access」の基本的利用法を実習中心に進める
履修の留意点：	特になし
目標と評価：	身近な情報をもとに、データベースシステムを構成する各要素の作成を通し、システム全体関係を理解する。 ・ テーブル ・ フォーム ・ レポート ・ クエリ 最終的にはリレーションシップ・マクロの利用により、ある程度実用に耐えられるデータベースシステムの作成ができることを目標とする。 ■評価は提出課題による。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「データベース入門」（担当者：山際 基）の履修の手引き

科目名：	データベース入門
担当者：	山際 基
設置学期：	春
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	ワードプロセッサ、表計算、データベースの三つは、パーソナルコンピュータで利用するソフトウェアの基本と言われている。その中でワードプロセッサと表計算は文書作成のために使われるいわば付随的なソフトウェアであるのに対し、データベースは、パーソナルコンピュータに限らず、本来コンピュータの事務的な使用の基本であるデータ処理を行うためのソフトウェアである。このソフトウェアを使って作るのは、文書のようなデータではなく、データを処理するための様々な仕組みである。この仕組みを理解するためにデータベースの設計・データ入力・データベースの利用を演習を通し習得する。
授業方法：	ノートパソコンを用いた実習及び講義による。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	データベースシステムを構成する各要素（テーブル、フォーム、レポート、クエリ）の作成を通し、システム全体関係を理解する。最終的にはリレーションシップ・マクロの利用により、ある程度実用に耐えられるデータベースシステムの作成ができることを目標とする。 授業中の課題の提出で評価する。
教科書：	30時間でマスター Access 2003 実教出版編修部 編 実教出版 2004年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「データベース入門（再履修用）」（担当者：山際 基）の履修の手引き

科目名：	データベース入門（再履修用）
担当者：	山際 基
設置学期：	秋
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	ワードプロセッサ、表計算、データベースの三つは、パーソナルコンピュータで利用するソフトウェアの基本と言われている。その中でワードプロセッサと表計算は文書作成のために使われるいわば付随的なソフトウェアであるのに対し、データベースは、パーソナルコンピュータに限らず、本来コンピュータの事務的な使用の基本であるデータ処理を行うためのソフトウェアである。このソフトウェアを使って作るのは、文書のようなデータではなく、データを処理するための様々な仕組みである。この仕組みを理解するためにデータベースの設計・データ入力・データベースの利用を演習を通し習得する。
授業方法：	ノートパソコンを用いた実習及び講義による。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	データベースシステムを構成する各要素（テーブル、フォーム、レポート、クエリ）の作成を通し、システム全体関係を理解する。最終的にはリレーションシップ・マクロの利用により、ある程度実用に耐えられるデータベースシステムの作成ができることを目標とする。 授業中の課題の提出で評価する。
教科書：	30時間でマスター Access 2003 実教出版編修部 編 実教出版 2004年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「データベース応用」（担当者：村上 哲也）の履修の手引き

科目名：	データベース応用
担当者：	村上 哲也
設置学期：	秋
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	データを効率良く管理、蓄積する手段としてデータベースがある。データベースを利用することでデータを容易に管理することができるため、顧客管理や仕入れ・受注管理から個人の住所録まで企業や個人を問わず広く利用されている。本講義では、データベースの意味や利用例から講義を行ない、実際にデータベースを設計、運用することによりデータベースの作成法やデータの操作、編集といったデータベースの基礎について学習する。データベースの設計にはRDBMS (Relational DataBase Management System)を採用し、データベースの作成やデータの操作を行なうための基礎ともいえるプログラム言語SQLを学習する。さらに、パーソナルコンピュータ向けの RDBMS ソフトウェアの代表格” Microsoft Access “を使用してデータベースを設計・運用していく。
授業方法：	ノートパソコンを用いた実習を中心に講義を進めていく。
履修の留意点：	データベース入門の履修を前提とする。
目標と評価：	データベースとは何かについて講義を行なう。データベースがどのような場所でどのような場合において利用されているか、データベースの種類などについて講義する。さらに実際に RDBMS を使用してデータベースを設計、運用することによりデータベースの使用法の基礎を学ぶ。まじめにリレーショナル・データベース向けに規格化、標準化された言語である SQL の基礎について講義・実習を行なうことでデータベースの作成やデータの検索、操作を行なうための基本手法を学ぶ。 その後、Microsoft Access を使用してデータベース を設計・運用する。まずMicrosoft Accessのもつ機能やその使用方法について学習し、テーブルの作成ではデータベースの作成方法を、クエリの作成ではデータの操作法を、フォームの作成やレポートの作成では運用時のデータの表示や印刷について順次学習する。また他のアプリケーションとの連携やマクロなど独自の機能についても学習する。 ■評価は提出課題による。
教科書：	最新SQLがわかる 小野哲 他 技術評論社
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「マルチメディア演習Ⅰ」（担当者：由木尾 武）の履修の手引き

科目名：	マルチメディア演習Ⅰ
担当者：	由木尾 武
設置学期：	春
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	<p>パソコンを使用して文書を編集し、仮想のレイアウト用紙上にデザインして、印刷を行う「DTP (DeskTop Publishing)」に必要な知識と技能を習得する。</p> <p>使用ソフト：Adobe InDesign 2.0 到達目標：InDesignの操作方法を習得することにより、自己表現力を豊かにする。 受講対象：DTPソフト使用未経験者</p>
授業方法：	<p>机上の講義やマニュアル的な操作学習ではなく、下記の5つの作品の制作を通じてInDesignの操作方法を習得し、自己の表現力を磨く。</p> <p>① 名刺用紙の設計と名刺の作成 ② はがき用紙の設計とはがきの作成 ③ A4の見開きパンフレットの設計と作成 ④ A4の段組みパンフレットの設計と作成 ⑤ A4、8ページのパンフレット作成</p>
履修の留意点：	<p>① InDesignの操作方法を取得するためには、初回はもとより、毎回継続して受講すること。 ② 操作方法の習得は、あくまでも自己表現力を豊かにするためのものなので、ものまねではなく、5つの作品を制作することを通じて、自分をいかに表現するかが大切です。 ③ 教科書の購入は不要です。毎回、履修内容にそったマニュアルを用意します。</p>
目標と評価：	<p>① 履修状況と作成する作品の出来栄え（自己表現力）で評価する。 ② 定期試験は行わない。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「マルチメディア演習Ⅰ」（担当者：小林 憲夫）の履修の手引き

科目名：	マルチメディア演習Ⅰ
担当者：	小林 憲夫
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	1と2で構成される通年選択を前提とした授業。現代の社会(企業)において不可欠の技術である「プレゼンテーション」での表現力を飛躍的に向上させる手法を学ぶ。 本講座では、一般に普及しているマイクロソフト社のPowerPointを使い、マルチメディア技術と組み合わせることで、他とは一線を画する強力なプレゼンテーションに挑戦する。
授業方法：	授業の基本は講義形式であるが、プレゼンテーションでは習熟も大切であるため、必要に応じて学生自身に積極的に参加してもらいインタラクティブな内容を目指す。 ■概略 1回目 自己紹介、プレゼンテーションとは 2回目 パワーポイントの基本的使い方 3回目 動きの種類と利用法 4回目 アニメーション 5回目 アニメーションの制作 6回目 図形の作成 7回目 図形の挿入 8回目 動くイラストでプレゼンテーション 9回目 音を使ってみる 10回目 録音して新しい音を作る 11回目 デジタルカメラで撮影する 12回目 画像の編集加工 13回目 画像の張り込み（背景と貼り付け）
履修の留意点：	1と2で構成されるため、通年での選択が好ましい。
目標と評価：	授業では積極的な発言を求めると同時に、参加＝出席という考え方から成績にも反映させる。なお、期末試験は実施せず、平常点で評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「マルチメディア演習Ⅰ」（担当者：小林 憲夫）の履修の手引き

科目名：	マルチメディア演習Ⅰ
担当者：	小林 憲夫
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	1と2で構成される通年選択を前提とした授業。現代の社会(企業)において不可欠の技術である「プレゼンテーション」での表現力を飛躍的に向上させる手法を学ぶ。 本講座では、一般に普及しているマイクロソフト社のPowerPointを使い、マルチメディア技術と組み合わせることで、他とは一線を画する強力なプレゼンテーションに挑戦する。
授業方法：	授業の基本は講義形式であるが、プレゼンテーションでは習熟も大切であるため、必要に応じて学生自身に積極的に参加してもらいインタラクティブな内容を目指す。 ■概略 1回目 自己紹介、プレゼンテーションとは 2回目 パワーポイントの基本的使い方 3回目 動きの種類と利用法 4回目 アニメーション 5回目 アニメーションの制作 6回目 図形の作成 7回目 図形の挿入 8回目 動くイラストでプレゼンテーション 9回目 音を使ってみる 10回目 録音して新しい音を作る 11回目 デジタルカメラで撮影する 12回目 画像の編集加工 13回目 画像の張り込み（背景と貼り付け）
履修の留意点：	1と2で構成されるため、通年での選択が好ましい。
目標と評価：	授業では積極的な発言を求めると同時に、参加＝出席という考え方から成績にも反映させる。なお、期末試験は実施せず、平常点で評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「マルチメディア演習Ⅱ」（担当者：由木尾 武）の履修の手引き

科目名：	マルチメディア演習Ⅱ
担当者：	由木尾 武
設置学期：	秋
開講回数：	全26回
週コマ数：	週2コマ
概要：	<p>パソコンを使ったビデオスライド作成やビデオ編集など、これからの時代のパソコンの活用方法を習得する。</p> <p>使用ソフト：PowerPoint Ulead MediaStudio Pro 6.0</p> <p>到達目標：自己表現のツールとして、PowerPointやMediaStudio Pro 6.0などのマルチメディア機能を学び、デジタル・コミュニケーションによる自己表現力を身に付ける。</p> <p>受講対象：ビデオ編集の初心者</p>
授業方法：	<p>机上の講義ではなく、操作実習を中心に、下記の各項目を履修しながら、ビデオスライド作成、ビデオ編集方法を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PowerPointによるビデオスライドの作成 2. Ulead MediaStudio Proによるビデオ編集
履修の留意点：	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各ソフトの操作方法を習得するためには、初回はもとより、毎回継続して受講すること。 2. 操作方法の習得は、あくまでも自己表現力を豊かにするためのものなので、ものまねではなく、自分の発想で、自分の創作物を制作することが大切です。 3. 市販教科書の購入は不要です。毎回、履修内容にそったマニュアルを用意します。
目標と評価：	<ol style="list-style-type: none"> 1. 履修状況と制作する作品の出来栄え（自己表現力）で評価する。 2. 定期試験は行わない
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「マルチメディア演習Ⅱ」（担当者：小林 憲夫）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「マルチメディア演習Ⅱ」（担当者：小林 憲夫）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「ウェブページ作成演習」（担当者：小林 憲夫）の履修の手引き

科目名：	ウェブページ作成演習
担当者：	小林 憲夫
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	1と2で構成される通年選択を前提とした授業。現代の社会(企業)において不可欠の技術である「プレゼンテーション」は、自己表現手法のひとつである。しかしプレゼンテーションは表現形態であるため、利用するメディアが大きな要素となる。本講義では、「ウェブプレゼンテーション」というタイトルどおり、インターネットを利用した自己表現・情報発信を行うための技術・知識の習得が目標である。前後期一年がかりであることと、基本から学習するためにサーバーの構築などから始める。
授業方法：	授業の基本は講義形式であるが、プレゼンテーションでは習熟も大切であるため、必要に応じて学生自身に積極的に参加してもらいインタラクティブな内容を目指す。 ■概略 1回目 自己紹介、インターネットとは 2回目 インターネットの基本技術 3回目 WWWサーバーの構築 4回目 FTPサーバーの構築 5回目 ブラウザの機能と仕組み 6回目 HTML言語 7回目 ウェブページの作成 8回目 ウェブページによるプレゼンテーション 9回目 FTPソフトによるアップロード 10回目 ブラウザによるPDF情報配信 11回目 ピアツーピア技術による情報交換 12回目 メディアプレーヤーの使い方 13回目 圧縮技術あれこれ
履修の留意点：	1と2で構成されるいるため、通年で選択することが望ましい。
目標と評価：	授業では積極的な発言を求めると同時に、参加＝出席という考え方から成績にも反映させる。なお、期末試験は実施せず、平常点で評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ウェブページデザイン演習」（担当者：小林 憲夫）の履修の手引き

科目名：	ウェブページデザイン演習
担当者：	小林 憲夫
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	現在のホームページは、ほとんどがDreamweaverなどの作成ソフトを使い、JavascriptやFlashを大量に利用したものであり、デザインもこうしたソフトを前提としたものになっている。本講義では、こうした最先端のウェブデザインを知識として学ぶために、ウェブデザインの分類や種類などの解説を通してウェブデザインを見る目を養うことを基本とする。さらにこうしたデザインをどのように作成するか、画像処理ソフトやホームページ作成ソフトを利用して実際にホームページを制作する。
授業方法：	毎回、テキストをプロジェクターで表示しながら説明する。テキストは同時に授業用ウェブサイトにもアップするので、予習・復習を行なうことができる。画像処理およびホームページ作成ソフトは、可能な限りフリーソフトを利用する。
履修の留意点：	各自がノートパソコンを持参すること。授業内容および課題はすべて前日までに授業用ウェブサイトへアップするので、事前にチェックしておいて欲しい。
目標と評価：	出席日数と授業中に出す課題の提出状況および授業態度などを総合的に評価する。期末テストは行なわない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータプレゼンテーション演習」（担当者：古閑 博美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータプレゼンテーション演習
担当者：	古閑 博美（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本科目では、口頭によるプレゼンテーションとパワー・ポイントによるプレゼンテーションについて学ぶ。パワー・ポイントで二つの課題を制作する。課題は、①自己紹介、②私が紹介したいこと・もの・ひと（「こと・もの・ひと」のなかからどれかひとつ選択する）。
授業方法：	講義と演習。グループ学習。全員がパワー・ポイントを使って発表する。 教科書 ①ひと目でわかるMicrosoft PowerPointプレゼン術—プロが教える納得のビジュアルテクニック、大平邦登・堀池裕美、日経BPソフトプレス ② 日本語会話表現法とプレゼンテーション、古閑・倉田・金子、学文社、1999年
履修の留意点：	出席、授業態度、提出物の締切期限を守るなどに留意する。
目標と評価：	①プレゼンテーションを理解する。 ②パワー・ポイントを使用してプレゼンができるようにする。 評価：平常の授業態度、発表、パワー・ポイント制作の内容等で評価する。
教科書：	ひと目でわかるMicrosoft PowerPointプレゼン術—プロが教える納得のビジュアルテクニ 大平邦登・堀池裕美 日経BPソフトプレス
参考書：	日本語会話表現法とプレゼンテーション 古閑・倉田・金子 学文社 1999年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータプレゼンテーション演習」（担当者：古閑 博美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータプレゼンテーション演習
担当者：	古閑 博美（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本科目では、口頭によるプレゼンテーションとパワー・ポイントによるプレゼンテーションについて学ぶ。パワー・ポイントで二つの課題を制作する。課題は、①自己紹介、②私が紹介したいこと・もの・ひと（「こと・もの・ひと」のなかからどれかひとつ選択する）。
授業方法：	講義と演習。グループ学習。全員がパワー・ポイントを使って発表する。 教科書 ①ひと目でわかるMicrosoft PowerPointプレゼン術—プロが教える納得のビジュアルテクニック、大平邦登・堀池裕美、日経BPソフトプレス ②日本語会話表現法とプレゼンテーション、古閑・倉田・金子、学文社、1999年
履修の留意点：	出席、授業態度、提出物の締切期限を守るなどに留意する。
目標と評価：	①プレゼンテーションを理解する。 ②パワー・ポイントを使用してプレゼンができるようにする。 評価：平常の授業態度、発表、パワー・ポイント制作の内容等で評価する。
教科書：	ひと目でわかるMicrosoft PowerPointプレゼン術—プロが教える納得のビジュアルテクニ 大平邦登・堀池裕美 日経BPソフトプレス
参考書：	日本語会話表現法とプレゼンテーション 古閑・倉田・金子 学文社 1999年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータプレゼンテーション演習」（担当者：湖東 善明）の履修の手引き

科目名：	コンピュータプレゼンテーション演習
担当者：	湖東 善明
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	目的に応じた適切なプレゼンテーションをおこなう能力を養成する。 代表的なプレゼンテーション用アプリケーションであるマイクロソフトPowerPointの基本操作について学ぶ。
授業方法：	パソコンを使用して講義と実習を行う。 プレゼンテーション企画立案 ストーリーの作成 プログラムの作成 パワーポイントの基本操作 スライドの作成 特殊効果 最終課題
履修の留意点：	Windowsの基本操作ができること
目標と評価：	目標 自由にPowerPointの操作ができ、簡単なプレゼンテーションを作成できる。 評価点 平常の実習課題 60% 最終課題 40%
教科書：	30時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint2003 実教出版編集部 実教出版 2004年10月
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータプレゼンテーション演習（再履修用）」（担当者：湖東 善明）の履修の手引き

科目名：	コンピュータプレゼンテーション演習（再履修用）
担当者：	湖東 善明
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	目的に応じた適切なプレゼンテーションをおこなう能力を養成する。 代表的なプレゼンテーション用アプリケーションであるマイクロソフトPowerPointの基本操作について学ぶ。
授業方法：	パソコンを使用して講義と実習を行う。 プレゼンテーション企画立案 ストーリーの作成 プログラムの作成 パワーポイントの基本操作 スライドの作成 特殊効果 最終課題
履修の留意点：	Windowsの基本操作ができること
目標と評価：	目標 自由にPowerPointの操作ができ、簡単なプレゼンテーションを作成できる。 評価点 平常の実習課題 60% 最終課題 40%
教科書：	30時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint2003 実教出版編集部 実教出版 2004年10月
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「Webプレゼンテーション I」（担当者：暮田 豊）の履修の手引き

科目名：	Webプレゼンテーション I
担当者：	暮田 豊
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>アメリカでインターネットの起源といわれるネットワーク研究が始まって35年以上経過した。今では日本でもパソコンを使用している人々にとって、インターネットを利用する情報のやりとりは半ば当然の事となっている。</p> <p>又その間にコンピュータについても著しい変化や進歩があり、ネットワークとコンピュータが一体化する事により、コンピュータの利用分野も拡大していった。</p> <p>最近においては携帯電話等、手軽に持ち運びができる小型端末でも、インターネットを利用できる迄に技術が進んでいる。</p> <p>春学期においてはインターネットの歴史を学んだ後、クライアント側（使用する側）からの立場でブラウザ、電子メール、FTP、ネットニュース、チャットなどの利用法を学習していく。</p>
授業方法：	授業計画に基づき、インターネットの歴史及び様々な利用方法を順に学習していく。
履修の留意点：	インターネットの習得が目的であるので、パソコンは毎授業持参する事。
目標と評価：	インターネットの歴史についての基本的な知識を身に付ける事、又利用法に習熟する事が目的であるので、テスト及び実習により総合的に評価を行う。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「Webプレゼンテーション I」（担当者：暮田 豊）の履修の手引き

科目名：	Webプレゼンテーション I
担当者：	暮田 豊
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>アメリカでインターネットの起源といわれるネットワーク研究が始まって35年以上経過した。今では日本でもパソコンを使用している人々にとって、インターネットを利用する情報のやりとりは半ば当然の事となっている。</p> <p>又その間にコンピュータについても著しい変化や進歩があり、ネットワークとコンピュータが一体化する事により、コンピュータの利用分野も拡大していった。</p> <p>最近においては携帯電話等、手軽に持ち運びができる小型端末でも、インターネットを利用できる迄に技術が進んでいる。</p> <p>春学期においてはインターネットの歴史を学んだ後、クライアント側（使用する側）からの立場でブラウザ、電子メール、FTP、ネットニュース、チャットなどの利用法を学習していく。</p>
授業方法：	授業計画に基づき、インターネットの歴史及び様々な利用方法を順に学習していく。
履修の留意点：	インターネットの習得が目的であるので、パソコンは毎授業持参する事。
目標と評価：	インターネットの歴史についての基本的な知識を身に付ける事、又利用法に習熟する事が目的であるので、テスト及び実習により総合的に評価を行う。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「Webプレゼンテーション I」（担当者：小林 憲夫）の履修の手引き

科目名：	Webプレゼンテーション I
担当者：	小林 憲夫
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	1と2で構成される通年選択を前提とした授業。現代の社会(企業)において不可欠の技術である「プレゼンテーション」は、自己表現手法のひとつである。しかしプレゼンテーションは表現形態であるため、利用するメディアが大きな要素となる。本講義では、「ウェブプレゼンテーション」というタイトルどおり、インターネットを利用した自己表現・情報発信を行うための技術・知識の習得が目標である。前後期一年がかりであることと、基本から学習するためにサーバーの構築などから始める。
授業方法：	<p>授業の基本は講義形式であるが、プレゼンテーションでは習熟も大切であるため、必要に応じて学生自身に積極的に参加してもらいインタラクティブな内容を目指す。</p> <p>■概略</p> <p>1回目 自己紹介、インターネットとは 2回目 インターネットの基本技術 3回目 WWWサーバーの構築 4回目 FTPサーバーの構築 5回目 ブラウザの機能と仕組み 6回目 HTML言語 7回目 ウェブページの作成 8回目 ウェブページによるプレゼンテーション 9回目 FTPソフトによるアップロード 10回目 ブラウザによるPDF情報配信 11回目 ピアツーピア技術による情報交換 12回目 メディアプレーヤーの使い方 13回目 圧縮技術あれこれ</p>
履修の留意点：	1と2で構成されるいるため、通年で選択することが望ましい。
目標と評価：	授業では積極的な発言を求めると同時に、参加＝出席という考え方から成績にも反映させる。なお、期末試験は実施せず、平常点で評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「WebプレゼンテーションⅡ」（担当者：暮田 豊）の履修の手引き

科目名：	WebプレゼンテーションⅡ
担当者：	暮田 豊
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	春学期ではクライアント側（利用する側）からのインターネット技術を学んだ。秋学期では視点を変え、サーバー側（提供する側）からインターネットの仕組みを学ぶ。WWW、MAIL、FTP、NNTP、IRC等の用語のいくつかは、一般によく知られているが、このようなインターネット上のサービスが、どのような仕組みで提供されているのか学んでいく。又インターネットが広がっていくにつれて、ネットワーク上のトラブルも多発している。これに関連して、プライバシー保護やセキュリティの問題も法律化されつつあり、これらの基礎的な知識も学ぶ。更にHTMLやXMLによるWebページの学習、CGI、SSI等のサーバーを利用したWebサイトの作成等、実習を通じて基礎的な知識を習得する。
授業方法：	授業計画に則って、各項目を順に学習していく。
履修の留意点：	毎授業各自パソコンを持参する事。
目標と評価：	サーバー側に立ってインターネットの仕組みを理解する事が目標である。又HTML、CGI等の実習によりサーバー側プログラミングの仕組みを理解する。 評価の方法はテスト及び実習により総合的に行う。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「WebプレゼンテーションⅡ」（担当者：暮田 豊）の履修の手引き

科目名：	WebプレゼンテーションⅡ
担当者：	暮田 豊
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	春学期ではクライアント側（利用する側）からのインターネット技術を学んだ。秋学期では視点を変え、サーバー側（提供する側）からインターネットの仕組みを学ぶ。WWW、MAIL、FTP、NNTP、IRC等の用語のいくつかは、一般によく知られているが、このようなインターネット上のサービスが、どのような仕組みで提供されているのか学んでいく。又インターネットが広がっていくにつれて、ネットワーク上のトラブルも多発している。これに関連して、プライバシー保護やセキュリティの問題も法律化されつつあり、これらの基礎的な知識も学ぶ。更にHTMLやXMLによるWebページの学習、CGI、SSI等のサーバーを利用したWebサイトの作成等、実習を通じて基礎的な知識を習得する。
授業方法：	授業計画に則って、各項目を順に学習していく。
履修の留意点：	毎授業各自パソコンを持参する事。
目標と評価：	サーバー側に立ってインターネットの仕組みを理解する事が目標である。又HTML、CGI等の実習によりサーバー側プログラミングの仕組みを理解する。 評価の方法はテスト及び実習により総合的に行う。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「WebプレゼンテーションⅡ」（担当者：小林 憲夫）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「コンピュータによる論文作成の技術」（担当者：森本 孝）の履修の手引き

科目名：	コンピュータによる論文作成の技術
担当者：	森本 孝（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>コンピュータを利用した論文やレポートの作成の方法について学びます。</p> <p>論文やレポートは、論理的な構成を持ち、適切な図表やデータを含んでいるのが通例です。これらを作成するためには、ワープロソフトのアウトラインプロセッサ機能、図形描画機能などを適切に活用する必要があります。</p> <p>また、データが含まれる論文やレポートの場合、それらを適切に分析し、グラフや図表の形でわかりやすく表現できなくてはなりません。</p> <p>この授業では、ワープロソフトや表計算ソフトの高度な活用法について学ぶことを通じて、コンピュータを活用した論文・レポートの効率的な作成法を身につけます。</p>
授業方法：	ノートパソコンを使った実習を中心に授業を進めます。
履修の留意点：	<p>① 一定のタイピング能力とWordに関する基本的な操作能力があることを履修の前提とします。具体的には、『コンピュータリテラシI』に合格していることが必要です。『コンピュータリテラシI』不合格者で、履修を希望する場合には、初回の授業に必ず出席して、授業担当者と相談してください。</p> <p>② ノートパソコンを充電して持参する必要があります。</p>
目標と評価：	随時課す課題と期末の授業内実技試験によって評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータプレゼンテーション」（担当者：宮本 勉）の履修の手引き

科目名：	コンピュータプレゼンテーション
担当者：	宮本 勉（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	現在の経営活動においてプレゼンテーション(企画等の提案行動)の機会は非常に多くなっており、このプレゼンテーションもパソコンを使ったコンピュータプレゼンテーションが主流である。このパソコンを使ったコンピュータプレゼンテーションについて企画立案からパソコンの資料作成、発表までの一連の技術を実践的に学ぶことを目標とする。資料作成についてはMS-PowerPointを使って作成する
授業方法：	この授業は実習授業です、したがって各自のノートPCが必須である。この授業では演習、実習、レポート等を行う。
履修の留意点：	パソコンを利用する授業なのでパソコンのバッテリーの充電を必ず行っておくこと ネットワークを利用するのでネットワークに接続できるようにすること 実習中心なので1回1回の授業が重要であるので欠席をしないこと
目標と評価：	各自で企画から資料作成、発表を行うことができるようになることが目標である 各自、自分のテーマをプレゼンできるようになるようになることを目標とする プレゼンに関するレポートと出席状況、授業態度等を総合的に評価する
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータプレゼンテーション」（担当者：宮本 勉）の履修の手引き

科目名：	コンピュータプレゼンテーション
担当者：	宮本 勉（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	現在の経営活動においてプレゼンテーション(企画等の提案行動)の機会は非常に多くなっており、このプレゼンテーションもパソコンを使ったコンピュータプレゼンテーションが主流である。このパソコンを使ったコンピュータプレゼンテーションについて企画立案からパソコンの資料作成、発表までの一連の技術を実践的に学ぶことを目標とする。資料作成についてはMS-PowerPointを使って作成する
授業方法：	この授業は実習授業です、したがって各自のノートPCが必須である。この授業では演習、実習、レポート等を行う。
履修の留意点：	パソコンを利用する授業なのでパソコンのバッテリーの充電を必ず行っておくこと ネットワークを利用するのでネットワークに接続できるようにすること 実習中心なので1回1回の授業が重要であるので欠席をしないこと
目標と評価：	各自で企画から資料作成、発表を行うことができるようになることが目標である 各自、自分のテーマをプレゼンできるようになるようになることを目標とする プレゼンに関するレポートと出席状況、授業態度等を総合的に評価する
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータプレゼンテーション」（担当者：由木尾 武）の履修の手引き

科目名：	コンピュータプレゼンテーション
担当者：	由木尾 武
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>企業活動における会議や営業の際に利用されることの多いプレゼンテーションソフトウェアの利用法を中心にデジタル時代のプレゼンテーション手法を学ぶ。</p> <p>使用ソフト：PowerPoint 到達目標：企業活動を通じて自己実現を図るための自己表現手法を身に付ける。 受講対象：ピカールの企業人になることを目指す人 ：将来、自分の会社を作ろうと思う人</p>
授業方法：	<p>机上の講義ではなく、プレゼンテーションのための作品作成と実習を通じて、実践的なプレゼンテーション手法を学ぶ。</p> <p>組織人としての自己表現方法を身につけるためのプレゼンテーション ・会社のPR ・商品説明 ・グラフ ・論点整理</p>
履修の留意点：	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション手法を習得するためには、初回はもとより、毎回継続して受講すること。 ・市販の教科書は使いません。毎回、履修内容にそったマニュアルを用意します。
目標と評価：	<ul style="list-style-type: none"> ・履修状況とプレゼンテーションの出来栄（プレゼンテーション力）で評価する。 ・定期試験は行わない。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「エンドユーザプログラミング I」（担当者：松嶋 璋幸）の履修の手引き

科目名：	エンドユーザプログラミング I
担当者：	松嶋 璋幸
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	Windowsのプログラミング言語であるVisual Basic .NETによるプログラム作成の基礎を学びます。編集、コンパイル、実行、デバッグなどのプログラム作成ツールの利用方法とプログラミング言語の基本的文法を習得することにより簡単なプログラムを作成できる能力を養います。 ここで学んだ手法がインターネット用のプログラム作成にも通用するように、またVisual basicに限らず他の言語の場合にも通用するプログラム作成ツールを身につけられるようVisual Studio .NETの手法を学びます。
授業方法：	13週の講義は演習や実習を随所にとり入れて進めてゆきます。つまりパソコンを使って実際にプログラムの動作を確かめながら習得してゆく方法です。
履修の留意点：	パソコンを使ってWindowsの基本的な操作ができることを前提としています。
目標と評価：	この授業を受講した学生は以下のことができるようになっていいると思ひますし、またそうなるように学習してください。 ○Windowsとアプリケーションプログラムの関係を説明できる。 ○Visual Basic .NETの基本的文法を理解している。 ○主な関数の使い方が分かっている。 ○プログラミング手順とプログラムの実行方法などを理解している。 評価は以下の項目ごとの数値を加算して算出します。 ○出席状況・・・30% ○平常評価・・・70% (授業中の理解度テスト、課題、授業態度など)
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「エンドユーザプログラミングⅡ」（担当者：松嶋 璋幸）の履修の手引き

科目名：	エンドユーザプログラミングⅡ
担当者：	松嶋 璋幸
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	Windowsのプログラミング言語であるVisual Basic .NETにより高度なプログラミング技法を身につけるとともに、プログラミングに習熟することで情報技術を会計や経営に活かすことができるよう実務的な能力を養います。 Windowsが提供する機能の利用（API）、COMをはじめとする各種コンポーネントを利用したプログラミング技法、データの操作や通信システムの作成方法を習得することにより、幅広く実務に通用するプログラムの作成能力を身につけることを目指します。
授業方法：	13回の講義は演習や実習を随所にとり入れて進めてゆきます。つまりパソコンを使って実際にプログラムの動作を確かめながら習得してゆく方法です。
履修の留意点：	エンドユーザプログラミングⅠを履修していることが望ましいのですが、そうでない場合はその「履修の手引き」に記されている教科書の第一章から第十二章までの知識を何らかの方法で得ておいて下さい。
目標と評価：	この授業を受講した学生は以下のことができるようになっていきたいと思いますし、またそうなるように学習してください。 ○Windowsが提供する機能をプログラムで利用することができる。 ○コンポーネントを組み合わせてプログラムを作成することができる。 ○プログラムからデータを操作することができる。 ○サーバなどとやりとりをする通信プログラムを作成することができる。 評価は以下の項目ごとの数値を加算して算出します。 ○出席状況・・・30％ ○平常評価・・・70％ (授業中の理解度テスト、課題、授業態度など)
教科書：	速効！図解 Excel 2003 VBA編 池谷京子 (株) 毎日コミュニケーションズ 2004年3月20日 第1版第1刷発行
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ウェブページプログラミング」（担当者：湖東 善明）の履修の手引き

科目名：	ウェブページプログラミング
担当者：	湖東 善明
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	HTMLによる静的（表示のみ）なWebページとはことなり、Webサーバーで動作するインタラクティブなWebページ作成技法を習得する。 アクセスカウンタ、会議室、メール送信フォームなどの作成を行う。 言語としては、perl & cgiを使用するが、言語そのものは入門程度としサンプル集にあるものを修正する方法で行う。またJavaScriptについても学ぶ。
授業方法：	パソコンを使用して講義と実習を行う。 Webサーバーの基本的な仕組み サーバーの利用方法（FTP、Telnetなど） perl、JavaScript入門 アクセスカウンタ、会議室、メール送信フォームの作成
履修の留意点：	Windowsの基本操作ができること。
目標と評価：	目標 自分のホームページにアクセスカウンタ、会議室、メール送信フォームを作ることができる。 評価方法 平常の実習課題100%
教科書：	はじめてのWebプログラミング 国司明 明日香出版 2001年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ウェブページプログラミング」（担当者：湖東 善明）の履修の手引き

科目名：	ウェブページプログラミング
担当者：	湖東 善明
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	HTMLによる静的（表示のみ）なWebページとはことなり、Webサーバーで動作するインタラクティブなWebページ作成技法を習得する。 アクセスカウンタ、会議室、メール送信フォームなどの作成を行う。 言語としては、perl & cgiを使用するが、言語そのものは入門程度としサンプル集にあるものを修正する方法で行う。またJavaScriptについても学ぶ。
授業方法：	パソコンを使用して講義と実習を行う。 Webサーバーの基本的な仕組み サーバーの利用方法（FTP、Telnetなど） perl、JavaScript入門 アクセスカウンタ、会議室、メール送信フォームの作成
履修の留意点：	Windowsの基本操作ができること。
目標と評価：	目標 自分のホームページにアクセスカウンタ、会議室、メール送信フォームを作ることができる。 評価方法 平常の実習課題100%
教科書：	はじめてのWebプログラミング 国司明 明日香出版 2001年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「プログラミング I」（担当者： ）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「プログラミングⅡ」（担当者：二宮 宝世）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「プログラミングⅢ」（担当者：清水 智）の履修の手引き

科目名：	プログラミングⅢ
担当者：	清水 智
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	Windows上のプログラミング言語の1つであるVisual Basicを利用して基礎的なプログラミングを学習します。 具体的には、プログラム及びプログラミングの基本概念の理解、統合開発環境であるVisual Basic .NETの利用法と基礎的なプログラム作成、Internet Explorerを利用したWebページ（HTMLファイル）制作における基礎的なVBScriptプログラミングの理解、ExcelなどMicrosoft Officeのアプリケーション機能を拡張するためのマクロ言語VBAによる基礎的なプログラミングの理解を目指します。
授業方法：	基本的にコンピュータを利用した実習を中心としていますが、必要に応じて講義や机上演習の授業形態をとります。各自に一層理解を深めてもらう場として、ほぼ毎時間、課題を出題するつもりです。
履修の留意点：	特にありません。
目標と評価：	出席とレポート（課題）提出の状況、および期末試験の結果を総合的に評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「プログラミングⅢ」（担当者：木戸 和彦）の履修の手引き

科目名：	プログラミングⅢ
担当者：	木戸 和彦
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>プログラムを学ぶ意義は次のようにまとめることができます。①コンピュータを自分の思うとおりに使用するためにはプログラムで命令を与える必要がある。②総てのソフトはプログラムでできているので、プログラムを実際に経験すると各種ソフトを早く理解し広く応用する事ができる。③コンピュータをより深く理解することができる。④プログラミングは精密性を要求されるので女性に向いている。現に女性のプログラマーは多い。⑤技術として就職に役立つ。使用するプログラム言語はコンピュータの主流言語のひとつであり、やさしいVisual Basicです。</p> <p>データ構造を表現するための基礎となる構造体を理解し、その特徴と具体的な使い方についての練習を簡単なアルゴリズムの問題（ソーティング・探索）をプログラムで実現することにより理解します。</p>
授業方法：	<p>実習の中ではデジタルアートやゲームを作りながら上記内容を学びます。よいゲームを作るにはプログラミングのあらゆる技法が要求されるし、夢中になれるのでプログラミングを学ぶには最適です。</p>
履修の留意点：	無し。
目標と評価：	<p>Visual Basicを実習を通じて学びます。レポート、小テスト、出席状況、受講態度を総合的に勘案して評価します。定期テストは行いません。</p>
教科書：	<p>Visual Basicではじめよう！ たのしいプログラミング—Visual Basic.NET 谷尻 かおり・谷尻 豊寿 技術評論社 2003</p>
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「プログラミングⅢ」（担当者：木戸 和彦）の履修の手引き

科目名：	プログラミングⅢ
担当者：	木戸 和彦
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>プログラムを学ぶ意義は次のようにまとめることができます。①コンピュータを自分の思うとおりに使用するためにはプログラムで命令を与える必要がある。②総てのソフトはプログラムでできているので、プログラムを実際に経験すると各種ソフトを早く理解し広く応用する事ができる。③コンピュータをより深く理解することができる。④プログラミングは精密性を要求されるので女性に向いている。現に女性のプログラマーは多い。⑤技術として就職に役立つ。使用するプログラム言語はコンピュータの主流言語のひとつであり、やさしいVisual Basicです。</p> <p>データ構造を表現するための基礎となる構造体を理解し、その特徴と具体的な使い方についての練習を簡単なアルゴリズムの問題（ソーティング・探索）をプログラムで実現することにより理解します。</p>
授業方法：	<p>実習の中ではデジタルアートやゲームを作りながら上記内容を学びます。よいゲームを作るにはプログラミングのあらゆる技法が要求されるし、夢中になれるのでプログラミングを学ぶには最適です。</p>
履修の留意点：	無し。
目標と評価：	<p>Visual Basicを実習を通じて学びます。レポート、小テスト、出席状況、受講態度を総合的に勘案して評価します。定期テストは行いません。</p>
教科書：	<p>Visual Basicではじめよう! たのしいプログラミング—Visual Basic.NET20 谷尻 かわり・谷尻 豊寿 技術評論社 2003</p>
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「プログラミングⅢ（再履修用）」（担当者：清水 智）の履修の手引き

科目名：	プログラミングⅢ（再履修用）
担当者：	清水 智
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	Windows上のプログラミング言語の1つであるVisual Basicを利用して基礎的なプログラミングを学習します。 具体的には、プログラム及びプログラミングの基本概念の理解、統合開発環境であるVisual Basic .NETの利用法と基礎的なプログラム作成、Internet Explorerを利用したWebページ（HTMLファイル）制作における基礎的なVBScriptプログラミングの理解、ExcelなどMicrosoft Officeのアプリケーション機能を拡張するためのマクロ言語VBAによる基礎的なプログラミングの理解を目指します。
授業方法：	基本的にコンピュータを利用した実習を中心としていますが、必要に応じて講義や机上演習の授業形態をとります。各自に一層理解を深めてもらう場として、ほぼ毎時間、課題を出題するつもりです。
履修の留意点：	特にありません。
目標と評価：	出席とレポート（課題）提出の状況、および期末試験の結果を総合的に評価します。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「プログラミングⅢ」（担当者：宮澤 信一郎）の履修の手引き

科目名：	プログラミングⅢ
担当者：	宮澤 信一郎
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
単位数：	単位
概要：	<p>プログラムを学ぶ意義は次のようにまとめることができます。①コンピュータを自分の思うとおりに使用するためにはプログラムで命令を与える必要がある。②総てのソフトはプログラムでできているので、プログラムを実際に経験すると各種ソフトを早く理解し広く応用する事ができる。③コンピュータをより深く理解することができる。④プログラミングは精密性を要求されるので女性に向いている。現に女性のプログラマーは多い。⑤技術として就職に役立つ。使用するプログラム言語はコンピュータの主流言語のひとつであり、やさしいVisual Basicです。</p> <p>データ構造を表現するための基礎となる構造体を理解し、その特徴と具体的な使い方についての練習を簡単なアルゴリズムの問題（ソーティング・探索）をプログラムで実現することにより理解します。</p>
授業方法：	<p>実習の中ではデジタルアートやゲームを作りながら上記内容を学びます。よいゲームを作るにはプログラミングのあらゆる技法が要求されるし、夢中になれるのでプログラミングを学ぶには最適です。</p>
履修の留意点：	無し。
目標と評価：	<p>Visual Basicを実習を通じて学びます。レポート、小テスト、出席状況、受講態度を総合的に勘案して評価します。定期テストは行いません。</p>
教科書：	<p>Visual Basicではじめよう！ たのしいプログラミング—Visual Basic.NET 谷尻 かおり・谷尻 豊寿 技術評論社 2003</p>
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「プログラミングⅣ」（担当者：木戸 和彦）の履修の手引き

科目名：	プログラミングⅣ
担当者：	木戸 和彦
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	プログラムを学ぶ意義は次のようにまとめることができます。①コンピュータを自分の思うとおりに使用するためにはプログラムで命令を与える必要がある。②総てのソフトはプログラムでできているので、プログラムを実際に経験すると各種ソフトを早く理解し広く応用する事ができる。③コンピュータをより深く理解することができる。④プログラミングは精密性を要求されるので女性に向いている。現に女性のプログラマーは多い。⑤技術として就職に役立つ。使用するプログラム言語はコンピュータの主流言語のひとつであり、やさしいVisual Basicです。
授業方法：	実習の中では各種のゲームを作りながら学びます。よいゲームを作るにはプログラミングのあらゆる技法が要求されるし、夢中になれるのでプログラミングを学ぶには最適です。
履修の留意点：	テキストとしてVisual Basicによる各種ゲーム作成のプリントを配布する予定です。
目標と評価：	Visual Basicの実習を通じてより高度なプログラム作成方法を学びます。レポート、小テスト、出席状況、受講態度を総合的に勘案して評価します。定期テストは行いません。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「プログラミングⅣ」（担当者：木戸 和彦）の履修の手引き

科目名：	プログラミングⅣ
担当者：	木戸 和彦
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	プログラムを学ぶ意義は次のようにまとめることができます。①コンピュータを自分の思うとおりに使用するためにはプログラムで命令を与える必要がある。②総てのソフトはプログラムでできているので、プログラムを実際に経験すると各種ソフトを早く理解し広く応用する事ができる。③コンピュータをより深く理解することができる。④プログラミングは精密性を要求されるので女性に向いている。現に女性のプログラマーは多い。⑤技術として就職に役立つ。使用するプログラム言語はコンピュータの主流言語のひとつであり、やさしいVisual Basicです。
授業方法：	実習の中では各種のゲームを作りながら学びます。よいゲームを作るにはプログラミングのあらゆる技法が要求されるし、夢中になれるのでプログラミングを学ぶには最適です。
履修の留意点：	テキストとしてVisual Basicによる各種ゲーム作成のプリントを配布する予定です。
目標と評価：	Visual Basicの実習を通じてより高度なプログラム作成方法を学びます。レポート、小テスト、出席状況、受講態度を総合的に勘案して評価します。定期テストは行いません。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネスプログラミングⅠ」（担当者：松嶋 璋幸）の履修の手引き

科目名：	ビジネスプログラミングⅠ
担当者：	松嶋 璋幸
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	ビジネスアプリケーションの一つであるワープロソフト（Microsoft Word）をただ使うだけでなく、効率的に活用できるように加工したり、自分専用のワープロソフトに仕立て上げる方法を学びます。具体的にはワープロソフトに用意されているマクロ機能を理解し、マクロを変更したりボタン一つで実行させたりする方法を習得します。さらにプログラム作成の知識がまったくなくても入り込めるVisual Basic for Applications（VBA）を使ってプログラムを作る方法を理解し、自分流のワープロソフトに仕立て上げる基礎を習得します。
授業方法：	13週の講義は演習や実習を随所にとり入れて進めてゆきます。つまりパソコンを使って実際にワープロソフトの動作を確かめながら習得してゆく方法です。
履修の留意点：	ワープロソフトの扱いに慣れていなくても構いませんが、パソコンを使ってWindowsの基本的な操作ができることを前提としています。 教科書はありません。必要な資料を授業で配布します。
目標と評価：	この授業を受講した学生は以下のことができるようになっていと思いますし、またそうなるように学習してください。 <ul style="list-style-type: none"> ○ マクロ機能を使ってワープロソフトを効率的に活用することができる。 ○ プログラミング言語であるVisual Basic for Applications の基本を理解している。 ○ プログラムの作成手順と実行方法を理解している。 ○ 自分流の簡単なワープロソフトに仕立て上げることができる。 <p>評価は以下の項目ごとの数値を加算して算出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平常評価・・・・・・・・・・70% （授業中の理解度テスト、授業態度など） ○ 出席状況・・・・・・・・・・30%
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネスプログラミングⅡ」（担当者：松嶋 璋幸）の履修の手引き

科目名：	ビジネスプログラミングⅡ
担当者：	松嶋 璋幸
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	Windowsのプログラミング言語であるVisual Basic for Applications (VBA) でプログラミング技法を身につけ、ワープロソフト (Microsoft Word) を経営の道具として活かすことができるよう実務的な能力を養います。 具体的にはWindowsが提供する関数の利用、プログラミングによる機能の作り込みやワープロソフトの制御、ダイアログボックスの作成でワープロソフトの顔 (人との接点) を変えるなど、ワープロソフトを自分好みの道具に仕立て上げる方法を身につけることを目指します。
授業方法：	13回の講義は演習や実習を随所にとり入れて進めてゆきます。つまりパソコンを使って実際にワープロソフトの動作を確かめながら習得してゆく方法です。
履修の留意点：	ビジネスプログラミングⅠを履修していることが望ましいのですが、そうでない場合はWindowsとワープロソフトの基本的な操作、およびマクロの知識を何らかの方法で得ておいて下さい。 教科書はありません。必要な資料を授業で配布します。
目標と評価：	この授業を受講した学生は以下のことができるようになっていいると思ひますし、またそうなるように学習してください。 ○ プログラミング言語であるVisual Basic for Applications を理解している。 ○ 関数やマクロを利用することができる。 ○ プログラムの作成手順と実行方法などを理解しプログラミングができる。 ○ 自分好みのワープロソフトに仕立て上げるることができる。 評価は以下の項目ごとの数値を加算して算出します。 ○ 平常評価・・・70% (授業中の理解度テスト、授業態度など) ○ 出席状況・・・30%
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネスプログラミングⅢ」（担当者：松嶋 璋幸）の履修の手引き

科目名：	ビジネスプログラミングⅢ
担当者：	松嶋 璋幸
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	ビジネスアプリケーションの一つである表計算ソフト（Microsoft Excel）をただ使うだけでなく、効率的に活用できるように加工したり、自分専用の表計算ソフトに仕立て上げる方法を学びます。具体的には表計算ソフトに用意されているマクロ機能を理解し、マクロを変更したりボタン一つで実行させたりする方法を習得します。さらにプログラム作成の知識がまったくなくても入り込めるVisual Basic for Applications (VBA) を使ってプログラムを作る方法を理解し、セルやシートやブックをプログラムで自由に操作する方法を習得します。
授業方法：	13週の講義は演習や実習を随所にとり入れて進めてゆきます。つまりパソコンを使って実際に表計算ソフトの動作を確かめながら習得してゆく方法です。
履修の留意点：	表計算ソフトの扱いに慣れていなくても構いませんが、パソコンを使ってWindowsの基本的な操作ができることを前提としています。
目標と評価：	この授業を受講した学生は以下のことができるようになっていと思いますし、またそうなるように学習してください。 <input type="checkbox"/> マクロ機能を使って表計算ソフトを効率的に活用することができる。 <input type="checkbox"/> プログラミング言語であるVisual Basic for Applications の基本を理解している。 <input type="checkbox"/> プログラムの作成手順と実行方法などを理解している。 <input type="checkbox"/> 自分流の簡単な表計算ソフトに仕立て上げることができる。 評価は以下の項目ごとの数値を加算して算出します。 <input type="checkbox"/> 平常評価・・・70% （授業中の理解度テスト、授業態度など） <input type="checkbox"/> 出席状況・・・30%
教科書：	速効！図解 Excel 2003 VBA編 池谷京子（株）毎日コミュニケーションズ 2004年3月20日 第1版第1刷発行
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネスプログラミングⅣ」（担当者：松嶋 璋幸）の履修の手引き

科目名：	ビジネスプログラミングⅣ
担当者：	松嶋 璋幸
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	Windowsのプログラミング言語であるVisual Basic for Applications (VBA) でプログラミング技法を身につけ、表計算ソフト (Microsoft Excel) を会計や経営の道具として活かすことができるよう実務的な能力を養います。 具体的にはWindowsが提供する関数の利用、プログラミングによる機能の作り込みや表計算ソフトの制御、ダイアログボックスの作成で表計算ソフトの顔 (人との接点) を変えるなど、表計算ソフトを自分好みの道具に仕立て上げる方法を身につけることを目指します。
授業方法：	13回の講義は演習や実習を随所にとり入れて進めてゆきます。つまりパソコンを使って実際に表計算ソフトの動作を確かめながら習得してゆく方法です。
履修の留意点：	ビジネスプログラミングⅢを履修していることが望ましいのですが、そうでない場合は教科書 (ビジネスプログラミングⅢと同じ教科書を使います) のChapter1からChapter4までの知識を何らかの方法で得ておいて下さい。
目標と評価：	この授業を受講した学生は以下のことができるようになっていいると思ひますし、またそうなるように学習してください。 ○ プログラミング言語であるVisual Basic for Applications を理解している。 ○ 関数やマクロを利用することができる。 ○ プログラムの作成手順と実行方法などを理解しプログラミングができる。 ○ 自分好みの表計算ソフトに仕立て上げるることができる。 評価は以下の項目ごとの数値を加算して算出します。 ○ 平常評価・・・70% (授業中の理解度テスト、授業態度など) ○ 出席状況・・・30%
教科書：	速効! 図解 Excel 2003 VBA編 池谷京子 (株) 毎日コミュニケーションズ 2004年3月20日 第1版第1刷発行
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「広報戦略とメディアⅠ」（担当者：高梨 正見）の履修の手引き

科目名：	広報戦略とメディアⅠ
担当者：	高梨 正見
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>新聞を読んでいますか、テレビのニュースを見ていますか。 自宅でコーヒーを飲みながら、今、世界の事件を知る事が出来ます、これはメディアによるものです。</p> <p>メディア（情報）は私たちの生活に良くも悪くも大きな影響与え生活には無くてはならないものです。 メディアが発信する「情報」の源には主に 「社会の出来ごと」と 「企業が発信すること」があります。</p> <p>「企業が発信すること（経営情報）」をメディアを通してを伝え企業と社会とのコミュニケーションをはかり企業の発展に貢献する情報活動を行うのが広報活動です。 情報が社会を動かす現代、企業にとって、広報活動は重要な経営戦略のひとつとなっている。</p> <p>広報活動の役割とその価値、広報戦略、最新メディアによる情報伝達の仕組み、などの概念を学びます。 同時に、メディアと深くかかわりのある広告の概念を学びます。</p> <p>「広報戦略とメディアⅠ」では、主に全般の概念を学びます。 「広報戦略とメディアⅡ」は「Ⅰ」を基本として実例などを含め実務的になります。</p>
授業方法：	<p>テーマ設定による講義。 Q&Aによる対話。 自分で感想とアイデアをまとめる演習。 パワーポイントソフト、ビデオソフトを使ったプロジェクター活用講義。 講義 60分 対話 20分</p>
履修の留意点：	<p>生活上の日常的出来事に繋がる情報学習を中軸とする。 新聞・テレビなどの情報を＜自分の視点＞を持って、読み、聞き感想を持つよう努力すること。</p>
目標と評価：	<p>日常生活で新聞を読むとき広報の目をもって読む習慣を身に付ける。 ＜会社経営と広報活動の役割＞＜広報戦略とメディア＞への理解。</p> <p>最終評価：授業での演習・レポートなどとの合算で評価します。</p>
教科書：	使いません
参考書：	はじめての広報宣伝マニュアル 藤江俊彦 同友館 2001

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「広報戦略とメディアⅡ」（担当者：高梨 正見）の履修の手引き

科目名：	広報戦略とメディアⅡ
担当者：	高梨 正見
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>「広報戦略とメディアⅡ」は「Ⅰ」を基本として事例などを含め実務的になります。「広報戦略とメディアⅠ」を受けた人は60パーセントが復習になります。</p> <p>私たちは世界の出来事をほぼ同時に知る事ができ、これは、メディアのすさまじい発達によるもので、ハードの発達はソフトの価値変化を生んでいます。今や、世界は情報戦争と言っても過言ではありません。</p> <p>メディア（情報）は私たちの生活に良くも悪くも大きな影響を与え生活には無くてはならないものです。メディアが発信する「情報」の源には主に「社会の出来ごと」と「企業が発信すること（広報）」があります。</p> <p>会社と広報戦略 「企業が発信すること（経営情報）」をメディアを通して伝え企業と社会とのコミュニケーションをはかり企業の発展に貢献する情報活動を行うのが広報活動です。情報が社会を動かす現代、企業にとって、広報活動は重要な経営戦略のひとつでありその戦略が会社を良くも悪くもします。</p> <p>効果的なメディア戦略、広報戦略を広報部門の実務を演習を交えて学びます。同時に、メディアと深くかかわりのある広告の実務を学びます。</p>
授業方法：	<p>授業方法： テーマ設定による講義。 Q&Aによる対話。 自分で感想とアイデアをまとめる演習。 パワーポイントソフト、ビデオソフトを使ったプロジェクター活用講義。 講義 60分 対話20分</p>
履修の留意点：	<p>日常生活で新聞を読むとき広報の目をもって読む習慣を身に付けること。 新聞・テレビなどの情報を＜自分の視点＞を持って、読み、聞き感想を持つよう努力すること。</p>
目標と評価：	<p>＜会社経営と広報活動の役割＞＜広報戦略とメディア＞への理解。 生活上の日常的出来事に繋がる情報学習を中軸とする。 最終評価：授業での演習・レポートなどとの合算で評価します。</p>
教科書：	使いません
参考書：	はじめての広報宣伝マニュアル 藤江俊彦 同友館 2001

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「情報メディア論」（担当者：中村 修）の履修の手引き

科目名：	情報メディア論
担当者：	中村 修（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>メディアという言葉は、本来情報を載せる媒体という意味ですが、具体的には様々な解釈が存在し混乱する場合があります。本講義では、計算機が扱うことのできる情報を流通、検索、入力、編集するための基盤技術と、情報の知的財産としての側面について学習を進めていきます。他に、大きな意味としては同じですが、放送メディアという場合には放送番組を伝える媒体として放送組織を指す場合もあることに注意して下さい。本講義では、この解釈に基づく内容は対象外として、他の科目、例えば山田先生のメディア情報論等に譲ります。</p> <p>教科書は特に指定しませんが、参考書として後述する図書の内容に沿って進めていきます。そこで、以下に、参考書の、出版社による解説を載せておきます。本講義がどのような内容なのかこれらの項目から事前に行った上で興味のある人は参加して下さい。</p> <p>本書は、インターネットの持つ多様な機能の中で、主として電子図書館などのネットワーク上の情報資源の利用という範囲に限定し、この機能を支えているソフトウェアの構造、情報資源の検索、情報の電子化と構造化などについて最新の技術を述べたもので、大変有用なものである。著者はいずれもこの方面の第一線で活躍している人達であり、本書は電子図書館に関心がある人達にとって欠くことができないものである。</p> <p>1章 情報流通技術 2章 情報流通基盤技術 3章 検索技術 4章 入力と編集技術 5章 流通管理と知的財産権管理 6章 電子図書館構築の実際</p> <p>【発刊の目的と内容】 マルチメディア情報が分散的に蓄積され利用される本格的な情報ネットワーク時代を迎えている。その実現のためには、データの管理技術、検索技術とともに情報の編集やセキュリティ技術が必要であり、この分野は急速に技術進展をみた。本書は、これらネットワーク上で情報（コンテンツ）を流通させる技術全般について、構築法も含めて実務的にまとめた。</p>
授業方法：	<p>基本的には、講義を中心としますが、演習、レポート、実習、等を適宜取り入れていきます。また、e-Campusをフルに活用するため、毎回の授業では、ノートPCが必須となります。そこで、斡旋パソコンを購入した人は、大容量バッテリーへの充電を十分にしてください。また、斡旋パソコン以外の人は、嘉悦e-Campusに無線LANカードで接続できるようにすること、大容量のバッテリーを用意し、十分に充電して授業に臨んで下さい。</p> <p>教科書は指定しません。毎回、PowerPointのスライドファイルを配布します。また必要ときには、プリントを配布します。</p> <p>※講義名にふさわしく、世界中のWebページが教科書です。</p>
履修の留意点：	<p>毎回、ノートPCを利用しますので、パソコン講習会には必ず出席して下さい。また、授業中、e-Campusへの接続が必須ですので、講義が開講されるまでには、必ずe-Campusネットワークに接続できるようにしておいて下さい。</p> <p>主に、インターネット検索により関連情報の収集をおこなったり、グループに別れた調査研究発表などもできたら行っていきたいと考えています。</p> <p>授業は、受講生の平均的な知識レベルを前提に進めますので、既に知識のある人には退屈になり、初めの人には難しすぎるといった問題が生じます。そうならないように、講師側も努力をしますが、皆さんも、特に初めの人には予習・復習、講師への質問等をe-Campusを活用して行って下さい。この授業でずっと、これからのキャンパスライフに何らかの悪影響が出ますので頑張ってください。</p>
目標と評価：	<p>本講義の内容は多岐にわたっていますので、自分が興味のある内容の回や興味のない回もあると思いますが、知らないことを知ること、または興味のないことに興味を持つことが却って新しい世界との出会いがあり、自信の進路の選択肢を広げる可能性があります。ですから、授業には、欠かさずに出席しましょう。また、出席するからには、授業に集中しましょう。</p> <p>期末には、持ち込み不可の筆記試験を予定しています。落とすための試験ではありません。普通に学習し、授業に出席していれば、A以上の評点がつくはずですよ。</p>
教科書：	教科書は特に指定しません。
参考書：	インターネット情報流通技術 向山 博、和田 哲三、米田 茂【共編】 Ohmsha 2000年12月25日第1版第1刷（¥4,700）

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「データ通信メディア論」（担当者：平井 俊次）の履修の手引き

科目名：	データ通信メディア論
担当者：	平井 俊次
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>近年、コンピュータの性能が格段に向上し、ソフトウェアもより高度な情報処理が可能になったことから、従来のデータ（文字、数値）処理に加えて音声や画像情報のデジタル処理が自由にできるようになりました。そして、データ通信の分野もデジタル通信技術や光通信技術、無線通信技術等の発展に伴い、大容量の高速回線（ブロードバンド）が利用可能となり、音声や画像情報を低コストで効率良く伝送できるようになりました。インターネットは正にこれらの技術を集大成したものといえるでしょう。</p> <p>一方、放送業界もこれらの情報処理技術と通信技術を積極的に取り入れ、放送の革命に取り組んでいます。特にテレビ放送はデジタル化と双方向通信を実現することによって、視聴者に対するサービスのあり方を根本から変えていこうとしています。日本の法律では通信事業者と放送事業者は別々の法律によって保護され、運営されてきましたが、21世紀はその垣根が低くなり、互いに協力又は競争する関係になります。</p> <p>この授業ではいろいろな電気通信メディアの基礎的な要素技術とその仕組みを習得し、コンピュータと通信と放送におけるメディアミックスの現状とその活用法について学びます。</p>
授業方法：	講義13回 及び 課題へのレポート提出
履修の留意点：	<p>コンピュータリテラシー、情報システム論Ⅰ・Ⅱ、情報ネットワーク論などを履修し、情報処理や情報ネットワークの基本知識を有することが望ましい。</p> <p>「履修手引き」に記載されている教科書や参考書で予習・復習を行なうこと。</p>
目標と評価：	<p><目標> この授業を履修した学生は以下のことができるようになることを目標にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各種のマルチメディア端末がどのような技術や通信メディアを使っているかが分かり、経営支援ツールとしての活用方法やその可能性について考察できる。 ● 現在のテレビ放送が今後どのように変化し、ビジネス分野でどう活用される可能性を持っているかが分かる。 ● 日経新聞や日経産業などの新聞に報道される関連記事が読み取れる。 <p><評価点（7割）>は以下の配分で項目毎に加算方式で算出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 課題へのレポート提出と内容 20% ● 学期末試験 80%
教科書：	よくわかる最新情報通信と放送の基本と仕組み 中野 明 株式会社秀和システム 平成14年6月10日第1版発行 ¥1,800税別
参考書：	知っておきたい地上デジタル放送 NHK受信技術センター編 NHK出版 平成15年4月20日発行 ¥1,500税別

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コミュニケーションメディア論」（担当者：佐々木 洋）の履修の手引き

科目名：	コミュニケーションメディア論
担当者：	佐々木 洋
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>「パソコン（PC）がPersonal ComputerからPersonal Communicatorに変わった時に現下のIT革新が始まり、携帯電話がケータイに変わった時にユビキタス情報社会の端緒が開かれた」と理解しております。「メディア」は「コミュニケーション」を成立させるための必須要素ですが、「メディア」の技術的な進歩により「コミュニケーション」のあり方は大きく違ったものとなります。従って、コミュニケーション系システムを構築し経営支援ツールとして効果的に運用するためには、「メディア」の技術的動向を把握しておく必要があります。当講座で、コミュニケーション・メディアの諸相と技術的趨勢の考察に一つの焦点を置くこととする理由はここにあります。しかし一方では、情報活用の主体があくまでも人間であり、「読む・書く・聞く・話す」の言語活動上の四技能を司り、表現・思考・判断・記憶の機能を制御する諸身体メディアのリテラシーが最も重要であるという事実には変わりはありません。むしろ、技術の進展によりコミュニケーション系システムを構築する上でのプラットフォームの選択の自由度がますます高まりつつある現在、システム利用者のメディア・リテラシーが一層重要になってきたと考えられます。将来、事業家、起業家ないしは企業人として、コミュニケーション系システムを構築または運用される場合に選択するメディアや利用方法は当該企業の事業環境次第であり、ここにも一律的な「正解」はありません。いかなる場合にも、基礎的な要件として欠かすことのできないメディア・リテラシーの問題に当講座のもう一つの焦点を置くこととする所以です。</p>
授業方法：	<p>自分自身が（株）東芝の通信機事業部に入社してからコンピュータ事業部を定年退職するまでに情報通信分野で経験した業務体験、三井業際研究所関連で出会った三井系各企業、MIT等のキーマンたちから得た教訓、更には、日経関連の国際IT研修の企画運営を通じて見聞した事柄等々自身の体験の中から得て組み立てた仮説を交えて、有用と考えられる内容を講義によりお伝えしていきたいと思っております。</p> <p>全13回の講義の構成は概ね以下のようにしたいと考えておりますが、極力質疑応答などによる双方向情報交換の機会を増やすとともに、受講者数やリクエスト次第では、受講生自身によるプレゼンテーションや企業における実務者の講話聴取などをプログラムに採り入れるなど、柔軟な講座運営の編成と運営を図ってゆくつもりです。</p> <p>第1回 導入 第2-3回 デジタルメディア出現前史およびデジタル化のインパクト 第4-5回 インターネットとイントラネット、メディア間競合と融合の動向 第6-8回 モバイル化とブロードバンド化 第9-10回 デジタル放送ネットワークと記憶媒体の動向 第11回 ユビキタス・ネットワーク 第12-13回 メディア・リテラシー</p>
履修の留意点：	<p>「情報リテラシー＝ITリテラシー＋ビジネス・リテラシー」という仮説に基づいて、前期の「インターネット・ビジネス論」はビジネス・リテラシー、後期の「コミュニケーション・メディア論」はITリテラシーに、それぞれ焦点を当てて講座を構成したいと思っております。両講座は視点を異にするものであるうえ、ともに自己完結する形をとりますので、必ずしも両講座を併せて受講する必要はありません。</p> <p>教科書について： 日本経済新聞を講義構成のための基本的な情報源としますので、同紙のコミュニケーション・メディア関連記事については常々問題意識を持って目を通していただくことをお勧めします。また、具体的なテキストは、マイホームページ「東芝38年生の日記」の「コミュニケーション・メディア論」を用いる予定です。以下のURLで参照し、ご自分の見解（仮説）の検証と構成に役立ててください。積極的反論も大歓迎です。 http://www4.ocn.ne.jp/~daimajin/CommunicationMedia.htm</p>
目標と評価：	<p>具体的に「日本経済新聞のコミュニケーション・メディアに関する記事を読みこなすだけの力をつける」ことを学習目標として掲げます。「読みこなす」ということは、記事の内容を単に「理解する／覚える」のではなく、「評価しながら自分の見解（仮説）に取り入れる」ことに重点がありますので、受講の結果が情報の評価能力と仮説の構成能力の向上の形で結実することを願っております。従って、学習成果の評価のためのテストとしては、指定した日本経済新聞のコミュニケーション・メディア関連の記事について「A. 大意の把握、B. 内容の評価、C. 自分としての見解」を内容とするレポートを作成し、Aに60点、BおよびCに各20点をそれぞれ配点し100点満点にて評価を行う予定です。</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「デジタル出版演習Ⅰ」（担当者：海野 京子）の履修の手引き

科目名：	デジタル出版演習Ⅰ
担当者：	海野 京子
設置学期：	春
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	ワープロソフトとして定番のMicrosoft Wordを使い、案内状、チラシ、ポスターなどデザイン性の高い印刷物を作るテクニックとノウハウを学びます。 ビジネスでWordは必須ソフトですが、ただソフトが使えるだけでは、訴求力のある文書、美しいレイアウト、商業印刷できるデータは作れません。読みやすい文字組、自由度の高いレイアウト、確実に印刷物を出力する力は、現場で高く評価されます。本講座では、案内状やチラシなど具体的な作品を制作しながらこれらの力を身に付けます。
授業方法：	講義および実習（10回）、作品制作（3回）
履修の留意点：	この科目の履修に当たって、同時に履修すべき科目は特にありませんが、Wordの基本操作ができるという前提において授業を進めるため、パソコンおよびWordの基本操作（文字入力や簡単な文書の作成、図やテキストボックスの挿入、フォルダの作成やファイルのコピーなど）ができる力は必要です。また、この科目の再試験については、日頃の出席率などを勘案します。出席率の悪い再試験受験者に合格点を与えることはありません。注意して下さい。
目標と評価：	この授業を受講した学生は以下のことができるようになっているはずです。 <ul style="list-style-type: none"> ・Microsoft Wordを使ってレイアウトを正確に作る ・Adobe Photoshopを使って印刷に適した画像データを作る ・出力形態の違いを知り、その環境に応じてデータを作り分ける ・デザインの基礎知識を身に付けて読みやすく美しいレイアウトを作る ・DTP検定Ⅲ種受験程度の能力 詳細は第1回目にお話します。 評価点は以下の項目毎に加算方式で算出します。 質問などによる授業への貢献度および授業態度 [20%] 課題ごとの提出状況 [40%] 学期末の作品 [40%]
教科書：	DTP検定Ⅲ種公式ガイドブック 株式会社オラリオ
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「デジタル出版演習Ⅰ」（担当者：海野 京子）の履修の手引き

科目名：	デジタル出版演習Ⅰ
担当者：	海野 京子
設置学期：	春
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	ワープロソフトとして定番のMicrosoft Wordを使い、案内状、チラシ、ポスターなどデザイン性の高い印刷物を作るテクニックとノウハウを学びます。ビジネスでWordは必須ソフトですが、ただソフトが使えるだけでは、訴求力のある文書、美しいレイアウト、商業印刷できるデータは作れません。読みやすい文字組、自由度の高いレイアウト、確実に印刷物を出力する力は、現場で高く評価されます。本講座では、案内状やチラシなど具体的な作品を制作しながらこれらの力を身に付けます。
授業方法：	講義および実習（10回）、作品制作（3回）
履修の留意点：	この科目の履修に当たって、同時に履修すべき科目は特にありませんが、Wordの基本操作ができるという前提において授業を進めるため、パソコンおよびWordの基本操作（文字入力や簡単な文書の作成、図やテキストボックスの挿入、フォルダの作成やファイルのコピーなど）ができる力は必要です。また、この科目の再試験については、日頃の出席率などを勘案します。出席率の悪い再試験受験者に合格点を与えることはありません。注意して下さい。
目標と評価：	この授業を受講した学生は以下のことができるようになっているはずです。 <ul style="list-style-type: none"> ・Microsoft Wordを使ってレイアウトを正確に作る ・Adobe Photoshopを使って印刷に適した画像データを作る ・出力形態の違いを知り、その環境に応じてデータを作り分ける ・デザインの基礎知識を身に付けて読みやすく美しいレイアウトを作る ・DTP検定Ⅲ種受験程度の能力 詳細は第1回目にお話します。 評価点は以下の項目毎に加算方式で算出します。 質問などによる授業への貢献度および授業態度 [20%] 課題ごとの提出状況 [40%] 学期末の作品 [40%]
教科書：	DTP検定Ⅲ種公式ガイドブック 株式会社オラリオ
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「デジタル出版演習Ⅱ」（担当者：海野 京子）の履修の手引き

科目名：	デジタル出版演習Ⅱ
担当者：	海野 京子
設置学期：	秋
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	<p>現在、DTPは様々な現場で導入されています。雑誌、ポスターなどはもちろん、企業のカatalogやパンフレットなど身近な印刷物のほとんどはパソコンで作られています。ですから、広報職、編集職などの仕事に携わりたいと思う人にとって、印刷物作成に関する基礎知識、編集やDTPのノウハウを身につけるのは大事なことです。</p> <p>そこで本講座では、印刷物の企画、制作スタッフの選定、誌面構成の決定、原稿やレイアウトの発注、印刷依頼などについて、実際に印刷物の受注を想定しながら実践的に学びます。In Design、Photoshopなど、実際に現場で使われるDTPソフトも使用し、レイアウトの基本操作についても学びます。</p>
授業方法：	講義および実習（10回）、作品制作（3回）。
履修の留意点：	<p>この科目の履修に当たって、同時に履修すべき科目は特にありませんが、できるだけ春学期のデジタル出版の技術Ⅰ（デジタル出版演習Ⅰ）を履修しておくことを望みます。</p> <p>パソコンやWordやExcelなどの基本操作（文書の作成、フォルダの作成、ファイルのコピーなど）ができるという前提において授業を進めます。</p> <p>また、この科目の再試験については、日頃の出席率などを勘案します。出席率の悪い再試験受験者に合格点を与えることはありません。注意して下さい。</p>
目標と評価：	<p>この授業を受講した学生は以下のことができるようになっているはずです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・印刷物制作のおおよその流れ ・読みやすく美しいレイアウトのポイント（デザインの基本的な知識） ・配布時期や配布年齢、目的などを考えたラフスケッチの作成 ・印刷に適した画像データの作成（Adobe Photoshop） ・印刷に適した図版画像データかどうかの確認（Adobe Illustrator） ・ラフスケッチをもとにしたチラシおよび案内状の作成（Adobe In Design） <p>詳細は第1回目にお話します。</p> <p>評価点は以下の項目毎に加算方式で算出します。</p> <p>質問などによる授業への貢献度および授業態度 [20%] 課題ごとの提出状況 [40%] 学期末の作品 [40%]</p>
教科書：	DTP検定公式ガイドブックⅡ種 株式会社オラリオ
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「デジタル出版演習Ⅱ」（担当者：海野 京子）の履修の手引き

科目名：	デジタル出版演習Ⅱ
担当者：	海野 京子
設置学期：	秋
開講回数：	全0回
週コマ数：	週0コマ
概要：	<p>現在、DTPは様々な現場で導入されています。雑誌、ポスターなどはもちろん、企業のカatalogやパンフレットなど身近な印刷物のほとんどはパソコンで作られています。ですから、広報職、編集職などの仕事に携わりたいと思う人にとって、印刷物作成に関する基礎知識、編集やDTPのノウハウを身につけるのは大事なことです。</p> <p>そこで本講座では、印刷物の企画、制作スタッフの選定、誌面構成の決定、原稿やレイアウトの発注、印刷依頼などについて、実際に印刷物の受注を想定しながら実践的に学びます。In Design、Photoshopなど、実際に現場で使われるDTPソフトも使用し、レイアウトの基本操作についても学びます。</p>
授業方法：	講義および実習（10回）、作品制作（3回）。
履修の留意点：	<p>この科目の履修に当たって、同時に履修すべき科目は特にありませんが、できるだけ春学期のデジタル出版の技術Ⅰ（デジタル出版演習Ⅰ）を履修しておくことを望みます。</p> <p>パソコンやWordやExcelなどの基本操作（文書の作成、フォルダの作成、ファイルのコピーなど）ができるという前提において授業を進めます。</p> <p>また、この科目の再試験については、日頃の出席率などを勘案します。出席率の悪い再試験受験者に合格点を与えることはありません。注意して下さい。</p>
目標と評価：	<p>この授業を受講した学生は以下のことができるようになっているはずです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・印刷物制作のおおよその流れ ・読みやすく美しいレイアウトのポイント（デザインの基本的な知識） ・配布時期や配布年齢、目的などを考えたラフスケッチの作成 ・印刷に適した画像データの作成（Adobe Photoshop） ・印刷に適した図版画像データかどうかの確認（Adobe Illustrator） ・ラフスケッチをもとにしたチラシおよび案内状の作成（Adobe In Design） <p>詳細は第1回目にお話します。</p> <p>評価点は以下の項目毎に加算方式で算出します。</p> <p>質問などによる授業への貢献度および授業態度 [20%] 課題ごとの提出状況 [40%] 学期末の作品 [40%]</p>
教科書：	DTP検定公式ガイドブックⅡ種 株式会社オラリオ
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「デジタル出版の技術 I」（担当者：海野 京子）の履修の手引き

科目名：	デジタル出版の技術 I
担当者：	海野 京子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	ワープロソフトとして定番のMicrosoft Wordを使い、案内状、チラシ、ポスターなどデザイン性の高い印刷物を作るテクニックとノウハウを学びます。 ビジネスでWordは必須ソフトですが、ただソフトが使えるだけでは、訴求力のある文書、美しいレイアウト、商業印刷できるデータは作れません。読みやすい文字組、自由度の高いレイアウト、確実に印刷物を出力する力は、現場で高く評価されます。本講座では、案内状やチラシなど具体的な作品を制作しながらこれらの力を身に付けます。
授業方法：	講義および実習（10回）、作品制作（3回）
履修の留意点：	この科目の履修に当たって、同時に履修すべき科目は特にありませんが、Wordの基本操作ができるという前提において授業を進めるため、パソコンおよびWordの基本操作（文字入力や簡単な文書の作成、図やテキストボックスの挿入、フォルダの作成やファイルのコピーなど）ができる力は必要です。また、この科目の再試験については、日頃の出席率などを勘案します。出席率の悪い再試験受験者に合格点を与えることはありません。注意して下さい。
目標と評価：	この授業を受講した学生は以下のことができるようになっているはずです。 <ul style="list-style-type: none"> ・ Microsoft Wordを使ってレイアウトを正確に作る ・ Adobe Photoshopを使って印刷に適した画像データを作る ・ 出力形態の違いを知り、その環境に応じてデータを作り分ける ・ デザインの基礎知識を身に付けて読みやすく美しいレイアウトを作る ・ DTP検定Ⅲ種受験程度の能力 詳細は第1回目にお話します。 評価点は以下の項目毎に加算方式で算出します。 質問などによる授業への貢献度および授業態度 [20%] 課題ごとの提出状況 [40%] 学期末の作品 [40%]
教科書：	DTP検定Ⅲ種公式ガイドブック 株式会社オラリオ
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「デジタル出版の技術 I」（担当者：海野 京子）の履修の手引き

科目名：	デジタル出版の技術 I
担当者：	海野 京子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	ワープロソフトとして定番のMicrosoft Wordを使い、案内状、チラシ、ポスターなどデザイン性の高い印刷物を作るテクニックとノウハウを学びます。 ビジネスでWordは必須ソフトですが、ただソフトが使えるだけでは、訴求力のある文書、美しいレイアウト、商業印刷できるデータは作れません。読みやすい文字組、自由度の高いレイアウト、確実に印刷物を出力する力は、現場で高く評価されます。本講座では、案内状やチラシなど具体的な作品を制作しながらこれらの力を身に付けます。
授業方法：	講義および実習（10回）、作品制作（3回）
履修の留意点：	この科目の履修に当たって、同時に履修すべき科目は特にありませんが、Wordの基本操作ができるという前提において授業を進めるため、パソコンおよびWordの基本操作（文字入力や簡単な文書の作成、図やテキストボックスの挿入、フォルダの作成やファイルのコピーなど）ができる力は必要です。また、この科目の再試験については、日頃の出席率などを勘案します。出席率の悪い再試験受験者に合格点を与えることはありません。注意して下さい。
目標と評価：	この授業を受講した学生は以下のことができるようになっているはずです。 <ul style="list-style-type: none"> ・ Microsoft Wordを使ってレイアウトを正確に作る ・ Adobe Photoshopを使って印刷に適した画像データを作る ・ 出力形態の違いを知り、その環境に応じてデータを作り分ける ・ デザインの基礎知識を身に付けて読みやすく美しいレイアウトを作る ・ DTP検定Ⅲ種受験程度の能力 詳細は第1回目にお話します。 評価点は以下の項目毎に加算方式で算出します。 質問などによる授業への貢献度および授業態度 [20%] 課題ごとの提出状況 [40%] 学期末の作品 [40%]
教科書：	DTP検定Ⅲ種公式ガイドブック 株式会社オラリオ
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「デジタル出版の技術Ⅱ」（担当者：海野 京子）の履修の手引き

科目名：	デジタル出版の技術Ⅱ
担当者：	海野 京子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>現在、DTPは様々な現場で導入されています。雑誌、ポスターなどはもちろん、企業のカatalogやパンフレットなど身近な印刷物のほとんどはパソコンで作られています。ですから、広報職、編集職などの仕事に携わりたいと思う人にとって、印刷物作成に関する基礎知識、編集やDTPのノウハウを身につけるのは大事なことです。</p> <p>そこで本講座では、印刷物の企画、制作スタッフの選定、誌面構成の決定、原稿やレイアウトの発注、印刷依頼などについて、実際に印刷物の受注を想定しながら実践的に学びます。In Design、Photoshopなど、実際に現場で使われるDTPソフトも使用し、レイアウトの基本操作についても学びます。</p>
授業方法：	講義および実習（10回）、作品制作（3回）。
履修の留意点：	<p>この科目の履修に当たって、同時に履修すべき科目は特にありませんが、できるだけ春学期のデジタル出版の技術Ⅰ（デジタル出版演習Ⅰ）を履修しておくことを望みます。</p> <p>パソコンやWord・Excelなどの基本操作（文書の作成、フォルダの作成、ファイルのコピーなど）ができるという前提において授業を進めます。</p> <p>また、この科目の再試験については、日頃の出席率などを勘案します。出席率の悪い再試験受験者に合格点を与えることはありません。注意して下さい。</p>
目標と評価：	<p>この授業を受講した学生は以下のことが（理解）できるようになっているはずです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・印刷物制作のおおよその流れ ・読みやすく美しいレイアウトのポイント（デザインの基本的な知識） ・配布時期や配布年齢、目的などを考えたラフスケッチの作成 ・印刷に適した画像データの作成（Adobe Photoshop） ・印刷に適した図版画像データかどうかの確認（Adobe Illustrator） ・ラフスケッチをもとにしたチラシおよび案内状の作成（Adobe In Design） <p>詳細は第1回目にお話します。</p> <p>評価点は以下の項目毎に加算方式で算出します。</p> <p>質問などによる授業への貢献度および授業態度 [20%] 課題ごとの提出状況 [40%] 学期末の作品 [40%]</p>
教科書：	DTP検定公式ガイドブックⅡ種 株式会社オラリオ
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「デジタル出版の技術Ⅱ」（担当者：海野 京子）の履修の手引き

科目名：	デジタル出版の技術Ⅱ
担当者：	海野 京子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>現在、DTPは様々な現場で導入されています。雑誌、ポスターなどはもちろん、企業のカatalogやパンフレットなど身近な印刷物のほとんどはパソコンで作られています。ですから、広報職、編集職などの仕事に携わりたいと思う人にとって、印刷物作成に関する基礎知識、編集やDTPのノウハウを身につけるのは大事なことです。</p> <p>そこで本講座では、印刷物の企画、制作スタッフの選定、誌面構成の決定、原稿やレイアウトの発注、印刷依頼などについて、実際に印刷物の受注を想定しながら実践的に学びます。In Design、Photoshopなど、実際に現場で使われるDTPソフトも使用し、レイアウトの基本操作についても学びます。</p>
授業方法：	講義および実習（10回）、作品制作（3回）。
履修の留意点：	<p>この科目の履修に当たって、同時に履修すべき科目は特にありませんが、できるだけ春学期のデジタル出版の技術Ⅰ（デジタル出版演習Ⅰ）を履修しておくことを望みます。</p> <p>パソコンやWord・Excelなどの基本操作（文書の作成、フォルダの作成、ファイルのコピーなど）ができるという前提において授業を進めます。</p> <p>また、この科目の再試験については、日頃の出席率などを勘案します。出席率の悪い再試験受験者に合格点を与えることはありません。注意して下さい。</p>
目標と評価：	<p>この授業を受講した学生は以下のことが（理解）できるようになっているはずです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・印刷物制作のおおよその流れ ・読みやすく美しいレイアウトのポイント（デザインの基本的な知識） ・配布時期や配布年齢、目的などを考えたラフスケッチの作成 ・印刷に適した画像データの作成（Adobe Photoshop） ・印刷に適した図版画像データかどうかの確認（Adobe Illustrator） ・ラフスケッチをもとにしたチラシおよび案内状の作成（Adobe In Design） <p>詳細は第1回目にお話します。</p> <p>評価点は以下の項目毎に加算方式で算出します。</p> <p>質問などによる授業への貢献度および授業態度 [20%] 課題ごとの提出状況 [40%] 学期末の作品 [40%]</p>
教科書：	DTP検定公式ガイドブックⅡ種 株式会社オラリオ
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「マルチメディアプレゼンテーションの技術Ⅰ」（担当者：小林 憲夫）の履修の手引き

科目名：	マルチメディアプレゼンテーションの技術Ⅰ
担当者：	小林 憲夫
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	1と2で構成される通年選択を前提とした授業。現代の社会(企業)において不可欠の技術である「プレゼンテーション」での表現力を飛躍的に向上させる手法を学ぶ。 本講座では、一般に普及しているマイクロソフト社のPowerPointを使い、マルチメディア技術と組み合わせることで、他とは一線を画する強力なプレゼンテーションに挑戦する。
授業方法：	授業の基本は講義形式であるが、プレゼンテーションでは習熟も大切であるため、必要に応じて学生自身に積極的に参加してもらいインタラクティブな内容を目指す。 ■概略 1回目 自己紹介、プレゼンテーションとは 2回目 パワーポイントの基本的使い方 3回目 動きの種類と利用法 4回目 アニメーション 5回目 アニメーションの制作 6回目 図形の作成 7回目 図形の挿入 8回目 動くイラストでプレゼンテーション 9回目 音を使ってみる 10回目 録音して新しい音を作る 11回目 デジタルカメラで撮影する 12回目 画像の編集加工 13回目 画像の張り込み（背景と貼り付け）
履修の留意点：	1と2で構成されるため、通年での選択が好ましい。
目標と評価：	授業では積極的な発言を求めると同時に、参加＝出席という考え方から成績にも反映させる。なお、期末試験は実施せず、平常点で評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「マルチメディアプレゼンテーションの技術Ⅰ」（担当者：小林 憲夫）の履修の手引き

科目名：	マルチメディアプレゼンテーションの技術Ⅰ
担当者：	小林 憲夫
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	1と2で構成される通年選択を前提とした授業。現代の社会(企業)において不可欠の技術である「プレゼンテーション」での表現力を飛躍的に向上させる手法を学ぶ。 本講座では、一般に普及しているマイクロソフト社のPowerPointを使い、マルチメディア技術と組み合わせることで、他とは一線を画する強力なプレゼンテーションに挑戦する。
授業方法：	授業の基本は講義形式であるが、プレゼンテーションでは習熟も大切であるため、必要に応じて学生自身に積極的に参加してもらいインタラクティブな内容を目指す。 ■概略 1回目 自己紹介、プレゼンテーションとは 2回目 パワーポイントの基本的使い方 3回目 動きの種類と利用法 4回目 アニメーション 5回目 アニメーションの制作 6回目 図形の作成 7回目 図形の挿入 8回目 動くイラストでプレゼンテーション 9回目 音を使ってみる 10回目 録音して新しい音を作る 11回目 デジタルカメラで撮影する 12回目 画像の編集加工 13回目 画像の張り込み（背景と貼り付け）
履修の留意点：	1と2で構成されるため、通年での選択が好ましい。
目標と評価：	授業では積極的な発言を求めると同時に、参加＝出席という考え方から成績にも反映させる。なお、期末試験は実施せず、平常点で評価する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「情報ネットワーク論」（担当者：平井 俊次）の履修の手引き

科目名：	情報ネットワーク論
担当者：	平井 俊次
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>皆さんは既に携帯電話やパソコンを保有し、家族や友人・知人と会話したり電子メールの交換を楽しんでいますね。恋人とデートする時も電車の路線や時刻表、グルメスポット情報をインターネットで検索しているでしょう。</p> <p>企業や公共団体、NPOなども仕事の効率化やサービスの向上を図るために情報ネットワークを活用しています。特に企業では情報ネットワークの構築をベースに如何に「IT化」を進めるかが生き残るための生命線になっています。2001年、日本政府は「e-JAPAN」構想を打出し、ネットワーク・インフラの高度化を推進しました。そして2004年、これを進化させユビキタス社会を標榜した「U-JAPAN」構想を発表しました。21世紀の日本は「IT立国」を目指しているのです。</p> <p>しかし、このような高度情報化社会は一朝一夕に出現した訳ではありません。</p> <p>コンピュータによる情報技術の革新と通信技術の革新、更に法律や制度の規制緩和によってコンピュータと通信の融合が可能になったことが、今日の社会を生み出す原動力になりました。</p> <p>この授業ではIT社会のインフラストラクチャーとなる「情報通信ネットワーク」について、その構成や基礎的な技術、利用形態を学び、情報通信リテラシーの入門を目指します。</p>
授業方法：	講義13回及び課題へのレポート提出
履修の留意点：	コンピュータリテラシー、情報システム論I・IIなどを履修し、情報処理の基本知識を有することが望ましい。「履修手引き」に記載されている教科書で予習・復習を行なうこと。
目標と評価：	<p><目標> この授業を履修した学生は以下のことができるようになることを目標にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各種のオンライン端末機がどのような技術や情報ネットワークを使って通信しているかが分かる。 ● 自分が志望する将来のビジネス分野でどのような情報ネットワークが使われているか想定できる。 ● 日経新聞や日経産業などの新聞に報道される関連記事が読み取れる。 ● 事業の継承、自営業を志す者はどのような情報ネットワークを構築すべきか想定できる。 <p><評価点（7割）>を以下の配分で項目毎に加算方式で算出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 課題へのレポート提出と内容 20% ● 学期末試験 80%
教科書：	情報ネットワーク論 松本良治 株式会社オーム社 平成12年9月25日 第1版発行 ¥2,600税別
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ネットワーク活用の技術Ⅰ」（担当者：滑川 光裕）の履修の手引き

科目名：	ネットワーク活用の技術Ⅰ
担当者：	滑川 光裕（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	パソコンでネットワークを利用する時の基礎的な知識や概念を中心に説明を行う。また、小規模なネットワークを構築する際に必要となる機器や接続方法などについて勉強し、状況に応じた様々なネットワーク構築ができることを目的とする。
授業方法：	講義を中心に行うが、時々、パソコンを利用する。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	授業内の小テストと期末テストにて評価を行う。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ネットワーク活用の技術Ⅱ」（担当者：滑川 光裕）の履修の手引き

科目名：	ネットワーク活用の技術Ⅱ
担当者：	滑川 光裕（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	TCP/IPスイートやISOのOSI参照モデルなど、ネットワークの詳細な仕組みについて解説を行い、ネットワークプログラム動作の仕組みや、ネットワークセキュリティなど、幅広い講義を行う。
授業方法：	講義を中心に行うが、時々、パソコンを利用する。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	授業内の小テストと期末テストにて評価を行う。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「情報検索法」（担当者：森本 孝）の履修の手引き

科目名：	情報検索法
担当者：	森本 孝（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>この授業では、書籍・雑誌などの紙媒体、インターネットやオンラインデータベースなどのデジタル媒体などから、効率的に情報を収集する技術について実践的に学びます。</p> <p>情報化時代といわれるように、現在はきわめて多量かつ多様な情報があふれている時代です。うまくこれらの情報を活用すれば、ビジネスや生活も豊かなものとなっていくはずですが、しかし、情報が多量であればあるだけ、自分にとって本当に必要な情報を選び出す技術も必要になってきます。また、ゆがんだ情報にだまされない力も必要となってきます。</p> <p>この授業では、大量の情報の中から、自分にとって大切な情報を選び出す能力を養うことを目標にします。</p> <p>大学でレポートや論文を作成する場合にも、役立つはずですが。</p>
授業方法：	<p>講義と実習を取り混ぜながら授業を進行します。</p> <p>特に、インターネットを使った検索をテーマにする際は、ノートパソコンを実際に操作しながら学びます。</p>
履修の留意点：	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じてノートパソコンを利用します。その場合は、授業前までにノートパソコンを充電しておく必要があります。 ・授業中にオンライン書店を使って、必要な文献を最低1冊、購入してもらいます。
目標と評価：	<ul style="list-style-type: none"> ・随時課す課題と学期末のレポートにより総合的に評価します。 ・学期末の筆記試験は実施しません。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「情報検索法」（担当者：森本 孝）の履修の手引き

科目名：	情報検索法
担当者：	森本 孝（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>この授業では、書籍・雑誌などの紙媒体、インターネットやオンラインデータベースなどのデジタル媒体などから、効率的に情報を収集する技術について実践的に学びます。</p> <p>情報化時代といわれるように、現在はきわめて多量かつ多様な情報があふれている時代です。うまくこれらの情報を活用すれば、ビジネスや生活も豊かなものとなっていくはずですが、しかし、情報が多量であればあるだけ、自分にとって本当に必要な情報を選び出す技術も必要になってきます。また、ゆがんだ情報にだまされない力も必要となってきます。</p> <p>この授業では、大量の情報の中から、自分にとって大切な情報を選び出す能力を養うことを目標にします。</p> <p>大学でレポートや論文を作成する場合にも、役立つはずですが。</p>
授業方法：	<p>講義と実習を取り混ぜながら授業を進行します。</p> <p>特に、インターネットを使った検索をテーマにする際は、ノートパソコンを実際に操作しながら学びます。</p>
履修の留意点：	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じてノートパソコンを利用します。その場合は、授業前までにノートパソコンを充電しておく必要があります。 ・授業中にオンライン書店を使って、必要な文献を最低1冊、購入してもらいます。
目標と評価：	<ul style="list-style-type: none"> ・随時課す課題と学期末のレポートにより総合的に評価します。 ・学期末の筆記試験は実施しません。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「社会調査の技術」（担当者：早瀬 保子）の履修の手引き

科目名：	社会調査の技術
担当者：	早瀬 保子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>経済成長率、失業率の動き、少子高齢化と年金問題など、毎日の新聞に頻繁にでてきますが、これらはみな社会調査から集められた情報によるものです。国勢調査は、最も代表的な社会調査のひとつで、国や地方公共団体の基本計画・開発計画など行政施策の策定に必要な人口の現状と将来予測に必要な基礎資料を提供しています。本科目では、日本における各種社会調査と調査方法、さらに結果の利用方法などを中心にお話します。</p> <p>主な講義内容は以下のとおりです。（１）社会調査とは、（２）国勢調査について、（３）労働力調査について、（４）社会福祉に関する調査、（５）家計調査、（６）事業所・企業統計調査、（７）その他各種統計調査について、（８）各種統計調査結果の読み方について</p>
授業方法：	授業は原則として講義の形をとりますが、テーマによっては受講者に課題を与え、各人が調べたことを発表してもらう場合もあります。
履修の留意点：	履修の条件はありませんが、課題を出しますので、積極的に取り組む学生、知的好奇心が旺盛な学生の履修を望みます。
目標と評価：	<p>この授業を履修した学生は、①日本の各種社会調査に関する一般的知識と社会での活用について考えるフレームを身に付けること、②日本の各種社会調査を統計的に把握する方法とデータの読み方について基本的技術を身に付けることが期待されています。</p> <p>評価点は、学期末の試験結果（6割）、課題の提出状況と質問や発言などを含む授業での態度（4割）などを加味して算出します。</p>
教科書：	
参考書：	統計でみる日本 総務省統計局監修・日本統計協会編 日本統計協会 2004年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「社会調査の技術」（担当者：二宮 宝世）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「情報検索の技術」（担当者：森本 孝）の履修の手引き

科目名：	情報検索の技術
担当者：	森本 孝（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>この授業では、書籍・雑誌などの紙媒体、インターネットやオンラインデータベースなどのデジタル媒体などから、効率的に情報を収集する技術について実践的に学びます。</p> <p>情報化時代といわれるように、現在はきわめて多量かつ多様な情報があふれている時代です。うまくこれらの情報を活用すれば、ビジネスや生活も豊かなものとなっていくはずですが、しかし、情報が多量であればあるだけ、自分にとって本当に必要な情報を選び出す技術も必要になってきます。また、ゆがんだ情報にだまされない力も必要となってきます。</p> <p>この授業では、大量の情報の中から、自分にとって大切な情報を選び出す能力を養うことを目標にします。</p> <p>大学でレポートや論文を作成する場合にも、役立つはずですが。</p>
授業方法：	<p>講義と実習を取り混ぜながら授業を進行します。</p> <p>特に、インターネットを使った検索をテーマにする際は、ノートパソコンを実際に操作しながら学びます。</p>
履修の留意点：	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じてノートパソコンを利用します。その場合は、授業前までにノートパソコンを充電しておく必要があります。 ・授業中にオンライン書店を使って、必要な文献を最低1冊、購入してもらいます。
目標と評価：	<ul style="list-style-type: none"> ・随時課す課題と学期末のレポートにより総合的に評価します。 ・学期末の筆記試験は実施しません。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「情報検索の技術」（担当者：森本 孝）の履修の手引き

科目名：	情報検索の技術
担当者：	森本 孝（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>この授業では、書籍・雑誌などの紙媒体、インターネットやオンラインデータベースなどのデジタル媒体などから、効率的に情報を収集する技術について実践的に学びます。</p> <p>情報化時代といわれるように、現在はきわめて多量かつ多様な情報があふれている時代です。うまくこれらの情報を活用すれば、ビジネスや生活も豊かなものとなっていくはずですが、しかし、情報が多量であればあるだけ、自分にとって本当に必要な情報を選び出す技術も必要になってきます。また、ゆがんだ情報にだまされない力も必要となってきます。</p> <p>この授業では、大量の情報の中から、自分にとって大切な情報を選び出す能力を養うことを目標にします。</p> <p>大学でレポートや論文を作成する場合にも、役立つはずですが。</p>
授業方法：	<p>講義と実習を取り混ぜながら授業を進行します。</p> <p>特に、インターネットを使った検索をテーマにする際は、ノートパソコンを実際に操作しながら学びます。</p>
履修の留意点：	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じてノートパソコンを利用します。その場合は、授業前までにノートパソコンを充電しておく必要があります。 ・授業中にオンライン書店を使って、必要な文献を最低1冊、購入してもらいます。
目標と評価：	<ul style="list-style-type: none"> ・随時課す課題と学期末のレポートにより総合的に評価します。 ・学期末の筆記試験は実施しません。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「旅行業取扱主任者トレーニングⅠ」（担当者：亀坂 興紀）の履修の手引き

科目名：	旅行業取扱主任者トレーニングⅠ
担当者：	亀坂 興紀
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	旅行業では国内旅行はもとより気軽に出かけられる海外旅行や外国からのお客様を迎える訪日旅行を取扱います。そのため旅行会社では必ず国家資格である旅行業務取扱管理者を一人以上おかなければなりません。その国家資格に挑戦するのがこの講座です。本講座では年一回9月に実施される「国内旅行業務取扱管理者」を受験しその資格取得を目指します。テキストを使用するだけではなく過去問題などで試験の傾向を理解し、予想問題で各自の内容理解および到達度を確認しながら講義を進めます。受験に向けての短期間の集中講座も行います。
授業方法：	講義形式でおこないます。 必要に応じて資料などのプリントを配布します。
履修の留意点：	国家試験は9月上旬ですので、夏期休暇中に集中講座を実施します。
目標と評価：	9月に実施される国家試験「国内旅行業務取扱管理者」を必ず受験する事。 出席を重視します。また積極的な態度を評価します。 教科書： ①「旅行業法・旅行業約款」 JTB能力開発 JTB能力開発 2005年度版 ②「運送・宿泊約款」 JTB能力開発 JTB能力開発 2005年度版 ③「国内運賃・料金」 JTB能力開発 JTB能力開発 2005年度版 ④「国内観光資源・旅行実務」 JTB能力開発 JTB能力開発 2005年度版 ⑤「科目別速習問題（国内）」 JTB能力開発 JTB能力開発 2005年度版
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「旅行業取扱主任者トレーニングⅡ」（担当者：亀坂 興紀）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「販売士トレーニングⅠ」（担当者：櫻木 孝司）の履修の手引き

科目名：	販売士トレーニングⅠ
担当者：	櫻木 孝司
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>「販売士」とは激動する流通業界で勝ち抜くための必須の資格であり、日本商工会議所が行なう「流通業界で唯一の公的資格」として、社会的にも高い信頼と評価を得ています。レベルは1級・2級・3級と3つに分かれており、これまでに約64万人（1級～3級の合計）が合格し、「販売士」として流通業界の各分野で活躍しています。</p> <p>各級のレベルは 3級：販売員として基礎的な知識と技術を身につけ、販売業務を遂行する小売業の販売員クラスが対象 2級：小売業について、主として販売に関する専門的な知識を身につけ、ある程度の管理業務を遂行し、部下を指導する売場主任・部課長など中堅幹部クラスが対象 1級：小売業経営に関する高度の専門的な知識を身につけ、経営計画の立案、総合的な管理業務を遂行する大規模小売店の店長・部長クラス、中小小売業の経営者クラスが対象</p> <p>最近では学生時より3級もしくは2級を取得し、就職活動に活かす人たちが増えてきています。この授業では販売士3級の試験の合格を目指します。流通業界で仕事をしたいという学生はぜひこの授業を履修し、卒業までに販売士3級の資格を取得してください。</p>
授業方法：	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小売業の社会的・経済的役割 ・ 小売業を含む流通機構の概要 ・ 小売業の主要形態 ・ 消費者、その欲求と購買行動 ・ 職場の人間関係 ・ 小売商業に関連する法令 ・ 顧客心理と接客販売技術 ・ 商品陳列、照明および色彩の基礎 ・ 販売事務管理 ・ 商品知識 ・ 接客マナー
履修の留意点：	履修上の留意点：販売士3級の試験は経営全般から商品知識や接客マナーまでとても広範囲の資格試験です。講義は非常に限られた回数ですので、1回1回がとても凝縮された内容となります。毎回、予習として事前にテキストに目を通しておくこと。
目標と評価：	<p>販売士3級の合格を目指します。</p> <p>評価点は以下の項目毎に加算方式で算出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出席および議論における発言の積極性（40%） ・ 講義の内容を良く理解しているか（30%） ・ 課題の提出状況（30%）
教科書：	販売士検定試験ハンドブック 3級編 日本商工会議所・全国商工会連合会編 株式会社キャリアック 2005年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「販売士トレーニングⅡ」（担当者：櫻木 孝司）の履修の手引き

科目名：	販売士トレーニングⅡ
担当者：	櫻木 孝司
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>「販売士」とは激動する流通業界で勝ち抜くための必須の資格であり、日本商工会議所が行なう「流通業界で唯一の公的資格」として、社会的にも高い信頼と評価を得ています。レベルは1級・2級・3級と3つに分かれており、これまでに約64万人（1級～3級の合計）が合格し、「販売士」として流通業界の各分野で活躍しています。</p> <p>各級のレベルは 3級：販売員として基礎的な知識と技術を身につけ、販売業務を遂行する小売業の販売員クラスが対象 2級：小売業について、主として販売に関する専門的な知識を身につけ、ある程度の管理業務を遂行し、部下を指導する売場主任・部課長など中堅幹部クラスが対象 1級：小売業経営に関する高度の専門的な知識を身につけ、経営計画の立案、総合的な管理業務を遂行する大規模小売店の店長・部長クラス、中小小売業の経営者クラスが対象</p> <p>最近では学生時より3級もしくは2級を取得し、就職活動に活かす人たちが増えてきています。この授業では販売士3級の試験の合格を目指します。流通業界で仕事をしたいという学生はぜひこの授業を履修し、卒業までに販売士3級の資格を取得してください。</p>
授業方法：	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小売業の社会的・経済的役割 ・ 小売業を含む流通機構の概要 ・ 小売業の主要形態 ・ 消費者、その欲求と購買行動 ・ 職場の人間関係 ・ 小売商業に関連する法令 ・ 顧客心理と接客販売技術 ・ 商品陳列、照明および色彩の基礎 ・ 販売事務管理 ・ 商品知識 ・ 接客マナー
履修の留意点：	履修上の留意点：販売士3級の試験は経営全般から商品知識や接客マナーまでとても広範囲の資格試験です。講義は非常に限られた回数ですので、1回1回がとても凝縮された内容となります。毎回、予習として事前にテキストに目を通しておくこと。
目標と評価：	販売士3級の合格を目指します。 評価点は以下の項目毎に加算方式で算出します。 ・ 出席および議論における発言の積極性（40%） ・ 講義の内容を良く理解しているか（30%） ・ 課題の提出状況（30%）
教科書：	販売士検定試験ハンドブック 3級編 日本商工会議所・全国商工会連合会編 株式会社キャリアック 2005年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「福祉住環境コーディネータートレーニングⅠ」（担当者：森 弘子）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「福祉住環境コーディネーターⅠ」（担当者：森 弘子）の履修の手引き

科目名：	福祉住環境コーディネーターⅠ
担当者：	森 弘子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>この授業は、東京商工会議所が実施する福祉住環境コーディネーター3級検定試験合格のための知識を習得するためのものです。東京商工会議所のホームページでは、福祉住環境コーディネーターの役割について次のように解説しています。</p> <p>「高齢者や障害者に対して住みやすい住環境を提案するアドバイザーです。医療・福祉・建築について体系的で幅広い知識を身につけ、各種の専門職と連携をとりながらクライアントに適切な住宅改修プランを提示します。また福祉用具や諸施策情報などについてもアドバイスします。」</p> <p>3級の試験では、福祉と住環境の関連分野の基礎的な知識について理解することに主眼がおかれています。と同時に、ここでの知識は、さらに上の級を目指すための土台となります。</p> <p>3級試験の合格の基準は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住環境は安全でかつ安心して生活を続けるための基盤であるという認識の下に、高齢者の身体特性や、疾患別の症状と必要な介護、医療、福祉、建築および福祉用具に関する全般的な基礎知識を理解している。 ・介護保険等の福祉に関する諸制度を理解し、併せて福祉住環境コーディネーターの社会的役割を理解している。 ・生活の質の向上や介護者の介助力の軽減につながる住宅改修の基本的な方向性について理解している。 <p>この授業では、福祉住環境コーディネーター3級検定試験の合格を目指すとともに、自分のまわりの住環境から福祉を考えることで、福祉に対する関心を深めることを目指します。</p>
授業方法：	<p>講義（6回） 各回（ただし、第1回目を除く）の冒頭に、前回のふりかえりのために小テストを実施します。 各回の講義内容は下記のとおりです。 9/24 第1回 オリエンテーション 高齢社会と住環境整備 ほか 10/8 第2回 高齢者の心身の機能と特性② 高齢者介護のあり方 ほか 10/15 第3回 高齢者に対する諸関連施策とサービス 福祉住環境整備の基礎知識 ほか 10/22 第4回 福祉住環境整備の基本技術 部屋別・場所別福祉住環境整備の仕方 ほか 11/5 第5回 福祉用具の活用と住環境 ほか 11/19 第6回 福祉住環境整備の疾患・障害別応用技術 全体の総まとめ 重要ポイントチェック 確認テストと解説、総合復習と受験準備 ほか</p>
履修の留意点：	
目標と評価：	
教科書：	福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト 東京商工会議所（編） 東京商工会議所
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「福祉住環境コーディネーターⅡ」（担当者：森 弘子）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「国際文化実習」（担当者：馮 雪梅）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「ボランティア実習」（担当者：内田 和夫）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「企業実習Ⅰ」（担当者：戎野 淑子）の履修の手引き

科目名：	企業実習Ⅰ
担当者：	戎野 淑子（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	インターンシップ（企業実習Ⅱ）の前提科目である。 インターンシップについての基本的な知識を身につけるとともに、実際に社会で働くにあたって、不可欠な能力を養成する。
授業方法：	講義および実習。
履修の留意点：	原則として、企業実習Ⅱの前提科目である。
目標と評価：	原則として、レポートおよび発表（面接、ディベートなど）により評価を行うが、授業態度など平常点も考慮する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「企業実習Ⅱ」（担当者：戎野 淑子）の履修の手引き

科目名：	企業実習Ⅱ
担当者：	戎野 淑子（自己紹介ページ）
設置学期：	秋（集中授業）
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	インターンシップを行う。そして、その成果をレポートにまとめ、また報告会にて発表、討論する。
授業方法：	実習が中心である。
履修の留意点：	企業実習Ⅰを受講していないと履修できない。
目標と評価：	原則として、実習内容、およびその後のレポート、発表により行う。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本文化実習 I（茶道）」（担当者：市川 宗成）の履修の手引き

科目名：	日本文化実習 I（茶道）
担当者：	市川 宗成
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>茶道を通じて、日本の伝統文化についての理解を深めると同時に感謝と思いやりの心、相手の人格を尊重し、仕え合う心などを学ぶ。 茶道の作法、実技（湯をわかし、茶を点て、菓子を味わい、茶をいただく）心のもち方、動作の美しさを身につけ、実生活に役に立つマナーを習得する。</p> <p>1. 道（心）精神面の充実 2. 学（学問）茶道における日本伝統工芸、文化の知識 3. 実（実技）茶道の作法の習得</p>
授業方法：	茶道の稽古の実習をベースに講義を進める
履修の留意点：	用具（茶、菓子、懐紙、楊子）参考書等の実費を必要とする
目標と評価：	<p>目標：茶会の実践、茶室における作法の理解と実践 評価：授業中の態度、実技習得への積極性における平常評価 出席を重んじる</p>
教科書：	
参考書：	学校茶道初級編 学校茶道教本編集委員会 財団法人今日庵 平成15年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本文化実習 I（書道）」（担当者：葛原 雅子）の履修の手引き

科目名：	日本文化実習 I（書道）
担当者：	葛原 雅子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>人類は感情動物であり、感情表現などの伝達手段として『ことば』そして『文字』を作りました。古く中国で生まれた漢字は、やがて日本に伝来。特に渡来人(百済人)の王仁(わに)は論語・千字文をもたらしました。また仏教伝来によって奈良時代には写経が盛んとなり、日本語を漢字で表記する万葉仮名も誕生。遣隋使・遣唐使の派遣にて中国の王羲之の書風が受け入れられ、平安時代の能書家、三筆(空海、橘逸勢、嵯峨天皇)そして和様書の三蹟(小野道風、藤原佐理、藤原行成)へと書が引き継がれて、今では芸術書道にまで高められているのです。</p> <p>日本文化実習 I(書道)では、一般的な楷書・行書・草書のほか仮名古筆、加えて、日本に漢字が伝来される以前の中国の文字、甲骨文・金文・篆書・木簡・隷書など、各書体の特長ある古典名品2点を選び臨書します。並行して、執筆法、用筆法、運筆法、気脈、墨色や余白の美などの基本的事項を学習し、各自の創作への道筋とします。また実生活に役立つよう、祝儀袋、命名書の書き方や、(今ではほとんど使われていないが)巻紙にも挑戦。墨流しや、ぼかしでの料紙作り、年賀状(干支などを書く)や色紙作品、半切作品も手がけます。そして最後の2回は、写経(隅寺心経)で締めくくります。</p> <p>心を落ち着かせ、静かに自分と向き合う書道。いろんな書体を臨書することで、それらを基に自分を自分らしく書表現する技術を養います。</p> <p>墨は、磨るのが原則ですが、淡墨作品(5回目)と写経(12回目と13回目)以外は墨汁(濃墨を購入のこと)でも構いません。</p>
授業方法：	講義と実技
履修の留意点：	<p>作品が提出されないと評価できません。必ず提出のこと。</p> <p>『提出作品の評価点』は、各回の提出作品の完成度によって評価されます。</p> <p>古典の臨書では、自分が感じ得た鑑識眼で、どう書表現しているか。</p> <p>また創作では、自分の感情をいかにして表すか、いかに心を込めて書くかが重要な課題です。</p> <p>基本学習、講義、実技を踏まえて、各自の書表現の完成度を評価します。</p> <p>『出席および書を学ぶ姿勢、態度』は、まずは出席すること、そして挨拶や礼儀正しさ、書に臨む姿勢、態度を勘案します。</p> <p>『作品提出率』は、出席をして、作品を提出することが原則です。</p> <p>止むを得ない状況に於いては、講師に相談の上、提出することで加算されることもあります。</p> <p>※実習費(実費)を徴収いたします。詳細は、第1回目の講義で説明いたします。</p>
目標と評価：	<p>目標・いろんな書体を学ぶことによって書表現力の基礎をつくります。</p> <p>・実生活に役立つ書学習、そして他人とは一味違った豊かな自己表現を確立させます。</p> <p>評価・提出作品の評価点[40%] ・出席および書を学ぶ姿勢、態度[30%] ・作品提出率[30%]</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本文化実習Ⅰ（留学生用）」（担当者：河村 玲子）の履修の手引き

科目名：	日本文化実習Ⅰ（留学生用）
担当者：	河村 玲子
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	日本語の四技能（読む、書く、聞く、話す）を高め、専門の授業やゼミへ参加する際の困難を減らすことを目的とする。その中でも、レポート、論文作成に必要な書き言葉と、書いたものを正確に読み発表することに重点をおいて学習していく。
授業方法：	演習方式で、学生の皆さんの積極的な参加、発言を重視して授業を進める。
履修の留意点：	一回一回の授業に集中し、その時間内に最大限に学習項目を習得してほしい。
目標と評価：	適切な書き言葉を用いて、経済・経営に関する基本的な文章を書けるようになること。書いたものを正確に読み発表できるようになること。以上の二点を目標とする。評価については、課題への取り組み姿勢や提出状況等、平常点を重視する。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本文化実習Ⅱ（茶道）」（担当者：市川 宗成）の履修の手引き

科目名：	日本文化実習Ⅱ（茶道）
担当者：	市川 宗成
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>日本文化実習Ⅰに引き続き茶道を通じて、日本の伝統文化についての理解を深めると同時に感謝と思いやりの心、相手の人格を尊重し、仕え合う心などを学ぶ。茶道の作法、実技（湯をわかし、茶を点て、菓子を味わい、茶をいただく）心のもち方、動作の美しさを身につけ、実生活に役に立つマナーを習得する。</p> <p>1. 道（心）精神面の充実 2. 学（学問）茶道における日本伝統工芸、文化の知識 3. 実（実技）茶道の作法の習得</p>
授業方法：	茶道の稽古の実習をベースに講義を進める
履修の留意点：	用具（茶、菓子、懐紙、楊子）参考書等の実費を必要とする
目標と評価：	<p>目標：茶会の実践、茶室においての作法の理解と実践 評価：授業中の態度、実技習得への積極性における平常評価出席を重んじる</p>
教科書：	
参考書：	学校茶道初級編 学校茶道教本編集委員会 財団法人今日庵 平成15年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本文化実習Ⅱ（書道）」（担当者：葛原 雅子）の履修の手引き

科目名：	日本文化実習Ⅱ（書道）
担当者：	葛原 雅子
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	<p>人類は感情動物であり、感情表現などの伝達手段として『ことば』そして『文字』を作りました。古く中国で生まれた漢字は、やがて日本に伝来。特に渡来人(百済人)の王仁(わに)は論語・千字文をもたらしました。また仏教伝来によって奈良時代には写経が盛んとなり、日本語を漢字で表記する万葉仮名も誕生。遣隋使・遣唐使の派遣にて中国の王羲之の書風が受け入れられ、平安時代の能書家、三筆(空海、橘逸勢、嵯峨天皇)そして和様書の三蹟(小野道風、藤原佐理、藤原行成)へと書が引き継がれて今では芸術書道にまで高められています。</p> <p>日本文化実習Ⅱ(書道)では、一般的な楷書・行書・草書のほか仮名古筆、加えて、日本に漢字が伝来される以前の中国の文字、甲骨文・金文・篆書・木簡・隸書など、各書体の特長ある古典名品2点を選び臨書します。並行して、執筆法、用筆法、運筆法、気脈、墨色や余白の美などの基本的事項を学習し、各自の創作への道筋とします。また実生活に役立つよう、祝儀袋、命名書の書き方や、(今ではほとんど使われていないが)巻紙にも挑戦。墨流しや、ぼかしでの料紙作り、年賀状(干支などを書く)や色紙作品、半切作品も手がけます。そして最後の2回は、写経(隅寺心経)で締めくくります。</p> <p>心を落ち着かせ、静かに自分と向き合う書道。いろんな書体を臨書することで、それらを基に自分を自分らしく書表現する技術を養います。</p> <p>墨は、磨るのが原則ですが、淡墨作品(5回目)と写経(12回目と13回目)以外は墨汁(濃墨を購入のこと)でも構いません。</p>
授業方法：	講義と実技
履修の留意点：	<p>作品が提出されないと評価できません。必ず提出のこと。</p> <p>『提出作品の評価点』は、各回の提出作品の完成度によって評価されます。</p> <p>古典の臨書では、自分が感じ得た鑑識眼で、どう書表現しているか。</p> <p>また創作では、自分の感情をいかにして表すか、いかに心を込めて書かかが重要な課題です。</p> <p>基本学習、講義、実技を踏まえて、各自の書表現の完成度を評価します。</p> <p>『出席および書を学ぶ姿勢、態度』は、まずは出席すること、そして挨拶や礼儀正しさ、書に臨む姿勢、態度を勘案します。</p> <p>『作品提出率』は、出席をして、作品を提出することが原則です。</p> <p>止むを得ない状況に於いては、講師に相談の上、提出することで加算されることもあります。</p> <p>※実習費(実費)を徴収いたします。詳細は、第1回目の講義で説明いたします。</p>
目標と評価：	<p>目標・いろんな書体を学ぶことによって書表現力の基礎をつくります。</p> <p>・実生活に役立つ書学習、そして他人とは一味違った豊かな自己表現を確立させます。</p> <p>評価・提出作品の評価点[40%] ・出席および書を学ぶ姿勢、態度[30%] ・作品提出率[30%]</p>
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本文化実習Ⅱ(留学生用)」(担当者:河村 玲子)の履修の手引き

科目名:	日本文化実習Ⅱ(留学生用)
担当者:	河村 玲子
設置学期:	秋
開講回数:	全13回
週コマ数:	週1コマ
概要:	日本語の四技能(読む、書く、聞く、話す)を高め、専門の授業やゼミへ参加する際の困難を減らすことを目的とする。その中でも、レポート、論文作成に必要な書き言葉と、書いたものを正確に読み発表することに重点をおいて学習していく。
授業方法:	演習方式で、学生の皆さんの積極的な参加、発言を重視して授業を進める。
履修の留意点:	一回一回の授業に集中し、その時間内に最大限に学習項目を習得してほしい。
目標と評価:	適切な書き言葉を用いて、経済・経営に関する基本的な文章を書けるようになること。書いたものを正確に読み発表できるようになること。以上の二点を目標とする。評価については、課題への取り組み姿勢や提出状況等、平常点を重視する。
教科書:	
参考書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際交流研修」（担当者：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。
内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「国際交流研修」（担当者：山田 寛）の履修の手引き

科目名：	国際交流研修
担当者：	山田 寛（自己紹介ページ）
設置学期：	春（集中授業）
開講回数：	全13回
週コマ数：	週0コマ
概要：	私の国際交流研修は、「国際ボランティア体験研修」です。 毎年夏休み期間中の九月に、アジアの国に行き、田舎の小学校で運動会を開いています。 2004年は、モンゴルに行き、運動会、文化交流（盆踊りや折り紙などを教えた）をしたほか、首都と空港の間の道路わきに植林などもしてきました。2003年はミャンマー、2002年はカンボジア、2001年はラオスに行きました。 今年はまだ最終確定はしていませんが、中国の端っこの雲南省の少数民族地帯に行くつもりで準備しています。
授業方法：	旅行（今年は7泊8日、費用は16万5000～17万円程度を予定）に参加すること。
履修の留意点：	春学期の「国際理解と交流」という科目を受講して、この旅行に参加すると単位（国際理解と交流2単位、国際交流研修2単位）になります。
目標と評価：	アジアの田舎を見て、その子どもたちと交流することが主眼です。子どもたちを楽しませながら、あるいは簡単な労働をしながら、何かを感じ取ってもらいたいと思います。
教科書：	
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「企業実習」（担当者：古閑 博美）の履修の手引き

科目名：	企業実習
担当者：	古閑 博美（自己紹介ページ）
設置学期：	春
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	本科目は、1年次に「ビジネスルールとマナー」を受講した学生で、企業実習を希望する学生が履修できる。
授業方法：	書類提出等事前準備の徹底、企業での実習、事後の報告（パーポイントによる発表）をもって終了する。通常の授業は行わない。
履修の留意点：	無断で遅刻欠席をしないこと。提出物等の提出期限を厳守すること。担当の古閑および進路指導センター（小澤氏ほか）からの連絡、指示に従うこと。メールおよびWEB上で、情報提供を行うこともあるので、常に確認を怠らないこと。
目標と評価：	目標：社会性を身につけ、 評価：事前準備、企業実習、事後報告を総合して評価する。なお、実習先の評価も加味する。
教科書：	
参考書：	インターンシップ 職業教育の理論と実践 古閑博美編著 学文社 2001年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「インターンシップⅠ」（担当者：古閑 博美）の履修の手引き

科目名：	インターンシップⅠ
担当者：	古閑 博美（自己紹介ページ）
設置学期：	秋
開講回数：	全13回
週コマ数：	週1コマ
概要：	インターンシップ（就業体験）は、学生時代ならではの体験となる。就職を希望する学生、社会の空気に触れてみたい学生、自分の力を試してみたい学生に受講を勧める。本科目を受講することで、2年次春学期に設定されている「インターンシップⅡ」を受講することができる（実際は、1年次春休み期間中にインターンシップをおこなう）。「実学の嘉悦」の伝統を踏まえ、授業は実践的におこなう。
授業方法：	講義と演習。
履修の留意点：	2年次「インターンシップⅡ」の単位取得を希望する学生は、「インターンシップⅠ」の授業を受講していることが前提となる。
目標と評価：	目標：社会的知性と技能を身につけ、職業観、倫理観などを涵養する。職業人としての基本を身につける。 評価：平常点、出席点等、総合的に判断する。
教科書：	『インターンシップ 職業教育の理論と実践』 古閑博美編著 学文社 2001年
参考書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「リメディアルA（英語）」（担当者：高野 秀之）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「リメディアルB（英語）」（担当者：大澤 薫）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「リメディアルA（英語）」（担当者：高野 秀之）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。

「リメディアルB（英語）」（担当者：大澤 薫）の履修の手引き

科目担当者より「履修の手引き」をご提出いただけませんでした。

内容については科目担当者ご本人にお問合せ下さい。